

JP1 Version 9

**JP1/Performance Management - Agent  
Option for Platform ( Windows(R) 用 )**

解説・文法書

3020-3-R48-21

## 対象製品

P-242C-AA94 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : Windows Server 2003 )  
P-2A2C-AA94 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : Windows Server 2008 )  
P-1J2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : HP-UX 11i V2 (IPF) , HP-UX 11i V3 (IPF) )  
P-9D2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : Solaris 9 (SPARC) , Solaris 10 (SPARC) )  
P-1M2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : AIX 5L V5.3 , AIX V6.1 )  
P-9S2C-BA91 JP1/Performance Management - Manager 09-10 (適用 OS : Linux 5 (x86) , Linux 5 Advanced Platform (x86) , Linux 5 (AMD/Intel 64) , Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64) )  
P-242C-AJ94 JP1/Performance Management - Base 09-10 (適用 OS : Windows Server 2003 )  
P-2A2C-AJ94 JP1/Performance Management - Base 09-10 (適用 OS : Windows Server 2008 )  
P-242C-AR94 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : Windows Server 2003 )  
P-2A2C-AR94 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : Windows Server 2008 )  
P-1J2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : HP-UX 11i V2 (IPF) , HP-UX 11i V3 (IPF) )  
P-9D2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : Solaris 9 (SPARC) , Solaris 10 (SPARC) )  
P-1M2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : AIX 5L V5.3 , AIX V6.1 )  
P-9S2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-10 (適用 OS : Linux 5 (x86) , Linux 5 Advanced Platform (x86) , Linux 5 (AMD/Intel 64) , Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64) )  
P-242C-AC94 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform 09-10 (適用 OS : Windows Server 2003 )  
P-2A2C-AC94 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform 09-10 (適用 OS : Windows Server 2008 )

これらの製品には、他社からライセンスを受けて開発した部分が含まれています。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

AppleTalk は、米国 Apple Computer, Inc. の商品名称です。

BEA は、BEA Systems, Inc. の登録商標です。

BEA WebLogic Server は、BEA Systems, Inc. の登録商標です。

cc:Mail は、米国 Lotus Development Corp. の商品名称です。

DB2 は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

DB2 Universal Database は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。

IBM は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Lotus は、IBM Corporation の登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Exchange Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Internet Information Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft Mail は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は、米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VMware, Virtual SMP, VMotion は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。

VMware および ESX は、VMware, Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。

WebSphere は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Win32 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AA91, P-9D2C-AR91」には、米国 Sun Microsystems, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AA91, P-9D2C-AR91」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

## マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

## 発行

2012 年 1 月 3020-3-R48-21

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2012, Hitachi, Ltd.



## 変更内容

### 変更内容 (3020-3-R48-21)

追加・変更内容	変更箇所
記載内容を変更した。詳細は、付録 K を参照のこと。	付録 K

### 変更内容 (3020-3-R48-20) JP1/Performance Management - Agent Option for Platform 09-10

追加・変更内容	変更箇所
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能を追加した。	1.3.2, 3.2.5
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、次のレコードを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Application Process Detail ( PD_APPD )</li> <li>Application Process Interval ( PD_APSI )</li> <li>Application Process Overview ( PD_APS )</li> <li>Application Service Overview ( PD_ASVC )</li> <li>Application Summary Extension ( PD_APP2 )</li> </ul>	1.3.2, 1.3.3, 1.3.4, 3.1, 3.1.1, 3.2.5, 4 章, 5 章, 6 章, 付録 A.2, 付録 E.1
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、次のアラームを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Application Status</li> <li>Process Existence</li> </ul>	1.3.3, 4 章
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10 アラームテーブルのバージョンを 09.00 から 09.10 に変更した。	1.3.3, 4 章
セットアップコマンドを非対話形式で実行できるようにした。	2.1.2, 2.1.4
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、アプリケーション定義ファイル「jpcapp2」を追加した。	2.6.1, 8.4.1
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10 アラームテーブルを追加した。	4 章
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、次のレポートを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Application Process Count</li> <li>Application Process Status</li> <li>Application Status</li> <li>Monitoring Process Detail</li> </ul>	4 章
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、jpcappvt コマンドを追加した。	6 章
次のメッセージを追加した。 KAVF11600-Q, KAVF11601-I, KAVF11602-E, KAVF11603-W, KAVF11604-W, KAVF11605-W, KAVF11606-Q, KAVF11607-E, KAVF11608-E, KAVF11609-E, KAVF11610-E, KAVF11611-E	7.2, 7.4
Windows 環境で採取が必要な情報に WMI ログを追加した。	8.4.1
Performance Management で採取が必要な情報に jpcapp2 ファイルを追加した。	8.4.1

追加・変更内容	変更箇所
トラブル発生時に採取が必要なパフォーマンスデータに関する情報の一覧を追加した。	8.4.1
メモリー所要量の見積もりを変更した。	付録 A.1
ディスク占有量の見積もりを変更した。	付録 A.2
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、Agent Collector サービスのプロパティに、Advanced application monitoring のフォルダを追加した。	付録 E.2
プロセスの稼働・非稼働を監視する機能の追加に伴い、次のファイルを追加した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• jpcapp2</li> <li>• jpcappcv.t.ini</li> <li>• jpcappcv.t.ini.model</li> <li>• jpcappcv.t.exe</li> </ul>	付録 F
データモデルのバージョンを 7.6 から 7.8 に変更した。	付録 H
監視テンプレートのアラームテーブルのバージョンを 09.00 から 09.10 に変更した。	付録 H

# はじめに

---

このマニュアルは、JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の機能や収集レコードなどについて説明したものです。

## 対象読者

このマニュアルは、次の方を対象としています。

- JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の機能および収集レコードについて知りたい方
- JP1/Performance Management を使用したシステムを構築、運用して、Windows のパフォーマンスデータを収集したい方

また、Windows について熟知していることを前提としています。

なお、JP1/Performance Management を使用したシステムの構築、運用方法については、次のマニュアルもあわせてご使用ください。

- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3020-3-R31)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 運用ガイド (3020-3-R32)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management リファレンス (3020-3-R33)

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。なお、このマニュアルは Windows Server 2003 (Windows Server 2003 (x86), Windows Server 2003 (x64)) および Windows Server 2008 の各 OS (Operating System) に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は、本文中でそのつど内容を書き分けています。

### 第 1 編 概要編

JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の概要について説明しています。

### 第 2 編 構築・運用編

JP1/Performance Management - Agent Option for Platform のインストール、セットアップ、およびユーザーレコードの収集方法について説明しています。

### 第 3 編 リファレンス編

JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の監視テンプレート、レコードおよびメッセージについて説明しています。

### 第 4 編 トラブルシューティング編

JP1/Performance Management - Agent Option for Platform でトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。

## 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

はじめに

## JP1/Performance Management 関連

- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3020-3-R31)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 運用ガイド (3020-3-R32)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management リファレンス (3020-3-R33)

## JP1 関連

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R) 用) (3020-3-S81)

## 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の特長を知りたい。	1 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の機能概要を知りたい。	1 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の導入時の作業を知りたい。	2 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform のユーザレコードの収集方法について知りたい。	3 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform の監視テンプレートについて知りたい。	4 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform のレコードについて知りたい。	5 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform のコマンドについて知りたい。	6 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Platform のメッセージについて知りたい。	7 章
障害発生時の対処方法について知りたい。	8 章

## このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
AIX		AIX 5L V5.3
		AIX V6.1
HP-UX	HP-UX 11i	HP-UX 11i V2 (IPF)
		HP-UX 11i V3 (IPF)
Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)

このマニュアルでの表記			正式名称
			Windows(R) Internet Explorer(R)
IPF			Itanium(R) Processor Family
JP1/IM	JP1/IM - Manager		JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View		JP1/Integrated Management - View
JP1/NETM/DM			JP1/NETM/DM Client
			JP1/NETM/DM Manager
			JP1/NETM/DM SubManager
Linux	Linux (IPF)	Linux 5 Advanced Platform (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (IPF)
		Linux 5 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (IPF)
		Linux AS 4 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4 (IPF)
	Linux (x64)	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
		Linux 5 (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)
	Linux (x86)	Linux 5 Advanced Platform (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)
		Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)
	NNM	HP NNM	
HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前			
JP1/Cm2/NNM		JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前	

このマニュアルでの表記		正式名称
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョ ン 8 以前
		JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
Performance Management		JP1/Performance Management
PFM - Agent	PFM - Agent for Cosminexus	JP1/Performance Management - Agent Option for uCosminexus Application Server
	PFM - Agent for DB2	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM(R) DB2(R) Universal Database(TM)
	PFM - Agent for Domino	JP1/Performance Management - Agent Option for Domino
	PFM - Agent for Enterprise Applications	JP1/Performance Management - Agent Option for Enterprise Applications
	PFM - Agent for Exchange Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Exchange Server
	PFM - Agent for HiRDB	JP1/Performance Management - Agent Option for HiRDB
	PFM - Agent for IIS	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server
	PFM - Agent for JP1/ AJS	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS2
	PFM - Agent for JP1/ AJS2	
	PFM - Agent for JP1/ AJS3	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS3

このマニュアルでの表記		正式名称
PFM - Agent for Microsoft SQL Server		JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) SQL Server
PFM - Agent for OpenTP1		JP1/Performance Management - Agent Option for OpenTP1
PFM - Agent for Oracle		JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle
PFM - Agent for Platform	PFM - Agent for Platform ( UNIX )	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform ( UNIX 用 )
	PFM - Agent for Platform ( Windows )	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform ( Windows 用 )
PFM - Agent for Service Response		JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response
PFM - Agent for Virtual Machine		JP1/Performance Management - Agent Option for Virtual Machine
PFM - Agent for WebLogic Server		JP1/Performance Management - Agent Option for BEA WebLogic Server
		JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle(R) WebLogic Server
PFM - Agent for WebSphere Application Server		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere Application Server
PFM - Agent for WebSphere MQ		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere MQ
PFM - Base		JP1/Performance Management - Base

このマニュアルでの表記		正式名称
PFM - Manager		JP1/Performance Management - Manager
PFM - RM	PFM - RM for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Microsoft(R) SQL Server
	PFM - RM for Oracle	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Oracle
	PFM - RM for Platform	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Platform
PFM - Web Console		JP1/Performance Management - Web Console
Solaris	Solaris 9	Solaris 9 (SPARC)
	Solaris 10	Solaris 10 (SPARC)
		Solaris 10 (x64)
	Solaris 10 (x86)	
Win32		Win32(R)
Windows Server 2003	Windows Server 2003 (x64) または 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 (x86) または 2003 (x86)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition		



このマニュアルでの表記		正式名称
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
Windows Server 2008	Windows Server 2008 Datacenter	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
	Windows Server 2008 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
	Windows Server 2008 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard		

- PFM - Manager , PFM - Agent , PFM - Base , PFM - Web Console , および PFM - RM を総称して , Performance Management と表記することがあります。
- Windows Server 2003 および Windows Server 2008 を総称して , Windows と表記することがあります。

### このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を , 次の表に示します。

このマニュアルでの表記	正式名称
API	Application Programming Interface
CPU	Central Processing Unit
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
FQDN	Fully Qualified Domain Name
FTP	File Transfer Protocol
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol

このマニュアルでの表記	正式名称
ICMP	Internet Control Message Protocol
IMAP	Internet Message Access Protocol
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol Version 4
IPv6	Internet Protocol Version 6
IPX	Internetwork Packet eXchange
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
MAPI	Messaging API
MDB	Mailbox Data Base
MTA	Message Transfer Agent
NAPT	Network Address Port Translation
NAT	Network Address Translation
NBT	NetBIOS over TCP/IP
NIC	Network Interface Card
NNTP	Network News Transfer Protocol
ODBC	Open Database Connectivity
OS	Operating System
RAS	Remote Access Service
RPC	Remote Procedure Call
SCM	Service Control Manager
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SPX	Sequenced Packet eXchange
TCP	Transmission Control Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
UAC	User Access Control
UDP	User Datagram Protocol
URL	Uniform Resource Locator
WAN	Wide Area Network
Web	World Wide Web
WINS	Windows Internet Name Service
WOW64	Windows On Windows 64

## このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[ ]	ウィンドウ、タブ、メニュー、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタン、ダイアログボックスのチェックボックスなどを示します。 (例) [メイン]ウィンドウ [エージェント]タブ
太字	重要な用語、または利用状況によって異なる値であることを示します。

## このマニュアルの数式中で使用する記号

このマニュアルの数式中で使用する記号を次に示します。

記号	意味
*	乗算記号を示します。
/	除算記号を示します。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

●コンピュータ



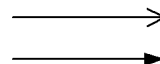
●データの流れ



●処理の流れ



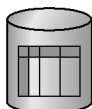
●その他の流れ



●プログラム



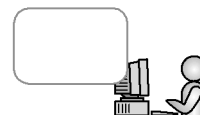
●データベース



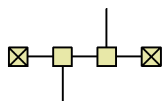
●サーバ



●画面の表示



●ネットワーク



●ネットワーク  
WAN



●ファイル



●入出力の動作



## フォルダおよびディレクトリの統一表記

このマニュアルでは、Windows で使用されている「フォルダ」と UNIX で使用されている「ディレクトリ」とが同じ場合、原則として、「ディレクトリ」と統一表記しています。

## このマニュアルでのコマンドの表記

Performance Management 09-00 以降では、08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されました。このため、このマニュアルではコマンドを次のように表記しています。

新形式のコマンド（08-51 以前のコマンド）

（例）

```
jpccconf agent setup (jpcagtsetup)
```

この例では、jpccconf agent setup が新形式のコマンドで、jpcagtsetup が 08-51 以前のコマンドになります。

新形式のコマンドを使用できるのは、PFM-Agent の同一装置内の前提プログラム（PFM - Manager または PFM - Base）のバージョンが 09-00 以降の場合です。なお、前提プログラムのバージョンが 09-00 以降の場合でも、08-51 以前のコマンドは使用できます。

## このマニュアルでのプロダクト名、サービス ID、およびサービスキーの表記

Performance Management 09-00 以降では、プロダクト名表示機能を有効にすることで、サービス ID およびサービスキーをプロダクト名で表示できます。

識別子	プロダクト名表示機能	
	無効	有効
サービス ID	TS1 ホスト名	ホスト名 <Windows>(Store)
	TA1 ホスト名	ホスト名 <Windows>
サービスキー	agtt	Windows

このマニュアルでは、プロダクト名表示機能を有効としたときの形式で表記しています。

なお、プロダクト名表示機能を有効にできるのは、次の条件を同時に満たす場合です。

- PFM - Agent の同一装置内の前提プログラム（PFM - Manager または PFM - Base）のバージョンが 09-00 以降
- PFM - Web Console および接続先の PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降

## Performance Management のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 Performance Management のインストール先フォルダを、インストール先フォルダと表記しています。

Windows 版 Performance Management のデフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。

PFM - Web Console 以外の Performance Management のプログラムのインストール先フォルダ

- Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 の場合  
システムドライブ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jplpc

- 上記以外の場合

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc

PFM - Web Console のインストール先フォルダ

- ・ Windows Server 2003 (x64) , 64 ビット版の Windows Server 2008 の場合  
システムドライブ ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jp1pcWebCon
- ・ 上記以外の場合  
システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pcWebCon

## Performance Management で対応する NNM 製品について

Performance Management では、次の製品との連携をサポートしています。

- ・ HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
- ・ HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
- ・ JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
- ・ JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
- ・ JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前

このマニュアルでは、これらの製品を「NNM」、これらの製品と連携するための機能を「NNM 連携」と表記します。

なお、Performance Management では、次の製品との連携はサポートしていません。ご注意ください。

- ・ HP Network Node Manager i Software v8.10
- ・ JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

## 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先（あてさき） 個所（かしよ） 桁（けた） 必須（ひつす）

## KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024<sup>2</sup> バイト、1,024<sup>3</sup> バイト、1,024<sup>4</sup> バイトです。



# 目次

## 第 1 編 概要編

<b>1</b>	<b>PFM - Agent for Platform の概要</b>	<b>1</b>
1.1	PFM - Agent for Platform の特長	2
1.1.1	Windows のパフォーマンスデータを収集できます	2
1.1.2	パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます	3
1.1.3	パフォーマンスデータを保存できます	3
1.1.4	Windows の運用上の問題点を通知できます	4
1.1.5	アラームおよびレポートが容易に定義できます	4
1.2	パフォーマンスデータの収集と管理の概要	6
1.3	パフォーマンス監視の運用例	7
1.3.1	パフォーマンス監視の概要	7
1.3.2	パフォーマンス監視のしかた	8
1.3.3	定義例	37
1.3.4	仮想化システム上での運用	50

## 第 2 編 構築・運用編

<b>2</b>	<b>インストールとセットアップ</b>	<b>63</b>
2.1	インストールとセットアップ	64
2.1.1	インストールとセットアップの前に	64
2.1.2	インストールとセットアップの流れ	74
2.1.3	インストール手順	76
2.1.4	PFM - Agent for Platform のセットアップ手順	78
2.2	アンインストールとアンセットアップ	84
2.2.1	アンインストールの前に	84
2.2.2	アンセットアップ手順	85
2.2.3	アンインストール手順	85
2.3	PFM - Agent for Platform のシステム構成の変更	87
2.4	PFM - Agent for Platform の運用方式の変更	88
2.4.1	パフォーマンスデータの格納先の変更	88

2.4.2	Store バージョン 2.0 への移行	92
2.5	コマンドプロンプトの起動方法	95
2.6	バックアップとリストア	98
2.6.1	バックアップ	98
2.6.2	リストア	99
2.7	Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定	100
2.7.1	設定手順	100
2.7.2	参照手順	101

## 3

	ユーザーレコードの収集	103
3.1	ユーザーレコード収集の概要	104
3.1.1	ユーザーレコードとして定義できる情報	104
3.2	ユーザーレコード収集の設定	108
3.2.1	収集データ追加ユーティリティの起動と終了	108
3.2.2	パフォーマンスコンソールカウンター情報収集の設定	110
3.2.3	イベントログ情報収集の設定	114
3.2.4	ワークグループ情報収集の設定	116
3.2.5	プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定	122
3.2.6	アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定	147
3.2.7	ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集の設定	158

## 第 3 編 リファレンス編

## 4

	監視テンプレート	183
	監視テンプレートの概要	184
	アラームの記載形式	185
	アラーム一覧	186
	Available Memory	189
	CPU Usage	191
	Disk Space	193
	Processor Queue	194
	SVR Processor Queue	195
	Committed Mbytes	196
	Pages/sec	198



Page Faults/sec	200
Logical Disk Free	201
Disk Busy %	203
Logical Disk Queue	205
Physical Disk Queue	207
Network Received	209
Process End	211
Process Alive	213
Service(Service Nm)	215
Service(Display Nm)	217
Event Log(all)	219
Process Existence	222
Event Log(System)	224
Application Status	226
レポートの記載形式	228
レポートのフォルダ構成	230
レポート一覧	232
Access Failure Status ( システムアクセスエラーを示すリアルタイムレポート )	234
Access Failure Status ( システムアクセスエラーを示す履歴レポート )	235
Application Status	236
Application Process Count	238
Application Process Status	239
CPU Status (Multi-Agent)	240
CPU Trend	241
CPU Trend (Multi-Agent)	242
CPU Usage - Top 10 Processes	243
CPU Usage Summary	244
Disk Time - Top 10 Logical Drives	246
File System I/O Summary	247
Free Megabytes - Logical Drive Status	248
Free Space - Low 10 Logical Drives	249
Free Space - Top 10 Logical Drives	250
Logical Drive Detail	251
Memory Available Trend (Multi-Agent)	253
Memory Paging	254
Memory Paging Status (Multi-Agent)	255
Monitoring Process Detail	256
OS Memory Usage Status ( メモリ使用量を示すリアルタイムレポート )	258

OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示す履歴レポート)	259
Page Faults - Top 10 Processes	260
Process Detail	261
Process Trend	263
Server Activity Detail	264
Server Activity Summary (Multi-Agent)	266
Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示すリアルタイムレポート)	267
Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示す履歴レポート)	268
Server Activity Summary Trend (Multi-Agent)	269
Server Sessions Trend (Multi-Agent)	270
System Memory Detail	271
System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート)	273
System Overview (システムの概要を示す履歴レポート)	275
System Utilization Status	277
Workload Status	278
Workload Status (Multi-Agent)	279

## 5

レコード	281
データモデルについて	282
レコードの記載形式	283
ODBC キーフィールド一覧	286
要約ルール	287
データ型一覧	290
フィールドの値	291
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド	295
Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド	297
レコードの注意事項	298
レコード一覧	306
Active Directory Overview (PI_AD)	313
Application Process Detail (PD_APPD)	323
Application Process Interval (PD_APSI)	325
Application Process Overview (PD_APS)	332
Application Service Overview (PD_ASVC)	338

Application Summary ( PD_APP )	343
Application Summary Extension ( PD_APP2 )	354
Browser Overview ( PI_BRSR )	357
Device Detail ( PD_DEV )	361
Event Log ( PD_ELOG )	365
Generic Data Detail ( PD_GEND )	369
Generic Data Interval ( PI_GENI )	372
ICMP Overview ( PI_ICMP )	375
ICMP Version 6 Overview ( PI_ICM6 )	380
IP Overview ( PI_IP )	385
IP Version 6 Overview ( PI_IP6 )	389
Logical Disk Overview ( PI_LOGD )	393
NBT Overview ( PI_NBT )	399
Network Interface Overview ( PI_NETI )	401
Page File Detail ( PD_PAGF )	405
Physical Disk Overview ( PI_PHYD )	407
Process Detail ( PD )	411
Process Detail Interval ( PD_PDI )	417
Process End Detail ( PD_PEND )	423
Processor Overview ( PI_PCSR )	426
Server Work Queues Overview ( PI_SVRQ )	432
Service Process Detail ( PD_SVC )	437
System Overview ( PI )	441
TCP Overview ( PI_TCP )	465
TCP Version 6 Overview ( PI_TCP6 )	468
UDP Overview ( PI_UDP )	471
UDP Version 6 Overview ( PI_UDP6 )	473
User Data Detail ( PD_UPD )	475
User Data Detail - Extended ( PD_UPDB )	477
User Data Interval ( PI_UPI )	480
User Data Interval - Extended ( PI_UPIB )	483
WINS Server Overview ( PI_WINS )	488
Workgroup Summary ( PI_WGRP )	491

<b>6</b>	<b>コマンド</b>	<b>497</b>
	コマンドの記載形式	498
	jpcappcv	499
<b>7</b>	<b>メッセージ</b>	<b>503</b>
	7.1 メッセージの形式	504
	7.1.1 メッセージの出力形式	504
	7.1.2 メッセージの記載形式	504
	7.2 メッセージの出力先一覧	505
	7.3 Windows イベントログの一覧	509
	7.4 メッセージ一覧	510

## 第4編 トラブルシューティング編

<b>8</b>	<b>トラブルへの対処方法</b>	<b>525</b>
	8.1 対処の手順	526
	8.2 トラブルシューティング	527
	8.2.1 セットアップやサービスの起動について	528
	8.2.2 コマンドの実行について	531
	8.2.3 レポートの定義について	532
	8.2.4 アラームの定義について	532
	8.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について	533
	8.2.6 ハングアップや異常停止について	534
	8.2.7 その他のトラブルについて	534
	8.3 ログ情報	536
	8.3.1 ログ情報の種類	536
	8.3.2 ログファイルおよびフォルダー一覧	537
	8.4 トラブル発生時に採取が必要な資料	539
	8.4.1 Windows の場合	539
	8.5 資料の採取方法	547
	8.5.1 Windows の場合	547
	8.6 Performance Management の障害検知	550

## 付録

付録 A システム見積もり	554
付録 A.1 メモリー所要量	554
付録 A.2 ディスク占有量	555
付録 B 識別子一覧	569
付録 C プロセス一覧	570
付録 D ポート番号一覧	571
付録 D.1 PFM - Agent for Platform のポート番号	571
付録 D.2 ファイアウォールの通過方向	571
付録 E PFM - Agent for Platform のプロパティ	574
付録 E.1 Agent Store サービスのプロパティ一覧	574
付録 E.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧	578
付録 F ファイルおよびフォルダー一覧	589
付録 G 移行手順と移行時の注意事項	593
付録 H バージョン互換	594
付録 I 動作ログの出力	595
付録 I.1 動作ログに出力される事象の種別	595
付録 I.2 動作ログの保存形式	595
付録 I.3 動作ログの出力形式	596
付録 I.4 動作ログを出力するための設定	601
付録 J 各バージョンの変更内容	604
付録 J.1 09-00 の変更内容	604
付録 J.2 08-50 ( Windows2008 対応 ) の変更内容	605
付録 J.3 08-50 の変更内容	605
付録 J.4 08-11 の変更内容	606
付録 J.5 08-10 の変更内容	607
付録 J.6 08-00 の変更内容	608
付録 J.7 07-50 の変更内容	609
付録 J.8 07-00 の変更 ( データモデル 4.1 )	610
付録 J.9 07-00 の変更内容	614
付録 K ( 3020-3-R48-21 ) の変更内容	628
付録 L 用語解説	635



# 1

## PFM - Agent for Platform の概要

この章では、PFM - Agent for Platform の概要について説明します。

---

1.1 PFM - Agent for Platform の特長

---

1.2 パフォーマンスデータの収集と管理の概要

---

1.3 パフォーマンス監視の運用例

---

## 1.1 PFM - Agent for Platform の特長

---

PFM - Agent for Platform は、Windows のパフォーマンスを監視するために、パフォーマンスデータを収集および管理するプログラムです。このプログラムは、監視対象のホストにインストールして使用します。

PFM - Agent for Platform の特長を次に示します。

Windows の稼働状況を分析できる

監視対象の Windows から、CPU 使用率や起動中のプロセス数などのパフォーマンスデータを PFM - Agent for Platform で収集および集計し、その傾向や推移を図示することで、Windows の稼働状況の分析が容易にできます。

Windows の運用上の問題点を早期に発見し、トラブルの原因を調査する資料を提供できる

監視対象の Windows でシステムリソースが不足するなどのトラブルが発生した場合、Eメールなどを使ってユーザーに通知することで、問題点を早期に発見できます。また、その問題点に関連する情報を図示することで、トラブルの原因を調査する資料を提供できます。

PFM - Agent for Platform を使用するには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

---

### 参考

Performance Management で Windows の稼働状況を分析できる製品としては、PFM - Agent for Platform のほかに、PFM - RM for Platform があります。PFM - RM for Platform は、監視対象ホストへのインストールが不要な製品です。つまり、監視対象ホストの環境に手を加えることなく、そのパフォーマンスデータを監視できます（リモート監視）。また、収集できるパフォーマンスデータの種類は PFM - Agent for Platform より少ないですが、一つの PFM - RM for Platform から複数ホストのパフォーマンスデータを監視できます。リモート監視を実現したい場合、複数の監視ホストを対象にパフォーマンスデータを収集・管理したい場合などは、PFM - RM for Platform の導入もご検討ください。

---

PFM - Agent for Platform について次に説明します。

### 1.1.1 Windows のパフォーマンスデータを収集できます

PFM - Agent for Platform を使用すると、Windows のシステムリソースなどのパフォーマンスデータが収集できます。PFM - Agent for Platform では、パフォーマンスデータは、次のように利用できます。

Windows の稼働状況をグラフィカルに表示するパフォーマンスデータは、PFM - Web Console を使用して、「レポート」と呼ばれるグラフィカルな形式に加工し、表示でき



ます。レポートによって、Windows の稼働状況がよりわかりやすく分析できるようになります。レポートには、次の種類があります。

- リアルタイムレポート

監視している Windows の現在の状況を示すレポートです。主に、システムの現在の状態や問題点を確認するために使用します。リアルタイムレポートの表示には、収集した時点のパフォーマンスデータが直接使用されます。

- 履歴レポート

監視している Windows の過去から現在までの状況を示すレポートです。主に、システムの傾向を分析するために使用します。履歴レポートの表示には、PFM - Agent for Platform のデータベースに格納されたパフォーマンスデータが使用されます。

問題が起こったかどうかの判定条件として使用する

収集されたパフォーマンスデータの値が何らかの異常を示した場合、ユーザーに通知するなどの処置を設定できます。

### 1.1.2 パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます

パフォーマンスデータは、「レコード」の形式で収集されます。各レコードは、「フィールド」と呼ばれるさらに細かい単位に分けられます。レコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。

レコードは、性質によって二つのレコードタイプに分けられます。どのレコードでどのパフォーマンスデータが収集されるかは、PFM - Agent for Platform で定義されています。ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを収集するか選択します。

PFM - Agent for Platform のレコードタイプを次に示します。

Product Interval レコードタイプ（以降、PI レコードタイプと省略します）

PI レコードタイプのレコードには、1 分ごとのプロセス数など、ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが収集されます。PI レコードタイプは、時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。

Product Detail レコードタイプ（以降、PD レコードタイプと省略します）

PD レコードタイプのレコードには、現在起動しているプロセスの詳細情報など、ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが収集されます。PD レコードタイプは、ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。

各レコードについては、「5. レコード」を参照してください。

### 1.1.3 パフォーマンスデータを保存できます

収集したパフォーマンスデータを、PFM - Agent for Platform の「Store データベース」

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

と呼ばれるデータベースに格納することで、現在までのパフォーマンスデータを保存し、Windows の稼働状況について、過去から現在までの傾向を分析できます。傾向を分析するためには、履歴レポートを使用します。

ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを Store データベースに格納するか選択します。PFM - Web Console でのレコードの選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。

### 1.1.4 Windows の運用上の問題点を通知できます

PFM - Agent for Platform で収集したパフォーマンスデータは、Windows のパフォーマンスをレポートとして表示するのに利用できるだけでなく、Windows を運用していて問題が起こったり、障害が発生したりした場合にユーザーに警告することもできます。

例えば、システムリソースの空きが 10% を下回った場合、ユーザーに E メールで通知するとします。このように運用するために、「システムリソースの空きが 10% 未満」を異常条件のしきい値として、そのしきい値に達した場合、E メールをユーザーに送信するように設定します。しきい値に達した場合に取る動作を「アクション」と呼びます。アクションには、次の種類があります。

Eメールの送信

コマンドの実行

SNMP トラップの発行

JP1 イベントの発行

しきい値やアクションを定義したものを「アラーム」と呼びます。一つ以上のアラームを一つのテーブルにまとめたものを「アラームテーブル」と呼びます。アラームテーブルを定義したあと、PFM - Agent for Platform と関連づけます。アラームテーブルと PFM - Agent for Platform とを関連づけることを「バインド」と呼びます。バインドすると、PFM - Agent for Platform によって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

このように、アラームおよびアクションを定義することで、Windows の運用上の問題を早期に発見し、対処できます。

アラームおよびアクションの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

### 1.1.5 アラームおよびレポートが容易に定義できます

PFM - Agent for Platform では、「監視テンプレート」と呼ばれる、必要な情報があらか

じめ定義されたレポートおよびアラームを提供しています。この監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても Windows の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。監視テンプレートは、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズすることもできます。監視テンプレートの使用方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。また、監視テンプレートの詳細については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

## 1.2 パフォーマンスデータの収集と管理の概要

---

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法は、パフォーマンスデータが格納されるレコードのレコードタイプによって異なります。PFM - Agent for Platform のレコードは、次の二つのレコードタイプに分けられます。

- PI レコードタイプ
- PD レコードタイプ

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法については、次の個所を参照してください。

### パフォーマンスデータの収集方法

パフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management で扱うデータの概要について説明している章を参照してください。

収集されるパフォーマンスデータの値については、「5. レコード」を参照してください。

### パフォーマンスデータの管理方法

パフォーマンスデータの管理方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

PFM - Agent で収集および管理されているレコードのうち、どのパフォーマンスデータを利用するかは、PFM - Web Console で選択します。選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

なお、PFM - Agent for Platform では、デフォルトでは用意されていないパフォーマンスデータを収集し、レコードに格納できます。このパフォーマンスデータを格納したレコードをユーザーレコードと呼びます。ユーザーレコードの収集方法については、「3. ユーザーレコードの収集」を参照してください。

## 1.3 パフォーマンス監視の運用例

システムを安定稼働させるためには、パフォーマンスを監視してシステムの状態を把握することが重要です。この節では、PFM - Agent for Platform を用いてパフォーマンスを監視する方法について説明します。

### 1.3.1 パフォーマンス監視の概要

パフォーマンス監視の概要について説明します。

#### (1) パフォーマンス監視の目的

パフォーマンスを監視することは、システム環境の構築や管理で重要な作業です。

PFM - Agent for Platform を用いたパフォーマンス監視は、主に次の目的で使用できます。

- パフォーマンスデータを分析し、ボトルネックの原因を見つける。
- パフォーマンスデータの傾向を分析し、負荷の特性と対応するシステムリソースへの影響を把握する。
- 運用システムが正しく動作しているか監視する。

システムを運用する場合、特定のボトルネックによって、システム全体のパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。ボトルネックの原因としては、次のようなケースが挙げられます。

- メモリー不足
- プログラムによる特定のリソースの占有
- サブシステム故障
- サブシステム構成不正（ネットワークインターフェースカードで、100Mbps に設定する必要があるのに、10Mbps に構成されているなど）
- サブシステム間で負荷の不均等

各種条件（同時接続ユーザーなど）を変更してパフォーマンスを監視したり、継続的にパフォーマンスを監視したりすることで、システム環境の負荷特性と対応するシステムリソースへの影響を把握できます。これによって、次のようなメリットがあります。

- システム構成の変更や調整が容易にできる。
- 将来のシステムリソースのアップグレード計画が立てられる。

運用システムが正しく動作しているかを確認することは大変重要です。システム環境が正しく動作しているかどうかは、パフォーマンスの観点に加えて次のような監視によって確認できます。

- システムを提供するプロセスの動作監視
- システムが前提とするサービスの動作監視
- システム内の不正なプロセスの動作監視

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

このように、システムを安定稼働させるには、PFM - Agent for Platform を用いて正しくパフォーマンスを監視することが重要です。

この節では、PFM - Agent for Platform を用いてパフォーマンスを監視し、システムを安定稼働させる方法について紹介します。

パフォーマンスの監視方法について、例を挙げて紹介しますが、しきい値はあくまで参考値です。具体的なしきい値については、ベースラインを測定し決定してください。また、具体的な設定項目については、システムの運用形態に合わせて、検討してください。

### (2) パフォーマンス監視で最も重要なシステムリソース

PFM - Agent for Platform でパフォーマンスを監視する上で最も重要なシステムリソースは、次のとおりです。

- プロセッサ
- メモリー
- ディスク
- ネットワーク
- プロセス
- サービス

また、パフォーマンスを監視する以外にも、OS の不具合、プロセスの異常などを検知するには、次の情報が有効です。

- イベントログ

PFM - Agent for Platform では、これらの重要な項目については、監視テンプレートの形で提供しています。したがって、この節では、監視テンプレートを用いた監視のしかたを中心に説明しています。また、高度に監視するための関連情報も記載しています。

### (3) ベースラインの選定

ベースラインの選定とは、システム運用で問題なしと想定されるラインをパフォーマンス測定結果から選定する作業です。

PFM 製品では、ベースラインの値をしきい値とすることでシステムの運用監視をします。ベースラインの選定はしきい値を決定し、パフォーマンスを監視する上での重要な作業となります。

なお、ベースラインの選定では、次の注意事項を考慮してください。

- 運用環境の高負荷テスト時など、ピーク時の状態を測定することをお勧めします。
- システム構成によってしきい値が大きく異なるため、システムリソースや運用環境を変更する場合は、再度ベースラインを測定することをお勧めします。

## 1.3.2 パフォーマンス監視のしかた

ここでは、システムリソースごとのパフォーマンスの監視方法およびパフォーマンス

データの収集例について説明します。

- レコード名は、レコード ID で表記しています。フィールド名は、PFM - View 名で表記しています。正式なレコード名、フィールド名については、「5. レコード」を参照してください。
- フィールドの説明は概要だけを記載しています。フィールドの詳細な説明については、「5. レコード」を参照してください。
- 複数のプログラムの情報をまとめて監視したい場合は、「3.2.4 ワークグループ情報収集の設定」を参照してください。
- プロセスの稼働・非稼働情報を監視したい場合は、「3.2.5 プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定」を参照してください。
- アプリケーションの稼働・非稼働情報を監視したい場合は、「3.2.6 アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定」を参照してください。

## (1) プロセッサ

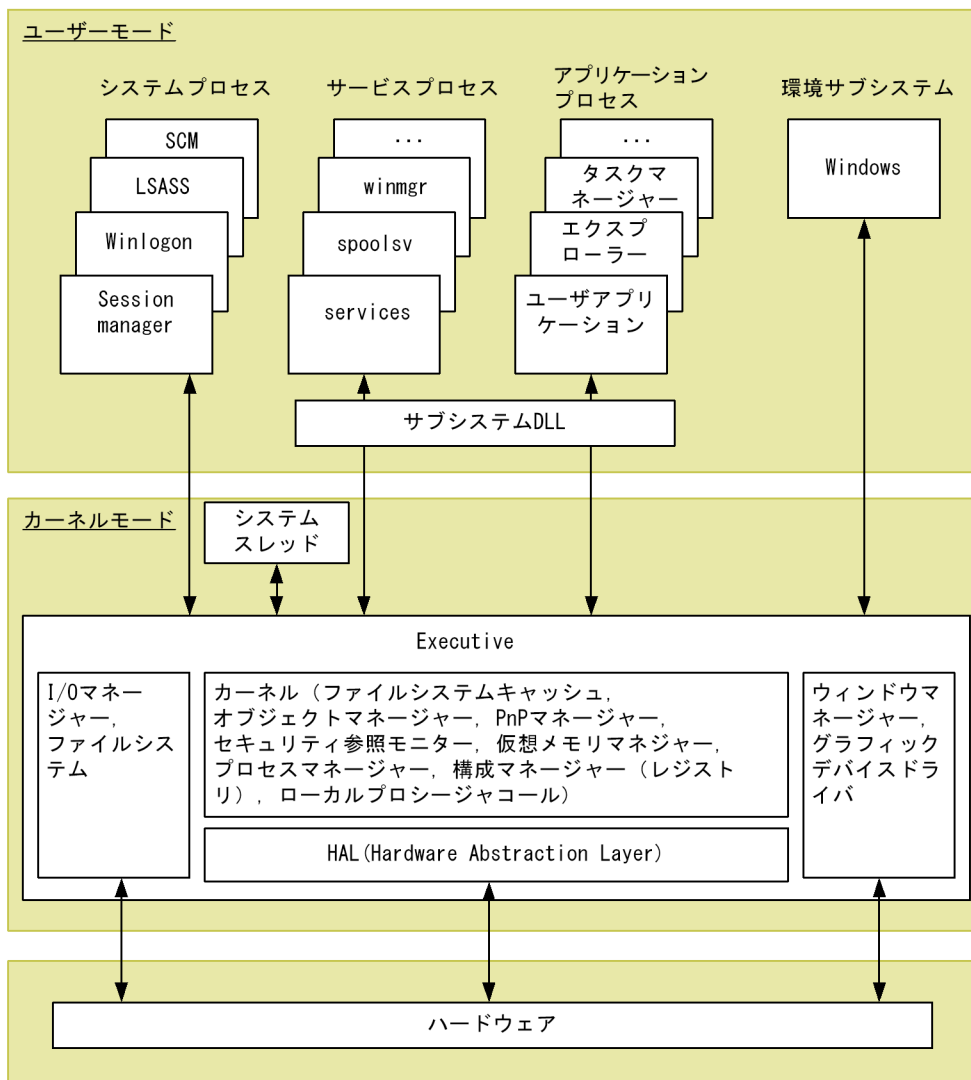
プロセッサのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

### (a) 概要

プロセッサのパフォーマンス情報を監視すれば、システム全体のパフォーマンスの傾向を把握できます。

Windows では、次の図に示すように、ユーザーモードとカーネルモードという、2種類のプロセッサアクセスモードでプロセスを実行しています。Windows のアーキテクチャー概要図を次に示します。

図 1-1 Windows のアーキテクチャー概要図



さらに、キュー数で監視する方法が考えられます。

プロセスなどのジョブは、OS によってスケジューリングされ CPU を割り当てられて実行されます。キュー数は、CPU の割り当てられるのを待っているジョブの数です。このため、システム全体の負荷が高くなると、キュー数が増大する傾向にあります。

監視テンプレートでは、CPU Usage アラームや、CPU Status ( Multi-Agent ) レポートなどを提供しています。

監視テンプレートで用意されているプロセッサのパフォーマンスをさらに詳細に監視するには、プロセッサごとのプロセッサ使用率、プロセスごとのプロセッサ使用率、プロセッサのキュー数、およびハードウェアからのプロセッサ割り込みなどを監視する方法



が考えられます。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-1 プロセッサに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI_PCSR R	CPU %	各プロセッサの CPU 使用率。継続してしきい値 (通常 85% を目安とする) 以上の値の場合、プロセッサがシステムのボトルネックになっているおそれがある。
	Interrupts/sec	プロセッサごとの 1 秒当たりのハードウェア割り込みを処理した数。PI レコードの Total Interrupts/sec フィールドをプロセッサごとに監視する場合に使用する。
	Privileged CPU %	ワークグループが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。PI_PCSR レコード CPU % フィールドが継続してしきい値以上の場合、特定のアプリケーションプロセス (サービス含む) またはシステムプロセス (サービス含む) に問題があるおそれがある。
	User CPU %	ユーザーモードで実行した各プロセッサの CPU 使用率。PI_PCSR レコード CPU % フィールドが継続してしきい値以上の場合、特定のアプリケーションプロセス (サービス含む) に問題があるおそれがある。
PI_SVR Q	Queue Length	CPU のサーバ作業キューの現在の長さ。継続してしきい値 (2) 以上の値の場合、プロセッサの混雑を示す。
PI	Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数。継続してしきい値 (2) 以上の値の場合、プロセッサの混雑を示す。
	CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は「100」で表示される。
	Privileged CPU %	カーネルモードで実行した CPU 使用率。PI レコード CPU % フィールドが継続してしきい値以上の場合、特定のアプリケーションプロセス (サービス含む) またはシステムプロセス (サービス含む) に問題があるおそれがある。
	User CPU %	ユーザーモードで実行したの CPU 使用率。PI レコード CPU % フィールドが継続してしきい値以上の場合、特定のアプリケーションプロセス (サービス含む) に問題があるおそれがある。
	Total Interrupts/sec	1 秒当たりのハードウェア割り込みを処理した数。システムの活動状況がない状態で、このフィールドが大幅に増加している場合、ハードウェア割り込みでプロセッサに負荷を掛ける低速なデバイスが存在するなどのハードウェアの問題を示すおそれがある。

注

各プロセッサを監視する場合に使用します。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

マルチプロセッサ環境の場合、システムの CPU 使用率は全 CPU の使用率の平均値で表されます。このため、CPU ごとの CPU 使用率を確認してください。

また、ボトルネックの原因になっているプロセスを特定するには、プロセスごとの CPU 使用率を確認してください。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-2 プロセッサに関連する主なフィールド（マルチプロセッサ環境）

使用レコード	使用フィールド	値の見方（例）
PD_PDI	CPU %	各プロセスの CPU 使用率。継続してしきい値以上の値の場合、プロセスがプロセッサのボトルネックになっているおそれがある。
	Privileged CPU %	ワークグループが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合（%）。CPU % フィールドが継続してしきい値以上の値で、さらに Privileged CPU % が CPU % フィールドに近い値の場合、プロセスが発行している API がプロセッサのボトルネックになっているおそれがある。
	User CPU %	ユーザーモードで実行した各プロセスの CPU 使用率。CPU % フィールドが継続してしきい値以上の値で、さらに User CPU % が CPU % フィールドに近い値の場合、プロセスの処理がプロセッサのボトルネックになっているおそれがある。

### 注

マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 \* 100%」を最大値とした使用率が表示されます。

### (b) 監視方法

- プロセッサ使用率を監視したい

プロセッサ使用率は、監視テンプレートで提供している CPU Usage アラームを使用することで、システム全体のプロセッサ使用率を監視できます。

プロセッサの使用率（PI レコード CPU % フィールド）は、プロセッサの負荷状況を監視できます。詳細については、「1.3.3(1)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- プロセッサの混雑を監視したい

プロセッサの混雑（キュー数）を監視することで、プロセッサ使用率と同様、プロセッサの負荷状況を監視できます。

プロセッサの混雑は、プロセッサ使用率とあわせて監視すると効果的です。

プロセッサ使用率とキューの長さ（PI\_SVRQ レコードの Queue Length フィールド）がしきい値以上の値を表示している場合、プロセッサが混雑していると考えられます。

また、キューにあるスレッドの数（PI レコードの Processor Queue Length フィールド）

は2程度がしきい値となります。この値が10以上の値を表示している場合、システムの限界を超えているおそれがあります。プロセッサをアップグレードするか、プロセッサを追加するなどの対策の目安となります。

定義例については、「1.3.3(1)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

- プロセッサ使用率が高いプロセスを確認したい

プロセッサ使用率とプロセッサの混雑を監視して、ボトルネックになっているおそれがあると判断した場合、過度にプロセッサを使用しているプロセス（PD\_PDI レコード CPU % フィールド）を、リアルタイムレポートで見つけます。

プロセスに問題がない場合、限界を超えるシステム環境のため、プロセッサをアップグレードするか、プロセッサを追加するなどの目安となります。

定義例については、「1.3.3(1)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

## (2) メモリー

メモリーのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

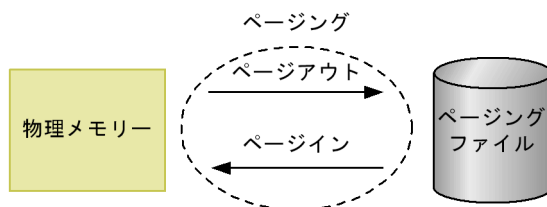
### (a) 概要

メモリーを監視することによって、物理メモリーの不足を検出したり、プロセスの不正な動作を検出したりできます。

メモリーは、次の図のように、物理メモリーとページングファイルから構成されています。物理メモリーやページングファイルが十分でないからといってメモリーが不足しているだけとは限りません。このため、メモリー使用量に加えて、ページングやページフォルトなどのメモリー利用効率もあわせて監視してください。

メモリー空間の構成を次の図に示します。

図 1-2 メモリー空間概念図



物理メモリーが不足している場合、システム全体のパフォーマンスの低下を招きます。また、プログラムが参照するメモリー領域は、一定時間以上アクセスされないとページングファイル上に退避され、必要なタイミングで物理メモリーにロードされます。このようにして、少ない物理メモリーを有効利用します。しかし、ページングファイルへのアクセスは物理メモリーのアクセスに比べて、大幅に低速です。このため、メモリー利用効率が悪くページングやページフォルトが大量に発生している場合、システム処理の大幅な遅延が発生している状態を意味します。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

- ページング  
物理メモリとページファイルとの間で発生するコードとデータの移動を指します。ページングファイルから物理メモリへのロードをページインと呼び、物理メモリからページングファイルへの退避をページアウトと呼びます。
- ページフォルト  
物理メモリに存在しない領域をアクセスすることを指します。

ページングなどは、標準的な処理でも行われています。このため、システム安定稼働時のベースラインを測定し、適切なしきい値を決定してください。

監視テンプレートでは、Available Memory アラームを提供しています。さらに詳細な情報を参照するには、次のような関連するレコードとフィールドを参考にしてください。

表 1-3 メモリーに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方 (例)
PI	Pages/sec	ページングした 1 秒当たりの操作数。継続してしきい値 (5) 以上の場合、メモリがシステムのボトルネックになっているおそれがある。ただし、一時的にしきい値以上の場合、20 までは許容範囲になることがある。
	Page Faults/sec	ページフォルトが発生した 1 秒当たりの数。継続してしきい値 (5) 以上の場合、メモリがボトルネックになっているおそれがある。
	Data Map Hits %	ページングが発生しないで、ファイルシステムキャッシュにページをマッピングした要求の割合。低い値が継続している場合、メモリがボトルネックになっているおそれがある。
	Total Physical Mem Mbytes	物理メモリーの容量。
	Available Mbytes	物理メモリーの空き容量。
	Used Physical Mem Mbytes	物理メモリーの使用量。
	% Physical Mem	物理メモリーの使用率。
	Commit Limit Mbytes	仮想メモリーの容量。
	Non Committed Mbytes	仮想メモリーの空き容量。
	Committed Mbytes	仮想メモリーの使用量。継続してしきい値 (PI レコード Total Physical Mem Mbytes フィールド) 以上の場合、より多くの物理メモリーが必要な可能性がある。
% Committed Bytes in Use	仮想メモリーの使用率。継続してしきい値 (システムの負荷状態で判断) 以上の場合、ページングファイルの拡張が必要な可能性がある。	
PD_PAG F	% Usage	ページングファイルの使用率。継続してしきい値 (システムの負荷状態で判断) 以上の場合、ページングファイルの拡張が必要な可能性がある。

システムのメモリー不足は、メモリー不足が原因であるとは限りません。プログラムの

不具合が原因で、メモリーが不足する場合があります。プロセスごとのメモリー使用量を監視すれば、これらの原因を切り分けることができます。不当にメモリーを占有していたり、メモリー使用量が単調に増加していたりするプロセスがある場合、そのプロセスのプログラムに不具合があると判断できます。

特定のプロセスに関するメモリー使用量を参照するには、次のレコードとフィールドを参考にしてください。

表 1-4 プロセスごとのメモリーに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方（例）
PI	Pool Nonpaged Bytes	ページアウトできない物理メモリー使用量。サーバの活動状況が増加していない状態で、このフィールドが増加し続けている場合、メモリーリークを発生させているプロセスが存在しているおそれがある。
PD_PDI	Page Faults/sec	ページフォルトが発生した 1 秒当たりの数。プロセスのページフォルトからボトルネックを発生させているプロセスを洗い出す。
	Pool Nonpaged Kbytes	各種メモリー、ハンドル使用量。このフィールド（メモリー、ハンドル数）が増加し続けている場合、プロセスがメモリーリークを発生させているおそれがある。
	Pool Paged Kbytes	
	Working Set Kbytes	
	Page File Kbytes	
	Private Kbytes	
	Handle Count	

#### (b) 監視方法

- 物理メモリーの未使用サイズを監視したい

物理メモリーの未使用サイズ（PI レコード Available Mbytes フィールド）は、監視テンプレートで提供している Available Memory アラームで監視できます。

詳細については、「1.3.3(2)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- 仮想メモリーの使用状況を監視したい

仮想メモリーの使用状況は、メモリーの増設が必要かどうかの目安となります。

メモリーの使用状況が一時的に高い場合でも、継続的な高負荷状態ではないときは、パフォーマンスの低下を許容できる可能性があるため、仮想メモリーの負荷状況と合わせて監視すると効果的です。

使用している仮想メモリー使用量（PI レコード Committed Mbytes フィールド）が、物理メモリー総量（PI レコード Total Physical Mem Mbytes フィールド）以上の場合、より多くのメモリーが必要な可能性があります。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

定義例については、「1.3.3(2)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

- 仮想メモリーの負荷状況を監視したい

仮想メモリーの負荷状況は、メモリーの増設が必要かどうかの目安となります。

メモリーの使用状況が一時的に高い場合でも、継続的な高負荷状態ではないときは、パフォーマンスの低下を許容できる可能性があるため、仮想メモリーの使用状況と合わせて監視すると効果的です。

ページフォルト数 (PI レコード Page Faults/sec フィールド) がしきい値以上の場合、アプリケーションが確保するメモリー量に対して、サーバに割り当てられているメモリーが不足しているおそれがあります。

ページング数 (PI レコード Pages/sec フィールド) がしきい値以上の場合、物理メモリーが不足している可能性があります。

定義例については、「1.3.3(2)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

- メモリーリークが発生していないか確認したい

メモリーリークが発生すると余分なメモリーを消費するため、システム全体が正しく動作しません。履歴レポートの折れ線グラフで、非ページプールのメモリー量 (PI レコード Pool Nonpaged Bytes フィールド) が単調に増加していないか確認することで、メモリーリークが発生していないか確認できます。

起動プロセスの増減がない状態で、非ページプールのメモリー量 (PI レコード Pool Nonpaged Bytes フィールド) が単調に増加している場合、メモリーリークを発生させているプロセスが存在するおそれがあります。

定義例については、「1.3.3(2)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

- プロセスのメモリー使用量を監視したい

メモリーリークが発生していると判断した場合、原因となるプロセスを特定してください。

サーバの活動状況が増加していない状態で、各プロセスのメモリー使用量 (PD\_PDI レコード Working Set Kbytes フィールドなど) をリアルタイムレポートで数分～数十分程度監視し、表示されている折れ線グラフで増加し続けているプロセスがないか確認します。

メモリーリークを発生させているプロセスを特定し、製造元に問い合わせるなどの対策の目安となります。

定義例については、「1.3.3(2)(b) 監視テンプレート以外の定義例」を参照してください。

### (3) ディスク

ディスクのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

## (a) 概要

ディスクを監視すれば、ディスク資源の不足などを検出したり、ディスクによるボトルネックを把握したりできます。また、継続的にディスクを監視すれば、ディスク容量の使用量の増加傾向を把握し、システム構成決定や拡張するなどのタイミングを把握できます。

ディスクはプログラムやプログラムが参照するデータなどを保存しています。このため、ディスク容量が不足してくると、データが消失するなどの問題が発生するだけでなく、システムの応答速度が低下します。

プログラムからディスクのデータを入出力する場合、実行中に休止（応答を待っている）状態になることがあります。これは、ディスクがボトルネックになり始めていることを示します。

ディスクのボトルネックが原因で、プロセスの応答速度の低下などさまざまな性能劣化を引き起こす場合があります。そのため、ディスクに関連する性能劣化が発生していないことを確認するのは重要な作業です。

ディスクにボトルネックが存在すると思われる場合、はじめに、ディスクの断片化が発生していないことを確認してください。次に、不正なファイルなどによってディスクが消費されていないかを確認し、十分な空き容量が確保されていることを確認する必要があります。不正なファイルが存在する場合、不正にファイルなどを作成したプログラムを特定し、対処する必要があります。

監視テンプレートでは、Disk Space アラームを提供しています。さらに詳細な情報については、次のレコードとフィールドを参照してください。

表 1-5 ディスクに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方（例）
PI_LOGD , PI_PHYD	% Disk Time	ディスクのビジー率。継続してしきい値（50% 以上または 100% に近い）の場合、ディスクへの負荷が高いことを示す。
	Current Disk Queue Length	キューの要求数。継続してしきい値（3）以上の場合、ディスクが混雑していることを示す。
	Avg Disk Bytes/Xfer	ディスク間で転送された 1 回当たりのバイト数。転送サイズが大きいほどシステムは効果的に稼働していることを示す。
	Disk Bytes/sec	ディスク間で転送された 1 秒当たりのバイト数。転送サイズが大きいほどシステムは効果的に稼働していることを示す。
PI_LOGD	% Free Space	ディスクの空き領域率。少ない場合、ディスク容量が不足していることを示す。
	Free Mbytes	ディスクの未使用領域。少ない場合、ディスク容量が不足していることを示す。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

### (b) 監視方法

- 論理ディスクの空き容量率を監視したい

論理ディスクの空き容量率は、監視テンプレートで提供している Disk Space アラームを使用することで、監視できます。

論理ディスクの空き容量率 (PI\_LOGD レコード % Free Space フィールド) がしきい値以下の場合、断片化されたファイルをディスクデフラグツールで最適化する際、支障をきたすことがあります。

また、論理ディスクの空き容量率がしきい値以下の場合でも、全容量が大きいディスクの場合、許容できる容量の可能性もあります。このため、論理ディスクの空き容量と合わせて監視すると効果的です。

詳細については、「1.3.3(3)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- 論理ディスクの空き容量を監視したい

論理ディスクの空き容量は、監視テンプレートで提供している Logical Disk Free アラームを使用することで、監視できます。

論理ディスクの空き領域をアラームで監視すると、ディスク容量不足を効果的に監視できます。

論理ディスクの空き領域 (PI\_LOGD レコード Free Mbytes フィールド) がしきい値以下になった場合、不要ファイルの削除、ファイル圧縮、ディスク増設などの対策の目安となります。

詳細については、「1.3.3(3)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- ディスクのビジー率を監視したい

ディスクのビジー率は、監視テンプレートで提供している Disk Busy % アラームを使用することで、監視できます。

ディスクのビジー率は、過度なページング (プロセスによるページの読み取り、または書き込み) が発生していないかをアラームで監視できます。

ディスクのビジー率 (PI\_PHYD または PI\_LOGD レコード % Disk Time フィールド) が継続的にしきい値以上の場合、ディスク要求を発生させているプロセスを調べ、プロセスの分散処理をするなどの対策の目安となります。

ディスクの混雑と合わせて監視すると効果的です。

詳細については、「1.3.3(3)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- ディスクの混雑を監視したい

ディスクの混雑は、監視テンプレートで提供している Logical Disk Queue アラームまたは Physical Disk Queue アラームを使用することで、監視できます。



ディスクの混雑は、過度な I/O 要求が発生していないかをアラームで監視できます。

ディスクの混雑（PI\_PHYD または PI\_LOGD レコード Current Disk Queue Length フィールド）が継続的にしきい値以上の場合、ディスク要求を発生させているプロセスを調べ、プロセスの分散処理をするなどの対策の目安となります。

ディスクのビジー率と合わせて監視すると効果的です。

詳細については、「1.3.3(3)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

#### (4) ネットワーク

ネットワークのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

##### (a) 概要

ネットワークの情報を監視すれば、システムが提供している機能の応答速度を確認できます。

ネットワークのデータの送受信量などを継続的に監視すれば、ネットワークの構成決定や拡張などを計画的に行えます。

関連するレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-6 ネットワークに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方（例）
PI_NETI	Bytes Total/sec	送受信された 1 秒当たりのデータ量。常に NIC を使用し送受信している環境で、しきい値（低い値 [高い程良い]）以下の値が数多く発生した場合、NIC がボトルネックになっているおそれがある。
	Bytes Sent/sec	送信された 1 秒当たりのデータ量。常に NIC を使用し送信している環境で、しきい値（低い値 [高い程良い]）以下の値が数多く発生した場合、NIC がボトルネックになっているおそれがある。
PI	Bytes Rcvd/sec	受信された 1 秒当たりのデータ量。サーバがネットワークから受信したバイト数をネットワークカードの総帯域幅性能と比較し、帯域幅（ネットワークで一定時間内に転送できるデータの量）50% 以上の場合、ネットワーク接続がボトルネックになっているおそれがある。

注

高い値の場合、多量の転送に成功したこと示します。

##### (b) 監視方法

- ネットワークインターフェースカードの帯域幅（一定時間内に転送できるデータの量）を超えるデータ受信がないか監視したい

ネットワークインターフェースカードの帯域幅は、監視テンプレートで提供している

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

Network Received アラームを使用することで、監視できます。

ネットワークインターフェースカードの帯域幅をアラームで監視すると、ネットワークの送受信データ量を監視できます。

データ量が継続的にしきい値以上の場合、ネットワークインターフェースカードまたは物理ネットワークをアップグレードする目安となります。

詳細については、「1.3.3(4)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

### (5) プロセスおよびサービス

プロセスおよびサービスのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

#### (a) 概要

システムは、個々のプロセスやサービスによって提供されています。このため、プロセスやサービスの稼働状況を把握することは、システムの安定運用に欠かせません。

システムの機能を提供するプロセスやサービスが異常終了した場合、運用システムが停止し重大な影響が発生します。このため、プロセスの生成、消滅、および起動状況やサービスの起動状況を監視し、早急に異常を検知し対策を立てることが必要です。

PFM - Agent for Platform では、情報収集のタイミングでプロセスを監視しています。このため、プロセスの存在確認をしている場合でも、プロセスが消滅したタイミングではなく、PFM - Agent for Platform が情報を収集したタイミングでプロセスの消滅が検知されることに注意してください。

プロセスおよびサービスを監視するためのレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-7 プロセスおよびサービスに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方(例)
PI_WGRP	Process Count	プロセス数。しきい値(起動している必要があるプロセス数)以下の場合、プロセスが停止していることを示す。
PD_PDI	Program	プロセス名。レコード収集されない場合、プロセスが停止していることを示す。
PD_ASVC , PD_SVC	Service Name	サービス名および起動状態。アプリケーションサービス(プロセス)が起動中(RUNNING)以外の場合、サービスが停止していることを示す。
	Display Name	
	State	
PD_APS	Program Name	プロセス名。レコード収集されない場合、プロセスが停止していることを示す。

使用レコード	使用フィールド	値の見方（例）
PD_APP , PD_APP2	Application Name	アプリケーション定義名。
	Application Exist	アプリケーションの状態。NORMALの場合、各監視対象のうちどれかの状態がNORMALの状態であることを示す。ABNORMALの場合、各監視対象の状態がすべてABNORMALの状態であることを示す。
	Application Status	アプリケーションの状態。NORMALの場合、各監視対象の状態がすべてNORMALの状態であることを示す。ABNORMALの場合、各監視対象のうちどれかの状態がABNORMALであることを示す。
PD_APPD	Application Name	監視数の条件結果。Monitoring Status フィールドの値がABNORMALの場合、プログラム、サービス、またはコマンドラインのうち、どれかの起動数が指定範囲外であることを示す。
	Monitoring Label	
	Monitoring Status	

## 注

収集データ追加ユーティリティでの設定が必要です。

## (b) 監視方法

## • プロセスの消滅を監視したい

プロセスの消滅は、監視テンプレートで提供している Process End アラームを使用することで、監視できます。

プロセスが異常終了した場合、運用システムが停止し重大な影響が発生します。早急に復旧させるために、プロセスの消滅をアラームで監視できます。

詳細については、「1.3.3(5)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

## • プロセスの生成を監視したい

プロセスの生成は、監視テンプレートで提供している Process Alive アラームを使用することで、監視できます。

プロセスの生成は、アプリケーション単位での監視やスケジュールされたプロセスの状況など、運用システムが正しく動作しているかどうかをアラームで監視できます。

収集データ追加ユーティリティのワークグループの設定と PL\_WGRP レコードを使用することで、プロセスの生成や消滅、同一名称のプロセス数、アプリケーション単位のプロセス数、およびユーザーごとのプロセス起動数などさまざまな監視を行えます。

詳細については、「1.3.3(5)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

## • サービスの停止を監視したい

サービスの停止は、監視テンプレートで提供している Service(Service Nm) アラームまたは Service(Display Nm) アラームを使用することで、監視できます。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

サービスが異常終了した場合、運用システムが停止し重大な影響が発生します。

早急に復旧させるために、サービスの起動状況をアラームで監視できます。

詳細については、「1.3.3(5)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

### (6) イベントログ

イベントログのパフォーマンスを監視する方法について説明します。

#### (a) 概要

OS やアプリケーションは、「エラー、警告、情報」などの情報をイベントビューアに出力しています。このため、イベントビューアのイベントログを監視することで、OS の不具合やプロセスの異常な動作を検知でき、早急に復旧できます。

イベントログを監視するためのレコードとフィールドを次の表に示します。

表 1-8 イベントログに関連する主なフィールド

使用レコード	使用フィールド	値の見方(例)
PD_ELOG	Log Name	イベントログの種類。Application, Security, System などがある。
	Event Type Name	イベントタイプの識別子名。異常 (Error), 警告 (Warning) などがある。
	Source Name	作成したアプリケーション名など。生成したアプリケーションを特定する場合に利用する。
	Event ID	イベント ID。アプリケーションのイベントログを一意に特定する場合に利用する。
	Description	イベントログの説明。イベントログの詳細な情報が出力されている。

#### (b) 監視方法

- イベントログに出力されたすべてのエラーおよび警告を監視したい

イベントログに出力されたすべてのエラーおよび警告は、監視テンプレートで提供している Event Log(all) アラームを使用することで、監視できます。

イベントログに出力されたエラーおよび警告をアラームで監視できます。

詳細については、「1.3.3(6)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

- MSCS クラスタの動作を監視したい

MSCS クラスタの動作は、監視テンプレートで提供している Event Log(System) アラームを使用することで、監視できます。

MSCS が出力しているイベントログをアラームで監視できます。

詳細については、「1.3.3(6)(a) 監視テンプレート」を参照してください。

## (7) Active Directory の監視例

PFM - Agent for Platform で Active Directory を監視する方法および監視例について説明します。

### (a) Active Directory 監視情報

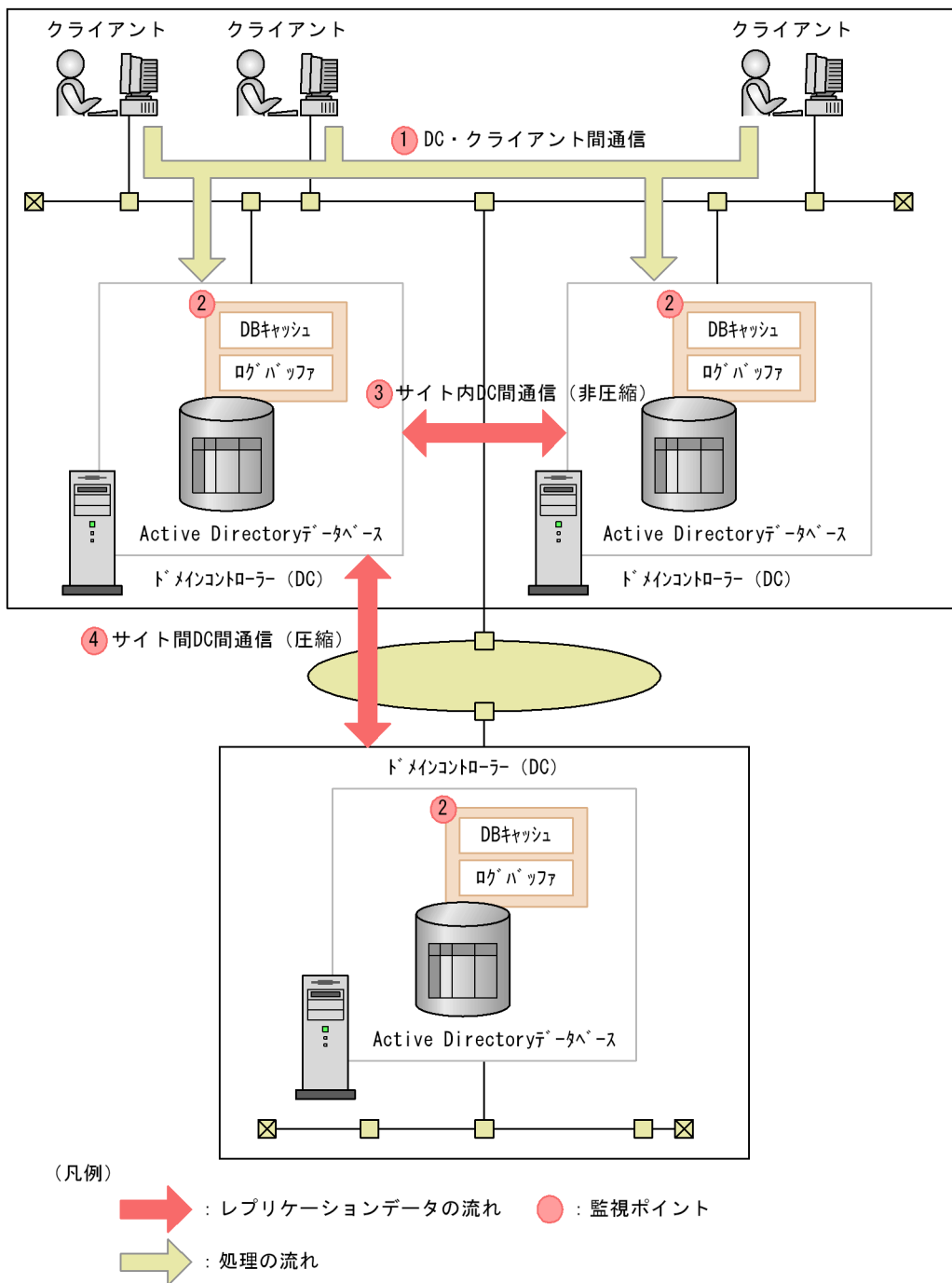
PFM - Agent for Platform 08-11 以降のバージョンでは、Active Directory 監視情報を収集する Active Directory Overview (PI\_AD) レコードを使用できます。PI\_AD レコードを参照することで、レプリケーションの実行状況・結果、セッションの接続状況、データベースキャッシュのヒット率、およびデータベースログ出力のために使われる待ち時間を監視できます。これによって、Active Directory が正常に動作していることを確認したり、負荷を確認したりできます。

ここでは、Active Directory の構成と監視目的に応じた監視情報について説明します。

Active Directory の構成を次の図に示します。

1. PFM - Agent for Platform の概要

図 1-3 Active Directory の構成



図中の番号に沿って、監視目的に応じた監視情報について説明します。

表 1-9 監視ポイント 1 での監視情報

監視目的	ボトルネック	監視方法, 対策例	PI_AD レコードの監視フィールド
不正なログオン試行が行われていないか監視したい。	ユーザーログオン	認証要求数が現在のログオンユーザー数より大幅に多い場合、不正ログオンが試行されている（ログオンに失敗し続けているユーザーがいる）おそれがある。不正ログオンのおそれがある場合、不正ログオンの対策を行う。	Kerberos Authentications , NTLM Authentications , LDAP Client Sessions
ユーザーからの要求を、複数のドメインコントローラーに分散させて、パフォーマンスの低下を防ぎたい。		各ドメインコントローラーへの接続セッション数を取得して、ログオン数を比較する。比較結果を基に、ドメインコントローラーに所属するユーザーの配分を見直し、負荷を分散させる。	LDAP Client Sessions

表 1-10 監視ポイント 2 での監視情報

監視目的	ボトルネック	監視方法, 対策例	PI_AD レコードの監視フィールド
Active Directory のパフォーマンスに大きな影響を与えるデータベースを監視したい。	Active Directory データベース用キャッシュ	次の場合、キャッシュに割り当てるメモリーを増やす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「Cache % Hit」フィールド、「Table Open Cache % Hit」フィールドの値がベースライン以下の場合。</li> <li>「Cache Page Fault Stalls/sec」フィールド、「Table Open Cache Misses/sec」フィールドの値がベースライン以上の場合。</li> </ul>	Cache % Hit , Cache Page Fault Stalls/sec , Cache Page Faults/sec , Cache Size , Table Open Cache % Hit , Table Open Cache Hits/sec , Table Open Cache Misses/sec , Table Opens/sec
	Active Directory データベース用ログバッファ	「Log Record Stalls/sec」フィールドの値がベースライン以上の場合、ログバッファに割り当てるメモリーを増やす。	Log Record Stalls/sec , Log Threads Waiting , Log Writes/sec

1. PFM - Agent for Platform の概要

表 1-11 監視ポイント 3 での監視情報

監視目的	ボトルネック	監視方法, 対策例	PI_AD レコードの監視フィールド
レプリケーションによるドメインコントローラー間の通信量の増大を抑えるため, 複製の状況を監視したい。	サイト内 DC 通信	トラフィックに関連するフィールドでベースライン以上のものがないか監視する。ベースライン以上のフィールドがある場合, 次の対策を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワークの速度を速いものに変更する。</li> <li>• サイト内のレプリケーションのスケジュールを CPU 使用率の低い時間帯に変更する。</li> </ul>	DRA In Total/sec , DRA Out Total/sec
ファイル複製による Active Directory 機能のパフォーマンスの低下, フォルダ競合によるファイルの喪失および損傷を防ぎたい。		「DRA Sync Requests Made」フィールドの値から「DRA Sync Requests Successful」フィールドの値を引いた値が単調増加している場合, Active Directory 機能が低下しているおそれがある。 <sup>1</sup> この場合, サイト内のレプリケーションのスケジュールを CPU 使用率の低い時間帯に変更する。	DRA In Total/sec , DRA Out Total/sec
サイト内の大量のネットワークトラフィックが発生するのを防ぎたい。		「SAM Password Changes/sec」フィールドがベースライン以上の場合, パスワード変更要求がネットワークトラフィックのボトルネックになっているおそれがある。 <sup>2</sup> この場合, ドメインコントローラーに所属するユーザーの配分を見直し, 負荷を分散させる。	SAM Password Changes/sec

注 1

ファイル複製の要求待ちが多い場合, レスポンスが低下していると言えます。DRA 関連フィールドを監視し, 「DRA Sync Requests Made」フィールドの値から「DRA Sync Requests Successful」フィールドの値を引いた値が単調増加していない場合は, ファイルの複製に失敗していないため正常と言えます。

注 2



パスワードの変更要求数が多い場合、ネットワークトラフィックが大量に発生します。「SAM Password Changes/sec」フィールドの値を監視し、ユーザーが事前に見込んだ1秒当たりのパスワード変更数より低い場合は問題ありません。

表 1-12 監視ポイント 4 での監視情報

監視目的	ボトルネック	監視方法, 対策例	PI_AD レコードの監視フィールド
サイト間ネットワークトラフィックを監視したい。	サイト間 DC 通信	圧縮後のバイト数がベースライン以上の場合、次の対策を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• サイト間レプリケーションのスケジュールを CPU 使用率の低い時間帯に変更する。</li> <li>• サイトを統合する。</li> </ul>	DRA In Total/sec , DRA Out Total/sec
	ゾーン転送	ゾーン転送のためにサイト間ネットワーク帯域が消費されているかどうか監視する。サイト間ネットワーク帯域が消費されている場合、サイトの統合を検討する。	Zone Transfer Failure , Zone Transfer Request Received , Zone Transfer SOA Request Sent , Zone Transfer Success
レプリケーションによるドメインコントローラー間の通信量の増大を抑えるため、複製の状況を監視したい。	サイト間 DC 通信	トラフィックに関連するフィールドでベースライン以上のものがないか監視する。ベースライン以上のフィールドがある場合、次の対策を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワークの速度を速いものに変更する。</li> <li>• サイト間レプリケーションのスケジュールを CPU 使用率の低い時間帯に変更する。</li> </ul>	DRA In Total/sec , DRA Out Total/sec

#### (b) Active Directory 監視情報の収集に必要な前提条件

Active Directory のパフォーマンスデータを取得するには、Active Directory をインストールしてください。Active Directory が有効でない環境では、Active Directory 監視情報を取得できません。インストール方法については「5. レコード」の「Active Directory のインストール方法」を参照してください。

#### (c) Active Directory 監視方法

Active Directory が正常に動作しているかどうか判断するために、まず、基本となる幾つかのパフォーマンス情報のアラームを作成して常に監視します。これらのアラームが異常または警告状態となった場合に、詳細なレポートを解析して問題を解決します。基本

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

となるパフォーマンス情報の監視について次に説明します。

- Active Directory が動作しているドメインコントローラーの稼働状況を監視する

Active Directory が動作しているサーバの基本パフォーマンスは、Active Directory 自体のパフォーマンスに大きく影響します。Active Directory が動作しているサーバの稼働状況を監視するためのアラームおよびレポートを次に示します。

- CPU Usage アラーム  
プロセッサの使用率を監視します。
- Available Memory アラーム  
物理メモリの未使用サイズを監視します。
- Disk Space アラーム  
ハードディスクの空き容量を監視します。
- Server Activity Summary (Multi-Agent) レポート  
ネットワークトラフィック負荷を監視します。

### 参考

---

これらのアラームおよびレポートは監視テンプレートに用意されています。アラームおよびレポートの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働分析のためのレポートの作成およびアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

---

- Active Directory 固有のパフォーマンス情報を監視する

Active Directory 固有のパフォーマンス情報を監視するための PI\_AD レコードのフィールドを次に示します。

- Table Opens/sec フィールド  
このフィールドは、1 秒当たりにかかれたデータベーステーブルの数を示します。Active Directory データベース負荷の指標になります。
- DRA In Total/sec フィールド  
このフィールドは、1 秒当たりの入力方向のレプリケーションの合計バイト数を示します。レプリケーション負荷の指標になります。
- DRA Out Total/sec フィールド  
このフィールドは、1 秒当たりの出力方向のレプリケーションの合計バイト数を示します。レプリケーション負荷の指標になります。
- DS Notify Queue Size フィールド  
このフィールドは、キューに登録されていて、まだクライアントに送信されていない保留中の更新通知の数を示します。ドメインサービス負荷の指標になります。
- LDAP Successful Binds/sec フィールド  
このフィールドは、1 秒当たりの LDAP バインドの数を示します。LDAP 負荷の指標になります。

## 参考

アラームの作成方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

## (d) Active Directory の監視例

Active Directory に関係するパフォーマンスの低下がある場合、PI\_AD レコードを収集して監視することで、問題解決の糸口をつかめます。次の現象が発生している場合に、ボトルネックを特定するための監視項目を示します。

- ドメインコントローラーの負荷が継続的に高い場合  
Active Directory データベースキャッシュまたは Active Directory データベースのログ書き込み状況を監視します。
- 特定のドメインにログオンが集中する場合  
Active Directory サーバへのセッション状況を監視します。
- サイト内のネットワーク負荷が高い場合  
サイト内レプリケーショントラフィックを監視します。
- サイト間のネットワーク負荷が高い場合  
サイト間レプリケーショントラフィックを監視します。

上記の現象が発生している場合の監視例を次に示します。なお、記載している監視例は凡例であり、ユーザーの環境によって変動します。しきい値などの設定はユーザーの環境に合わせてください。

- ドメインコントローラーの負荷が継続的に高い場合

ドメインコントローラーの負荷が高くなる原因として、Active Directory データベースがディスクアクセスを頻繁に行っていることが挙げられます。この場合、メモリーのキャッシュやバッファへの割り当てを見直すことによって問題を解決できます。

## Active Directory データベースキャッシュの監視

Active Directory データベースでは、適切なキャッシュサイズを設定することで、ディスク上のファイル操作を発生させることなくレコードを操作させることができます。このキャッシュ利用率を監視することで、データベースアクセスのパフォーマンスを上げるようキャッシュを調整できます。データベースのキャッシュ利用率を監視するフィールドを次に示します。

表 1-13 データベースのキャッシュ利用率を監視するフィールド

フィールド	説明
Cache % Hit	データベースキャッシュによって、ファイル操作を発生させることなく実行されたデータベースファイルページの要求の割合。
Cache Page Fault Stalls/sec	データベースキャッシュから割り当てできるページがないためにサービスを受けられない 1 秒当たりのページフォールトの数。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

フィールド	説明
Cache Page Faults/sec	データベースキャッシュマネージャが、データベースキャッシュから新しいページを割り当てるために必要な1秒当たりのデータベースファイルページの要求数。
Cache Size	データベースキャッシュマネージャがデータベースファイルから頻繁に使用される情報を保持するのに使用するシステムメモリの容量。
Table Open Cache % Hit	キャッシュしたスキーマ情報を使用して開かれたデータベーステーブルの割合。
Table Open Cache Hits/sec	キャッシュしたスキーマ情報を使用して開かれたデータベーステーブルの1秒当たりの数。
Table Open Cache Misses/sec	キャッシュしたスキーマ情報を使用しないで開かれたデータベーステーブルの1秒当たりの数。
Table Opens/sec	1秒当たりに開かれたデータベーステーブルの数。

### 監視例

次の条件を満たす場合、キャッシュ容量の不足が原因でパフォーマンスが低下していると想定されます。

- Cache % Hit, Table Open Cache % Hit がベースラインを下回っている。
- Cache Page Fault Stalls/sec がベースラインを上回っている。

### 対策例

Active Directory データベースのキャッシュに割り当てるメモリーを増やしてください。

### データベースのログ書き込み状況の監視

データベースログのバッファの使用状況を監視して、ログバッファの容量を適切に調整することで、ログ書き込みのための待ち時間を減少できます。「Active Directory データベースキャッシュの監視」と異なり、こちらはログバッファのパフォーマンス情報です。

表 1-14 データベースのログ書き込み状況を監視するフィールド

フィールド	説明
Log Record Stalls/sec	ログバッファに空きがないために追加できない1秒当たりのログレコードの数。
Log Threads Waiting	データベースの更新を完了させるために、ログバッファ上のデータがログファイルに書き込まれるのを待機しているスレッドの数。
Log Writes/sec	ログバッファ上のデータがログファイルに書き込まれる1秒当たりの回数。

### 監視例

次の条件を満たす場合、ログバッファの容量不足が原因でパフォーマンスが低下していると想定されます。

- Log Record Stalls/sec がベースラインを上回っている。

#### 対策例

ログバッファに割り当てるメモリーを増やしてください。

- 特定のドメインにログオンが集中する場合

Active Directory によって使用されている現在のセッション数を確認したい場合は、次のフィールドを確認してください。

表 1-15 現在のセッション数を監視するフィールド

フィールド	説明
AB Client Sessions	接続されているアドレス帳クライアントセッションの数。
LDAP Client Sessions	接続されている LDAP クライアントセッションの数。

#### 監視例

次の条件を満たす場合、特定のドメインにログオンが集中していると想定されます。

- LDAP Client Sessions がベースラインを上回っている。

#### 対策例

- 各ドメインコントローラーに割り当てるユーザーの数を均等にしてください。
- ドメインコントローラーを増やすなど、ユーザーの数を分散させる対処をしてください。
- サイト内のネットワーク負荷が高い場合

サイト内のネットワーク負荷が高い場合、Active Directory がサイト内でレプリケーションを大量に行っていることが原因となっている場合があります。サイト内のレプリケーションのトラフィックを監視するフィールドを次に示します。

表 1-16 サイト内のレプリケーションのトラフィックを監視するフィールド

フィールド	監視対象	説明
DRA In Not Compress	入力方向のレプリケーション	圧縮されていないデータのバイト数（入力量）。
DRA In Not Compress/sec		圧縮されていないデータの1秒当たりのバイト数（入力頻度）。
DRA Out Not Compress	出力方向のレプリケーション	圧縮されていないデータのバイト数（出力量）。
DRA Out Not Compress/sec		圧縮されていないデータの1秒当たりのバイト数（出力頻度）。

#### 監視例

次の条件を満たす場合、サイト内のレプリケーションのトラフィックが原因で、サ

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

イト内のネットワーク負荷が高くなっていると想定されます。

- DRA In Not Compress/sec , DRA Out Not Compress/sec がベースラインを上回っている。

### 対策例

ドメインコントローラーを増やすなど、負荷を分散させてください。

- サイト間のネットワーク負荷が高い場合

サイト間のネットワーク負荷が高い場合、Active Directory がサイト間レプリケーションを大量に行っていることが原因となっている場合があります。サイト間レプリケーションでは通信を圧縮して行う点がサイト内のレプリケーションと異なります。レプリケーションの動作自体は変わりません。サイト間レプリケーションのトラフィックを監視するフィールドを次に示します。

表 1-17 サイト間レプリケーションのトラフィックを監視するフィールド

フィールド	監視対象	説明
DRA In After Compress	入力方向のレプリケーション	圧縮後データのバイト数 (入力量)
DRA In After Compress/sec		圧縮後データの 1 秒当たりのバイト数 (入力頻度)
DRA In Before Compress		圧縮前データのバイト数 (入力量)
DRA In Before Compress/sec		圧縮前データの 1 秒当たりのバイト数 (入力頻度)
DRA Out After Compress	出力方向のレプリケーション	圧縮後データのバイト数 (出力量)
DRA Out After Compress/sec		圧縮後データの 1 秒当たりのバイト数 (出力頻度)
DRA Out Before Compress		圧縮前データのバイト数 (出力量)
DRA Out Before Compress/sec		圧縮前データの 1 秒当たりのバイト数 (出力頻度)

### 監視例

次の条件を満たす場合、サイト間レプリケーションのトラフィックが原因で、サイト間のネットワーク負荷が高くなっていると想定されます。

- DRA In After Compress/sec , DRA In Before Compress/sec , DRA Out After Compress/sec , DRA Out Before Compress/sec がベースラインを上回っている。

### 対策例

- サイト間レプリケーションのスケジュールを CPU 使用率の低い時間帯に設定してください。
- サイトの統合を検討して、サイト間通信を減らしてください。

## ポイント

レプリケーションはデータベース管理システムが持つ負荷分散機能の一つです。データベースの複製をネットワーク上に複数配置し、回線やマシンの負荷を軽減する機能です。Active Directory ではレプリケーション機能が使用できます。これによってマシンの負荷を分散させるとともに、高速なディレクトリサービスを提供しています。

レプリケーションは Active Directory を含むディレクトリサービスで重要な位置にあります。レプリケーションのトラフィックを監視することによって、現在の負荷を知ることができ、必要な処置の判断ができます。

Active Directory は、サイト内では高速で信頼性のあるネットワーク接続を想定した動作を行います。そのため、サイト内レプリケーションの実行時にデータは圧縮されません。これによって圧縮処理によるオーバーヘッドを抑えています。

一方、サイト間のドメインコントローラー間でレプリケーションを行う場合、通常のサイト間通信では距離が離れているためコストが掛かります。このため、サイト間レプリケーションを行う場合にはデータを圧縮します。

## (8) 利用ポート情報の収集例

PFM・Agent for Platform では、ユーザーがテキストファイルに出力した独自のパフォーマンスデータ（ユーザー作成データ）を、PFM・Agent for Platform が提供するレコードに格納できる形式（ユーザーデータファイル）に変換する機能を提供しています。ユーザー独自のパフォーマンスデータの詳細については、「3.2.7 ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集の設定」を参照してください。

ここでは、ユーザー独自のパフォーマンスデータとして利用ポート情報を PI\_UPIB レコードに収集する例を示します。利用ポート情報は、次の表に示す形式で格納するものとします。

表 1-18 ユーザー作成データのフォーマット

オプション	値
tt	"TCP"。
ks	ホスト名。
lr	ホストが持つ TCP ポートの総数。
lr	ホストが持つ TCP ポートのうち現在アクティブなポート数。
lr	ホストが持つ TCP ポートのうちリッスン中のポート数。

### 1. 利用ポート情報を収集するためのバッチを作成する。

この例では、利用ポート情報を収集するためにバッチを利用します。バッチの作成例を次に示します。

```
Windows 2003 でのバッチの作成例 (D:¥homework¥sample.bat)
@echo off
```

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

```
echo Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows) >
D:¥homework¥userdata.tcp
echo FormVer=0001 >> D:¥homework¥userdata.tcp
echo tt ks lr lr lr >> D:¥homework¥userdata.tcp
hostname > D:¥homework¥userdata.tmp
netstat -ap tcp | find "TCP" /C >> D:¥homework¥userdata.tmp
netstat -ap tcp | find "ESTABLISHED" /C >>
D:¥homework¥userdata.tmp
netstat -ap tcp | find "LISTENING" /C >> D:¥homework¥userdata.tmp
(
set /p ks=
set /p lr1=
set /p lr2=
set /p lr3=
) < D:¥homework¥userdata.tmp
del D:¥homework¥userdata.tmp
echo TCP %ks% %lr1% %lr2% %lr3% >> D:¥homework¥userdata.tcp
```

### ! 注意事項

ここで紹介するバッチは Windows 2003 での作成例のため、ほかの OS では正しく動作しないおそれがあります。また、環境によっては Windows 2003 上でも動作しないことがあるため注意してください。

## 2. 手順 1 で作成したバッチを実行する。

バッチの実行結果として作成されるユーザー作成データを次に示します。

ユーザー作成データ (D:¥homework¥userdata.tcp)

```
Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)
FormVer=0001
tt ks lr lr lr
TCP jplps05 15 3 12
```

## 3. 手順 2 で作成されたユーザー作成データをユーザーデータファイルへ変換する。

ユーザー作成データをユーザーデータファイルへ変換するコマンド (jpcuser コマンド) の実行例を次に示します。

jpcuser コマンドの実行例

```
"C:¥Program Files¥HITACHI¥jplpc¥agtt¥agent¥jpcuser¥jpcuser"
PI_UPIB
-file D:¥homework¥userdata.tcp
```

## 4. 手順 3 で出力されたユーザーデータファイルを PFM - Agent for Platform で収集する。

PFM - Agent for Platform がレコードを収集するタイミングで、ユーザーデータファイルの内容がユーザーレコードに格納されます。

## (9) PFM 製品が導入されていない複数のホストからのパフォーマンスデータの収集例

PFM 製品が導入されていないホスト固有のパフォーマンスデータを、PFM - Agent for Platform のユーザー作成データ収集機能を使って収集できます。また、複数のホストのパフォーマンスデータを一つのユーザーデータファイルに変換することで、同時に複数のホストの状態を監視することもできます。この場合、PFM 製品が導入されていないそ



それぞれのホストでユーザー作成データを作成するために、バッチなどのスクリプトを準備する必要があります。ここでは、PFM 製品が導入されていないホストのパフォーマンスデータを収集し、PFM - Agent for Platform のレコード情報として出力するまでの例を示します。

(a) 収集データ

ここでは「(8) 利用ポート情報の収集例」で作成したユーザー作成データを使用して情報を取得する例を示します。

(b) 前提条件

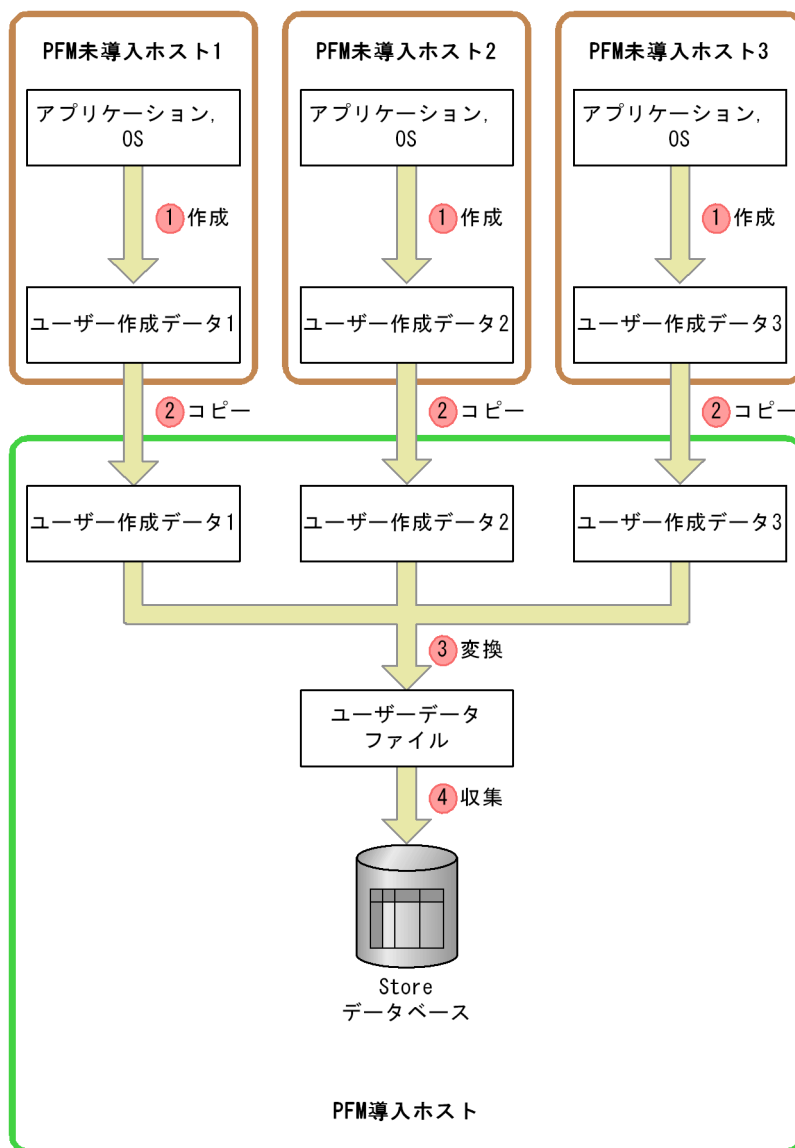
PFM 製品が導入されていない複数のホストからパフォーマンスデータを収集するための前提条件を次に示します。

- PFM 製品が導入されているホストと PFM 製品が導入されていないホストの間で信頼関係が結ばれており、ファイルのやり取りが可能な環境である。
- PFM 製品が導入されているホストの PFM - Agent for Platform のバージョンが 08-11 以降である。

(c) データ収集の手順

PFM 製品が導入されていないホストのデータ収集の流れを次の図に示します。

図 1-4 PFM 製品が導入されていないホストのデータ収集の流れ



(凡例)  
→ : データの流れ

図中の番号に従って処理の流れを説明します。複数のホストのパフォーマンスデータを収集する場合は、同様の手順をホストごとに実行してください。

1. PFM 製品が導入されていないホストでユーザー作成データを作成する。  
パフォーマンスデータを収集するスクリプトを実行して、ユーザー作成データを作成します。ここでは「(8) 利用ポート情報の収集例」で作成したユーザー作成データを

使用します。

2. リモートホスト間でファイルをコピーする。  
手順 1 で作成したユーザー作成データを、PFM 製品が導入されているホストにコピーします。ここではネットワークドライブの割り当てによってホスト間で共有している領域「F:\nethome¥」にユーザー作成データをコピーします。copy コマンドの例を次に示します。

copy コマンドの例

```
copy D:\homework¥userdata.tcp F:\nethome¥userdata.tcp
```

### ! 注意事項

複数のホストのユーザー作成データを収集する場合は、ファイル名が重複しないようにしてください。ファイル名が重複している場合、ファイルをコピーするときに上書きするおそれがあります。

3. PFM 製品が導入されているホストで jpcuser コマンドを実行する。  
PFM 製品が導入されているホストで jpcuser コマンドを実行して、手順 2 でコピーしたユーザー作成データをユーザーデータファイルに変換します。手順 1 および 2 を実行した PFM 未導入ホストのユーザー作成データを、一つのユーザーデータファイルに変換する例を次に示します。

jpcuser コマンドの例

```
"C:\Program Files\HITACHI\jplpc¥agtt¥agent¥jpcuser¥jpcuser"  
PI_UPIB  
-file ユーザー作成データ1 -file ユーザー作成データ2 -file ユーザー作成データ3
```

4. PFM 製品が導入されているホストでレコードデータを収集する。  
手順 3 で出力されたユーザーデータファイルの内容を、PFM 製品が導入されているホストでレコードデータとして収集します。

## 1.3.3 定義例

監視するリソースごとに、監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。定義例の見方を次に示します。

- 定義例の と は、PFM - Web Console のチェックボックスを示しています。また、 と は、PFM - Web Console のラジオボタンを示しています。
- 定義例の と は、PFM - Web Console での設定で、チェックすることを示しています。また、 と は、PFM - Web Console での設定で、チェックしないことを示しています。
- 定義例の「xxx」「yyy」「zzz」「dummy」はユーザーがシステム環境に応じて変更する文字列です。その他の定義内容については、必要に応じて変更してください。
- 定義例の発生頻度（例：[3]回しきい値超過/[5]インターバル中）は、システム環境によって異なります。発生頻度の定義内容は、必要に応じて変更してください。例

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

例えば、システム環境で処理が集中する時間帯が2分以上で継続的な高負荷状態であるとします。このとき、収集間隔が60秒であれば、5回中2回までは許容範囲であり、3回以上で継続的な高負荷状態であるといえます。よって、発生頻度には「[3] 回しきい値超過 / [5] インターバル中」と設定します。

### (1) プロセッサ

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

#### (a) 監視テンプレート

- プロセッサに関連する監視テンプレートのアラーム

プロセッサに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00 アラームテーブルに格納されています。

表 1-19 プロセッサの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
CPU Usage	PI	CPU %	>= 90	> 80	プロセッサの使用率(%)が継続して高い場合、プロセッサがシステムのボトルネックになっているおそれがある。過度にプロセッサを使用しているプロセスを見つけ、対策を立てる必要がある。プロセスに問題がない場合、限界を超えるシステム環境のため、プロセッサをアップグレードするか、プロセッサを追加するなどの対策が必要である。
Processor Queue	PI	Processor Queue Length	>= 10	>= 2	要求数が継続してしきい値以上の場合、プロセッサが混雑していることを示す。
SVR Processor Queue	PI_SV RQ	Queue Length	>= 3	>= 2	キューの長さが継続してしきい値以上の場合、プロセッサに大きな負荷が掛かっていることを示す。

- プロセッサに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-20 プロセッサの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
CPU Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについての CPU 使用率の要約 (時単位)。
CPU Trend	最近 1 か月間のユーザーモードと特権モードで実行された CPU 使用率 (日単位)。
CPU Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムの CPU 使用率 (日単位)。
CPU Usage Summary	最近 1 時間の CPU 使用率の要約 (分単位)。

既存レポートの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

(b) 監視テンプレート以外の定義例

- プロセッサ使用率が高いプロセスを確認するリアルタイムレポート

表 1-21 定義例

項目		内容	
名前と種別	レポート名	PD_PDI - Memory	
	プロダクト	Windows (6.0)	
	レポート種別	リアルタイム (一つのエージェント)	チェックする
		履歴 (一つのエージェント)	-
履歴 (複数のエージェント)		-	
フィールド	レコード	PD_PDI	
	選択されたフィールド	Program PDI CPU % Privileged CPU % User CPU %	
フィルター	条件式 :	拡張フィルター	
	条件式の定義	Program <> "_Total" AND PID <> "0"	
	表示時に指定	チェックしない	
表示設定	表示時に指定	チェックする	
	デルタで表示	チェックしない	
	更新間隔	自動更新しない	チェックしない
		初期値	30
		最小値	30
	ランキング表示	フィールド	CPU %
表示数		10	
降順		チェックしない	
表示形式	表	全フィールド	
	一覧	-	
	グラフ	Privileged CPU % User CPU %	
	表示キー	フィールド	(なし)
降順		-	

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

項目		内容	
グラフのプロパティ	グラフの種類	積み上げ横棒	
	系列	行	
	軸ラベル	X 軸	プロセス名 (プロセス ID)
		Y 軸	CPU %
	データラベル	データラベル 1	プロセス名
データラベル 2		プロセス ID	
ドリルダウン	レポートのドリルダウン	任意	
	フィールドのドリルダウン	任意	

(凡例)

- : 指定しない

注

状況に応じて設定します。

## (2) メモリー

監視テンプレート、および監視テンプレート以外の定義例について説明します。

### (a) 監視テンプレート

- メモリーに関連する監視テンプレートのアラーム

メモリーに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00 アラームテーブルに格納されています。

表 1-22 メモリーの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Available Memory	PI	Available Mbytes	< 3	< 4	未使用サイズがしきい値より小さい場合、物理メモリーが不足しているおそれがある。過度にメモリーを使用しているプロセスを見つけ、対策を立てる必要がある。プロセスに問題がない場合、限界を超えるシステム環境のため、メモリーを増設するなどの対策を立てる必要がある。
Committed Mbytes	PI	Committed Mbytes	>= 2046	>= 1024	仮想メモリー領域の使用量が継続してしきい値 (PI レコードの Total Physical Mem Mbytes フィールド) 以上の場合、物理メモリーが不足しているおそれがある。

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Pages/sec	PI	Pages/sec	>= 5	>= 4	ページ数の割合が継続してしきい値以上の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。ただし、しきい値の超過が一時的な場合は、監視した値が 20 までは許容範囲になることがある。
Page Faults/sec	PI	Page Faults/sec	>= 5	>= 4	ページフォルトが発生した数の割合が継続してしきい値以上の場合、メモリーがボトルネックになっているおそれがある。

既存アラームの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

- ・メモリーに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-23 メモリーの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Memory Available Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムの物理メモリーの空き容量 (日単位)
Memory Paging	最近 1 時間のページングしたページ数の頻度 (分単位)
Memory Paging Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについてのメモリーのページフォルトが発生した状況の要約 (時単位)
OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示すリアルタイムレポート)	物理メモリーの空き容量。
OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示す履歴レポート)	最近 24 時間のシステムの物理メモリーの空き容量の要約 (時単位)
System Memory Detail	最近 1 時間のシステムの物理メモリーの詳細 (分単位)

- ・システム (メモリー) に関連する監視テンプレートのレポート

表 1-24 システムの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
File System I/O Summary	最近 1 時間の I/O 使用量の要約 (分単位)
Process Trend	最近 1 か月間のシステムで実行されたプロセス数 (日単位)
System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート)	システム全体の概要。
System Overview (システムの概要を示す履歴レポート)	最近 1 時間のシステムの概要 (分単位)

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

レポート名	表示する情報
Workload Status	システムのワークロード関連データ。
Workload Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のシステムについてのワークロード関連データの要約 (時単位)。

既存レポートの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

### (b) 監視テンプレート以外の定義例

- メモリーリークが発生しているおそれがないか確認する履歴レポート

表 1-25 定義例

項目		内容	
名前と種別	レポート名	PI - Memory	
	プロダクト	Windows (6.0)	
	レポート種別	リアルタイム (一つのエージェント)	-
		履歴 (一つエージェント)	チェックする
	履歴 (複数のエージェント)	-	
フィールド	レコード	PI	
	選択されたフィールド	Pool Nonpaged Bytes Pool Paged Bytes Pages/sec Page Faults/sec Data Map Hits % Commit Limit Mbytes Committed Mbytes Non Committed Mbytes % Committed Bytes in Use Total Physical Mem Mbytes Used Physical Mem Mbytes Available Mbytes % Physical Mem Current Processes Current Threads	
フィルター	条件式:	フィルターなし	
表示設定	表示時に指定	チェックしない	
	表示時に指定	チェックする	
	レポート表示期間の設定	対象期間	レポートの表示時に指定
		レポート間隔	分
	ピーク時間	フィールド	(なし)
最大レコード数		1440	



項目		内容	
表示形式	表	全フィールド	
	一覧	-	
	グラフ	Pool Nonpaged Bytes	
	表示名	-	
	表示キー	フィールド	(なし)
降順		-	
グラフのプロパティ	グラフの種類	折れ線	
	系列	行	
	軸ラベル	X 軸	時間
		Y 軸	非ページプール
	データラベル	データラベル 1	(なし)
データラベル 2		(なし)	
ドリルダウン	レポートのドリルダウン	任意	
	フィールドのドリルダウン	任意	

(凡例)

- : 指定しない

注

状況に応じて設定します。

- プロセスのメモリー使用量を確認するリアルタイムレポート

表 1-26 定義例

項目		内容	
名前と種別	レポート名	PD_PDI - Memory	
	プロダクト	Windows (6.0)	
	レポート種別	リアルタイム (一つのエージェント)	チェックする
		履歴 (一つのエージェント)	-
履歴 (複数のエージェント)		-	
フィールド	レコード	PD_PDI	
	選択されたフィールド	すべて選択する	
フィルター	条件式 :	拡張フィルター	

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

項目		内容	
表示設定	条件式の定義	Program <> "_Total" AND PID <> "0"	
	表示時に指定	チェックしない	
	表示時に指定	チェックする	
	デルタで表示	チェックしない	
	更新間隔	自動更新しない	チェックしない
		初期値	30
		最小値	30
	ランキング表示	フィールド	Pool Nonpaged Kbytes
		表示数	30
		降順	チェックする
表示形式	表	Program PID Handle Count Page Faults/sec Pool Nonpaged Kbytes Pool Paged Kbytes Working Set Kbytes Page File Kbytes Private Kbytes CPU %	
	一覧	-	
	グラフ	Pool Nonpaged Kbytes Pool Paged Kbytes Working Set Kbytes Page File Kbytes Private Kbytes	
	表示名	-	
	表示キー	フィールド	(なし)
		降順	-
グラフのプロパティ	グラフの種類	折れ線	
	系列	行	
	軸ラベル	X 軸	時間
		Y 軸	メモリー使用量
	データラベル	データラベル 1	(なし)
データラベル 2		(なし)	
ドリルダウン	レポートのドリルダウン	任意	
	フィールドのドリルダウン	任意	

(凡例)

- : 指定しない

注

監視したいフィールドを設定します。

### (3) ディスク

監視テンプレートの定義例について説明します。

#### (a) 監視テンプレート

- ディスクに関連する監視テンプレートのアラーム

ディスクに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00 アラームテーブルに格納されています。

表 1-27 ディスクの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Disk Space	PI_LO GD	% Free Space	< 5	< 15	空き領域がしきい値より少ない場合、ディスク容量不足になっているおそれがある。不要ファイルの削除、ファイル圧縮、ディスクの最適化、ディスク増設などの対策が必要である。
Logical Disk Free	PI_LO GD	ID	<> _Total	<> _Total	未使用領域が少ない場合、ディスク容量不足になっているおそれがある。
		Free Mbytes	< 5120	< 10240	
Disk Busy %	PI_LO GD	ID	<> _Total	<> _Total	経過時間の割合が継続してしきい値以上の場合、ディスクへの負荷が高いことを示す。
		% Disk Time	>= 90	>= 50	
Logical Disk Queue	PI_LO GD	ID	<> _Total	<> _Total	要求数が継続してしきい値以上の場合、論理ディスクが混雑していることを示す。
		Current Disk Queue Length	>= 5	>= 3	
Physical Disk Queue	PI_PH YD	ID	<> _Total	<> _Total	要求数が継続してしきい値以上の場合、物理ディスクが混雑していることを示す。
		Current Disk Queue Length	>= 5	>= 3	

既存アラームの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

- ディスクに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-28 ディスクの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Disk Time - Top 10 Logical Drives	ディスク使用率が高い論理ディスクの上位 10 個。
Free Megabytes - Logical Drive Status	論理ディスクで使用できる領域に関連する情報。
Free Space - Low 10 Logical Drives	空き領域が少ない論理ディスクの上位 10 個。
Free Space - Top 10 Logical Drives	空き領域が多い論理ディスクの上位 10 個。
Logical Drive Detail	特定の論理ディスクの詳細。

既存レポートの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

### (4) ネットワーク

監視テンプレートの定義例について説明します。

#### (a) 監視テンプレート

- ネットワークに関連する監視テンプレートのアラーム

ネットワークに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [NET] 09.00 アラームテーブルに格納されています。

表 1-29 ネットワークの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Network Received	PI_NE TI	Bytes Revd/sec	>= 300 0	>= 204 8	サーバがネットワークから受信したバイト数とネットワークカードの総帯域幅性能を比較し、帯域幅（ネットワークで一定時間内に転送できるデータの量）が 50% 以上の場合、ネットワーク接続がボトルネックになっているおそれがある。

既存アラームの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

- ネットワークに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-30 ネットワークの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
Access Failure Status (システムアクセスエラーを示すリアルタイムレポート)	システムアクセス試行でのエラー数。

レポート名	表示する情報
Access Failure Status (システムアクセスエラーを示す履歴レポート)	最近 24 時間にシステムへのアクセス試行中に発生したエラー数の累積値 (時単位)。
Server Activity Detail	ネットワーク間での通信状況についての情報。
Server Activity Summary (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについてのネットワーク間での通信状況についての要約 (時単位)。
Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示すリアルタイムレポート)	ネットワーク間での通信状況についての情報。
Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示す履歴レポート)	最近 1 時間のネットワーク間での通信状況 (分単位)。
Server Activity Summary Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのサーバがネットワークとの間で送受信したデータの稼働状況 (日単位)。
Server Sessions Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのサーバでアクティブなセッション数 (日単位)。
System Utilization Status	サーバがネットワークとの間で送受信した状況。

既存レポートの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

## (5) プロセス・サービス

監視テンプレートの定義例について説明します。

### (a) 監視テンプレート

- プロセスに関連する監視テンプレートのアラーム

プロセスに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10 アラームテーブルに格納されています。

表 1-31 プロセスの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Process End	PD_PDI	Program	= jpcsto	= jpcsto	パフォーマンスデータが収集されない場合、プロセスが停止していることを示す。
Process Alive	PI_WGRP	Process Count	> 0	> 0	ワークグループのプロセスが動作していることを示す。
		Workgroup	= workgroup	= workgroup	

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Service(Service Nm)	PD_SVC	Service Name	= JP1PCAGT_TS	= JP1PCAGT_TS	アプリケーションサービス（プロセス）が起動中（RUNNING）以外の場合、サービスが停止していることを示す。
		State	<> RUNNING	<> RUNNING	
Service(Display Nm)	PD_SVC	Display Name	= PFM - Agent Store for Windows	= PFM - Agent Store for Windows	アプリケーションサービス（プロセス）が起動中（RUNNING）以外の場合、サービスが停止していることを示す。
		State	<> RUNNING	<> RUNNING	
Application Status	PD_APP2	Application Name	= *	= *	Application Exist フィールドの値が ABNORMAL の場合、アプリケーションに設定している監視対象のすべてが ABNORMAL の状態であることを示す。Application Status フィールドの値が ABNORMAL の場合、アプリケーションに設定している監視対象のうちどれかが ABNORMAL の状態であることを示す。
		Application Exist	= ABNORMAL	= NORMAL	
		Application Status	= ABNORMAL	= ABNORMAL	
Process Existence	PD_APPS	Program Name	= jpcsto.exe	= jpcsto.exe	レコード収集されない場合、プロセスが停止していることを示す。

既存アラームの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

- プロセスに関連する監視テンプレートのレポート

表 1-32 プロセスの監視テンプレートのレポート

レポート名	表示する情報
CPU Usage - Top 10 Processes	CPU 使用率が高いプロセスの上位 10 個。
Process Detail	特定のプロセスのシステムリソース消費についての詳細。
Page Faults - Top 10 Processes	ページフォルトが発生した頻度が高いプロセスの上位 10 個。

既存レポートの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

## (6) イベントログ

監視テンプレートの定義例について説明します。

### (a) 監視テンプレート

- イベントログに関連する監視テンプレートのアラーム

イベントログに関連する監視テンプレートのアラームは、PFM Windows Template Alarms [LOG] 09.00 アラームテーブルに格納されています。

表 1-33 イベントログの監視テンプレートのアラーム

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
Event Log(all)	PD_ELOG	Log Name	<> dummy	<> dummy	アプリケーションでエラーまたは警告が発生したことを示す。
		Event Type Name	= Error	= Warning	
		Source Name	<> dummy	<> dummy	
		Event ID	<> 0	<> 0	
		Description	<> dummy	<> dummy	
Event Log(System)	PD_ELOG	Log Name	= System	= System	MSCS でエラーまたは警告が発生したことを示す。
		Event Type Name	= Error	= Warning	

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

監視テンプレートのアラーム	使用レコード	使用フィールド	異常条件	警告条件	値の見方
		Source Name	= ClusSve	= ClusSve	
		Event ID	<> 0	<> 0	
		Description	<> dummy	<> dummy	

既存アラームの設定内容については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

- イベントログに関連する監視テンプレートのレポート  
なし

### 1.3.4 仮想化システム上での運用

PFM - Agent for Platform を用いた仮想化システムのパフォーマンス監視について説明します。

#### (1) 仮想化システム上で運用する目的

仮想化システムの利点と、PFM - Agent for Platform を仮想化システムで運用する目的について説明します。

##### (a) 仮想化システムの利点

仮想化システムは、システムの余剰リソースを有効に扱える技術として注目されています。例えば、「1 サーバ 1 アプリケーション」という状況の多い現在、ほとんどのサーバは余剰リソースを保持しています。具体的には、サーバのジョブが混雑する時間帯を除き 5% ~ 7% 程のリソースを使用しているのが現状です。このような状況を解決するのに仮想化システムは適しています。

また、仮想化システムはほかにも次のような利点があります。

- OS や機器を共有、一元管理できる。
- 複数の古いサーバを仮想サーバにして、1 台の新しいサーバ上で稼働できる。
- サーバの数が減るため、電力および空調コストが削減できる。

##### (b) パフォーマンス監視の目的

前述の「仮想化システムの利点」はシステムのリソースが過不足なく利用されているときに最大の恩恵を受けることができます。システムのリソースが過剰に消費されている、または逆にほとんど使用されていない場合、仮想化システムを有効に利用できていません。

このようなことは、リソースの消費状況を監視することで、現在のシステムが有効な設



定であるか、そうでないか判断できます。

基本的には、PFM - Agent for Platform は物理的に一つの OS に関する情報を収集することを目的としています。しかし、使い方を工夫すれば、仮想化システムに依存するパフォーマンス情報についても監視できます。

PFM - Agent for Platform を用いた仮想化システムのパフォーマンス監視は、主に次の目的で使用できます。

- パフォーマンスデータの傾向を分析し、負荷の割り当てと対応するシステムリソースへの影響を把握する。
- パフォーマンスデータを分析し、ボトルネック原因を見つける。
- 運用システムが仮想化システム上で正しく動作しているか監視する。

仮想化システムでは特定のボトルネックによって、仮想化システム全体のパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。ボトルネックが発生する要因としては、次のようなものがあります。

- 論理パーティション上のメモリー不足。
- 仮想化システム間での負荷の割り当て。
- プログラムによる特定のリソースの占有。

ここでは、PFM - Agent for Platform を用いて仮想化システムのパフォーマンスを監視する方法について紹介していきます。なお、ここで表記されるパフォーマンス監視時のしきい値はあくまで参考値です。システムの構成、利用方法ごとに適切な値を検討してください。

## (2) 仮想化システム上でのリソース監視について

### (a) 概要

パフォーマンスを監視する上で最も重要なシステムリソースを次に示します。

- プロセッサ
- メモリー
- ディスク
- ネットワーク
- プロセス

仮想化システムでは、上記リソースのうち一部のパフォーマンスデータが収集できない、または動的に変更されることによって、利用上意味をなさないケースがあります。パフォーマンスは、OS ごと、または仮想化システムによって変動します。

### (b) 仮想化システム上への PFM - Agent for Platform のインストール

仮想化システムは基本的に各種リソースを仮想化機能（ソフトウェアまたはハードウェア）で管理し、論理的なパーティションにそれらを割り当てることによって構築されます。管理されるリソースはプロセッサ、メモリー、ディスク、ネットワークなどです。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

これらのリソースは、論理パーティション内に PFM - Agent for Platform をインストールすれば、インストールした論理パーティションのパフォーマンスデータとして取得できます。

また、仮想化システムにはゲスト OS とホスト OS に区分されるものがあります。VMWare や Virtage などの、ソフトウェアベースで仮想化を実現している場合はこのケースとなります。ホスト OS はゲスト OS を管理する OS で、ゲスト OS はホスト OS 上で動作する OS のことです。このような場合、PFM - Agent for Platform をゲスト OS 上にインストールしてパフォーマンスを監視します。

PFM - Agent for Platform はインストールした論理パーティション、またはゲスト OS 上のパフォーマンスデータを取得します。

### 注意

VMWare のホスト OS は、仮想化機能を管理するための特殊な OS のため、アプリケーションの動作が保証されていません。Virtage の場合は、管理領域が SVP フレームと呼ばれるディスク外領域に作成されるため、管理領域には PFM - Agent for Platform で収集したデータをデータベースとして保存できません。

### (c) 仮想化システム上での PFM - Agent for Platform の設定

インストールした PFM - Agent for Platform によって情報を収集する手順は、仮想化システムでも変わりません。既存の設定方法で設定し、利用できます。

仮想化システムによって仮想マシンを構築し、その上で PFM - Agent for Platform をインストールした場合、PFM - Agent for Platform は仮想マシンのパフォーマンスデータを収集します。

## (3) 仮想化システム上での PFM - Agent for Platform の利用例

仮想化システムを使用する際の簡単な利用例について説明します。

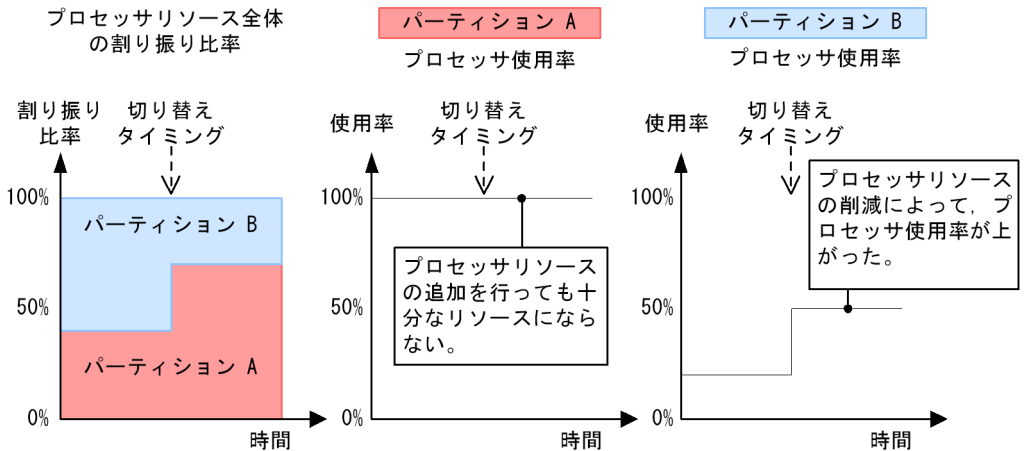
### (a) 仮想化システムの設定を変更すべきか判断したい場合

特定のゲスト OS または論理パーティション上でリソースを大量に消費しているにもかかわらず、物理リソースに余裕がある場合、仮想化システムの設定を変更することをお勧めします。

そのような状態かどうかを判定する材料として、PFM - Agent for Platform を利用できます。

次に示すグラフは、プロセッサリソースの割り振り設定が適切でないケースです。

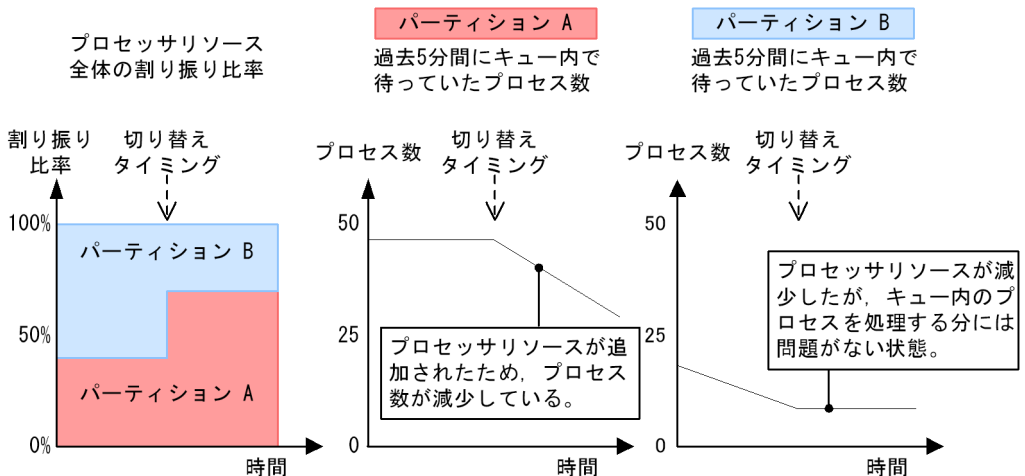
図 1-5 プロセッサリソースの割り振り設定が不十分なケース（プロセッサ使用率監視時）



論理パーティション A のプロセッサ使用率が 100% となっているため、割り振り比率を切り替えています。しかし、論理パーティション A のプロセッサ使用率は下がらないで、論理パーティション B のプロセッサ使用率は余裕がある状態となっています。このような場合は、割り振り比率の設定を変更してください。

次に示すグラフは、プロセッサリソースの割り振り設定が適切なケースです。

図 1-6 プロセッサリソースの割り振り設定が適切なケース（キュー内プロセス数監視時）



論理パーティション A のキュー内のプロセス数が多い状態で、プロセッサリソースの比率を切り替えています。その結果、論理パーティション A のキュー内のプロセス数が減少しています。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

### (b) 物理的なリソース追加が必要であるか判断したい場合

物理的なリソースが常に高負荷を示している場合、別途物理的なリソースの追加を検討してください。

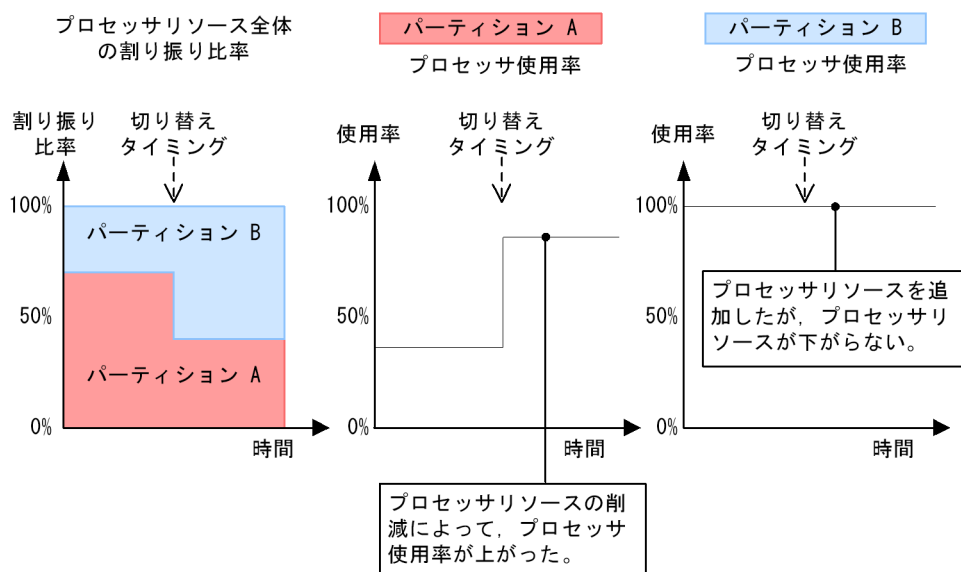
ただし、仮想化システムでは一つのゲスト OS または論理パーティションが高負荷でも、システム全体から見ると負荷が低いこともあります。そのため、すべてのゲスト OS、またはすべての論理パーティションが高負荷であることを確認してください。

PFM - Agent for Platform で負荷状況を確認する際に、仮想化システムでは通常的环境と異なる見方が必要になることもあります。

仮想化システムではプロセッサやメモリーなどの動的に変更できるリソースが存在します。そのため、プロセッサやメモリーの使用率だけでなく、現在のキューの長さやページング頻度などの、リソースの動的変更の影響を受けにくい項目もあわせて監視してください。

次に示すグラフは、プロセッサリソースを例とするサンプルです。

図 1-7 プロセッサリソースの追加が必要と推測されるケース (プロセッサ使用率監視時)



図の例では、論理パーティション B のプロセッサ使用率が高負荷のため割り当て比率を切り替えましたが、論理パーティション A と B どちらの使用率も高い状態となっています。このような場合は、物理的なリソースが不足しています。

### (4) 仮想化システム上で PFM - Agent for Platform を利用する際の注意事項

仮想化システム上で PFM - Agent for Platform が収集するパフォーマンスデータは、各仮想マシンが対象です。このため、各仮想マシンに PFM - Agent for Platform をインス

ツールしてください。

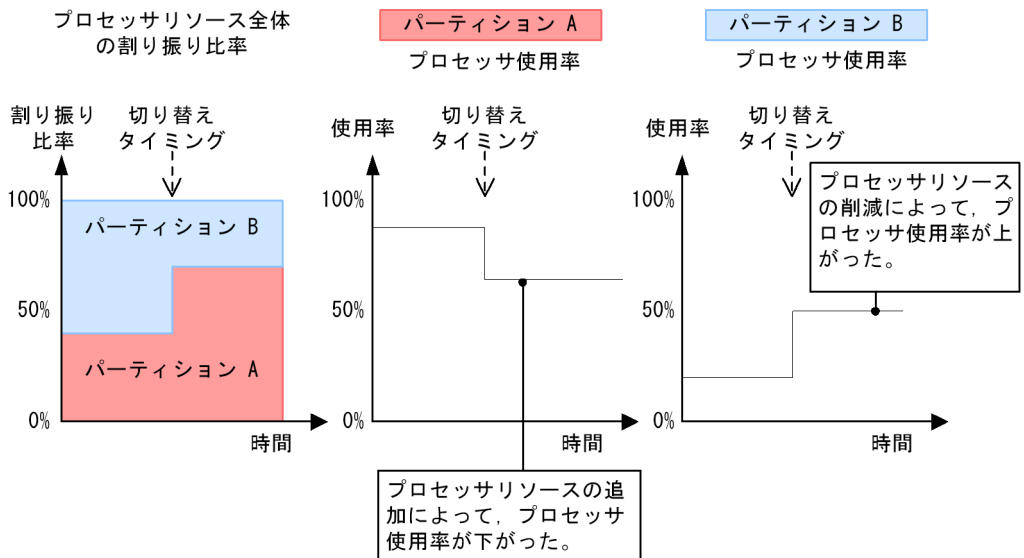
仮想化システム全体または管理マシン側から、各仮想マシンのパフォーマンスデータを収集することはできません。

各リソース情報収集時の注意点を次に示します。

#### (a) プロセッサ情報収集時の注意点

仮想化システム上で収集するプロセッサの使用率は、意図した値にならないことがあります。これは、仮想化システムがプロセッサのリソースの分割とほかの論理パーティションへの動的割り当てを行うためです。例えば、高負荷によって特定の論理パーティションでプロセッサリソースを大量に使用している場合は、別の論理パーティションでは少ないプロセッサリソースしか使えないことがあります。

図 1-8 リソースの動的変更によって収集値が変更されるケース



また、ある論理パーティションのアプリケーションが物理的なプロセッサを使用している場合、別の論理パーティションのジョブが稼働中として待たされることがあります。このような場合には、プロセッサ使用率が正確に計測できません。

#### (b) メモリー情報収集時の注意点

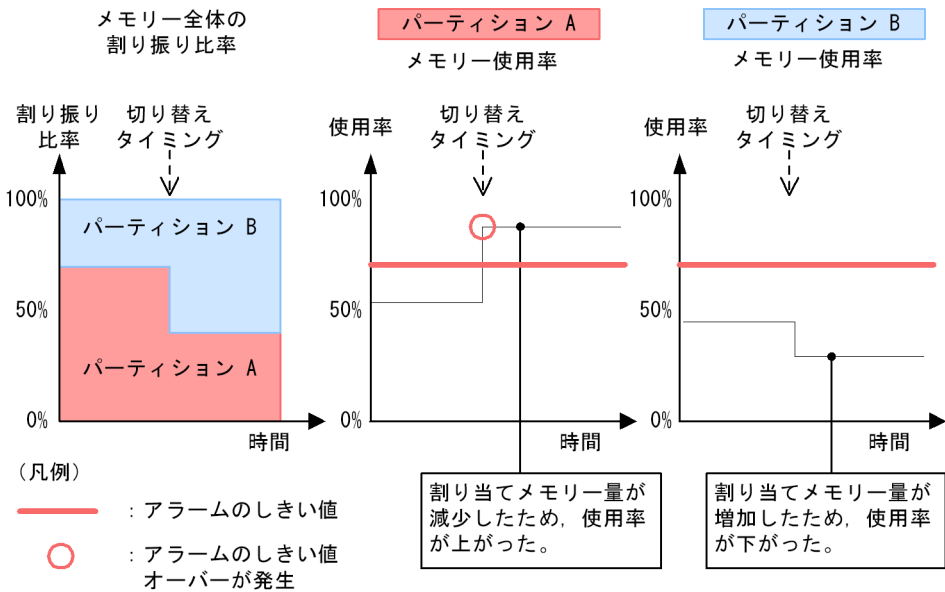
プロセッサと同様に、仮想化システム上のメモリー情報も動的なリソース変更によって全体からの割合が変動することがあります。

例えば、256 メガバイトのメモリー領域が割り当てられ、そのうち 64 メガバイトを使用していたとき、PFM - Agent for Platform のメモリー使用量の割り当ては 25% を示す値を表示します。この状態で、動的に 256 メガバイトのメモリー割り当て領域が 128 メガバイトに変更されると、PFM - Agent for Platform はメモリー使用量として 50% を示す値を表示します。アラームなどに指定した場合は、意図しない警告が発生することがあ

# 1. PFM - Agent for Platform の概要

るため注意してください。

図 1-9 メモリリソースをアラームに組み込んだときのケース



## (c) ディスク情報収集時の注意点

プロセッサリソースと同様に、ディスクビジー率が正確に計測できないことがあります。例えば、仮想化システム上で、一方が物理的なディスクリソースを使用している場合、もう一方はジョブが稼働中として待たされてしまうことがあるためです。

## (d) ネットワーク情報収集時の注意点

PFM - Agent for Platform はネットワーク情報としてパケットの送受信だけを計測しています。そのため、仮想化システム上での利用は通常通り行えますが、ネットワーク情報に仮想ネットワークの情報が表示されるケースがあります。これは、仮想マシン上から OS が認識しているネットワーク情報を PFM - Agent for Platform が収集しているため誤りではありません。

## (e) プロセス情報収集時の注意点

プロセス関連のパフォーマンスデータには、プロセスの数とプロセスが使用しているリソース量を示すものがあります。どちらも仮想化システム上では論理パーティション上のデータを取得するもので、仮想化システム全体のプロセス情報を収集するものではありません。

PFM - Agent for Platform は各論理パーティション上に存在するプロセスの数と、プロセスが使用しているリソース量の両方を収集します。

## (5) 仮想化システムの機能と収集されるパフォーマンスデータ

仮想化システムでは、そのシステムの実現方法によって、提供しているリソースの仕組みなどが異なります。また、リソースの変更に際しても、論理パーティションの一時停止が必要なものとそうでないものがあります。論理パーティションの停止が必要な場合、PFM - Agent for Platform も一時停止するため、あまり影響を受けることはありません。しかし、論理パーティションの停止が必要でなく、動的にリソースが変更されるシステムの場合、PFM - Agent for Platform で取得したパフォーマンスデータは大きく影響を受ける場合があります。その場合は、動的なリソース変更に影響を受けにくいパフォーマンスデータを収集することをお勧めします。

仮想化システムごとに、収集できるリソースを次の表に示します。

表 1-34 仮想化システムごとのリソース対応

仮想化システム	リソース			
	プロセッサ数	メモリー	ディスク	ネットワーク
VMware ESX Server				
Virtage			-	

(凡例)

：論理パーティションの一時停止が必要

- : 未対応

### (a) VMware ESX Server

VMware は、Intel アーキテクチャー上で仮想化システムを実現するソフトウェアです。ソフトウェア上で仮想化システムを実現するためには汎用性が高く、さまざまな環境で柔軟な動作を提供します。

#### • VMware ESX Server の機能

VMware が提供する機能は、ほかの仮想化システムと同様に、次のようなものがあります。

- 仮想ネットワーク
- 仮想プロセッサ
- 仮想メモリー
- 仮想ディスク

上記機能を VMware が管理し、組み合わせることで仮想的なマシンである VM (Virtual Machine) を作成します。作成された VM はほかのホストからは一つのホストとして認識され、通常の物理マシンと同様に扱えます。

VM は複数作成して稼働させることができるため、Linux や Windows などの OS を同時に動作させることもできます。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

### • VMware ESX Server の構造

VMware はホスト OS とゲスト OS という区分を作り、仮想化システムを実現します。仮想化システムの手順を簡単に説明します。

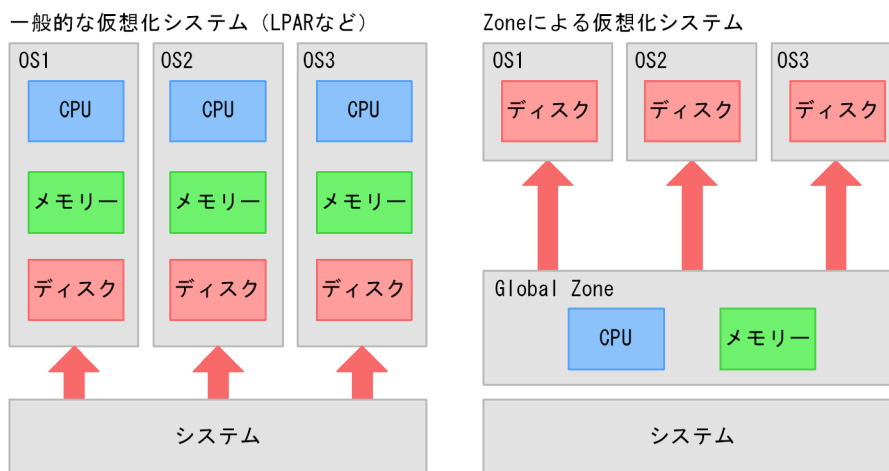
1. 実際のハードウェアの上に Windows や Linux などの OS をインストールする。
2. インストールしたホスト OS 上で VMware をインストールする。  
このとき VMware をインストールした OS を「ホスト OS」と呼びます。
3. VMware を使い VM を作成する。
4. 作成した VM にほかの OS をインストールする。  
VM 上にインストールした OS を「ゲスト OS」と呼びます。

上記の手順からわかるように、VMware はホスト OS 上でゲスト OS を実行することによって仮想化システムを実現するという、親子構造に似た形式をしています。

VMware ESX Server の特徴として、ホスト OS は Windows や Linux などの OS ではなく、専用のカスタム OS が使用されます。つまり、専用のカスタム OS がホスト OS としてあり、その上で Windows や Linux が動作する仮想化システムを実現します。

VMware の種類によってはホスト OS がカスタム OS ではなく、Windows や Linux の場合もあります。

図 1-10 VMware の構造



### • VMware ESX Server 上での PFM - Agent for Platform の利用

VMware ESX Server 上で PFM - Agent for Platform を利用するには、次の点に注意してください。

#### PFM - Agent for Platform のインストール

利用するにはゲスト OS にインストールしてください。VMware ESX Server のホ



スト OS は VMware で仮想化システムを実現するための最適化されたカスタム OS のため、アプリケーションの動作が保証されていません。

#### プロセッサ情報

仮想化システムでは、ホスト OS に十分なリソースが割り当てられていない場合、ホスト OS の動作にも影響が出ます。特に、プロセッサリソースはその影響が顕著で、過負荷が発生したとき、VM に割り当てられているプロセッサリソースが不足しているのか、ホスト OS のプロセッサリソースが不足しているのかが判断できない場合があります。

また、VMware の特徴として、プロセッサ使用率の割り当て上限、または下限を設定し、その範囲であれば自動でリソースの変動が行われるため、使用率が大幅に変動するおそれがあります。

それらが想定される場合は、現在のキューの長さなどプロセッサリソースの動的変更の影響を受けにくい項目を監視してください。

#### メモリー

動的に変更されるリソースとして、アラームの設定には注意してください。使用しているメモリーが一定であっても、割り当てているメモリーリソースを減少させると、メモリー使用率は増加するため、意図しないアラームが通知されることがあります。

#### デバイス

ディスクのパフォーマンスデータはゲスト OS 上の論理パーティション群だけです。ホスト OS を含むシステム全体のパフォーマンスデータは収集できません。ネットワークアダプター情報に関しては、ゲスト OS に割り当てられた仮想的なネットワークアダプター情報を取得します。

### (b) Virtage

#### • Virtage の機能

Virtage が提供する機能は、ほかの仮想化システムと同様に、次のようなものがあります。

- 仮想ネットワーク
- 仮想プロセッサ
- 仮想メモリー

上記機能を Virtage が管理し、仮想化システムを実現します。仮想ネットワーク、仮想プロセッサの割り当て数、仮想メモリーのリソースを変更するときは、論理パーティションを停止する必要があります。仮想プロセッサの割り当て率を変更するときは、論理パーティションを停止する必要はありません。

#### • Virtage の構造

Virtage は VMware と同じような親子構造をしています。Virtage で仮想化システム構築の手順を簡単に説明します。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

1. インストールした Virtage を起動する。
2. 仮想マシンの作成および設定を行う。
3. 仮想マシンを起動する。

- Virtage 上での PFM - Agent for Platform の利用

Virtage 上で PFM - Agent for Platform を利用するには、次の点に注意してください。

### PFM - Agent for Platform のインストール

Virtage は SVP フレームという特殊な環境に構築されます。そのため、SVP フレーム上に PFM - Agent for Platform をインストールすることはサポートしていません。

### プロセッサ情報

Virtage は、論理パーティションを設定してから起動する仮想化システムのため、PFM - Agent for Platform の動作中にプロセッサ数が変更されることはありません。そのため、通常通り運用できますが、割り当てられたプロセッサ数と物理的に存在するプロセッサ数が一致しないことがあります。

### メモリー

Virtage は、論理パーティションを設定してから起動する仮想化システムのため、PFM - Agent for Platform の動作中にメモリー量が増えることはありません。そのため通常どおり運用できます。

### デバイス

ディスクのパフォーマンスデータは論理パーティション群だけです。ホスト OS を含むシステム全体のパフォーマンスデータは収集できません。ネットワークアダプター情報に関しては、論理パーティションに割り当てられた仮想的なネットワークアダプター情報を取得します。

## (6) 仮想化システム別の収集データ範囲

仮想化システムで PFM - Agent for Platform を利用する場合に、PFM - Agent for Platform が収集するデータの範囲を次の表に示します。

表 1-35 仮想化システム別の収集データ範囲

レコード	VMware および Virtage
PD	ゲスト OS 上のプロセス。
PD_APP	ゲスト OS 上のプロセスまたはサービス制御マネージャーに登録されているアプリケーションサービス。
PD_APP2	ゲスト OS 上のプロセスまたはサービス制御マネージャーに登録されているアプリケーションサービスのパフォーマンスデータ。
PD_APPD	ゲスト OS 上のプロセスまたはサービス制御マネージャーに登録されているアプリケーションサービスのパフォーマンスデータ。
PD_APS	ゲスト OS 上のプロセス。

レコード	VMware および Virtage
PD_APSI	ゲスト OS 上のプロセス。
PD_ASVC	ゲスト OS 上のサービス制御マネージャーに登録されているアプリケーションサービスのパフォーマンスデータ。
PD_DEV	ゲスト OS 上のファイルシステムドライバおよびカーネルドライバのデバイス。
PD_ELOG	ゲスト OS 上のイベントログ。
PD_GEND	ゲスト OS 上でユーザー定義したパフォーマンスデータ。
PD_PAGF	ゲスト OS 上のページングファイルのインスタンスに関するパフォーマンスデータ。
PD_PDI	ゲスト OS 上のプロセス。
PD_PEND	ゲスト OS 上のプロセス。
PD_SVC	ゲスト OS 上のサービス制御マネージャーに登録されているアプリケーションサービスのパフォーマンスデータ。
PD_UPD	ゲスト OS 上でユーザーが独自に指定したパフォーマンスデータ。
PD_UPDB	ゲスト OS 上でユーザーが独自に指定したパフォーマンスデータ。
PI	ゲスト OS 上のシステム値。
PI_AD	ゲスト OS 上の Active Directory のパフォーマンスデータ。
PI_BRSR	-
PI_GENI	ゲスト OS 上でユーザー定義したパフォーマンスデータ。
PI_ICM6	ゲスト OS 上の ICMP 関連パフォーマンスデータ。
PI_ICMP	ゲスト OS 上の ICMP 関連パフォーマンスデータ。
PI_IP	ゲスト OS 上の IP 関連パフォーマンスデータ。
PI_IP6	ゲスト OS 上の IP 関連パフォーマンスデータ。
PI_LOGD	ゲスト OS に割り当てられた論理パーティションのパフォーマンスデータ。
PI_NBT	-
PI_NETI	ゲスト OS 上の TCP/IP 関連パフォーマンスデータ。
PI_PCSR	ゲスト OS に割り当てられたプロセッサ情報。
PI_PHYD	ゲスト OS に割り当てられた論理パーティションの合計値、または平均値のパフォーマンスデータ。
PI_SVRQ	ゲスト OS が提供する Server サービスのキューに関するパフォーマンスデータ。
PI_TCP	ゲスト OS 上の TCP 関連パフォーマンスデータ。
PI_TCP6	ゲスト OS 上の TCP 関連パフォーマンスデータ。
PI_UDP	ゲスト OS 上の UDP 関連パフォーマンスデータ。
PI_UDP6	ゲスト OS 上の UDP 関連パフォーマンスデータ。

## 1. PFM - Agent for Platform の概要

レコード	VMware および Virtage
PI_UPI	ゲスト OS 上でユーザーが独自に指定したパフォーマンスデータ。
PI_UPIB	ゲスト OS 上でユーザーが独自に指定したパフォーマンスデータ。
PI_WGRP	ゲスト OS 上のプロセス。
PI_WINS	-

(凡例)

- : 該当しない

# 2

## インストールとセットアップ

この章では、PFM - Agent for Platform のインストールおよびセットアップ方法について説明します。Performance Management システム全体のインストールおよびセットアップ方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

---

2.1 インストールとセットアップ

---

2.2 アンインストールとアンセットアップ

---

2.3 PFM - Agent for Platform のシステム構成の変更

---

2.4 PFM - Agent for Platform の運用方式の変更

---

2.5 コマンドプロンプトの起動方法

---

2.6 バックアップとリストア

---

2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

---

## 2.1 インストールとセットアップ

---

ここでは、PFM - Agent for Platform をインストールおよびセットアップする手順を示します。

### 2.1.1 インストールとセットアップの前に

PFM - Agent for Platform をインストールおよびセットアップの前に確認しておくことを説明します。

#### (1) 前提 OS

PFM - Agent for Platform が動作する OS を次に示します。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

#### (2) ネットワークの環境設定

Performance Management が動作するためのネットワーク環境について説明します。

##### (a) IP アドレスの設定

PFM - Agent のホストは、ホスト名で IP アドレスを解決できる環境を設定してください。IP アドレスを解決できない環境では、PFM - Agent は起動できません。

監視ホスト名 (Performance Management システムのホスト名として使用する名前) には、実ホスト名またはエイリアス名を使用できます。

- 監視ホスト名に実ホスト名を使用している場合  
Windows システムでは `hostname` コマンド、UNIX システムでは `uname -n` コマンドを実行して確認したホスト名で、IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。なお、UNIX システムでは、`hostname` コマンドで取得するホスト名を使用することもできます。
- 監視ホスト名にエイリアス名を使用している場合  
設定しているエイリアス名で IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。

監視ホスト名の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

ホスト名と IP アドレスは、次のどれかの方法で設定してください。

- Performance Management のホスト情報設定ファイル (`jpchosts` ファイル)
- `hosts` ファイル

- DNS ( Domain Name System )

**!** 注意事項

- Performance Management は、DNS 環境でも運用できますが、FQDN 形式のホスト名には対応していません。このため、監視ホスト名は、ドメイン名を除いて指定してください。
- 複数の LAN 環境で使用する場合は、jpchosts ファイルで IP アドレスを設定してください。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management は、DHCP による動的な IP アドレスが割り振られているホスト上では運用できません。Performance Management を導入するすべてのホストに、固定の IP アドレスを設定してください。

## (b) ポート番号の設定

Performance Management プログラムのサービスは、デフォルトで次の表に示すポート番号が割り当てられています。これ以外のサービスまたはプログラムに対しては、サービスを起動するたびに、そのときシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。また、ファイアウォール環境で、Performance Management を使用するときは、ポート番号を固定してください。ポート番号の固定の手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

表 2-1 デフォルトのポート番号と Performance Management プログラムのサービス ( Windows の場合 )

サービス説明	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jplpcnsvr	22285	PFM・Manager の Name Server サービスで使用されるポート番号。Performance Management のすべてのホストで設定される。
NNM 連携機能	NNM Object Manager	jplpcovsvr	22292	PFM・Manager および PFM・Base の NNM 連携機能で、マップマネージャーとオブジェクトマネージャーの間の通信で使用されるポート番号。PFM・Manager および PFM・Base がインストールされているホストで設定される。
サービス状態管理機能	Status Server	jplpcstatsvr	22350	PFM・Manager および PFM・Base の Status Server サービスで使用されるポート番号。PFM・Manager および PFM・Base がインストールされているホストで設定される。

## 2. インストールとセットアップ

これらの PFM - Agent が使用するポート番号で通信できるように、ネットワークを設定してください。

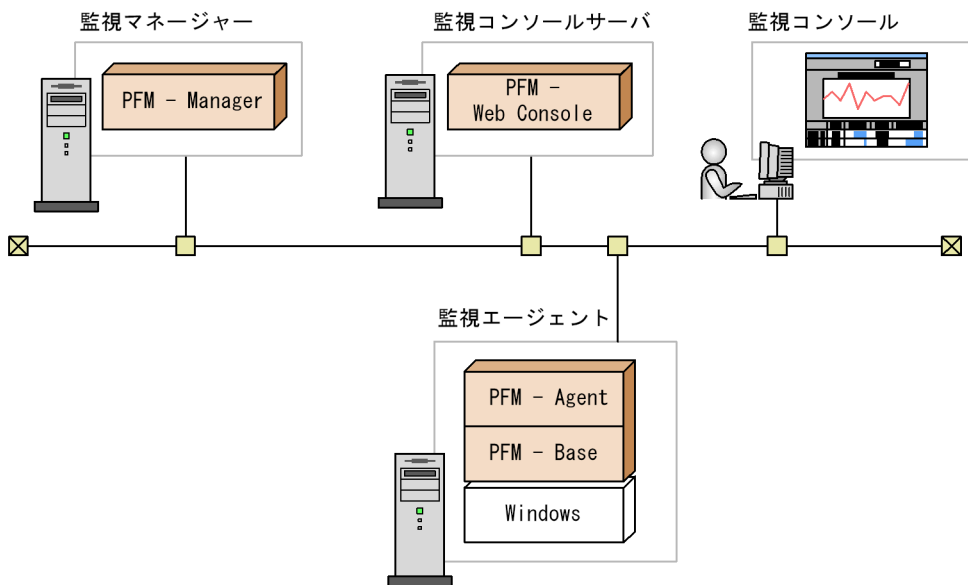
### (3) インストールに必要な OS ユーザー権限について

PFM - Agent for Platform をインストールするときは、必ず、Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。



### (4) 前提プログラム

ここでは、PFM - Agent for Platform をインストールする場合に必要な前提プログラムを説明します。プログラムの構成図を次に示します。

図 2-1 プログラムの構成図



(凡例)

-  : Performance Managementが提供するプログラム
-  : 必要なプログラム

#### (a) 監視対象プログラム

PFM - Agent for Platform の監視対象プログラムを次に示します。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

これらの監視対象プログラムは、PFM - Agent for Platform と同一ホストにインストールする必要があります。



## (b) Performance Management プログラム

監視エージェントには、PFM - Agent と PFM - Base をインストールします。PFM - Base は PFM - Agent の前提プログラムです。同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合でも、PFM - Base は一つだけでかまいません。

ただし、PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。

また、PFM - Agent for Platform を使って Windows Server の稼働監視をするためには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

PFM - Agent for Platform 09-00 が対応する PFM - Manager および PFM - Base のバージョンを、次の表に示します。

表 2-2 対応する PFM - Manager および PFM - Base のバージョン

OS 名	PFM - Manager および PFM - Base のバージョン
Windows Server 2003	08-00 以降
Windows Server 2008	08-50 以降

## (5) パフォーマンスデータを収集するために必要な環境構築

PFM - Agent for Platform を動作させるために必要なネットワーク環境でパフォーマンスデータを収集するためには、Agent Collector サービス起動前に、パフォーマンス情報を監視できるネットワークサービス、プロトコル、サーバ、製品などをインストールする必要があります。また、インストールした製品の環境を構築していない場合、または、インストールで追加したサービスが [ 停止 ] している場合、パフォーマンスデータを収集してもデータが取得できなかつたり、フィールド値が 0 で表示されたりします。

PFM - Agent for Platform で特定のレコードのパフォーマンスデータを収集する場合、Agent Collector サービスを起動する前に、次の表に示す前提条件が満たされている必要があります。ただし、次の表には Event Log [ サービス名 : Eventlog ] など、OS の動作の前提となるサービスは記載していません。

パフォーマンスデータの収集に必要な前提条件を次の表に示します。

表 2-3 パフォーマンスデータの収集に必要な前提条件

カテゴリ	レコード名 (レコード ID)	フィールド名 (PFM - View 名)	前提条件
OS	Logical Disk Overview (PI_LOGD)	Page File Size Mbytes (PAGE_FILE_SIZE_BYTES)	Windows Management Instrumentation [ サービス名 : WinMgmt ] が開始されていること。

## 2. インストールとセットアップ

カテゴリ	レコード名 (レコード ID)	フィールド名 (PFM - View 名)	前提条件
	Process End Detail (PD_PEND)	すべてのフィールド	注意：Windows Server 2003, Windows Server 2008 の場合だけ必要。
	Processor Overview (PI_PCSR)	すべてのフィールド	
	System Overview (PI)	% Total DPC Time (PCT_TOTAL_DPC_TIME) % Total Interrupt Time (PCT_TOTAL_INTERRUPT_TIME) Active CPUs (NUMBER_OF_ACTIVE_CPUS) CPU % (PCT_TOTAL_PROCESSOR_TIME) Privileged CPU % (PCT_TOTAL_PRIVILEGED_TIME) System Type (SYSTEM_TYPE) Total DPC Rate (TOTAL_DPC_RATE) Total DPCs Queued/sec (TOTAL_DPCS_QUEUED_PER_SEC) Total Interrupts/sec (TOTAL_INTERRUPTS_PER_SEC) User CPU % (PCT_TOTAL_USER_TIME)	
ネットワークサービス	Browser Overview (PI_BRSR)	すべて	Computer Browser[ サービス名：Browser] が開始されていること。
	WINS Server Overview (PI_WINS)	すべて	Windows インターネットネームサービス (WINS) をインストールし、インストール後に追加されたサービスが開始されていること。
	Server Work Queues Overview (PI_SVRQ)	すべて	Server [ サービス名：LanmanServer ] が開始されていること。
	System Overview (PI)	Blocking Reqs Rejected (BLOCKING_REQUESTS_REJECTED)	

カテゴリ	レコード名 (レコード ID)	フィールド名 (PFM - View 名)	前提条件
		Bytes Rcvd/sec (BYTES_RECEIVED_PER_SEC)	
		Bytes Total/sec (BYTES_TOTAL_PER_SEC)	
		Bytes Xmitd/sec (BYTES_TRANSMITTED_PER_SEC)	
		Context Blocks Queued/sec (CONTEXT_BLOCKS_QUEUED_PER_SEC)	
		Errors Access Permissions (ERRORS_ACCESS_PERMISSIONS)	
		Errors Granted Access (ERRORS_GRANTED_ACCESS)	
		Errors Logon (ERRORS_LOGON)	
		Errors System (ERRORS_SYSTEM)	
		File Directory Searches (FILE_DIRECTORY_SEARCHES)	
		Files Open (FILES_OPEN)	
		Files Opened Total (FILES_OPENED_TOTAL)	
		Logon Total (LOGON_TOTAL)	
		Logon/sec (LOGON_PER_SEC)	
		Pool Nonpaged Failures (POOL_NONPAGED_FAILURES)	
		Pool Nonpaged Peak (POOL_NONPAGED_PEAK)	

## 2. インストールとセットアップ

カテゴリー	レコード名 (レコード ID)	フィールド名 (PFM - View 名)	前提条件
		Pool Paged Failures ( POOL_PAGED_FAILURES )	
		Pool Paged Peak ( POOL_PAGED_PEAK )	
		Server Pool Nonpaged Bytes ( SERVER_POOL_NONPAGED_BYTES )	
		Server Pool Paged Bytes ( SERVER_POOL_PAGED_BYTES )	
		Server Sessions ( SERVER_SESSIONS )	
		Sessions Errored Out ( SESSIONS_ERRORED_OUT )	
		Sessions Forced Off ( SESSIONS_FORCED_OFF )	
		Sessions Logged Off ( SESSIONS_LOGGED_OFF )	
		Sessions Timed Out ( SESSIONS_TIMED_OUT )	
		Work Item Shortages ( WORK_ITEM_SHORTAGES )	
Active Directory	Active Directory Overview ( PI_AD )	Cache % Hit	Active Directory が有効で Active Directory データベースパフォーマンスカウンタがインストールされていること。 注意 : Windows Server 2003 (x64) , 64 ビット版の Windows Server 2008 では wmiadap /f コマンドを DOS プロンプトで実行し , OS を再起動すること。
		Cache Page Fault Stalls/sec	
		Cache Page Faults/sec	
		Cache Size	

カテゴリー	レコード名 (レコード ID)	フィールド名 (PFM - View 名)	前提条件
		Log Record Stalls/sec	
		Log Threads Waiting	
		Log Writes/sec	
		Table Open Cache % Hit	
		Table Open Cache Hits/sec	
		Table Open Cache Misses/sec	
		Table Opens/sec	
		上記以外すべて	Active Directory が有効であること。

## (6) 注意事項

ここでは、Performance Management をインストールおよびセットアップするときの注意事項を説明します。

### (a) レジストリに関する注意事項

PFM - Agent for Platform は、OS が提供する標準的な方法で設定された環境での動作しかサポートしていません。Microsoft のサポート技術情報で公開されている情報であっても、レジストリエディターでレジストリ情報を直接編集するなど、OS の環境をカスタマイズしている場合、パフォーマンスデータが正しく収集できなくなることがあります。

### (b) 環境変数に関する注意事項

Performance Management では JPC\_HOSTNAME を環境変数として使用しているため、ユーザー独自に環境変数として設定しないでください。設定した場合は、Performance Management が正しく動作しません。

### (c) 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項

Performance Management は、同一ホストに PFM - Manager、PFM - Web Console、および PFM - Agent をインストールすることもできます。その場合の注意事項を次に示します。

- PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。この場合、PFM - Agent の前提プログラムは PFM - Manager になるため、PFM - Manager をインストールしてから PFM - Agent をインストールしてください。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストール

## 2. インストールとセットアップ

する場合は、PFM・Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM・Manager、PFM・Agent の順でインストールしてください。また、PFM・Manager と PFM・Agent がインストールされているホストに PFM・Base をインストールする場合も同様に、PFM・Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM・Base、PFM・Agent の順でインストールしてください。

- PFM・Manager がインストールされているホストに PFM・Agent をインストールすると、接続先 PFM・Manager はローカルホストの PFM・Manager になります。この場合、接続先 PFM・Manager をリモートホストの PFM・Manager に変更できません。リモートホストの PFM・Manager に接続したい場合は、インストールするホストに PFM・Manager がインストールされていないことを確認してください。
- PFM・Agent がインストールされているホストに PFM・Manager をインストールすると、PFM・Agent の接続先 PFM・Manager は自ホスト名に設定し直されます。共通メッセージログに設定結果が出力されています。結果を確認してください。
- PFM・Web Console がインストールされているホストに、PFM・Agent をインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからインストールを実施してください。
- Performance Management プログラムを新規にインストールした場合は、ステータス管理機能がデフォルトで有効になります。ただし、07:50 から 08:00 以降にバージョンアップインストールした場合は、ステータス管理機能の設定状態はバージョンアップ前のままとなります。ステータス管理機能の設定を変更する場合は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

### ポイント

---

システムの性能や信頼性を向上させるため、PFM・Manager、PFM・Web Console、および PFM・Agent はそれぞれ別のホストで運用することをお勧めします。

---

#### (d) バージョンアップの注意事項

古いバージョンの PFM・Agent からバージョンアップする場合の注意事項を次に示します。

なお、バージョンアップについての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録を参照してください。

- Performance Management のプログラムをインストールするときは、ローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止しておいてください。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- すでに Performance Management プログラムがインストールされているホストに

PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent のインストールパスは、すでにインストールされている PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムのインストールパスと同じになります。インストールパスを変更したい場合は、インストール済みの PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムをすべて削除し、インストールし直す必要があります。

- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Manager、PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Base、PFM - Agent の順でインストールしてください。
- バージョン 08-00 以降の Performance Management プログラムでは、Store 実行プログラム (jpcsto.exe および stpqlpr.exe) の配置先が変更されています。PFM - Agent を 08-00 以降にバージョンアップする際に、旧配置先の Store 実行モジュールは削除されます。
- バージョンアップインストール時、既存の Store データベースが自動的にバージョンアップされるため、一時的に Store データベースのディスク占有量が 2 倍になります。バージョンアップインストールする前に、Store データベースの格納先のディスクに十分な空き容量があるかどうか確認してください。

(e) その他の注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム (例えば Windows のイベントビューアなど) を起動したままインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、メッセージに従ってシステムを再起動し、インストールを完了させてください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム (例えば Windows のイベントビューアなど) を起動したままの状態、ディスク容量が不足している状態、またはフォルダ権限がない状態でインストールした場合、ファイルの展開に失敗することがあります。Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラムが起動している場合はすべて停止してからインストールし直してください。ディスク容量不足やフォルダ権限不足が問題である場合は、問題を解決したあとでインストールし直してください。
- Performance Management のプログラムをインストールする場合、次に示すセキュリティ関連プログラムがインストールされていないかどうか確認してください。インストールされている場合、次の説明に従って対処してください。
  - セキュリティ監視プログラム  
セキュリティ監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のプログラムのインストールを妨げないようにしてください。

## 2. インストールとセットアップ

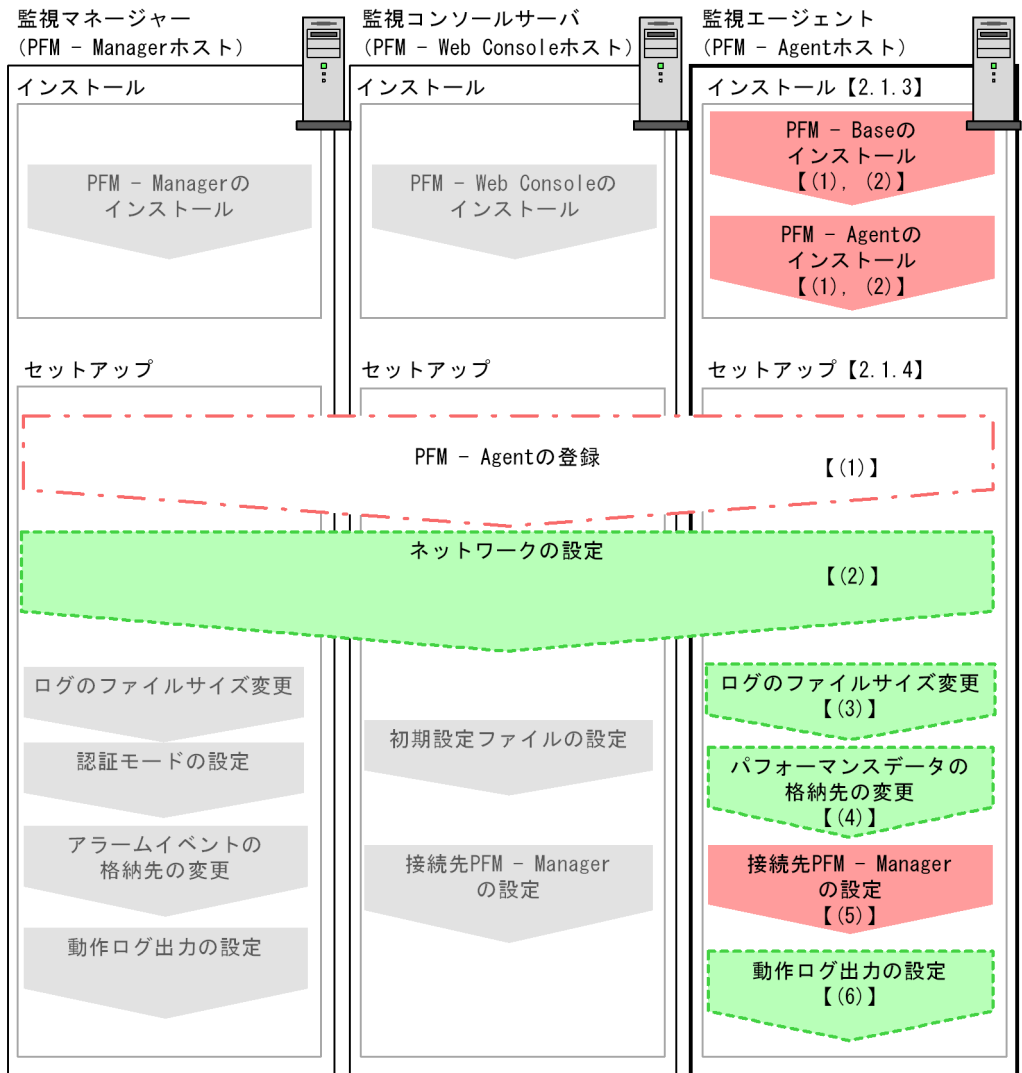
- ウィルス検出プログラム  
ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールしてください。  
Performance Management のプログラムのインストール中にウィルス検出プログラムが稼働している場合、インストールの速度が低下したり、インストールが実行できなかったり、または正しくインストールできなかったりすることがあります。
- プロセス監視プログラム  
プロセス監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のサービスまたはプロセス、および共通コンポーネントのサービスまたはプロセスを監視しないようにしてください。  
Performance Management のプログラムのインストール中に、プロセス監視プログラムによって、これらのサービスまたはプロセスが起動されたり停止されたりすると、インストールに失敗することがあります。

### 2.1.2 インストールとセットアップの流れ





PFM - Agent for Platform をインストールおよびセットアップする流れを説明します。



図 2-2 インストールとセットアップの流れ



(凡例)

-  : 必須セットアップ項目
-  : 場合によって必須となるセットアップ項目
-  : オプションのセットアップ項目
-  : マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」に手順が記載されている項目
- 【 】** : 参照先

PFM - Manager および PFM - Web Console のインストールおよびセットアップの手順

## 2. インストールとセットアップ

は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業をオプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

### 2.1.3 インストール手順

ここでは、PFM - Agent のプログラムをインストールする順序と CD-ROM の提供媒体からプログラムをインストールする手順を説明します。

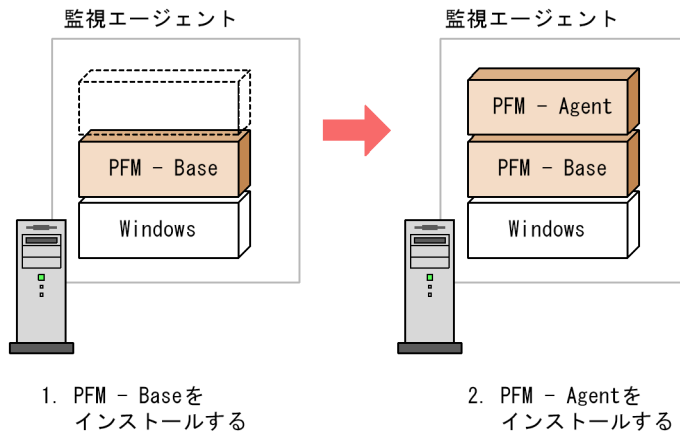
#### (1) プログラムのインストール順序

まず、PFM - Base をインストールし、次に PFM - Agent をインストールします。PFM - Base がインストールされていないホストに PFM - Agent をインストールすることはできません。

なお、PFM - Manager と同一ホストに PFM - Agent をインストールする場合は、PFM - Manager、PFM - Agent の順でインストールしてください。また、Store データベースのバージョン 1.0 からバージョン 2.0 にバージョンアップする場合、PFM - Agent と PFM - Manager または PFM - Base のインストール順序によって、セットアップ方法が異なります。Store バージョン 2.0 のセットアップ方法については、「2.4.2 Store バージョン 2.0 への移行」を参照してください。

同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent 相互のインストール順序は問いません。

図 2-3 プログラムのインストール順序



## (2) プログラムのインストール方法

Windows ホストに Performance Management プログラムをインストールするには、CD-ROM の提供媒体を使用する方法と、JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。JP1/NETM/DM を使用する方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R) 用)」を参照してください。

### OS 共通の注意事項

インストールするホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービスの停止方法は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

### Windows Server 2008 の環境でインストールする場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[ 続行 ] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。[ キャンセル ] ボタンをクリックした場合は、インストールが中止されます。

CD-ROM の提供媒体を使用する場合のインストール手順を次に示します。

1. Performance Management プログラムをインストールするホストに、Administrators 権限でログオンする。
2. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。  
Performance Management のプログラムおよびサービスが起動している場合は、すべて停止してください。
3. 提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。

## 2. インストールとセットアップ

起動したインストーラーの指示に従ってインストールを進めます。

インストール時に定義する情報を次に示します。

- ユーザー情報  
ユーザー名などを入力します。
- インストール先フォルダ  
Performance Management プログラムをインストールするフォルダを指定します。  
インストール先フォルダは、[ ディレクトリの選択 ] ダイアログボックスで設定して [ OK ] ボタンをクリックした時点で作成されます。誤ったフォルダを作成した場合はインストール後にフォルダを削除してください。
- プログラムフォルダ  
Windows の [ スタート ] - [ すべてのプログラム ] メニューに登録されるプログラムメニュー名を指定します。  
デフォルトでは、[ Performance Management ] が登録されます。

---

### 参考

PFM - Web Console を除く Performance Management インストール先フォルダおよびプログラムフォルダは、そのホストに初めて Performance Management プログラムがインストールされる時だけ指定できます。2 回目以降のインストールでは、初回のインストール時に指定したフォルダにインストールまたは登録されます。

---

### 2.1.4 PFM - Agent for Platform のセットアップ手順

ここでは、PFM - Agent for Platform を運用するための、セットアップについて説明します。

**オプション** は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

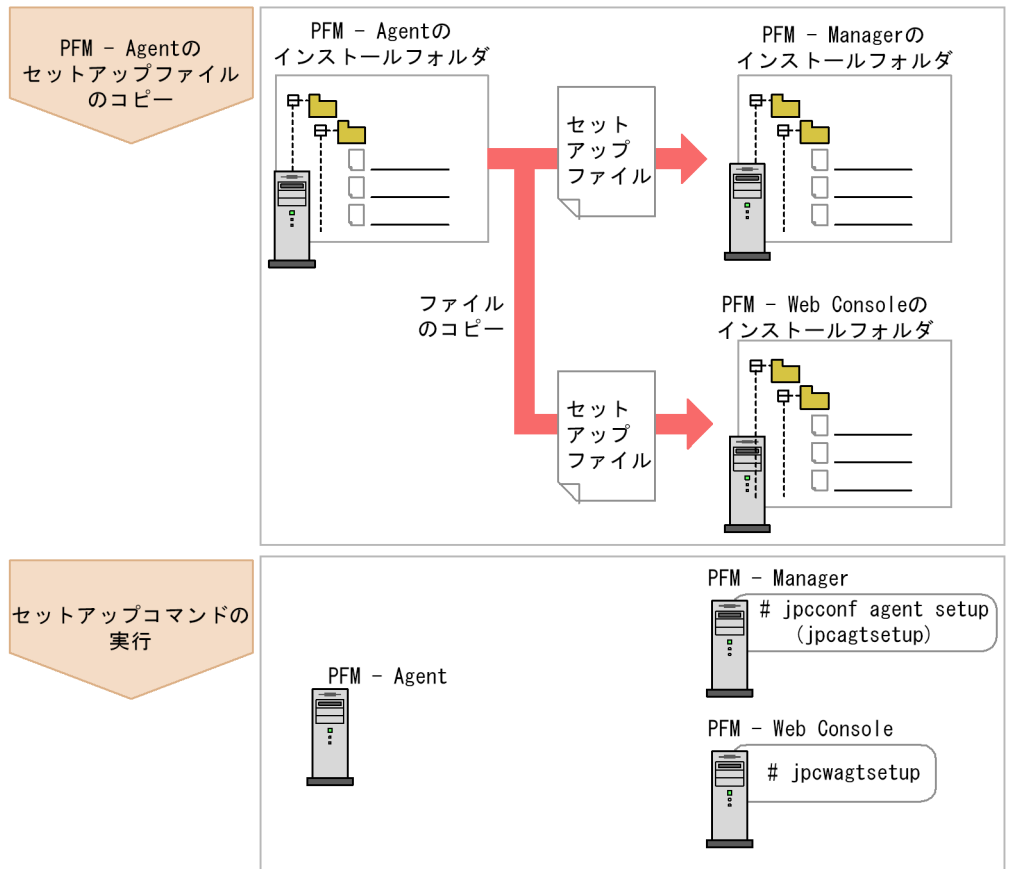
#### (1) PFM - Agent for Platform の登録

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Platform を登録する必要があります。

PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合、PFM - Agent の登録は自動で行われるため、ここで説明する手順は不要です。ただし、PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は手動で登録する必要があります。なお、PFM - Agent for Platform のデータモデルのバージョンについては、「付録 H バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent の登録の流れを次に示します。

図 2-4 PFM - Agent の登録の流れ



### ! 注意事項

- すでに PFM - Agent for Platform の情報が登録されている Performance Management システムに、新たに同じバージョンの PFM - Agent for Platform を追加した場合、PFM - Agent の登録は必要ありません。
- PFM - Agent for Platform のデータモデルバージョンが「3.0」「4.0」の場合は、データモデルバージョンを更新するためのセットアップは不要です。
- バージョンが異なる PFM - Agent for Platform を、異なるホストにインストールする場合、古いバージョン、新しいバージョンの順でセットアップしてください。
- PFM - Manager と同じホストに PFM - Agent をインストールした場合、`jpcconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドが自動的に実行されます。共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されるので、結果を確認してください。コマンドが正しく実行されていない場合は、コマンドを実行し直してください。コマンドの実行方法については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドの章を参照してください。

## 2. インストールとセットアップ

### (a) PFM - Agent for Platform のセットアップファイルをコピーする

PFM - Agent for Platform をインストールしたホストにあるセットアップファイルを PFM - Manager および PFM - Web Console をインストールしたホストにコピーします。手順を次に示します。

1. PFM - Web Console が起動されている場合は、停止する。
2. PFM - Agent のセットアップファイルをバイナリーモードでコピーする。  
ファイルが格納されている場所およびファイルをコピーする場所を次の表に示します。

表 2-4 コピーするセットアップファイル

コピー先			PFM - Agent の セットアップファイル
PFM プログラム名	OS	コピー先フォルダ	
PFM - Manager	Windows	PFM - Manager のインストール先フォルダ ¥setup¥	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagttw.EXE
	UNIX	/opt/jplpc/setup/	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagttu.Z
PFM - Web Console	Windows	PFM - Web Console のインストール先フォルダ ¥setup¥	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagttw.EXE
	UNIX	/opt/jplpcwebcon/setup/	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagttu.Z

### (b) PFM - Manager ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Manager で PFM - Agent for Platform をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpcconf agent setup -key Windows (jpcagtsetup agtt)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpcconf agent setup コマンドは非対話形式でも実行できます。jpcconf agent setup コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

**!** 注意事項

コマンドを実行するローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止していない状態で `jpccconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドを実行した場合、エラーが発生することがあります。その場合は、Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止したことを確認したあと、再度 `jpccconf agent setup (jpcagtsetup)` コマンドを実行してください。

## (c) PFM - Web Console ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Web Console で PFM - Agent for Platform をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpccwagtsetup
```

PFM - Web Console ホストにある PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと削除してもかまいません。

(2) ネットワークの設定 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定では次の二つの項目を設定できます。

## IP アドレスを設定する

Performance Management を複数の LAN に接続されたネットワークで使用するときに設定します。複数の IP アドレスを設定するには、`jpchosts` ファイルにホスト名と IP アドレスを定義します。設定した `jpchosts` ファイルは Performance Management システム全体で統一させてください。

詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

## ポート番号を設定する

Performance Management が使用するポート番号を設定できます。運用での混乱を避けるため、ポート番号とサービス名は、Performance Management システム全体で統一させてください。

ポート番号の設定の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(3) ログのファイルサイズ変更 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 ファイル使用されます。

## 2. インストールとセットアップ

このファイルサイズを変更したい場合に、必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

### (4) パフォーマンスデータの格納先の変更 オプション

PFM - Agent for Platform で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先またはエクスポート先のフォルダを変更したい場合に、必要な設定です。

パフォーマンスデータは、デフォルトで、次の場所に保存されます。

- 保存先：インストール先フォルダ `¥agtt¥store¥`
- バックアップ先：インストール先フォルダ `¥agtt¥store¥backup¥`
- 部分バックアップ先：インストール先フォルダ `¥agtt¥store¥partial¥`
- エクスポート先：インストール先フォルダ `¥agtt¥store¥dump¥`
- インポート先：インストール先フォルダ `¥agtt¥store¥import¥`

詳細については、「2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」を参照してください。

### (5) PFM - Agent for Platform の接続先 PFM - Manager の設定

PFM - Agent がインストールされているホストで、その PFM - Agent を管理する PFM - Manager を設定します。接続先の PFM - Manager を設定するには、`jpccnf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを使用します。

#### ! 注意事項

- 同一ホスト上に、複数の PFM - Agent がインストールされている場合でも、接続先に指定できる PFM - Manager は、一つだけです。PFM - Agent ごとに異なる PFM - Manager を接続先に設定することはできません。
- PFM - Agent と PFM - Manager が同じホストにインストールされている場合、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先の PFM - Manager をほかの PFM - Manager に変更できません。

---

手順を次に示します。

#### 1. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

セットアップを実施する前に、ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpccnf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンド実行時に、Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、停止を問い合わせ



せるメッセージが表示されます。

2. 接続先の PFM - Manager ホストのホスト名を指定して `jpcconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行する。

例えば、接続先の PFM - Manager がホスト `host01` 上にある場合、次のように指定します。

```
jpcconf mgrhost define -host host01 (jpcnshostname -s host01)
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpcconf mgrhost define` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpcconf mgrhost define` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

#### (6) 動作ログ出力の設定 オプション

PFM サービスの起動・停止時や、PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログを出力したい場合に必要の設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「付録 I 動作ログの出力」を参照してください。

## 2.2 アンインストールとアンセットアップ

---

ここでは、PFM - Agent for Platform をアンインストールおよびアンセットアップする手順を示します。

### 2.2.1 アンインストールの前に

ここでは、PFM - Agent for Platform をアンインストールするときの注意事項を次に示します。

#### (1) アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項

PFM - Agent for Platform をアンインストールするときは、必ず、Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

#### (2) ネットワークに関する注意事項

Performance Management プログラムをアンインストールしても、services ファイルに定義されたポート番号は削除されません。

#### (3) プログラムに関する注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、ファイルやフォルダが残ることがあります。この場合は、手でインストール先フォルダ以下をすべて削除してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが出力されることがあります。この場合、システムを再起動して、アンインストールを完了させてください。
- PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストの場合、PFM - Base のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent、PFM - Base の順にアンインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストの場合も同様に、PFM - Manager のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent、PFM - Manager の順にアンインストールしてください。

#### (4) サービスに関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールしただけでは、`jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のイン

ストールとセットアップの章のサービスの削除について説明している箇所を参照してください。

### (5) その他の注意事項

PFM - Web Console がインストールされているホストから、Performance Management プログラムをアンインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからアンインストールを実施してください。

## 2.2.2 アンセットアップ手順

### (1) PFM - Manager での設定の削除

PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし、アンセットアップする PFM - Agent for Platform に関連する定義を削除してください。

手順を次に示します。

1. PFM - Web Console から、エージェントを削除する。
2. PFM - Manager のエージェント情報を削除する。  
例えば、ホスト host01 の PFM - Agent for Platform ( Windows ) のサービス情報を削除する場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpctool service delete -id サービスID -host host01 (jpcctrl delete
サービスID host=host01)
```

サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。

3. PFM - Manager サービスを再起動する。  
サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
4. PFM - Web Console を再起動する。  
サービス情報の削除を PFM - Web Console で有効にするには、PFM - Manager サービスを再起動したあと、PFM - Web Console を再起動してください。

## 2.2.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Platform をアンインストールする手順を説明します。

1. PFM - Agent for Platform をアンインストールするホストに、Administrators 権限でログオンする。
2. ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。  
サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。

## 2. インストールとセットアップ

ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

### 3. アンインストールする Performance Management プログラムを選択する。

Windows の [ コントロールパネル ] で [ プログラムの追加と削除 ] を選択して、アンインストールする Performance Management プログラムを選択します。

注 Windows のバージョンによって名称が異なる場合があります。

### 4. [ 削除 ] を選択し、[ OK ] ボタンをクリックする。

選択したプログラムがアンインストールされます。

#### Windows Server 2008 の環境でアンインストールする場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[ 続行 ] ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。[ キャンセル ] ボタンをクリックした場合は、アンインストールが中止されます。

## 2.3 PFM - Agent for Platform のシステム構成の変更

---

監視対象システムのネットワーク構成の変更や、ホスト名の変更などに応じて、PFM - Agent for Platform のシステム構成を変更する場合があります。ここでは、PFM - Agent for Platform のシステム構成を変更する手順を説明します。

PFM - Agent for Platform のシステム構成を変更する場合、PFM - Manager や PFM - Web Console の設定変更もあわせて行う必要があります。Performance Management のシステム構成を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するときに、固有の追加作業が必要な PFM - Agent もありますが、PFM - Agent for Platform の場合、固有の追加作業は必要ありません。

## 2.4 PFM - Agent for Platform の運用方式の変更

収集した稼働監視データの運用手順の変更などで、PFM - Agent for Platform の運用方式を変更する場合があります。ここでは、PFM - Agent for Platform の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

### 2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更

PFM - Agent for Platform で収集したパフォーマンスデータは、PFM - Agent for Platform の Agent Store サービスの Store データベースで管理しています。ここではパフォーマンスデータの格納先の変更方法について説明します。

#### (1) jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンドを使用して設定を変更する

Store データベースで管理されるパフォーマンスデータの、次のデータ格納先フォルダを変更したい場合は、jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンドで設定します。Store データベースの格納先フォルダを変更する前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンドの -move オプションを使用してください。jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

- 保存先フォルダ
- バックアップ先フォルダ
- 部分バックアップ先フォルダ
- エクスポート先フォルダ
- インポート先フォルダ

注 Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンドで設定するオプション名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 2-5 パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの設定項目

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0)	設定できる値 (Store バージョン 2.0)	デフォルト値
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	sd	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	1 ~ 214 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0)	設定できる値 (Store バージョン 2.0)	デフォルト値
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	bd	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	1 ~ 211 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥backup
パフォーマンスデータの部分バックアップ先フォルダ	pbd	-	1 ~ 214 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥partial
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	bs	1 ~ 9	1 ~ 9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	dd	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥dump
パフォーマンスデータのインポート先フォルダ	id	-	1 ~ 222 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥import

(凡例)

- : 設定できません。

注

フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ (インストール先フォルダ ¥agtt¥store) からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。

## (2) jpcsto.ini ファイルを編集して設定を変更する (Store バージョン 1.0 の場合だけ)

Store バージョン 1.0 使用時は、jpcsto.ini を直接編集して変更できます。

### (a) jpcsto.ini の設定項目

jpcsto.ini ファイルで編集するラベル名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

## 2. インストールとセットアップ

表 2-6 パフォーマンスデータの格納先の設定項目（jpcsto.ini の [Data Section] セクション）

説明	ラベル名	設定できる値（Store バージョン 1.0） <sup>1</sup>	デフォルト値
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	Store Dir <sup>2</sup>	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	Backup Dir <sup>2</sup>	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥backup
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	Backup Save	1 ~ 9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	Dump Dir <sup>2</sup>	1 ~ 127 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥dump

### 注 1

- フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ ¥agtt¥store）からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。
- 指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字、半角記号および半角空白です。  
; , \* ? ' " < > |
- 指定値に誤りがある場合、Agent Store サービスは起動できません。

### 注 2

Store Dir、Backup Dir、および Dump Dir には、それぞれ重複したフォルダを指定できません。

### (b) jpcsto.ini ファイルの編集前の準備

- Store データベースの格納先フォルダを変更する場合は、変更後の格納先フォルダを事前に作成しておいてください。
- Store データベースの格納先フォルダを変更すると、変更前に収集したパフォーマンスデータを使用できなくなります。変更前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、次に示す手順でデータを引き継いでください。
  1. jpctool db backup (jpcctrl backup) コマンドで Store データベースに格納されているパフォーマンスデータのバックアップを採取する。
  2. 「(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順」に従って Store データベースの格納先フォルダを変更する。
  3. jpctool db restore (jpcresto) コマンドで変更後のフォルダにバックアップデータをリストアする。

### (c) jpcsto.ini ファイルの編集手順

手順を次に示します。



1. PFM - Agent のサービスを停止する。  
ローカルホストで PFM -Agent のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。
2. テキストエディターなどで、jpcsto.ini ファイルを開く。
3. パフォーマンスデータの格納先フォルダなどを変更する。  
次に示す網掛け部分を、必要に応じて修正してください。

```

:
[Data Section]
Store Dir=.
Backup Dir.=¥backup
Backup Save=5
Dump Dir.=¥dump
:

```

#### ! 注意事項

- 行頭および「=」の前後には空白文字を入力しないでください。
- 各ラベルの値の「.」は、Agent Store サービスの Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ ¥agtt¥store）を示します。格納先を変更する場合、その格納先フォルダからの相対パスか、または絶対パスで記述してください。
- jpcsto.ini ファイルには、データベースの格納先フォルダ以外にも、定義情報が記述されています。[Data Section] セクション以外の値は変更しないようにしてください。[Data Section] セクション以外の値を変更すると、Performance Management が正常に動作しなくなることがあります。

4. jpcsto.ini ファイルを保存して閉じる。
5. Performance Management のプログラムおよびサービスを起動する。

#### 注意

この手順で Store データベースの保存先フォルダを変更した場合、パフォーマンスデータファイルは変更前のフォルダから削除されません。これらのファイルが不要な場合は、次に示すファイルだけを削除してください。

- 拡張子が .DB であるすべてのファイル
- 拡張子が .IDX であるすべてのファイル

## 2. インストールとセットアップ

### 2.4.2 Store バージョン 2.0 への移行

Store データベースの保存形式には、バージョン 1.0 と 2.0 の 2 種類あります。Store バージョン 2.0 の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。

Store バージョン 2.0 は、PFM - Base または PFM - Manager のバージョン 08-10 以降の環境に、08-10 以降の PFM - Agent for Platform を新規インストールした場合にデフォルトで利用できます。それ以外の場合は、Store バージョン 1.0 形式のままとなっているため、セットアップコマンドによって Store バージョン 2.0 に移行してください。

何らかの理由によって Store バージョン 1.0 に戻す必要がある場合は、Store バージョン 2.0 のアンセットアップを行ってください。

インストール条件に対応する Store バージョン 2.0 の利用可否と利用手順を次の表に示します。

表 2-7 Store バージョン 2.0 の利用可否および利用手順

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base, または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 より前	上書きインストール	利用できない	PFM - Base, または, PFM - Manager を 08-10 以降にバージョンアップ後, セットアップコマンドを実行
	新規インストール		
08-10 以降	上書きインストール	セットアップ後利用できる	セットアップコマンドを実行
	新規インストール	利用できる	設定不要

#### (1) Store バージョン 2.0 のセットアップ

Store バージョン 2.0 へ移行する場合のセットアップ手順について説明します。

##### 1. システムリソース見積もりと保存期間の設計

Store バージョン 2.0 導入に必要なシステムリソースが、実行環境に適しているかどうかを確認してください。必要なシステムリソースを次に示します。

- ディスク容量
- ファイル数
- 1 プロセスがオープンするファイル数

これらの値は保存期間の設定によって調節できます。実行環境の保有しているリソー

スを考慮して保存期間を設計してください。システムリソースの見積もりについては、「付録 A システム見積もり」を参照してください。

## 2. フォルダの設定

Store バージョン 2.0 に移行する場合に、Store バージョン 1.0 でのフォルダ設定では、Agent Store サービスが起動しないことがあります。このため、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を見直す必要があります。Agent Store サービスが使用するフォルダの設定は `jpccconf db define (jpcdbctrl config)` コマンドを使用して表示・変更できます。

Store バージョン 2.0 は、Store データベースの保存先フォルダやバックアップ先フォルダの最大長が Store バージョン 1.0 と異なります。Store バージョン 1.0 でフォルダの設定を相対パスに変更している場合、絶対パスに変換した値が Store バージョン 2.0 でのフォルダ最大長の条件を満たしているか確認してください。Store バージョン 2.0 のフォルダ最大長は 214 バイトです。フォルダ最大長の条件を満たしていない場合は、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を変更したあと、手順 3 以降に進んでください。

## 3. セットアップコマンドの実行

Store バージョン 2.0 に移行するため、次のコマンドを実行します。

```
jpccconf db vrset -ver 2.0 -key Windows (jpcdbctrl setup -key agtt)
jpccconf db vrset (jpcdbctrl setup)
```

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

## 4. 保存期間の設定

手順 1 の見積もり時に設計した保存期間を設定してください。Agent Store サービスを起動して、PFM - Web Console で設定してください。

## (2) Store バージョン 2.0 のアンセットアップ

Store バージョン 2.0 は `jpccconf db vrset -ver 1.0 (jpcdbctrl unsetup)` コマンドを使用してアンセットアップします。Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、Store データベースのデータはすべて初期化され、Store バージョン 1.0 に戻ります。

`jpccconf db vrset (jpcdbctrl unsetup)` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

## (3) 注意事項

移行についての注意事項を次に示します。

### (a) Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行する場合

Store データベースを Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行した場合、PI レコードタイプのレコードの保存期間の設定は引き継がれますが、PD レコードタイプのレコードについては、以前の設定値（保存レコード数）に関係なくデフォルトの保存日数がレコードごとに設定され、保存日数以前に収集されたデータは削除されます。

## 2. インストールとセットアップ

例えば、Store バージョン 1.0 で、Collection Interval が 3,600 秒の PD レコードの保存レコード数を 1,000 に設定していた場合、PD レコードは 1 日に 24 レコード保存されることになるので、 $1,000/24$  約 42 日分のデータが保存されています。この Store データベースを Store バージョン 2.0 へ移行した結果、デフォルト保存日数が 10 日に設定されたとすると、11 日以上前のデータは削除されて参照できなくなります。

Store バージョン 2.0 へ移行する前に、PD レコードタイプのレコードの保存レコード数の設定を確認し、Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数以上のデータが保存される設定となっている場合は、`jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドでデータベース内のデータを出力してください。Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数については、「付録 A.2(3)(a) 見積もり式」を参照してください。

### (b) Store バージョン 2.0 から Store バージョン 1.0 に戻す場合

Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、データは初期化されます。このため、Store バージョン 1.0 に変更する前に、`jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドで Store バージョン 2.0 の情報を出力してください。

## 2.5 コマンドプロンプトの起動方法

Windows Server 2008 の環境では、OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合、コマンドプロンプトは、次の 2 種類の特権モードで動作します。

- 管理者特権モードのコマンドプロンプト (管理者コンソール)  
Windows のすべての操作ができるコマンドプロンプトです。
- 標準特権モードのコマンドプロンプト (標準コンソール)  
ユーザー操作の権限が制限されたコマンドプロンプトです。

ユーザーアカウント制御機能 (UAC) を無効にしている場合は、常に管理者コンソールが起動されます。

Performance Management が提供しているコマンドは、必ず管理者コンソールで実行してください。

管理者ユーザーごとのコマンドプロンプトの起動方法を次の表に示します。

表 2-8 管理者ユーザーごとのコマンドプロンプトの起動方法

管理者グループ	管理者ユーザー	起動方法
Administrators	Administrator	コマンドプロンプトを起動すると、管理者コンソールが起動されます。
	上記以外のユーザー	<p>UAC が有効な場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コマンドプロンプトを起動すると、標準コンソールが起動されます。</li> <li>• 管理者コンソールを起動する場合、ユーザーアカウント制御のダイアログが表示されます。ダイアログの [ 続行 ] ボタンをクリックすると管理者コンソールが起動されます。[ キャンセル ] ボタンをクリックした場合は、コマンドプロンプトは起動されません。</li> </ul> <p>UAC が無効な場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コマンドプロンプトを起動すると、管理者コンソールが起動されます。</li> </ul>

管理者コンソールは、OS が用意している管理者コンソールと、PFM - Base が提供している管理者コンソールがあります。それぞれの起動方法を説明します。

### (1) OS が用意している管理者コンソールの起動方法

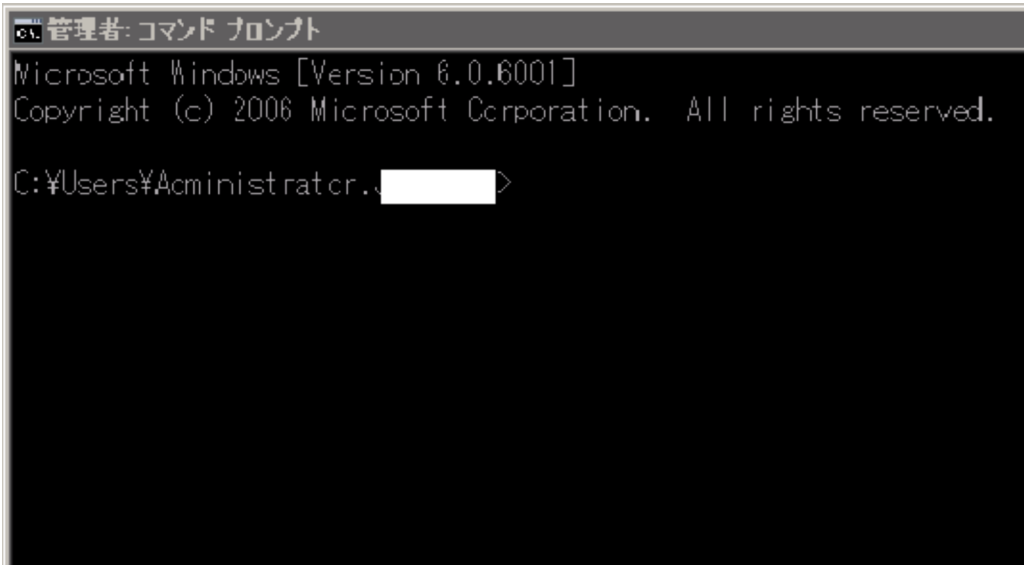
[ スタート ] メニューから [ すべてのプログラム ] - [ アクセサリ ] - [ コマンドプロン

## 2. インストールとセットアップ

プト]を右クリックし,[管理者として実行]を選択します。

起動されたコマンドプロンプトが管理者コンソールであるかどうかは,タイトルバーに[管理者]が表示されているどうかで判断できます。

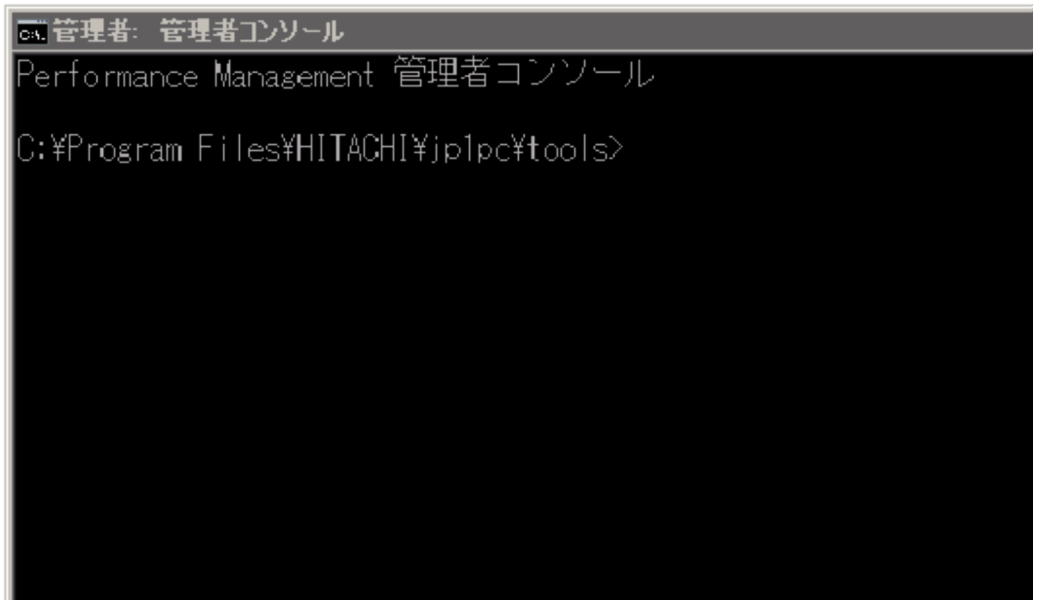
図 2-5 OS が用意している管理者コンソールの画面



### (2) PFM - Base が提供している管理者コンソールの起動方法

[スタート]メニューから[すべてのプログラム] - [Performance Management] - [管理者コンソール]を選択します。

図 2-6 PFM - Base が提供している管理者コンソールの画面



## 2.6 バックアップとリストア

PFM - Agent for Platform のバックアップおよびリストアについて説明します。

障害が発生してシステムが壊れた場合に備えて、PFM - Agent for Platform の設定情報のバックアップを取得してください。また、PFM - Agent for Platform をセットアップしたときなど、システムを変更した場合にもバックアップを取得してください。

なお、Performance Management システム全体のバックアップおよびリストアについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のバックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

収集データ追加ユーティリティで設定した内容はバックアップできません。

### 2.6.1 バックアップ

バックアップはファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップを取得する際は、PFM - Agent for Platform のサービスを停止した状態で行ってください。

PFM - Agent for Platform の設定情報のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 2-9 PFM - Agent for Platform のバックアップ対象ファイル

ファイル名	説明
インストール先フォルダ %agtt%agent%*.ini ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ %agtt%store%*.ini ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ %agtt%agent%jpcapp ファイル	アプリケーション定義ファイル (09-00 以前)
インストール先フォルダ %agtt%agent%jpcapp2 ファイル	アプリケーション定義ファイル (09-10 以降)
インストール先フォルダ %agtt%agent%jpcuser%*.ini ファイル	JPCUSER 定義ファイル

注

プロセス監視を設定していない場合は、存在しません。

#### ! 注意事項

PFM - Agent for Platform のバックアップを取得する際は、取得した環境の製品バージョン番号を管理するようにしてください。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。



## 2.6.2 リストア

PFM - Agent for Platform の設定情報をリストアする場合は、次に示す前提条件を確認した上で、バックアップ対象ファイルを元の位置にコピーしてください。バックアップした設定情報ファイルで、ホスト上の設定情報ファイルを上書きします。

### 前提条件

- PFM - Agent for Platform がインストール済みであること。
- PFM - Agent for Platform のサービスが停止していること。

### ! 注意事項

PFM - Agent for Platform の設定情報をリストアする場合、バックアップを取得した環境とリストアする環境の製品バージョン番号が完全に一致している必要があります。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。リストアの可否についての例を次に示します。

#### リストアできるケース

PFM - Agent for Platform 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Platform 08-50 にリストアする。

#### リストアできないケース

- PFM - Agent for Platform 08-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Platform 08-50 にリストアする。
  - PFM - Agent for Platform 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Platform 08-50-04 にリストアする。
-

## 2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

---

Performance Management では、PFM - Web Console がインストールされているホストに、プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル CD-ROM からマニュアルをコピーすることで、Web ブラウザでマニュアルを参照できるようになります。なお、PFM - Web Console をクラスタ運用している場合は、実行系、待機系それぞれの物理ホストでマニュアルをコピーしてください。

### 2.7.1 設定手順

#### (1) PFM - Web Console のヘルプからマニュアルを参照する場合

1. PFM - Web Console のセットアップ手順に従い、PFM - Web Console に PFM - Agent を登録する（PFM - Agent の追加セットアップを行う）。
2. PFM - Web Console がインストールされているホストに、マニュアルのコピー先ディレクトリを作成する。
  - Windows の場合：Web Console のインストール先フォルダ ¥doc¥ja¥ x x x x
  - UNIX の場合：/opt/jp1pcwebcon/doc/ja/ x x x x  
x x x xには、PFM - Agent のヘルプ ID を指定してください。ヘルプ ID については、このマニュアルの付録に記載されている識別子一覧を参照してください。
3. 上記で作成したディレクトリの直下に、マニュアル CD-ROM から次のファイルおよびディレクトリをコピーする。

##### HTML マニュアルの場合

Windows の場合：CD-ROM ドライブ ¥MAN¥3020¥ 資料番号（03004A0D など）  
下の、すべての htm ファイルおよび FIGURE フォルダ  
UNIX の場合：/CD-ROM のマウントポイント /MAN/3020/ 資料番号  
（03004A0D など）下の、すべての htm ファイルおよび FIGURE ディレクトリ

##### PDF マニュアルの場合

Windows の場合：CD-ROM ドライブ ¥MAN¥3020¥ 資料番号（03004A0D など）  
下の PDF ファイル  
UNIX の場合：/CD-ROM のマウントポイント /MAN/3020/ 資料番号  
（03004A0D など）下の PDF ファイル

コピーの際、HTML マニュアルの場合は index.htm ファイルが、PDF マニュアルの場合は PDF ファイル自体が、作成したディレクトリ直下に配置されるようにしてください。マニュアルファイルのコピー方法については、マニュアル CD-ROM の readme.txt を参照してください。

4. PFM - Web Console を再起動する。

## (2) お使いのマシンのハードディスクからマニュアルを参照する場合

CD-ROM の setup.exe を使ってインストールするか、または直接 htm ファイル、PDF ファイル、および GIF ファイルを任意のディレクトリにコピーしてください。HTML マニュアルの場合、次のディレクトリ構成になるようにしてください。

html (htm ファイルおよび PDF ファイルを格納)

FIGURE (GIF ファイルを格納)

### 2.7.2 参照手順

マニュアルの参照手順を次に示します。

1. PFM - Web Console の [メイン] 画面のメニューバーフレームにある [ヘルプ] メニューをクリックし、[ヘルプ選択] 画面を表示する。
2. マニュアル名またはマニュアル名の後ろの [PDF] をクリックする。  
マニュアル名をクリックすると HTML 形式のマニュアルが表示されます。[PDF] をクリックすると PDF 形式のマニュアルが表示されます。

#### Web ブラウザでの文字の表示に関する注意事項

Windows の場合、[スタート] メニューからオンラインマニュアルを表示させると、すでに表示されている Web ブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

また、Internet Explorer 5 を使用している場合、文字が不正に表示されることがあります。この場合、次のように設定してください。

- [表示] - [エンコード] の [自動選択] のチェックを外す。
- [表示] - [エンコード] の日本語で [日本語 (シフト JIS)] を選択する。



# 3

## ユーザーレコードの収集

この章では、PFM・Agent for Platform でユーザーレコードを収集するための設定方法について説明します。

---

3.1 ユーザーレコード収集の概要

---

3.2 ユーザーレコード収集の設定

---

## 3.1 ユーザーレコード収集の概要

PFM・Agent for Platform では、デフォルトでは用意されていないパフォーマンスデータを収集し、レコードに格納できます。このパフォーマンスデータを格納したレコードをユーザーレコードと呼びます。

ユーザーレコードの設定ができる情報と、それに対応するレコード、およびユーザーレコードの設定手段を次の表に示します。

表 3-1 ユーザーレコードの設定ができる情報と、それに対応するレコード、およびユーザーレコードの設定手段

収集設定できる情報	レコード	設定手段
パフォーマンスコンソールカウンター情報	PD_GEND レコード	収集データ追加ユーティリティ
	PI_GENI レコード	
	PD_ELOG レコード	
イベントログ情報	PD_ELOG レコード	
ワークグループ情報	PI_WGRP レコード	
プロセスの稼働・非稼働情報	PD_APP2 レコード	PFM・Web Console
	PD_APPD レコード	
	PD_APS レコード	
	PD_APSI レコード	
	PD_ASVC レコード	
アプリケーションの稼働・非稼働情報	PD_APP レコード	
ユーザー独自のパフォーマンスデータ	PD_UPD レコード	
	PD_UPDB レコード	
	PI_UPI レコード	
	PI_UPIB レコード	

各ホストで設定されたユーザーレコードは、ほかのレコードと同様、PFM・Web Console でレポートの表示やアラームでの監視に利用できます。

それぞれのレコードで、複数のパフォーマンスデータを収集する場合、パフォーマンスデータごとにユーザーレコードのフィールドが1行ずつ追加されます。その結果、それぞれのユーザーレコードは、複数行のレコードになります。複数行のレコードとは、複数インスタンスレコードのことです。

### 3.1.1 ユーザーレコードとして定義できる情報

ユーザーレコードとして定義できる情報について説明します。

## (1) パフォーマンスコンソールカウンター情報

PFM・Agent for Platform の Generic Data Detail ( PD\_GEND ) レコードおよび Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコードでは、定義されているフィールド以外のパフォーマンスデータをパフォーマンスコンソールカウンター情報として収集できます。

Generic Data Detail ( PD\_GEND ) レコードおよび Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコードで定義できるユーザーレコードは Windows の次のウィンドウに表示される次のデータと同等の情報です。

[パフォーマンス] ウィンドウの [システムモニタ]

[パフォーマンス] ウィンドウの「パフォーマンス ログと警告」

なお、Generic Data Detail ( PD\_GEND ) レコードと Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコードは、次のようにレコードタイプが違います。目的に応じて使用してください。

表 3-2 PD\_GEND と PI\_GENI のレコードタイプ

レコード名	レコードタイプ	用途
Generic Data Detail ( PD_GEND )	PD レコードタイプ	ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用する。
Generic Data Interval ( PI_GENI )	PI レコードタイプ	時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用する。

PI レコードタイプおよび PD レコードタイプについては、マニュアル「JP1/ Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

## (2) イベントログ情報

PFM・Agent for Platform では、Windows の [管理ツール][イベントビューア]の各種イベントログ情報をユーザーレコードとして収集し、Event Log ( PD\_ELOG ) レコードとして管理できます。

図 3-1 イベントビューア画面



ユーザーレコードとして定義できる Windows の各種イベントログ情報は、次の二つに分

### 3. ユーザーレコードの収集

類できます。

標準イベントログ（アプリケーション，セキュリティ，システム）

カスタムイベントログ（ディレクトリサービス，DNS サーバ，ファイルレプリケーションサービスなど）

カスタムイベントログは，Windows のコンポーネントの追加で Active Directoryなどをインストールした場合に追加されます。

収集データ追加ユーティリティでイベントログ情報のユーザーレコードを何も設定していない場合，PFM・Web Console で各レコードのプロパティに「Log=Yes」が設定されているときは，PD\_ELOG レコードは，標準イベントログ（アプリケーション，セキュリティ，システム）を無条件で収集します。

収集データ追加ユーティリティで設定すると，カスタムイベントログを収集対象に設定したり，標準イベントログを収集対象から外したりできます。

#### （3）ワークグループ情報

複数のユーザーや複数のグループで Windows のプロセスを起動している場合，そのユーザー，グループなどを PFM・Agent for Platform でワークグループとして定義し，ワークグループに関するプロセスの情報を収集して Workgroup Summary（PI\_WGRP）レコードとして管理できます。

PFM・Agent for Platform で定義するワークグループには，次の情報を設定できます。

- プロセス
- ユーザー
- グループ

収集データ追加ユーティリティで定義されたワークグループ情報を基に，Process Detail（PD）レコードのパフォーマンスデータのうち，該当するワークグループに関係するものが要約されて Workgroup Summary（PI\_WGRP）レコードに格納されます。

#### （4）プロセスの稼働・非稼働情報

指定した条件のプロセスが稼働しているかどうか，または想定数以内かどうかの情報を収集し，次に示すレコードとして管理できます。

- Application Summary Extension（PD\_APP2）
- Application Process Detail（PD\_APPD）
- Application Process Overview（PD\_APS）
- Application Process Interval（PD\_APSI）
- Application Service Overview（PD\_ASVC）

監視するプロセスは PFM・Web Console 上で指定できます。



### (5) アプリケーションの稼働・非稼働情報

指定した条件のプロセスが稼働しているかどうか、または想定数以内かどうかの情報を収集し、Application Summary (PD\_APP) レコードとして管理できます。監視するプロセスは PFM - Web Console 上で指定できます。

### (6) ユーザー独自のパフォーマンスデータ

PFM - Agent for Platform 製品で提供されていない情報や、マシンや環境固有の情報などユーザー独自のパフォーマンスデータを収集できます。これらの情報を収集する場合には、パフォーマンスデータを収集するためのユーザーコマンドと呼ばれるスクリプトを作成する必要があります。

ユーザー独自のパフォーマンスデータを格納するレコードには、PI レコードタイプ、PD レコードタイプそれぞれ 2 種類ずつあります。

- User Data Detail (PD\_UPD)
- User Data Detail - Extended (PD\_UPDB)
- User Data Interval (PI\_UPI)
- User Data Interval - Extended (PI\_UPIB)

## 3.2 ユーザーレコード収集の設定

ここでは、ユーザーレコードを収集する方法について説明します。

### 3.2.1 収集データ追加ユーティリティの起動と終了

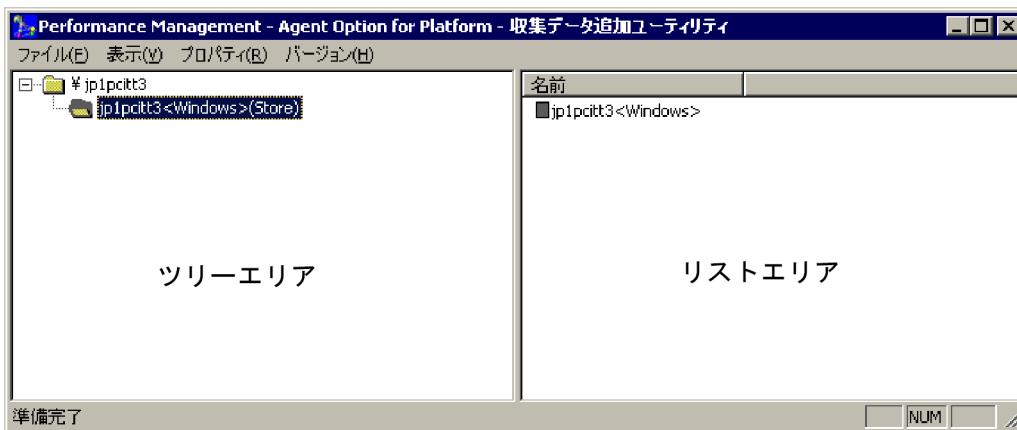
収集データ追加ユーティリティは、パフォーマンスコンソールカウンター情報、イベントログ情報、およびワークグループ情報をユーザーレコードとして設定するためのユーティリティです。

#### (1) 収集データ追加ユーティリティの起動

収集データ追加ユーティリティを起動する方法を示します。

1. PFM - Agent for Platform 08-00 以降がインストールされている Windows ホストにログオンする。  
Administrators 権限でログオンする必要があります。
2. Windows の [ スタート ] メニューから [ プログラム ] - [ Performance Management ] - [ Agent Option for Platform ] - [ 収集データ追加ユーティリティ ] を選択する。

図 3-2 収集データ追加ユーティリティウィンドウ



ツリーエリア：ローカルホストのAgent Storeを表示します。

リストエリア：選択されているAgent StoreのAgent Collector名を表示します。  
サービスの状態がアイコンで表示されます。

- ☐：サービス起動中
- ：サービス停止中

**!** 注意事項

- 収集データ追加ユーティリティを複数起動することはできません。
- 最新の Agent の状態を表示したい場合は [ 表示 ] - [ 最新の情報に更新 ] を選択してください。
- 複数のレコードの設定画面（例えば PD\_ELOG 設定画面と PI\_WGRP 設定画面）を同時に起動することはできません。
- Windows Server 2008 の環境での、収集データ追加ユーティリティの起動について OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、収集データ追加ユーティリティの起動時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[ 承認 ] ボタンをクリックして収集データ追加ユーティリティを続行してください。[ キャンセル ] ボタンをクリックした場合は、収集データ追加ユーティリティが中止されます。

**(2) 収集データ追加ユーティリティの終了**

収集データ追加ユーティリティを終了する方法を示します。

1. 収集データ追加ユーティリティウィンドウの [ ファイル ] - [ 終了 ] を選択する。

**(3) ユーザーレコード設定時の注意事項**

収集データ追加ユーティリティの起動は、Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

収集データ追加ユーティリティで設定できるユーザーレコードは、そのローカルホストで収集するユーザーレコードだけです。PFM・Agent for Platform がインストールされているホストがシステム内に複数ある場合は、ホストごとに収集データ追加ユーティリティを起動してユーザーレコードを設定します。

画面操作時に、ファイル名・ディレクトリ名が示されたエラーメッセージが表示された場合、ファイルが存在するか、アクセス権があるかを確認してください。

画面操作時にエラーメッセージが表示された場合、要因が判明しないときは、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

履歴データを収集する場合は、PFM・Web Console で各レコードのプロパティに「Log=Yes」を設定してください。

PFM・Web Console から収集データ追加ユーティリティを起動することはできません。

収集データ追加ユーティリティをクライアントマシンで起動する場合、OS 既存機能「リモートディスクトップ接続」を使用してください。

Windows のタスクマネージャーから収集データ追加ユーティリティを強制終了しないでください。設定内容が不正になるおそれがあります。

PFM・Agent for Platform 08-00 以降がインストールされているホストに PFM・View

### 3. ユーザーレコードの収集

07-00 もインストールされている場合、Windows の [ スタート ] メニューからも、PFM - View 07-00 から収集データ追加ユーティリティを起動できますが、両方の収集データ追加ユーティリティを、同時に実行しないでください。

PFM - Agent for Platform をアンインストールする場合は、収集データ追加ユーティリティ画面を閉じてからアンインストールを実施してください。

## 3.2.2 パフォーマンスコンソールカウンター情報収集の設定

パフォーマンスコンソールカウンター情報を収集するためのユーザーレコードの設定、確認、および削除方法を説明します。

### (1) ユーザーレコードを設定する

パフォーマンスコンソールカウンター情報を収集するためのユーザーレコードの設定方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。

参考 プロダクト名表示

収集データ追加ユーティリティの [ 表示 ] メニューで [ プロダクト名表示 ] を選択すると、メイン画面に表示されるサービス名をプロダクト名に切り替えることができます。

・通常の表示

Agent Store : TS1 ホスト名

Agent Collector : TA1 ホスト名

・プロダクト名表示

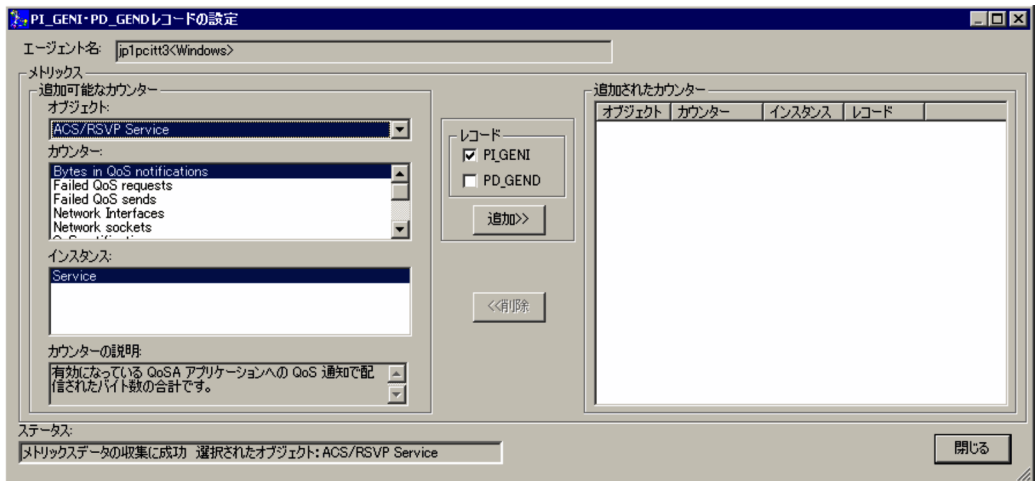
Agent Store : ホスト名 <Windows>(Store)

Agent Collector : ホスト名 <Windows>

プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、機能について説明している章を参照してください。

2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。

[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ オブジェクト ] から、収集するデータオブジェクトを選択する。

データオブジェクトを選択すると、選択したデータオブジェクトに対して設定できるデータカウンターが、[ カウンター ] に表示されます。また、設定できるデータインスタンス (マルチインスタンスオブジェクト) が、[ インスタンス ] に表示されます。なお、選択したオブジェクトがシングルインスタンスオブジェクトの場合、設定できるデータインスタンスがないので、[ インスタンス ] には何も表示されません。ここで選択したデータオブジェクトは、ユーザーレコードの Object Name (OBJECT\_NAME) フィールドに格納されます。

4. [ カウンター ] から、収集するデータカウンターを選択する。

データカウンターは、[ Ctrl ] キーを押しながら左クリックすることで、複数選択および選択の解除ができます。データカウンターを選択すると、[ カウンターの説明 ] に、選択したデータカウンターの説明が表示されます。ここで選択したデータカウンターは、ユーザーレコードの Counter Name (COUNTER\_NAME) フィールドに格納されます。なお、[ カウンター ] には収集データ追加ユーティリティで収集できるデータカウンターだけが表示されます。収集データ追加ユーティリティで収集できるデータカウンターは、次に示すパフォーマンスカウンターに対応しています。データカウンターとパフォーマンスカウンターとの関連については、Microsoft 社にお問い合わせください。

- 100nSec Multi Timer
- 100nSec Multi Timer Inv
- 100nSec Timer
- 100nSec Timer Inv
- Average Bulk
- Average Timer
- Counter 100nSec QueueLen
- Counter Bulk Count

### 3. ユーザーレコードの収集

- Counter Counter
  - Counter Delta
  - Counter Large Delta
  - Counter Large Queuelen
  - Counter Large Rawcount
  - Counter Large Rawcount Hex
  - Counter Multi Timer
  - Counter Multi Timer Inv
  - Counter Object Time Queuelen
  - Counter Queuelen
  - Counter Rawcount
  - Counter Rawcount Hex
  - Counter Text
  - Counter Timer
  - Counter Timer Inv
  - Elapsed Time
  - Large Raw Fraction
  - Object Time Timer
  - Precision 100nSec Timer
  - Precision Object Timer
  - Precision System Timer
  - Raw Fraction
  - Sample Counter
  - Sample Fraction
5. [ インスタンス ] から、収集するデータインスタンスを選択する。  
「インスタンス」に表示されている項目は、[ Ctrl ] キーを押しながら左クリックすることで、複数選択および選択の解除ができます。ここで選択したデータインスタンスは、ユーザーレコードの Instance ( INSTANCE ) フィールドに格納されます。データインスタンスに何も表示されていなければ、設定できるデータインスタンスはありません。手順 6 に進んでください。
6. [ レコード ] で [ PD\_GEND ] または [ PI\_GENI ] をチェックする。  
PD\_GEND レコードで性能値を収集したい場合は、[ PD\_GEND ] をチェックします。  
PI\_GENI レコードで性能値を収集したい場合は、[ PI\_GENI ] をチェックします。
7. [ 追加 ] ボタンをクリックする。  
[ 追加可能なカウンター ] に表示されているオブジェクト、カウンター、およびインスタンスの情報が [ 追加されたカウンター ] に反映されます。[ 追加されたカウンター ] に反映されたパフォーマンスデータは、収集対象としてユーザーレコードに設定されます。
8. 収集するパフォーマンスデータを、さらにユーザーレコードに追加する場合は、手順

3 から手順 7 を繰り返す。

9. 設定が終わったら , [ 閉じる ] ボタンをクリックする。

[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

#### ! 注意事項

- 収集するパフォーマンスデータとして追加できるオブジェクト数, カウンター数, インスタンス数に制限はありませんが, 大量に設定すると PFM・Agent for Platform のデータ収集時にシステム負荷やディスク使用量が大きくなる場合があります。そのため, 通常は合計 100 個を上限としてください。
- Windows Server 2003 (x64) 環境で, ユーザーレコードを設定する場合, WOW64 をサポートしていないオブジェクトは, 収集データ追加ユーティリティの [ レコードの追加 ] 画面に表示されません。
- PD\_GEND レコード, PI\_GENI レコードについては, 「5. レコード」を参照してください。

ここで設定したユーザーレコードをデータベースに格納するかどうかを設定する方法については, マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の, 稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

### (2) ユーザーレコードの設定を確認する

パフォーマンスコンソールカウンター情報を収集するためのユーザーレコードの設定内容を確認する方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し, リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして, [ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。  
[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. 収集対象に設定したパフォーマンスコンソールカウンター情報を確認する。  
[ 追加可能なカウンター ] に表示されているパフォーマンスコンソールカウンター情報を確認してください。
4. 確認が終わったら, [ 閉じる ] ボタンをクリックする。  
[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

### (3) ユーザーレコードの設定を削除する

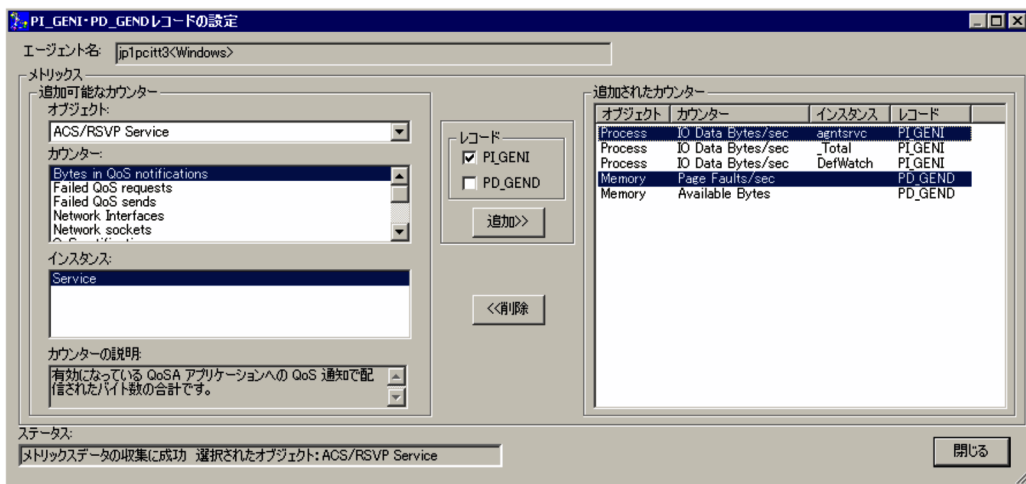
パフォーマンスコンソールカウンター情報を収集するためのユーザーレコードの設定を削除する方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し, リストエリアで

### 3. ユーザーレコードの収集

Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。

[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ 追加されたカウンター ] から収集設定を解除したいパフォーマンスデータを選択し、[ 削除 ] ボタンをクリックする。

[ 追加されたカウンター ] から設定が削除され、収集対象から外れます。

なお、「追加されたカウンター」に表示されている項目は、[ Ctrl ] キーを押しながら左クリックすることで、複数選択および選択の解除ができます。

4. 操作が終了したら、[ 閉じる ] ボタンをクリックする。

[ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

### 3.2.3 イベントログ情報収集の設定

イベントログ情報を収集するためのユーザーレコードの設定、確認、および削除方法を説明します。

#### (1) ユーザーレコードを設定する

イベントログ情報を収集対象にする方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。

2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PD\_ELOG レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。

[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。





デフォルト（ユーザーが一度も設定していない）状態では、[ 収集対象のイベントログ ] リストに標準イベントログが表示されています。

また、収集できるイベントログのリストが [ 収集対象外のイベントログ ] に表示されています。収集できるイベントログが追加または削除されていた場合、確認用のメッセージボックスが表示されます。

3. [ 収集対象外のイベントログ ] から収集したいイベントログを選択し、[ => ] ボタンをクリックする。  
収集対象設定を確認するメッセージが表示されます。
4. [ OK ] ボタンをクリックする。  
選択したイベントログが収集対象として登録され、[ 収集対象のイベントログ ] に表示されます。
5. 設定が終わったら [ 終了 ] ボタンをクリックする。  
[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

#### ! 注意事項

PD\_ELOG レコードについては、「5. レコード」を参照してください。

## (2) ユーザーレコードの設定を確認する

イベントログ情報を確認する方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PD\_ELOG レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。

### 3. ユーザーレコードの収集

[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。

3. 収集対象に設定したイベントログを確認する。  
[ 収集対象のイベントログ ] に表示されているイベントログ情報を確認してください。
4. 確認が終わったら [ 終了 ] ボタンをクリックする。  
[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

#### (3) ユーザーレコードの設定を削除する

イベントログ情報を収集対象から外す方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PD\_ELOG レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。  
[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [ 収集対象のイベントログ ] から収集設定を解除したいイベントログを選択し、[ <= ] ボタンをクリックする。  
収集対象外設定を確認するメッセージが表示されます。
4. [ OK ] ボタンをクリックする。  
選択したイベントログが収集対象外に設定され、[ 収集対象外のイベントログ ] に表示されます。
5. 設定が終わったら [ 終了 ] ボタンをクリックする。  
[ PD\_ELOG レコード設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

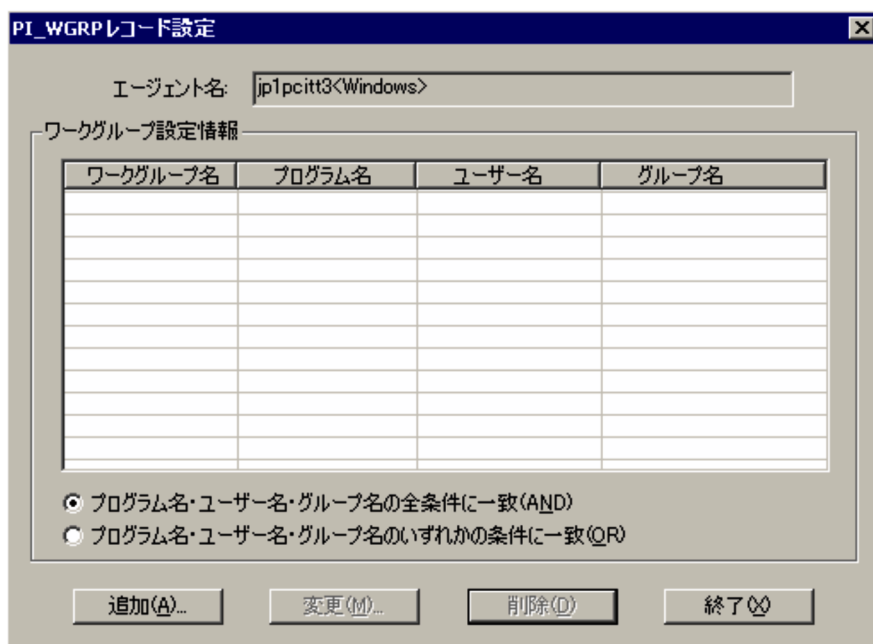
## 3.2.4 ワークグループ情報収集の設定

ワークグループ情報を収集するためのユーザーレコードの設定、確認、および削除方法を説明します。

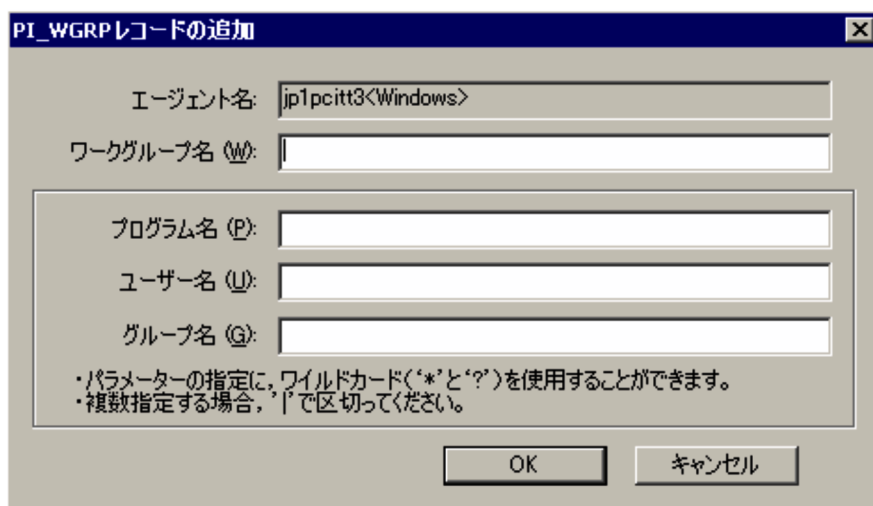
#### (1) ユーザーレコードを設定する

ワークグループ情報を収集するためのユーザーレコードの設定方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PI\_WGRP レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。  
[ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスの [ 追加 ] ボタンをクリックする。  
[ PI\_WGRP レコードの追加 ] ダイアログボックスが表示されます。



4. パラメーターを入力する。  
[ワークグループ名][プログラム名][ユーザー名]および[グループ名]を入力します。

各パラメーター共通の入力規則

- ・大文字小文字は区別しません。空白は文字として扱います。
- ・すべてのパラメーターで次の文字を含む文字列を指定できません。

### 3. ユーザーレコードの収集

※/:\*?"<>|

- [プログラム名][ユーザー名]および[グループ名]の各パラメーターの指定には、ワイルドカード(「\*」および「?」)を使用できます。
- [プログラム名][ユーザー名]および[グループ名]の各パラメーターで、一つのパラメーターに複数の値を指定する場合は、それぞれの名前を「|」で区切ってください。

各パラメーター設定の詳細を次に示します。

表 3-3 各パラメーター設定の詳細

パラメーター	指定する情報	情報が保存されるフィールド	入力規則
ワークグループ名	情報を収集するワークグループ名を指定する。	Workgroup(WORKGROUP_NAME)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用できる文字は、半角英数字、ハイフン(-)、アンダーバー(_)だけ。</li> <li>• 35 バイト以内。</li> <li>• 既存のワークグループ名は指定できない。</li> <li>• 「Other」は指定できない。</li> </ul>
プログラム名	実行されるプログラム名を指定する。	Programs(PROGRAMS) <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1,023 バイト以内。</li> <li>• Process Detail(PD) レコードの Program(INSTANCE) フィールドに格納される値を指定する。 <sup>2</sup></li> <li>• 何も入力しない場合、この項目で検索はしない。</li> </ul>
ユーザー名	[プログラム名]で指定されたプログラムを実行するユーザーのユーザー名を指定する。	Users(USERS) <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1,023 バイト以内。</li> <li>• Process Detail(PD) レコードの User(USER_NAME) フィールドの値を指定する。 <sup>3</sup></li> <li>• 何も入力しない場合、この項目で検索はしない。</li> </ul>
グループ名	[プログラム名]で指定されたプログラムを実行するユーザーの属するグループ名を指定する。	Groups(GROUPS) <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1,023 バイト以内。</li> <li>• Process Detail(PD) レコードの Group(GROUP_NAME) フィールドの値を指定する。 <sup>4</sup></li> </ul>

注 1

Process Detail(PD) レコードの各フィールドに保存される情報は、35 バイトまでです。35 バイトを超えた場合、保存される最後の文字は「>」となります。

注 2

Process Detail (PD) レコードの Program (INSTANCE) フィールドの値が「\_Total」で、かつ PID (ID\_PROCESS) フィールドの値が「0」のレコードは、全体の合計や平均を表すデータのため、収集されません。

注 3

プロセスのセキュリティ ID に対応するユーザー名が見つからない場合は

「NONE\_MAPPED」が、プロセス ID から実行ユーザー名が取得できない場合は「Unknown」が格納されます。

注 4

グループ名は、ドメイン名またはローカルシステムによってあらかじめ定義された名前です。プロセスのセキュリティ ID に対応するグループ名が見つからない場合は「NONE\_MAPPED」が、プロセス ID から実行グループ名が取得できない場合は「Unknown」が格納されます。

5. [OK] ボタンをクリックしてワークグループ情報を登録する。  
パラメーターの入力に誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーの詳細を参考にして、入力をし直してください。
6. ワークグループ情報を、さらにユーザーレコードに追加する場合は、手順 3 から手順 5 を繰り返す。
7. 目的に応じて、[プログラム名・ユーザー名・グループ名の全条件に一致 (AND)]、または [プログラム名・ユーザー名・グループ名のいずれかの条件に一致 (OR)] を選択する。

注意

[プログラム名・ユーザー名・グループ名の全条件に一致 (AND)]、または [プログラム名・ユーザー名・グループ名のいずれかの条件に一致 (OR)] で設定した内容は、[ワークグループ情報] に表示されているすべてのワークグループに適用されます。各ワークグループに対して個々に設定することはできません。

8. [終了] ボタンをクリックする。  
ユーザーレコードの設定が保存され、[PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスが閉じます。

**!** 注意事項

- Process Detail (PD) レコードおよび Workgroup Summary (PI\_WGRP) レコードについては、「5. レコード」を参照してください。
- Windows のユーザー名、グループ名については、Windows のヘルプを参照してください。

## (2) ユーザーレコードの設定を確認する

ワークグループ情報を収集するためのユーザーレコードの設定内容を確認する方法を示します。

[PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスで、ユーザーレコードに格納されるパフォーマンスデータの設定を確認する方法を示します。

1. Windows の [スタート] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。

### 3. ユーザーレコードの収集

2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PI\_WGRP レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。  
[ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. 収集対象に設定したワークグループ情報を確認する。  
[ ワークグループ設定情報 ] に表示されているワークグループ情報を確認してください。
4. 確認が終わったら、[ 終了 ] ボタンをクリックする。  
ユーザーレコードの設定が保存され、[ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスが閉じます。

#### (3) ユーザーレコードの設定を変更する

ワークグループ情報を収集するためのユーザーレコードの設定内容を変更する方法を示します。

1. Windows の [ スタート ] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[ PI\_WGRP レコードの追加・確認・削除 ] を選択する。  
[ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [ PI\_WGRP レコード設定 ] ダイアログボックスの [ ワークグループ情報 ] から、確認したいワークグループ情報を選択し、[ 変更 ] ボタンをクリックする。  
[ PI\_WGRP レコードの変更 ] ダイアログボックスが表示されます。

PI\_WGRPレコードの変更

エージェント名: jp1pcitt3<Windows>

ワークグループ名 (W): JP1-Domain

プログラム名 (P):

ユーザー名 (U): jp1???|jp1-\*

グループ名 (G): jp1

・パラメーターの指定に、ワイルドカード('\*'と'?')を使用することができます。  
・複数指定する場合、'|'で区切ってください。

OK キャンセル

4. 変更したいパラメーターの値を編集する。  
パラメーターの設定についての注意事項は「(1) ユーザーレコードを設定する」を参

照してください。

ただし、[ワークグループ名]は、変更できません。

5. [OK] ボタンをクリックする。  
パラメーターを変更した場合、パラメーターの入力に誤りがあるときは、エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーの詳細を参考にして、入力し直してください。
6. ほかのワークグループ情報の設定を変更する場合は、手順 3 から手順 5 を繰り返す。
7. 必要な場合は、[プログラム名・ユーザー名・グループ名の全条件に一致 (AND)]、または [プログラム名・ユーザー名・グループ名のいずれかの条件に一致 (OR)] を変更する。

#### 注意

[プログラム名・ユーザー名・グループ名の全条件に一致 (AND)]、または [プログラム名・ユーザー名・グループ名のいずれかの条件に一致 (OR)] で設定した内容は、[ワークグループ情報] に表示されているすべてのワークグループに適用されます。各ワークグループに対して個々に設定することはできません。

8. 変更が終わったら、[終了] ボタンをクリックする。  
ユーザーレコードの設定が保存され、[PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスが閉じます。

### (4) ユーザーレコードの設定を削除する

ワークグループ情報を収集するためのユーザーレコードの設定を削除する方法を示します。

1. Windows の [スタート] メニューから収集データ追加ユーティリティを起動する。
2. ツリーエリアからログオンしているホストの Agent Store を選択し、リストエリアで Agent Collector アイコンを右クリックして、[PI\_WGRP レコードの追加・確認・削除] を選択する。  
[PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスが表示されます。
3. [PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスの [ワークグループ情報] から、削除したいワークグループ情報を選択し、[削除] ボタンをクリックする。  
削除確認のメッセージが表示されます。
4. [OK] ボタンをクリックする。  
ワークグループ情報が削除されます。
5. ほかのワークグループ情報を削除する場合は、手順 3 と手順 4 を繰り返す。
6. 操作が終わったら [終了] ボタンをクリックする。  
ユーザーレコードの設定が保存され、[PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックスが閉じます。

### 3. ユーザーレコードの収集

#### (5) アラーム運用例

ワークグループ情報を収集する機能を用いたアラームの運用例について説明します。ここでは、同じプロセス名で複数起動しているプロセスを監視し、プロセスの起動状況が n 個以下になった場合にアラームを発行するときの設定内容について説明します。

ユーザーレコードの設定およびアラーム条件の設定内容を次に示します。

##### ユーザーレコードの設定

ワークグループ名：ワークグループ名

プログラム名：監視したいプログラム名 ( Process Detail ( PD ) レコードの Program ( INSTANCE ) フィールドに格納される値を指定します )

##### アラームに設定する条件

Workgroup Summary ( PI\_WGRP ) レコードに対して、次の条件を異常と検知するアラームを定義します。

workgroup= ワークグループ名

AND Process Count<=n

##### 注意

n はプロセス数を示します。

## 3.2.5 プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定

プロセスの稼働・非稼働情報を収集するためのユーザーレコードの設定方法を説明します。また、アラーム発生時の対応例についても説明します。

#### (1) プロセスの稼働・非稼働情報収集の概要

PFM - Agent for Platform では、プロセスの稼働・非稼働情報を収集し、PFM - Web Console で監視できます。プロセスの稼働・非稼働情報を監視することで、運用システムが正しく動作しているかどうかを確認できます。

なお、PFM - Agent for Platform 09-10 以降で実装している「プロセスの稼働・非稼働情報収集」の機能は、09-00 以前で実装していた「アプリケーションの稼働・非稼働情報収集」の機能を拡張したものです。

PFM - Agent for Platform でプロセスの稼働・非稼働情報を収集する場合、次の方法があります。

- ・ プロセス単位またはサービス単位で収集する
- ・ 複数のプロセスおよびサービスをグルーピングしてアプリケーション単位で収集する

プロセスの稼働・非稼働情報の収集は、PFM - Web Console の [ エージェント階層 ] 画面で設定します。

なお、PFM - Agent for Platform の 09-00 以前と同様の手順でプロセスの稼働・非稼働情報の収集を設定したい場合は、PFM - Web Console の [ サービス階層 ] 画面で設定で



きます。

## (2) PFM - Agent for Platform 09-00 以前との機能差異

09-00 以前の「アプリケーションの稼働・非稼働情報収集」と 09-10 以降の「プロセスの稼働・非稼働情報収集」の機能差異について次の表に示します。

表 3-4 09-00 以前と 09-10 以降の機能差異

機能	09-00 以前の「アプリケーションの稼働・非稼働情報収集」	09-10 以降の「プロセスの稼働・非稼働情報収集」
コマンドラインの取得	×	
コマンドラインの取得できる最大値	-	4096 バイト
特定のプロセスまたはサービス単位での性能情報の収集	× <sup>1</sup>	<sup>2</sup>
監視条件に指定できる最大値	127 バイト	127 バイト
PFM・Web Console で表示できる監視条件の最大値	31 バイト	127 バイト
監視対象の大文字と小文字の区別	×	<sup>3</sup>
ラベルによる監視条件の識別	×	<sup>4</sup>
プロセス監視を設定する際のグルーピング対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム ( Program )</li> <li>・ サービス ( Service Name )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム ( Program Name )</li> <li>・ コマンドライン ( Command Line )</li> <li>・ サービス ( Service Name )</li> </ul>

### ( 凡例 )

- : 実行できる。
- × : 実行できない。
- : 該当しない。

#### 注 1

すべてのプロセスまたはサービスの性能情報を収集します。

#### 注 2

プロセス監視の設定を行っているプロセスまたはサービスだけ、性能情報を収集します。

#### 注 3

デフォルトの設定では、監視対象の大文字と小文字を区別しません。詳細については、「(6) 監視対象の大文字と小文字の区別」を参照してください。

#### 注 4

MonitoringXX Label フィールドを使用してプロセスまたはサービスを識別できます。

jpcappcvr コマンドを使用することで、09-00 以前で設定したアプリケーション定義を、09-10 以降のアプリケーション定義にバージョンアップできます。jpcappcvr コマンドの詳細については、「6. コマンド」を参照してください。

### 3. ユーザーレコードの収集

#### 参考

09-00 以前で設定したアプリケーション定義を拡張しない場合は、バージョンアップは必要ありません。

### (3) プロセスの稼働・非稼働情報の収集に使用するレコード

PFM・Agent for Platform でプロセスの稼働・非稼働情報の収集に使用するレコードを次の表に示します。

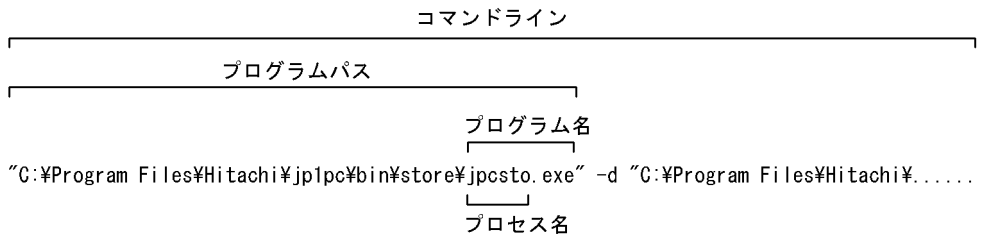
表 3-5 プロセスの稼働・非稼働情報の収集に使用するレコード（プロセス単位またはサービス単位で収集する場合）

レコード	監視対象	格納される情報	収集方法
Application Process Overview (PD_APS)	プロセス	プロセスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。	リアルタイム
Application Process Interval (PD_APSI)		プロセス監視の設定を行っているプロセスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイム</li> <li>履歴</li> </ul>
Application Service Overview (PD_ASVC)	サービス	サービス制御マネージャー（SCM）に登録されている、Win32 プロセスなどのアプリケーションサービスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。	リアルタイム

表 3-6 プロセスの稼働・非稼働情報の収集に使用するレコード（アプリケーション単位で収集する場合）

レコード	監視対象	格納される情報	収集方法
Application Summary Extension (PD_APP2)	プロセスおよびサービス	Application Process Overview (PD_APS) レコードおよび Application Service Overview (PD_ASVC) レコードに格納されるレコードを、アプリケーションを単位に、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイム</li> <li>履歴</li> </ul>
Application Process Detail (PD_APPD)		Application Process Overview (PD_APS) レコードおよび Application Service Overview (PD_ASVC) レコードに格納されるレコードを、アプリケーション単位で監視しているプロセスおよびサービスごとに、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータ。	

プロセスの稼働・非稼働監視の設定で使用する「プロセス名」、「プログラム名」、「プログラムパス」、および「コマンドライン」の関係について、例を使って説明します。



#### (4) エージェント階層での設定

ここでは、プロセスの稼働・非稼働情報を収集するために PFM - Web Console の [ エージェント階層 ] 画面で行う設定、設定内容の変更、および設定の削除について説明します。

また、設定の操作を簡略化するためのアプリケーション定義のテンプレートの利用方法についても説明します。

エージェント階層での設定は、PFM - Web Console 09-10 以降で実行できます。

この説明では、PFM - Web Console 09-10 の画面を掲載しています。

##### (a) ユーザーレコード (監視対象) を設定する

監視対象は、次の流れで設定します。

1. アプリケーションを作成する
2. 監視エージェントにアラームテーブルをバインドする

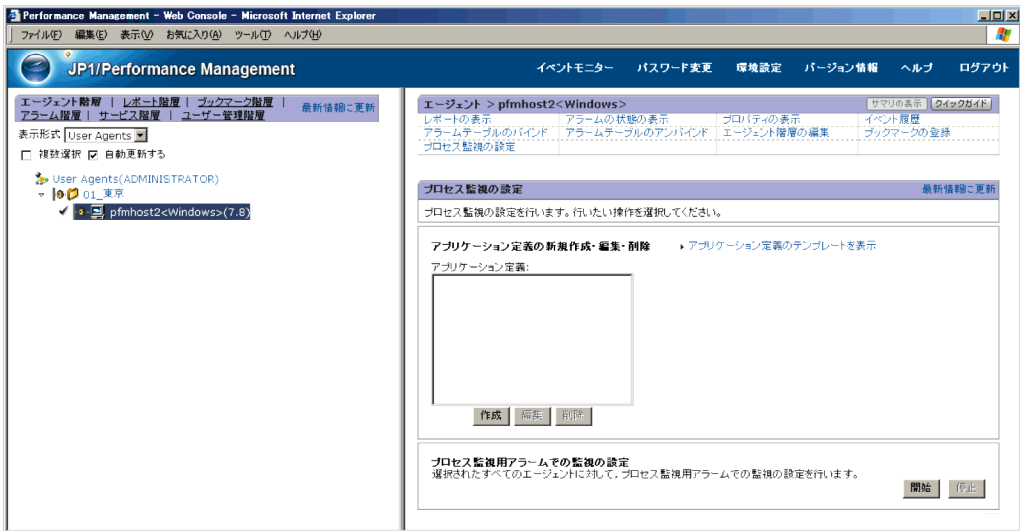
プロセス単位またはサービス単位で稼働・非稼働情報を収集する場合、アプリケーション作成時に、アプリケーションにプロセスまたはサービスを一つだけ設定します。アプリケーション単位で稼働・非稼働情報を収集する場合、アプリケーション作成時に、アプリケーションにプロセスまたはサービスを複数設定します。

監視対象の設定方法の詳細を次に示します。

##### アプリケーションを作成する

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[ メイン ] 画面が表示されます。
2. [ メイン ] 画面のナビゲーションフレームの [ エージェント階層 ] タブを選択する。  
[ エージェント階層 ] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [ プロセス監視の設定 ] メソッドを選択する。  
[ プロセス監視の設定 ] 画面が表示されます。

### 3. ユーザーレコードの収集



5. 新規に設定する場合は、[ 作成 ] ボタンをクリックする。設定を変更する場合は、[ アプリケーション定義 ] から変更したいアプリケーション定義を選択し、[ 編集 ] ボタンをクリックする。

アプリケーション定義は、複数選択できません。

[ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 ] 画面または [ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集 ] 画面が表示されます。



6. 新規作成の場合、[ アプリケーション定義名 ] にアプリケーション定義名を指定する。アプリケーション定義名、および指定する文字列については、次の規則に従ってください。

- ユーザーが任意のアプリケーション定義名を指定できます。指定したアプリケー

シヨン定義名は、PD\_APP2 レコード、PD\_APPD レコード、および PD\_APSI レコードの「Application Name」フィールドに格納され、アプリケーションを特定するための識別子として利用されます。そのため、アプリケーション定義名は、ユニークな名称を指定してください。

- 指定できる文字は、次の文字を除く半角英数字および半角記号です。1 ~ 63 バイトの範囲で指定できます。

タブ文字 (¥t) ¥ : ; , \* ? " ' <> |

- 設定できるアプリケーションの数は、64 個までです。

#### 7. アプリケーションの詳細情報を設定する。

[ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 ] 画面または [ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集 ] 画面で設定できる詳細情報を次の表に示します。

表 3-7 設定できるアプリケーションの詳細情報

設定項目名	設定内容	対応するレコードのフィールド名
名称 <sup>1</sup>	監視対象を特定するための条件を入力します。指定できる文字はタブ文字 (¥t) を除く半角英数字および半角記号です。127 バイト以内で指定できます。	PD_APPD レコードの「Monitoring Condition」フィールド
ラベル	監視条件を特定するためのラベルを指定します。指定できる文字はタブ文字 (¥t) を除く半角英数字および半角記号です。31 バイト以内で指定できます。 デフォルトは「MonitoringXX <sup>2</sup> 」です。何も入力しない場合は、デフォルトの「MonitoringXX <sup>2</sup> 」が設定されます。監視ラベルは、ユニークな名称を指定してください。	PD_APPD レコード、PD_APSI レコードの「Monitoring Label」フィールド
種別	「プログラム」、「コマンドライン」、「サービス」、「選択なし」のどれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム PD_APS レコードの「Program Name」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>コマンドライン PD_APS レコードの「Command Line」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>サービス PD_ASVC レコードの「Service Name」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>選択なし 評価しません。</li> </ul>	PD_APPD レコード、PD_APSI レコードの「Monitoring Field」フィールド
下限	監視対象数のしきい値の下限値を入力します。設定できる値は 0 ~ 65535 です。デフォルトは「0」です。	PD_APPD レコードの「Monitoring Min」フィールド

### 3. ユーザーレコードの収集

設定項目名	設定内容	対応するレコードのフィールド名
上限	監視対象数のしきい値の上限値を入力します。設定できる値は0～65535です。ただし、[下限]の指定値以上の値を指定する必要があります。デフォルトは「0」です。	PD_APPD レコードの「Monitoring Max」フィールド

#### 注 1

- 127バイトを超えるプロセスを監視する場合は、ワイルドカード（「\*」と「?」）を使用して、127バイト以内で指定してください。  
「\*」は0個以上の任意の文字、「?」は任意の1文字を意味します。
- [名称]で指定した監視条件から監視対象を特定するときに、デフォルトでは、大文字と小文字は区別されません。監視条件から監視対象を特定するときに、大文字と小文字を区別するかどうかの設定を変更する方法については、「(6) 監視対象の大文字と小文字の区別」を参照してください。
- [種別]に「プログラム」を指定したときは、[名称]にWindowsのプログラムの拡張子（.exe など）を指定してください。
- [名称]には、PD\_APS レコードの「Program Name」フィールド、PD\_APS レコードの「Command Line」フィールド、およびPD\_ASVC レコードの「Service Name」フィールドを確認して、これらのフィールドと同じ文字列を入力する必要があります。  
取得元の情報にASCIIコードの文字（0x20～0x7E）以外が含まれる場合、PD\_APS レコードの「Program Name」フィールド、PD\_APS レコードの「Command Line」フィールド、またはPD\_ASVC レコードの「Service Name」フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」（全角）は次のように変換されません。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#`
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

#### 注 2

「XX」には01～15までの数値が入ります。PD\_APPD レコードおよびPD\_APSI レコードの「Monitoring Number」フィールドに対応した数値が設定されます。

## 参考

[入力支援機能]の[エージェント]プルダウンメニューから監視対象の Agent Collector サービスを選択し,[実行]ボタンをクリックすると,[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成>監視対象種別一覧から追加]画面 または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集>監視対象種別一覧から追加]画面 が表示されて,プロセスを選択してプロパティを設定できます。

## 注

監視対象種別には,[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成]画面または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集]画面の[種別]の指定内容によって,「稼働中のプログラム」,「稼働中のコマンドライン」,または「サービス」が表示されます。

[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成]画面または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集]画面の[種別]に「プログラム」を指定した場合は「稼働中のプログラム」が,「コマンドライン」を指定した場合は「稼働中のコマンドライン」が,「サービス」を指定した場合は「サービス」が表示されます。デフォルトでは「稼働中のプログラム」が表示されます。

## 8. [OK] ボタンをクリックする。

設定内容が有効になります。

なお,「アプリケーションを作成する」の手順 7.以降で,[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成>監視対象種別一覧から追加]画面 または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集>監視対象種別一覧から追加]画面 からプロパティを設定する場合の手順を次に示します。

## 注

監視対象種別には,[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成]画面または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集]画面の[種別]の指定内容によって,「稼働中のプログラム」,「稼働中のコマンドライン」,または「サービス」が表示されます。

[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成]画面または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集]画面の[種別]に「プログラム」を指定した場合は「稼働中のプログラム」,「コマンドライン」を指定した場合は「稼働中のコマンドライン」,「サービス」を指定した場合は「サービス」が表示されます。デフォルトでは「稼働中のプログラム」が表示されます。

1. 「アプリケーションを作成する」の手順 1. ~ 6. を実行する。
2. [入力支援機能]の[エージェント]プルダウンメニューから監視対象の Agent Collector サービスを選択し,[実行]ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定>アプリケーション定義の新規作成>監視対象種別一覧から追加]画面または [プロセス監視の設定>アプリケーション定義の編集>監視対象種別一覧から追加]画面が表示されます。

### 3. ユーザーレコードの収集



3. [一覧]の左側のプルダウンメニューから監視対象の種別(「稼働中のプログラム」, 「稼働中のコマンドライン」, 「サービス」のどれか)を選択し, [選択] ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 > 監視対象種別一覧から追加] 画面または [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集 > 監視対象種別一覧から追加] 画面の下部にプロセスの一覧が表示されます。  
プロセスの一覧で, [絞り込み] にキーワードを指定して [実行] ボタンをクリックすると, プロセス名にキーワードを含むプロセスだけを表示できます。[解除] ボタンをクリックすると, 元のプロセスの一覧に戻ります。
4. プロセスの一覧から監視したいプロセスを選択し, [OK] ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 > 監視対象種別一覧から追加] 画面または [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集 > 監視対象種別一覧から追加] 画面が閉じて, [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成] 画面または [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集] 画面に戻ります。
5. [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成] 画面または [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の編集] 画面で, 必要な設定項目を変更する。  
設定項目については, 表 3-7 を参照してください。
6. [OK] ボタンをクリックする。  
設定内容が有効になります。

#### 監視エージェントにアラームテーブルをバインドする

監視エージェントに, 稼働・非稼働情報を監視するためのアラームテーブルをバインドします。稼働・非稼働情報を監視するためのアラームは, Application Status アラームです。必要に応じて編集してください。Application Status は, 「4. 監視テンプレート」



の「Application Status」を参照してください。

アラームテーブルをバインドする場合、次の方法があります。

- PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10 のアラームテーブルをバインドする
- ユーザーが作成したアラームテーブルをバインドする

PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10 のアラームテーブルをバインドする方法

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン]画面が表示されます。
2. [メイン]画面のナビゲーションフレームの[エージェント階層]タブを選択する。  
[エージェント階層]画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの[プロセス監視の設定]メソッドを選択する。  
[プロセス監視の設定]画面が表示されます。
5. [プロセス監視用アラームでの監視の設定]の[開始]ボタンをクリックする。  
監視エージェントに、アラームテーブルがバインドされます。

ユーザーが作成したアラームテーブルをバインドする方法

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン]画面が表示されます。
2. [メイン]画面のナビゲーションフレームの[エージェント階層]タブを選択する。  
[エージェント階層]画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの[アラームテーブルのバインド]メソッドを選択する。  
[アラームテーブルのバインド [アラームテーブル選択]]画面が表示されます。
5. [Windows]フォルダの下位に表示されるアラームテーブルを選択し、[OK]ボタンをクリックする。  
監視エージェントに、アラームテーブルがバインドされます。

特定のプロセスの状態だけを監視する場合は、次の条件式のアラームを作成して、監視できます。

表 3-8 特定のプロセスの状態だけを監視する場合の条件式

設定項目	条件式
レコード	Application Process Count (PD_APPD)

### 3. ユーザーレコードの収集

設定項目	条件式
フィールド	Application Name Monitoring Label Monitoring Status
異常条件および警告条件 <sup>1</sup>	Application Name = Name <sup>2</sup> AND Monitoring Label = Label <sup>2</sup> AND Monitoring Status = ABNORMAL

注 1

異常条件と警告条件には、同じ条件を指定します。

注 2

監視したいアプリケーション名と監視ラベルを指定します。

#### (b) ユーザーレコード（監視対象）を削除する

監視対象を削除する方法を次に示します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームの [エージェント階層] タブを選択する。  
[エージェント階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [プロセス監視の設定] メソッドを選択する。  
[プロセス監視の設定] 画面が表示されます。
5. [アプリケーション定義] から、削除したいアプリケーション定義を選択し、[削除] ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の削除] 画面が表示されます。
6. [OK] ボタンをクリックする。  
設定内容が削除されます。

#### (c) アプリケーション定義のテンプレートを利用する

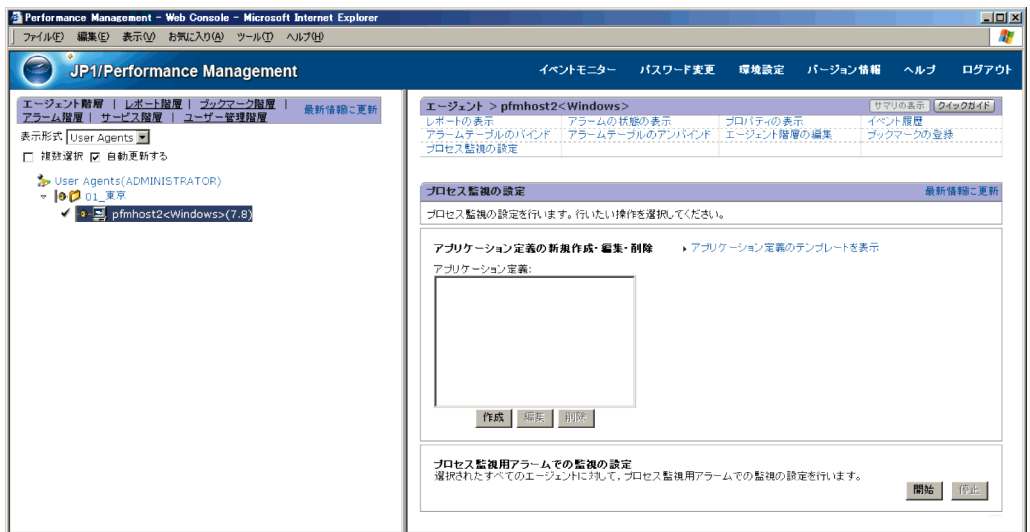
PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面で設定したプロセスの稼働・非稼働情報を収集するための設定（アプリケーション定義）を、テンプレートに保存して、複数のマシンで利用できます。

アプリケーション定義のテンプレートの作成方法、削除方法、および読み込み方法を次に示します。

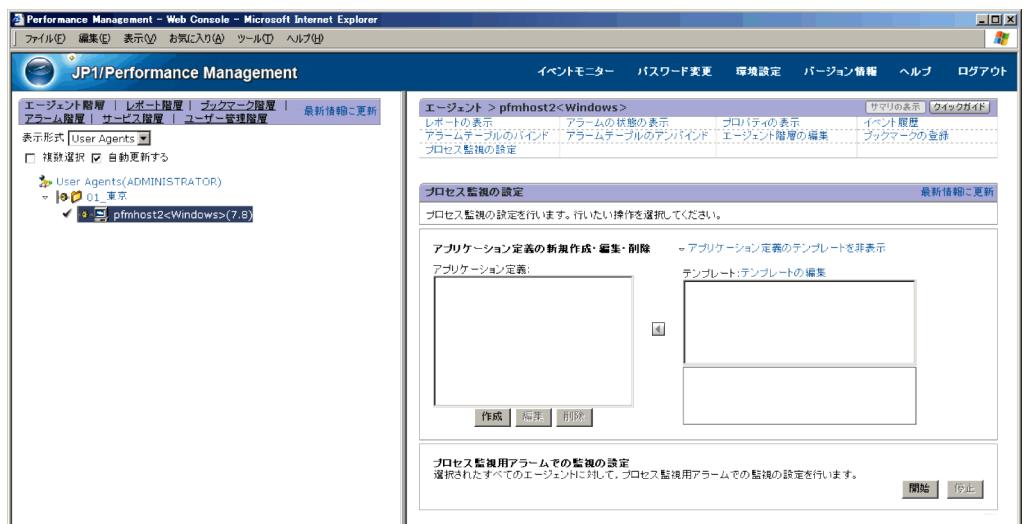
アプリケーション定義のテンプレートを作成する

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。

- [メイン]画面が表示されます。
- [メイン]画面のナビゲーションフレームの[エージェント階層]タブを選択する。  
[エージェント階層]画面が表示されます。
  - ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
  - メソッドフレームの[プロセス監視の設定]メソッドを選択する。  
[プロセス監視の設定]画面が表示されます。



- [アプリケーション定義のテンプレートを表示]メニューを選択する。  
[テンプレートの編集]メニューが表示されます。



### 3. ユーザーレコードの収集

6. [ テンプレートの編集 ] メニューを選択する。

[ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレート ] 画面が表示されます。



7. テンプレートを新規に作成する場合は, [ 作成 ] ボタンをクリックする。設定内容を変更する場合は, [ アプリケーション定義のテンプレート ] から変更したいテンプレートを選択し, [ 編集 ] ボタンをクリックする。

[ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレートの新規作成 ] 画面または [ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレートの編集 ] 画面が表示されます。



8. [ テンプレート名 ] にテンプレートの名称を入力する。

9. [ 説明 ] にテンプレートの説明を入力する。

10. アプリケーションの詳細情報を設定する。

設定項目については、「(a) ユーザーレコード (監視対象) を設定する」の表 3-7 を参照してください。

11. [OK] ボタンをクリックする。  
アプリケーション定義のテンプレートが作成されます。  
アプリケーション定義のテンプレートを削除する
1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームの [エージェント階層] タブを選択する。  
[エージェント階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [プロセス監視の設定] メソッドを選択する。  
[プロセス監視の設定] 画面が表示されます。
5. [アプリケーション定義のテンプレートを表示] メニューを選択する。  
[テンプレートの編集] メニューが表示されます。
6. [テンプレートの編集] メニューを選択する。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレート] 画面が表示されます。
7. [アプリケーション定義のテンプレート] から削除したいテンプレートを選択し、[削除] ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレートの削除] 画面が表示されます。
8. [OK] ボタンをクリックする。  
アプリケーション定義のテンプレートが削除されます。  
アプリケーション定義のテンプレートを読み込む
1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームの [エージェント階層] タブを選択する。  
[エージェント階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [プロセス監視の設定] メソッドを選択する。  
[プロセス監視の設定] 画面が表示されます。
5. [作成] ボタンをクリックする。  
[プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成] 画面が表示されます。

### 3. ユーザーレコードの収集

6. [ テンプレート読み込み ] ボタンをクリックする。  
[ プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 > アプリケーション定義のテンプレートから入力 ] 画面が表示されます。



7. [ アプリケーション定義のテンプレート ] から読み込みたいテンプレートを選択し、  
[ 選択 ] ボタンをクリックする。  
アプリケーション定義のテンプレートが読み込まれます。

### (5) サービス階層での設定

ここでは、プロセスの稼働・非稼働情報を収集するために PFM・Web Console の [ サービス階層 ] 画面で行う設定、設定内容の確認、設定内容の変更、および設定の削除について説明します。

#### (a) ユーザーレコード（監視対象）を設定する

監視対象は、次の流れで設定します。

1. アプリケーションを作成する
2. アプリケーションのプロパティ（監視するアプリケーション名やしきい値）を設定する
3. 監視エージェントにアラームテーブルをバインドする

#### 注

アラームテーブルのバインドは、PFM・Web Console の [ エージェント階層 ] 画面で実行します。

プロセス単位またはサービス単位で稼働・非稼働情報を収集する場合、アプリケーション作成時に、アプリケーションにプロセスまたはサービスを一つだけ設定します。アプリケーション単位で稼働・非稼働情報を収集する場合、アプリケーション作成時に、アプリケーションにプロセスまたはサービスを複数設定します。

監視対象の設定方法の詳細を次に示します。

## アプリケーションを作成する

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン]画面が表示されます。
2. [メイン]画面のナビゲーションフレームの[サービス階層]タブを選択する。  
[サービス階層]画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームの[Machines]フォルダの下位の階層を展開する。  
Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。  
各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」、およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の、サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。  
サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。
4. 監視エージェントホストのフォルダの下位にある階層を展開し、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの[プロパティ]メソッドを選択する。  
[サービスのプロパティ]画面が表示されます。
6. [Advanced application monitoring] - [ADDITION OR DELETION A SETTING] ツリーを選択する。
7. インフォメーションフレームの下部の[ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING] にアプリケーション名を指定する。  
アプリケーション名、および指定する文字列については、次の規則に従ってください。
  - ユーザーが任意のアプリケーション名を指定できます。指定したアプリケーション名は、PD\_APP2 レコードおよび PD\_APPD レコードの「Application Name」フィールドに格納され、アプリケーションを特定するための識別子として利用されます。そのため、アプリケーション名は、ユニークな名称を指定してください。
  - 指定できる文字は、次の文字を除く半角英数字および半角記号です。1 ~ 63 バイトの範囲で指定できます。  
タブ文字 (¥t) ¥ : ; , \* ? " ' <> |
  - 設定できるアプリケーションの数は、64 個までです。
8. [OK] ボタンをクリックする。  
[サービスのプロパティ]画面の[Advanced application monitoring] -

### 3. ユーザーレコードの収集

[ Application monitoring setting ] ツリーの低位に、アプリケーション名のツリーが生成されます。

アプリケーションのプロパティを設定する

1. 「アプリケーションを作成する」の手順を実行したあと、再び [ サービスのプロパティ ] 画面を表示し、[ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーの低位に生成されたアプリケーション名のツリーを選択する。  
インフォメーションフレームの下部に、プロパティ情報の入力画面が表示されます。
2. アプリケーションのプロパティを設定する。  
監視ラベル、監視フィールド、監視条件、および監視対象数のしきい値の下限値と上限値を設定します。複数のプロセス情報を設定できます。アプリケーションのプロパティの設定項目を次の表に示します。

表 3-9 アプリケーションのプロパティの設定項目

設定項目	プロパティ名	設定内容	対応するレコードのフィールド名
監視ラベル	MonitoringXX Label	監視条件を特定するためのラベルを指定します。 指定できる文字はタブ文字 (¥t) を除く半角英数字および半角記号です。31 バイト以内で指定できます。 デフォルトは「MonitoringXX <sup>1</sup> 」です。 何も入力しない場合は、「MonitoringXX <sup>1</sup> 」が設定されます。 監視ラベルは、ユニークな名称を指定してください。	PD_APPD レコードの「Monitoring Label」フィールド



設定項目	プロパティ名	設定内容	対応するレコードのフィールド名
監視フィールド	MonitoringXX Field	<p>「Program Name」、「Command Line」、「Service Name」、「None」のどれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Program Name PD_APS レコードの「Program Name」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>Command Line PD_APS レコードの「Command Line」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>Service Name PD_ASVC レコードの「Service Name」フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>None 評価しません。</li> </ul> <p>デフォルトは「None」です。</p>	PD_APPD レコードの「Monitoring Field」フィールド
監視条件 <sup>2</sup>	MonitoringXX Condition	<p>監視対象を特定するための条件を入力します。指定できる文字はタブ文字(␣)を除く半角英数字および半角記号です。127 バイト以内で指定できます。デフォルトは空白です。</p>	PD_APPD レコードの「Monitoring Condition」フィールド
監視対象数のしきい値の下限値と上限値	MonitoringXX Range	<p>監視対象数のしきい値の下限値と上限値を、「1-2」のようにハイフン(-)でつないで入力します。設定できる値は 0 ~ 65535 です。デフォルトは「0-0」です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下限値 PD_APPD レコードの「Monitoring Min」フィールド</li> <li>上限値 PD_APPD レコードの「Monitoring Max」フィールド</li> </ul>

## 注 1

「XX」には 01 ~ 15 までの数値が入ります。PD\_APPD レコードの「Monitoring Number」フィールドに対応した数値が設定されます。

## 注 2

- 名称が 127 バイトを超えるプロセスを監視する場合は、ワイルドカード(「\*」と「?」)を使用して、127 バイト以内で指定してください。  
「\*」は 0 個以上の任意の文字、「?」は任意の 1 文字を意味します。
- 監視条件から監視対象を特定するときに、デフォルトでは、大文字と小文字は区別されません。監視条件から監視対象を特定するときに、大文字と小文字を区別するかどうかの設定を変更する方法については、「(6) 監視対象の大文字と小文字の区

### 3. ユーザーレコードの収集

別」を参照してください。

- [ MonitoringXX Field ] プロパティに「Program Name」を指定したときは、[ MonitoringXX Condition ] プロパティに Windows のプログラムの拡張子 (.exe など) を指定してください。
- MonitoringXX Condition プロパティには、PD\_APS レコードまたは PD\_APSI レコードの「Program Name」フィールド、PD\_APS レコードの「Command Line」フィールド、および PD\_ASVC レコードの「Service Name」フィールドを確認して、これらのフィールドと同じ文字列を入力する必要があります。  
取得元の情報に ASCII コードの文字 ( 0x20 ~ 0x7E ) 以外が含まれる場合、PD\_APS レコードまたは PD\_APSI レコードの「Program Name」フィールド、PD\_APS レコードの「Command Line」フィールド、および PD\_ASVC レコードの「Service Name」フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1 バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」( 全角 ) は次のように変換されます。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#`
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

3. [ OK ] ボタンをクリックする。  
設定内容が有効になります。

#### 監視エージェントにアラームテーブルをバインドする

監視エージェントに、稼働・非稼働情報を監視するためのアラームテーブルをバインドします。稼働・非稼働情報を監視するためのアラームは、Application Status アラームです。必要に応じて編集してください。Application Status アラームの詳細については、「4. 監視テンプレート」の「Application Status」を参照してください。

アラームテーブルをバインドする方法を次に示します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[ メイン ] 画面が表示されます。
2. [ メイン ] 画面のナビゲーションフレームの [ エージェント階層 ] タブを選択する。  
[ エージェント階層 ] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームのエージェント階層で、ホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [ アラームテーブルのバインド ] メソッドを選択する。

[ アラームテーブルのバインド [ アラームテーブル選択 ] ] 画面が表示されます。

- [ Windows ] フォルダの下位に表示されるアラームテーブルを選択し, [ OK ] ボタンをクリックする。

監視エージェントに, アラームテーブルがバインドされます。

特定のプロセスの状態だけを監視する場合は, 次の条件式のアラームを作成して, 監視できます。

表 3-10 特定のプロセスの状態だけを監視する場合の条件式

設定項目	条件式
レコード	Application Process Count (PD_APPD)
フィールド	Application Name Monitoring Label Monitoring Status
異常条件および警告条件 <sup>1</sup>	Application Name = Name <sup>2</sup> AND Monitoring Label = Label <sup>2</sup> AND Monitoring Status = ABNORMAL

注 1

異常条件と警告条件には, 同じ条件を指定します。

注 2

監視したいアプリケーション名と監視ラベルを指定します。

- ユーザーレコード (監視対象) の設定内容を確認または変更する

プロセスの稼働・非稼働情報を収集するための監視対象の設定の確認方法または変更方法を次に示します。

- 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。

[ メイン ] 画面が表示されます。

- [ メイン ] 画面のナビゲーションフレームの [ サービス階層 ] タブを選択する。

[ サービス階層 ] 画面が表示されます。

- ナビゲーションフレームの [ Machines ] フォルダの下位の階層を展開する。

Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また, ホスト名が付いたフォルダを展開すると, そのホストにインストールされているサービスが表示されます。

各サービスの名前は, サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」, およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の, サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。

サービス ID の形式は, プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。

プロダクト名表示機能の詳細については, マニュアル「JP1/Performance

Management 設計・構築ガイド」の, Performance Management の機能について説

### 3. ユーザーレコードの収集

明している章を参照してください。

4. 監視エージェントホストのフォルダの下位にある階層を展開し、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの [ プロパティ ] メソッドを選択する。  
[ サービスのプロパティ ] 画面が表示されます。
6. [ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーを展開し、確認したいアプリケーション名のツリーを選択する。
7. 設定内容を確認する。
8. 設定内容を更新する場合は、「(a) ユーザーレコード (監視対象) を設定する」の「アプリケーションのプロパティを設定する」の手順 2. に従って設定する。
9. [ OK ] ボタンをクリックする。  
手順 8. で設定内容を更新した場合は、変更内容が有効になります。

#### (c) ユーザーレコード (監視対象) を削除する

監視対象を削除する方法を次に示します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[ メイン ] 画面が表示されます。
2. [ メイン ] 画面のナビゲーションフレームの [ サービス階層 ] タブを選択する。  
[ サービス階層 ] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームの [ Machines ] フォルダの下位の階層を展開する。  
Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。  
各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」、およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の、サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。  
サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。  
プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。
4. 監視エージェントホストのフォルダの下位にある階層を展開し、ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの [ プロパティ ] メソッドを選択する。  
[ サービスのプロパティ ] 画面が表示されます。

6. [ Advanced application monitoring ] - [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーを選択する。
7. インフォメーションフレーム下部の [ DELETE AN APPLICATION MONITORING SETTING ] で削除したい監視対象のアプリケーション名を選択し, [ OK ] ボタンをクリックする。  
設定内容が削除されます。

## (6) 監視対象の大文字と小文字の区別

監視対象となるプロセス名またはサービス名について、大文字と小文字を区別するかどうかを設定できます。デフォルトでは大文字と小文字が区別されません。

監視対象の大文字と小文字を区別するかどうかは、次の手順で変更します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[ メイン ] 画面が表示されます。
2. [ メイン ] 画面のナビゲーションフレームの [ サービス階層 ] タブを選択する。  
[ サービス階層 ] 画面が表示されます。
3. サービス階層からホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択する。  
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
4. メソッドフレームの [ プロパティ ] メソッドを選択する。  
[ サービスのプロパティ ] 画面が表示されます。
5. [ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーを選択する。  
インフォメーションフレームの下部に、プロパティ情報の入力画面が表示されます。
6. Case Sensitive プロパティの値を変更する。  
次のどちらかを選択します。
  - Yes : 大文字と小文字を区別する
  - No : 大文字と小文字を区別しない
7. [ OK ] ボタンをクリックする。  
設定が反映されます。

Case Sensitive プロパティの値による動作の違いについて、次の表に例を示します。

表 3-11 Case Sensitive プロパティの値による動作の違い

稼働しているプロセス名	MonitoringXX Condition プロパティの設定値	Case Sensitive プロパティの設定値	プロセス数
ProcessA PROCESSA	ProcessA	Yes	1
		No	2
	PROCESSA	Yes	1
		No	2

### 3. ユーザーレコードの収集

稼働しているプロセス名	MonitoringXX Condition プロパティの設定値	Case Sensitive プロパティの設定値	プロセス数
	processa	Yes	0
		No	2

(凡例)

Yes : 大文字と小文字を区別します。

No : 大文字と小文字を区別しません。

ここでは、PFM - Agent ホストで「ProcessA」、「PROCESSA」の2種類のプロセスが稼働している環境で、MonitoringXX Condition プロパティおよび Case Sensitive プロパティの設定値による、稼働していると判定されるプロセス数の違いを示しています。

注意

Case Sensitive プロパティの設定は、すべてのアプリケーション定義に影響します。

Case Sensitive プロパティの設定を変更した場合、既存のアプリケーション定義を見直してください。

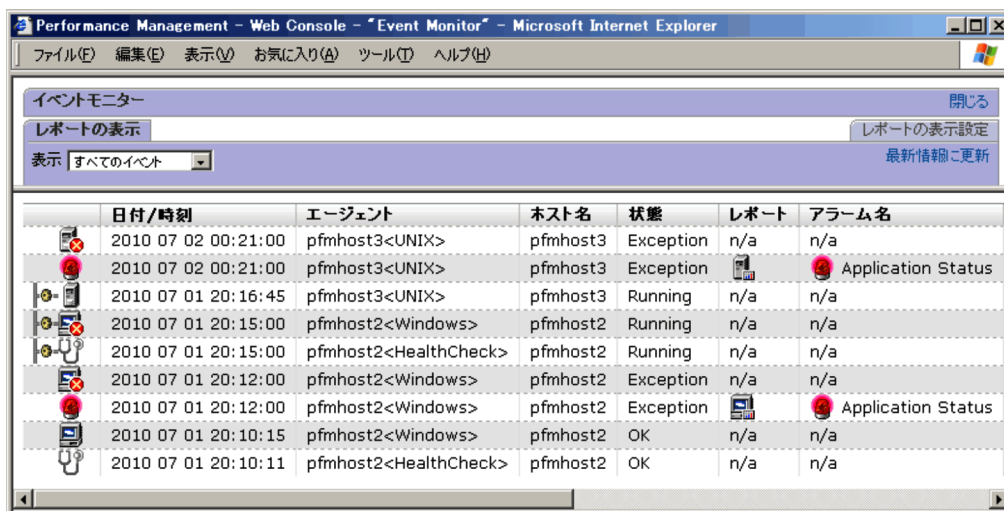
#### (7) アラーム発生時の対応例

プロセスの稼働・非稼働監視が設定されている場合、アラーム発生時に、警告となったプロセスを特定する手順の例を次に示します。

アラームおよびレポートの詳細については、「4. 監視テンプレート」を参照してください。

この説明では、PFM - Web Console 09-10 の画面を掲載しています。

1. [メイン]画面のメニューバーフレームの[イベントモニター]メニューを選択する。  
[イベントモニター]画面が表示されます。



- 警告が発生しているアラームのレポートアイコンをクリックする。  
Application Status レポートが表示されます。

Performance Management - Web Console - "Application Status" - Microsoft Internet Explorer

Application Status : pfmhost2<Windows>      ブックマーク | レポート定義の保存 | 説明 | 閉じる

レポートの表示   プロパティの表示   レポート定義の編集   レポートの表示設定   2010 07 05 10:59:53 (60s) GMT+09:00

グラフ    一覧    表      最新情報ご更新 | 停止

Record Time	Application Name	Application Status	Application Exist	Record Time
2010 07 05 10:59:53	application1	ABNORMAL	ABNORMAL	2010 07 05 10:59:53
2010 07 05 10:59:53	application2	NORMAL	NORMAL	2010 07 05 10:59:53
2010 07 05 10:59:53	application3	NORMAL	NORMAL	2010 07 05 10:59:53
2010 07 05 10:59:53	application4	NORMAL	NORMAL	2010 07 05 10:59:53
2010 07 05 10:59:53	application5	NORMAL	NORMAL	2010 07 05 10:59:53

- [ Application Status ] または [ Application Exist ] の値が「ABNORMAL」となっている行を確認し、警告が発生しているアプリケーションを特定する。
- [ Application Name ] で、警告が発生しているアプリケーションを選択する。  
ここでは、「application1」を選択します。  
Application Process Status レポートが表示されます。

Performance Management - Web Console - "Application Process Status" - Microsoft Internet Explorer

Application Process Status : pfmhost2<Windows>      ブックマーク | レポート定義の保存 | 説明 | 閉じる

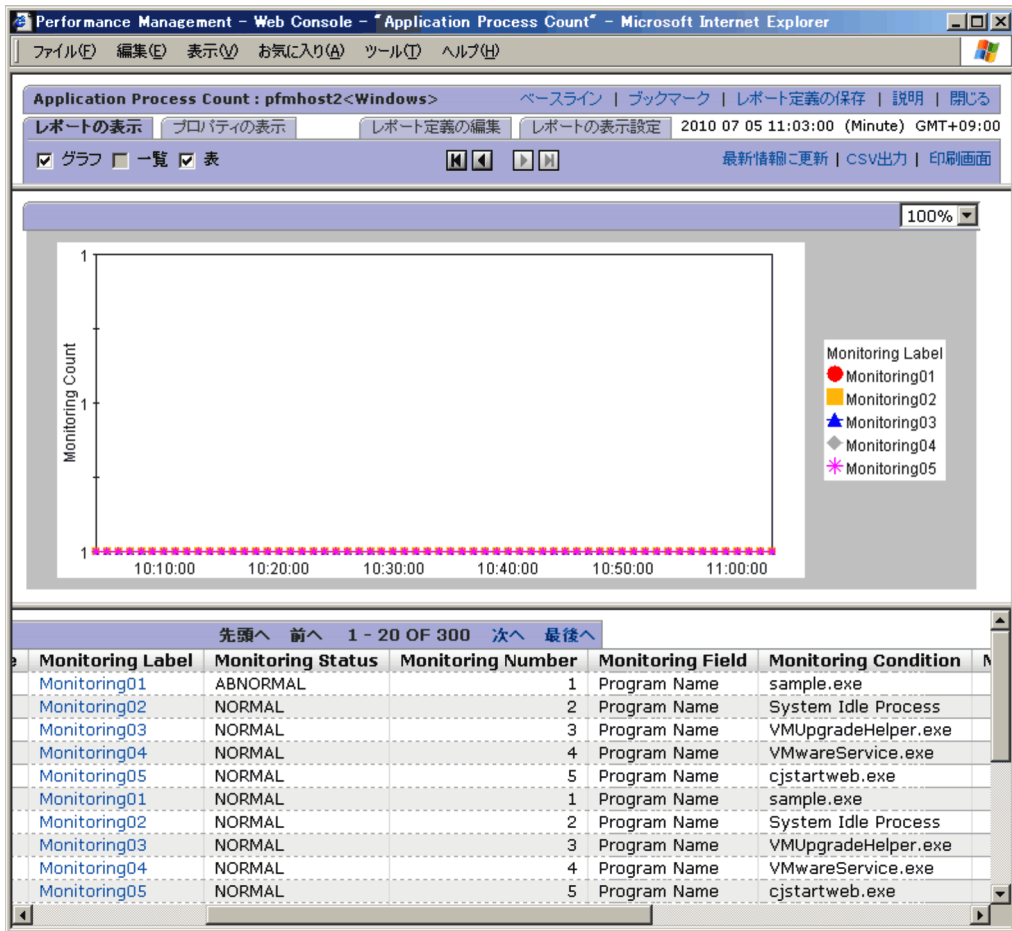
レポートの表示   プロパティの表示   レポート定義の編集   レポートの表示設定   2010 07 05 11:01:11 (60s) GMT+09:00

グラフ    一覧    表      最新情報ご更新 | 停止

Monitoring Status	Monitoring Min	Monitoring Max	Monitoring Count	Monitoring Number	Monitoring Field	Monitoring Condition
ABNORMAL	0	0	1	1	Program Name	sample.exe
NORMAL	0	0	1	2	Program Name	System Idle Process
NORMAL	0	0	1	3	Program Name	VMUpgradeHelper.exe
NORMAL	0	0	1	4	Program Name	VMwareService.exe
NORMAL	0	0	1	5	Program Name	cjstartweb.exe

- [ Monitoring Status ] の値が「ABNORMAL」となっている行を確認し、警告が発生しているプロセスを特定する。  
ここでは、「sample.exe」で警告が発生していることが特定できます。
- PD\_APPD レコードの履歴データを収集している場合、必要に応じて [ Monitoring Count ] の値を選択する。  
Application Process Count レポートが表示されます。各プロセスの状態やプロセス数の増減に関する履歴が確認できます。

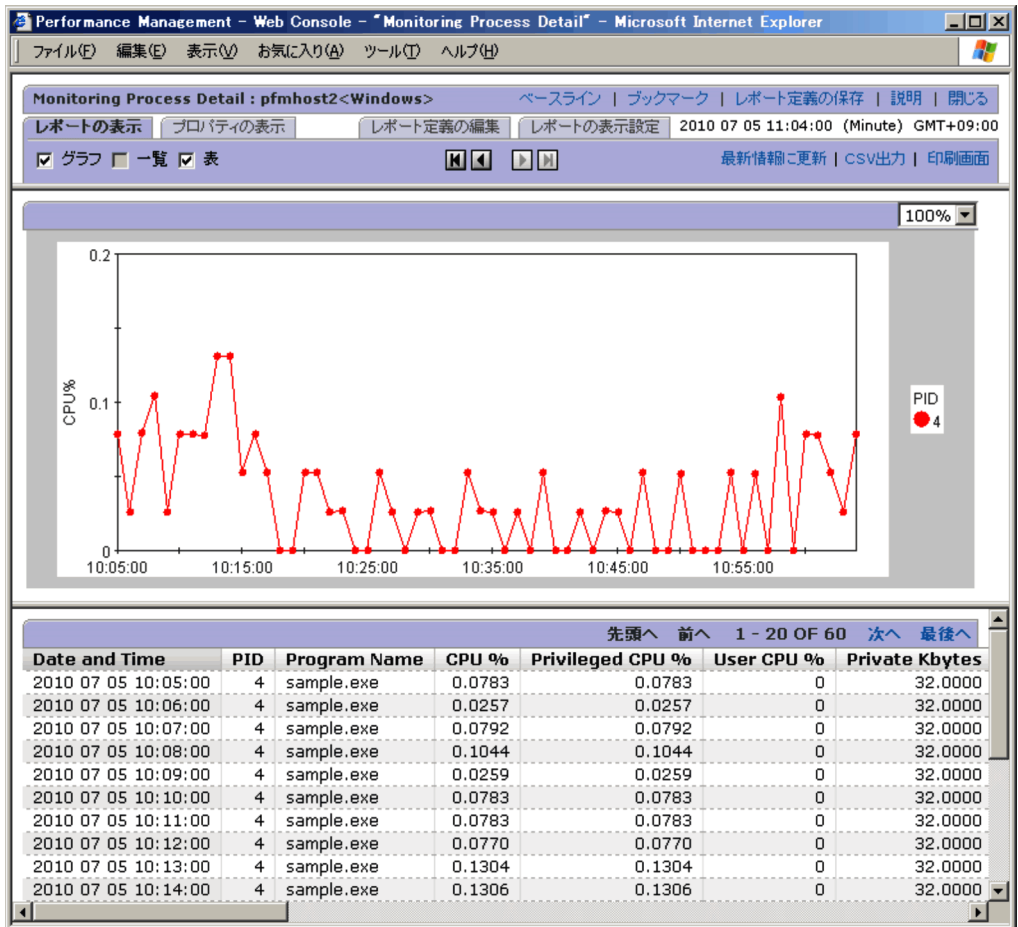
### 3. ユーザーレコードの収集



7. PD\_APSI レコードの履歴データを収集している場合、必要に応じて [ Monitoring Label ] の値を選択する。

Monitoring Process Detail レポートが表示されます。プロセス監視の設定を行っている特定のプロセスについての性能情報が確認できます。





### 注意

イベントモニターから Application Status レポート（リアルタイムレポート）を表示するタイミング，または Application Status レポートから Application Process Status レポート（リアルタイムレポート）を表示するタイミングで，アラームの状態が正常に戻った場合，リアルタイムレポートでは警告となったプロセスやサービスを特定できません。この場合は，イベントモニターまたは Application Process Count レポート（履歴レポート）を参照し，アラーム発生からの状態の遷移を確認してください。

## 3.2.6 アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集するためのユーザーレコードの設定，確認，変更，削除方法，およびアラーム運用例について説明します。

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは，09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは，09-00 以前で実装していたアプリケー

### 3. ユーザーレコードの収集

ションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とプロセスの稼働・非稼働情報収集の機能の差異については、「3.2.5(2) PFM - Agent for Platform 09-00 以前との機能差異」を参照してください。

#### (1) ユーザーレコードを設定する

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集するためのユーザーレコードの設定方法を示します。

設定手順として、まずインスタンスを作成し、次にそのインスタンスのプロパティ（監視するアプリケーション名やしきい値）を設定します。

インスタンスを作成する

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームで [サービス階層] タブを選択する。  
[サービス階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームから「Machines」フォルダの下位の階層を展開する。  
Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。  
各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」、およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の、サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。  
サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。  
プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。
4. PFM - Agent ホストのフォルダの下位にある階層を展開し、Agent Collector サービスを選択する。  
ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択します。選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択する。  
[プロパティ] 画面が表示されます。
6. [ADDITION OR DELETION A SETTING] ツリーを選択する。
7. インフォメーションフレームの下部の [ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING] に任意のインスタンス名を入力し、[OK] ボタンをクリックする。  
[プロパティ] 画面の [Application monitoring setting] ツリーの下位に、インスタ

ンス名のツリーが生成されます。

### ！ 注意事項

- [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に入力するインスタンス名は、ユーザーで任意に指定できます。ここで指定したインスタンス名は、PD\_APP レコードの「Application Name」フィールドに格納され、アプリケーションを特定するための識別子として利用します。
- [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に指定できる文字は、次の文字を除く半角英数字および半角記号です。1 ~ 63 バイトの範囲で指定できます。  
タブ文字(␣) ¥ : ; , \* ? " ' < > |
- 設定できるインスタンスの数は、64 個までです。

### インスタンスのプロパティを設定する

1. 上記手順のあと、再び [ プロパティ ] 画面を表示し、[ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成されたインスタンス名のツリーを選択する。  
インフォメーションフレームの下部に、プロパティ情報の入力画面が表示されます。
2. プロパティを設定する。  
プロセスの種別、プロセス名、プロセス数のしきい値の下限値と上限値を設定します。複数のプロセス情報を設定できます。プロパティを次の表に示します。

表 3-12 監視フィールドのプロパティ

設定項目	パラメーター名	設定内容	対応する PD_APP レコードのフィールド名
プロセスの種別	ProcessXX Kind	「Command Line」か「Service Name」のどちらかを選択します。なお、「None」を選択すると評価をしません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Command Line」を選択すると、PD レコードの Program フィールドの値を使用して評価します。</li> <li>• 「Service Name」を選択すると、PD_SVC レコードの Service Name フィールドの値を使用して評価します。</li> </ul>	ProcessXX Kind
プロセス名	ProcessXX Name	プロセス名を 127 バイト以内で入力します。	ProcessXX Name

### 3. ユーザーレコードの収集

設定項目	パラメーター名	設定内容	対応する PD_APP レコードのフィールド名
プロセス数のしきい値の上限値と下限値	ProcessXX Range	プロセス数のしきい値の下限値と上限値を「1-2」のようにハイフン(-)でつないで入力します。 ハイフンを使用しないで値を一つだけ指定すると、下限値と上限値に同じ値を設定できます。例えば、「10」を指定すると、「10-10」が設定されます。 設定できる値は 0 ~ 65535 です。	ProcessXX Range

(凡例)

XX : 01 ~ 15 までの数値が入る。

#### ! 注意事項

- 「ProcessXX Name」プロパティに指定した値を使用して、アプリケーションの稼働・非稼働を評価します。ただし、PFM・Web ConsoleでPD\_APPレコードの「ProcessXX Name」フィールドをレポート表示すると、先頭から31バイトまでしか表示されません。
- 先頭から31バイトまでが同じ名称のプロセスが複数存在する場合、それぞれのプロセスを監視するために、インスタンスをプロセスごとに分けて設定し、その評価結果(PD\_APPレコードの「ProcessXX Name」フィールドの値)でアラーム通知するように設定します。しかし、PD\_APPレコードの「ProcessXX Name」フィールドの値がすべてのインスタンスで同じ名称となるため、正しくアラーム通知できません。このため、PD\_APPレコードの「ProcessXX Name」フィールドの値を使用しないで「ProcessXX Status」フィールドの値を使用してアラーム通知するように設定してください。設定例については、「(4)(d) 先頭から31バイトまでが同じ名称のプロセスが複数存在する場合に、ある特定のプロセスに対して起動しているか監視する場合」を参照してください。
- 「ProcessXX Name」プロパティに指定できる文字は、次の文字を除く半角英数字および半角記号です。  
タブ文字(≡t) ≡ : ; , " ' < > |
- 「ProcessXX Name」プロパティに指定できる文字のうち、ワイルドカード文字として「\*」および「?」を利用できます。「\*」は0個以上の任意の文字、「?」は任意の1文字を意味します。
- 「ProcessXX Name」プロパティにWindowsのプログラムの拡張子(.exeなど)を指定しないでください。

#### 3. [OK] ボタンをクリックする。

設定内容が有効になります。

### (2) ユーザーレコードの設定を確認または変更する

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集するためのユーザーレコードの設定内容を

確認または変更する方法を次に示します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームで [サービス階層] タブを選択する。  
[サービス階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームから「Machines」フォルダの下位の階層を展開する。  
Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。  
各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」、およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の、サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。  
サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。
4. PFM - Agent ホストのフォルダの下位にある階層を展開し、Agent Collector サービスを選択する。  
ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択します。選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択する。  
[プロパティ] 画面が表示されます。
6. [Application monitoring setting] ツリーを展開し、確認したいインスタンス名のツリーを選択する。  
プロパティが表示されます。
7. 内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする。

### (3) ユーザーレコードの設定を削除する

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集するためのユーザーレコードの設定内容を削除する方法を次に示します。

1. 監視コンソールの Web ブラウザから PFM - Web Console にログインする。  
[メイン] 画面が表示されます。
2. [メイン] 画面のナビゲーションフレームで [サービス階層] タブを選択する。  
[サービス階層] 画面が表示されます。
3. ナビゲーションフレームから「Machines」フォルダの下位の階層を展開する。  
Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付

### 3. ユーザーレコードの収集

いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。

各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。サービス ID の詳細については「付録 B 識別子一覧」、およびマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録の、サービスの命名規則について説明している個所を参照してください。

サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能が有効か無効かによって異なります。プロダクト名表示機能の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

4. PFM - Agent ホストのフォルダの下位にある階層を展開し、Agent Collector サービスを選択する。  
ホスト名 <Windows> (Agent Collector サービス) を選択します。選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
5. メソッドフレームの [ プロパティ ] メソッドを選択する。  
[ プロパティ ] 画面が表示されます。
6. [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーを選択する。
7. インフォメーションフレーム下部の「DELETE AN APPLICATION MONITORING SETTING」から、削除したいインスタンス名を選択し、[ OK ] ボタンをクリックする。  
設定内容が削除されます。

#### (4) アラーム運用例

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集する機能を用いたアラームの運用例について説明します。

##### (a) 特定のプロセス起動状況について監視する場合

ここでは、監視対象のうち、特定のプロセスが起動しているか監視する場合の設定内容について説明します。

次に示すプロセスが通常は一つだけ起動している環境で、プロセスが複数（二つ以上）起動するかまたは停止してしまった場合に、異常アラームを通知するように設定します。

表 3-13 特定のプロセス起動の例

プログラム名	プロセス名
GyoumuProcess.exe	GyoumuProcess

1. [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーの [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に設定するインスタンス名を次に示します。

GyoumuProcess Monitor

2. [ Application monitoring setting ] ツリーの下部に生成された「GyoumuProcess Monitor」のプロパティで設定する内容を次に示します。

Process01 Kind : 「Command Line」を選択する。  
 Process01 Name : 「GyoumuProcess」を入力する(.exeの拡張子は指定しない)。  
 Process01 Range : 「1-1」を入力する。

上記の設定の結果、プロセスが起動していると、PD\_APP レコードの「Process01 Count」, 「Process01 Status」, および「Application Status」フィールドの値はそれぞれ次のようにレポート表示されます。

表 3-14 PD\_APP レコードの各フィールド値の結果

フィールド名	値
Process01 Count	1 1
Process01 Status	NORMAL 2
Application Status	NORMAL 2

注 1  
稼働中の該当プロセス数を示します。

注 2  
問題がないことを示します。

3. アラームに設定する内容を次に示します。

レコード : 「Application Summary(PD\_APP)」を選択する。  
 監視フィールド : 「Application Name」を選択する。  
 条件 : 「=」を選択する。  
 異常値 : 「GyoumuProcess Monitor」を入力する。  
 警告値 : 「GyoumuProcess Monitor」を入力する。

上記内容を設定し [ 追加 ] ボタンをクリックしたあと、次の内容を追加設定します。

レコード : 「Application Summary(PD\_APP)」を選択する。  
 監視フィールド : 「Application Status」を選択する。  
 条件 : 「<>」を選択する。  
 異常値 : 「NORMAL」を入力する。  
 警告値 : 「NORMAL」を入力する。

アラーム条件式は AND で結合されます。インスタンスを特定しないで「Application Status」の結果だけを監視する場合には、「Application Status」<>「NORMAL」だけを指定してください。

### 3. ユーザーレコードの収集

#### (b) 特定のサービス起動状況について監視する場合

ここでは、監視対象のうち、特定のサービスアプリケーションが起動しているか監視する場合の設定内容について説明します。

次に示すサービスアプリケーションが停止してしまった場合に、異常アラームを通知するように設定します。

表 3-15 特定のサービス起動の例

表示名	サービス名
Windows Audio	AudioSrv

1. [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーの [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に設定するインスタンス名を次に示します。

AudioSrv Monitor

2. [ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成された「AudioSrv Monitor」のプロパティで設定する内容を次に示します。

Process01 Kind: 「Service Name」を選択する。  
Process01 Name: 「AudioSrv」を入力する(サービス名を入力する)。  
Process01 Range: 「1-1」を入力する。

上記の設定の結果、サービスが起動していると、PD\_APP レコードの「Process01 Count」、「Process01 Status」、および「Application Status」フィールドの値はそれぞれ次のようにレポート表示されます。

表 3-16 PD\_APP レコードの各フィールド値の結果

フィールド名	値
Process01 Count	1 <sup>1</sup>
Process01 Status	NORMAL <sup>2</sup>
Application Status	NORMAL <sup>2</sup>

注 1  
稼働中の該当プロセス数を示します。

注 2  
問題がないことを示します。

3. アラームに設定する内容を次に示します。

レコード: 「Application Summary(PD\_APP)」を選択する。  
監視フィールド: 「Application Name」を選択する。  
条件: 「=」を選択する。  
異常値: 「AudioSrv Monitor」を入力する(手順1で設定したインスタンス名)。



警告値：「AudioSrv Monitor」を入力する（手順1で設定したインスタンス名）。

上記内容を設定し [ 追加 ] ボタンをクリックしたあと、次の内容を追加設定します。

レコード：「Application Summary (PD\_APP)」を選択する。

監視フィールド：「Application Status」を選択する。

条件：「<>」を選択する。

異常値：「NORMAL」を入力する。

警告値：「NORMAL」を入力する。

アラーム条件式は AND で結合されます。インスタンスを特定しないで「Application Status」の結果だけを監視する場合には、「Application Status」<>「NORMAL」だけを指定してください。

### (c) 複数のプロセスがすべて起動しているかどうか監視する場合

ここでは、監視対象のプロセスがすべて起動しているか監視する場合の設定内容について説明します。

次に示す五つのプロセスが、すべて起動しているときはアラームを通知しないようにし、一つでも停止しているときは異常アラームを通知する手順について説明します。

表 3-17 五つのプロセス起動の例

プログラム名	プロセス名
GyoumuProcess1.exe	GyoumuProcess1
GyoumuProcess2.exe	GyoumuProcess2
GyoumuProcess3.exe	GyoumuProcess3
GyoumuProcess4.exe	GyoumuProcess4
GyoumuProcess5.exe	GyoumuProcess5

1. [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーの [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に設定するインスタンス名を次に示します。

GyoumuProcess Monitor

2. [ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成された「GyoumuProcess Monitor」のプロパティで設定する内容を次に示します。

Process01 Kind：「Command Line」を選択する。

Process01 Name：「GyoumuProcess\*」を入力する。

Process01 Range：「1-5」を入力する。

### 注

通番にワイルドカード文字「\*」を使用します。なお、ワイルドカード文字の代わりに、任意の一文字「?」を使用することもできます。

### 3. ユーザーレコードの収集

上記の設定の結果、五つのプロセスがすべて起動していると、PD\_APP レコードの「Process01 Count」、「Process01 Status」、および「Application Status」フィールドの値はそれぞれ次のようにレポート表示されます。

表 3-18 PD\_APP レコードの各フィールド値の結果

フィールド名	値
Process01 Count	5 <sup>1</sup>
Process01 Status	NORMAL <sup>2</sup>
Application Status	NORMAL <sup>2</sup>

注 1

稼働中の該当プロセス数を示します。

注 2

問題がないことを示します。

#### 3. アラームに設定する内容を次に示します。

レコード：「Application Summary (PD APP)」を選択する。

監視フィールド：「Process01 Count」を選択する。

条件：「<」を選択する。

異常値：「5」を入力する。

警告値：「5」を入力する。

五つのプロセスがすべて起動していればアラームを通知しません。プロセスが一つでも停止している場合はアラームを通知します。また、アラーム条件式は AND で結合されるため、プロセスの起動数が 1 ~ 5 以外の場合に異常アラームを通知させるような設定はできません。

- (d) 先頭から 31 バイトまでが同じ名称のプロセスが複数存在する場合に、ある特定のプロセスに対して起動しているか監視する場合

ここでは、監視対象のうち、先頭から 31 バイトまでが同じ名称のプロセスが複数存在している場合に、ある特定のプロセスが起動しているか監視する場合の設定内容について説明します。

次に示す二つのプロセスがそれぞれ一つずつ起動している場合に、

「1234567890123456789012345678901A」プロセスが複数（二つ以上）起動されたとき、または停止してしまったときに、異常アラームを通知するように設定します。

表 3-19 先頭から 31 バイトまでが同じ名称のプロセス起動の例

プログラム名	プロセス名
1234567890123456789012345678901A.exe	1234567890123456789012345678901A
1234567890123456789012345678901B.exe	1234567890123456789012345678901B

1. [ ADDITION OR DELETION A SETTING ] ツリーの [ ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING ] に設定するインスタンス名を次に示します。

Long Name Process Monitor

2. [ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成された「Long Name Process Monitor」のプロパティで設定する内容を次に示します。

Process01 Kind : 「Command Line」を選択する。  
 Process01 Name : 「1234567890123456789012345678901A」を入力する。  
 Process01 Range : 「1-1」を入力する。

上記の設定の結果、「1234567890123456789012345678901A」プロセスが一つだけ起動していると、PD\_APP レコードの「Process01 Count」, 「Process01 Status」, および「Application Status」フィールドの値はそれぞれ次のようにレポート表示されます。

表 3-20 PD\_APP レコードの各フィールド値の結果

フィールド名	値
Process01 Count	1 1
Process01 Status	NORMAL 2
Application Status	NORMAL 2

注 1  
稼働中の該当プロセス数を示します。

注 2  
問題がないことを示します。

3. アラームに設定する内容を次に示します。

レコード : 「Application Summary (PD\_APP)」を選択する。  
 監視フィールド : 「Application Name」を選択する。  
 条件 : 「=」を選択する。  
 異常値 : 「Long Name Process Monitor」を入力する (手順1で設定したインスタンス名)。  
 警告値 : 「Long Name Process Monitor」を入力する (手順1で設定したインスタンス名)。

上記内容を設定し、[ 追加 ] ボタンを押したあと、次の内容を追加設定します。

レコード : 「Application Summary (PD\_APP)」を選択する。  
 監視フィールド : 「Application Status」を選択する。  
 条件 : 「<>」を選択する。  
 異常値 : 「NORMAL」を入力する。  
 警告値 : 「NORMAL」を入力する。

上記の監視に加えて、これまでの監視方法と別の方法で

### 3. ユーザーレコードの収集

「1234567890123456789012345678901B」プロセスについても監視する場合は、上記のインスタンス名と異なるインスタンス名を使用し、アラーム設定の「Application Name」フィールドの条件にそのインスタンス名を追加してください。

## 3.2.7 ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集の設定

ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する機能の概要と、設定方法について説明します。

### (1) 機能概要

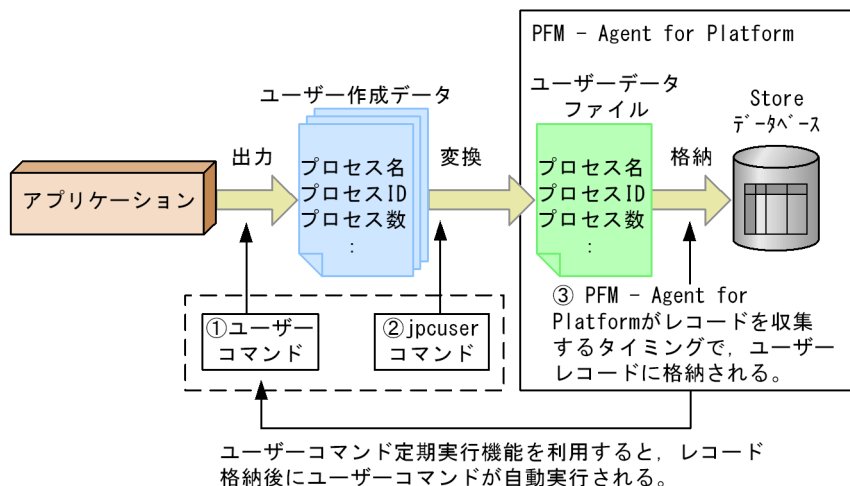
ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する機能およびユーザーコマンド定期実行機能について説明します。

#### (a) ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する機能

この機能は、ユーザーがテキストファイルに出力した独自のパフォーマンスデータを、jpcuser コマンドによって、PFM - Agent for Platform が提供するレコード (PD\_UPD, PD\_UPDB, PI\_UPI, PI\_UPIB) に格納できる形式に変換する機能です。この機能を使用してユーザー独自のパフォーマンスデータを収集するためには、あらかじめ、パフォーマンスデータをテキストファイルに出力するためのコマンドを作成する必要があります。

ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する仕組みを、次の図を用いて説明します。

図 3-3 ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する仕組み



図中の番号に従って処理の流れを説明します。

1. ユーザーコマンドを実行して、ユーザー作成データを作成する。  
アプリケーションから、プロセス名、プロセス ID、プロセス数などのパフォーマンスデータを収集し、テキストファイルに出力します。このデータをユーザー作成データ

タと呼びます。

ユーザー作成データを作成するには、あらかじめパフォーマンスデータを収集するスクリプトを作成する必要があります。これをユーザーコマンドと呼びます。

2. jpcuser コマンドを実行して、ユーザー作成データを変換する。  
jpcuser コマンドを実行して、ユーザー作成データを PFM - Agent for Platform が管理できるレコード形式に変換します。変換されたデータファイルをユーザーデータファイルと呼びます。
3. PFM - Agent for Platform がレコードを収集するタイミングで、ユーザーデータファイルの内容がユーザーレコードに格納される。  
PFM - Agent for Platform がユーザーデータファイルのデータを収集するよう、あらかじめ PFM - Web Console で設定する必要があります。

定期的にパフォーマンスデータを収集したい場合は、ユーザーコマンド定期実行機能を利用して、ユーザーコマンドと jpcuser コマンドを自動実行するよう設定してください。

#### ! 注意事項

jpcuser コマンドの引数に指定するファイル、または jpcuser コマンドを実行するバッチ、スクリプト内でファイルを出力する場合、インストール先フォルダ以外を指定してください。

Windows Server 2008 の環境で、ユーザーコマンドから jpcuser コマンドを直接実行する場合は、Administrators 権限を持つユーザーからユーザーコマンドを実行してください。

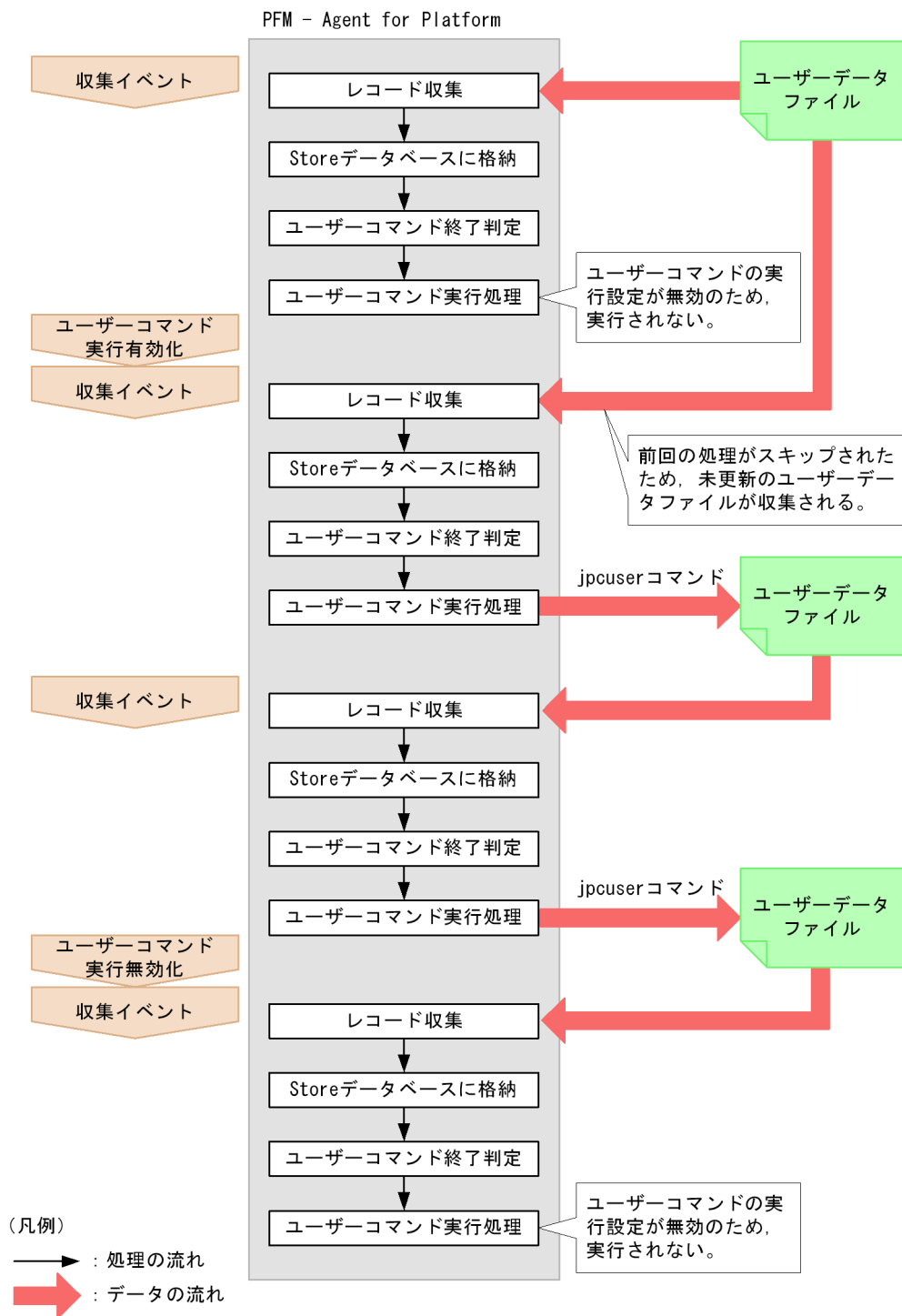
#### (b) ユーザーコマンド定期実行機能

この機能は、タスクスケジューラーなどのスケジュール機能を使用しないで、PFM - Agent for Platform からユーザーコマンドを一定間隔で実行する機能です。ユーザーコマンドからユーザーデータファイルを作成する仕組みは、「(a) ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集する機能」と同じです。

ユーザーコマンド定期実行機能は、PFM - Agent for Platform がレコードを収集するタイミングで実行されます。レコードの収集処理が完了したあとに、ユーザーコマンドによってユーザーデータファイルが作成されるため、ユーザーデータファイルの収集処理と作成処理が競合することはありません。また、ユーザーコマンド定期実行機能は、ユーザーレコードの Collection Interval の設定に従って実行されるため、履歴収集およびアラーム収集では実行されますが、リアルタイム収集では実行されません。ユーザーコマンド定期実行機能の処理の流れを次の図に示します。

### 3. ユーザーレコードの収集

図 3-4 ユーザーコマンド定期実行機能の処理の流れ



ユーザーコマンド定期実行機能は、前回起動したユーザーコマンドが終了しているか判

定し、実行中の場合はユーザーコマンドの処理をスキップします。

#### 参考

---

PFM - Web Console のバージョンが 08-50 より前の場合、ユーザーコマンド定期実行機能のプロパティを複数の PFM - Agent へ一括配布できません。

---

#### (c) ユーザーコマンド定期実行機能に関する注意事項

ユーザーコマンド定期実行機能についての注意事項を次に示します。

##### 実行ファイル

ユーザーコマンド定期実行機能で実行できるファイル形式を次に示します。

- EXE 形式：実行形式ファイル
- COM 形式：実行形式（コマンド）ファイル
- BAT 形式：バッチファイル

DEL や DIR などの内部コマンドをジョブとして実行する場合は、バッチファイルを作成し、バッチファイル内のコマンドとして実行してください。

##### アカウント

ユーザーコマンド定期実行機能を実行する時のアカウントは、システムアカウントです。次のファイルおよびリソースについては、システムアカウントでアクセスできるようにしてください。

- ユーザーコマンド定期実行機能で指定するファイル（ユーザーコマンド）
- ファイル（ユーザーコマンド）から参照または更新するリソース

##### 環境変数

ユーザーコマンド定期実行機能を実行する時に有効な環境変数は、Performance Management プログラムのサービス起動時のシステム環境変数です。ユーザーコマンド定期実行機能を実行する時にはプロファイル情報を読み込みません。

##### カレントフォルダ

ユーザーコマンド定期実行機能を実行する時のカレントフォルダは、PFM - Agent for Platform サービスのフォルダ（インストール先フォルダ ¥jplpc¥agtt¥agent）です。

##### その他の注意事項

- Win16 ビットアプリケーションは実行できません。
- Windows の SysWOW64 システムフォルダ配下にあるコマンドをユーザーコマンド定期実行機能に指定する場合は、絶対パスで指定してください。
- ウィンドウやダイアログボックスを表示するプログラムは実行できません。ただし、net send コマンドを実行してダイアログボックスを表示することはできません。これは、net send コマンドがダイアログボックスを表示するのではなく、Windows の Messenger サービスが表示するためです。

### 3. ユーザーレコードの収集

- Windows メッセージ機構 (DDE (Dynamic Data Exchange)) を利用したプログラムは実行できません。
- 対話操作を必要とするプログラムは実行できません。
- 常駐プログラム (終了しないプログラム) は実行できません。
- アプリケーションに関連づいている拡張子を持つプログラムは実行できません。
- ネットワークフォルダ上にあるプログラムは実行できません。
- ディスクの準備ができていないリムーバブルディスク上のプログラムを設定しないでください。
- Windows サービスの起動設定で、デスクトップとの対話を許可する設定をしないでください。
- 実行したプログラムの標準出力や標準エラー出力の内容は取得できません。
- 実行するプログラムからファイル出力を行う場合は、出力先のファイルを絶対パスで指定してください。絶対パスを指定しない場合は、PFM - Agent for Platform サービスのフォルダ (インストール先フォルダ ¥jp1pc¥agtt¥agent) がカレントフォルダになります。
- 実行するコマンドのパスに空白を含む場合は、パスを " " で囲んでください。

#### (2) 設定手順

ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集するためには、次の手順で設定してください。

1. フィールドに格納する情報を決定する。
2. ユーザーコマンドを作成する。
3. ユーザー独自のパフォーマンスデータを定期的に収集するための設定をする。
4. ユーザーデータファイルを収集する設定をする。

各手順について次に説明します。

##### (a) フィールドに格納する情報を決定する

ユーザーレコードのフィールドには、キー情報とデータ情報を格納します。それぞれに格納する内容を検討してください。

###### キー情報に格納する情報

ユーザー独自のパフォーマンスデータを格納するユーザーレコードは、一回の収集で複数行のレコードを記録できる複数インスタンスレコードです。同じユーザーレコード内で複数インスタンスレコードを一意に識別するためには、キー情報を設定する必要があります。jpcuser コマンドに複数のユーザー作成データファイルを同時に指定する場合、同時に指定したすべてのユーザー作成データファイルにわたって、レコードインスタンスを一意に識別するキー情報を設定する必要があります。キー情報の種類を次の表に示します。



表 3-21 キー情報の種類

キー情報の種類	フィールド名	説明
トランザクションタイプ	Trans Type	インスタンスの種類を識別する。
トランザクションキー	Trans Data Key (数値型)	同一トランザクションタイプのインスタンスを識別する。
	Trans String Key (文字列型)	

トランザクションタイプは、複数のパフォーマンスデータを区別する場合に使用します。例えば、データベースと Web サーバに関する情報をレコードに格納する場合、トランザクションタイプに「DATABASE」と「WEB」を格納するようにします。これによって、格納された情報が、データベースの情報であるか、Web サーバの情報であるかを区別できます。

トランザクションタイプが同じインスタンスが複数ある場合には、トランザクションキーを用いて区別します。Trans Data Key または Trans String Key を設定しなかったり、同じ値を設定したりして、レコードのインスタンスをユニークに識別できない場合は、最初のレコードのインスタンスが採用されます。

#### データ情報に格納する情報

データ情報として、double 型、long 型、ulong 型の 3 種類の数値データと、長さの異なる 3 種類の文字列データと、時間データを格納できます。格納できる数はユーザーレコードごとに異なります。なお、PI レコードタイプの数値データについては、集約ルールとして、平均、または累積のどちらかを選択できます。

収集するパフォーマンスデータに応じて、どのユーザーレコードを使用するかを選択してください。格納できる情報が多いユーザーレコードの方がメモリーなどを大量に消費するため、必要十分なユーザーレコードを選択してください。

ユーザーレコードごとのフィールド数を次の表に示します。

表 3-22 ユーザーレコードごとのフィールド数

レコードタイプ	ユーザーレコードの種類	フィールド数		
		数値データ	文字列データ	時間データ
PD レコードタイプ	User Data Detail (PD_UPD)	2 * 3=6	1+2+4=7	1
	User Data Detail - Extended (PD_UPDB)	5 * 3=15	5+5+5=15	1
PI レコードタイプ	User Data Interval (PI_UPI)	4 * 3=12	1+2+4=7	1
	User Data Interval - Extended (PI_UPIB)	10 * 3=30	5+5+5=15	1

### 3. ユーザーレコードの収集

ユーザーレコードを選択する際の判断基準を次の表に示します。

表 3-23 ユーザーレコードの選択基準

パフォーマンスデータの累積データを保持するか？	保持するパフォーマンスデータの種類の多いか？	推奨するユーザーレコード
Yes	No	PI_UPI
Yes	Yes	PI_UPIB
No	No	PD_UPD
No	Yes	PD_UPDB

#### (b) ユーザーコマンドを作成する

ユーザーコマンドは、パフォーマンスデータを収集しユーザー作成データを作成するためのスクリプトです。ユーザー作成データのファイル形式に従ってパフォーマンスデータを出力するようにスクリプトを記述してください。

ユーザー作成データのファイル書式については、「(5) ユーザー作成データのファイル形式」を参照してください。

なお、ユーザーコマンドで出力したユーザー作成データが正しいかどうかを確認する場合、`jpcuser` コマンドを次のように実行してください。

```
インストール先フォルダ¥agtt¥agent¥jpcuser¥jpcuser PI_UPI -file ユーザー作成データ -debug 1
```

上記コマンドを実行すると、次に示すデバッグログが生成されます。

```
インストール先フォルダ¥agtt¥agent¥jpcuser¥debug¥jpcuser_dbg_01.log
```

デバッグログの内容を確認して、エラーが発生していないことを確認してください。

`jpcuser` コマンドの詳細については、「(4) `jpcuser` コマンドの形式」を参照してください。

#### (c) ユーザー独自のパフォーマンスデータを定期的に収集するための設定をする

ユーザーコマンド定期実行機能を使って、定期的にユーザー独自のパフォーマンスデータを収集するための設定方法を説明します。

- PFM - Web Console でユーザーレコードの収集設定を行う。  
ユーザーコマンド定期実行機能の実行間隔は、各ユーザーレコードの `Collection Interval` の設定に依存します。
- PFM - Web Console でユーザーコマンド定期実行機能のプロパティを設定する。  
ユーザーコマンド定期実行機能を行うために、PFM - Web Console で各ユーザーレコードの次のプロパティを設定します。プロパティの設定方法は、`PD_UPD` レコード、`PD_UPDB` レコード、`PI_UPI` レコード、および `PI_UPIB` レコードで共通です。

図 3-5 ユーザーコマンド定期実行機能のプロパティ

```

サービスのプロパティ
PFM-Agent
|- General
|- System
|- Network Services
|- Detail Records
|- Interval Records
|- Log Records
|- Agent Configuration
|- Application monitoring setting
|- ADDITION OR DELETION A SETTING
|- User Command Setting/
   |- PD_UPD
   |- PD_UPDB
   |- PI_UPI
   |- PI_UPIB

```

表 3-24 ユーザーレコードのプロパティ設定

プロパティ	値	説明	デフォルト値
Execute	Yes/No	ユーザーコマンド定期実行機能を実行するかどうか指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Yes : 実行する</li> <li>• No : 実行しない</li> </ul>	No
UserCommand	絶対パス	ユーザーコマンドの絶対パスを指定する。絶対パスに指定できる文字列の最大長は 255 バイト。指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字および半角記号。   < >	空白

注 1 「Execute」プロパティが「Yes」、「UserCommand」プロパティが空白の場合、KAVF11318-W のメッセージが出力されユーザーコマンドは実行されません。

注 2 指定されたユーザーコマンドが存在しない場合、またはユーザーコマンドの実行権限がない場合は、KAVF11007-W のメッセージが出力されます。

### 3. ユーザーレコードの収集

#### 参考

Windows のタスクスケジューラーを使って、定期的にユーザー独自のパフォーマンスデータを収集することもできます。タスクスケジューラーは、バッチファイルやプログラムなどを指定した時刻と間隔で自動実行できる Windows の機能です。ユーザーコマンド、および jpcuser コマンドを続けて実行するバッチファイルを作成し、タスクスケジューラーでそのバッチファイルを定期的に行うように設定してください。

#### (d) ユーザーデータファイルを収集する設定をする

ユーザーデータファイルとは、jpcuser コマンドによって、ユーザー作成データを PFM - Agent for Platform が管理できるレコード形式に変換したデータファイルのことです。このユーザーデータファイルのデータは、PFM - Agent for Platform がレコードを収集するタイミングで、ユーザーレコードに格納されます。PFM - Agent for Platform がユーザーレコードを収集するように、PFM - Web Console で設定してください。

レコードの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

#### (3) ユーザー独自のパフォーマンスデータの収集例

次の表に示す形式でプロセス情報を PI\_UPI レコードに収集する例を示します。

表 3-25 収集するパフォーマンスデータの例

オプション	説明	対応するフィールド名	値
tt	トランザクションタイプ	Trans Type	PROCESS
ki	トランザクションキー（数値型）	Trans Data Key	プロセス ID
ks	トランザクションキー（文字列型）	Trans String Key	プロセス名
u	符号なし long 型	User Unsigned Long 1	スレッド数

#### (a) ユーザーコマンドの例

Windows からプロセスの情報を取得し、ユーザー作成データを出力するユーザーコマンド (userproc1.vbs, userproc2.vbs) の例を次に示します。

userproc1.vbs の例

```
'ヘッダー出力
WScript.Echo "Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)"
WScript.Echo "FormVer=0001"
'オプションヘッダー出力
WScript.Echo "tt ki ks u"
'プロセス一覧を取得し、その内容を出力：注) 空白を含む文字列は、Chr(34)で囲む。
for each Process in
```

```
GetObject("winmgmts:").InstancesOf("win32_process")
    WScript.Echo "Process", Process.ProcessId, Chr(34) & Process.Name
    & Chr(34), Process.ThreadCount
next
```

userproc2.vbs の例

```
'ヘッダー出力
WScript.Echo "Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)"
WScript.Echo "FormVer=0001"
'オプションヘッダー出力
WScript.Echo "tt u"
'物理メモリーの合計を取得し、その内容を出力
for each Memory in
GetObject("winmgmts:").InstancesOf("Win32_LogicalMemoryConfigurati
on")
    WScript.Echo "TotalPhysicalMemory", Memory.TotalPhysicalMemory
next
```

上記ユーザーコマンドを実行したときのユーザー作成データを次に示します。

userproc1.vbs によって出力されるユーザー作成データの例

```
Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)
FormVer=0001
tt ki ks u
Process 0 "System Idle Process" 1
Process 8 "System" 41
Process 172 "SMSS.EXE" 6
Process 200 "CSRSS.EXE" 12
Process 196 "WINLOGON.EXE" 19
Process 248 "SERVICES.EXE" 41
```

userproc2.vbs によって出力されるユーザー作成データの例

```
Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)
FormVer=0001
tt u
TotalPhysicalMemory 1048052
```

#### 参考

- 利用ポート情報の収集例については、「1.3.2(8) 利用ポート情報の収集例」を参照してください。
- PFM 製品が導入されていない複数のホストからのパフォーマンスデータの収集例については、「1.3.2(9) PFM 製品が導入されていない複数のホストからのパフォーマンスデータの収集例」を参照してください。

#### (b) 定期的に収集するためのバッチファイルの例

ユーザーコマンド定期実行機能を使って定期的に実行するためのバッチファイル (userperf.bat) の例を次に示します。

```
REM フォルダの移動
cd C:¥Program Files¥Hitachi¥jplpc¥agtt¥agent¥jpcuser
REM ユーザー作成データの生成
cscript //nologo userproc1.vbs > UPI1.txt
cscript //nologo userproc2.vbs > UPI2.txt
REM jpcuserコマンドによってユーザー作成データをレコード形式に変換
```

### 3. ユーザーレコードの収集

```
jpcuser PI_UPI -file UPI1.txt -file UPI2.txt
```

#### 注

-debug 2 を指定すると、次のフォルダにデバッグログが出力されます。

インストール先フォルダ %agtt%agent%jpcuser%debug%

なお、バッチファイル (userperf.bat) と VB スクリプトは次の場所に格納してください。

```
C:%Program Files%Hitachi%jplpc%agtt%agent%jpcuser
```

#### 参考

---

このバッチファイルを Windows のタスクスケジューラーを使って、定期的に行うこともできます。

---

## (4) jpcuser コマンドの形式

jpcuser コマンドの形式について説明します。

#### 形式

```
jpcuser レコード名  
-file ユーザー作成データのファイル名1  
[-file ユーザー作成データのファイル名2] ...  
[-debug [0|1|2]]
```

[ ] は、省略できることを示します。| は、複数の項目に対して項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。

#### 機能

ユーザーコマンドによって出力した独自のパフォーマンスデータ (ユーザー作成データ) を、PFM - Agent for Platform が読み取れる形式のデータ (ユーザーデータファイル) に変換するコマンドです。

デバッグログを出力することで、ユーザー作成データの内容が正しいかどうかを確認できます。デバッグログの形式と見方については、「(6) デバッグログ」を参照してください。

このコマンド実行時にエラーが発生した場合は、エラーメッセージがインストール先フォルダ %agtt%agent%jpcuser%log%public% に出力されます。

#### 実行権限

Administrators 権限を持つユーザー

#### 格納先ディレクトリ

インストール先フォルダ %agtt%agent%jpcuser%

#### 引数

コマンドラインの第一引数にはレコード名を指定してください。-file オプションおよび -debug オプションは、順不同で指定できます。レコード名および -file オ

プションは必ず指定してください。-debug オプションは省略できます。

#### レコード名

パフォーマンスデータを格納するユーザーレコード名を指定します。複数のレコード名を指定することはできません。

- PD\_UPD
- PD\_UPDB
- PI\_UPI
- PIUPIB

#### -file ユーザー作成データのファイル名

ファイル名を 1,023 バイト以内で指定します。ファイル名は複数指定でき、複数のユーザー作成データファイルを一つのユーザーデータファイルにまとめることができます。

ファイル名にワイルドカードは指定できません。

ファイル名は、カレントディレクトリ（コマンドの実行ディレクトリ）から見た相対パスで指定できます。

ユーザー作成データを複数読み込ませた場合、一つでも警告が発生すれば戻り値は「警告のある正常終了」、一つでもエラーが発生すれば戻り値は「異常終了またはエラー発生」になります。

#### -debug [0|1|2]

ユーザーデータファイル、およびデバッグログを出力するかどうかを値で指定します。このオプションは、ユーザー作成データの内容が正しいかどうかを確認する目的で使用します。このオプションは、一度だけしか設定できません。

-debug 1 を指定した場合は、デバッグだけ行われます。ユーザーレコードを作成したい場合は、-debug 1 以外を指定してください。

デバッグログにエラーが出力された場合は、ユーザーコマンドのスクリプトに誤りがあるおそれがあります。

このオプションを省略した場合、デバッグログは出力されません。

このオプションに指定する値を次の表に示します。

表 3-26 debug オプションに指定する値

値	ユーザーデータファイルの出力	デバッグログの出力
0		x
1	x	
2		
上記以外の値		x
指定しない		x

#### (凡例)

: 出力する。

x : 出力しない。

### 3. ユーザーレコードの収集

なお、ユーザーデータファイルは、インストール先フォルダ  
 ¥agtt¥agent¥jpcuser¥userdata 配下の jpcuser\_XXX を指します。XXX  
 は、レコード形式の UPD, UPDB, UPI, または UPIB に相当します。  
 デバッグログは、インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥debug 配  
 下の jpcuser\_dbg\_XX.log を指します。XX は、作成された順番を表します。  
 デバッグログの出力例を次の表に示します。

表 3-27 デバッグログの出力例

デバッグログファイル名	説明
jpcuser_dbg_01.log	最新のデバッグログファイル
jpcuser_dbg_02.log	最新から一つ前のデバッグログファイル
jpcuser_dbg_03.log	最新から二つ前のデバッグログファイル
...	...

#### 戻り値

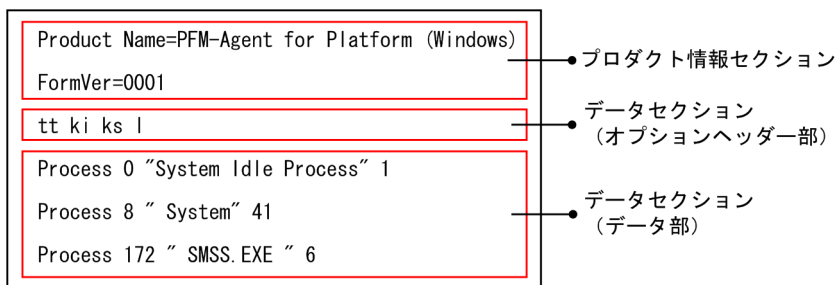
0	正常終了
1 ~ 100	警告のある正常終了
101 ~ 255	異常終了またはエラー発生

### (5) ユーザー作成データのファイル形式

ユーザー作成データのファイル形式について説明します。パフォーマンスデータを収集するユーザーコマンドでは、この形式に従ってテキスト出力するようにしてください。

ユーザー作成データのファイルに出力する情報として、プロダクト情報セクションとデータセクションがあります。プロダクト情報セクションとデータセクションは、ユーザー作成データのファイルごとに作成してください。ユーザー作成データの構成例を次の図に示します。

図 3-6 ユーザー作成データの構成例



#### (a) プロダクト情報セクション

製品名と、ユーザー作成データのファイル形式のバージョンを設定するセクションです。



これらは固定値です。プロダクト情報セクションは内部機能で使用され、ユーザーレコードには格納されません。

形式を次に示します。

```
Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)
FormVer=0001
```

#### 注意

上記の指定方法について、「=」の前後などにスペースが含まれる場合はエラーとなります。また、指定する文字の大文字小文字および全角半角も区別されます。

#### (b) データセクション

パフォーマンスデータの情報を設定するセクションです。この情報は、プロダクト情報セクションの下に指定します。データセクションは、オプションヘッダー部とデータ部で構成されます。

##### オプションヘッダー部

1行目はオプションヘッダー行です。フィールドオプションを1バイト以上のスペースまたはタブで区切ります。フィールドオプションは、ユーザーレコードのフィールドに対応します。

```
tt ks ki l . . .
```

オプションと、対応するレコードのフィールド名を次の表に示します。「フィールド数」列のフィールド数を上限にそのオプションを複数指定できます。例えば、PI\_UPIレコードでフィールドオプションに「ss」を複数指定する場合、項番10の「PI\_UPI」列に「4」と表記されているので、PI\_UPIレコードでは「ss ss ss ss」のように4個まで「ss」を指定できます。

表 3-28 データセクションで指定するオプションと対応するフィールド

項番	オプション名	フィールド名	値の説明	フィールド数 (合計)			
				PD_U PD (17)	PD_U PDB (34)	PI_U PI (23)	PI_U PIB (49)
1	tt	Trans Type	トランザクションタイプ。このオプションは必ず指定する。 1 サイズ: 1 ~ 19 バイト	1	1	1	1

### 3. ユーザーレコードの収集

項番	オプション名	フィールド名	値の説明	フィールド数 (合計)			
				PD_U PD (17)	PD_U PDB (34)	PI_U PI (23)	PI_U PIB (49)
2	ki	Trans Data Key	数値型のトランザクション キー。kiまたはksのどちらか を必ず指定する。両方指定す ることもできる。 タイプ: ulong 指定できる文字: 数値および 記号 (+)	1	1	1	1
3	ks	Trans String Key	文字列型のトランザクション キー。kiまたはksのどちらか を必ず指定する。両方指定す ることもできる。 <sup>1</sup> サイズ: 1 ~ 19 バイト	1	1	1	1
4	f	User Float	浮動小数点数 <sup>2</sup> タイプ: double	2	5	2	5
5	fr <sup>3</sup>	User Float Roll	累積値の浮動小数点数 <sup>2</sup> タイプ: double	-	-	2	5
6	l	User Long	符号つき long タイプ: long 指定できる文字: 数値および 記号 (- +)	2	5	2	5
7	lr <sup>3</sup>	User Long Roll	累積値の符号つき long タイプ: long 指定できる文字: 数値および 記号 (- +)	-	-	2	5
8	sl	User String(64)	長い文字列 <sup>1</sup> サイズ: 1 ~ 63 バイト + NULL	1	5	1	5
9	sm	User String(32)	中間の長さの文字列 <sup>1</sup> サイズ: 1 ~ 31 バイト + NULL	2	5	2	5
10	ss	User String(16)	短い文字列 <sup>1</sup> サイズ: 1 ~ 15 バイト + NULL	4	5	4	5
11	t	User Time	時刻 (time_t 型) 次の形式で指定する。 YYYY/MM/DD, hh:mm:ss jpcuser コマンドを実行する マシンの LocalTime を設定す る。	1	1	1	1

項番	オプション名	フィールド名	値の説明	フィールド数(合計)			
				PD_U PD (17)	PD_U PDB (34)	PI_U PI (23)	PI_U PIB (49)
12	u	User Unsigned Long	符号なし long タイプ:ulong 指定できる文字:数値および 記号(+)	2	5	2	5
13	ur 3	User Unsigned Long Roll	累積値の符号なし long タイプ:ulong 指定できる文字:数値および 記号(+)	-	-	2	5

(凡例)

- : 指定できない。

注 1

指定できる文字は、英文字(大文字,小文字),数値,空白,および記号( ` ~ ! @ # \$ % ^ & \* ( ) \_ + - = { } : ; < > , . ? / | ¥ [ ] )です。

注 2

指定できる文字は、数値,および記号( - + . )です。

注 3

fr, lr, ur を履歴収集したデータで集約して表示した場合は、累積値が表示されます。これらのオプションと ki 以外の数値オプションは平均値が表示されます。

なお、ユーザー作成データに複数のフィールドオプションを指定した場合は、ユーザーレコードの対象フィールドの連番順に割り当てられます。

例えば、PI\_UPIB レコードでフィールドオプションに「lr」を3個指定する場合は、「lr lr lr」と指定します。この場合、「lr」はそれぞれ次のフィールドに割り当てられます。

- 1 個目の lr : User Long Roll 1
- 2 個目の lr : User Long Roll 2
- 3 個目の lr : User Long Roll 3

また、「sl lr sl lr lr」のように指定した場合は、それぞれ次のフィールドに割り当てられます。

- 1 個目の sl : User String 11
- 2 個目の lr : User Long Roll 1
- 3 個目の sl : User String 12

### 3. ユーザーレコードの収集

- 4 個目の lr : User Long Roll 2
- 5 個目の lr : User Long Roll 3

#### データ部

2 行目以降はデータ行です。データ行には、オプションヘッダー部に指定したフィールドオプションに対応するように、パフォーマンスデータそのものを指定します。各カラムは、1 バイト以上のスペースまたはタブで区切ります。

データの並び順は、必ずフィールドオプションの型に合わせてください。

例えば、フィールドオプションに「tt ks lr lr ss ss」と指定した場合、次のデータの並び順では、すべての行がエラーとなります。

```
TCP jplhost "ESTABLISHD COUNT=" 5 "LISTENING COUNT=" 2
TCP jplhost "ESTABLISHD COUNT=" 3 "LISTENING COUNT=" 1
TCP jplhost "ESTABLISHD COUNT=" 3 "LISTENING COUNT=" 2
```

3 列目と 6 列目のフィールドオプションとデータの型が一致していないことがエラーの原因です。

- 3 列目  
フィールドオプション「lr」に合わせて「蓄積した long 型整数値」が指定されるべきところに、文字列「"ESTABLISHD COUNT="」が指定されています。
- 6 列目  
フィールドオプション「ss」に合わせて「サイズ 16 の文字列」が指定されるべきところに、整数値「2, 1, 2」が指定されています。

#### (c) 注意事項

- ユーザー作成データファイルは、アスキーファイルで作成してください。
- このファイルの各データラインは、キャリッジリターンキャラクタ + ラインフィードキャラクタ (CR+LF) によって終了する必要があります。
- ユーザー作成データファイルにコメントは記述できません。
- ユーザー作成データファイルの 1 行目から 3 行目に、空行または半角スペース行が含まれる場合はエラーとなります。
- ユーザー作成データファイルの 4 行目以降に、空行または半角スペース行が含まれる場合は、空行または半角スペース行は無視されます。
- スペースを含む文字列が入力される場合は、設定する文字列を " " で囲みます。
- string タイプでは、印字できる英数字のシングルバイトの文字列値を設定してください。" のような特別なシングルバイトキャラクターは設定できません。
- オプションヘッダー行に指定できるフィールドオプションの定義は、一つのユーザー作成データファイルごとに一つです。異なるフィールドオプションを定義したい場合、別のユーザー作成データファイルを作成してください。

#### (6) デバッグログ

デバッグログとは、ユーザー作成データの内容が正しいかどうかを確認するためのログ

ファイルです。デバッグログを出力する場合には、jpcuser コマンドに `-debug 1`、または `-debug 2` オプションを指定して実行してください。

デバッグログファイルには、ユーザー作成データのデータ行ごとに OK (成功)、NG (失敗)、WG (警告) などのチェック結果が出力されます。デバッグログに NG (失敗) や WG (警告) が出力された場合、ユーザー作成データが不正であると考えられます。ユーザー作成データを出力したユーザーコマンドを見直し、「(5) ユーザー作成データのファイル形式」に従った形式で出力されるように修正してください。

デバッグログファイルの出力先を次に示します。

インストール先フォルダ

```
¥agtt¥agent¥jpcuser¥debug¥jpcuser_dbg_{01|02|03|04|05}.log
```

次に、デバッグログファイルの形式と見方について説明します。

#### (a) デバッグログファイルの形式

デバッグログファイルには四つのセクションがあります。

- プロダクト情報
- jpcuser コマンドの実行日時、プロセス ID
- ヘッダー行
- チェック結果

チェック結果はユーザー作成データのデータ行ごとに出力されます。各項目はコンマで区切ります。

出力される項目を次の表に示します。

表 3-29 デバッグログファイルに出力される項目

項番	セクション	項目	値	説明
1	プロダクト情報	製品名称	Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)	PFM-Agent の製品名称。
2		フォーマットバージョン	FormVer=0001	ユーザー作成データのフォーマットバージョン。
3	jpcuser コマンドの実行日時、プロセス ID	実行日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss	YYYY: 年 MM: 月 DD: 日 hh: 時 mm: 分 ss: 秒
4		プロセス ID	PID=XXXX	jpcuser コマンドのプロセス ID

### 3. ユーザーレコードの収集

項番	セクション	項目	値	説明
5	ヘッダ行	ヘッダー	(例) PD_UPD レコードの場合 LineNumber, Result, APITime, Recordtype, Transactiontype, t, ks, ki, L1, L2, UL1, UL2, F1, F2, SS1, SS2, SS3, SS4, SM1, SM2, SL1	デバッグログのヘッ ダー。 ヘッダー名は、ユーザー 作成データファイルのオ プションヘッダ行で指 定するフィールドオブ ション、およびフィール ド名と対応している。対 応については表 3-30 を 参照。 なお、ヘッダー項目は格 納するユーザーレコード によって異なる。
6	チェック結 果	ユーザー作 成データ ファイル名	(例) File=D:¥Program Files¥HITACHI¥jplpc¥agtt¥ agent¥jpcuser¥UPIB_sample 01.txt	読み込んだユーザー作成 データファイル名を、 ユーザーが指定したパス で出力する。
7		警告・エ ラーメッ セージ	KAVFxxxx-x	後続するレコードの警 告・エラー内容を出力す る。一つのレコードに複 数の誤りがある場合は、 その数だけ警告やエラー を出力する。
8		行番号	数値	ユーザー作成データ内の 行番号。
9		結果	OK	成功。 ユーザー作成データの該 当行に問題がなく、レ コードを変換した。
10			WG	警告。 ユーザー作成データの該 当行に誤りがあるが、レ コードを処理した。 あわせて警告メッセージ を出力する。
11	NG		失敗。 ユーザー作成データの該 当行に誤りがあり、レ コードを変換しなかつ た。 失敗した原因によって、 警告メッセージが表示さ れ処理が継続される場合 と、エラーメッセージが 表示され処理が中断する 場合がある。	
12		BL	空行。 ユーザー作成データの該 当行が空行であることを 示し、無視する。	

項番	セクション	項目	値	説明
13		データ	データ	ユーザー作成データの該当行の内容。 数値フィールドに指定がない場合は0を出力する。 文字列フィールドに指定がない場合は空白(" ")を出力する。

デバッグログファイルに出力されるヘッダー行とユーザー作成データファイルのオプションヘッダー行で指定するフィールドオプション, およびフィールド名の関係を次の表に示します。

表 3-30 デバッグログのヘッダー行と, フィールドオプションおよびフィールドとの対応

項番	デバッグログのヘッダー行の表示	ユーザー作成データファイルのオプションヘッダー行で指定するフィールドオプション	フィールド名 (PFM - View 名)	説明
1	Line Number	-	-	データの行番号
2	Result	-	-	データのチェック結果
3	API Time	-	Collect Time	データが変換された時間
4	Record type	-	Record Type	レコード種別
5	Transaction type	tt	Trans Type	トランザクションタイプ
6	t	t	User Time 1	時間値
7	ks	ks	Trans String Key	文字列型のトランザクションキー
8	ki	ki	Trans Data Key	数値型のトランザクションキー
9	L1	l	User Long 1	long 型整数値
10	L2	l	User Long 2	long 型整数値
11	L3	l	User Long 3	long 型整数値
12	L4	l	User Long 4	long 型整数値
13	L5	l	User Long 5	long 型整数値
14	L1R	lr	User Long Roll 1	蓄積された long 型整数値
15	L2R	lr	User Long Roll 2	蓄積された long 型整数値
16	L3R	lr	User Long Roll 3	蓄積された long 型整数値

### 3. ユーザーレコードの収集

項番	デバッグログのヘッダー行の表示	ユーザー作成データファイルのオプションヘッダー行で指定するフィールドオプション	フィールド名 (PFM - View 名)	説明
17	L4R	lr	User Long Roll 4	蓄積された long 型整数値
18	L5R	lr	User Long Roll 5	蓄積された long 型整数値
19	UL1	u	User Unsigned Long 1	unsigned long 型整数値
20	UL2	u	User Unsigned Long 2	unsigned long 型整数値
21	UL3	u	User Unsigned Long 3	unsigned long 型整数値
22	UL4	u	User Unsigned Long 4	unsigned long 型整数値
23	UL5	u	User Unsigned Long 5	unsigned long 型整数値
24	UL1R	ur	User Unsigned Long Roll 1	蓄積された unsigned long 型整数値
25	UL2R	ur	User Unsigned Long Roll 2	蓄積された unsigned long 型整数値
26	UL3R	ur	User Unsigned Long Roll 3	蓄積された unsigned long 型整数値
27	UL4R	ur	User Unsigned Long Roll 4	蓄積された unsigned long 型整数値
28	UL5R	ur	User Unsigned Long Roll 5	蓄積された unsigned long 型整数値
29	F1	f	User Float 1	浮動小数点値
30	F2	f	User Float 2	浮動小数点値
31	F3	f	User Float 3	浮動小数点値
32	F4	f	User Float 4	浮動小数点値
33	F5	f	User Float 5	浮動小数点値
34	F1R	fr	User Float Roll 1	蓄積された浮動小数点値
35	F2R	fr	User Float Roll 2	蓄積された浮動小数点値
36	F3R	fr	User Float Roll 3	蓄積された浮動小数点値
37	F4R	fr	User Float Roll 4	蓄積された浮動小数点値



項番	デバッグログのヘッダー行の表示	ユーザー作成データファイルのオプションヘッダー行で指定するフィールドオプション	フィールド名 (PFM - View 名)	説明
38	F5R	fr	User Float Roll 5	蓄積された浮動小数点値
39	SS1	ss	User String 1	サイズ 16 の文字列
40	SS2	ss	User String 2	サイズ 16 の文字列
41	SS3	ss	User String 3	サイズ 16 の文字列
42	SS4	ss	User String 4	サイズ 16 の文字列
43	SS5	ss	User String 5	サイズ 16 の文字列
44	SM1	sm	PD_UPD, PI_UPI レコードでは User String 5 PD_UPDB, PI_UPIB レコードでは User String 6	サイズ 32 の文字列
45	SM2	sm	PD_UPD, PI_UPI レコードでは User String 6 PD_UPDB, PI_UPIB レコードでは User String 7	サイズ 32 の文字列
46	SM3	sm	User String 8	サイズ 32 の文字列
47	SM4	sm	User String 9	サイズ 32 の文字列
48	SM5	sm	User String 10	サイズ 32 の文字列
49	SL1	s1	PD_UPD, PI_UPI レコードでは User String 7 PD_UPDB, PI_UPIB レコードでは User String 11	サイズ 64 の文字列
50	SL2	s1	User String 12	サイズ 64 の文字列
51	SL3	s1	User String 13	サイズ 64 の文字列
52	SL4	s1	User String 14	サイズ 64 の文字列
53	SL5	s1	User String 15	サイズ 64 の文字列

( 凡例 )

- : 該当しない。

( b ) デバッグログファイルの出力例

デバッグログファイルの出力例を次の図に示します。

### 3. ユーザーレコードの収集

図 3-7 デバッグログファイルの出力例

```
#####
#Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows)
#FormVer=0001
#Date=Sat Feb 24 16:00:41 2007
#PID=29714
#####
```

Line Number, Result, API Time, Record type, Transaction type, t, ks, ki, L1, L2, L3, L4, L5, L1R, L2R, L3R, L4R, L5R, UL1, UL2, UL3, UL4, UL5, UL1R, UL2R, UL3R, UL4R, UL5R, F1, F2, F3, F4, F5, F1R, F2R, F3R, F4R, F5R, SS1, SS2, SS3, SS4, SS5, SM1, SM2, SM3, SM4, SM5, SL1, SL2, SL3, SL4, SL5	(1) ヘッダ一行
File=D:\Program Files\HITACHI\jpc\agent\jpcuser\ UPIB_sample01.txt	(2) ファイル名1
<p>チェック結果</p> <p>行番号 4. OK, Sat Feb 24 16:00:41 2007, PI_UPIB, TT, Sat Feb 24 10:09:56 2007, a, 0, 1.000000, 0.0 00000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0. 000000, 0.000000, ss1, .....</p>	(3) ファイル名1の 4行目のチェック 結果 (OK)
File=UPIB_sample02.txt	(4) ファイル名2
KAVF11908-W Warning: オプション (t) に指定された値 (2007/02/ 24, 10:10:010) は無効です (ファイル名=UPIB_sample02.txt)	(5) ファイル名2の 4行目の警告1
KAVF11907-W Warning: オプションに指定された値が長過ぎます (ss=abcdefghijklmno, ファ イル名=UPIB_sample02.txt)	(6) ファイル名2の 4行目の警告2
4, WG, Sat Feb 24 16:00:41 2007, PI_UPIB, TT, n/a. ab, 0.000000, 0.000000 0, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000000, 0.000 000, 0.000000, abcdefghi jklmno, .....	(7) ファイル名2の 4行目のチェック 結果 (WG)
5, BL	(8) 5, 6行目の チェック結果 (BL)
6, BL	
KAVF11902-W Warning: オプション (ks) に指定された値 (abcdefghijklmnoqrst) が長過ぎ ます (ファイル名=UPIB_sample02.txt) 7, NG ...	(9) 7行目の警告 (10) 7行目の チェック結果 (NG)

(凡例)  
 : 警告の該当箇所

図中の番号に沿って説明します。

1. この行は, ヘッダ行を示しています。
2. 読み込んだユーザー作成データのファイル名が, ユーザーが指定したパスで表示されています。
3. この行から, ユーザー作成データのチェック結果が出力されます。先頭の「4」は, ユーザー作成データファイルの行数です。ユーザー作成データファイルは, 1行目が

製品情報，2行目がバージョン情報，3行目がオプションヘッダー行となっているため，通常は「4」から始まります。チェック結果が問題なければ，「Result」に「OK」が出力されます。

4. 読み込んだユーザー作成データのファイル名が，ユーザーが指定したパスで表示されています。
5. この行は，UPIB\_sample02.txt の4行目に警告が発生していることを示しています。設定された「t」の値（2007/02/24,10:10:010）が，指定のフォーマットと合っていないため警告となり，図中（7）に該当する行の「t」が「n/a」になっています。
6. この行も同じく，UPIB\_sample02.txt の4行目に警告が発生していることを示しています。「ss」が規定バイト数の15バイトを超えているため警告が出力され，図中（7）に該当する行の「SS1」が「abcdefghijklmno」になっています。
7. 図中（5）と（6）の警告が発生しているため，4行目のチェック結果「Result」に「WG」が出力されています。
8. この行は，5行目と6行目が，空白であることを示しています。
9. この行は，7行目で警告が発生していることを示しています。設定された「ks」が規定の19バイトを超えているため，警告が出力されています。
10. ユーザー作成データファイルの7行目のユニークキーである「ks」が誤っているためこのデータは使用できず，「Result」が「NG」になっています。ユニークキーである「Transaction type」，「ks」，「ki」が不正なレコードは処理されません。



# 4

## 監視テンプレート

この章では、PFM - Agent for Platform の監視テンプレートについて説明します。

---

監視テンプレートの概要

---

アラームの記載形式

---

アラーム一覧

---

レポートの記載形式

---

レポートのフォルダ構成

---

レポート一覧

---

## 監視テンプレートの概要

---

Performance Management では、次の方法でアラームとレポートを定義できます。

PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをそのまま使用する

PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをコピーしてカスタマイズする

ウィザードを使用して新規に定義する

PFM - Agent で用意されているアラームやレポートを「監視テンプレート」と呼びます。監視テンプレートのレポートとアラームは、必要な情報があらかじめ定義されているので、コピーしてそのまま使用したり、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズしたりできます。そのため、ウィザードを使用して新規に定義をしなくても、監視対象の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

この章では、PFM - Agent for Platform で定義されている監視テンプレートのアラームとレポートの設定内容について説明します。

監視テンプレートの使用方法の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームによる稼働監視および稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。

## アラームの記載形式

---

ここでは、アラームの記載形式を示します。アラームは、アルファベット順に記載しています。

### アラーム名

監視テンプレートのアラーム名を示します。

### 概要

このアラームで監視できる監視対象の概要について説明します。

### 主な設定

このアラームの主な設定値を表で説明します。この表では、アラームの設定値と、PFM - Web Console の [ アラーム階層 ] 画面でアラームアイコンをクリックし、[ プロパティの表示 ] メソッドをクリックしたときに表示される、[ プロパティ ] 画面の設定項目との対応を示しています。各アラームの設定の詳細については、PFM - Web Console のアラームの [ プロパティ ] 画面で確認してください。


設定値の「 - 」は、設定が常に無効であることを示します。

なお、条件式で異常条件と警告条件が同じ場合は、アラームイベントは異常のものが発行されます。

### アラームテーブル

このアラームが格納されているアラームテーブルを示します。

### 関連レポート

このアラームに関連する、監視テンプレートのレポートを示します。PFM - Web Console の [ エージェント階層 ] 画面でエージェントアイコンをクリックし、[ アラームの状態の表示 ] メソッドで表示される  アイコンをクリックすると、このレポートを表示できます。

## アラーム一覧

一つ以上のアラームを一つのテーブルにまとめたものを「アラームテーブル」と呼びます。PFM・Agent for Platform の監視テンプレートで定義されているアラームは、アラームテーブルの形式で、PFM・Web Console の [ アラーム階層 ] タブに表示される「Windows」フォルダに格納されています。

アラームテーブル名を次に示します。

- PFM Windows Template Alarms 09.00
- PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00
- PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00
- PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00
- PFM Windows Template Alarms [NET] 09.00
- PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10
- PFM Windows Template Alarms [LOG] 09.00
- PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10

アラームテーブル名の [ ] 内の表示

[ ] 内は、そのアラームテーブルがどんな監視項目に対応しているかを示しています。

[ ] が付かないアラームテーブルは、基本的なアラームをまとめたアラームテーブルです。

アラームテーブル名末尾の「09.00」または「09.10」

アラームテーブルのバージョンを示します。

なお、PFM・Agent for Platform の場合、アラーム階層に、ご使用の Performance Management システムにはないバージョンのアラームテーブルが表示されることがあります。監視テンプレートで定義されているアラームを使用する際は、Performance Management システムで使用しているアラームテーブルのバージョンおよびバージョンの互換性をご確認ください。アラームテーブルのバージョンおよびバージョン互換については、「付録 H バージョン互換」を参照してください。

PFM・Agent for Platform の監視テンプレートで定義されているアラームを、次の表に示します。

表 4-1 アラーム一覧

アラームテーブル名	アラーム名	監視対象
PFM Windows Template Alarms 09.00	Available Memory	物理メモリー領域の未使用サイズ (メガバイト単位)。
	CPU Usage	プロセッサの使用率 (%)。
	Disk Space	使用可能な領域全体に対する論理ディスクの空き領域の割合 (%)。



アラームテーブル名	アラーム名	監視対象
PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00	CPU Usage	プロセッサの使用率 (%)。
	Processor Queue	プロセッサのキュー内の要求数。
	SVR Processor Queue	
PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00	Available Memory	物理メモリー領域の未使用サイズ (メガバイト単位)。
	Committed Mbytes	仮想メモリー領域の使用量 (メガバイト単位)。
	Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 (秒単位)。
	Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 (秒単位)。
PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00	Disk Space	使用可能な領域全体に対するディスクの空き領域の割合 (%)。
	Logical Disk Free	使用可能なディスク領域全体に対する未使用領域 (メガバイト単位)。
	Disk Busy %	読み込みまたは書き込み要求の処理でディスクがビジーだった経過時間の割合 (%)。
	Logical Disk Queue	ディスクに残っている処理待ちまたは処理中のキューの要求数。
	Physical Disk Queue	
PFM Windows Template Alarms [NET] 09.00	Network Received	ネットワークインターフェースで受信されたデータ量の割合 (バイト / 秒単位)。
PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10	Process End	プロセス名。
	Process Alive	ワークグループが実行しているプロセス数。
	Service(Service Nm)	サービスコントロールマネージャーデータベースで使用されているサービス名、およびデータ収集時のサービスの状態。
	Service(Display Nm)	サービスを識別するためにユーザーインターフェースプログラムによって使用されている名前、およびデータ収集時のサービスの状態。
	Process Existence	プログラム名。
PFM Windows Template Alarms [LOG] 09.00	Event Log(all)	イベントログに出力されたすべてのエラーおよび警告。
	Event Log(System)	イベントログに出力された MSCS のエラーおよび警告。

#### 4. 監視テンプレート アラーム一覧

アラームテーブル名	アラーム名	監視対象
PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10	Application Status	プロセスの稼働・非稼働情報収集で収集しているアプリケーションの状態。

# Available Memory

## 概要

Available Memory アラームは、物理メモリー領域の未使用サイズ（メガバイト単位）を監視します。監視する値は、プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー（キャッシュ済み）の収集時の領域の合計です。この値は、平均値ではなく最新の監視値となります。未使用サイズがしきい値より小さい場合、物理メモリー領域が不足しているおそれがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Available memory is below %CVS megabytes
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI)
	フィールド	Available Mbytes
	異常条件	Available Mbytes < 3
	警告条件	Available Mbytes < 4

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms 09.00

PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00

#### 4. 監視テンプレート Available Memory

### 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/System Overview

# CPU Usage

## 概要

CPU Usage アラームは、プロセッサの使用率 (%) を監視します。監視する値は、プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合です。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100% で表示されます。使用率が継続してしきい値より高い場合、プロセッサがシステムのボトルネックになっているおそれがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	CPU is at %CVS% utilization
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview ( PI )
	フィールド	CPU %
	異常条件	CPU % >= 90
	警告条件	CPU % > 80

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms 09.00

PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/CPU Usage - Top 10

#### 4. 監視テンプレート CPU Usage

Processes

# Disk Space

## 概要

Disk Space アラームは、使用可能な領域全体に対する論理ディスクの空き領域の割合を監視します。空き領域がしきい値より少ない場合、ディスク容量が不足しているおそれがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Available disk space is %CVS%
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	% Free Space
	異常条件	% Free Space < 5
	警告条件	% Free Space < 15

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms 09.00

PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Free Space - Low 10 Logical Drives

# Processor Queue

## 概要

Processor Queue アラームは、プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数を監視します。要求数が継続してしきい値以上の場合、プロセッサが混雑していることを示します。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Queue Length = %CVS
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI)
	フィールド	Processor Queue Length
	異常条件	Processor Queue Length >= 10
	警告条件	Processor Queue Length >= 2

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/Workload Status



# SVR Processor Queue

## 概要

SVR Processor Queue アラームは、CPU のサーバ作業キューの現在の長さを監視します。キューの長さが継続してしきい値以上の場合、プロセッサに大きな負荷が掛かっていることを示します。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Queue Length = %CVS
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Server Work Queues Overview (PI_SVRQ)
	フィールド	Queue Length
	異常条件	Queue Length >= 3
	警告条件	Queue Length >= 2

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [CPU] 09.00

## 関連レポート

なし

## Committed Mbytes

### 概要

Committed Mbytes アラームは、仮想メモリ領域の使用量（メガバイト単位）を監視します。仮想メモリ領域の使用量が継続してしきい値（PI レコードの Total Physical Mem Mbytes フィールド）以上の場合、物理メモリが不足しているおそれがあります。

### 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Committed Mbytes = %CVS1
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI)
	フィールド	Committed Mbytes
	異常条件	Committed Mbytes >= 2046 <sup>1</sup>
	警告条件	Committed Mbytes >= 1024 <sup>2</sup>

#### (凡例)

- : 設定は常に無効です。

#### 注 1

環境に応じて、PI レコードの Commit Limit Mbytes フィールドの 90% 程度の値を設定してください。

#### 注 2

環境に応じて、PI レコードの Total Physical Mem Mbyte フィールドの値を設定してください。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00

## 関連レポート

なし

# Pages/sec

## 概要

Pages/sec アラームは、ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合（秒単位）を監視します。ページ数の割合が継続してしきい値以上の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがあります。ただし、しきい値の超過が一時的な場合は、監視した値が 20 までは許容範囲になることがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Page Faults = %CVS1
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview ( PI )
	フィールド	Pages/sec
	異常条件	Pages/sec >= 5
	警告条件	Pages/sec >= 4

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

注

環境に応じて変更してください。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/System Overview

# Page Faults/sec

## 概要

Page Faults/sec アラームは、ページフォルトが発生した数の割合（秒単位）を監視します。ページフォルトが発生した数の割合が継続してしきい値以上の場合、メモリーがボトルネックになっているおそれがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Page Faults = %CVS1
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	3
	回しきい値超過	2
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	System Overview (PI)
	フィールド	Page Faults/sec
	異常条件	Page Faults/sec >= 5
	警告条件	Page Faults/sec >= 4

### (凡例)

- : 設定は常に無効です。

### 注

環境に応じて変更してください。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [MEM] 09.00

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/System Overview

# Logical Disk Free

## 概要

Logical Disk Free アラームは、使用可能なディスク領域全体に対する未使用領域（メガバイト単位）を監視します。未使用領域が少ない場合、ディスク容量が不足していることを示します。

## 参考

特定のディスクを監視する場合、このアラームをコピーし、ID フィールドの条件式を「ID = 監視する論理ディスクボリューム名」に変更したアラームを作成してください。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Disk Space(%CVS1) = %CVS2 MB
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	ID
	異常条件	ID <> _Total <sup>1</sup>
	警告条件	ID <> _Total <sup>1</sup>
条件式 2	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	Free Mbytes
	異常条件	Free Mbytes < 5120 <sup>2</sup>
	警告条件	Free Mbytes < 10240 <sup>2</sup>

#### 4. 監視テンプレート Logical Disk Free

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

注 1

監視する論理ディスクボリューム名を設定してください。表の設定値は、ID フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

注 2

環境に応じて変更してください。

### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00

### 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/Free Megabytes -  
Logical Drive Status



# Disk Busy %

## 概要

Disk Busy % アラームは、読み込みまたは書き込み要求の処理でディスクがビジーだった経過時間の割合 (%) を監視します。経過時間の割合が継続してしきい値の場合、ディスクへの負荷が高いことを示します。

## 参考

特定のディスクを監視する場合、このアラームをコピーし、ID フィールドの条件式を「ID = 監視する論理ディスクボリューム名」に変更したアラームを作成してください。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Disk Busy % (%CVS1) = %CVS2
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	4
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	ID
	異常条件	ID <> _Total
	警告条件	ID <> _Total
条件式 2	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	% Disk Time
	異常条件	% Disk Time >= 90
	警告条件	% Disk Time >= 50

#### 4. 監視テンプレート Disk Busy %

##### (凡例)

- : 設定は常に無効です。

##### 注

監視する論理ディスクボリューム名を設定してください。表の設定値は、ID フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

##### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00

##### 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Disk Time - Top 10  
Logical Drives

# Logical Disk Queue

## 概要

Logical Disk Queue アラームは、論理ディスクに残っている処理待ちまたは処理中のキューの要求数を監視します。要求数が継続してしきい値以上の場合、論理ディスクが混雑していることを示します。

## 参考

特定のディスクを監視する場合、このアラームをコピーし、ID フィールドの条件式を「ID = 監視する論理ディスクボリューム名」に変更したアラームを作成してください。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Disk Queue(%CVS1) = %CVS2 MB
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	4
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	ID
	異常条件	ID <> _Total
	警告条件	ID <> _Total
条件式 2	レコード	Logical Disk Overview ( PI_LOGD )
	フィールド	Current Disk Queue Length
	異常条件	Current Disk Queue Length >= 5
	警告条件	Current Disk Queue Length >= 3

#### 4. 監視テンプレート Logical Disk Queue

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

注

監視する論理ディスクボリューム名を設定してください。表の設定値は、ID フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

#### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00

#### 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/  
Logical Drive Detail

# Physical Disk Queue

## 概要

Physical Disk Queue アラームは、物理ディスクに残っている処理待ちまたは処理中のキューの要求数を監視します。要求数が継続してしきい値以上の場合、物理ディスクが混雑していることを示します。

## 参考

特定のディスクを監視する場合、このアラームをコピーし、ID フィールドの条件式を「ID = 監視する物理ディスク番号」に変更したアラームを作成してください。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Disk Queue(%CVS1) = %CVS2 MB
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	4
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Physical Disk Overview ( PI_PHYD )
	フィールド	ID
	異常条件	ID <> _Total
	警告条件	ID <> _Total
条件式 2	レコード	Physical Disk Overview ( PI_PHYD )
	フィールド	Current Disk Queue Length
	異常条件	Current Disk Queue Length >= 5
	警告条件	Current Disk Queue Length >= 3

#### 4. 監視テンプレート Physical Disk Queue

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

注

監視する物理ディスク番号を設定してください。表の設定値は、ID フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

#### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [DSK] 09.00

#### 関連レポート

なし

# Network Received

## 概要

Network Received アラームは、1 秒ごとにネットワークインターフェースで受信されるデータ量の割合（バイト/秒単位）を監視します。サーバがネットワークから受信したバイト数とネットワークカードの総帯域幅性能を比較し、帯域幅（ネットワークで一定時間内に転送できるデータの量）が 50% 以上の場合、ネットワーク接続がボトルネックになっているおそれがあります。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Received = %CVS1 byte/sec
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	5
	回しきい値超過	3
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Network Interface Overview (PI_NETI)
	フィールド	Bytes Rcvd/sec
	異常条件	Bytes Rcvd/sec >= 3000 <sup>1</sup>
	警告条件	Bytes Rcvd/sec >= 2048 <sup>2</sup>

### (凡例)

- : 設定は常に無効です。

#### 注 1

環境に応じて、NIC の帯域幅の 70% 程度の値を設定してください。

#### 注 2

環境に応じて、NIC の帯域幅の 50% 程度の値を設定してください。

4. 監視テンプレート  
Network Received

アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [NET] 09.00

関連レポート

なし



# Process End

## 概要

Process End アラームは、プロセスの消滅を監視します。パフォーマンスデータが収集されない場合、プロセスが停止していることを示します。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Process status has changed
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 正常
条件式	レコード	Process Detail Interval ( PD_PDI )
	フィールド	Program
	異常条件	Program = jpcsto
	警告条件	Program = jpcsto

### ( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

### 注

監視するプロセス名を設定してください。表の設定値は、Agent Store サービスのプロセス名を設定する場合の例です。なお、値を監視するだけなので、異常条件および警告条件はありません。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10

4. 監視テンプレート  
Process End

関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/  
Process Detail

# Process Alive

## 概要

Process Alive アラームは、ワークグループに属しているプロセスの生成を監視します。

収集データ追加ユーティリティで、次のように設定して監視してください。

表 4-2 収集データ追加ユーティリティでの設定

収集データ追加ユーティリティの項目 <sup>1</sup>	内容 <sup>3</sup>
プログラム名・ユーザー名・グループ名の全条件に一致 (AND)	チェックする
ワークグループ名	workgroup
プログラム名 <sup>2</sup>	yyy zzz
ユーザー名	-
グループ名	-

(凡例)

- : 指定しません。

注 1

収集データ追加ユーティリティは、PFM - Agent for Platform をインストールした環境で実行してください。収集の設定方法については、「3.2.4 ワークグループ情報収集の設定」を参照してください。

注 2

プログラム名は、Windows の [ スタート ] メニューの [ 管理ツール ] - [ パフォーマンス ] - [ システムモニタ ] で表示される Process オブジェクトのインスタンス、または PD レコードの Program フィールドに格納される値を指定してください。

注 3

yyy および zzz という名前のプロセスをワークグループとして設定する場合の例を示しています。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Workgroup Application Process Count = %CVS1
	アラームを有効にする	する

4. 監視テンプレート  
Process Alive

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Workgroup Summary ( PI_WGRP )
	フィールド	Process Count
	異常条件	Process Count > 0
	警告条件	Process Count > 0
条件式 2	レコード	Workgroup Summary ( PI_WGRP )
	フィールド	Workgroup
	異常条件	Workgroup = workgroup
	警告条件	Workgroup = workgroup

(凡例)

- : 設定は常に無効です。

注

監視するワークグループ名を設定してください。収集データ追加ユーティリティでの設定が必要です。

### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10

### 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/  
Process Detail

## Service(Service Nm)

### 概要

Service(Service Nm) アラームは、サービスコントロールマネージャーデータベースで使用されているサービス名、およびデータ収集時のサービスの状態を監視します。アプリケーションサービス（プロセス）が起動中（RUNNING）以外の場合、サービスが停止していることを示します。

### 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	State of service(%CVS1) has changed
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Service Process Detail ( PD_SVC )
	フィールド	Service Name
	異常条件	Service Name = JP1PCAGT_TS
	警告条件	Service Name = JP1PCAGT_TS
条件式 2	レコード	Service Process Detail ( PD_SVC )
	フィールド	State
	異常条件	State <> RUNNING
	警告条件	State <> RUNNING

### (凡例)

- : 設定は常に無効です。

### 注

監視するサービス名を設定してください。表の設定値は、Agent Store サービスの

#### 4. 監視テンプレート Service(Service Nm)

サービス名を設定する場合の例です。

#### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10

#### 関連レポート

なし

## Service(Display Nm)

### 概要

Service(Display Nm) アラームは、サービスを識別するためにユーザーインターフェースプログラムによって使用されている名前、およびデータ収集時のサービスの状態を監視します。アプリケーションサービス（プロセス）が起動中（RUNNING）以外の場合、サービスが停止していることを示します。

### 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	State of service(%CVS1) has changed
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Service Process Detail ( PD_SVC )
	フィールド	Display Name
	異常条件	Display Name = PFM - Agent Store for Windows
	警告条件	Display Name = PFM - Agent Store for Windows
条件式 2	レコード	Service Process Detail ( PD_SVC )
	フィールド	State
	異常条件	State <> RUNNING
	警告条件	State <> RUNNING

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

注

#### 4. 監視テンプレート Service(Display Nm)

サービスを識別するためにユーザーインターフェースプログラムによって使用される名称を設定してください。表の設定値は、ユーザーインターフェースプログラムによって使用されている Agent Store サービスの名称を設定する場合の例です。

#### アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10

#### 関連レポート

なし



# Event Log(all)

## 概要

Event Log(all) アラームは、イベントログに出力されたすべてのエラーおよび警告を監視します。なお、収集データ追加ユーティリティで収集対象のイベントログを設定できません。収集データ追加ユーティリティでイベントログを収集する設定については、「3.2.3 イベントログ情報収集の設定」を参照してください。

## 参考

このアラームでは、一つでも異常域や警告域の値が検知された時点でアラーム評価を終了します。そのため、収集されたすべてのデータが評価されるとは限りません。イベントログは、それぞれのログが単独の情報で前回の評価とは関係がないため、収集されたすべてのデータを評価することを推奨します。

すべてのデータを評価するには、このアラームをコピーし、PFM・Web Console のアラームのプロパティで [アラームを有効にする]、[常にアラーム通知する]、および [すべてのデータを評価する] をチェックしたアラームを作成して監視してください。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	%CVS1 %CVS2, %CVS3 (%CVS4), %CVS5
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	1
	回しきい値超過	1
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Log Name
	異常条件	Log Name <> dummy <sup>1</sup>
	警告条件	Log Name <> dummy <sup>1</sup>

4. 監視テンプレート  
Event Log(all)

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
条件式 2	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Event Type Name
	異常条件	Event Type Name = Error
	警告条件	Event Type Name = Warning
条件式 3	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Source Name
	異常条件	Source Name <> dummy <sup>2</sup>
	警告条件	Source Name <> dummy <sup>2</sup>
条件式 4	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Event ID
	異常条件	Event ID <> 0
	警告条件	Event ID <> 0
条件式 5	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Description
	異常条件	Description <> dummy <sup>3</sup>
	警告条件	Description <> dummy <sup>3</sup>

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

注 1

監視するイベントログの種類を設定してください。表の設定値は、Log Name フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

注 2

エントリーを生成したソース名を設定してください。表の設定値は、Source Name フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

注 3

イベントログの説明を設定してください。表の設定値は、Description フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [LOG] 09.00

関連レポート

なし

## Process Existence

### 概要

Process Existence アラームは、プロセスの消滅を監視します。プロセスの存在が確認されない場合、プロセスが停止していることを示します。

### 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Process status has changed
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	E メール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 正常
条件式	レコード	Application Process Overview ( PD_APS )
	フィールド	Program Name
	異常条件	Program Name = jpcsto.exe
	警告条件	Program Name = jpcsto.exe

### ( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

### 注

監視するプログラム名を設定してください。PD\_APS レコードの「Program Name」フィールドを確認して、このフィールドと同じ文字列を入力する必要があります。取得元の情報に ASCII コードの文字 ( 0x20 ~ 0x7E ) 以外が含まれる場合、PD\_APS レコードの「Program Name」フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1 バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」( 全角 ) は次のように変換されます。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#`
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [PS] 09.10

## 関連レポート

なし

## Event Log(System)

### 概要

Event Log(System) アラームは、イベントログに出力される MSCS のエラーおよび警告を監視します。

なお、収集データ追加ユーティリティで収集対象のイベントログを設定できます。収集データ追加ユーティリティでイベントログを収集する設定については、「3.2.3 イベントログ情報収集の設定」を参照してください。

### 参考

このアラームでは、一つでも異常域や警告域の値が検知された時点でアラーム評価を終了します。そのため、収集されたすべてのデータが評価されるとは限りません。イベントログは、それぞれのログが単独の情報で前回の評価とは関係がないため、収集されたすべてのデータを評価することを推奨します。

すべてのデータを評価するには、このアラームをコピーし、PFM - Web Console のアラームのプロパティで [ アラームを有効にする ], [ 常にアラーム通知する ], および [ すべてのデータを評価する ] をチェックしたアラームを作成して監視してください。

### 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	%CVS1 %CVS2, %CVS3 (%CVS4), %CVS5
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	インターバル中	1
	回しきい値超過	1
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Log Name
	異常条件	Log Name = System

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
	警告条件	Log Name = System
条件式 2	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Event Type Name
	異常条件	Event Type Name = Error
	警告条件	Event Type Name = Warning
条件式 3	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Source Name
	異常条件	Source Name = ClusSvc
	警告条件	Source Name = ClusSvc
条件式 4	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Event ID
	異常条件	Event ID <> 0
	警告条件	Event ID <> 0
条件式 5	レコード	Event Log ( PD_ELOG )
	フィールド	Description
	異常条件	Description <> dummy
	警告条件	Description <> dummy

( 凡例 )

- : 設定は常に無効です。

注

イベントログの説明を設定してください。表の設定値は、Description フィールドを満たす条件値を設定する場合の例です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [LOG] 09.00

## 関連レポート

なし

# Application Status

## 概要

Application Status アラームは、Application Summary Extension (PD\_APP2) レコードで監視しているアプリケーションの状態を監視します。

## 主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	プロダクト	Windows
	メッセージテキスト	Status of application(%CVS1) has changed
	アラームを有効にする	する
	監視時刻範囲	常に監視する
	すべてのデータを評価する	しない
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	0
	回しきい値超過	0
アクション	Eメール	-
	コマンド	-
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式 1	レコード	Application Summary Extension (PD_APP2)
	フィールド	Application Name
	異常条件	Application Name = *
	警告条件	Application Name = *
条件式 2	レコード	Application Summary Extension (PD_APP2)
	フィールド	Application Exist
	異常条件	Application Exist = ABNORMAL
	警告条件	Application Exist = NORMAL
条件式 3	レコード	Application Summary Extension (PD_APP2)
	フィールド	Application Status
	異常条件	Application Status = ABNORMAL
	警告条件	Application Status = ABNORMAL



(凡例)

- : 設定は常に無効です。

## アラームテーブル

PFM Windows Template Alarms [APP] 09.10

## 関連レポート

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Application Status

## レポートの記載形式

---

ここでは、レポートの記載形式を示します。レポートは、アルファベット順に記載しています。

### レポート名

監視テンプレートのレポート名を示します。

レポート名に「(Multi-Agent)」が含まれるレポートは、複数のインスタンスについて情報を表示するレポートです。

レポート名に「(Multi-Agent)」が含まれないレポートは、単一のインスタンスについて情報を表示するレポートです。

### 概要

このレポートで表示できる情報の概要について説明します。

### 格納先

このレポートの格納先を示します。

### レコード

このレポートで使用するパフォーマンスデータが、格納されているレコードを示します。履歴レポートを表示するためには、この欄に示すレコードを収集するように、あらかじめ設定しておく必要があります。レポートを表示する前に、PFM - Web Console の [ エージェント階層 ] 画面でエージェントのプロパティを表示して、このレコードが「Log = Yes」に設定されているか確認してください。リアルタイムレポートの場合、設定する必要はありません。

### フィールド

このレポートで使用するレコードのフィールドについて、表で説明します。

表中の <sup>1</sup> ~ <sup>3</sup> は、次の内容を示します。

注 1

このフィールドの値は、収集時に OS から返された最新の監視値です。

注 2

このフィールドを履歴レポートで要約した場合、最後に収集した値が表示されます。

注 3

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドです。Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドの詳細については、「5. レコード」を参照してください。

各フィールドのパフォーマンスデータの求め方には、次の種類があります。

- 今回収集したデータと前回のインターバルで収集したデータによって求められた平均や割合を求めるもの。
- 今回収集したデータだけで求められるのもの（OS 内部で累積された値を含む。表中の<sup>1</sup>が該当する）。
- ほかのフィールドのデータから求めるもの（「5. レコード」の各レコードのフィールドの表にある「データソース」参照）。

特に断り書きがない場合、データの収集間隔によって求められる値となります。

履歴レポートで、PI レコードタイプのレコードを、レポート間隔に「分」以外を設定して要約した場合に表示される値には、次の種類があります。

- 要約した間隔の平均値を表示するもの。
- 最後に収集した値を表示するもの。
- 合計値を表示するもの。
- 最小値を表示するもの。
- 最大値を表示するもの。

特に断り書きがないフィールドの値は、要約した間隔の平均値が表示されます。

### ドリルダウンレポート（レポートレベル）

このレポートに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM・Web Console のレポートウィンドウのドリルダウンレポートプルダウンメニューから、該当するドリルダウンレポート名を選択し、[レポートの表示] をクリックしてください。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

### ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

このレポートのフィールドに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM・Web Console のレポートウィンドウのグラフ、一覧、または表をクリックしてください。履歴レポートの場合、時間項目からドリルダウンレポートを表示することで、より詳細な時間間隔でレポートを表示できます。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

ドリルダウンレポートについての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。

## レポートのフォルダ構成

---

PFM - Agent for Platform のレポートのフォルダ構成を次に示します。< >内は、フォルダ名を示します。

```
<Windows>
+-- <Operating System>
  +-- <Monthly Trend>
    +-- CPU Trend
    +-- CPU Trend (Multi-Agent)
    +-- Memory Available Trend (Multi-Agent)
    +-- Process Trend
    +-- Server Activity Summary Trend (Multi-Agent)
    +-- Server Sessions Trend (Multi-Agent)
  +-- <Status Reporting>
    +-- <Daily Trend>
      +-- Access Failure Status
      +-- CPU Status (Multi-Agent)
      +-- Memory Paging Status (Multi-Agent)
      +-- OS Memory Usage Status
      +-- Server Activity Summary (Multi-Agent)
      +-- Workload Status (Multi-Agent)
    +-- <Real-Time>
      +-- Access Failure Status
      +-- Free Megabytes - Logical Drive Status
      +-- OS Memory Usage Status
      +-- System Utilization Status
      +-- Workload Status
  +-- <Troubleshooting>
    +-- <Real-Time>
      +-- CPU Usage - Top 10 Processes
      +-- Disk Time - Top 10 Logical Drives
      +-- Free Space - Top 10 Logical Drives
      +-- Free Space - Low 10 Logical Drives
      +-- Network Segment Summary
      +-- Page Faults - Top 10 Processes
      +-- Server Activity Summary
      +-- System Overview
      +-- Application Status
      +-- <Drilldown Only>
        +-- Logical Drive Detail
        +-- Network Segment Detail
        +-- Process Detail
        +-- Server Activity Detail
        +-- Application Process Status
    +-- <Recent Past>
      +-- CPU Usage Summary
      +-- File System I/O Summary
      +-- Memory Paging
      +-- Server Activity Summary
      +-- System Memory Detail
      +-- System Overview
      +-- <Drilldown Only>
        +-- Application Process Count
        +-- Monitoring Process Detail
```

注

予約レポートのため使用できません。

各フォルダの説明を次に示します。

#### 「Monthly Trend」フォルダ

最近 1 か月間の 1 日ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。1 か月のシステムの傾向を分析するために使用します。

#### 「Status Reporting」フォルダ

日、または週ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。システムの総合的な状態を見るために使用します。

- 「Daily Trend」フォルダ

最近 24 時間の 1 時間ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。1 日ごとにシステムの状態を確認するために使用します。

- 「Real-Time」フォルダ

システムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

#### 「Troubleshooting」フォルダ

トラブルを解決するのに役立つ情報を表示するレポートが格納されています。システムに問題が発生した場合、問題の原因を調査するために使用します。

- 「Real-Time」フォルダ

現在のシステムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

- 「Recent Past」フォルダ

最近 1 時間の 1 分ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。

さらに、これらのフォルダの下位には、次のフォルダがあります。上位のフォルダによって、どのフォルダがあるかは異なります。各フォルダについて次に説明します。

#### 「Advanced」フォルダ

デフォルトで「Log = No」に設定されているレコードを使用しているレポートが格納されています。このフォルダのレポートを表示するには、使用しているレコードの設定を PFM - Web Console で「Log = Yes」にする必要があります。

#### 「Drilldown Only」フォルダ

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）として表示されるレポートが格納されています。そのレポートのフィールドに関連する詳細な情報を表示するために使用します。

## レポート一覧

監視テンプレートで定義されているレポートをアルファベット順に次の表に示します。

表 4-3 レポート一覧

カテゴリー	レポート名	表示する情報
システム	File System I/O Summary	最近 1 時間の I/O 使用量の要約 (分単位)。
	Process Trend	最近 1 か月間のシステムで実行されたプロセス数 (日単位)。
	System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート)	システム全体の概要。
	System Overview (システムの概要を示す履歴レポート)	最近 1 時間のシステムの概要 (分単位)。
	Workload Status	システムのワークロード関連データ。
	Workload Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のシステムについてのワークロード関連データの要約 (時単位)。
ディスク	Disk Time - Top 10 Logical Drives	ディスク使用率が高い論理ドライブの上位 10 個。
	Free Megabytes - Logical Drive Status	論理ディスクで使用できる領域に関連する情報。
	Free Space - Low 10 Logical Drives	空き領域が少ない論理ドライブ上位 10 個。
	Free Space - Top 10 Logical Drives	空き領域が多い論理ドライブの上位 10 個。
	Logical Drive Detail	特定の論理ドライブの詳細。
ネットワーク	Access Failure Status (システムアクセスエラーを示すリアルタイムレポート)	システムアクセス試行でのエラー数。
	Access Failure Status (システムアクセスエラーを示す履歴レポート)	最近 24 時間にシステムへのアクセス試行中に発生したエラー数の累積値 (時単位)。
	Server Activity Detail	ネットワーク間での通信状況についての情報。
	Server Activity Summary (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについてのネットワーク間での通信状況についての要約 (時単位)。
	Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示すリアルタイムレポート)	ネットワーク間での通信状況についての情報。
	Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示す履歴レポート)	最近 1 時間のネットワーク間での通信状況 (分単位)。
	Server Activity Summary Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのサーバがネットワークとの間で送受信したデータの稼働状況 (日単位)。

カテゴリー	レポート名	表示する情報
	Server Sessions Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムのサーバでアクティブなセッション数 (日単位)。
	System Utilization Status	サーバがネットワークとの間で送受信した状況。
プロセス	Application Status	アプリケーションの稼働状況。
	Application Process Count	最近 1 時間の 1 分ごとの、アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況。
	Application Process Status	アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況。
	CPU Usage - Top 10 Processes	CPU 使用率が高いプロセスの上位 10 個。
	Monitoring Process Detail	最近 1 時間の 1 分ごとの、特定のプロセスについての性能情報。
	Page Faults - Top 10 Processes	ページフォルトが発生した頻度が高いプロセスの上位 10 個。
	Process Detail	特定のプロセスのシステムリソース消費についての詳細。
プロセッサ	CPU Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについての CPU 使用率の要約 (時単位)。
	CPU Trend	最近 1 か月間のユーザーモードと特権モードで実行された CPU 使用率 (日単位)。
	CPU Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムの CPU 使用率 (日単位)。
	CPU Usage Summary	最近 1 時間の CPU 使用率の要約 (分単位)。
メモリー	Memory Available Trend (Multi-Agent)	最近 1 か月間の複数システムの物理メモリーの空き容量 (日単位)。
	Memory Paging	最近 1 時間のページングしたページ数の頻度 (分単位)。
	Memory Paging Status (Multi-Agent)	最近 24 時間の複数のエージェントについてのメモリーのページフォルトが発生した状況の要約 (時単位)。
	OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示すリアルタイムレポート)	物理メモリーの空き容量。
	OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示す履歴レポート)	最近 24 時間のシステムの物理メモリーの空き容量の要約 (時単位)。
	System Memory Detail	最近 1 時間のシステムの物理メモリーの詳細 (分単位)。
予約レポート	Network Segment Detail	予約レポートのため使用できない。
	Network Segment Summary	

## Access Failure Status (システムアクセスエラーを示すリアルタイムレポート)

---

### 概要

Access Failure Status レポートは、システムアクセス試行でのエラー数をリアルタイムで表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Errors Access Permissions	OS 起動後に、ユーザーが (クライアントとして) 適切に保護されていないファイルにアクセスしているため、ファイルオープンエラーで STATUS_ACCESS_DENIED が発生した回数。 <sup>1</sup>
Errors Granted Access	OS 起動後に、正常にオープンしているファイルに権限を持たないユーザーがアクセスしたため、アクセス拒否された回数。 <sup>1</sup>
Errors Logon	OS 起動後に、サーバへログオンに失敗した回数。サーバのセキュリティを破ることを目的とするパスワード推測プログラムなどが使用されているかを示す。 <sup>1</sup>



## Access Failure Status (システムアクセスエラーを示す履歴レポート)

### 概要

Access Failure Status レポートは、最近 24 時間にシステムへのアクセス試行中に発生したエラー数を、1 時間ごとの累積値で表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Errors Access Permissions	OS 起動後に、ユーザーが (クライアントとして) 適切に保護されていないファイルにアクセスしているため、ファイルオープンエラーで STATUS_ACCESS_DENIED が発生した回数。 <sup>1</sup>
Errors Granted Access	OS 起動後に、正常にオープンしているファイルに権限を持たないユーザーがアクセスしたため、アクセス拒否された回数。 <sup>1</sup>
Errors Logon	OS 起動後に、サーバへログオンに失敗した回数。サーバのセキュリティを破ることを目的とするパスワード推測プログラムなどが使用されているかを示す。 <sup>1</sup>

# Application Status

---

## 概要

Application Status レポートは、アプリケーションの稼働状況をリアルタイムで表示します。表示形式は表です。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

## レコード

Application Summary Extension ( PD\_APP2 )

## フィールド

フィールド名	説明
Application Exist	プロセス監視の設定で指定されたアプリケーションの状態。NORMAL または ABNORMAL を表示する。 アプリケーションの状態は、監視対象に指定した監視対象の状態を基にして得られた結果。 監視対象の状態を確認するには、Application Process Detail ( PD_APPD ) レコードで表示されている Monitoring Status を参照する。 NORMAL : 監視対象のうちどれかの状態が NORMAL ABNORMAL : 監視対象の状態がすべて ABNORMAL
Application Name	プロセス監視の設定で指定された名前。
Application Status	プロセス監視の設定で指定されたアプリケーションの状態。NORMAL または ABNORMAL を表示する。 アプリケーションの状態は、監視対象に指定した監視対象の状態を基にして得られた結果。 監視対象の状態を確認するには、Application Process Detail ( PD_APPD ) レコードで表示されている Monitoring Status を参照する。 NORMAL : 監視対象の状態がすべて NORMAL ABNORMAL : 監視対象のうちどれかの状態が ABNORMAL

### ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Application Process Status	アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況をリアルタイムで表示する。このレポートを表示するには、Application Name フィールドをクリックする。

# Application Process Count

## 概要

Application Process Count レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとの、アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。このレポートは、ドリルダウンレポートです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past /Drilldown Only/

## レコード

Application Process Detail ( PD\_APPD )

## フィールド

フィールド名	説明
Application Name	プロセス監視の設定で指定された名前。
Monitoring Condition	監視するプロセスまたはサービスを特定するための条件式。
Monitoring Count	監視条件に一致する稼働中のプロセス数またはサービス数。
Monitoring Field	監視するフィールド。
Monitoring Label	監視条件を識別するための名称。
Monitoring Max	監視数の上限値。
Monitoring Min	監視数の下限値。
Monitoring Number	監視条件の番号。
Monitoring Status	監視数の条件結果。

## ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Monitoring Process Detail	特定のプロセスについての性能情報を表示する。このレポートを表示するには、Monitoring Label フィールドをクリックする。

# Application Process Status

## 概要

Application Process Status レポートは、アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況をリアルタイムで表示します。表示形式は表です。このレポートは、ドリルダウンレポートです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

## レコード

Application Process Detail ( PD\_APPD )

## フィールド

フィールド名	説明
Application Name	プロセス監視の設定で指定された名前。
Monitoring Condition	監視するプロセスまたはサービスを特定するための条件式。
Monitoring Count	監視条件に一致する稼働中のプロセス数またはサービス数。
Monitoring Field	監視するフィールド。
Monitoring Label	監視条件を識別するための名称。
Monitoring Min	監視数の下限値。
Monitoring Max	監視数の上限値。
Monitoring Number	監視条件の番号。
Monitoring Status	監視数の条件結果。

## ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Application Process Count	アプリケーションのプロセスおよびサービスごとの稼働状況を表示する。このレポートを表示するには、Monitoring Count フィールドをクリックする。

## CPU Status (Multi-Agent)

### 概要

CPU Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の複数のエージェントについての 1 時間ごとの CPU 使用率の要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
% Total Interrupt Time	ハードウェア (システムクロック、マウス、ディスクドライバ、データ通信ライン、NIC、その他周辺機器などの割り込みが発生するデバイス) 割り込み処理で実行したプロセッサの使用率 (%)。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Agent Instance <sup>3</sup>	PFM・Agent 名。
Context Switches/sec	すべてのプロセスのスレッドによって、プロセッサで発生したコンテキストスイッチ (実行スレッドが任意にプロセッサを解放する場合、優先順位が高いスレッドによって割り込まれる場合、Executive またはサブシステムサービスを使用するためにユーザーモードと特権モードの間で切り替わる場合) の割合 (/秒)。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Privileged CPU %	特権モードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを特権モードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、プロセッサの混雑を示す。 <sup>1</sup>
System Calls/sec	プロセッサで、実行中のプロセスがシステムサービスルーチン呼び出した数の割合 (/秒)。
User CPU %	ユーザーモードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドをユーザーモードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。

# CPU Trend

---

## 概要

CPU Trend レポートは、日単位で最近 1 か月間のユーザーモードと特権モードで実行された CPU 使用率を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Privileged CPU %	特権モードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを特権モードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
User CPU %	ユーザーモードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドをユーザーモードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。

## CPU Trend (Multi-Agent)

---

### 概要

CPU Trend (Multi-Agent) レポートは、日単位で最近 1 か月間の複数システムの CPU 使用率を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。



# CPU Usage - Top 10 Processes

---

## 概要

CPU Usage - Top 10 Processes レポートは、CPU 使用率が高いプロセスの上位 10 個をリアルタイムで表示します。表示形式は集合横棒グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

## レコード

Process Detail Interval ( PD\_PDI )

## フィールド

フィールド名	説明
CPU %	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。 Process Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
PID	プロセス ID。実行しているプロセスの一意の識別子。
Program	実行プログラム名。

## ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Process Detail	選択したプロセスが使用するシステムリソースの詳細を表示する。このレポートを表示するには、CPU % フィールドをクリックする。

## CPU Usage Summary

### 概要

CPU Usage Summary レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとの CPU 使用率の要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
% Total Interrupt Time	ハードウェア (システムクロック、マウス、ディスクドライバ、データ通信ライン、NIC、その他周辺機器などの割り込みが発生するデバイス) 割り込み処理で実行したプロセッサの使用率 (%)。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Context Switches/sec	すべてのプロセスのスレッドによって、プロセッサで発生したコンテキストスイッチ (実行スレッドが任意にプロセッサを解放する場合、優先順位が高いスレッドによって割り込まれる場合、Executive またはサブシステムサービスを使用するためにユーザーモードと特権モードの間で切り替わる場合) の割合 ( / 秒 )。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Privileged CPU %	特権モードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを特権モードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。このフィールドは、CPU % フィールドの構成要素である。
Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができているスレッドの数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、プロセッサの混雑を示す。 <sup>1</sup>
System Calls/sec	プロセッサで、実行中のプロセスがシステムサービスルーチンを呼び出した数の割合 ( / 秒 )。
Total Interrupts/sec	プロセッサが、ハードウェア (システムクロック、マウス、ディスクドライバ、データ通信ライン、NIC、その他周辺機器などの割り込みが発生するデバイス) 割り込みを受信処理した数の割合 ( / 秒 )。 DPC (遅延プロシージャ呼び出し) 割り込みは含まれない。通常、システムの活動状況がない状態で、このフィールドが大幅に増加している状態の場合、低速なデバイスが存在するなどのハードウェアの問題を示す。

フィールド名	説明
User CPU %	ユーザーモードで実行したプロセッサの使用率(%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドをユーザーモードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は100で表示される。 このフィールドは、CPU % の構成要素である。

## Disk Time - Top 10 Logical Drives

---

### 概要

Disk Time - Top 10 Logical Drives レポートは、ディスク使用率が高い論理ドライブの上位 10 個をリアルタイムで表示します。表示形式は集合横棒グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

### レコード

Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

### フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	読み込みまたは書き込み要求の処理でディスクがビジーだった経過時間の割合 (%)。通常、継続的に 100% に近い状態の場合、ディスクが激しく使用されていることを示す。 Logical Drive Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
ID	論理ディスクボリューム名。(例)C: や D: など

### ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Logical Drive Detail	選択した論理ドライブの詳細を表示する。このレポートを表示するには、% Disk Time フィールドをクリックする。

# File System I/O Summary

## 概要

File System I/O Summary レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとの I/O 使用量の要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
File Control Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み以外の操作が発生した数の割合 ( / 秒 )
File Data Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み操作が発生した数の割合 ( / 秒 )
File Read Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込み操作が発生した数の割合 ( / 秒 )
File Write Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの書き込み操作が発生した数の割合 ( / 秒 )
Page Reads/sec	ページフォルトが発生した時にページインした操作数の割合 ( / 秒 )
Page Writes/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトした操作数の割合 ( / 秒 )
Pages Input/sec	ページフォルトが発生した時にページインしたページ数の割合 ( / 秒 )
Pages Output/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトしたページ数の割合 ( / 秒 )

## Free Megabytes - Logical Drive Status

### 概要

Free Megabytes - Logical Drive Status レポートは、論理ディスクで使用できる領域に関連する情報をリアルタイムで表示します。表示形式は表と集合横棒グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/

### レコード

Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

### フィールド

フィールド名	説明
ID	論理ディスクボリューム名。(例)C: や D: など
% Free Space	使用可能な領域全体に対するディスクの空き領域 (%) <sup>1</sup>
Drive Type	ディスクのタイプ。有効な値は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"><li>• FIXED</li><li>• NO ROOT DIR</li><li>• REMOVABLE</li><li>• DRIVE UNKNOWN</li></ul>
Free Mbytes	使用可能なディスク領域全体に対する未使用領域 (メガバイト単位) <sup>1</sup>
Page File Size Mbytes	ドライブに割り当てられた、有効なページングファイルの物理サイズ (メガバイト単位) <sup>1 2</sup>
Total Size Mbytes	ディスクのサイズ (メガバイト単位) <sup>1 2</sup>

# Free Space - Low 10 Logical Drives

---

## 概要

Free Space - Low 10 Logical Drives レポートは、空き領域が少ない論理ドライブ上位 10 個をリアルタイムで表示します。表示形式は集合横棒グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

## レコード

Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

## フィールド

フィールド名	説明
% Free Space	使用可能な領域全体に対するディスクの空き領域 (%)。 <sup>1</sup> Logical Drive Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
ID	論理ディスクボリューム名。(例)C: や D: など

## ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Logical Drive Detail	選択した論理ドライブの詳細を表示する。このレポートを表示するには、% Free Space フィールドをクリックする。

## Free Space - Top 10 Logical Drives

---

### 概要

Free Space - Top 10 Logical Drives レポートは、空き領域が多い論理ドライブの上位 10 個をリアルタイムで表示します。表示形式は集合横棒グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

### レコード

Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

### フィールド

フィールド名	説明
% Free Space	使用可能な領域全体に対するディスクの空き領域 (%)。 <sup>1</sup> Logical Drive Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
ID	論理ディスクボリューム名。(例)C: や D: など

### ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Logical Drive Detail	選択した論理ドライブの詳細を表示する。このレポートを表示するには、% Free Space フィールドをクリックする。



# Logical Drive Detail

## 概要

Logical Drive Detail レポートは、特定の論理ドライブの詳細をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧です。このレポートは、ドリルダウンレポートです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

## レコード

Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

## フィールド

フィールド名	説明
% Disk Read Time	読み込み要求の処理でディスクがビジーだった経過時間の割合 (%)
% Disk Write Time	書き込み要求の処理でディスクがビジー状態だった経過時間の割合 (%)
% Free Space	使用可能な領域全体に対するディスクの空き領域 (%) <sup>1</sup>
Avg Disk Bytes/Read	読み込み処理中にディスクから転送された平均値 (バイト数 / 処理)
Avg Disk Bytes/Write	書き込み処理中にディスクから転送された平均値 (バイト数 / 処理)
Avg Disk Read Queue Length	ディスクのキューに入った読み込み要求数の平均値。
Avg Disk Secs/Read	ディスクからのデータの読み込み処理の平均時間 (秒単位)
Avg Disk Secs/Write	ディスクへのデータの書き込み処理の平均時間 (秒単位)
Avg Disk Write Queue Length	ディスクのキューに入った書き込み要求数の平均値。
Current Disk Queue Length	ディスクに残っている処理待ちまたは処理中のキューの要求数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、ディスクの混雑を示す。 <sup>1</sup>
Disk Read Bytes/sec	読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト / 秒)
Disk Reads/sec	ディスクへの読み込み処理の速度 ( / 秒)
Disk Write Bytes/sec	書き込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト / 秒)
Disk Writes/sec	ディスクへの書き込み処理の速度 ( / 秒)
Disk Xfers/sec	ディスクへの読み込みおよび書き込み処理の速度 ( / 秒)

#### 4. 監視テンプレート Logical Drive Detail

フィールド名	説明
Drive Type	ディスクのタイプ。有効な値は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"><li>• FIXED</li><li>• NO ROOT DIR</li><li>• REMOVABLE</li><li>• DRIVE UNKNOWN</li></ul>
Free Mbytes	使用可能なディスク領域全体に対する未使用領域 (メガバイト単位)。 <sup>1</sup>
ID	論理ディスクボリューム名。(例)C: や D: など
Page File Size Mbytes	ドライブに割り当てられた、有効なページングファイルの物理サイズ (メガバイト単位)。 <sup>1 2</sup>
Total Size Mbytes	ディスクのサイズ (メガバイト単位)。 <sup>1 2</sup>

## Memory Available Trend (Multi-Agent)

---

### 概要

Memory Available Trend (Multi-Agent) レポートは、日単位で最近 1 か月間の複数システムの物理メモリの空き容量を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Available Mbytes	物理メモリー領域の未使用サイズ（メガバイト単位）。プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー（キャッシュ済み）の領域の合計。通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少ない状態の場合、過度なページングが発生していることを示す。 <sup>1</sup>

# Memory Paging

## 概要

Memory Paging レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとのページングしたページ数の頻度を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒 )。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。
Page Reads/sec	ページフォルトが発生した時にページインした操作数の割合 ( / 秒 )。
Page Writes/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトした操作数の割合 ( / 秒 )。
Pages Input/sec	ページフォルトが発生した時にページインしたページ数の割合 ( / 秒 )。
Pages Output/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトしたページ数の割合 ( / 秒 )。
Transition Faults/sec	ページフォルトが発生した時に、共有している別のプロセスによって使われていたページ、または更新されたページリストもしくはスタンバイリストにあるページを回復することによって、ページングしなかった数の割合 ( / 秒 )。

# Memory Paging Status (Multi-Agent)

## 概要

Memory Paging Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の複数のエージェントについての、1 時間ごとのメモリーのページフォルトが発生した状況の要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Agent Instance <sup>3</sup>	PFM - Agent 名。
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒)。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。
Page Reads/sec	ページフォルトが発生した時にページインした操作数の割合 ( / 秒)。
Page Writes/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトした操作数の割合 ( / 秒)。
Pages Input/sec	ページフォルトが発生した時にページインしたページ数の割合 ( / 秒)。
Pages Output/sec	ページフォルトが発生した時にページアウトしたページ数の割合 ( / 秒)。
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒)。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。
Transition Faults/sec	ページフォルトが発生した時に、共有している別のプロセスによって使われていたページ、または更新されたページリストもしくはスタンバイリストにあるページを回復することによって、ページングしなかった数の割合 ( / 秒)。

## Monitoring Process Detail

### 概要

Monitoring Process Detail レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとの、特定のプロセスについての性能情報を表示します。表示形式は折れ線グラフです。このレポートは、ドリルダウンレポートです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/Drilldown Only/

### レコード

Application Process Interval ( PD\_APSI )

### フィールド

フィールド名	説明
Application Name	プロセス監視の設定で指定された名前。
CPU %	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。
Handle Count	プロセスによってオープンしているハンドル数。
Monitoring Field	監視するフィールド。
Monitoring Label	監視条件を識別するための名称。
Monitoring Number	監視条件の番号。
Page Faults/sec	プロセス内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )。
Page File Kbytes	プロセスがページングファイルで使用している仮想メモリー領域のサイズ ( キロバイト単位 )。
PID	プロセス ID。実行しているプロセスの一意的識別子。
Pool Paged Kbytes	プロセスが使用しているページング可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )。
Pool Nonpaged Kbytes	プロセスが使用しているページング不可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )。

フィールド名	説明
Priority Base	プロセスの基本優先順位。値が大きいほど基本優先度が高い。値は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 24：リアルタイム</li> <li>• 13：高</li> <li>• 10：通常以上</li> <li>• 8：通常</li> <li>• 6：通常以下</li> <li>• 4：低</li> </ul>
Private Kbytes	プロセスが、ほかのプロセスと共用できないように割り振ったメモリのサイズ（キロバイト単位）。
Privileged CPU %	プロセスが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合（％）。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100％」を最大値とした使用率が表示される。
Program Name	プログラム名。
Thread Count	プロセス内のスレッド（命令を実行する単位）の数。プロセスを実行すると最低一つのスレッドが起動される。
User	プロセスの実行ユーザー名。なお、プロセスのセキュリティ ID に対応するアカウント名が見つからない場合「NONE_MAPPED」、プロセス ID から実行ユーザー名が取得できない場合「Unknown」が格納される。
User CPU %	プロセスがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合（％）。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100％」を最大値とした使用率が表示される。
Virtual Kbytes	プロセスが使用している仮想アドレス空間のサイズ（キロバイト単位）。
Working Set Kbytes	プロセスで使用しているメモリ使用量（ワーキングセットと呼び、メモリの総量またはページフォールトなしに参照できるメモリ量を示す）のサイズ（キロバイト単位）。

# OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示すリアルタイムレポート)

## 概要

OS Memory Usage Status レポートは、物理メモリーの空き容量をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Available Mbytes	物理メモリー領域の未使用サイズ(メガバイト単位)。プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー(キャッシュ済み)の領域の合計。 通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少ない状態の場合、過度なページングが発生していることを示す。 <sup>1</sup>
Cache Faults/sec	ファイルシステムキャッシュでページフォルトが発生した数の割合(/秒)。
Cache Mbytes	ファイルシステムキャッシュの使用中のサイズ(メガバイト単位)。 <sup>1</sup>
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合(/秒)。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合(/秒)。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。



# OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示す履歴レポート)

## 概要

OS Memory Usage Status レポートは、最近 24 時間のシステムの 1 時間ごとの物理メモリーの空き容量の要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Available Mbytes	物理メモリー領域の未使用サイズ (メガバイト単位)。プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー (キャッシュ済み) の領域の合計。通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少ない状態の場合、過度なページングが発生していることを示す。 <sup>1</sup>
Cache Faults/sec	ファイルシステムキャッシュでページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒 )
Cache Mbytes	ファイルシステムキャッシュの使用中のサイズ (メガバイト単位)。 <sup>1</sup>
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒 )。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。

## Page Faults - Top 10 Processes

---

### 概要

Page Faults - Top 10 Processes レポートは、ページフォルトが発生した頻度が高いプロセスの上位 10 個をリアルタイムで表示します。表示形式は集合横棒グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

### レコード

Process Detail Interval ( PD\_PDI )

### フィールド

フィールド名	説明
Page Faults/sec	プロセス内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )。Process Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
PID	プロセス ID。実行しているプロセスの一意の識別子。
Program	実行プログラム名。

### ドリルダウンレポート ( フィールドレベル )

レポート名	説明
Process Detail	選択したプロセスが使用するシステムリソースの詳細を表示する。このレポートを表示するには、Page Faults/sec フィールドをクリックする。

# Process Detail

## 概要

Process Detail レポートは、特定のプロセスのシステムリソース消費についての詳細をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧です。

このレポートは、ドリルダウンレポートです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

## レコード

Process Detail Interval ( PD\_PDI )

## フィールド

フィールド名	説明
CPU %	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。
Handle Count	プロセスによってオープンしているハンドル数。 <sup>1</sup>
Page Faults/sec	プロセス内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )。
Page File Kbytes	プロセスがページングファイルで使用している仮想メモリー領域のサイズ ( キロバイト単位 )。 <sup>1</sup>
PID	プロセス ID。実行しているプロセスの一意的識別子。
Pool Nonpaged Kbytes	プロセスが使用しているページング不可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )。 <sup>1</sup>
Pool Paged Kbytes	プロセスが使用しているページング可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )。 <sup>1</sup>
Priority Base	プロセスの基本優先順位。値が大きいかほど基本優先度が高い。値は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 24 : リアルタイム</li> <li>• 13 : 高</li> <li>• 10 : 通常以上</li> <li>• 8 : 通常</li> <li>• 6 : 通常以下</li> <li>• 4 : 低</li> </ul>
Private Kbytes	プロセスが、ほかのプロセスと共用できないように割り振ったメモリーのサイズ ( キロバイト単位 )。 <sup>1</sup>
Privileged CPU %	プロセスが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。

#### 4. 監視テンプレート Process Detail

フィールド名	説明
Program	実行プログラム名。
Thread Count	プロセス内のスレッド（命令を実行する単位）の数。 プロセスを実行すると最低一つのスレッドが起動される。 <sup>1</sup>
User	プロセスの実行ユーザー名。 なお、プロセスのセキュリティ ID に対応するユーザー名が見つからない場合は「NONE_MAPPED」、プロセス ID から実行ユーザー名が取得できない場合は「Unknown」が格納される。
User CPU %	プロセスがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合（％）。 マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。
Virtual Kbytes	プロセスが使用している仮想アドレス空間のサイズ（キロバイト単位）。 <sup>1</sup>
Working Set Kbytes	プロセスで使用しているメモリー使用量（ワーキングセットと呼び、メモリーの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリー量を示す）のサイズ（キロバイト単位）。 <sup>1</sup>

# Process Trend

---

## 概要

Process Trend レポートは、日単位で最近 1 か月間のシステムで実行されたプロセス数を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Processes	メモリー上に保持しているアクティブなプロセス数。 <sup>1</sup>

## Server Activity Detail

### 概要

Server Activity Detail レポートは、ネットワーク間での通信状況についての情報をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧です。

このレポートは、ドリルダウンレポートです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Bytes Rcvd/sec	サーバがネットワークから受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Bytes Xmitd/sec	サーバがネットワークに送信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Net Errors/sec	リダイレクタとサーバで重大な通信障害のため、予期しないエラーが発生した割合 ( / 秒)
Pkts Rcvd/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] と もいう) を受信した割合 ( / 秒)
Pkts Xmitd/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] と もいう) を送信した割合 ( / 秒)
Pkts/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] と もいう) を処理した割合 ( / 秒)
Redir Bytes Rcvd/sec	ネットワークからリダイレクタに受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Redir Bytes Total/sec	リダイレクタがネットワークから送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Redir Bytes Xmitd/sec	リダイレクタからネットワークに送信したデータ量の割合 (バイト / 秒)
Redir File Data Ops/sec	リダイレクタがデータ操作を処理している割合 ( / 秒)
Redir File Read Ops/sec	アプリケーションがリダイレクタにデータを要求した割合 ( / 秒)
Redir File Write Ops/sec	アプリケーションがリダイレクタにデータを送信した割合 ( / 秒)

フィールド名	説明
Redis Server Sessions	OS 起動後に、リダイレクタが管理しているセキュリティオブジェクトのセッション数。 <sup>1</sup>
Server Disconnects	OS 起動後に、サーバがリダイレクタとの接続を切断した回数。 <sup>1</sup>
Server Reconnects	OS 起動後に、リダイレクタが新しいアクティブ要求を完了するためにサーバに再接続する必要があった回数。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>
Server Sessions Hung	リモートサーバからの応答がなくタイムアウトになり、処理を継続できないアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>

## Server Activity Summary (Multi-Agent)

### 概要

Server Activity Summary (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の複数のエージェントについての 1 時間ごとのネットワーク間での通信状況についての要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Agent Instance <sup>3</sup>	PFM - Agent 名。
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
Net Errors/sec	リダイレクタとサーバで重大な通信障害のため、予期しないエラーが発生した割合 ( / 秒)。
Pkts/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] と もいう) を処理した割合 ( / 秒)。
Redir Bytes Total/sec	リダイレクタがネットワークから送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
Redir File Data Ops/sec	リダイレクタがデータ操作を処理している割合 ( / 秒)。
Redir Server Sessions	OS 起動後に、リダイレクタが管理しているセキュリティオブジェクトのセッション数。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>



# Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示すリアルタイムレポート)

## 概要

Server Activity Summary レポートは、ネットワーク間での通信状況についての情報をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)。Server Activity Detail レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
Net Errors/sec	リダイレクタとサーバで重大な通信障害のため、予期しないエラーが発生した割合 ( / 秒)。
Pkts/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] と もいう) を処理した割合 ( / 秒)。
Redir Bytes Total/sec	リダイレクタがネットワークから送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)。
Redir File Data Ops/sec	リダイレクタがデータ操作を処理している割合 ( / 秒)。
Redir Server Sessions	OS 起動後に、リダイレクタが管理しているセキュリティオブジェクトのセッション数。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>

## ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
Server Activity Detail	サーバの稼働状況の詳細を表示する。このレポートを表示するには、Bytes Total/sec フィールドをクリックする。

#### 4. 監視テンプレート

Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示す履歴レポート)

## Server Activity Summary (ネットワーク間での通信状況についての情報を示す履歴レポート)

### 概要

Server Activity Summary レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとのネットワーク間での通信状況について表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
Net Errors/sec	リダイレクタとサーバで重大な通信障害のため、予期しないエラーが発生した割合 ( / 秒)。
Pkts/sec	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] ともいう) を処理した割合 ( / 秒)。
Redir Bytes Total/sec	リダイレクタがネットワークから送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
Redir File Data Ops/sec	リダイレクタがデータ操作を処理している割合 ( / 秒)。
Redir Server Sessions	OS 起動後に、リダイレクタが管理しているセキュリティオブジェクトのセッション数。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>

## Server Activity Summary Trend (Multi-Agent)

---

### 概要

Server Activity Summary Trend (Multi-Agent) レポートは、日単位で最近 1 か月間の複数システムのサーバがネットワークとの間で送受信したデータの稼働状況を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)

## Server Sessions Trend (Multi-Agent)

---

### 概要

Server Sessions Trend (Multi-Agent) レポートは、日単位で最近 1 か月間の複数システムのサーバでアクティブなセッション数を表示します。表示形式は折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Monthly Trend/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>

# System Memory Detail

## 概要

System Memory Detail レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとのシステムの物理メモリーの詳細を表示します。表示形式は表です。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Available Mbytes	物理メモリー領域の未使用サイズ (メガバイト単位)。プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー (キャッシュ済み) の領域の合計。 通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少ない状態の場合、過度なページングが発生していることを示す。 <sup>1</sup>
Cache Faults/sec	ファイルシステムキャッシュでページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒 )
Cache Mbytes	ファイルシステムキャッシュの使用中のサイズ (メガバイト単位)。 <sup>1</sup>
Copy Read Hits %	ファイルシステムキャッシュのページからの読み込み要求の割合 (%)
Copy Reads/sec	キャッシュからアプリケーションのバッファにメモリーコピー処理を含む、ファイルシステムキャッシュのページから読み込みが発生した割合 ( / 秒 )
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 ) Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。
Pool Nonpaged Bytes	システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト不可能な物理メモリーのサイズ (キロバイト単位)。 通常、サーバの活動状況が増加していない状態でこのフィールドが一様に増加している状態の場合、メモリーリークを生じているプロセスが実行されている可能性がある。 <sup>1</sup>
Pool Paged Bytes	システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト可能な物理メモリーのサイズ (キロバイト単位)。 <sup>1</sup>

#### 4. 監視テンプレート System Memory Detail

フィールド名	説明
System Cache Resident Bytes	OS コード ( Ntoskrnl.exe , Hal.dll , ブートドライバ , Ntldr/ osloader が読み込むファイルシステム ) が使用する , ファイルシステムキャッシュ内のページング可能な物理メモリーサイズ ( バイト単位 ) 。 <sup>1</sup>

# System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート)

## 概要

System Overview レポートは、システム全体の概要をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Real-Time/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Available Mbytes	物理メモリー領域の未使用サイズ (メガバイト単位)。プロセスへの割り当て、またはシステムがすぐに利用できるゼロメモリー、空きメモリー、およびスタンバイメモリー (キャッシュ済み) の領域の合計。 通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少ない状態の場合、過度なページングが発生していることを示す。 <sup>1</sup>
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。Server Activity Summary レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。CPU Usage - Top 10 Processes レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
File Control Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み以外の操作が発生した数の割合 (/秒)。
File Data Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み操作が発生した数の割合 (/秒)。 Disk Time - Top 10 Logical Drives レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 (/秒)。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。Page Faults - Top 10 Processes レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 (/秒)。Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。

#### 4. 監視テンプレート

System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート)

フィールド名	説明
Transition Faults/sec	ページフォルトが発生した時に、共有している別のプロセスによって使われていたページ、または更新されたページリストもしくはスタンバイリストにあるページを回復することによって、ページングしなかった数の割合 (/ 秒)。

#### ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Free Space - Top 10 Logical Drives	空き容量が多い論理ドライブの上位 10 個をリアルタイムで表示する。
Network Segment Summary	予約レポートのため使用できない。

#### ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
CPU Usage - Top 10 Processes	CPU 使用量が高い上位 10 個のプロセスを表示する。このレポートを表示するには、CPU % フィールドをクリックする。
Disk Time - Top 10 Logical Drives	ディスク使用率が高い上位 10 個の論理ドライブの使用状況を表示する。このレポートを表示するには、File Data Ops/sec フィールドをクリックする。
Page Faults - Top 10 Processes	ページフォルトが発生した頻度が高いプロセスの上位 10 個を表示する。このレポートを表示するには、Page Faults/sec フィールドをクリックする。
Server Activity Summary	ネットワーク間での通信状況についての情報をリアルタイムで表示する。このレポートを表示するには、Bytes Total/sec フィールドをクリックする。



# System Overview (システムの概要を示す履歴レポート)

## 概要

System Overview レポートは、最近 1 時間の 1 分ごとのシステムの概要を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Troubleshooting/Recent Past/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)。Server Activity Summary レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。CPU Usage Summary レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
File Control Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み以外の操作が発生した数の割合 (/ 秒)。
File Data Ops/sec	プロセッサで、ファイルシステムのデータの読み込みおよび書き込み操作が発生した数の割合 (/ 秒)。 File System I/O Summary レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
Page Faults/sec	ページフォルトが発生した数の割合 (/ 秒)。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。Memory Paging レポートを表示するには、このフィールドをクリックする。
Pages/sec	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 (/ 秒)。Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。
Transition Faults/sec	ページフォルトが発生した時に、共有している別のプロセスによって使われていたページ、または更新されたページリストもしくはスタンバイリストにあるページを回復することによって、ページングしなかった数の割合 (/ 秒)。

#### 4. 監視テンプレート

System Overview (システムの概要を示す履歴レポート)

##### ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
System Memory Detail	最近 1 時間の 1 分ごとのオペレーティングシステムによるメモリ使用量の詳細を表示する。

##### ドリルダウンレポート (フィールドレベル)

レポート名	説明
CPU Usage Summary	最近 1 時間の 1 分ごとの CPU 使用量の要約を表示する。このレポートを表示するには、CPU % フィールドをクリックする。
File System I/O Summary	最近 1 時間の 1 分ごとの I/O 使用量の要約を表示する。このレポートを表示するには、File Data Ops/sec フィールドをクリックする。
Memory Paging	最近 1 時間の 1 分ごとのページングしたページ数の頻度を表示する。このレポートを表示するには、Page Faults/sec フィールドをクリックする。
Server Activity Summary	ネットワーク間での通信状況についての情報をリアルタイムで表示する。このレポートを表示するには、Bytes Total/sec フィールドをクリックする。

# System Utilization Status

## 概要

System Utilization Status レポートは、サーバがネットワークとの間で送受信した状況をリアルタイムで表示します。表示形式は一覧と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、プロセッサの混雑を示す。 <sup>1</sup>
Redir Bytes Total/sec	リダイレクタがネットワークから送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)。
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>

## Workload Status

### 概要

Workload Status レポートは、システムのワークロード関連データをリアルタイムで表示します。表示形式は一覧と折れ線グラフです。

### 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Real-Time/

### レコード

System Overview (PI)

### フィールド

フィールド名	説明
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト/秒)
Context Switches/sec	すべてのプロセスのスレッドによって、プロセッサで発生したコンテキストスイッチ (実行スレッドが任意にプロセッサを解放する場合、優先順位が高いスレッドによって割り込まれる場合、Executive またはサブシステムサービスを使用するためにユーザーモードと特権モードの間で切り替わる場合) の割合 (/秒)
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Processes	メモリー上に保持しているアクティブなプロセス数。 <sup>1</sup>
Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、プロセッサの混雑を示す。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>
System Calls/sec	プロセッサで、実行中のプロセスがシステムサービスルーチン呼び出した数の割合 (/秒)

# Workload Status (Multi-Agent)

## 概要

Workload Status (Multi-Agent) レポートは、最近 24 時間の複数のシステムについての、1 時間ごとのワークロード関連データの要約を表示します。表示形式は表と折れ線グラフです。

## 格納先

Reports/Windows/Operating System/Status Reporting/Daily Trend/

## レコード

System Overview (PI)

## フィールド

フィールド名	説明
Agent Instance <sup>3</sup>	PFM - Agent 名。
Bytes Total/sec	サーバがネットワークとの間で送受信したデータ量の割合 (バイト / 秒)。
Context Switches/sec	すべてのプロセスのスレッドによって、プロセッサで発生したコンテキストスイッチ (実行スレッドが任意にプロセッサを解放する場合、優先順位が高いスレッドによって割り込まれる場合、Executive またはサブシステムサービスを使用するためにユーザーモードと特権モードの間で切り替わる場合) の割合 ( / 秒)。
CPU %	プロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを実行した経過時間の割合。プロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。
Processes	メモリー上に保持しているアクティブなプロセス数。 <sup>1</sup>
Processor Queue Length	プロセッサのキューにある実行準備ができていないスレッドの数。通常、キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、プロセッサの混雑を示す。 <sup>1</sup>
Server Sessions	サーバでアクティブなセッション数。 <sup>1</sup>
System Calls/sec	プロセッサで、実行中のプロセスがシステムサービスルーチンを呼び出した数の割合 ( / 秒)。



# 5

## レコード

この章では、PFM・Agent for Platform のレコードについて説明します。各レコードのパフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の Performance Management の機能について説明している章、または「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

---

データモデルについて

---

レコードの記載形式

---

ODBC キーフィールド一覧

---

要約ルール

---

データ型一覧

---

フィールドの値

---

Store データベースに記録される時だけ追加されるフィールド

---

Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド

---

レコードの注意事項

---

レコード一覧

---

## データモデルについて

---

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。各 PFM - Agent と、その PFM - Agent が持つデータモデルには、それぞれ固有のバージョン番号が与えられています。PFM - Agent for Platform のデータモデルのバージョンについては、「付録 H バージョン互換」を参照してください。

各 PFM - Agent のデータモデルのバージョンは、PFM - Web Console の [ エージェント階層 ] 画面でエージェントのプロパティを表示して確認してください。

データモデルについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。



## レコードの記載形式

この章では、PFM - Agent for Platform のレコードをアルファベット順に記載しています。各レコードの説明は、次の項目から構成されています。

### 機能

各レコードに格納されるパフォーマンスデータの概要および注意事項について説明します。

### デフォルト値および変更できる値

各レコードに設定されているパフォーマンスデータの収集条件のデフォルト値およびユーザーが変更できる値を表で示します。「デフォルト値および変更できる値」に記載している項目とその意味を次の表に示します。この表で示す各項目については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

表 5-1 デフォルト値および変更できる値

項目	意味	変更可否
Collection Interval	パフォーマンスデータの収集間隔（秒単位）。	: 変更できる
Collection Offset <sup>1</sup>	パフォーマンスデータの収集を開始するオフセット値（秒単位）。オフセット値については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。 また、パフォーマンスデータの収集開始時刻については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。	x : 変更できない
Log	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうか。 Yes : 記録する。ただし、「Collection Interval=0」の場合、記録しない。 No : 記録しない。	
LOGIF	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうかの条件。	
Sync Collection With <sup>2</sup>	レコードのプロパティの [ Description ] の値に表示されているレコードと同期を取ってパフォーマンスデータを収集するかどうか。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。	

注 1

指定できる値は、0 ~ 32,767 秒（Collection Interval で指定した値の範囲内）です。これは、複数のデータを収集する場合に、一度にデータの収集処理が実行されると

## 5. レコード

### レコードの記載形式

負荷が集中するので、収集処理の負荷を分散するために使用します。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offset の値に関係なく、Collection Interval と同様の時間となります。

#### 注 2

Sync Collection With の表示がある場合、Collection Interval と Collection Offset は表示されません。

### ODBC キーフィールド

PFM・Manager または PFM・Base で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、各レコード固有の ODBC キーフィールドです。複数インスタンスレコードだけが、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

各レコード共通の ODBC キーフィールドについては、この章の「ODBC キーフィールド一覧」を参照してください。ODBC キーフィールドの使用方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、ODBC 準拠のアプリケーションプログラムと連携した稼働分析について説明している章を参照してください。

### ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間を示します。ライフタイムについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

### レコードサイズ

1 回の収集で各レコードに格納されるパフォーマンスデータの容量を示します。

### フィールド

各レコードのフィールドについて表で説明します。表の各項目について次に説明します。

PFM・View 名 ( PFM・Manager 名 )

- PFM・View 名

PFM・Web Console で表示されるフィールド名 ( PFM・View 名 ) を示します。

- PFM・Manager 名

PFM・Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているフィールドのデータを利用する場合、SQL 文で記述するフィールド名 ( PFM・Manager 名 ) を示します。

SQL 文では、先頭に各レコードのレコード ID を付加した形式で記述します。例えば、Process Detail ( PD ) レコードの Interval ( INTERVAL ) フィールドの場合、

「PD\_INTERVAL」と記述します。

#### 説明

各フィールドに格納されるパフォーマンスデータについて説明します。

表中の は、フィールドの値が、収集時に OS から返された最新の監視値であることを示します。

各フィールドのパフォーマンスデータの求め方には、次の種類があります。

- 今回収集したデータと前回のインターバルで収集したデータによって求められた平均や割合を求めるもの。
- 今回収集したデータだけで求められるもの（OS 内部で累積された値を含む。表中の が該当する）。
- ほかのフィールドのデータから求めるもの（各レコードのフィールドの表にある「データソース」参照）。

特に断り書きがない場合、データの収集間隔によって求められる値となります。

#### 要約

Agent Store がデータを要約するときの方法（要約ルール）を示します。要約ルールについては、この章の「要約ルール」を参照してください。

#### 形式

char 型や float 型など、各フィールドの値のデータ型を示します。データ型については、この章の「データ型一覧」を参照してください。

#### デルタ

累積値として収集するデータに対し、変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。デルタについては、この章の「フィールドの値」を参照してください。

#### サポート対象外

各フィールドで、サポート対象外の Windows のバージョンを示します。

- 2003 (x86) : Windows Server 2003 (x86) でサポート対象外であることを示します。
- 2003 (x64) : Windows Server 2003 (x64) でサポート対象外であることを示します。
- 2008 (x86) : 32 ビット版の Windows Server 2008 でサポート対象外であることを示します。
- 2008 (x64) : 64 ビット版の Windows Server 2008 でサポート対象外であることを示します。
- 「 - 」は、PFM - Agent for Platform でサポートされているすべてのプラットフォームで使用できることを示します。

#### データソース

該当するフィールドの値の計算方法または取得先を示します。フィールドの値については、この章の「フィールドの値」を参照してください。

## ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、各レコード共通の ODBC キーフィールドです。PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合、ODBC キーフィールドが必要です。

各レコード共通の ODBC キーフィールド一覧を次の表に示します。各レコード固有の ODBC キーフィールドについては、各レコードの説明を参照してください。

表 5-2 各レコード共通の ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールド	ODBC フォーマット	データ	説明
レコード ID_DATE	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された日付を表すレコードのキー。
レコード ID_DATETIME	SQL_INTEGER	内部	レコード ID_DATE フィールドとレコード ID_TIME フィールドの組み合わせ。
レコード ID_DEVICEID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent が動作しているホスト名。
レコード ID_DRAWER_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	区分。有効な値を次に示す。 m : 分 H : 時 D : 日 W : 週 M : 月 Y : 年
レコード ID_PROD_INST	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のインスタンス名。
レコード ID_PRODID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のプロダクト ID。
レコード ID_RECORD_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	レコードタイプを表す識別子 (4 バイト)。
レコード ID_TIME	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された時刻 (グリニッジ標準時)。

## 要約ルール

PI レコードタイプのレコードでは、Collection Interval に設定された間隔で収集されるデータと、あらかじめ定義されたルールに基づき一定の期間（分，時，日，週，月，または年単位）ごとに要約されたデータが、Store データベースに格納されます。要約の種類はフィールドごとに定義されています。この定義を「要約ルール」と呼びます。

要約ルールによっては、要約期間中の中間データを保持する必要があるものがあります。この場合、中間データを保持するためのフィールドが Store データベース内のレコードに追加されます。このフィールドを「追加フィールド」と呼びます。追加フィールドの一部は、PFM・Web Console でレコードのフィールドとして表示されます。PFM・Web Console に表示される追加フィールドは、履歴レポートに表示するフィールドとして使用できます。

なお、要約によって追加される「追加フィールド」と区別するために、ここでは、この章の各レコードの説明に記載されているフィールドを「固有フィールド」と呼びます。

追加フィールドのフィールド名は次のようになります。

- Store データベースに格納される追加フィールド名  
固有フィールドの PFM - Manager 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。
- PFM - Web Console で表示される追加フィールド名  
固有フィールドの PFM - View 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。

PFM - Manager 名に付加されるサフィックスと、それに対応する PFM - View 名に付加されるサフィックス、およびフィールドに格納されるデータを次の表に示します。

表 5-3 追加フィールドのサフィックス一覧

PFM - Manager 名	PFM - View 名	格納データ
_TOTAL	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和
_TOTAL_SEC	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和（utime 型の場合）
_COUNT	-	要約期間内の収集レコード数
_HI	(Max)	要約期間内のレコードのフィールド値の最大値
_LO	(Min)	要約期間内のレコードのフィールド値の最小値

（凡例）

- : 追加フィールドがないことを示します。

要約ルールの一覧を次の表に示します。

5. レコード  
要約ルール

表 5-4 要約ルール一覧

要約 ルール名	要約ルール
COPY	要約期間内の最新のレコードのフィールド値がそのまま格納される。
AVG	要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和) / (収集レコード数)  追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> <li>• _TOTAL</li> <li>• _TOTAL_SEC ( utime 型の場合 )</li> <li>• _COUNT</li> </ul> 追加フィールド ( PFM - Web Console ) <sup>1</sup> <sup>2</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (Total)</li> </ul>
ADD	要約期間内のフィールド値の総和が格納される。
HI	要約期間内のフィールド値の最大値が格納される。
LO	要約期間内のフィールド値の最小値が格納される。
HILO	要約期間内のデータの最大値, 最小値, および平均値が格納される。 固有フィールドには平均値が格納される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和) / (収集レコード数)  追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> <li>• _HI</li> <li>• _LO</li> <li>• _TOTAL</li> <li>• _TOTAL_SEC ( utime 型の場合 )</li> <li>• _COUNT</li> </ul> 追加フィールド ( PFM - Web Console ) <sup>1</sup> <sup>2</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (Max)</li> <li>• (Min)</li> <li>• (Total)</li> </ul>
%	要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 主に百分率のフィールドに適用される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和) / (収集レコード数)  追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> <li>• _TOTAL</li> <li>• _TOTAL_SEC ( utime 型の場合 )</li> <li>• _COUNT</li> </ul>
-	要約されないことを示す。

注 1

PFM - Manager 名に「\_AVG」が含まれる utime 型のフィールドは, PFM - Web Console に追加される「(Total)」フィールドを履歴レポートで利用できません。

注 2

PFM・Manager 名に次の文字列が含まれるフィールドは、PFM・Web Console に追加される (Total) フィールドを履歴レポートで利用できません。

「\_PER\_」、「PCT」、「PERCENT」、「\_AVG」、「\_RATE\_TOTAL」

## データ型一覧

各フィールドの値のデータ型と、対応する C および C++ のデータ型の一覧を次の表に示します。この表で示す「データ型」の「フィールド」の値は、各レコードのフィールドの表にある「形式」の列に示されています。

表 5-5 データ型一覧

データ型		サイズ (バイト)	説明
フィールド	C および C++		
char(n)	char()	( ) 内の数	n バイトの長さを持つ文字データ。
double	double	8	数値 ( $1.7E \pm 308$ (15 桁) )。
float	float	4	数値 ( $3.4E \pm 38$ (7 桁) )。
long	long	4	数値 ( $-2,147,483,648 \sim 2,147,483,647$ )。
short	short	2	数値 ( $-32,768 \sim 32,767$ )。
string(n)	char[ ]	( ) 内の数	n バイトの長さを持つ文字列。最後の文字は、「null」。
time_t	unsigned long	4	数値 ( $0 \sim 4,294,967,295$ )。
timeval	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
ulong	unsigned long	4	数値 ( $0 \sim 4,294,967,295$ )。
utime	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
word	unsigned short	2	数値 ( $0 \sim 65,535$ )。
(該当なし)	unsigned char	1	数値 ( $0 \sim 255$ )。



## フィールドの値

---

ここでは、各フィールドに格納される値について説明します。

### データソース

各フィールドには、Performance Management や監視対象プログラムから取得した値や、これらの値をある計算式に基づいて計算した値が格納されます。各フィールド値の取得先または計算方法は、フィールドの表の「データソース」列で示します。

PFM・Agent for Platform の「データソース」列の文字列は、Windows から取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定している場合、そのフィールドに設定される値の計算方法を示します。なお、データソースでは、次に示す表記方法で示します。

- 「 - 」は、Windows から取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを示します。
- 「Return Value」は、加工していないパフォーマンスデータを示します。
- (T1) は今回収集したデータ、(T0) は前回のインターバルで収集した値を示します。
- ほかのフィールドの値を使用して計算している場合、フィールド名を PFM・Manager 名で示します。

例えば、Active Server Pages (PI\_ASP2) レコードの Debugging Requests (DEBUGGING\_REQUESTS) フィールドは、「TOTAL\_DEBUGGING\_REQUESTS (T1) - TOTAL\_DEBUGGING\_REQUESTS (T0)」と記載し、このフィールドの値には、その時点で収集された TOTAL\_DEBUGGING\_REQUESTS フィールドの値から 1 回前に収集された TOTAL\_DEBUGGING\_REQUESTS フィールドの値を引いた値が格納されます。

### デルタ

変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。例えば、1 回目に収集されたパフォーマンスデータが「3」、2 回目に収集されたパフォーマンスデータが「4」とすると、変化量として「1」が格納されます。各フィールドの値がデルタ値かどうかは、フィールドの表の「デルタ」列で示します。

リアルタイムレポートの設定で、[ デルタ値で表示 ] がチェックされている場合、最初にデータが収集されたときから値が表示されます。ただし、前回のデータを必要とするレポートの場合、初回の値は「0」で表示されます。2 回目以降のデータ収集は、収集データの値が表示されます。

PFM・Agent for Platform で収集されるパフォーマンスデータは、次の表のように異なります。

5. レコード  
フィールドの値

表 5-6 PFM - Agent for Platform で収集されるパフォーマンスデータ

レコードタイプ	デルタ	データ種別	[デルタ値で表示]のチェック	レコードの値
PI レコードタイプ	Yes	-	-	-
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	-	収集時点の値が表示される。
PD レコードタイプ	Yes	-	-	-
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	-	収集時点の値が表示される。

(凡例)

- : 該当しない

注

次に示す PFM・Web Console の項目がチェックされているかどうかを示します。

- ・レポートウィザードの [ 編集 > 表示設定 (リアルタイムレポート) ] 画面の [ デルタ値で表示 ]
- ・レポートウィンドウの [ Properties ] タブの [ 表示設定 (リアルタイムレポート) ] の [ デルタ値で表示 ]

パフォーマンスデータが収集される際の注意事項を次に示します。

- ・PFM・Agent for Platform で最初に格納される履歴レポートのパフォーマンスデータは、前回収集されたデータと今回収集されたデータを基に作成されます。このため、履歴レポートを収集開始してから最初にパフォーマンスデータが収集されるまでの時間は、設定した収集間隔の最大 2 倍の時間が掛かります。
- ・リアルタイムレポートを収集開始してから最初にパフォーマンスデータが収集されるまでの時間は、次のレコードを除き最小 5 秒の時間が掛かります。
  - ・ Device Detail ( PD\_DEV )
  - ・ Event Log ( PD\_ELOG )
  - ・ Service Process Detail ( PD\_SVC )
- ・システムを長期間運用するなどして、OS のカウンタ値がラップアラウンドしたときに、デルタフィールドの値が極端に大きくなる場合があります。

## 各フィールドの平均および割合

各フィールドの平均や割合の値については、Interval 時間によって秒単位の値として求められるものと、データの収集間隔によって求められるものがあります。特に断り書きがない場合、データの収集間隔によって求められる値となります（Interval が 60 秒間隔の場合、1 分単位のデータとなります）。

## Interval フィールドの値

Interval フィールドの値は、レコードタイプによって異なります。Interval フィールドの値を次の表に示します。

表 5-7 Interval フィールドの値

レコード タイプ	インスタンス タイプ	レポートタイプ	説明	
			Interval ( INTERVAL )	Interval2 ( INTERVAL2 )
PI レコー ドタイプ	複数インスタ ンスレコード	リアルタイムレ ポート	最初の値は「5」。 以降はレポートに設定されている「更新間隔」の 値を表示する（秒単位）。	
		履歴レポート	レポートに設定されて いる「更新間隔」の値 を表示する（秒単位）。 要約した場合、最後に 収集した値を表示する。	レポートに設定されて いる「更新間隔」の値 を表示する（秒単位）。 要約した場合、要約し たレコードの合計を表 示する。
	シングルイン スタンスレ コード	リアルタイムレ ポート	最初の値は「5」。 以降はレポートに設定 されている「更新間隔 」の値を表示する（秒 単位）。	
		履歴レポート	レポートに設定されて いる「更新間隔」の値 を表示する（秒単位）。 要約した場合、要約し たレコードの合計を表 示する。	-

5. レコード  
フィールドの値

レコード タイプ	インスタンス タイプ	レポートタイプ	説明	
			Interval ( INTERVAL )	Interval2 ( INTERVAL2 )
PD レ コードタ イプ	複数インスタ ンスレコード	リアルタイムレ ポート	最初の値は「5」。 以降はレポートに設定 されている「更新間 隔」の値を表示する（秒 単位）。 ただし、次のレコード では、常に「0」。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Device Detail ( PD_DEV )</li> <li>• Process Detail ( PD )</li> <li>• Process End Detail ( PD_PEND )</li> <li>• Service Process Detail ( PD_SVC )</li> </ul>	-
		履歴レポート	レポートに設定されて いる「更新間隔」の値 を表示する（秒単位）。 ただし、次のレコード では、常に「0」。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Device Detail ( PD_DEV )</li> <li>• Process Detail ( PD )</li> <li>• Process End Detail ( PD_PEND )</li> <li>• Service Process Detail ( PD_SVC )</li> </ul>	-
	シングルイン スタンスレ コード	リアルタイムレ ポート	-	-
		履歴レポート	-	-

( 凡例 )

- : 該当しない

注

「更新間隔」は、次の計算式で算出されます。

Interval フィールドの値 = Record Time フィールドの値 - 前回取得時の Record Time  
フィールドの値

## Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドを次の表に示します。

表 5-8 Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

PFM - View 名 ( PFM - Manager 名 )	説明	形式	デルタ	サポート バージョ ン	デー タ ソー ス
Agent Host ( DEVICEID )	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	-
Agent Instance ( PROD_INST )	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	-
Agent Type ( PROPID )	PFM - Agent のプロダクト ID。1 バイトの識別子で表される。	char	No	すべて	-
Date ( DATE )	レコードが作成された日。グリニッジ標準時。 <sup>1 3</sup>	char(3)	No	すべて	-
Date and Time ( DATETIME )	Date ( DATE ) フィールドと Time ( TIME ) フィールドの組み合わせ。 <sup>3</sup>	char(6)	No	すべて	-
Drawer Type ( DRAWER_TY PE )	PI レコードタイプのレコードの場合、データが要約される区分。PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合とで、区分の表示が異なる。 <sup>2</sup>	char	No	すべて	-
GMT Offset ( GMT_ADJUST )	グリニッジ標準時とローカル時間の差。秒単位。	long	No	すべて	-
Time ( TIME )	レコードが作成された時刻。グリニッジ標準時。 <sup>1 3</sup>	char(3)	No	すべて	-

( 凡例 )

- : Windows から取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを意味します。

注 1

PI レコードタイプのレコードでは、データが要約されるため、要約される際の基準となる時刻が設定されます。レコード区分ごとの設定値を次の表に示します。

表 5-9 レコード区分ごとの設定値

区分	レコード区分ごとの設定値
分	レコードが作成された時刻の 0 秒

## 5. レコード

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

区分	レコード区分ごとの設定値
時	レコードが作成された時刻の 0 分 0 秒
日	レコードが作成された日の 0 時 0 分 0 秒
週	レコードが作成された週の月曜日の 0 時 0 分 0 秒
月	レコードが作成された月の 1 日の 0 時 0 分 0 秒
年	レコードが作成された年の 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒

### 注 2

PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合の違いを次の表に示します。

表 5-10 表示方法によるデータ要約区分の違い

区分	PFM - Web Console	ODBC ドライバ
分	Minute	m
時	Hour	H
日	Day	D
週	Week	W
月	Month	M
年	Year	Y

### 注 3

レポートや ODBC ドライバによるデータ表示を行った場合、Date フィールドは YYYYMMDD 形式で、Date and Time フィールドは YYYYMMDD hh:mm:ss 形式で、Time フィールドは hh:mm:ss 形式で表示されます。

## Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド

---

jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドで、Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると、次に示すフィールドが出力されます。これらのフィールドも、Store データベースに記録される時追加されるフィールドですが、PFM - Web Console では表示されないため、レポートに表示するフィールドとして使用できません。これらのフィールドは、PFM - Agent が内部で使用するフィールドなので、運用では使用しないでください。

- レコード ID\_DATE\_F
- レコード ID\_DEVICEID\_F
- レコード ID\_DRAWER\_TYPE\_F
- レコード ID\_DRAWER\_COUNT
- レコード ID\_DRAWER\_COUNT\_F
- レコード ID\_INST\_SEQ
- レコード ID\_PRODID\_F
- レコード ID\_PROD\_INST\_F
- レコード ID\_RECORD\_TYPE
- レコード ID\_RECORD\_TYPE\_F
- レコード ID\_SEVERITY
- レコード ID\_SEVERITY\_F
- レコード ID\_TIME\_F
- レコード ID\_UOWID
- レコード ID\_UOWID\_F
- レコード ID\_UOW\_INST
- レコード ID\_UOW\_INST\_F
- レコード ID\_PFM - Manager 名 \_SEC
- レコード ID\_PFM - Manager 名 \_MSEC

## レコードの注意事項

レコードを収集する場合の注意事項を次に示します。

### レコードのインスタンスがユニークに識別されない場合の注意事項

PFM・Agent for Platform は、一定間隔で OS の最新情報を参照してパフォーマンスデータを収集しています。レコードのフィールドが、OS から取得した情報でレコードのインスタンスをユニークに識別できない場合、次のようになります。

1. フィールドの末尾に項番「#n」(n=1, 2, 3・・・) が付加されます。  
末尾に項番が付加されるレコードのフィールドを次の表に示します。

表 5-11 末尾に項番が付加されるレコードのフィールド

レコード名	フィールド名
Event Log ( PD_ELOG )	Source Name ( SOURCE_NAME )
Generic Data Detail ( PD_GEND )	Instance ( INSTANCE )
Generic Data Interval ( PI_GENI )	Instance ( INSTANCE )
Logical Disk Overview ( PI_LOGD )	ID ( INSTANCE )
NBT Overview ( PI_NBT )	Instance ( INSTANCE )
Network Interface Overview ( PI_NETI )	Instance ( INSTANCE )
Page File Detail ( PD_PAGF )	Instance ( INSTANCE )
Physical Disk Overview ( PI_PHYD )	ID ( INSTANCE )
Process End Detail ( PD_PEND )	Program ( PROCESS_NAME )

2. PD\_UPD, PD\_UPDB, PI\_UPI, PI\_UPIB レコードでは、最初のレコードのインスタンスを採用します。  
OS から取得した情報でレコードのインスタンスをユニークに識別できない場合、レコードのインスタンスごとに収集されたパフォーマンスデータは、正しい値ですが、インスタンスに対応するデバイス（例えば、Network Interface Overview (PI\_NETI) レコードの場合、対応する NIC）を識別することはできません。また、システムの環境が変更された場合などに、レコードのインスタンスの整合性が保証できないため、正しいリアルタイムデータの情報の更新や、履歴データの集約ができません。

### レコードが収集されない場合の注意事項およびアプリケーションイベントログ

#### レコードが収集されない場合の注意事項

PFM・Agent for Platform で次のレコードのパフォーマンスデータを収集する場合、パ



パフォーマンスコンソール上でオブジェクトがモニタリング可能な状態である必要があります。各レコードに対応するオブジェクト、イベントログに出力されるソース（サービス）名、およびパフォーマンス拡張 DLL を次の表に示します。

注

各レコードに対応するオブジェクトの名称は、「パフォーマンス」で確認できます。各レコードに対応するオブジェクトが存在しない場合、Microsoft 社が提供している Microsoft Knowledge Base で公開されている手順に従って、モニタリング可能な状態にしてください。

表 5-12 各レコードに対応するオブジェクト、イベントログに出力されるソース（サービス）名、およびパフォーマンス拡張 DLL

カテゴリー	レコード名（レコード ID）	オブジェクト名	イベントログに出力されるソース [ サービス ] 名	パフォーマンス拡張 DLL
ディスク	Logical Disk Overview (PI_LOGD)	LogicalDisk	PerfDisk	PerfDisk.dll
	Physical Disk Overview (PI_PHYD)	PhysicalDisk		
プロトコル	ICMP Overview (PI_ICMP)	ICMP	Tepip	perfctrs.dll
	ICMP Version 6 Overview (PI_ICM6)	ICMPv6		
	IP Overview (PI_IP)	IP または IPv4		
	IP Version 6 Overview (PI_IP6)	IP または IPv6		
	TCP Overview (PI_TCP)	TCP または TCPv4		
	TCP Version 6 Overview (PI_TCP6)	TCP または TCPv6		
	UDP Overview (PI_UDP)	UDP または UDPv4		
	UDP Version 6 Overview (PI_UDP6)	UDP または UDPv6		
ネットワーク関連	Network Interface Overview (PI_NETI)	Network Interface		

## 5. レコード

### レコードの注意事項

カテゴリー	レコード名 (レコード ID)	オブジェクト名	イベントログに出されるソース [ サービス ] 名	パフォーマンス 拡張 DLL
	NBT Overview (PI_NBT)	NBT Connection		
	WINS Server Overview (PI_WINS)	WINS Server	Wins	winsctrs.dll
	Browser Overview (PI_BRSR)	Browser	PerfNet	perfnets.dll
	Server Work Queues Overview (PI_SVRQ)	Server Work Queues		
	System Overview (PI)	Redirector		
		Server		
OS 全般 (プロセス, メモリーなど)		Cache	PerfOS	PerfOS.dll
		Memory		
		Objects		
		System		
		Processor		
		Processor Overview (PI_PCSR)		
	Page File Detail (PD_PAGF)	Paging File		
プロセス関連	Process Detail (PD)	Process	PerfProc	PerfProc.dll
	Process Detail Interval (PD_PDI)			
	Application Process Interval (PD_APSI)			
	Application Process Overview (PD_APS)			
	Application Summary (PD_APP)			

カテゴリー	レコード名 (レコード ID)	オブジェクト名	イベントログに出 力されるソース [ サービス ] 名	パフォーマンス 拡張 DLL
	Application Summary Extension ( PD_APP2 )			
	Application Process Detail ( PD_APPD )			
	Process End Detail ( PD_PEND )			
	Workgroup Summary ( PI_WGRP )			
Active Directory	Active Directory Overview ( PI_AD )	Database	ESENT	esentprf.dll
		NTDS	NTDS	ntdsperf.dll
		DNS	DNS	dnsperf.dll
全般	Generic Data Detail ( PD_GEND )	収集データ追加 ユーティリティで 設定したオブジェ クト	オブジェクトごとに異なる。	
	Generic Data Interval ( PI_GENI )			
その他	Event Log ( PD_ELOG )	対象外	( 該当なし )	
	Device Detail ( PD_DEV )			
	User Data Detail ( PD_UPD )			
	User Data Detail - Extended ( PD_UPDB )			
	User Data Interval ( PI_UPI )			
	User Data Interval - Extended ( PI_UPIB )			
	Service Process Detail ( PD_SVC )			

## 5. レコード

### レコードの注意事項

カテゴリー	レコード名 (レコード ID)	オブジェクト名	イベントログに出 力されるソース [ サービス ] 名	パフォーマンス 拡張 DLL
	Application Service Overview (PD_ASVC)			

#### レコードが正常に収集されない場合のアプリケーションイベントログ

アプリケーションイベントログに Perflib (すべてのオブジェクトに共通のソース (サービス) 名) または各オブジェクトのソース (サービス) 名が記録されている場合、PFM - Agent for Platform が正常に動作しないことや、そのソース (サービス) に対応するレコードが収集できないことがあります。次の表に示すようなアプリケーションイベントログが記録されている場合、ソース (サービス) を再インストールするか、Microsoft 社が提供している Microsoft Knowledge Base に公開されている原因を取り除くか、ソース (サービス) の開発元に対処方法を問い合わせ、アプリケーションイベントログが記録されない環境に修復してください。PFM - Agent for Platform が正常に動作しない場合や、そのソース (サービス) に対応するレコードが収集できない場合のアプリケーションイベントログの一例を次の表に示します。

表 5-13 レコードが正常に収集されない場合のアプリケーションイベントログの例

イベント ID	ソース (サービス) 名	イベントログの内容
1008	Perflib	サービス " サービス名 " (DLL "DLL 名 ") の Open プロシージャに失敗しました。このサービスのパフォーマンスデータは利用できません。返されたステータス コードは、データ DWORD 0 です。
1009	Perflib	サービス " サービス名 " (DLL "DLL 名 ") の Open プロシージャで、例外が発生しました。このサービスのパフォーマンスデータは利用できません。返された例外コードは、データ DWORD 0 です。
1010	Perflib	サービス " サービス名 " (DLL "DLL 名 ") の Collect プロシージャで、例外が発生したか、または 無効なステータスが返されました。カウンタ DLL から返されるパフォーマンスデータは、パフォーマンス データ ブロックに返されません。返された例外またはステータス コードは、データ DWORD 0 です。
1011	Perflib	" サービス名 " サービスに対して指定されたライブラリ ファイル "DLL 名 " を開けません。このサービスのパフォーマンスデータは利用できません。ステータス コードは、データ DWORD 0 です。
2001	Perflib	" サービス名 " サービスが Performance サブキーを持っていないか、またはそのキーを開けません。このサービスに対しては、パフォーマンス カウンタは収集されません。Win32 エラー コードはデータで返されます。

イベント ID	ソース (サービス) 名	イベントログの内容
2002	Perflib	DLL "DLL 名" のサービス "サービス名" の Open プロシージャの完了までに、確立されている 待機時間よりも長い時間が掛かりました。この拡張可能カウンタまたはデータを収集している サービスに問題があるか、このコールが試行されるときに、システムがビジー状態だった 可能性があります。
2000	PerfDisk	システムから論理ボリューム情報を読み取れません。戻された状態コードはデータ DWORD 0 です。

#### 注

上記表以外の Perflib が出力するアプリケーションイベントログについては、Microsoft 社が提供している Microsoft Knowledge Base を参照してください。

#### 各レコードの注意事項

Windows Server 2003, Windows Server 2008 で、Internet Protocol version 6 (IPv6) 環境の場合、次のレコードの性能情報は収集できません。

- ICMP Overview (PI\_ICMP)
- IP Overview (PI\_IP)
- TCP Overview (PI\_TCP)
- UDP Overview (PI\_UDP)

複数インスタンスレコードのうち、インスタンス名が「\_Total」で示されるレコードのデータ値には、すべてのインスタンスの合計値や平均値が収集されます。また、収集間隔中にインスタンス情報が変更された場合、値が一致しない場合があります。

レコード収集中にシステムリソースに変更があった場合、Agent Collector サービスは次のメッセージを共通メッセージログに出力し、レコード収集を 2 回しません。

KAVF11406-W システムリソースに変更がありました (レコード ID)

PFM - Agent for Platform では、データモデルで定義されたデータ型以上の値は扱えません。データモデルで定義されたデータ型以上の値が収集された場合、正確な値が表示されなくなります。

#### プロセスのプログラム名を使用する場合の注意事項

プロセスのプログラム名には Windows のパフォーマンスレジストリーから取得したデータを設定しています。これらの名称は Windows のタスクマネージャーやシステムモニターで表示される名前とは、大文字小文字などが一致しない場合があります。

アラーム定義やレポートに表示するフィールドの表示条件の定義に、プロセスのプログラム名を使用する場合は、大文字および小文字の区別が必要になります。次の手順に従って、大文字小文字の違いを含めてのプロセスのプログラム名を確認してください。その後、確認したプロセスのプログラム名を使用して、アラーム定義での監視プロセスやレポートに表示するフィールドの表示条件などを設定してください。

## 5. レコード

### レコードの注意事項

1. PFM - Web Console を起動する。
2. レポートウィザードを起動する。  
レポートウィザードの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。
3. レポートに表示するフィールドを定義する。  
レポートウィザードの [ 新規レポート > フィールド ] 画面で監視する対象となるレコードとフィールドを設定します。
  - レコード：Process Detail ( PD )
  - フィールド：Program ( INSTANCE )
4. レポートウィザードに従って、レポートの作成を終了する。
5. 作成したレポートを表示する。  
システム内のプロセスのプログラム名がすべて表示されます。

### データを取得できない場合のレコード生成結果

フィールドに格納するデータを取得できない場合のレコード生成結果について説明します。

レコードが生成されない

ODBC キーフィールドとして定義されたフィールドに格納するパフォーマンスデータを PFM - Agent for Platform が収集できない場合、レコードは生成されません。

値が「Unknown」または「UNKNOWN」のフィールドを持つレコードが生成されるデータ型が文字列のフィールドで、OS から取得した値が不明、または取得できない場合、値が「Unknown」または「UNKNOWN」のフィールドを持つレコードが生成されます。

### 予約レコードについての注意事項

PFM - Agent for Platform 07-50 以前のバージョンから PFM - Agent for Platform 08-00 以降にバージョンアップした場合、履歴の収集設定時に、PFM - Web Console のレポートウィザードの [ 新規レポート > フィールド ] 画面の [ レコード ] で、PFM - Agent for Platform 08-00 以降では予約レコードになっているレコードが表示され、変更操作も可能になります。この場合、PFM - Agent for Platform 08-00 以降で予約レコードになっているレコードを収集対象に設定しても、レコードの収集は行われません。なお、初回の収集時だけ、共通メッセージログに次のメッセージが出力されます。

KAVF11201-W 不正な収集イベントが発生しました (レコード ID, rc= 保守情報)

参考

---

PFM - Agent for Platform 08-00 以降を新規インストールした場合、予約レコードはプロパティに表示されません。

---

## Active Directory のインストール方法

PFM - Agent for Platform 08-11 以降のバージョンでは、Active Directory 情報を収集する Active Directory Overview (PI\_AD) レコードを使用できます。Active Directory のパフォーマンスデータを取得するには、Active Directory をインストールしてください。Active Directory が有効でない環境では、メッセージ (KAVF11304-W) が出力されて、レコードの取得はできません。Active Directory のインストール方法を次に示します。

1. dcpromo コマンドを実行する。  
Windows の [ スタート ] ボタンをクリックして、[ ファイル名を指定して実行 ] を選択します。[ ファイル名を指定して実行 ] ダイアログが起動されますので、[ 名前 ] ボックスに dcpromo と入力し、[ OK ] ボタンをクリックします。[ Active Directory のインストールウィザード ] が起動します。
2. Active Directory をインストールする。  
[ Active Directory のインストールウィザード ] の手順に従い、Active Directory をインストールします。

## レコード一覧

PFM - Agent for Platform で収集できるレコードおよびそのレコードに格納される情報を、カテゴリ別に次の表に示します。

表 5-14 PFM - Agent for Platform のレコード一覧 ( カテゴリ別 )

カテゴリ	レコード名	レコード ID	格納される情報
Active Directory	Active Directory Overview	PI_AD	ディレクトリサービスである Active Directory についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
サービス機能	WINS Server Overview	PI_WINS	WINS サーバサービスの通信についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。 Windows Server 2003 (x64) および 64 ビット版の Windows Server 2008 の場合は、使用できない。
システム メモリー プロセッサ ネットワーク	System Overview	PI	次の Windows パフォーマンスオブジェクトについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cache オブジェクト</li> <li>• Memory オブジェクト</li> <li>• Objects オブジェクト</li> <li>• Processor オブジェクト</li> <li>• Redirector オブジェクト</li> <li>• Server オブジェクト</li> <li>• System オブジェクト</li> </ul>
ディスク	Logical Disk Overview	PI_LOGD	ハードディスクドライブまたは固定ディスクドライブの論理パーティションの読み込み、書き込み、転送、および領域についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	Physical Disk Overview	PI_PHYD	ハードディスクまたは固定ディスクドライブの読み込み、書き込み、および転送についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
ネットワーク	Browser Overview	PI_BRSR	Windows Browser サービスについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	NBT Overview	PI_NBT	ローカルコンピュータをリモートコンピュータに接続している一つの NBT 接続を介してデータが送受信された割合についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	Network Interface Overview	PI_NETI	TCP/IP 接続を介してデータとパケットが送受信された割合、および TCP/IP 接続の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。



カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
ネットワーク プロセッサ	Server Work Queues Overview	PI_SVRQ	サーバのキューの長さおよびキュー内の 処理についての、ある一定の時間を単位 としたパフォーマンスデータ。
プロセス	Process Detail	PD	一つのプロセスのページング、メモ リー、および時間の使用状況などについ ての、ある時点での状態を示すパフォー マンスデータ。
	Process Detail Interval	PD_PDI	一つのプロセスのページング、メモ リー、および時間の使用状況などについ ての、ある時点での状態を示すパフォー マンスデータ。
	Process End Detail	PD_PEND	プロセスが終了したあとの状態を示すパ フォーマンスデータ。
	Workgroup Summary	PI_WGRP	Process Detail ( PD ) レコードに格納さ れるレコードを、ある時点での状態で、 ワークグループを単位に要約したパ フォーマンスデータ。
	Application Process Interval	PD_APSI	プロセス監視の設定を行っているプロセ スについての、ある時点での状態を示す パフォーマンスデータ。
	Application Process Overview	PD_APS	プロセスについての、ある時点での状態 を示すパフォーマンスデータ。
プロセス関連	Device Detail	PD_DEV	ファイルシステムドライバおよびカーネ ルドライバのデバイスについての、ある 時点での状態を示すパフォーマンスデー タ。
	Service Process Detail	PD_SVC	サービス制御マネージャー ( SCM ) に登 録されている、Win32 プロセスなどのア プリケーションサービスについての、あ る時点での状態を示すパフォーマンス データ。
	Application Service Overview	PD_ASVC	サービス制御マネージャー ( SCM ) に登 録されている、Win32 プロセスなどのア プリケーションサービスについての、あ る時点での状態を示すパフォーマンス データ。
プロセッサ	Processor Overview	PI_PCSR	各プロセッサでの算術、および論理計算 の実行、周辺機器操作の初期化、プロセ スのスレッドの実行などの割り込みの割 合、および時間の割合などについての、 ある一定の時間を単位としたパフォー マンスデータ。
プロトコル	ICMP Overview	PI_ICMP	インターネットプロトコルバージョン 4 の ICMP プロトコルを使用しているシス テムによって送受信された ICMP メッ セージ数の割合、および ICMP の各種の エラー数などについての、ある一定の時 間を単位としたパフォーマンスデータ。

5. レコード  
レコード一覧

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
	ICMP Version 6 Overview	PI_ICM6	インターネットプロトコルバージョン 6 の ICMP プロトコルを使用しているシステムによって送受信された ICMP メッセージ数の割合、および ICMP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	IP Overview	PI_IP	インターネットプロトコルバージョン 4 の IP プロトコルを使用して IP データグラムが送受信された割合、および IP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	IP Version 6 Overview	PI_IP6	インターネットプロトコルバージョン 6 の IP プロトコルを使用して IP データグラムが送受信された割合、および IP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	TCP Overview	PI_TCP	インターネットプロトコルバージョン 4 の TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合や TCP の接続数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	TCP Version 6 Overview	PI_TCP6	インターネットプロトコルバージョン 6 の TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合や TCP の接続数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	UDP Overview	PI_UDP	インターネットプロトコルバージョン 4 の UDP プロトコルを使用して送受信された UDP データグラムについての割合、および UDP の各種エラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	UDP Version 6 Overview	PI_UDP6	インターネットプロトコルバージョン 6 の UDP プロトコルを使用して送受信された UDP データグラムについての割合、および UDP の各種エラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
メッセージ	Event Log	PD_ELOG	次のある時点でのアプリケーション、システム、およびセキュリティについてのイベントログデータ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各イベントログの時刻</li> <li>• イベントソース</li> <li>• イベントの種類</li> <li>• イベント ID</li> <li>• イベントの説明</li> </ul>

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
メモリー	Page File Detail	PD_PAGF	システムのページングファイルのインスタンスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
ユーザーレコード	Generic Data Detail	PD_GEND	ユーザーが定義した、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
	Generic Data Interval	PI_GENI	ユーザーが定義した、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
	Application Summary	PD_APP	Process Detail ( PD ) に格納されるレコードを、アプリケーションを単位に、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータ。
	User Data Detail	PD_UPD	ある時点での状態を示すユーザー独自のパフォーマンスデータ。
	User Data Detail - Extended	PD_UPDB	
	User Data Interval	PI_UPI	ある一定の時間を単位としたユーザー独自のパフォーマンスデータ。
	User Data Interval - Extended	PI_UPIB	
	Application Summary Extension	PD_APP2	Application Process Overview ( PD_APS ) レコードおよび Application Service Overview ( PD_ASVC ) レコードに格納されるレコードを、アプリケーションを単位に、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータ。
Application Process Detail	PD_APPD	Application Process Overview ( PD_APS ) レコードおよび Application Service Overview ( PD_ASVC ) レコードに格納されるレコードを、アプリケーション単位で監視しているプロセスおよびサービスごとに、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータ。	
予約レコード	Active Server Pages	PI_ASP2	予約レコードのため使用できない。
	Active Server Pages Overview	PI_ASP	
	AppleTalk Overview	PI_APLE	
	Broker Service - MSNLogon	PI_BRKS	
	Chat Service Overview	PI_CHAT	
	Content Index Detail	PD_CIND	
	Content Index Filter Detail	PD_CINF	
	Exchange Conn for Lotus cc:Mail	PI_ECCM	

5. レコード  
レコード一覧

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
	Exchange Database Overview	PI_EDB	
	Exchange Dir Service Overview	PI_EDS	
	Exchange Info Store Perf Data	PI_EIPD	
	Exchange Info Store Private	PI_EIPR	
	Exchange Info Store Public	PI_EIPU	
	Exchange Internet Mail Service	PI_EIMS	
	Exchange Internet Protocols	PI_EINP	
	Exchange MSMail Conn Interchange	PI_EMCI	
	Exchange MSMail Conn PC MTA Srv	PI_EMTC	
	Exchange MTA Connections	PI_EMTC	
	Exchange MTA Performance	PI_EMTC	
	Exchange MTA Performance	PI_EMTC	
	Exchange MTA Performance	PI_EMTC	
	Exchange Web Component Overview	PI_EWEB	
	FTP Server Overview	PI_FTPS	
	FTP Server Service Overview	PI_FTPM	
	Gateway Service for NetWare	PI_GTWY	
	Gopher Service Overview	PI_GOPH	
	HTTP Content Index Overview	PI_HTCI	
	HTTP Service Overview	PI_HTTP	
	Image Detail	PD_IMAG	
	Internet Addon Services Global	PI_IASG	
	Internet Info Server Global	PI_IIS	
	LDAP Server Overview	PI_LDAP	

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
	Membership Agent Overview	PI_MEMA	
	Microsoft Commerce Server	PI_MCS	
	NetBEUI Interface Overview	PI_BEUI	
	NetBEUI Resource Overview	PI_BEUR	
	Network Link IPX Overview	PI_LIPX	
	Network Link NetBIOS Overview	PI_LBIO	
	Network Link SPX Overview	PI_LSPX	
	Network Segment Overview	PI_NSEG	
	NNTP Commands	PI_NWSC	
	NNTP Server	PI_NWSS	
	NNTP Server Client Overview	PI_NTFC	
	NNTP Server Service Overview	PI_NTFS	
	POP3 Server Overview	PI_POP3	
	Process Address Space Detail	PD_ADRS	
	Send Mail Overview	PI_SNDM	
	SMTP Server Overview	PI_SMTP	
	SMTP Server Service Overview	PI_SMT2	
	Telephony Overview	PI_TELE	
	Thread Detail	PD_THRD	
	Thread Details Detail	PD_THD	
	Vote Management Overview	PI_VOTE	
	Web Proxy Server Cache Overview	PI_WPSC	
	Web Proxy Server Service	PI_WPSS	
	Web Service Overview	PI_WEB	

5. レコード  
レコード一覧

カテゴリー	レコード名	レコード ID	格納される情報
	WinSock Proxy Server Overview	PI_WSPS	

## Active Directory Overview (PI\_AD)

### 機能

Active Directory Overview (PI\_AD) レコードには、ディレクトリサービスである Active Directory について、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。Active Directory の監視例については、「1.3.2(7) Active Directory の監視例」を参照してください。

### 注意

Active Directory が有効でない環境では、警告メッセージが出力されて Active Directory Overview (PI\_AD) レコードは取得できません。Active Directory のインストール方法については、この章の「Active Directory のインストール方法」を参照してください。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

Active Directory サービスの起動から終了まで。

### レコードサイズ

固定部：1533 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 (PFM-Manager 名)	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
AB Client Sessions (AB_CLIENT _SESSIONS)	接続されているアドレス 帳クライアントセッション の数。	HILO	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### Active Directory Overview (PI\_AD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
ATQ Threads LDAP ( ATQ_THRE ADS_LDAP )	現在 ATQ が LDAP 要求 処理のために割り当てて いるスレッドの数。	COP Y	ulong	No	-	-
ATQ Threads Other ( ATQ_THRE ADS_OTHER )	現在 ATQ が LDAP 以外 の DS サービスへ割り当 てたスレッドの数。	COP Y	ulong	No	-	-
Cache % Hit ( CACHE_HIT )	データベースキャッシュ により、ファイル操作を 発生させることなく実行 されたデータベースファ イルページの要求の割 合。	AVG	doubl e	No	-	-
Cache Page Fault Stalls/sec ( CACHE_PA GE_FAULT_S TALLS_SEC )	データベースキャッシュ から割り当てることがで きるページがないために サービスを受けられな い、1 秒当たりのページ フォールトの数。	AVG	doubl e	No	-	-
Cache Page Faults/sec ( CACHE_PA GE_FAULTS_S EC )	データベースキャッシュ マネージャが、データ ベースキャッシュから新 しいページを割り当てる ために必要な、1 秒当 たりのデータベースファ イルページの要求の数。	AVG	doubl e	No	-	-
Cache Size ( CACHE_SIZ E )	データベースキャッシュ マネージャがデータベー スファイルから頻繁に使 用される情報を保持する のに使用するシステムメ モリの容量。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In After Compress ( DRA_IN_AF TER_COMPRE SS )	入力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 圧縮されたバイト数。別 のサイトの DSA からの 圧縮後のサイズ。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In After Compress/sec ( DRA_IN_AF TER_COMPRE SS_PER_SEC )	入力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 圧縮されたバイト数。別 のサイトの DSA からの 圧縮後のサイズ(バイト 数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
DRA In Before Compress ( DRA_IN_BE FORE_COMP RESS )	入力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 元のバイト数。別のサイ トの DSA からの圧縮前 のサイズ。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In Before Compress/sec ( DRA_IN_BE FORE_COMP RESS_PER_SE C )	入力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 元のバイト数。別のサイ トの DSA からの圧縮前 のサイズ (バイト数/秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA In Not Compress ( DRA_IN_NO T_COMPRESS )	入力方向のレプリケー ションでソースで圧縮さ れていないバイト数 (例 : 同じサイトの DSA か らのレプリケーション)。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In Not Compress/sec ( DRA_IN_NO T_COMPRESS _PER_SEC )	入力方向のレプリケー ションでソースで圧縮さ れていないバイト数 (例 : 同じサイトの DSA か らのレプリケーション)。 (バイト数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA In Total ( DRA_IN_TO TAL )	入力方向のレプリケー ションの合計バイト数。 圧縮されていないバイト 数 (圧縮前) と圧縮され たバイト数 (圧縮された 後) の合計。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In Total/ sec ( DRA_IN_TO TAL_PER_SE C )	入力方向のレプリケー ションの合計バイト数。 圧縮されていないバイト 数 (圧縮前) と圧縮され たバイト数 (圧縮された 後) の合計 (バイト数/ 秒)。	COP Y	doubl e	No	-	-
DRA In Object Updates in Pkt ( DRA_IN_OB JECT_UPDAT ES_IN_PKT )	現在のディレクトリレプ リケーション更新パケッ トの中で受信されたオブ ジェクト更新で、ローカ ルサーバにまだ適用され ていない更新の数。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA In Objects/sec ( DRA_IN_OB JECTS_PER_S EC )	近隣ノードから入力方 向のレプリケーションをと おして受信したオブジェ クトの数 (オブジェクト 数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Active Directory Overview (PI\_AD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
DRA In Property Apply/sec ( DRA_IN_PR OPERTY_APP LY_PER_SEC )	着信プロパティが整合性 ロジックで優勢だったた めに更新されたプロパ ティの数 ( プロパティ数 / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA In Property Filter/ sec ( DRA_IN_PR OPERTY_FILT ER_PER_SEC )	すでに実行されたレプリ ケーションの間に受信さ れたプロパティ変更の数 ( プロパティ数 / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA In Values/ sec ( DRA_IN_VA LUES_PER_S EC )	識別名である入力方向の レプリケーションパート ナーから受信したオブ ジェクトプロパティ値の 数 ( プロパティ値数 / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out After Compress ( DRA_OUT_ AFTER_COMP RESS )	出力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 圧縮されたバイト数。別 のサイトの DSA からの 圧縮後のサイズ。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Out After Compress/sec ( DRA_OUT_ AFTER_COMP RESS_PER_SE C )	出力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 圧縮されたバイト数。別 のサイトの DSA からの 圧縮後のサイズ ( バイト 数 / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Before Compress ( DRA_OUT_ BEFORE_CO MPRESS )	出力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 元のバイト数。別のサイ トの DSA からの圧縮前 のサイズ。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Out Before Compress/sec ( DRA_OUT_ BEFORE_CO MPRESS_PER _SEC )	出力方向の圧縮されたレ プリケーションデータの 元のバイト数。別のサイ トの DSA からの圧縮前 のサイズ ( バイト数 / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Not Compress ( DRA_OUT_ NOT_COMPR ESS )	出力方向のレプリケー ションで圧縮されていな いバイト数 ( 例 : 同じサ イトの DSA からのレプ リケーション )。	COP Y	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
DRA Out Not Compress/sec ( DRA_OUT_ NOT_COMPR ESS_PER_SEC )	出力方向のレプリケー ションで圧縮されてい ないバイト数(例: 同 じサイトの DSA から のレプリケーション) (バイト数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Total ( DRA_OUT_T OTAL )	出力方向のレプリケー ションの合計バイト数。 圧縮されていないバ イト数(圧縮前)と圧 縮されたバイト数(圧 縮された後)の合計。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Out Total/ sec ( DRA_OUT_T OTAL_PER_S EC )	出力方向のレプリケー ションの合計バイト数。 圧縮されていないバ イト数(圧縮前)と圧 縮されたバイト数(圧 縮された後)の合計 (バイト数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Objects Filter/ sec ( DRA_OUT_ OBJECTS_FIL TER_PER_SE C )	出力方向のレプリケー ションで参照されたオ ブジェクトで、出力方 向のパートナーが適 用していない更新が ないと判定されたオ ブジェクトの数(オ ブジェクト数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Objects/sec ( DRA_OUT_ OBJECTS_P ER_SEC )	出力方向のレプリケー ションのオブジェクト 数(オブジェクト数/ 秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Property/sec ( DRA_OUT_P ROPERTY_P ER_SEC )	出力方向のレプリケー ションのプロパティ数 (プロパティ数/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-
DRA Out Values/sec ( DRA_OUT_ VALUES_P ER_SEC )	出力方向のレプリケー ションパートナーへ送 信された識別名を含 んでいるオブジェクト プロパティ値の数 (プロパティ値/秒)。	AVG	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Active Directory Overview (PI\_AD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
DRA Pending Replication Sync ( DRA_PENDI NG_REPLICA TION_SYNC )	このサーバのキューに登録されていてまだ処理されていないディレクトリ同期の数。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Sync Failures on SM ( DRA_SYNC_ FAILURES_O N_SM )	近隣ノードに対する同期要求で、スキーマの同期がとれていないために失敗したものの数。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Sync Requests Made ( DRA_SYNC_ REQUESTS_M ADE )	近隣ノードに対する同期要求の数。	COP Y	ulong	No	-	-
DRA Sync Requests Successful ( DRA_SYNC_ REQUESTS_S UCCESSFUL )	近隣ノードに対する同期要求で、正常に返されたものの数。	COP Y	ulong	No	-	-
DS Directory Reads/sec ( DS_DIRECT ORY_READS_ PER_SEC )	1 秒当たりのディレクトリ読み取り数。	AVG	doubl e	No	-	-
DS Directory Searches/sec ( DS_DIRECT ORY_SEARCH ES_PER_SEC )	1 秒当たりのディレクトリ検索数。	AVG	doubl e	No	-	-
DS Directory Writes/sec ( DS_DIRECT ORY_WRITES _PER_SEC )	1 秒当たりのディレクトリ書き込み数。	AVG	doubl e	No	-	-
DS Monitor List Size ( DS_MONIT OR_LIST_SIZ E )	現在この DSA に登録されているオブジェクトが更新されるとき通知される要求の数。	COP Y	ulong	No	-	-
DS Name Cache hit rate ( DS_NAME_ CACHE_HIT_ RATE )	DSA 名キャッシュで満たされたディレクトリオブジェクト名コンポーネントの参照の割合。	AVG	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
DS Notify Queue Size ( DS_NOTIFY _QUEUE_SIZ E )	キューに登録されてい て、まだクライアントに 送信されていない保留中 の更新通知の数。	COP Y	ulong	No	-	-
DS Sec DP Events ( DS_SEC_DP _EVENTS )	キューに登録されてい てまだ処理されていないセ キュリティ記述子の伝達 イベントの数。	COP Y	ulong	No	-	-
DS Sec DP Runtime Queue ( DS_SEC_DP _RUNTIME_Q UEUE )	現在の DS セキュリティ 記述子の伝達イベント を処理している間、確認 する必要があるオブジェ クトの残数。	COP Y	ulong	No	-	-
DS Threads in Use ( DS_THREA DS_IN_USE )	現在ディレクトリサー ビスによって使用されてい るスレッドの数(ディレ クトリサービスプロセス で使用されているスレッ ドの数とは異なる)。	COP Y	ulong	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間(秒単位)、 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間(秒単位)、 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Kerberos Authentic ations ( KERBEROS _AUTHENTIC ATIONS )	クライアントがこの DC を認証するためにこの DC へのチケットを使う 1 秒当たりの回数。	AVG	doubl e	No	-	-
LDAP Active Threads ( LDAP_ACTI VE_THREADS )	ローカルディレクトリ サービスの LDAP サブ システムによって使用さ れているスレッドの現在 の数。	COP Y	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### Active Directory Overview (PI\_AD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
LDAP Bind Time ( LDAP_BIND _TIME )	最後に成功した LDAP バインドにかかった時間 (ミリ秒)。	COP Y	ulong	No	-	-
LDAP Client Sessions ( LDAP_CLIE NT_SESSION S )	接続されている LDAP クライアントセッション の数。	HILO	ulong	No	-	-
LDAP Searches/sec ( LDAP_SEAR CHES_PER_S EC )	LDAP クライアントが検 索操作を実行する速度。	AVG	doubl e	No	-	-
LDAP Successful Binds/sec ( LDAP_SUC CESSFUL_BI NDS_PER_SE C )	1 秒当たりの LDAP バ インド数。	AVG	doubl e	No	-	-
LDAP UDP operations/sec ( LDAP_UDP_ OPERATIONS _PER_SEC )	LDAP サーバが 1 秒間 に処理している UDP 操 作の数。	AVG	doubl e	No	-	-
Log Record Stalls/sec ( LOG_RECO RD_STALLS_S EC )	ログバッファに空きがな いために、追加できない 1 秒当たりのログレコー ドの数。	AVG	doubl e	No	-	-
Log Threads Waiting ( LOG_THRE ADS_WAITIN G )	データベースの更新を完 了させるために、ログ バッファ上のデータがロ グファイルに書き込まれ るのを待機しているス レッドの数。	COP Y	ulong	No	-	-
Log Writes/sec ( LOG_WTITE S_SEC )	ログバッファ上のデータ がログファイルに書き込 まれる 1 秒当たりの回 数。	AVG	doubl e	No	-	-
NTLM Authenticatio ns ( NTLM_AUT HENTICATIO NS )	この DC が提供する NTLM 認証の 1 秒当た りたりの数。	AVG	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「AD」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
SAM Password Changes/sec ( SAM_PASS WORD_CHAN GES_SEC )	1 秒当たりの SAM での パスワード変更数。	AVG	doubl e	No	-	-
Table Open Cache % Hit ( TABLE_OPE N_CACHE_HI T )	キャッシュしたスキーマ 情報を使用して開かれた データベーステーブルの 割合。	AVG	doubl e	No	-	-
Table Open Cache Hits/sec ( TABLE_CAC HE_HITS_SEC )	キャッシュしたスキーマ 情報を使用して開かれた データベーステーブルの 1 秒当たりの数。	AVG	doubl e	No	-	-
Table Open Cache Misses/ sec ( TABLE_OPE N_CACHE_MI SSES_SEC )	キャッシュしたスキーマ 情報を使用せずに開かれ たデータベーステーブル の 1 秒当たりの数。	AVG	doubl e	No	-	-
Table Opens/ sec ( TABLE_OPE N_SEC )	1 秒当たりに開かれた データベーステーブルの 数。	AVG	doubl e	No	-	-
Zone Transfer Failure ( ZONE_TRA NSFER_FAIL URE )	マスタ DNS サーバの失 敗したゾーン転送数の合 計。	COP Y	ulong	No	-	-
Zone Transfer Request Received ( ZONE_TRA NSFER_REQU EST_RECEIV ED )	マスタ DNS サーバが受 信したゾーン転送要求数 の合計。	COP Y	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### Active Directory Overview (PI\_AD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Zone Transfer SOA Request Sent ( ZONE_TRA NSFER_SOA_ REQUEST_SE NT )	セカンダリ DNS サーバ が送信したゾーン転送 SOA 要求数の合計。	COP Y	ulong	No	-	-
Zone Transfer Success ( ZONE_TRA NSFER_SUCC ESS )	マスタ DNS サーバの成 功したゾーン転送数の合 計。	COP Y	ulong	No	-	-



## Application Process Detail ( PD\_APPD )

### 機能

Application Process Detail ( PD\_APPD ) レコードには、Application Process Overview ( PD\_APS ) レコードおよび Application Service Overview ( PD\_ASVC ) レコードに格納されるレコードを、アプリケーション単位で監視しているプロセスおよびサービスごとに、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータが格納されます。アプリケーションの監視条件ごとに 1 件のレコードが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

アプリケーション定義を変更するには、PFM - Web Console から設定を変更する必要があります。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Sync Collection With	Detail Records, APP2	×
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_APPD\_APPLICATION\_NAME
- PD\_APPD\_MONITORING\_NUMBER

### ライフタイム

PFM - Web Console でアプリケーション定義が追加されたときから、削除されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：263 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Application Name ( APPLICATI ON_NAME )	プロセス監視の設定で指 定された名前。	-	string (64)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Process Detail ( PD\_APPD )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Interval ( INTERVAL )	Application Process Detail(PD_APPD) レ コードが格納されたイン ターバルの秒数。常に 「0」。	-	ulong	No	-	-
Monitoring Condition ( MONITORI NG_CONDITI ON )	監視するプロセスまたは サービスを特定するた めの条件式。	-	string (128)	No	-	-
Monitoring Count ( MONITORI NG_COUNT )	監視条件に一致する稼働 中のプロセス数はまた サービス数。	-	ulong	No	-	-
Monitoring Field ( MONITORI NG_FIELD )	監視するフィールド。	-	string (16)	No	-	-
Monitoring Label ( MONITORI NG_LABEL )	監視条件を識別するた めの名称。	-	string (32)	No	-	-
Monitoring Max ( MONITORI NG_MAX )	監視数の上限値。	-	ulong	No	-	-
Monitoring Min ( MONITORI NG_MIN )	監視数の下限値。	-	ulong	No	-	-
Monitoring Number ( MONITORI NG_NUMBER )	監視条件の番号。	-	word	No	-	-
Monitoring Status ( STATUS )	監視数の条件結果。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。	-	string (9)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「APPD」。	-	char( 8)	No	-	-

# Application Process Interval ( PD\_APSI )

## 機能

Application Process Interval ( PD\_APSI ) レコードには、プロセス監視の設定を行っているプロセスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

## 注意

- 各プロセスは、収集時に実行しているプログラムを表します。
- 収集インターバル中に、Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドに対応するレコードが新規に生成された場合、次のフィールドは前回収集した情報から値を算出するため、最初の値は 0 で表示されます。
  - CPU % ( PCT\_PROCESSOR\_TIME )
  - IO Data Bytes/sec ( IO\_DATA\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Data Operations/sec ( IO\_DATA\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Other Bytes/sec ( IO\_OTHER\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Other Operations/sec ( IO\_OTHER\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Read Bytes/sec ( IO\_READ\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Read Operations/sec ( IO\_READ\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Write Bytes/sec ( IO\_WRITE\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Write Operations/sec ( IO\_WRITE\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - Privileged CPU % ( PCT\_PRIVILEGED\_TIME )
  - User CPU % ( PCT\_USER\_TIME )
  - Page Faults/sec ( PAGE\_FAULTS\_PER\_SEC )
- このレコードの Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドの値が、「System」または「System Idle Process」の場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドが正しく収集できないことがあります。この場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドの値は、System Overview ( PI ) レコードの System Up Time ( SYSTEM\_UP\_TIME ) に近似していますので、この値を利用してください。
- 取得元の情報に ASCII コードの文字 ( 0x20 ~ 0x7E ) 以外が含まれる場合、Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドおよび Command Line ( COMMAND\_LINE ) フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1 バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」( 全角 ) は次のように変換されます。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#

## 5. レコード

### Application Process Interval ( PD\_APSI )

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

- Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドの値は、Windows のタスクマネージャの [ プロセス ] タブを開いた際に、[ イメージ名 ] 列に表示される値に相当します。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Sync Collection With	Detail Records, APP2	×
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_APSI\_ID\_PROCESS
- PD\_APSI\_START\_TIME
- PD\_APSI\_APPLICATION\_NAME
- PD\_APSI\_MONITORING\_NUMBER

### ライフタイム

アプリケーション定義が設定されてプロセスが実行されたときから、プロセスが終了するかアプリケーション定義が削除されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：647 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Application Name ( APPLICATI ON_NAME )	プロセス監視の設定で指 定された名前。	-	string (64)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
CPU % ( PCT_PROCE SSOR_TIME )	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 ( % )。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	doubl e	No	-	-
Creating Process ID ( PROCESS_I D )	このプロセスを起動したプロセスのプロセス ID。	-	ulong	No	-	-
Elapsed Time ( ELAPSED_T IME )	プロセスが実行している総経過時間 ( 秒単位 )。	-	utime	No	-	-
Group ( GROUP_NA ME )	プロセスを実行したユーザーが所属するグループ名。グループ名はドメイン名、またはローカルシステムによってあらかじめ定義された名前 ( 「 NT AUTHORITY 」, コンピュータ名など )。プロセスのセキュリティ ID に対応するグループ名が見つからない場合は「 NONE_MAPPED 」, プロセス ID から実行グループ名が取得できない場合は「 Unknown 」が格納される。	-	string (36)	No	-	-
Handle Count ( HANDLE_C OUNT )	プロセスによってオープンしているハンドル数。	-	ulong	No	-	-
IO Data Bytes/ sec ( IO_DATA_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込みしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Application Process Interval ( PD\_APSI )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作をしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_ OPERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作をしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Read Bytes/ sec ( IO_READ_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Read Operations/sec ( IO_READ_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Write Bytes/ sec ( IO_WRITE_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_ OPERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」。	-	ulong	No	-	-
Monitoring Field ( MONITORI NG_FIELD )	監視するフィールド。	-	string (16)	No	-	-
Monitoring Label ( MONITORI NG_LABEL )	監視条件を識別するための名称。	-	string (32)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	デー タソ ース
Monitoring Number ( MONIT ORING NUMBER )	監視条件の番号。	-	word	No	-	-
PID ( ID_PROCES S )	プロセス ID。実行して いるプロセスの一意の識 別子。	-	ulong	No	-	-
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	プロセス内でページフォ ルトが発生した割合 ( / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes ( PAGE_FILE _BYTES )	プロセスがページング ファイルで使用している 仮想メモリー領域のサイ ズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE _BYTES_PEA K )	プロセスがページング ファイルで使用していた 仮想メモリー領域の最大 サイズ ( キロバイト単 位 )	-	doubl e	No	-	-
Pool Nonpaged Kbytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	プロセスが使用している ページング不可能なメモ リーサイズ ( キロバイト 単位 )	-	doubl e	No	-	-
Pool Paged Kbytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	プロセスが使用している ページング可能なメモ リーサイズ ( キロバイト 単位 )	-	doubl e	No	-	-
Priority Base ( PRIORITY_ BASE )	プロセスの基本優先順 位。値が大きいほど基本 優先度が高い。値は次の とおり。 ・ 24 : リアルタイム ・ 13 : 高 ・ 10 : 通常以上 ・ 8 : 通常 ・ 6 : 通常以下 ・ 4 : 低	-	ulong	No	-	-
Private Kbytes ( PRIVATE_B YTES )	プロセスが、ほかのプロ セスと共用できないよう に割り振ったメモリーの サイズ ( キロバイト単 位 )	-	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Application Process Interval ( PD\_APSI )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Privileged CPU % ( PCT_PRIVILEGED_TIME )	プロセスが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	double	No	-	-
Program Name ( INSTANCE )	プログラム名。	-	string (257)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TIME )	レコードが作成された時刻。	-	time_t	No	-	-
Record Type ( INPUT_RECORD_TYPE )	レコード名。常に「APSI」。	-	char(8)	No	-	-
Start time ( START_TIME )	プロセスの開始時刻。	-	time_t	No	-	-
Thread Count ( THREAD_COUNT )	プロセス内のスレッド ( 命令を実行する単位 ) の数。プロセスを実行すると最低一つのスレッドが起動される。	-	ulong	No	-	-
User ( USER_NAME )	プロセスを実行したユーザー名。プロセスのセキュリティ ID に対応するユーザー名が見つからない場合は「NONE_MAPPED」、プロセス ID から実行ユーザー名が取得できない場合は「Unknown」が格納される。	-	string (36)	No	-	-
User CPU % ( PCT_USER_TIME )	プロセスがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	double	No	-	-
Virtual Kbytes ( VIRTUAL_BYTES )	プロセスが使用している仮想アドレス空間のサイズ ( キロバイト単位 )。	-	double	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ース
Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_B BYTES_PEAK )	プロセスが使用していた 仮想アドレス空間の最大 サイズ ( キロバイト単 位 )	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes ( WORKING_ SET )	プロセスで使用している メモリー使用量 ( ワーキ ングセットと呼び, メモ リーの総量またはページ フォルトなしに参照でき るメモリー量を示す ) の サイズ ( キロバイト単 位 )	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes Peak ( WORKING_ SET_PEAK )	プロセスで使用していた メモリー使用量 ( ワーキ ングセットと呼び, メモ リーの総量またはページ フォルトなしに参照でき るメモリー量を示す ) の 最大サイズ ( キロバイト 単位 )	-	doubl e	No	-	-

## Application Process Overview ( PD\_APS )

---

### 機能

Application Process Overview ( PD\_APS ) レコードには、プロセスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。システム内に存在するプロセス ID につき 1 件のレコードが作成されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードは、リアルタイムレポートだけで使用できます。
- 各プロセスは、収集時に実行されているプログラムを表します。
- 収集インターバル中に、Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドに対応するレコードが新規に生成された場合、次のフィールドは前回収集した情報から値を算出するため、最初の値は 0 で表示されます。
  - CPU % ( PCT\_PROCESSOR\_TIME )
  - IO Data Bytes/sec ( IO\_DATA\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Data Operations/sec ( IO\_DATA\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Other Bytes/sec ( IO\_OTHER\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Other Operations/sec ( IO\_OTHER\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Read Bytes/sec ( IO\_READ\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Read Operations/sec ( IO\_READ\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Write Bytes/sec ( IO\_WRITE\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Write Operations/sec ( IO\_WRITE\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - Privileged CPU % ( PCT\_PRIVILEGED\_TIME )
  - User CPU % ( PCT\_USER\_TIME )
  - Page Faults/sec ( PAGE\_FAULTS\_PER\_SEC )
- このレコードの Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドの値が、「System」または「System Idle Process」の場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドが正しく収集できないことがあります。この場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドの値は、System Overview ( PI ) レコードの System Up Time ( SYSTEM\_UP\_TIME ) に近似していますので、この値を利用してください。
- このレコードの履歴レポートを表示すると、KAVJS5001-I のエラーが発生します。
- 取得元の情報に ASCII コードの文字 ( 0x20 ~ 0x7E ) 以外が含まれる場合、Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドおよび Command Line ( COMMAND\_LINE ) フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1 バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」( 全角 ) は次のように変換されます。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

- Program Name ( PROGRAM\_NAME ) フィールドの値は、Windows のタスクマネージャの [ プロセス ] タブを開いた際に、[ イメージ名 ] 列に表示される値に相当します。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Sync Collection With	Detail Records, APP2	×
Log	No	×
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_APS\_ID\_PROCESS
- PD\_APS\_START\_TIME

### ライフタイム

プロセスの実行から終了まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：4630 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
CPU % ( PCT_PROCE SSOR_TIME )	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Application Process Overview ( PD\_APS )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Command Line ( COMMAND _LINE )	コマンドライン。	-	string (4097 )	No	-	-
Creating Process ID ( PROCESS_I D )	このプロセスを起動した プロセスのプロセス ID。	-	ulong	No	-	-
Elapsed Time ( ELAPSED_T IME )	プロセスが実行している 総経過時間 ( 秒単位 )。	-	utime	No	-	-
Group ( GROUP_NA ME )	プロセスを実行したユー ザーが所属するグループ 名。グループ名はドメイ ン名、またはローカルシ ステムによってあらかじめ 定義された名前 ( 「NT AUTHORITY」, コン ピュータ名など )。プロ セスのセキュリティ ID に対応するグループ名が 見つからない場合は 「NONE_MAPPED」, プ ロセス ID から実行グ ループ名が取得できない 場合は「Unknown」が 格納される。	-	string (36)	No	-	-
Handle Count ( HANDLE_C OUNT )	プロセスによってオーブ ンしているハンドル数。	-	ulong	No	-	-
IO Data Bytes/ sec ( IO_DATA_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい るデータ量の割合 ( バイ ト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい る操作数の割合 ( / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、読み込 みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作 をしているデータ量の割 合 ( バイト / 秒 )。	-	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_ OPERATIONS _PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作をしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
IO Read Bytes/ sec ( IO_READ_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
IO Read Operations/sec ( IO_READ_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
IO Write Bytes/ sec ( IO_WRITE_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_ OPERATIONS _PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」	-	ulong	No	-	-
PID ( ID_PROCES S )	プロセス ID。実行しているプロセスの一意識別子。	-	ulong	No	-	-
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	プロセス内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes ( PAGE_FILE _BYTES )	プロセスがページングファイルで使用している仮想メモリー領域のサイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE _BYTES_PEA K )	プロセスがページングファイルで使用していた仮想メモリー領域の最大サイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### Application Process Overview ( PD\_APS )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Pool Nonpaged Kbytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	プロセスが使用している ページング不可能なメモ リーサイズ ( キロバイト 単位 )。	-	doubl e	No	-	-
Pool Paged Kbytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	プロセスが使用している ページング可能なメモ リーサイズ ( キロバイト 単位 )。	-	doubl e	No	-	-
Priority Base ( PRIORITY_ BASE )	プロセスの基本優先順 位。値が大きいほど基本 優先度が高い。値は次の とおり。 ・ 24 : リアルタイム ・ 13 : 高 ・ 10 : 通常以上 ・ 8 : 通常 ・ 6 : 通常以下 ・ 4 : 低	-	ulong	No	-	-
Private Kbytes ( PRIVATE_B BYTES )	プロセスが、ほかのプロ セスと共用できないよう に割り振ったメモリーの サイズ ( キロバイト単 位 )。	-	doubl e	No	-	-
Privileged CPU % ( PCT_PRIVIL EGED_TIME )	プロセスが特権モードで プロセッサを使用した経 過時間の割合 ( % )。マ ルチプロセッサ環境で は、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした 使用率が表示される。	-	doubl e	No	-	-
Program Name ( INSTANCE )	プログラム名。	-	string (257)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「APS」。	-	char( 8)	No	-	-
Start time ( START_TIM E )	プロセスの開始時刻。	-	time_ t	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Thread Count ( THREAD_C OUNT )	プロセス内のスレッド ( 命令を実行する単位 ) の数。プロセスを実行す ると最低一つのスレッド が起動される。	-	ulong	No	-	-
User ( USER_NAM E )	プロセスを実行したユー ザー名。 プロセスのセキュリティ ID に対応するユーザー 名が見つからない場合は 「NONE_MAPPED」、プ ロセス ID から実行ユー ザー名が取得できない場 合は「Unknown」が格 納される。	-	string (36)	No	-	-
User CPU % ( PCT_USER_ TIME )	プロセスがユーザーモー ドでプロセッサを使用し た経過時間の割合 ( % )。 マルチプロセッサ環境で は、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした 使用率が表示される。	-	doubl e	No	-	-
Virtual Kbytes ( VIRTUAL_B YTES )	プロセスが使用している 仮想アドレス空間のサイ ズ ( キロバイト単位 )。	-	doubl e	No	-	-
Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_B YTES_PEAK )	プロセスが使用していた 仮想アドレス空間の最大 サイズ ( キロバイト単 位 )。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes ( WORKING_ SET )	プロセスで使用している メモリー使用量 ( ワーキ ングセットと呼び、メモ リーの総量またはページ フォルトなしに参照でき るメモリー量を示す ) の サイズ ( キロバイト単 位 )。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes Peak ( WORKING_ SET_PEAK )	プロセスで使用していた メモリー使用量 ( ワーキ ングセットと呼び、メモ リーの総量またはページ フォルトなしに参照でき るメモリー量を示す ) の 最大サイズ ( キロバイト 単位 )。	-	doubl e	No	-	-

## Application Service Overview ( PD\_ASVC )

### 機能

Application Service Overview ( PD\_ASVC ) レコードには、サービス制御マネージャー (SCM) に登録されている、Win32 プロセスなどのアプリケーションサービスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードは、リアルタイムレポートだけで使用できます。
- このレコードの履歴レポート表示すると、KAVJS5001-I のエラーが発生します。
- 取得元の情報に ASCII コードの文字 ( 0x20 ~ 0x7E ) 以外が含まれる場合、Service Name ( SERVICE\_NAME ) フィールドおよび Display Name ( DISPLAY\_NAME ) フィールドには、「#(0x23)」に変換された値が格納されます。1 バイト単位で変換されるため、例えば、マルチバイト文字の「A」(全角) は次のように変換されます。

取得元の情報		変換後の情報	
文字コードの種類	バイナリ	バイナリ	文字列
Shift-JIS コード	8260	2360	#`
EUC コード	A3C1	2323	##
UTF-8 コード	EFBCA1	232323	###

- Service Name ( SERVICE\_NAME ) フィールドの値は、サービス制御マネージャー (SCM) でサービスのプロパティを開いたときに、[ サービス名 ] に表示される値に相当します。
- Display Name ( DISPLAY\_NAME ) フィールドの値は、サービス制御マネージャー (SCM) でサービスのプロパティを開いたときに、[ 表示名 ] に表示される値に相当します。
- State ( STATE ) フィールドの値が RUNNING 以外の場合、PID ( ID\_PROCESS ) フィールドの値は 0 となります。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Sync Collection With	Detail Records, APP2	×
Log	No	×
LOGIF	空白	



### ODBC キーフィールド

- PD\_ASVC\_SERVICE\_NAME
- PD\_ASVC\_TYPE

### ライフタイム

サービスのインストールからアンインストールまで。

### レコードサイズ

固定部 : 681 バイト

可変部 : 4854 バイト

## 5. レコード

### Application Service Overview ( PD\_ASVC )

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Accepted Controls ( ACCEPTED _CONTROLS )	<p>サービスが受信するコントロールコード。このフィールドの値は、次の値の一部または全部がリストされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PAUSE_CONTINUE : [一時停止], [再開] することができる。</li> <li>・ SHUTDOWN : OS のシャットダウンがサービスに通知される。</li> <li>・ STOP : [停止] することができる。</li> </ul> <p>データモデルバージョン 4.1 以降は、次の値もリストされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PARAMCHANGE : 再起動せずに [開始パラメータ] の再読み込みができる。</li> <li>・ NETBINDCHANGE : ネットワークから再起動せずにバインドの変更を受け付けることができる。</li> <li>・ HARDWAREPROFILE CHANGE : ハードウェアプロファイルが変更された場合、サービスに通知される。</li> <li>・ POWEREVENT : OS の電源状態が変更された場合、サービスに通知される。</li> <li>・ SESSIONCHANGE : OS のセッション状態が変更された場合、サービスに通知される。</li> </ul>	-	string (128)	No	-	-
Checkpoint ( CHECKPOINT )	<p>スタート、ストップ、または続行の各処理中に、各ステップの完了に従って、その進行状況をレポートするためにサービスが使用するチェックポイントプログレスカウンタ (インクリメント方式)。このような処理がない場合、この値は、<code>「0」</code>。</p>	-	long	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Display Name ( DISPLAY_N AME )	サービスを識別するた めにユーザーインター フェイスプログラムに よって使用される名前。	-	string (257)	No	-	-
Image Path ( IMAGE_PAT H )	サービスのバイナリー ファイルへの完全修飾パ ス。	-	string (4097 )	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」。	-	ulong	No	-	-
PID ( ID_PROCES S )	プロセス ID。	-	ulong	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「ASVC」。	-	char( 8)	No	-	-
Service Exit Code ( SERVICE_E XIT_CODE )	サービス固有の終了コー ド。	-	long	No	-	-
Service Name ( SERVICE_N AME )	サービスコントロールマ ネージャーデータベース で使用されているサービ ス名。	-	string (257)	No	-	-
Service Type ( TYPE )	次の二つのサービスタイ プの一つ。 ・ WIN32_OWN_PROCES S: サービスアプリケー ションがそのアプリケー ション専用のプロセス内 で動作する。 ・ WIN32_SHARE_PRO CESS: サービスアプリ ケーションが一つのプロ セスをほかのサービスと 共有する。 また、サービスがデスク トップと会話することを 示す場合、次のタイプも リストされる。 ・ INTERACTIVE_PRO CESS	-	string (64)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Service Overview ( PD\_ASVC )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
State ( STATE )	<p>データ収集時のサービスの状態。このフィールドの値は、次のどれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CONTINUE_PENDING : [ 一時停止 ] 後の [ 再開 ] ボタンで [ 起動 ] 処理中の状態</li> <li>・ PAUSE_PENDING : [ 一時停止 ] 処理中の状態</li> <li>・ PAUSED : [ 一時停止 ] 状態</li> <li>・ RUNNING : [ 起動 ] 状態</li> <li>・ START_PENDING : [ 起動 ] 処理中の状態</li> <li>・ STOP_PENDING : [ 停止 ] 処理中の状態</li> <li>・ STOPPED : [ 停止 ] 状態</li> </ul>	-	string (31)	No	-	-
Wait Hint ( WAIT_HINT )	<p>サービスがその状態またはチェックポイントを更新するまでに、保留しているスタート、ストップ、または続行の各処理に掛かると予想される時間 ( ミリ秒単位 )</p>	-	ulong	No	-	-
Win32 Exit Code ( WIN32_EXI T_CODE )	Win32 終了コード。	-	long	No	-	-

# Application Summary ( PD\_APP )

## 機能

Application Summary ( PD\_APP ) レコードには、Process Detail ( PD ) に格納されるレコードを、アプリケーションを単位に、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータが格納されます。アプリケーションごとに 1 件のレコードが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

## 注意

アプリケーションの定義を変更するには、PFM - Web Console から設定を変更する必要があります。

## デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Offset	0	×
Log	No	
LOGIF	空白	
Sync Collection With	Detail Records, PD	×

## ODBC キーフィールド

PD\_APP\_APPLICATION\_NAME

## ライフタイム

PFM - Web Console からアプリケーションの稼働監視の設定がされたときから、削除されるまで。

## レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：984 バイト

## フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Application Name ( APPLICATI ON_NAME )	Application monitoring setting に指定された名 前。	-	string (64)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary ( PD\_APP )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Application Status ( APPLICATI ON_STATUS )	すべての Process Range 条件の結果。 NORMAL , ABNORMAL を表示す る。 Process01 Status ~ Process15 Status に空白 が表示されている場合 , 空白は無視する。 NORMAL : Process01 Status ~ Process15 Status の結果がすべて NORMAL。 ABNORMAL : Process01 Status ~ Process15 Status の結果 のうちどれかが ABNORMAL。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Application Exist ( APPLICATI ON_EXIST )	すべての Process Range 条件の結果。 NORMAL , ABNORMAL を表示す る。 Process01 Status ~ Process15 Status に空白 が表示されている場合 , 空白は無視する。 NORMAL : Process01 Status ~ Process15 Status の結果のうちど れかが NORMAL。 ABNORMAL : Process01 Status ~ Process15 Status の結果 がすべて ABNORMAL。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	Application Summary ( PD_APP ) レコードが 格納されたインターバル の秒数。常に「0」。	-	ulong	No	-	-
Process01 Count ( PROCESS01 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process01 Kind ( PROCESS01 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process01 Name ( PROCESS01 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process01 Range ( PROCESS01 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値 - 上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process01 Status ( PROCESS01 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process02 Count ( PROCESS02 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process02 Kind ( PROCESS02 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process02 Name ( PROCESS02 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process02 Range ( PROCESS02 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値 - 上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process02 Status ( PROCESS02 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process03 Count ( PROCESS03 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary ( PD\_APP )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process03 Kind ( PROCESS03 _KIND )	条件に指定した種別を表示。	-	string (4)	No	-	-
Process03 Name ( PROCESS03 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process03 Range ( PROCESS03 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process03 Status ( PROCESS03 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process04 Count ( PROCESS04 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process04 Kind ( PROCESS04 _KIND )	条件に指定した種別を表示。	-	string (4)	No	-	-
Process04 Name ( PROCESS04 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process04 Range ( PROCESS04 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process04 Status ( PROCESS04 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process05 Count ( PROCESS05 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process05 Kind ( PROCESS05 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process05 Name ( PROCESS05 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process05 Range ( PROCESS05 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process05 Status ( PROCESS05 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process06 Count ( PROCESS06 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process06 Kind ( PROCESS06 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process06 Name ( PROCESS06 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process06 Range ( PROCESS06 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary ( PD\_APP )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Process06 Status ( PROCESS06 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process07 Count ( PROCESS07 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process07 Kind ( PROCESS07 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process07 Name ( PROCESS07 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process07 Range ( PROCESS07 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値 - 上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process07 Status ( PROCESS07 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process08 Count ( PROCESS08 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process08 Kind ( PROCESS08 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process08 Name ( PROCESS08 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process08 Range ( PROCESS08 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process08 Status ( PROCESS08 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process09 Count ( PROCESS09 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process09 Kind ( PROCESS09 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process09 Name ( PROCESS09 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process09 Range ( PROCESS09 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process09 Status ( PROCESS09 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process10 Count ( PROCESS10 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process10 Kind ( PROCESS10 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary ( PD\_APP )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Process10 Name ( PROCESS10 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process10 Range ( PROCESS10 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process10 Status ( PROCESS10 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process11 Count ( PROCESS11 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process11 Kind ( PROCESS11 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process11 Name ( PROCESS11 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process11 Range ( PROCESS11 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process11 Status ( PROCESS11 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process12 Count ( PROCESS12 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process12 Kind ( PROCESS12 _KIND )	条件に指定した種別を表示。	-	string (4)	No	-	-
Process12 Name ( PROCESS12 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process12 Range ( PROCESS12 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process12 Status ( PROCESS12 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process13 Count ( PROCESS13 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process13 Kind ( PROCESS13 _KIND )	条件に指定した種別を表示。	-	string (4)	No	-	-
Process13 Name ( PROCESS13 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process13 Range ( PROCESS13 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process13 Status ( PROCESS13 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary ( PD\_APP )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Process14 Count ( PROCESS14 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process14 Kind ( PROCESS14 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process14 Name ( PROCESS14 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process14 Range ( PROCESS14 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-
Process14 Status ( PROCESS14 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Process15 Count ( PROCESS15 _COUNT )	稼働中の該当プロセス 数。	-	word	No	-	-
Process15 Kind ( PROCESS15 _KIND )	条件に指定した種別を表 示。	-	string (4)	No	-	-
Process15 Name ( PROCESS15 _NAME )	プロセス名称。	-	string (32)	No	-	-
Process15 Range ( PROCESS15 _RANGE )	各プロセスの範囲条件。 「下限値・上限値」で表 す。	-	string (12)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Process15 Status ( PROCESS15 _STATUS )	各プロセス単位の Process Range 条件結 果。NORMAL , ABNORMAL , 空白のど れかを表示する。 NORMAL : 問題なし。 ABNORMAL : 異常あ り。 空白 : 未設定。	-	string (10)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「APP」。	-	char( 8)	No	-	-

## Application Summary Extension ( PD\_APP2 )

---

### 機能

Application Summary Extension ( PD\_APP2 ) レコードには、Application Process Overview ( PD\_APS ) レコードおよび Application Service Overview ( PD\_ASVC ) レコードに格納されるレコードを、アプリケーションを単位に、ある時点での状態で要約したパフォーマンスデータが格納されます。アプリケーションごとに 1 件のレコードが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

アプリケーションの定義を変更するには、PFM - Web Console から設定を変更する必要があります。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PD\_APP2\_APPLICATION\_NAME

### ライフタイム

PFM - Web Console でアプリケーション定義が追加されたときから、削除されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：104 バイト



## フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Application Exist ( EXIST )	プロセス監視の設定で指定されたアプリケーションの状態。NORMAL, ABNORMAL を表示する。 アプリケーションの状態は, 監視対象に指定した監視対象の状態を基にして得られた結果。 監視対象の状態を確認するには, PD_APPD レコードで表示されている Monitoring Status を参照する。 NORMAL: 監視対象のうちのどれかの状態が NORMAL。 ABNORMAL: 監視対象の状態がすべて ABNORMAL。	-	string (10)	No	-	-
Application Name ( APPLICATI ON_NAME )	プロセス監視の設定で指定された名前。	-	string (64)	No	-	-
Application Status ( STATUS )	プロセス監視の設定で指定されたアプリケーションの状態。NORMAL, ABNORMAL を表示する。 アプリケーションの状態は, 監視対象に指定した監視対象の状態を基にして得られた結果。 監視対象の状態を確認するには, PD_APPD レコードで表示されている Monitoring Status を参照する。 NORMAL: 監視対象の状態がすべて NORMAL。 ABNORMAL: 監視対象のうちのどれかの状態が ABNORMAL。	-	string (10)	No	-	-
Case Sensitive ( CASE_SENS ITIVE )	大文字と小文字の区別。 Yes: 区別する。 No: 区別しない。	-	string (4)	No	-	-

## 5. レコード

### Application Summary Extension ( PD\_APP2 )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Interval ( INTERVAL )	Application Summary Extension(PD_APP2) レ コードが格納されたイン ターバルの秒数。常に 「0」。	-	ulong	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「APP2」。	-	char( 8)	No	-	-

## Browser Overview ( PI\_BRSR )

### 機能

Browser Overview ( PI\_BRSR ) レコードには、Windows Browser サービスについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### 注意

OS が提供する Computer Browser サービス ( サービス名 : Browser ) が停止している場合、このレコードは収集できません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部 : 1,001 バイト

可変部 : 0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Announcements Domain/sec ( ANNOUNCEMENTS_DOMAIN_PER_SEC )	ドメインがドメイン自体をネットワークに通知した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Browser Overview (PI\_BRSR)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Announcements Server/sec ( ANNOUNCEMENTS_SERVER_PER_SECOND )	ドメインのサーバがサーバ自体をサーバに通知した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Announcements Total/sec ( ANNOUNCEMENTS_TOTAL_PER_SEC )	Announcements Server/sec フィールドと Announcements Domain/sec フィールドの合計値 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Duplicate Master Announcements ( DUPLICATE_MASTER_ANNOUNCEMENTS )	マスターブラウザが、同一ドメイン上に別のマスターブラウザを検出した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Election Pkts/sec ( ELECTION_PACKETS_PER_SEC )	ワークステーションが、ブラウザエлекションパケットを受信した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Enumerations Domain/sec ( ENUMERATIONS_DOMAIN_PER_SEC )	ワークステーションが、ドメイン参照要求を処理した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Enumerations Other/sec ( ENUMERATIONS_OTHER_PER_SEC )	ワークステーションが、ドメインまたはサーバ以外の参照要求を処理した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Enumerations Server/sec ( ENUMERATIONS_SERVER_PER_SEC )	ワークステーションがサーバ参照要求を処理した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	デー タソ ース
Enumerations Total/sec ( ENUMERAT IONS_TOTAL_ PER_SEC )	ワークステーションが参 照要求を処理した割合 ( /秒 )。 Enumerations Server/ sec フィールド , Enumerations Domain/ sec フィールド , および Enumerations Other/ sec フィールドの合計 値。	AVG	float	No	-	-
Illegal Datagrams/sec ( ILLEGAL_D ATAGRAMS_P ER_SEC )	ワークステーションが不正なフォーマットのデー タグラムを受信した割合 ( /秒 )。	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合 , 最初の値は「 5 」。 履歴レポートで要約した 場合 , 要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Mailslot Allocations Failed ( MAILSLLOT_ ALLOCATION S_FAILED )	データグラムレシーバー がキューザーメールスロッ ト書き込みを保管するた めのバッファの割り当て に失敗した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Mailslot Opens Failed/sec ( MAILSLLOT_ OPENS_FAIL ED_PER_SEC )	ワークステーションが , ほかのワークステーショ ンのメールスロットに配 信するメールスロット メッセージを受信した割 合 ( /秒 ) 。	AVG	float	No	-	-
Mailslot Receives Failed ( MAILSLLOT_ RECEIVES_F AILED )	トランスポート障害のた めに受信できなかった メールスロットメッセー ジ数。	AVG	ulong	No	-	-
Mailslot Writes Failed ( MAILSLLOT_ WRITES_FAIL ED )	正常に受信したが , メール スロットに書き込めな かったメールスロット メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### Browser Overview (PI\_BRSR)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Mailslot Writes/sec ( MAILSLOT_ WRITES_PER _SEC )	メールスロットメッセ ージを正常に受信した割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Missed Mailslot Datagrams ( MISSED_M AILSLOT_DAT AGRAMS )	構成または割り当て制限 のために廃棄されたメール スロットデータグラム 数。	AVG	ulong	No	-	-
Missed Server Announcement s ( MISSED_SE RVER_ANNO UNCEMENTS )	構成または割り当て制限 のために失われたサーバ 通知数。	AVG	ulong	No	-	-
Missed Server List Reqs ( MISSED_SE RVER_LIST_R EQUESTS )	ブラウザサーバのリス トを取り出す要求のう ち、ワークステーション が受信したが処理できな かった要求数。	AVG	ulong	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「BRSR」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Server Announce Allocs Failed/ sec ( SERVER_A NNOUNCE_A LLOC_FAIL_P ER_SEC )	メモリー不足のために、 サーバ通知またはドメイ ン通知が失敗した割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Server List Reqs/sec ( SERVER_LI ST_REQUEST S_PER_SEC )	ブラウザサーバのリス トを取り出す要求をワー クステーションが処理し た割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

## Device Detail ( PD\_DEV )

### 機能

Device Detail ( PD\_DEV ) レコードには、ファイルシステムドライバおよびカーネルドライバのデバイスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_DEV\_DEVICE\_NAME
- PD\_DEV\_DEVICE\_TYPE

### ライフタイム

デバイスドライバのインストールからアンインストールまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：2,392 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Active ( ACTIVE )	データ収集時にデバイスがアクティブだったかどうかを示す。 有効な値は次のとおり。 ・ YES ・ NO	-	string (8)	No	-	-
Depend Group Name ( DEPEND_G ROUP_NAME )	デバイスをロードする前にロードしておく必要があるグループ名のリスト。ロードしておく必要がない場合、空白で表示される。	-	string (256)	No	-	-

## 5. レコード

### Device Detail ( PD\_DEV )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Depend Service Name ( DEPEND_S ERVICE_NAM E )	デバイスをロードする前にロードしておく必要のあるサービス名のリスト。ロードしておく必要がない場合、空白で表示される。	-	string (256)	No	-	-
Device Name ( DEVICE_NA ME )	デバイス名。ユーザーインターフェースプログラムがデバイスを識別するために使う名前。	-	string (256)	No	-	-
Device Type ( DEVICE_TY PE )	次の二つのデバイスドライバサービスタイプの一つ。 ・ FILE_SYSTEM_DRIVE R : ファイルシステムのデバイスドライバサービス ・ KERNEL_DRIVER : カーネルのデバイスドライバサービス	-	string (36)	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Error Control ( ERROR_CO NTROL )	<p>デバイスサービス起動時に失敗した場合のエラー深刻度。有効な値は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CRITICAL : 可能な場合、開始プログラムはエラーをログに記録する。直前に利用した正常な構成を使って開始操作を行っている場合、失敗する。それ以外の場合、直前に利用した正常な構成を使ってシステムを再起動する。</li> <li>・ IGNORE : 開始プログラムはエラーをログに記録して開始操作を続行する。</li> <li>・ NORMAL : 開始プログラムはエラーをログに記録、およびメッセージボックスをポップアップ表示して開始操作を続行する。</li> <li>・ SEVERE : 開始プログラムはエラーをログに記録する。直前に利用した正常な構成を使って開始操作を行っている場合、開始操作を続行する。それ以外の場合、直前に利用した正常な構成を使ってシステムを再起動する。</li> </ul>	-	string (16)	No	-	-
Group Name ( GROUP_NA ME )	レジストリーに登録されているロード順序を決定するグループリストのうち、このデバイスが所属しているグループ名。どのグループにも所属していない場合、空白で表示される。	-	string (256)	No	-	-
Image Path ( IMAGE_PAT H )	<p>デバイスのイメージパス名。 起動していないデバイスの場合、空白で表示される。 イメージパス名が取得できない場合(レジストリ情報なし)は空白で表示される。</p>	-	string (1024 )	No	-	-

## 5. レコード

### Device Detail ( PD\_DEV )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Interval ( INTERVAL )	常に「0」。	-	ulong	No	-	-
Object Name ( OBJECT_N AME )	システムがデバイスドライバをロードするために使用するオブジェクト名。I/O システムが作成した既定のオブジェクト名をドライバ名として使うことを予定している場合、この値は空白で表示される。	-	string (256)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「DEV」。	-	char( 8)	No	-	-
Start Constant ( START_CON STANT )	デバイスの開始値。値は次のとおり。 ・ AUTO : システム起動時に自動的に開始する。 ・ BOOT : システムローダーが開始する。 ・ DISABLED : 開始できないデバイスサービス。 ・ DEMAND : プロセスが StartService 関数 (API) を呼び出したときに SCM が開始する。 ・ SYSTEM : IoInitSystem 関数 (API) が開始する。	-	string (24)	No	-	-
Tag ( TAG )	レジストリーにタグ順次ベクターが指定されていた場合、Group Name フィールドによって指定されたグループ内でのロード順序。デバイスに関するタグが指定されていなかった場合、この値は「0」。	-	long	No	-	-

## Event Log ( PD\_ELOG )

---

### 機能

Event Log ( PD\_ELOG ) レコードには、次のある時点でのアプリケーション、システム、およびセキュリティについてのイベントログデータが格納されます。

- 各イベントログの時刻
- イベントソース
- イベントの種類
- イベント ID
- イベントの説明

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードは、イベントログの監視を開始してからの増分を収集します。履歴レポートの場合、最初に格納されるデータは、設定した収集間隔の最大 2 倍の時間が掛かります。リアルタイムレポートの場合、2 回目以降に収集されます。
- このレコードの収集間隔内に大量のイベントログが記録された場合、ほかのレコード収集が遅延したり、タイムアウトになったりすることがあります。このレコードを収集する場合、収集間隔 10 秒に対するイベントログの増分が「1,000 件 / 同時に表示するレポート数」以下となるように、収集間隔を設定してください。
- このレコードは、Agent Collector サービス起動後に、レコード収集している時間帯に発生したイベントログだけを収集します。このため、OS の起動・停止時、Performance Management の起動・停止時、およびこのレコード収集の起動・停止時に発生したイベントログは収集できません。
- このレコードは、イベントログの記録内容を収集するレコードであり、アラームで異常または警告を検知したあと、正常に戻ったことを自動的に判断する運用には不向きです。このため、[ 常にアラーム通知する ] を指定するなど、異常または警告の条件を満たした場合に、必ずアラームイベントを通知するような設定が推奨されます。
- Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 で、このレコードを収集する場合、64bit アプリケーションから出力されたイベントログでは、次のフィールドの値は、64bit 版イベントビューア ([ 管理ツール ] - [ イベントビューア ] を実行) で表示される内容と異なることがあります。
  - Description フィールドは、メッセージ KAVF11405-W の内容で出力されます。
  - Event Category フィールドは、「( イベントカテゴリ ID )」で出力されます。
- 収集データ追加ユーティリティでイベントログの収集対象を設定することができます。
- レコード収集中に、収集対象外のイベントログを収集対象に変更した場合、前回の収集時間から発生したイベントログを収集します。

## 5. レコード

Event Log ( PD\_ELOG )

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_ELOG\_EVENT\_ID
- PD\_ELOG\_SOURCE\_NAME
- PD\_ELOG\_TIME\_GENERATED

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部 : 677 バイト

可変部 : 944 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Computer Name ( COMPUTER _NAME )	イベントを生成したコン ピュータ名。	-	string (36)	No	-	-
Description ( DESCRIPTI ON )	イベントログの説明。	-	string (512)	No	-	-
Event Category ( EVENT_CA TEGORY )	イベントのソース固有の サブカテゴリー。	-	string (36)	No	-	-
Event ID ( EVENT_ID )	イベント ID。	-	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Event Type ID ( EVENT_TY PE_ID )	イベントタイプの識別名。このフィールドの値は、次のどれか。 1 : Error 2 : Warning 4 : Information 8 : Success Audit 16 : Failure Audit ( Windows Server 2008 の場合、OS の Event Type ID と本フィールドの Event Type ID では値が異なります )	-	ulong	No	-	-
Event Type Name ( EVENT_TY PE_NAME )	イベントタイプ。このフィールドの値は、次のどれか。  OS が Windows 2003 以前の場合。 ・ Error ・ Warning ・ Information ・ Success Audit ・ Failure Audit  OS が Windows Server 2008 の場合。 ・ エラー ・ 警告 ・ 情報 ・ 成功の監査 ・ 失敗の監査	-	string (26)	No	-	-
Log Name ( LOG_NAME )	イベントログの種類。このフィールドの値は、次のどれか。 ・ Application : アプリケーション ・ Security : セキュリティ ・ System : システム また、カスタムイベントログ名も表示される。	-	string (26)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「ELOG」。	-	char( 8)	No	-	-

## 5. レコード

### Event Log ( PD\_ELOG )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Source Name ( SOURCE_N AME )	エントリーを生成した ソース名 ( アプリケー ション, サービス, ドラ イバ, またはサブシステ ム )	-	string (256)	No	-	-
Time Generated ( TIME_GEN ERATED )	イベントエントリーがサ ブミットされた時刻。	-	time_ t	No	-	-
User Name ( USER_NAM E )	イベント記録時にアク ティブだったユーザー 名。	-	string (36)	No	-	-
User Sid ( USER_SID )	イベント記録時にアク ティブだったユーザーの セキュリティ ID の種 類。 このフィールドの値は次 のどれか。 1: ユーザー 2: グループ 3: ドメイン 4: エイリアス 5: 既知のグループ 6: 削除されたアカウン ト 7: 無効 8: 不明な種類 9: コンピュータ 0: 情報なし	-	ulong	No	-	-

## Generic Data Detail ( PD\_GEND )

---

### 機能

Generic Data Detail ( PD\_GEND ) レコードは、ユーザーが定義した、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されるユーザーレコードです。収集したいオブジェクトのすべてのパフォーマンスデータを格納するのではなく、特定のパフォーマンスデータだけを格納できるため、オーバーヘッドとディスク領域を節約できます。

パフォーマンスデータの種類に応じて、次の二つのフィールドのどれか一つにデータが格納されます。

- Double ( DOUBLE\_DATA )
- String Data ( STRING\_DATA )

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- 収集データ追加ユーティリティで設定した収集対象のインスタンスが存在しない場合、Data Type ( DATA\_TYPE ) フィールドの値が空白で、パフォーマンスデータが設定されないレコードが作成されます。
- このレコードは、同じインスタンス名のインスタンスが、頻繁に消滅、生成するようなインスタンスのパフォーマンスデータの収集には向いていません。収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定したインスタンスのうち、同一のデータ収集間隔内で、同じインスタンス名のインスタンスが消滅、生成した場合、別々のインスタンスを同じインスタンスとして扱うため、パフォーマンスデータが正しく収集されません。
- 収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定するインスタンスには、同じインスタンス名のインスタンスが、複数同時に存在できるインスタンスを設定しないでください。

収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定したインスタンスに、同じインスタンス名のインスタンスが複数存在する状態 ( Generic Data Detail ( PD\_GEND ) レコードの Instance ( INSTANCE ) フィールドに「#n」が付加される状態) で、その中の一つ以上のインスタンスが消滅した場合、継続して動作している同名のインスタンスのパフォーマンスデータが不正になることがあります。

また、同じインスタンス名のインスタンスが新たに生成された場合も、継続して動作している同名のインスタンスのパフォーマンスデータが不正になることがあります。

- 収集インターバル中に収集データ追加ユーティリティで収集レコードを追加した場合、前回収集した情報から性能値を算出するレコードの最初の性能値は、「0」で表示されます。
- Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 環境で、ユーザーレコードを設定する場合、WOW64 をサポートしていないオブジェクトは、

## 5. レコード

### Generic Data Detail ( PD\_GEND )

収集データ追加ユーティリティの [ PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定 ] ダイアログボックスに表示されません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_GEND\_INSTANCE
- PD\_GEND\_COUNTER\_NAME
- PD\_GEND\_OBJECT\_NAME

### ライフタイム

収集データ追加ユーティリティでレコード追加からレコード削除まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：1,052 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Counter Name ( COUNTER_ NAME )	カウンタ名。	-	string (256)	No	-	パフォーマンス コンソールのカ ウンタ名
Data Type ( DATA_TYPE )	レコードに蓄積された データの種類。正常値は 次のとおり。 ・DOUBLE ・STRING	-	string (12)	No	-	-
Double ( DOUBLE_D ATA )	実数型または整数型で表 示される値。	-	doubl e	No	-	-
Float ( FLOAT_DAT A )	常に「0」。	-	float	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Instance ( INSTANCE )	インスタンス名。 シングルインスタンスの オブジェクトの場合、空 白で表示される。	-	string (256)	No	-	パフォーマンス コンソールのイ ンスタンス名
Integer ( INTEGER_D ATA )	常に「0」。	-	long	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。	-	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Object Name ( OBJECT_N AME )	オブジェクト名。	-	string (256)	No	-	パフォーマンス コンソールのオ ブジェクト名
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。デフォルト のレコード名は 「GEND」。	-	char( 8)	No	-	-
String Data ( STRING_DA TA )	整数型の値を 16 進数 (0x) 形式で文字列表示す る。	-	string (256)	No	-	-

## Generic Data Interval ( PI\_GENI )

---

### 機能

Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコードは、ユーザーが定義した、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されるユーザーレコードです。収集したいオブジェクトのすべてのパフォーマンスデータを格納するのではなく、特定のパフォーマンスデータだけを格納できるため、オーバーヘッドとディスク領域を節約できます。

パフォーマンスデータの種類に応じて、次の二つのフィールドのどれか一つにデータが格納されます。

- Double ( DOUBLE\_DATA )
- String Data ( STRING\_DATA )

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- 収集データ追加ユーティリティで設定した収集対象のインスタンスが存在しない場合、Data Type ( DATA\_TYPE ) フィールドの値が空白で、パフォーマンスデータが設定されないレコードが作成されます。
- このレコードは、同じインスタンス名のインスタンスが、頻繁に消滅、生成するようなインスタンスのパフォーマンスデータの収集には向いていません。収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定したインスタンスのうち、同一のデータ収集間隔内で、同じインスタンス名のインスタンスが消滅、生成した場合、別々のインスタンスを同じインスタンスとして扱うため、パフォーマンスデータが正しく収集されません。
- 収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定するインスタンスには、同じインスタンス名のインスタンスが、複数同時に存在できるインスタンスを設定しないでください。  
収集データ追加ユーティリティで収集対象に設定したインスタンスに、同じインスタンス名のインスタンスが複数存在する状態 ( Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコードの Instance ( INSTANCE ) フィールドに「#n」が付加される状態) で、その中の一つ以上のインスタンスが消滅した場合、継続して動作している同名のインスタンスのパフォーマンスデータが不正になることがあります。また、同じインスタンス名のインスタンスが新たに生成された場合も、継続して動作している同名のインスタンスのパフォーマンスデータが不正になることがあります。
- 収集インターバル中に収集データ追加ユーティリティで収集レコードを追加した場合、前回収集した情報から性能値を算出するレコードの最初の性能値は、「0」で表示されます。
- Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 環境で、ユーザーレコードを設定する場合、WOW64 をサポートしていないオブジェクトは、収集データ追加ユーティリティの [ PI\_GENI ・ PD\_GEND レコードの設定 ] ダイ

アログボックスに表示されません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PI\_GENI\_INSTANCE
- PI\_GENI\_COUNTER\_NAME
- PI\_GENI\_OBJECT\_NAME

### ライフタイム

収集データ追加ユーティリティでレコード追加からレコード削除まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：1,092 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Counter Name ( COUNTER_ NAME )	カウンタ名。	COP Y	string (256)	No	-	パ フ ォ ー マ ン ス コ ン ソ ー ル の カ ウ ン タ 名
Data Type ( DATA_TYPE )	レコードに蓄積された データの種類。正常値は 次のとおり。 ・DOUBLE ・STRING	COP Y	string (12)	No	-	-
Double ( DOUBLE_D ATA )	実数型または整数型で表 示される値。	AVG	doubl e	No	-	-
Float ( FLOAT_DAT A )	常に「0」。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Generic Data Interval ( PI\_GENI )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Instance ( INSTANCE )	インスタンス名。 シングルインスタンスの オブジェクトの場合、空 白で表示される。	COP Y	string (256)	No	-	パフォーマンス コンソールのイ ンスタンス名
Integer ( INTEGER_D ATA )	常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Object Name ( OBJECT_N AME )	オブジェクト名。	COP Y	string (256)	No	-	パフォーマンス コンソールのオ ブジェクト名
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。デフォルト のレコード名は 「GENI」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
String Data ( STRING_DA TA )	整数型の値を 16 進数 (0x) 形式で文字列表示 する。	COP Y	string (256)	No	-	-

## ICMP Overview (PI\_ICMP)

### 機能

ICMP Overview (PI\_ICMP) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 4 の ICMP プロトコルを使用しているシステムによって送受信された ICMP メッセージ数の割合、および ICMP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：1,113 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)

## 5. レコード

### ICMP Overview (PI\_ICMP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Messages Outbound Errors ( MESSAGES _OUTBOUND_ ERRORS )	OS 起動後に、バッファ の不足など ICMP 内で 検出された問題のため に、送信されなかった ICMP メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Messages Rcvd Errors ( MESSAGES _RECEIVED_ ERRORS )	OS 起動後に、受信した が、エラーがあると判定 された ICMP メッセー ジ数。	AVG	ulong	No	-	-
Messages Rcvd/sec ( MESSAGES _RECEIVED_ PER_SEC )	受信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、受信 時にエラーになったメッ セージも含む。	AVG	float	No	-	-
Messages Sent/ sec ( MESSAGES _SENT_PER_S EC )	送信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、送信 時にエラーになったメッ セージも含む。	AVG	float	No	-	-
Messages/sec ( MESSAGES _PER_SEC )	送受信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、送受 信時にエラーになった メッセージも含む。	AVG	float	No	-	-
Rcvd Address Mask ( RECEIVED_ ADDRESS_MA SK )	OS 起動後に、受信した ICMP アドレスマスク要 求メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Address Mask Reply ( RECEIVED_ ADDRESS_MA SK_REPLY )	OS 起動後に、受信した ICMP アドレスマスク応 答メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Destination Unreachable ( RECEIVED_ DEST_UNREA CHABLE )	OS 起動後に、受信した ICMP 送信先到達不能 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Echo Reply/sec ( RECEIVED_ ECHO_REPLY _PER_SEC )	受信した ICMP エコー 応答メッセージ数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Rcvd Echo/sec ( RECEIVED_ ECHO_PER_S EC )	受信した ICMP エコー メッセージ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Rcvd Parameter Problem ( RECEIVED_ PARAMETER_ PROBLEM )	OS 起動後に、受信した ICMP パラメーター障害 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Redirect/ sec ( RECEIVED_ REDIRECT_P ER_SEC )	受信した ICMP リダイ レクトメッセージ数の割 合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Rcvd Source Quench ( RECEIVED_ SOURCE_QU ENCH )	OS 起動後に、受信した ICMP 発信元抑制メッ セージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Time Exceeded ( RECEIVED_ TIME_EXCEE DED )	OS 起動後に、受信した ICMP 時間超過メッセー ジ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Timestamp Reply/sec ( RECEIVED_ TIMESTAMP_ REPLY_PER_S EC )	受信した ICMP タイム スタンプ応答メッセー ジ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Rcvd Timestamp/sec ( RECEIVED_ TIMESTAMP_ PER_SEC )	受信した ICMP タイム スタンプ要求メッセー ジ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「ICMP」。	COP Y	char( 8)	No	-	-

## 5. レコード

### ICMP Overview (PI\_ICMP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Sent Address Mask ( SENT_ADD RESS_MASK )	OS 起動後に、送信した ICMP アドレスマスク要 求メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Address Mask Reply ( SENT_ADD RESS_MASK_ REPLY )	OS 起動後に、送信した ICMP アドレスマスク応 答メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Destination Unreachable ( SENT_DEST INATION_UN REACHABLE )	OS 起動後に、送信した ICMP 送信先到達不能 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Echo Reply/sec ( SENT_ECH O_REPLY_P ER_SEC )	送信した ICMP エコー 応答メッセージ数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Sent Echo/sec ( SENT_ECH O_PER_SEC )	送信した ICMP エコー メッセージ数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Sent Parameter Problem ( SENT_PARA METER_PROB LEM )	OS 起動後に、送信した ICMP パラメーター障害 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Redirect/ sec ( SENT_RED IRECT_PER SEC )	送信した ICMP リダイ レクトメッセージ数の割 合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Sent Source Quench ( SENT_SO URCE_QUENC H )	OS 起動後に、送信した ICMP 発信元抑制メッ セージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Time Exceeded ( SENT_T IME_ EXCEEDED )	OS 起動後に、送信した ICMP 時間超過メッセ ージ数。	AVG	ulong	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Sent Timestamp Reply/sec ( SENT_TIME STAMP_REPL Y_PER_SEC )	送信した ICMP タイム スタンプ応答メッセー ジの割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sent Timestamp/sec ( SENT_TIME STAMP_PER_ SEC )	送信した ICMP タイム スタンプ要求メッセー ジの割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## ICMP Version 6 Overview (PI\_ICM6)

### 機能

ICMP Version 6 Overview (PI\_ICM6) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 6 の ICMP プロトコルを使用しているシステムによって送受信された ICMP メッセージ数の割合、および ICMP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：1,209 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 (PFM-Manager 名)	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Interval (INTERVAL)	レコードが格納された収集間隔の時間 (秒単位)。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Messages Outbound Errors ( MESSAGES _OUTBOUND_ ERRORS )	OS 起動後に、バッファ の不足など ICMP 内で 検出された問題のため に、送信されなかった ICMP メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Messages Rcvd Errors ( MESSAGES _RECEIVED_ ERRORS )	OS 起動後に、受信した が、エラーがあると判定 された ICMP メッセー ジ数。	AVG	ulong	No	-	-
Messages Rcvd/sec ( MESSAGES _RECEIVED_ PER_SEC )	受信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、受信 時にエラーになったメッ セージも含む。	AVG	float	No	-	-
Messages Sent/ sec ( MESSAGES _SENT_PER_S EC )	送信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、送信 時にエラーになったメッ セージも含む。	AVG	float	No	-	-
Messages/sec ( MESSAGES _PER_SEC )	送受信した ICMP メッ セージ数の割合 ( / 秒 )。 このフィールドは、送受 信時にエラーになった メッセージも含む。	AVG	float	No	-	-
Rcvd Destination Unreachable ( RECEIVED_ DEST_UNREA CHABLE )	OS 起動後に、受信した ICMP 送信先到達不能 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Echo Reply/sec ( RECEIVED_ ECHO_REPLY _PER_SEC )	受信した ICMP エコー 応答メッセージ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Rcvd Echo/sec ( RECEIVED_ ECHO_PER_S EC )	受信した ICMP エコー メッセージ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Rcvd Membership Query ( RECEIVED_ MEMBERSHI P_QUERY )	グループにメンバーシッ プの問い合わせを受信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### ICMP Version 6 Overview (PI\_ICM6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Rcvd Membership Reduction ( RECEIVED_ MEMBERSHI P_REDUCTIO N )	グループにメンバーシ ップのキャンセルを受信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Membership Report ( RECEIVED_ MEMBERSHI P_REPORT )	グループにメンバーシ ップの報告を受信したパ ケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Neighbor Advert ( RECEIVED_ NEIGHBOR_A DVERT )	Neighbor Advertisement (NA) パ ケットを受信したパケッ ト数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Neighbor Solicit ( RECEIVED_ NEIGHBOR_S OLICIT )	Neighbor Solicitation (NS) パケットを受信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Packet Too Big ( RECEIVED_ PACKET_TOO _BIG )	予想より大きいサイズで 受信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Parameter Problem ( RECEIVED_ PARAMETER_ PROBLEM )	OS 起動後に、受信した ICMP パラメーター障害 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Redirect/ sec ( RECEIVED_ REDIRECT_P ER_SEC )	受信した ICMP リダイ レクトメッセージ数の割 合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Rcvd Router Advert ( RECEIVED_ ROUTER_ADV ERT )	ルーターの宣言を受信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Rcvd Router Solicit ( RECEIVED_ ROUTER_SOL ICIT )	ルーターの要求を受信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Rcvd Time Exceeded ( RECEIVED_ TIME_EXCEE DED )	OS 起動後に、受信した ICMP 時間超過メッセー ジ数。	AVG	ulong	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「ICM6」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Sent Destination Unreachable ( SENT_DEST INATION_UN REACHABLE )	OS 起動後に、送信した ICMP 送信先到達不能 メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Echo Reply/sec ( SENT_ECH O_REPLY_PE R_SEC )	送信した ICMP エコー 応答メッセージ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sent Echo/sec ( SENT_ECH O_PER_SEC )	送信した ICMP エコー メッセージ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sent Membership Query ( SENT_MEM BERSHIP_QU ERY )	グループにメンバーシッ プの問い合わせを送信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Membership Reduction ( SENT_MEM BERSHIP_RE DUCTION )	グループにメンバーシッ プのキャンセルを送信し たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### ICMP Version 6 Overview (PI\_ICM6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Sent Membership Report ( SENT_MEMBERSHIP_REPORT )	グループにメンバーシップの報告を送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Neighbor Advert ( SENT_NEIGHBOR_ADVERT )	Neighbor Advertisement (NA) パケットを送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Neighbor Solicit ( SENT_NEIGHBOR_SOLICIT )	Neighbor Solicitation (NS) パケットを送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Packet Too Big ( SENT_PACKET_TOO_BIG )	予想より大きいサイズで送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Parameter Problem ( SENT_PARAMETER_PROBLEM )	OS 起動後に、送信した ICMP パラメーター障害メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Redirect/sec ( SENT_REDIRECT_PER_SEC )	送信した ICMP リダイレクトメッセージ数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Sent Router Advert ( SENT_ROUTER_ADVERT )	ルーターの宣言を送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Router Solicit ( SENT_ROUTER_SOLICIT )	ルーターの請求を送信したパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Sent Time Exceeded ( SENT_TIME_EXCEEDED )	OS 起動後に、送信した ICMP 時間超過メッセージ数。	AVG	ulong	No	-	-

## IP Overview (PI\_IP)

### 機能

IP Overview (PI\_IP) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 4 の IP プロトコルを使用して IP データグラムが送受信された割合、および IP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：953 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams Forwarded/sec ( DATAGRAM S_FORWARDE D_PER_SEC )	最終送信先でなかったため、データグラムを最終送信先へ転送するルートを検索した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Outbound Discarded ( DATAGRAM S_OUTBOUN D_DISCARDE D )	OS 起動後に、宛先への伝送を妨げる問題は検出されなかったが、バッファ領域の不足などが原因で廃棄された送信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### IP Overview (PI\_IP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams Outbound No Route ( DATAGRAM S_OUTBOUN D_NO_ROUTE )	OS 起動後に、宛先に伝送するための経路が検出できなかったために廃棄された送信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Address Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ ADDRESS_ER RORS )	OS 起動後に、IP ヘッダーの宛先フィールドにある IP アドレスがこのシステムで受信されるアドレスとして有効でなかったために破壊された受信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Delivered/sec ( DATAGRAM S_REC_DELIV ERED_PER_S EC )	ICMP などの IP ユーザープロトコルに正常に送信した受信データグラム数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Rcvd Discarded ( DATAGRAM S_REC_DISCA RDED )	処理の継続を妨げる問題はなかったが、バッファ領域の不足などのために廃棄された受信データグラム数 ( OS 起動からの累積値 )	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Header Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ HEADER_ERR ORS )	OS 起動後に、IP ヘッダーのエラーが原因で破壊された受信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Unknown Protocol ( DATAGRAM S_REC_UNKN OWN_PROTO COL )	OS 起動後に、正常に受信したが、不明またはサポートされていないプロトコルのために廃棄されたローカルアドレス指定の受信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd/sec ( DATAGRAM S_RECEIVED_ PER_SEC )	ネットワークインターフェースを介して受信したデータグラム数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Datagrams Sent/sec ( DATAGRAM S_SENT_PER_ SEC )	ネットワークインター フェースを介して送信し たデータグラム数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams/sec ( DATAGRAM S_PER_SEC )	ネットワークインター フェースを介して送受信 されたデータグラム数の 割合 ( / 秒 ) このフィールドは、 Datagrams Rcvd/sec フィールドと Datagrams Sent/sec フィールドの合計値。	AVG	float	No	-	-
Fragment Reassembly Failures ( FRAGMENT _RE_ASSEMB LY_FAILURES )	OS 起動後に、IP の再構 成アルゴリズムが検出し た、タイムアウト、エ ラーなどの失敗数。	AVG	ulong	No	-	-
Fragmentation Failures ( FRAGMENT ATION_FAILU RES )	OS 起動後に、断片化が 必要だったが、「Don't Fragment」フラグが セットされているなど の理由で廃棄されたデー タグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Fragmented Datagrams/sec ( FRAGMENT ED_DATAGRA MS_PER_SEC )	データグラムが正常に断 片化された数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fragments Created/sec ( FRAGMENT S_CREATED_ PER_SEC )	データグラムを断片化し た結果、生成された IP フラグメント数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fragments Rcvd/sec ( FRAGMENT S_RECEIVED_ PER_SEC )	再構築が必要な IP フラ グメントを受信した数の 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### IP Overview (PI\_IP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Fragments Reassembled/ sec ( FRAGMENT S_RE_ASSEM BLED_PER_S EC )	IP フラグメントが正しく再構築された数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)
Record Time ( RECORD_TIME )	レコードが作成された時刻。	COPY	time_t	No	-	-
Record Type ( INPUT_RECORD_TYPE )	レコード名。常に「IP」。	COPY	char(8)	No	-	-

## IP Version 6 Overview ( PI\_IP6 )

### 機能

IP Version 6 Overview ( PI\_IP6 ) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 6 の IP プロトコルを使用して IP データグラムが送受信された割合、および IP の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部 : 953 バイト

可変部 : 0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams Forwarded/sec ( DATAGRAM S_FORWARDE D_PER_SEC )	最終送信先でなかったため、データグラムを最終送信先へ転送するルートを検索した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### IP Version 6 Overview (PI\_IP6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams Outbound Discarded ( DATAGRAM S_OUTBOUN D_DISCARDE D )	OS 起動後に、宛先への 伝送を妨げる問題は検出 されなかったが、バッ ファ領域の不足などが原 因で廃棄された送信デー タグラム数。 この値には、同じ条件の Datagrams Forwarded/ sec の値が含まれる。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Outbound No Route ( DATAGRAM S_OUTBOUN D_NO_ROUTE )	OS 起動後に、宛先に伝 送するための経路が検出 できなかったために廃棄 された送信データグラム 数。 この値には、同じ条件の Datagrams Forwarded/ sec の値が含まれる。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Address Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ ADDRESS_ER RORS )	OS 起動後に、IP ヘッ ダーの宛先フィールドに ある IP アドレスがこの システムで受信されるア ドレスとして有効でな かったために破壊された 受信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Delivered/sec ( DATAGRAM S_REC_DELIV ERED_PER_S EC )	ICMP などの IP ユー ザープロトコルに正常に 送信した受信データグラ ム数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Rcvd Discarded ( DATAGRAM S_REC_DISCA RDED )	処理の継続を妨げる問題 はなかったが、バッファ 領域の不足などのために 廃棄された受信データグ ラム数 ( OS 起動からの 累積値 )	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd Header Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ HEADER_ERR ORS )	OS 起動後に、IP ヘッ ダーのエラーが原因で破 壊された受信データグラ ム数。	AVG	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	デー タソ ース
Datagrams Rcvd Unknown Protocol ( DATAGRAM S_REC_UNKN OWN_PROTO COL )	OS 起動後に、正常に受信したが、不明またはサポートされていないプロトコルのために廃棄されたローカルアドレス指定の受信データグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Datagrams Rcvd/sec ( DATAGRAM S_RECEIVED_ PER_SEC )	エラーを含むネットワークインターフェースを介して受信したデータグラム数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Datagrams Sent/sec ( DATAGRAM S_SENT_PER_ SEC )	ネットワークインターフェースを介して送信した、ICMP を含むローカル IP ユーザプロトコルの割合 ( / 秒 )。 この値に、Datagrams Forwarded/sec は含まれない。	AVG	float	No	-	-
Datagrams/sec ( DATAGRAM S_PER_SEC )	エラーを含むネットワークインターフェースを介して送受信されたデータグラム数の割合 ( / 秒 )。 この値に、Forwarded datagrams は含まれない。	AVG	float	No	-	-
Fragment Reassembly Failures ( FRAGMENT _RE_ASSEMB LY_FAILURES )	OS 起動後に、IP の再構成アルゴリズムが検出した、タイムアウト、エラーなどの失敗数。	AVG	ulong	No	-	-
Fragmentation Failures ( FRAGMENT ATION_FAILU RES )	OS 起動後に、断片化が必要だったが、「Don't Fragment」フラグがセットされているなどの理由で廃棄されたデータグラム数。	AVG	ulong	No	-	-
Fragmented Datagrams/sec ( FRAGMENT ED_DATAGRA MS_PER_SEC )	データグラムが正常に断片化された数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### IP Version 6 Overview (PI\_IP6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Fragments Created/sec ( FRAGMENT S_CREATED_ PER_SEC )	データグラムを断片化した結果、生成された IP フラグメント数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fragments Rcvd/sec ( FRAGMENT S_RECEIVED_ PER_SEC )	再構築が必要な IP フラグメントを受信した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fragments Reassembled/ sec ( FRAGMENT S_RE_ASSEM BLED_PER_S EC )	IP フラグメントが正しく再構築された数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_T IME (T1) - RECORD_T IME (T0)
Record Time ( RECORD_T IME )	レコードが作成された時刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「IP6」。	COP Y	char( 8)	No	-	-

## Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

---

### 機能

Logical Disk Overview (PI\_LOGD) レコードには、ハードディスクドライブまたは固定ディスクドライブの論理パーティションの読み込み、書き込み、転送、および領域についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードは、ハードディスクドライブまたは固定ディスクドライブの性能情報が収集されます。このため、ネットワークディスクなどの性能情報は監視できません。
- このレコードの ID (INSTANCE) フィールドの値が「Harddisk」で始まる文字列で表示されている場合、次のフィールドは正しく収集されません。この現象は、OS がディスクボリュームを正常に認識できない場合に発生します。また、ID (INSTANCE) フィールドの値が「\_Total」の場合、収集したレコードの合計値となるため、正しく収集されません。このため、このフィールドをアラームで監視した場合、不当に異常を通知することがあります。
  - Drive Type (DRIVE\_TYPE) フィールドは、「NO ROOT DIR」と表示されません。
  - Page File Size Mbytes (PAGE\_FILE\_SIZE\_BYTES) フィールド、および Total Size Mbytes (TOTAL\_DISK\_SIZE) フィールドは「0」で表示されます。
- 次のどちらかの状態にある場合に、ディスクボリューム（マウントされているボリュームを含む）を作成、変更または削除する場合は、事前に Agent Collector サービスおよび JP1/PFM - Agent for Platform のサービスを停止してください。
  - このレコードを収集している状態
  - Windows の管理ツールのうち、パフォーマンスコンソールの「システムモニタ」または「パフォーマンス ログと警告」を使用して LogicalDisk オブジェクトのカウンタを監視している状態Agent Collector サービスを再起動しても ID (INSTANCE) フィールドにディスクボリュームが反映されない場合、OS を再起動してください。再起動しないでレコードを収集すると、各項目が正しく収集されません。
- このレコードの ID (INSTANCE) フィールドに対応するディスクボリュームに、セキュリティの設定によってアクセスできない場合、このディスクボリュームのレコードは作成されません。このディスクボリュームのレコードを作成する必要がある場合、SYSTEM ユーザーアカウントがアクセスできるセキュリティ設定をしてください。
- OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス（サービス名：WinMgmt）のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、Page File Size Mbytes フィールドは収集できません。

## 5. レコード

### Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

- このレコードでは、Windows のフォルダマウント機能を使用して作成したマウントポイントごとのディスク使用率は監視できません。

#### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

#### ODBC キーフィールド

PI\_LOGD\_INSTANCE

#### ライフタイム

ディスクドライブの構成から構成変更まで。

#### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：700 バイト

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Disk Read Time ( PCT_DISK_ READ_TIME )	読み込み要求の処理で ディスクがビジーだった 経過時間の割合 ( % )。	%	float	No	-	-
% Disk Time ( PCT_DISK_ TIME )	読み込みまたは書き込み 要求の処理でディスクが ビジーだった経過時間の 割合 ( % )。通常、継続 的に 100% に近い状態の 場合、ディスクが激しく 使用されていることを示 す。	%	float	No	-	-
% Disk Usage ( PCT_DISK_ USAGE )	領域全体に対するディス クの使用率 ( % )。	%	float	No	-	100 - PCT_FREE_S PACE



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Disk Write Time ( PCT_DISK_ WRITE_TIME )	書き込み要求の処理で ディスクがビジー状態 だった経過時間の割合 (%)。	%	float	No	-	-
% Free Space ( PCT_FREE_ SPACE )	使用可能な領域全体に対 するディスクの空き領域 (%)。	%	float	No	-	-
% Idle Time ( PCT_IDLE_ TIME )	ディスクがアイドル状態 だった時間の割合 (%)。	%	float	No	-	-
Available Space Mbytes ( FREE_DISK _SIZE )	Free Mbytes フィールド と同じ値。	AVG	ulong	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Read ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ READ )	読み込み処理中にディス クから転送された平均値 (バイト数 / 処理)。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Write ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ WRITE )	書き込み処理中にディス クから転送された平均値 (バイト数 / 処理)。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Xfer ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ TRANSFER )	書き込み処理中または読 み込み処理中にディス ク間で転送された平均値 (バイト数 / 処理)。通 常、転送サイズが大きい ほどシステムは効率的に 実行されていることを示 す。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Queue Length ( AVG_DISK_ QUEUE_LEN GTH )	ディスクのキューに入っ た読み込みおよび書き込 み要求数の平均値。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Read Queue Length ( AVG_DISK_ READ_QUEUE LENGTH )	ディスクのキューに入っ た読み込み要求数の平均 値。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Avg Disk Secs/ Read ( AVG_DISK_ SEC_PER_RE AD )	ディスクからのデータの 読み込み処理の平均時間 ( 秒単位 )	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Secs/ Write ( AVG_DISK_ SEC_PER_WR ITE )	ディスクへのデータの書 き込み処理の平均時間 ( 秒単位 )	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Secs/ Xfer ( AVG_DISK_ SEC_PER_TR ANSFER )	ディスク転送処理の平均 時間 ( 秒単位 )	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Write Queue Length ( AVG_DISK_ WRITE_QUEU E_LENGTH )	ディスクのキューに入っ た書き込み要求数の平均 値。	AVG	float	No	-	-
Current Disk Queue Length ( CURRENT_ DISK_QUEUE _LENGTH )	ディスクに残っている処 理待ちまたは処理中の キューの要求数。通常、 キューの長さが継続的に 「2」を超える状態の場 合、ディスクの混雑を示 す。	AVG	ulong	No	-	-
Disk Bytes/sec ( DISK_BYTE S_PER_SEC )	書き込みまたは読み込み 処理中にディスク間で データが転送される速度 ( バイト / 秒 )。通常、転 送速度が速いほどシステ ムは効率的に実行されて いることを示す。	AVG	float	No	-	-
Disk Read Bytes/sec ( DISK_READ _BYTES_PER_ SEC )	読み込み処理中にディス クからデータが転送され る速度 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Disk Reads/sec ( DISK_READ S_PER_SEC )	ディスクからの読み込み 処理の速度 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Disk Write Bytes/sec ( DISK_WRIT E_BYTES_PE R_SEC )	書き込み処理中にディス クにデータが転送される 速度 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Disk Writes/sec ( DISK_WRIT ES_PER_SEC )	ディスクへの書き込み処 理の速度 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Disk Xfers/sec ( DISK_TRAN SFERS_PER_S EC )	ディスクへの読み込みお よび書き込み処理の速度 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Drive Type ( DRIVE_TYP E )	ディスクのタイプ。有効 な値は次のとおり。 ・ FIXED ・ NO ROOT DIR ・ REMOVABLE ・ DRIVE UNKNOWN	COP Y	string (36)	No	-	-
Free Mbytes ( FREE_MEG ABYTES )	使用可能なディスク領域 全体に対する未使用領域 ( メガバイト単位 )。この フィールドを履歴レポー トで要約した場合、最小 値が表示される。	LO	ulong	No	-	-
ID ( INSTANCE )	論理ディスクボリューム 名。 ( 例 ) C: や D: など	COP Y	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Page File Size Mbytes ( PAGE_FILE _SIZE_BYTES )	ドライブに割り当てられ た、有効なページング ファイルの物理サイズ ( メガバイト単位 )	COP Y	doubl e	No	2008 (x86), 2008 (x64)	ReturnValue / 1MB
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-

## 5. レコード

### Logical Disk Overview (PI\_LOGD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「LOGD」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Split IO/Sec ( SPLIT_IO_P ER_SEC )	ディスクへの I/O が複数 の I/O に分割された割合 ( / 秒 )。分割 I/O は、大 き過ぎて一つの I/O に収 まらない場合、または ディスクが断片化してい るサイズのデータを要求 する場合に発生する。	AVG	float	No	-	-
Total Size Mbytes ( TOTAL_DIS K_SIZE )	ディスクのサイズ ( メガ バイト単位 )。	COP Y	doubl e	No	-	( ディスク上の クラスタの総数 * クラスタ当 たりのセクタ数 * セクタ当た りのバイト数 ) / 1MB

## NBT Overview ( PI\_NBT )

### 機能

NBT Overview ( PI\_NBT ) レコードには、ローカルコンピュータをリモートコンピュータに接続している一つのNBT 接続を介してデータが送受信された割合についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

収集インターバル中に、Instance ( INSTANCE ) フィールドに対応するレコードが新規に生成された場合、次のフィールドは前回収集した情報から値を算出するため、最初の値は「0」で表示されます。

Bytes Rcvd/sec

Bytes Sent/sec

Bytes Total/sec

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PI\_NBT\_INSTANCE

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：308 バイト

## 5. レコード

### NBT Overview (PI\_NBT)

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Bytes Rcvd/sec ( BYTES_REC EIVED_PER_S EC )	リモートコンピュータ に対する NBT 接続を介し てローカルコンピュータ が受信したデータ量の割 合 (バイト/秒)。	AVG	float	No	-	-
Bytes Sent/sec ( BYTES_SEN T_PER_SEC )	リモートコンピュータに 対する NBT 接続を介し てローカルコンピュータ が送信したデータ量の割 合 (バイト/秒)。	AVG	float	No	-	-
Bytes Total/sec ( BYTES_TOT AL_PER_SEC )	リモートコンピュータに 対する NBT 接続を介し てローカルコンピュータ が送受信したデータ量の 割合 (バイト/秒)。	AVG	float	No	-	-
Instance ( INSTANCE )	リモート接続名。 NetBIOS 名で示される。 16 バイト目に「.」が付 加されている場合、リ モートコンピュータから NBT 接続されたことを 示す。	COP Y	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 (秒単位)。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間 (秒単位)。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「NBT」。	COP Y	char( 8)	No	-	-

## Network Interface Overview ( PI\_NETI )

### 機能

Network Interface Overview ( PI\_NETI ) レコードには、TCP/IP 接続を介してデータとパケットが送受信された割合、および TCP/IP 接続の各種のエラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

IPv4 と IPv6 が共存している環境では、IPv4 と IPv6 の集約された情報が収集されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PI\_NETI\_INSTANCE

### ライフタイム

NIC インストールから NIC 取り外しまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：532 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Bytes Rcvd/sec ( BYTES_REC EIVED_PER_S EC )	ネットワークインター フェースで受信される データ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Network Interface Overview (PI\_NETI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Bytes Sent/sec ( BYTES_SEN T_PER_SEC )	ネットワークインター フェースで送信される データ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Bytes Total/sec ( BYTES_TOT AL_PER_SEC )	ネットワークインター フェースで送受信される データ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Current Bandwidth ( CURRENT_ BANDWIDTH )	ネットワークインター フェースの帯域幅の概算 値 ( ビット / 秒 )。帯域 幅が安定している、また は正確な帯域幅の概算値 が得られない場合、ノミ ナル帯域幅の概算値 ( ビット / 秒 )	AVG	ulong	No	-	-
Instance ( INSTANCE )	ネットワークのインスタ ンス名。 インスタンス名は、ルー プバックアドレス ( 127.0.0.1 )、NIC、デバ イスごとのダイヤルアウト WAN ラッパーであ る。 TCP/IP プロトコルのバ インドの順 ( ループバッ クは常に最初 ) に次のよ うに表示される。 NIC の場合、ドライバ 名。	COP Y	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
Output Queue Length ( OUTPUT_QUEUE_LENGTH )	発信パケットのキューの長さ ( パケット単位 )。NDIS ( Network Driver Interface Specification ) が要求をキューに入れるため、このフィールドの値は常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Outbound Discarded ( PACKETS_OUTBOUND_DISCARDED )	OS 起動後に、伝送を妨げるエラーは検出されなかったが、バッファ領域を空にするなどの理由によって、廃棄の対象として選択された発信パケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Outbound Errors ( PACKETS_OUTBOUND_ERRORS )	OS 起動後に、エラーのため伝送されなかった発信パケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Rcvd Discarded ( PACKETS_RECEIVED_DISCARDED )	OS 起動後に、上層プロトコルへの受け渡しを妨げるエラーは検出されなかったが、バッファ領域を空にするなどの理由によって、廃棄の対象として選択された着信パケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Rcvd Errors ( PACKETS_RECEIVED_ERRORS )	OS 起動後に、上層プロトコルへの受け渡しを妨げるエラーを含んだ着信パケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Rcvd Non-Unicast/sec ( PACKETS_RECEIVED_NON_UNICAST_PER_SEC )	上層プロトコルに受け渡される非ユニキャスト ( サブネットブロードキャストやサブネットマルチキャストなど ) のパケットの割合 ( パケット / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Pkts Rcvd Unicast/sec ( PACKETS_RECEIVED_UNICAST_PER_SEC )	上層プロトコルに受け渡されるサブネットのユニキャストのパケットの割合 ( パケット / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Network Interface Overview (PI\_NETI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Pkts Rcvd Unknown ( PACKETS_R ECEIVED_UN KNOWN )	OS 起動後に、ネット ワークインターフェース を介して受信され、不明 なプロトコルまたはサ ポートされていないプロ トコルのために廃棄され たパケット数。	AVG	ulong	No	-	-
Pkts Rcvd/sec ( PACKETS_R ECEIVED_PE R_SEC )	ネットワークインター フェースで受信されるパ ケットの割合 ( パケット / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts Sent Non-Unicast/ sec ( PACKETS_S ENT_NON_U NICAST_PER_ SEC )	上層プロトコルによっ て、非ユニキャスト ( サ ブネットブロードキャス トやサブネットマルチ キャストなど ) のアドレ スへ伝送されるパケット の割合 ( パケット / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts Sent Unicast/sec ( PACKETS_S ENT_UNICAS T_PER_SEC )	上層プロトコルによっ てサブネットユニキャスト のアドレスへ伝送される パケットの割合 ( パケッ ト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts Sent/sec ( PACKETS_S ENT_PER_SE C )	ネットワークインター フェースで送信されるパ ケットの割合 ( パケット / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts/sec ( PACKETS_P ER_SEC )	ネットワークインター フェースで送受信される パケットの割合 ( パケッ ト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「NETI」。	COP Y	char( 8)	No	-	-

## Page File Detail ( PD\_PAGF )

### 機能

Page File Detail ( PD\_PAGF ) レコードには、システムのページングファイルのインスタンスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。

ページングファイルは、コミットされた物理メモリーをバックアップする、ディスクで予約された領域です。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PD\_PAGF\_INSTANCE

### ライフタイム

仮想メモリーのページングファイルの設定から設定変更まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：264 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Usage ( PCT_USAG E )	ページングファイルの使用率 ( % )	-	float	No	-	-
% Usage Peak ( PCT_USAG E_PEAK )	ページングファイルのピーク時の使用率 ( % )	-	float	No	-	-

## 5. レコード

### Page File Detail ( PD\_PAGF )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Instance ( INSTANCE )	ページングファイルの ファイルパス。 ( ¥??¥C:¥pagefile.sys の ように表示される )	-	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」	-	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「PAGF」	-	char( 8)	No	-	-

## Physical Disk Overview ( PI\_PHYD )

### 機能

Physical Disk Overview ( PI\_PHYD ) レコードには、ハードディスクまたは固定ディスクドライブの読み込み、書き込み、および転送についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。物理ディスクは、分割された論理パーティションの合計値または平均値となります。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードを収集している状態、または Windows の管理ツールの一つ、パフォーマンスコンソールの「システムモニタ」および「パフォーマンス ログと警告」で Physical Disk オブジェクトのカウンタを監視している状態で、物理ディスクを追加および削除した場合、Agent Collector サービスを再起動してください。
- Agent Collector サービスを再起動しても ID ( INSTANCE ) フィールドに物理ディスクが反映されない場合、OS を再起動してください。再起動しないでレコードを収集すると、各項目が正しく収集されません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PI\_PHYD\_INSTANCE

### ライフタイム

ハードディスク構成からハードディスク追加、削除、構成変更まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：596 バイト

## 5. レコード

### Physical Disk Overview (PI\_PHYD)

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Disk Read Time ( PCT_DISK_ READ_TIME )	読み込み要求の処理で ディスクがビジーだった 経過時間の割合 ( % )。	%	float	No	-	-
% Disk Time ( PCT_DISK_ TIME )	読み込みまたは書き込み 要求の処理でディスクが ビジーだった経過時間の 割合 ( % )。通常、継続 的に 100% に近い状態の 場合、ディスクが激しく 使用されていることを示 す。	%	float	No	-	-
% Disk Write Time ( PCT_DISK_ WRITE_TIME )	書き込み要求の処理で ディスクがビジー状態 だった経過時間の割合 ( % )。	%	float	No	-	-
% Idle Time ( PCT_IDLE_ TIME )	ディスクがアイドル状態 だった時間の割合 ( % )。	%	float	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Read ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ READ )	読み込み処理中にディス クから転送された平均値 ( バイト数 / 処理 )。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Write ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ WRITE )	書き込み処理中にディス クから転送された平均値 ( バイト数 / 処理 )。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Bytes/ Xfer ( AVG_DISK_ BYTES_PER_ TRANSFER )	書き込み処理中または読 み込み処理中にディス ク間で転送された平均値 ( バイト数 / 処理 )。通 常、転送サイズが大きい ほどシステムは効率的に 実行されていることを示 す。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Queue Length ( AVG_DISK_ QUEUE_LEN GTH )	ディスクのキューに入っ た読み込みおよび書き込 み要求数の平均値。	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
Avg Disk Read Queue Length ( AVG_DISK_READ_QUEUE_LENGTH )	ディスクのキューに入 った読み込み要求数の平均 値。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Secs/ Read ( AVG_DISK_SEC_PER_READ )	ディスクからのデー タの読み込み処理の平均時間 ( 秒単位 )。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Secs/ Write ( AVG_DISK_SEC_PER_WRITE )	ディスクへのデー タの書き込み処理の平均時間 ( 秒単位 )。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Secs/ Xfer ( AVG_DISK_SEC_PER_TRANSFER )	ディスク転送処理の平均 時間 ( 秒単位 )。	AVG	float	No	-	-
Avg Disk Write Queue Length ( AVG_DISK_WRITE_QUEUE_LENGTH )	ディスクのキューに入 った書き込み要求数の平均 値。	AVG	float	No	-	-
Current Disk Queue Length ( CURRENT_DISK_QUEUE_LENGTH )	ディスクに残っている処 理待ちまたは処理中の キューの要求数。通常、 キューの長さが継続的に 2 を超える状態の場合、 ディスクの混雑を示す。	AVG	ulong	No	-	-
Disk Bytes/sec ( DISK_BYTES_PER_SEC )	書き込みまたは読み込み 処理中にディスク間で データが転送される速度 ( バイト / 秒 )。通常、転 送速度が速いほどシステ ムが効率的に実行されて いることを示す。	AVG	float	No	-	-
Disk Read Bytes/sec ( DISK_READ_BYTES_PER_SEC )	読み込み処理中にディス クにデータが転送される 速度 ( バイト / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Disk Reads/sec ( DISK_READS_PER_SEC )	ディスクへの読み込み処 理の速度 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### Physical Disk Overview (PI\_PHYD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Disk Write Bytes/sec ( DISK_WRIT E_BYTES_P ER_SEC )	書き込み処理中にディス クにデータが転送される 速度 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Disk Writes/sec ( DISK_WRIT ES_PER_SEC )	ディスクへの書き込み処 理の速度 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Disk Xfers/sec ( DISK_TRAN SFERS_PER_S EC )	ディスクへの読み込みお よび書き込み処理の速度 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
ID ( INSTANCE )	物理ディスク番号。	COP Y	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、最後に格納した値 を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「PHYD」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Split IO/Sec ( SPLIT_IO_P ER_SEC )	ディスクへの I/O が複数 の I/O に分割された割合 ( / 秒 )。分割 I/O は、大 き過ぎて一つの I/O に収 まらない場合、または ディスクが断片化してい るサイズのデータを要求 する場合に発生する。	AVG	float	No	-	-



## Process Detail ( PD )

---

### 機能

Process Detail ( PD ) レコードには、一つのプロセスのページング、メモリー、および時間の使用状況などについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。

プロセスの存続中または PFM - Agent for Platform がアクティブな間、レコードを収集するたびに新たにアクティブになった各プロセスについて、このレコードは作成されます。このレコードに格納されるパフォーマンスデータは、更新間隔が同じ場合、Process Detail Interval ( PD\_PDI ) レコードと同じです。しかし、ある時点に収集したパフォーマンスデータと一回前に収集したパフォーマンスデータが同じプロセスのものだった場合、同じレコードにパフォーマンスデータが格納され、値がデータベースに上書きされるため、その点が Process Detail Interval ( PD\_PDI ) レコードと異なります。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- 各プロセスは、収集時に実行しているプログラムを表します。
- 収集インターバル中に、Program ( INSTANCE ) フィールドに対応するレコードが新規に生成された場合、次のフィールドは前回収集した情報から値を算出するため、最初の値は「0」で表示されます。
  - CPU % ( PCT\_PROCESSOR\_TIME )
  - IO Data Bytes/sec ( IO\_DATA\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Data Operations/sec ( IO\_DATA\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Other Bytes/sec ( IO\_OTHER\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Other Operations/sec ( IO\_OTHER\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Read Bytes/sec ( IO\_READ\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Read Operations/sec ( IO\_READ\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Write Bytes/sec ( IO\_WRITE\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Write Operations/sec ( IO\_WRITE\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - Page Faults/sec ( PAGE\_FAULTS\_PER\_SEC )
  - Privileged CPU % ( PCT\_PRIVILEGED\_TIME )
  - User CPU % ( PCT\_USER\_TIME )
- このレコードの Program ( INSTANCE ) フィールドの値が、「System」または「Idle」の場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドが正しく収集できないことがあります。この場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドの値は、System Overview ( PI ) レコードの System Up Time ( SYSTEM\_UP\_TIME ) に近似していますので、この値を利用してください。

## 5. レコード

### Process Detail (PD)

#### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

#### ODBC キーフィールド

- PD\_INSTANCE
- PD\_ID\_PROCESS

#### ライフタイム

プロセスの実行から終了まで。

#### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：472 バイト

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
CPU % ( PCT_PROCE SSOR_TIME )	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Creating Process ID ( PROCESS_I D )	このプロセスを起動したプロセスのプロセス ID。	-	ulong	No	-	-
Elapsed Time ( ELAPSED_T IME )	プロセスが実行している総経過時間 ( 秒単位 )。	-	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Group ( GROUP_NA ME )	プロセスを実行したユー ザーが所属するグループ 名。グループ名はドメイ ン名、またはローカルシ ステムによってあらかじめ 定義された名前(「NT AUTHORITY」、コン ピュータ名など)。プロ セスのセキュリティ ID に対応するグループ名が 見つからない場合は 「NONE_MAPPED」、プ ロセス ID から実行グ ループ名が取得できない 場合は「Unknown」が 格納される。	-	string (36)	No	-	-
Handle Count ( HANDLE_C OUNT )	プロセスによってオー プンしているハンドル数。	-	ulong	No	-	-
IO Data Bytes/ sec ( IO_DATA_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべ ての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい るデータ量の割合(バイ ト/秒)。	-	float	No	-	-
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべ ての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい る操作数の割合( / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべ ての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込み以外 (制御関数など)の操作 をしているデータ量の割 合(バイト/秒)。	-	float	No	-	-
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	プロセスが生成するすべ ての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込み以外 (制御関数など)の操作 をしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Read Bytes/ sec ( IO_READ_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するすべ ての I/O 操作で、読み込 みしているデータ量の割 合(バイト/秒)。	-	float	No	-	-

## 5. レコード

### Process Detail (PD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
IO Read Operations/sec ( IO_READ_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、読み込 みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
IO Write Bytes/ sec ( IO_WRITE_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、書き込 みしているデータ量の割 合(バイト/秒)	-	float	No	-	-
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	プロセスが生成するすべ での I/O 操作で、書き込 みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」	-	ulong	No	-	-
PID ( ID_PROCES S )	プロセス ID。実行して いるプロセスの一意識 別子。	-	ulong	No	-	-
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	プロセス内でページフォ ルトが発生した割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
Page File Kbytes ( PAGE_FILE _BYTES )	プロセスがページング ファイルで使用している 仮想メモリー領域のサイ ズ(キロバイト単位)	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE _BYTES_PEA K )	プロセスがページング ファイルで使用していた 仮想メモリー領域の最大 サイズ(キロバイト単 位)	-	doubl e	No	-	-
Pool Nonpaged Kbytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	プロセスが使用している ページング不可能なメモ リーサイズ(キロバイト 単位)	-	doubl e	No	-	-
Pool Paged Kbytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	プロセスが使用している ページング可能なメモ リーサイズ(キロバイト 単位)	-	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ- ト 対象外	データソース
Priority Base ( PRIORITY_ BASE )	プロセスの基本優先順位。値が大きいほど基本優先度が高い。値は次のとおり。 ・24：リアルタイム ・13：高 ・10：通常以上 ・8：通常 ・6：通常以下 ・4：低	-	ulong	No	-	-
Private Kbytes ( PRIVATE_B BYTES )	プロセスが、ほかのプロセスと共用できないように割り振ったメモリのサイズ(キロバイト単位)	-	doubl e	No	-	-
Privileged CPU % ( PCT_PRIVIL EGED_TIME )	プロセスが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合(%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数*100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Program ( INSTANCE )	実行プログラム名。	-	string (256)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「PD」。	-	char( 8)	No	-	-
Thread Count ( THREAD_C OUNT )	プロセス内のスレッド(命令を実行する単位)の数。プロセスを実行すると最低一つのスレッドが起動される。	-	ulong	No	-	-
User ( USER_NAM E )	プロセスを実行したユーザー名。プロセスのセキュリティIDに対応するユーザー名が見つからない場合は「NONE_MAPPED」、プロセスIDから実行ユーザー名が取得できない場合は「Unknown」が格納される。	-	string (36)	No	-	-

## 5. レコード

### Process Detail (PD)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User CPU % ( PCT_USER_ TIME )	プロセスがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合(%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Virtual Kbytes ( VIRTUAL_B YTES )	プロセスが使用している仮想アドレス空間のサイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_B BYTES_PEAK )	プロセスが使用していた仮想アドレス空間の最大サイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes ( WORKING_ SET )	プロセスで使用しているメモリー使用量(ワーキングセットと呼び、メモリーの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリー量を示す)のサイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes Peak ( WORKING_ SET_PEAK )	プロセスで使用していたメモリー使用量(ワーキングセットと呼び、メモリーの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリー量を示す)の最大サイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-

## Process Detail Interval ( PD\_PDI )

---

### 機能

Process Detail Interval ( PD\_PDI ) レコードには、一つのプロセスのページング、メモリ、および時間の使用状況などについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。

プロセスの存続中または PFM - Agent for Platform がアクティブな間、レコードを収集するたびに新たにアクティブになった各プロセスについて、このレコードは作成されます。このレコードに格納されるパフォーマンスデータは、更新間隔が同じ場合、Process Detail ( PD ) レコードと同じです。しかし、ある時点で収集したパフォーマンスデータと一回前に収集したパフォーマンスデータが同じプロセスのものだった場合、同じレコードにパフォーマンスデータが格納されないで新しいレコードがデータベースに格納されるので、その点が Process Detail ( PD ) レコードと異なります。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- 各プロセスは、収集時に実行しているプログラムを表します。
- 収集インターバル中に、Program ( INSTANCE ) フィールドに対応するレコードが新規に生成された場合、次のフィールドは前回収集した情報から値を算出するため、最初の値は「0」で表示されます。
  - CPU % ( PCT\_PROCESSOR\_TIME )
  - IO Data Bytes/sec ( IO\_DATA\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Data Operations/sec ( IO\_DATA\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Other Bytes/sec ( IO\_OTHER\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Other Operations/sec ( IO\_OTHER\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Read Bytes/sec ( IO\_READ\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Read Operations/sec ( IO\_READ\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - IO Write Bytes/sec ( IO\_WRITE\_BYTES\_PER\_SEC )
  - IO Write Operations/sec ( IO\_WRITE\_OPERATIONS\_PER\_SEC )
  - Page Faults/sec ( PAGE\_FAULTS\_PER\_SEC )
  - Privileged CPU % ( PCT\_PRIVILEGED\_TIME )
  - User CPU % ( PCT\_USER\_TIME )
- このレコードの Program ( INSTANCE ) フィールドの値が、「System」または「Idle」の場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドが正しく収集できないことがあります。この場合、Elapsed Time ( ELAPSED\_TIME ) フィールドの値は、System Overview ( PI ) レコードの System Up Time ( SYSTEM\_UP\_TIME ) に近似していますので、この値を利用してください。

## 5. レコード

Process Detail Interval ( PD\_PDI )

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_PDI\_INSTANCE
- PD\_PDI\_ID\_PROCESS

### ライフタイム

プロセスの実行から終了まで。

### レコードサイズ

固定部 : 681 バイト

可変部 : 472 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
CPU % ( PCT_PROCE SSOR_TIME )	プロセスがプロセッサを使用した経過時間の割合 (%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Creating Process ID ( PROCESS_I D )	このプロセスを起動したプロセスのプロセス ID。	-	ulong	No	-	-
Elapsed Time ( ELAPSED_T IME )	プロセスが実行している総経過時間 ( 秒単位 )。	-	ulong	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Group ( GROUP_NA ME )	プロセスを実行したユー ザーが所属するグルー プ名。グループ名はドメ イン名、またはローカルシ ステムによってあらかじめ 定義された名前(「NT AUTHORITY」、コン ピュータ名など)。プロ セスのセキュリティ ID に対応するグループ名が 見つからない場合は 「NONE_MAPPED」、プ ロセス ID から実行グ ループ名が取得できない 場合は「Unknown」が 格納される。	-	string (36)	No	-	-
Handle Count ( HANDLE_C OUNT )	プロセスによってオー プンしているハンドル数。	-	ulong	No	-	-
IO Data Bytes/ sec ( IO_DATA_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するす べての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい るデータ量の割合 ( バイ ト / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するす べての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込みしてい る操作数の割合 ( / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するす べての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作 をしているデータ量の割 合 ( バイト / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	プロセスが生成するす べての I/O 操作で、読み込 みおよび書き込み以外 ( 制御関数など ) の操作 をしている操作数の割合 ( / 秒 )。	-	float	No	-	-
IO Read Bytes/ sec ( IO_READ_B YTES_PER_S EC )	プロセスが生成するす べての I/O 操作で、読み込 みしているデータ量の割 合 ( バイト / 秒 )。	-	float	No	-	-

## 5. レコード

### Process Detail Interval ( PD\_PDI )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
IO Read Operations/sec ( IO_READ_O PERATIONS_ PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
IO Write Bytes/ sec ( IO_WRITE_ BYTES_PER_ SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	-	float	No	-	-
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	プロセスが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。	-	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
PID ( ID_PROCES S )	プロセス ID。実行しているプロセスの一意識別子。	-	ulong	No	-	-
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	プロセス内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	-
Page File Kbytes ( PAGE_FILE _BYTES )	プロセスがページングファイルで使用している仮想メモリー領域のサイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-
Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE _BYTES_PEA K )	プロセスがページングファイルで使用していた仮想メモリー領域の最大サイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-
Pool Nonpaged Kbytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	プロセスが使用しているページング不可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-
Pool Paged Kbytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	プロセスが使用しているページング可能なメモリーサイズ ( キロバイト単位 )	-	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Priority Base ( PRIORITY_ BASE )	プロセスの基本優先順位。値が大きいほど基本優先度が高い。値は次のとおり。 ・24：リアルタイム ・13：高 ・10：通常以上 ・8：通常 ・6：通常以下 ・4：低	-	ulong	No	-	-
Private Kbytes ( PRIVATE_B BYTES )	プロセスが、ほかのプロセスと共用できないように割り振ったメモリのサイズ(キロバイト単位)	-	doubl e	No	-	-
Privileged CPU % ( PCT_PRIVIL EGED_TIME )	プロセスが特権モードでプロセッサを使用した経過時間の割合(%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数*100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Program ( INSTANCE )	実行プログラム名。	-	string (256)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「PDI」。	-	char( 8)	No	-	-
Thread Count ( THREAD_C OUNT )	プロセス内のスレッド(命令を実行する単位)の数。プロセスを実行すると最低一つのスレッドが起動される。	-	ulong	No	-	-
User ( USER_NAM E )	プロセスの実行ユーザー名。 なお、プロセスのセキュリティ ID に対応するユーザー名が見つからない場合は「NONE_MAPPED」、プロセス ID から実行ユーザー名が取得できない場合は「Unknown」が格納される。	-	string (36)	No	-	-

## 5. レコード

### Process Detail Interval ( PD\_PDI )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User CPU % ( PCT_USER_ TIME )	プロセスがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合(%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	-	float	No	-	-
Virtual Kbytes ( VIRTUAL_B YTES )	プロセスが使用している仮想アドレス空間のサイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_B BYTES_PEAK )	プロセスが使用していた仮想アドレス空間の最大サイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes ( WORKING_ SET )	プロセスで使用しているメモリー使用量(ワーキングセットと呼び、メモリーの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリー量を示す)のサイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-
Working Set Kbytes Peak ( WORKING_ SET_PEAK )	プロセスで使用していたメモリー使用量(ワーキングセットと呼び、メモリーの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリー量を示す)の最大サイズ(キロバイト単位)。	-	doubl e	No	-	-

## Process End Detail ( PD\_PEND )

### 機能

Process End Detail ( PD\_PEND ) レコードには、プロセスが終了したあとの状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

- このレコードは、リアルタイムでは収集できません。
- 各プロセスは、収集前に実行されていたプログラムを表します。
- このレコードは、プロセスのパフォーマンスデータを、Collection Interval とは別のタイミングで常に 60 秒間隔で監視し、終了したプロセスのデータを最大 1,000 件、サービス内部で保持しています。このため、60 秒未満の稼働時間で終了したプロセス情報は収集できません。  
また、サービス内部で保持した終了プロセスのデータは、Collection Interval ごとに Store データベースに格納します。このため、終了プロセス数が 1,000 件を超えない Collection Interval 値を設定してください。
- このレコードが格納するパフォーマンスデータは、Process Detail ( PD ) レコードおよび Process Detail Interval ( PD\_PDI ) レコードと異なります。
- OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス ( サービス名 : WinMgmt ) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、このレコードは収集できません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_PEND\_PROCESS\_ID
- PD\_PEND\_PROCESS\_NAME

### ライフタイム

プロセスの実行から終了まで。

### レコードサイズ

固定部 : 681 バイト

## 5. レコード

Process End Detail ( PD\_PEND )

可変部 : 352 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
CPU % ( PROESSO R_PERCENT )	経過時間のうち、プロセスのすべてのスレッドがコードの実行のためにプロセッサを使用した時間の割合 ( / 秒 )。	-	float	No	-	(USER_TIME + KERNEL_TIM E) / (EXIT_TIME - CREATION_TI ME)
Creation Time ( CREATION_ TIME )	プロセスが作成された時刻。	-	time_ t	No	-	-
Elapsed Time ( ELAPSED_T IME )	該当プロセスが実行していた総経過時間 ( 秒単位 )。	-	ulong	No	-	EXIT_TIME - CREATION_TI ME
Exit Code ( EXIT_CODE )	プロセスの終了コード。	-	long	No	-	-
Exit Time ( EXIT_TIME )	プロセスが終了した時刻。	-	time_ t	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」。	-	ulong	No	-	-
Kernel Time ( KERNEL_TI ME )	システムプライベートデータへアクセスできるように、カーネルモードでコードの実行に費やした時間 ( 秒単位 )。	-	utime	No	-	-
PID ( PROCESS_I D )	プロセスの識別子。	-	long	No	-	-
Priority ( PRIORITY )	プロセスの基本優先順位。値は次のとおり。 ・ REALTIME ・ HIGH ・ ABOVE-NORMAL ・ NORMAL ・ BELOW-NORMAL ・ IDLE ・ Not Applicable	-	string (24)	No	-	-

5. レコード  
Process End Detail ( PD\_PEND )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	データソース
Privileged CPU% ( KERNEL_P ERCENT )	経過時間のうち、プロセ スのスレッドが、システ ムプライベートデータへ のアクセスを得るために カーネルモードでコード の実行に費やした時間の 割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	KERNEL_TIM E / (EXIT_TIME - CREATION_TI ME)
Program ( PROCESS_ NAME )	実行プログラム名。	-	string (256)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「PEND」。	-	char( 8)	No	-	-
Total CPU Time ( TOTAL_CPU _TIME )	カーネルモードおよび ユーザーモードでコード の実行に掛かった時間 ( 秒単位 )	-	utime	No	-	USER_TIME + KERNEL_TIM E
User CPU % ( USER_PER CENT )	経過時間のうち、プロセ スのスレッドがユーザー モードでのコードの実行 に費やした時間の割合 ( / 秒 )	-	float	No	-	USER_TIME / (EXIT_TIME - CREATION_TI ME)
User Time ( USER_TIME )	ユーザーモードでコード の実行に費やした時間 ( 秒単位 )	-	utime	No	-	-
Working Set Max Kbytes ( WORKING_ SET_MAX )	プロセスの最大ワーキン グセットサイズ ( キロバ イト単位 )	-	doubl e	No	-	ReturnValue / 1KB
Working Set Min Kbytes ( WORKING_ SET_MIN )	プロセスの最小ワーキン グセットサイズ ( キロバ イト単位 )	-	doubl e	No	-	ReturnValue / 1KB

## Processor Overview (PI\_PCSR)

### 機能

Processor Overview (PI\_PCSR) レコードには、各プロセッサでの算術、および論理計算の実行、周辺機器操作の初期化、プロセスのスレッドの実行などの割り込みの割合、および時間の割合などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

マルチプロセッサ環境で、Instance (INSTANCE) フィールドが「\_Total」で示される次のフィールドの最大値は、「100」です。

- % DPC Time (PCT\_DPC\_TIME)
- % Interrupt Time (PCT\_INTERRUPT\_TIME)
- CPU % (PCT\_PROCESSOR\_TIME)
- Privileged CPU % (PCT\_PRIVILEGED\_TIME)
- User CPU % (PCT\_USER\_TIME)

OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、このレコードは収集できません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PI\_PCSR\_INSTANCE

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部: 681 バイト

可変部: 532 バイト



フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
% C1 Time ( PCT_C1_TI ME )	プロセッサが C1 低消費電力状態 ( C1 ステート ) だった時間の割合 ( % )。プロセッサがすべてのコンテキストを維持し、速やかに実行状態に戻ることができる低消費電力状態。C1 ステートをサポートしていないプロセッサの場合、常に「0」。	%	float	No	-	-
% C2 Time ( PCT_C2_TI ME )	プロセッサが C2 低消費電力状態 ( C2 ステート ) だった時間の割合 ( % )。C1 ステートより低電力で、プロセッサがシステムキャッシュのコンテキストだけ維持している低消費電力状態。C2 ステートをサポートしていないプロセッサの場合、常に「0」。	%	float	No	-	-
% C3 Time ( PCT_C3_TI ME )	プロセッサが C3 低消費電力状態 ( C3 ステート ) だった時間の割合 ( % )。C2 ステートより低電力で、プロセッサはキャッシュの整合性を維持できない低消費電力状態。C3 ステートをサポートしていないプロセッサの場合、常に「0」。	%	float	No	-	-
% DPC Time ( PCT_DPC_T IME )	標準割り込みより低い優先順位で実行される特権モードの DPC ( 遅延プロセス呼び出し ) 割り込み処理で実行したプロセッサの使用率 ( % )。	%	float	No	-	-
% Idle Time ( PCT_IDLE_ TIME )	プロセッサがアイドル状態だった時間の割合 ( % )。	%	float	No	-	-

## 5. レコード

### Processor Overview (PI\_PCSR)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Interrupt Time ( PCT_INTER RUPT_TIME )	ハードウェア ( システム クロック, マウス, ディ スクドライバ, データ通 信ライン, NIC, その他 周辺機器などの割り込み が発生するデバイス) 割 り込み処理で実行したプ ロセッサの使用率 ( % )。	%	float	No	-	-
APC Bypasses/ sec ( APC_BYPAS SES_PER_SEC )	プロセッサが, カーネル APC ( 非同期プロシー ジャ呼び出し ) 割り込み を回避された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	2003 (x86), 2003 (x64), 2008 (x86), 2008 (x64)	-
C1 Trans/sec ( PCT_C1_TR ANSITIONS_P ER_SEC )	プロセッサが C1 低消費 電力状態 ( C1 ステート ) に入った割合 ( / 秒 )。 プロセッサが十分なアイ ドル状態の場合, C1 ス テートに入り, 割り込み が発生した場合, C1 ス テートから出る。C1 ス テートをサポートしてい ないプロセッサの場合, 常に「0」。	%	float	No	-	-
C2 Trans/sec ( PCT_C2_TR ANSITIONS_P ER_SEC )	プロセッサが C2 低消費 電力状態 ( C2 ステート ) に入った割合 ( / 秒 )。 C1 ステートより低電力 で, プロセッサが十分な アイドル状態の場合, C1 ステートから C2 ス テートに入り, 割り込み が発生した場合, C2 ス テートから出る。C2 ス テートをサポートしてい ないプロセッサの場合, 常に「0」。	%	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
C3 Trans/sec ( PCT_C3_TR ANSITIONS_P ER_SEC )	プロセッサが C3 低消費 電力状態 ( C3 ステート ) に入った割合 ( / 秒 ) 。 C2 ステートより低電力 で、プロセッサが十分な アイドル状態の場合、 C2 ステートから C3 ス テートに入り、割り込み が発生した場合、C3 ス テートから出る。C3 ス テートをサポートしてい ないプロセッサの場合、 常に「0」。	%	float	No	-	-
CPU % ( PCT_PROCE SSOR_TIME )	プロセッサの使用率 ( % ) 。プロセッサが非ア イドル状態のスレッドを 実行した経過時間の割 合。	%	float	No	-	-
DPC Bypasses/ sec ( DPC_BYPAS SES_PER_SEC )	プロセッサが、標準割り 込みより低い優先順位で 実行される特権モードの DPC ( 遅延プロシー ジャ呼び出し ) 割り込み を回避された割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x86), 2003 (x64), 2008 (x86), 2008 (x64)	-
DPC Rate ( DPC_RATE )	標準割り込みより低い優 先順位で実行される特権 モードの DPC ( 遅延プ ロシージャ呼び出し ) 割 り込みが、プロセッサの DPC キューに追加され たプロセッサクロックの タイマチェック間での平 均値。	AVG	ulong	No	-	-
DPCs Queued/ sec ( DPCS_QUE UED_PER_SE C )	標準割り込みより低い優 先順位で実行される特権 モードの DPC ( 遅延プ ロシージャ呼び出し ) 割 り込みが、プロセッサの DPC キューに追加され た数の平均値 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Instance ( INSTANCE )	プロセッサのインスタ ンス名。 「0」から始まる番号で表 示される。	COP Y	string (256)	No	-	-

## 5. レコード

### Processor Overview (PI\_PCSR)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Interrupts/sec ( INTERRUPT TS_PER_SEC )	プロセッサが、ハードウェア ( システムクロック、マウス、ディスクドライバ、データ通信ライン、NIC、その他周辺機器などの割り込みが発生するデバイス ) 割り込みを受信処理した数の割合 ( / 秒 )。 DPC ( 遅延プロセス呼び出し ) 割り込みは含まれない。通常、システムの活動状況がない状態で、このフィールドが大幅に増加している状態の場合、低速なデバイスが存在するなどのハードウェアの問題を示す。	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、最後に格納した値を表示する。	COPY	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)
Privileged CPU % ( PCT_PRIVILEGED_TIME )	特権モードで実行したプロセッサの使用率 ( % )。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを特権モードで実行した経過時間の割合。	%	float	No	-	-
Record Time ( RECORD_TIME )	レコードが作成された時刻。	COPY	time_t	No	-	-
Record Type ( INPUT_RECORD_TYPE )	レコード名。常に「PCSR」。	COPY	char(8)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User CPU % ( PCT_USER_ TIME )	ユーザーモードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドをユーザーモードで実行した経過時間の割合。	%	float	No	-	-

## Server Work Queues Overview ( PI\_SVRQ )

---

### 機能

Server Work Queues Overview ( PI\_SVRQ ) レコードには、サーバのキューの長さおよびキュー内の処理についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### 注意

OS が提供する Server サービス ( サービス名 : LanmanServer ) が停止している場合、このレコードは収集できません。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

PI\_SVRQ\_INSTANCE

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部 : 681 バイト

可変部 : 532 バイト

フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Active Threads ( ACTIVE_TH READS )	プロセッサでサーバクライアントからの要求を処理しているスレッド数。システムは、不要なコンテキストの切り替えを最小限に抑えるために、この値をできるだけ低くしようとする。	AVG	ulong	No	-	-
Available Threads ( AVAILABLE_THREADS )	プロセッサでクライアントからの要求を処理していないサーバスレッド数。サーバは動的にスレッドの数を調整し、サーバのパフォーマンスを最適化する。	AVG	ulong	No	-	-
Available Work Items ( AVAILABLE_WORK_ITEMS )	プロセッサの使用可能な作業アイテム（クライアントからのすべての要求を表し、サーバは処理を高速化するためにプロセッサごとに使用可能な作業領域を維持する）の数。通常、0 以外の値が継続する場合、Server サービスの MinFreeWorkItems レジストリー値を増やす必要があると見なす。Instance フィールドが「Blocking Queue」の場合、このフィールドの値は常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### Server Work Queues Overview ( PI\_SVRQ )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Borrowed Work Items ( BORROWE D_WORK_ITE MS )	プロセッサの使用可能な 作業アイテム ( クライア ントからのすべての要求 を表し、サーバは処理を 高速化するためにプロ セッサごとに使用可能な 作業領域を維持する ) が なくなり、別のプロセッ サから未使用の作業アイ テムを借り出した数。 通常、値が増え続ける場 合、Server サービスの MaxWorkItems または MinFreeWorkItems レ ジストリー値を増やす必 要があると見なす。 Instance フィールドが 「Blocking Queue」の場 合、このフィールドの値 は常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-
Bytes Rcvd/sec ( BYTES_REC EIVED_PER_S EC )	サーバがプロセッサで ネットワーククライアント から受信したデータ量 の割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Bytes Sent/sec ( BYTES_SEN T_PER_SEC )	サーバがプロセッサで ネットワーククライアント に送信したデータ量の 割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Bytes Xferd/sec ( BYTES_TRA NSFERRED_P ER_SEC )	サーバがプロセッサで ネットワーククライアント に送受信したデータ量 の割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Context Blocks Queued/sec ( CONTEXT_ BLOCKS_QUE UED_PER_SE C )	サーバでの処理待ちのた め、作業コンテキストブ ロックがサーバの FSP キューに入れられる必要 があった回数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Current Clients ( CURRENT_ CLIENTS )	プロセッサが処理してい るクライアント数。サー バは、クライアント負荷 をシステム内の全サーバ に動的に振り分ける。 Instance フィールドが 「Blocking Queue」の場 合、このフィールドの値 は常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Instance ( INSTANCE )	サーバワークキューのインスタンス名。 Blocking Queue と「0」 から始まる番号で表示される。	COPY	string (256)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。リアルタイムレポートの場合、最初の値は5。履歴レポートで要約した場合、最後に格納した値を表示する。	COPY	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。リアルタイムレポートの場合、最初の値は5。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIME (T1) - RECORD_TIME (T0)
Queue Length ( QUEUE_LENGTH )	この CPU のサーバ作業キューの現在の長さ。キューの長さが「4」を超える状態が持続する場合、プロセッサに大きな負荷がかかっていると見なすことができる。この値はある時点でのカウントであり、ある時間間隔での平均値ではない。	AVG	ulong	No	-	-
Read Bytes/sec ( READ_BYTES_PER_SEC )	サーバがプロセッサでクライアントのためにファイルから読み込んだデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Ops/sec ( READ_OPERATIONS_PER_SEC )	サーバがプロセッサでクライアントのためにファイルからデータを読み込んだ処理数の割合 ( / 秒 ) Instance フィールドが「Blocking Queue」の場合、このフィールドの値は常に「0」。	AVG	float	No	-	-
Record Time ( RECORD_TIME )	レコードが作成された時刻。	COPY	time_t	No	-	-

## 5. レコード

### Server Work Queues Overview (PI\_SVRQ)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「SVRQ」。	COPY	char( 8)	No	-	-
Total Bytes/sec ( TOTAL_BYT ES_PER_SEC )	サーバがプロセッサでク ライアントのためにファ イルから読み込みおよび 書き込みしたデータ量の 割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Total Ops/sec ( TOTAL_OPE RATIONS_P ER_SEC )	サーバがプロセッサでク ライアントのためにファ イルからデータを読み込 みおよび書き込みした処 理数の割合 ( / 秒 ) Instance フィールドが 「Blocking Queue」の場 合、このフィールドの値 は常に「0」。	AVG	float	No	-	-
Work Item Shortages ( WORK_ITE M_SHORTAG ES )	プロセッサの使用可能な 作業アイテム ( クライア ントからのすべての要求 を表し、サーバは処理を 高速化するためにプロ セッサごとに使用可能な 作業領域を維持する ) が 不足している数。 通常、0 以外の値が継続 する場合、Server サー ビスの MaxWorkItems レジストリー値を増やす 必要があると見なす。 Instance フィールドが 「Blocking Queue」の場 合、このフィールドの値 は常に「0」。	AVG	ulong	No	-	-
Write Bytes/sec ( WRITE_BYT ES_PER_SEC )	サーバがプロセッサでク ライアントのためにファ イルに書き込んだデータ 量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Ops/sec ( WRITE_OPE RATIONS_P ER_SEC )	サーバがプロセッサでク ライアントのためにファ イルにデータを書き込ん だ処理数の割合 ( / 秒 ) Instance フィールドが 「Blocking Queue」の場 合、このフィールドの値 は常に「0」。	AVG	float	No	-	-

## Service Process Detail ( PD\_SVC )

---

### 機能

Service Process Detail ( PD\_SVC ) レコードには、サービス制御マネージャー ( SCM ) に登録されている、Win32 プロセスなどのアプリケーションサービスについての、ある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは、複数インスタンスレコードです。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_SVC\_SERVICE\_NAME
- PD\_SVC\_TYPE

### ライフタイム

サービスのインストールからアンインストールまで。

### レコードサイズ

固定部 : 681 バイト

可変部 : 1,775 バイト

5. レコード

Service Process Detail ( PD\_SVC )

フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポート 対象外	データソース
Accepted Controls ( ACCEPTED _CONTROLS )	<p>サービスが受信するコントロールコード。このフィールドの値は、次の値の一部または全部がリストされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PAUSE_CONTINUE : [一時停止], [再開]することができる。</li> <li>・ SHUTDOWN : OS のシャットダウンをサービスに通知する。</li> <li>STOP : [停止]することができる。</li> </ul> <p>データモデルバージョン 4.1 以降は、次の値もリストされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PARAMCHANGE : 再起動しないで [開始パラメータ] の再読み込みができる。</li> <li>・ NETBINDCHANGE : ネットワークから再起動しないでバインドの変更を受け付けることができる。</li> <li>・ HARDWAREPROFILE CHANGE : ハードウェアプロファイルが変更された場合、サービスに通知される。</li> <li>・ POWEREVENT : OS の電源状態が変更された場合、サービスに通知される。</li> <li>・ SESSIONCHANGE : OS のセッション状態が変更された場合、サービスに通知される。</li> </ul>	-	string (128)	No	-	-
Checkpoint ( CHECKPOINT )	<p>スタート、ストップ、または続行の各処理中に、各ステップの完了に従って、その進行状況をレポートするためにサービスが使用するチェックポイントプログレスカウンタ (インクリメント方式)。このような処理がない場合、この値は、 「0」。</p>	-	long	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Display Name ( DISPLAY_N AME )	サービスを識別するた めにユーザーインター フェイスプログラムに よって使用される名前。	-	string (256)	No	-	-
Image Path ( IMAGE_PAT H )	サービスのバイナリー ファイルへの完全修飾パ ス。	-	string (1024 )	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	常に「0」。	-	ulong	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	-	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「SVC」。	-	char( 8)	No	-	-
Service Exit Code ( SERVICE_E XIT_CODE )	サービス固有の終了コー ド。	-	long	No	-	-
Service Name ( SERVICE_N AME )	サービスコントロールマ ネージャーデータベース で使用されているサービ ス名。	-	string (256)	No	-	-
Service Type ( TYPE )	次の二つのサービスタイ プの一つ。 ・ WIN32_OWN_PROCES S : サービスアプリケー ションがそのアプリケー ション専用のプロセス内 で動作する。 ・ WIN32_SHARE_PRO CESS : サービスアプリ ケーションが一つのプロ セスをほかのサービスと 共有する。 また、サービスがデスク トップと会話することを 示す場合、次のタイプも リストされる。 ・ INTERACTIVE_PRO CESS	-	string (64)	No	-	-

## 5. レコード

### Service Process Detail ( PD\_SVC )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
State ( STATE )	<p>データ収集時のサービスの状態。このフィールドの値は、次のどれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CONTINUE_PENDING : [一時停止]後の[再開]ボタンで[起動]処理中の状態</li> <li>・ PAUSE_PENDING : [一時停止]処理中の状態</li> <li>・ PAUSED : [一時停止]状態</li> <li>・ RUNNING : [起動]状態</li> <li>・ START_PENDING : [起動]処理中の状態</li> <li>・ STOP_PENDING : [停止]処理中の状態</li> <li>・ STOPPED : [停止]状態</li> </ul>	-	string (31)	No	-	-
Wait Hint ( WAIT_HINT )	<p>サービスがその状態またはチェックポイントを更新するまでに、保留しているスタート、ストップ、または続行の各処理に掛かると予想される時間(ミリ秒単位)。</p>	-	ulong	No	-	-
Win32 Exit Code ( WIN32_EXI T_CODE )	Win32 終了コード。	-	long	No	-	-

## System Overview (PI)

---

### 機能

System Overview (PI) レコードには、次の Windows パフォーマンスオブジェクトについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

System Overview (PI) レコードは、システムが適切に使われているか確認するための情報が格納されているレコードです。各 Windows パフォーマンスオブジェクトについての説明を次に示します。

#### Cache オブジェクト

Cache オブジェクトは、キャッシュマネージャーとファイルシステムドライバの動作で、ディスクにアクセスをしないで高速アクセスするために、データを保管する物理メモリの領域であるファイルシステムキャッシュについての情報を監視します。キャッシュは通常アプリケーションに使用されるため、アプリケーションの I/O 操作のインジケータとなります。メモリー容量が少ない場合、キャッシュサイズは小さくなり効果的な動作が望めません。

#### Memory オブジェクト

Memory オブジェクトは、物理メモリーおよび仮想メモリーの動作を管理します。物理メモリーは RAM (ランダムアクセスメモリー) の領域です。仮想メモリーは物理メモリー内とディスク上の領域から成ります。仮想メモリー領域は物理メモリー領域にマップされ、一定時間以上アクセスされないページは仮想メモリーに退避し、物理メモリーを有効利用します。ページングは、ページイン (物理メモリーにページの読み込み) とページアウト (仮想メモリーにページを移動) によるディスクと物理メモリーの間で起こるコードとデータの移動です。ページフォルトは、物理メモリーに存在しないページをアクセスした時に発生する割り込み処理です。過度なページングによるメモリー不足は、システム処理の遅延の原因となります。

#### Objects オブジェクト

Objects オブジェクトは、プロセス、スレッド、ミューテックスおよびセマフォなどのシステムの論理オブジェクトを監視します。各オブジェクトは、自分自身についての基本情報を格納するメモリーが必要です。この情報は、不要なリソースの消費を検出できます。

#### Processor オブジェクト

Processor オブジェクトは、プロセッサの処理状況を監視します。コンピュータには複数のプロセッサが存在します。プロセッサは、算術および論理計算の実行、周辺機器の操作の初期化、プロセスのスレッドの実行を行うコンピュータの一部です。

#### Redirector オブジェクト

## 5. レコード

### System Overview (PI)

Redirector オブジェクトは、クライアントコンピュータから発信されるネットワーク接続を監視します。

Server オブジェクト

Server オブジェクトは、サーバコンピュータのネットワーク間の通信を監視します。

System オブジェクト

System オブジェクトは、すべてのプロセッサによるシステム全体の各種処理状況を監視します。

#### 注意

- System Overview (PI) レコードの収集開始時に、OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、以下のフィールドの値は、正しく収集できません。
  - % Total DPC Time ( PCT\_TOTAL\_DPC\_TIME )
  - % Total Interrupt Time ( PCT\_TOTAL\_INTERRUPT\_TIME )
  - Active CPUs ( NUMBER\_OF\_ACTIVE\_CPUS )
  - CPU % ( PCT\_TOTAL\_PROCESSOR\_TIME )
  - Privileged CPU % ( PCT\_TOTAL\_PRIVILEGED\_TIME )
  - System Type ( SYSTEM\_TYPE )
  - Total DPC Rate ( TOTAL\_DPC\_RATE )
  - Total DPCs Queued/sec ( TOTAL\_DPCS\_QUEUED\_PER\_SEC )
  - Total Interrupts/sec ( TOTAL\_INTERRUPTS\_PER\_SEC )
  - User CPU %"
- OS が提供する Server サービス (サービス名: LanmanServer) が停止している場合、Server オブジェクトに対応する次に示すフィールドは収集できません。
  - Blocking Reqs Rejected ( BLOCKING\_REQUESTS\_REJECTED )
  - Bytes Revd/sec ( BYTES\_RECEIVED\_PER\_SEC )
  - Bytes Total/sec ( BYTES\_TOTAL\_PER\_SEC )
  - Bytes Xmitd/sec ( BYTES\_TRANSMITTED\_PER\_SEC )
  - Context Blocks Queued/sec ( CONTEXT\_BLOCKS\_QUEUED\_PER\_SEC )
  - Errors Access Permissions ( ERRORS\_ACCESS\_PERMISSIONS )
  - Errors Granted Access ( ERRORS\_GRANTED\_ACCESS )
  - Errors Logon ( ERRORS\_LOGON )
  - Errors System ( ERRORS\_SYSTEM )
  - File Directory Searches ( FILE\_DIRECTORY\_SEARCHES )
  - Files Open ( FILES\_OPEN )
  - Files Opened Total ( FILES\_OPENED\_TOTAL )
  - Logon Total ( LOGON\_TOTAL )
  - Logon/sec ( LOGON\_PER\_SEC )
  - Pool Nonpaged Failures ( POOL\_NONPAGED\_FAILURES )



- Pool Nonpaged Peak ( POOL\_NONPAGED\_PEAK )
- Pool Paged Failures ( POOL\_PAGED\_FAILURES )
- Pool Paged Peak ( POOL\_PAGED\_PEAK )
- Server Pool Nonpaged Bytes ( SERVER\_POOL\_NONPAGED\_BYTES )
- Server Pool Paged Bytes ( SERVER\_POOL\_PAGED\_BYTES )
- Server Sessions ( SERVER\_SESSIONS )
- Sessions Errored Out ( SESSIONS\_ERRORED\_OUT )
- Sessions Forced Off ( SESSIONS\_FORCED\_OFF )
- Sessions Logged Off ( SESSIONS\_LOGGED\_OFF )
- Sessions Timed Out ( SESSIONS\_TIMED\_OUT )
- Work Item Shortages ( WORK\_ITEM\_SHORTAGES )

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	Yes	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部 : 3,235 バイト

可変部 : 0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Committed Bytes in Use ( PCT_COMM ITTED_BYTE S_IN_USE )	仮想メモリーの使用率 ( % )。 Commit Limit Mbytes に対する Committed Mbytes の割 合。	%	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
% Physical Mem ( PCT_PHYSI CAL_MEMOR Y )	物理メモリーの使用率 ( % )。	%	doubl e	No	-	100 * USED_PHYSI CAL_MEMOR Y_BYTES / TOTAL_PHYS ICAL_MEMOR Y_KBYTES
% Registry Quota in Use ( PCT_REGIS TRY_QUOTA_I N_USE )	プロセッサで、利用できるすべてのレジストリー クォータのうち、システムが使用している割合 ( % )。	%	float	No	-	-
% Total DPC Time ( PCT_TOTAL _DPC_TIME )	標準割り込みより低い優 先順位で実行される特権 モードの DPC ( 遅延プ ロシージャ呼び出し ) 割 り込み処理で実行したプ ロセッサの使用率 ( % )。 マルチプロセッサ環境に かかわらず最大値は 「100」で表示される。	%	float	No	-	-
% Total Interrupt Time ( PCT_TOTAL _INTERRUPT _TIME )	ハードウェア ( システム クロック、マウス、ディ スクドライバ、データ通 信ライン、NIC、その他 周辺機器などの割り込み が発生するデバイス ) 割 り込み処理で実行したプ ロセッサの使用率 ( % )。 マルチプロセッサ環境に かかわらず最大値は 「100」で表示される。	%	float	No	-	-
Active CPUs ( NUMBER_O F_ACTIVE_CP US )	プロセッサ数。	COP Y	ulong	No	-	-
Alignment Fixups/sec ( ALIGNMEN T_FIXUPS_PE R_SEC )	プロセッサで、システム が固定した整列フォール トの割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Async Copy Reads/sec ( ASYNC_CO PY_READS_P ER_SEC )	キャッシュからアプリ ケーションのバッファに メモリーコピー処理を含 む、ファイルシステム キャッシュのページから 非同期読み込みが発生し た割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Async Data Maps/sec ( ASYNC_DA TA_MAPS_PE R_SEC )	ファイルシステムキャッ シュにマッピングした ページがメインメモリー にない場合、そのページ を取り出すまで待機しな い割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Async Fast Reads/sec ( ASYNC_FAS T_READS_PE R_SEC )	ファイルシステムを介さ ないでキャッシュから直 接データを非同期取り出 しが発生した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Async MDL Reads/sec ( ASYNC_MD L_READS_PE R_SEC )	ファイルシステムキャッ シュのページのアクセス に、MDL (メモリー記 述子リスト) を使用し、 非同期読み込みが発生し た割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Async Pin Reads/sec ( ASYNC_PIN _READS_PER _SEC )	データをディスク上に書 き戻す前処理で、ファイ ルシステムキャッシュ内 に非同期読み込みが発生 した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Available Mbytes ( AVAILABLE _BYTES )	物理メモリー領域の未使 用サイズ (メガバイト単 位) プロセスへの割り当て、 またはシステムがすぐに 利用できるゼロメモ リー、空きメモリー、お よびスタンバイメモリー (キャッシュ済み) の領 域の合計。 通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの 5% より少 ない状態の場合、過度な ページングが発生してい ることを示す。	AVG	doubl e	No	-	-
Blocking Reqs Rejected ( BLOCKING_ REQUESTS_R EJECTED )	サーバが空の作業項目数 が不足したため、SMB( ファイルサービスやプリ ントサービスを実現する ためのネットワークプロ トコル) のブロッキング を拒否した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Bytes Rcvd/sec ( BYTES_REC EIVED_PER_S EC )	サーバがネットワークか ら受信したデータ量の割 合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ース
Bytes Total/sec ( BYTES_TOT AL_PER_SEC )	サーバがネットワークと の間で送受信したデー タ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	-
Bytes Xmitd/ sec ( BYTES_TRA NSMITTED_P ER_SEC )	サーバがネットワークに 送信したデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
CPU % ( PCT_TOTAL _PROCESSOR _TIME )	プロセッサの使用率 ( % )。プロセッサが非ア イドル状態のスレッドを 実行した経過時間の割 合。マルチプロセッサ環 境にかかわらず最大値は 「100」で表示される。	%	float	No	-	-
Cache Faults/ sec ( CACHE_FA ULTS_PER_S EC )	ファイルシステムキャッ シュでページフォルトが 発生した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Cache Mbytes ( CACHE_BY TES )	ファイルシステムキャッ シュの使用中のサイズ ( メガバイト単位 )	AVG	doubl e	No	-	-
Cache Mbytes Peak ( CACHE_BY TES_PEAK )	ファイルシステムキャッ シュの使用していた最大 サイズ ( メガバイト単 位 )	AVG	doubl e	No	-	-
Commit Limit Mbytes ( COMMIT_LI MIT )	仮想メモリー領域の合計 サイズ ( メガバイト単 位 ) ページングファイルの拡 張を必要としないでコ ミットできるメモリー領 域の合計。	AVG	doubl e	No	-	-
Committed Mbytes ( COMMITTE D_BYTES )	仮想メモリー領域の使用 ( コミット ) しているサ イズ ( メガバイト単位 ) 通常、継続的に Total Physical Mem Mbytes フィールドの値より大き い場合、より多くのメモ リーが必要な可能性があ ることを示す。	AVG	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
Conns Core ( CONNECTS _CORE )	OS 起動後に、オリジナルの MS-Net SMB プロトコルを稼働しているサーバに接続する必要があった回数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns LAN Manager 2.0 ( CONNECTS _LAN_MANA GER_20 )	LAN Manager 2.0 サーバ ( LMX サーバを含む ) との接続数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns LAN Manager 2.1 ( CONNECTS _LAN_MANA GER_21 )	LAN Manager 2.1 サーバ ( LMX サーバを含む ) との接続数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Windows NT ( CONNECTS _WINDOWS_ NT )	OS 起動後に、以前の OS と接続した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Context Blocks Queued/sec ( CONTEXT_ BLOCKS_QUE UED_PER_SE C )	サーバで作業コンテキストブロックが処理待ちのため、FSP キューに入れられる必要があった数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Context Switches/sec ( CONTEXT_ SWITCHES_P ER_SEC )	すべてのプロセスのスレッドによって、プロセスで発生したコンテキストスイッチ ( 実行スレッドが任意にプロセスを解放する場合、優先順位が高いスレッドによって割り込まれる場合、Executive またはサブシステムサービスを使用するためにユーザーモードと特権モードの間で切り替わる場合 ) の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Copy Read Hits % ( COPY_REA D_HITS_PCT )	ファイルシステムキャッシュのページからの読み込み要求の割合 ( % )	%	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Copy Reads/sec ( COPY_REA DS_PER_SEC )	キャッシュからアプリ ケーションのバッファに メモリーコピー処理を含 む、ファイルシステム キャッシュのページから 読み込みが発生した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Current Commands ( CURRENT_ COMMANDS )	処理待ちのためキューに 入っているリダイレクタ への要求の数。	AVG	ulong	No	-	-
Current Processes ( CURRENT_ PROCESSES )	プロセッサで、実行中の プロセス数。	AVG	ulong	No	-	-
Current Threads ( CURRENT_ THREADS )	プロセッサで、実行中の スレッド数。	AVG	ulong	No	-	-
Data Flush Pages/sec ( DATA_FLUS H_PAGES_P R_SEC )	ファイルシステムキャッ シュがキャッシュの内容 をディスクに書き込んだ 回数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Data Flushes/ sec ( DATA_FLUS HES_PER_SE C )	ファイルシステムキャッ シュがキャッシュの内容 をディスクに書き込んだ 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Data Map Hits % ( DATA_MAP_ HITS_PCT )	ページングが発生しない でファイルシステム キャッシュにページを マッピングした要求の割 合 ( % )	%	float	No	-	-
Data Map Pins/ sec ( DATA_MAP_ PINS_PER_SE C )	サポート対象外のため、 常に「0」。	AVG	float	No	-	-
Data Maps/sec ( DATA_MAP S_PER_SEC )	ファイルシステムキャッ シュにページをマッピン グした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Demand Zero Faults/sec ( DEMAND_Z ERO_FAULTS _PER_SEC )	ページフォルトを解決す るために必要なゼロペー ジ ( 以前保存されていた データが空になったゼロ だけのページ ) 数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Errors Access Permissions ( ERRORS_A CCESS_PERM ISSIONS )	OS 起動後に、ユーザ ーが ( クライアントとし て ) 適切に保護されてい ないファイルにアクセス しているため、ファイル オープンエラーで STATUS_ACCESS_DE NIED が発生した回数。 履歴レポートで要約した 場合、最大値が表示され る。	HI	ulong	No	-	-
Errors Granted Access ( ERRORS_G RANTED_ACC ESS )	OS 起動後に、正常に オープンしているファイ ルに権限を持たないユー ザーがアクセスしたた め、アクセス拒否された 回数。履歴レポートで要 約した場合、最大値が表 示される。	HI	ulong	No	-	-
Errors Logon ( ERRORS_L OGON )	OS 起動後に、サーバへ ログオンに失敗した回 数。サーバのセキュリ ティを破ることを目的と するパスワード推測プロ グラムなどが使用されて いるかを示す。履歴レ ポートで要約した場合、 最大値が表示される。	HI	ulong	No	-	-
Errors System ( ERRORS_SY STEM )	OS 起動後に、サーバで 予期しないエラーが発生 した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Events ( EVENTS )	アクティブなイベント ( 二つ以上のスレッドが それぞれの実行の同期を 取る ) 数。	AVG	ulong	No	-	-
Exception Dispatches/sec ( EXCEPTIO N_DISPATCH ES_PER_SEC )	プロセッサで、システム がディスパッチした例外 の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Fast Read Not Possibles/sec ( FAST_READ _NOT_POSSIB LES_PER_SE C )	ファイルシステムを呼び 出さないうで、API コール でファイルシステム キャッシュ内のデータを取 得しようとしたが、で きなかつた割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fast Read Resource Misses/sec ( FAST_READ _RESOURCE_ MISSES_PER_ SEC )	リソース不足で要求を処 理できなかつたために、 キャッシュミスが発生し た割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Fast Reads/sec ( FAST_READ S_PER_SEC )	ファイルシステムを介さ ないうでにキャッシュから 直接データを取り出した 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
File Control Bytes/sec ( FILE_CONT ROL_BYTES_ PER_SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの読み 込みおよび書き込み以外 の操作で、転送したデー タ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
File Control Ops/sec ( FILE_CONT ROL_OPERAT IONS_PER_SE C )	プロセッサで、ファイル システムのデータの読み 込みおよび書き込み以外 の操作が発生した数の割 合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
File Data Ops/ sec ( FILE_DATA _OPERATION S_PER_SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの読み 込みおよび書き込み操作 が発生した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
File Directory Searches ( FILE_DIRE CTORY_SEAR CHES )	サーバで現在アクティブ なファイルに対する検索 回数。	AVG	ulong	No	-	-
File Read Bytes/sec ( FILE_READ _BYTES_PER_ SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの読み 込み操作で、転送した データ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
File Read Ops/ sec ( FILE_READ _OPERATION S_PER_SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの読み 込み操作が発生した数の 割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
File Write Bytes/sec ( FILE_WRIT E_BYTES_PE R_SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの書き 込み操作で、転送した データ量の割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
File Write Ops/ sec ( FILE_WRIT E_OPERATIO NS_PER_SEC )	プロセッサで、ファイル システムのデータの書き 込み操作が発生した数の 割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Files Open ( FILES_OPE N )	サーバで現在開かれてい るファイルの数。	AVG	ulong	No	-	-
Files Opened Total ( FILES_OPE NED_TOTAL )	OS 起動後に、サーバが クライアントに代わって ファイルオープンに成功 した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Floating Emulations/sec ( FLOATING_ EMULATIONS _PER_SEC )	プロセッサで、システム が実行したフローティン グエミュレーションの割 合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Free System Page Table Entries ( FREE_SYST EM_PAGE_TA BLE_ENTRIE S )	システムが使用していな いページテーブルエント リ-の数。	AVG	ulong	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Lazy Write Flushes/sec ( LAZY_WRIT E_FLUSHES_ PER_SEC )	遅延書き込み (メモリー 上でページが変更された あとでディスクを更新す る処理) スレッドが、 キャッシュの内容をディ スクに書き込んだ割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Lazy Write Pages/sec ( LAZY_WRIT E_PAGES_PE R_SEC )	遅延書き込み (メモリー 上でページが変更された あとでディスクを更新す る処理) スレッドが、 ページをディスクに書き 込んだ割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Logon Total ( LOGON_TO TAL )	OS 起動後に、サーバに 対し、対話式ログオン、 ネットワークログオン、 サービスログオン、成功 したログオン、および失 敗したログオンの合計 数。	COP Y	ulong	No	-	-
Logon/sec ( LOGON_PE R_SEC )	対話式ログオン、ネット ワークログオン、サービ スログオン、成功したロ グオン、および失敗した ログオンが発生した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
MDL Read Hits % ( MDL_READ _HITS_PCT )	ファイルシステムキャッ シュのページのアクセス に、MDL (メモリー記 述子リスト) を使用し、 読み込みした要求の割合 ( % )	%	float	No	-	-
MDL Reads/sec ( MDL_READ S_PER_SEC )	ファイルシステムキャッ シュのページのアクセス に、MDL (メモリー記 述子リスト) を使用し、 読み込みが発生した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Mutexes ( MUTEXES )	アクティブなミューテッ クス (スレッドの実行を 制御し、一つのスレッド を実行できるようにす る) 数。	AVG	ulong	No	-	-
Net Errors/sec ( NETWORK_ ERRORS_PER _SEC )	リダイレクタとサーバで 重大な通信障害のため、 予期しないエラーが発生 した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ- ート 対象外	データソース
Non Committed Mbytes ( NON_COM MITTED_BYT ES )	仮想メモリー領域の未使用サイズ ( メガバイト単位 )	AVG	doubl e	No	-	COMMIT_LIM IT - COMMITTED_ BYTES
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	ページフォルトが発生した数の割合 ( / 秒 )。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーのボトルネックを示す。	AVG	float	No	-	-
Page Reads/sec ( PAGE_REA DS_PER_SEC )	ページフォルトが発生した時にページインした操作数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Page Writes/ sec ( PAGE_WRIT ES_PER_SEC )	ページフォルトが発生した時にページアウトした操作数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pages Input/ sec ( PAGES_INP UT_PER_SEC )	ページフォルトが発生した時にページインしたページ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pages Output/ sec ( PAGES_OU TPUT_PER_S EC )	ページフォルトが発生した時にページアウトしたページ数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pages/sec ( PAGES_PER _SEC )	ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。	AVG	float	No	-	-
Pin Read Hits % ( PIN_READ_ HITS_PCT )	ファイルシステムキャッシュ内のページにアクセスするためにディスク上のデータ読み取り要求をしなかった割合 ( % )	%	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Pin Reads/sec ( PIN_READS _PER_SEC )	データをディスク上に書き戻す前処理で、ファイルシステムキャッシュ内に読み込まれた割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts Rcvd/sec ( PACKETS_R ECEIVED_P R_SEC )	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] ともいう) を受信した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts Xmitd/sec ( PACKETS_T RANSMITTE D_PER_SEC )	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] ともいう) を送信した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pkts/sec ( PACKETS_P ER_SEC )	リダイレクタがパケット (サーバメッセージブロック [SMB] ともいう) を処理した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Pool Nonpaged Allocs ( POOL_NON PAGED_ALLO CS )	システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト不可能な物理メモリー領域を割り当てた回数。	AVG	ulong	No	-	-
Pool Nonpaged Bytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト不可能な物理メモリーのサイズ (バイト単位)。通常、サーバの活動状況が増加していない状態でこのフィールドが一様に増加している状態の場合、メモリーリークを生じているプロセスが実行されている可能性がある。	AVG	doubl e	No	-	-
Pool Nonpaged Failures ( POOL_NON PAGED_FAIL URES )	サーバで、物理メモリーが少な過ぎるために、ページング不可能なメモリーの割り当てに失敗した平均回数 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Pool Nonpaged Peak ( POOL_NON PAGED_PEAK )	OS 起動後のある時点で サーバが使用していた、 システムのコンポーネン トがタスクを実行する時 に領域を取得した場所 であるページング不可能な メモリーサイズの最大値 (バイト単位)。 このフィールドは、コン ピュータに搭載する物理 メモリーの指標となる 値。	AVG	doubl e	No	-	-
Pool Paged Allocs ( POOL_PAG ED_ALLOCS )	システムのコンポーネン トがタスクを実行する時 に領域を取得した場所 である、ページアウト可能 な物理メモリー領域を、 割り当てた回数。	AVG	ulong	No	-	-
Pool Paged Bytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	システムのコンポーネン トがタスクを実行する時 に領域を取得した場所 である、ページアウト可能 な物理メモリーのサイズ (キロバイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	-
Pool Paged Failures ( POOL_PAG ED_FAILURE S )	OS 起動後に、サーバで 物理メモリーまたは仮想 メモリーが少な過ぎるた めに、ページング可能な メモリーの割り当てに失 敗した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Pool Paged Peak ( POOL_PAG ED_PEAK )	OS 起動後のある時点で サーバが割り当てた、シ ステムのコンポーネン トがタスクを実行する時 に領域を取得した場所 であるページング可能なメモ リーサイズの最大値 (バ イト単位)。 このフィールドは、コン ピュータに搭載する物理 メモリーと仮想メモリー の設定値の指標となる 値。	AVG	doubl e	No	-	-
Pool Paged Resident Bytes ( POOL_PAG ED_RESIDEN T_BYTES )	システムのコンポーネン トがタスクを実行する時 に領域を取得した場所 である、ページアウト可能 な常駐する物理メモリー のサイズ (キロバイト単 位)。	AVG	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Privileged CPU % ( PCT_TOTAL _PRIVILEGED _TIME )	特権モードで実行したプロセッサの使用率(%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドを特権モードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は 100 で表示される。	%	float	No	-	-
Processes ( PROCESSE S )	メモリー上に保持しているアクティブなプロセス数。	AVG	ulong	No	-	-
Processor Queue Length ( PROESSO R_QUEUE_LE NGTH )	プロセッサのキューにあるスレッドの数です。ディスクカウンタとは異なり、このカウンタは実行準備ができていますレッドだけをカウントし、実行中のスレッドはカウントしません。プロセッサが複数ある場合でもプロセッサ時間のキューは一つです。	AVG	ulong	No	-	-
Read Aheads/ sec ( READ_AHE ADS_PER_SE C )	キャッシュマネージャーがファイルへ順次アクセスを検出し、ファイルシステムキャッシュから読み取りが発生した割合( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Bytes Cache/sec ( READ_BYT ES_CACHE_P ER_SEC )	アプリケーションがリダイレクタを使用してファイルシステムキャッシュに読み込んだ割合( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Bytes Net/sec ( READ_BYT ES_NETWORK _PER_SEC )	データがファイルシステムキャッシュになかったために、アプリケーションがネットワークを介して読み込んだデータ量の割合( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Bytes Nonpaging/sec ( READ_BYT ES_NON_PAG ING_PER_SE C )	リダイレクタによってアプリケーションの通常のファイル要求を、ネットワークコンピュータに対して読み込んだデータ量の割合( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Read Bytes Paging/sec ( READ_BYT ES_PAGING_P ER_SEC )	リダイレクタがアプリ ケーションのページフォ ルトでデータを読み込ん だデータ量の割合 ( バイ ト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Ops Random/sec ( READ_OPE RATIONS_RA NDOM_PER_S EC )	特定のファイルハンドル を使用してファイルごと データを取得し、デー タをランダムに読み込み操 作をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Pkts Small/sec ( READ_PAC KETS_SMALL _PER_SEC )	アプリケーションがサー バの調整バッファサイズ の 4 分の 1 未満の読み込 み操作をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Read Pkts/sec ( READ_PAC KETS_PER_S EC )	読み込みパッケージがネッ トワークにデータの読み 込み要求をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Reads Denied/ sec ( READS_DE NIED_PER_S EC )	サーバが読み込み要求を 受け入れられなかった割 合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Reads Large/ sec ( READS_LA RGE_PER_SE C )	アプリケーションがサー バの調整バッファサイズ の 2 倍以上の読み込み操 作をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に「PI」	COP Y	char( 8)	No	-	-
Redir Bytes Rcvd/sec ( REDIR_BYT ES_RECEIVE D_PER_SEC )	ネットワークからリダイ レクタに受信したデー タ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Redir Bytes Total/sec ( REDIR_BYT ES_TOTAL_P ER_SEC )	リダイレクタがネット ワークから送受信した データ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Redir Bytes Xmitd/sec ( REDIR_BYT ES_TRANSMI TTED_PER_S EC )	リダイレクタからネット ワークに送信したデー タ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Redir File Data Ops/sec ( REDIR_FIL E_DATA_OPE RATIONS_PE R_SEC )	リダイレクタがデータ操 作を処理している割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Redir File Read Ops/sec ( REDIR_FIL E_READ_OPS _PER_SEC )	アプリケーションがリダ イレクタにデータを要求 した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Redir File Write Ops/sec ( REDIR_FIL E_WRITE_OP S_PER_SEC )	アプリケーションがリダ イレクタにデータを送信 した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Redir Server Sessions ( REDIR_SER VER_SESSIO NS )	OS 起動後に、リダイレ クタが管理しているセ キュリティオブジェクト のセッション数。	AVG	ulong	No	-	-
Sections ( SECTIONS )	アクティブなセクション ( プロセスがデータ格納 用に作成する仮想メモ リー領域 ) 数。	AVG	ulong	No	-	-
Semaphores ( SEMAPHOR ES )	アクティブなセマフォ ( 別のスレッドと共有し ているデータに対する排 他的アクセスをセマフォ を使用して取得する ) 数。	AVG	ulong	No	-	-
Server Disconnects ( SERVER_DI SCONNECTS )	OS 起動後に、サーバが リダイレクタとの接続を 切断した回数。	AVG	ulong	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Server Pool Nonpaged Bytes ( SERVER_PO OL_NONPAGE D_BYTES )	サーバが使用している、システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページング不可能なメモリーサイズ (バイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	-
Server Pool Paged Bytes ( SERVER_PO OL_PAGED_B YTES )	サーバが使用している、システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページング可能なメモリーサイズ (バイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	-
Server Reconnects ( SERVER_RE CONNECTS )	OS 起動後に、リダイレクタが新しいアクティブ要求を完了するためにサーバに再接続する必要があった回数。	AVG	ulong	No	-	-
Server Sessions ( SERVER_SE SSIONS )	サーバでアクティブなセッション数。	AVG	ulong	No	-	-
Server Sessions Hung ( SERVER_SE SSIONS_HUN G )	リモートサーバからの応答がなくタイムアウトになり、処理を継続できないアクティブなセッション数。	AVG	ulong	No	-	-
Sessions Errored Out ( SESSIONS_ ERRORED_O UT )	OS 起動後に、予期しないエラーまたは自動切断タイムアウトや正常に接続したセッションによって終了したセッション数。	AVG	ulong	No	-	-
Sessions Forced Off ( SESSIONS_ FORCED_OFF )	OS 起動後に、強制的にログオフされたセッション数。	AVG	ulong	No	-	-
Sessions Logged Off ( SESSIONS_ LOGGED_OFF )	OS 起動後に、正常終了したセッション数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Sessions Timed Out ( SESSIONS_ TIMED_OUT )	OS 起動後に、アイドル 時間がサーバの AutoDisconnect パラ メーター値を超過したた めに終了したセッション 数。	AVG	ulong	No	-	-
Sync Copy Reads/sec ( SYNC_COP Y_READS_PE R_SEC )	キャッシュからアプリ ケーションのバッファに メモリーコピー処理を含 む、ファイルシステム キャッシュのページから 同期読み込みが発生した 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sync Data Maps/sec ( SYNC_DATA _MAPS_PER_ SEC )	ファイルシステムキャッ シュにマッピングした ページがメインメモリー にない場合、そのページ を取り出すまで待機する 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sync Fast Reads/sec ( SYNC_FAST _READS_PER _SEC )	ファイルシステムを介さ ないでキャッシュから直 接データを同期取り出し が発生した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sync MDL Reads/sec ( SYNC_MDL _READS_PER _SEC )	ファイルシステムキャッ シュのページのアクセス に、MDL ( メモリー記 述子リスト ) を使用し、 同期読み込みが発生した 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Sync Pin Reads/sec ( SYNC_PIN_ READS_PER_ SEC )	データをディスク上に書 き戻す前処理で、ファイ ルシステムキャッシュ内 に同期読み込みが発生し た割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
System Cache Resident Bytes ( SYSTEM_C ACHE_RESID ENT_BYTES )	OS コード ( Ntoskrnl.exe , Hal.dll , ブートドライバ , Ntldr/ osloader が読み込むファ イルシステム ) が使用す る、ファイルシステム キャッシュ内のページン グ可能な物理メモリーサ イズ ( バイト単位 )	AVG	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
System Calls/ sec ( SYSTEM_C ALLS_PER_SE C )	プロセッサで、実行中の プロセスがシステムサー ビスルーチンを呼び出し た数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
System Code Resident Bytes ( SYSTEM_C ODE_RESIDE NT_BYTES )	OS コード ( Ntoskrnl.exe , Hal.dll , ブートドライバ , Ntldr/ osloader が読み込むファ イルシステム ) が使用す る、ページング可能な物 理メモリーサイズ ( バイ ト単位 )。	AVG	doubl e	No	-	-
System Code Total Bytes ( SYSTEM_C ODE_TOTAL_ BYTES )	OS コード ( Ntoskrnl.exe , Hal.dll , ブートドライバ , Ntldr/ osloader が読み込むファ イルシステム ) が使用す る、ページング可能な仮 想メモリーサイズ ( バイ ト単位 )。	AVG	doubl e	No	-	-
System Driver Resident Bytes ( SYSTEM_D RIVER_RESID ENT_BYTES )	デバイスドライバが使用 するページング可能な物 理メモリー領域のサイズ ( バイト単位 )。	AVG	doubl e	No	-	-
System Driver Total Bytes ( SYSTEM_D RIVER_TOTA L_BYTES )	デバイスドライバが使用 するページング可能な仮 想メモリー領域のサイズ ( バイト単位 )。	AVG	doubl e	No	-	-
System Type ( SYSTEM_TY PE )	プロセッサの種類。	COP Y	string (50)	No	-	-
System Up Time ( SYSTEM_U P_TIME )	OS が起動してからの稼 働経過時間 ( 秒単位 )。	COP Y	ulong	No	-	-
Threads ( THREADS )	メモリー上に保持してい るアクティブなスレッド 数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Total APC Bypasses/sec ( TOTAL_APC _BYPASSES_P ER_SEC )	プロセッサが、カーネル APC ( 非同期プロシー ジャ呼び出し ) 割り込み を回避された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	2003 (x86), 2003 (x64), 2008 (x86), 2008 (x64)	-
Total DPC Bypasses/sec ( TOTAL_DPC _BYPASSES_P ER_SEC )	プロセッサが、標準割り 込みより低い優先順位で 実行される特権モードの DPC ( 遅延プロシー ジャ呼び出し ) 割り込み を回避された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	2003 (x86), 2003 (x64), 2008 (x86), 2008 (x64)	-
Total DPC Rate ( TOTAL_DPC _RATE )	標準割り込みより低い優 先順位で実行される特権 モードの DPC ( 遅延プ ロシージャ呼び出し ) 割り 込みが、プロセッサの DPC キューに追加され たプロセッサクロックの タイマチェック間での平 均値。	AVG	ulong	No	-	-
Total DPCs Queued/sec ( TOTAL_DPC S_QUEUED_P ER_SEC )	標準割り込みより低い優 先順位で実行される特権 モードの DPC ( 遅延プ ロシージャ呼び出し ) 割 り込みが、プロセッサの DPC キューに追加され た数の平均値 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Total Interrupts/sec ( TOTAL_INT ERRUPTS_P ER_SEC )	プロセッサが、ハード ウェア ( システムクロッ ク、マウス、ディスクド ライバ、データ通信ライ ン、NIC、その他周辺機 器などの割り込みが発生 するデバイス ) 割り込み を受信処理した数の割合 ( / 秒 )。 DPC ( 遅延プロシー ジャ呼び出し ) 割り込み は含まれない。通常、シ ステムの活動状況がない 状態で、このフィールド が大幅に増加している状 態の場合、低速なデバイ スが存在するなどのハー ドウェアの問題を示す。	AVG	float	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	デー タソ ース
Total Physical Mem Mbytes ( TOTAL_PHYSICAL_MEMORY_KBYTES )	物理メモリー領域の合計サイズ (メガバイト単位)。	COPY	double	No	-	ReturnValue / 1MB
Trans Pages RePurposed/sec ( TRANS_PAGES_REPURPOSED_PER_SECOND )	キャッシュ内に残り、異なる目的で再使用した移行キャッシュのページ数の割合 ( / 秒 )。	AVG	double	No	-	-
Transition Faults/sec ( TRANSITION_FAULTS_PER_SECOND )	ページフォルトが発生した時に、共有している別のプロセスによって使われていたページ、または更新されたページリストもしくはスタンバイリストにあるページを回復することによって、ページングしなかった数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Used Physical Mem Mbytes ( USED_PHYSICAL_MEMORY_BYTES )	物理メモリー領域の使用サイズ (メガバイト単位)。	AVG	double	No	-	TOTAL_PHYSICAL_MEMORY_KBYTES - AVAILABLE_BYTES
User CPU % ( PCT_TOTAL_USER_TIME )	ユーザーモードで実行したプロセッサの使用率 (%)。プロセッサが非アイドル状態のスレッドをユーザーモードで実行した経過時間の割合。マルチプロセッサ環境にかかわらず最大値は「100」で表示される。	%	float	No	-	-
Work Item Shortages ( WORK_ITEM_SHORTAGES )	受信通知時に STATUS_DATA_NOT_ACCEPTED (作業アイテムが利用できない、または作業アイテムを割り当てできない) が戻された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Write Bytes Cache/sec ( WRITE_BYTES_CACHE_PER_SECOND )	アプリケーションがリダイレクタを使用してファイルシステムキャッシュに書き込みした割合 (バイト / 秒)。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### System Overview (PI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Write Bytes Net/sec ( WRITE_BYT ES_NETWORK PER_SEC )	データがファイルシステ ムキャッシュになかった ために、アプリケーション がネットワークを介し て書き込んだデータ量の 割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Bytes Nonpaging/sec ( WRITE_BYT ES_NON_PAG ING_PER_SE C )	リダイレクトによってア プリケーションの通常の ファイル要求を、ネット ワークコンピュータに対 して書き込みした割合 ( バイト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Bytes Paging/sec ( WRITE_BYT ES_PAGING_P ER_SEC )	リダイレクトがアプリ ケーションのページフォ ルトでデータを書き込ん だデータ量の割合 ( バイ ト / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Copies/ sec ( WRITE_COP IES_PER_SEC )	ページフォルトが発生し た時に物理メモリーにあ る別の場所からページを コピーした数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Ops Random/sec ( WRITE_OPE RATIONS_RA NDOM_PER_S EC )	特定のファイルハンドル を使用してファイルごと データを取得し、データ をランダムに書き込み操 作した割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Pkts Small/sec ( WRITE_PAC KETS_SMALL _PER_SEC )	アプリケーションがサー バの調整バッファサイズ の 4 分の 1 未満の書き込 み操作をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Write Pkts/sec ( WRITE_PAC KETS_PER_S EC )	書き込みバケットがネット ワークにデータの書き 込み要求をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Writes Denied/ sec ( WRITES_DE NIED_PER_S EC )	サーバが書き込み要求を 受け入れられなかった割 合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Writes Large/ sec ( WRITES_LA RGE_PER_SE C )	アプリケーションがサー バの調整バッファサイズ の 2 倍以上の書き込み操 作をした割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-

## TCP Overview (PI\_TCP)

### 機能

TCP Overview (PI\_TCP) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 4 の TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合や TCP の接続数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：825 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Conn Failures ( CONNECTI ON_FAILURE S )	OS 起動後に、TCP 接続が SYN-SENT 状態または SYN-RCVD 状態から CLOSED 状態へ直接移行した回数と、TCP 接続が SYN-RCVD 状態から LISTEN 状態に直接移行した回数の合計値。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### TCP Overview (PI\_TCP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Conns Active ( CONNECTI ONS_ACTIVE )	OS 起動後に、TCP 接続 が CLOSED 状態から SYN-SENT 状態に直接 移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Established ( CONNECTI ONS_ESTABL ISHED )	ESTABLISHED 状態ま たは CLOSE-WAIT 状態 のどちらかだった TCP 接続数の合計値。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Passive ( CONNECTI ONS_PASSIVE )	OS 起動後に、TCP 接続 が LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に直接 移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Reset ( CONNECTI ONS_RESET )	OS 起動後に、TCP 接続 が ESTABLISHED 状態 または CLOSE-WAIT 状 態から CLOSED 状態に 直接移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「TCP」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Segments Rcvd/sec ( SEGMENTS _RECEIVED_ PER_SEC )	セグメントを受信した割 合 ( / 秒 ) 。エラー受信、 および確立された接続上 にあるものを含む。	AVG	float	No	-	-
Segments Retransmitted/ sec ( SEGMENTS _RETRANSMI TTED_PER_S EC )	以前に転送された 1 バイ ト以上のデータが入って いるセグメントを再転送 した割合 ( / 秒 ) 。	AVG	float	No	-	-



PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Segments Sent/ sec ( SEGMENTS _SENT_PER_S EC )	セグメントが送信された割合 ( / 秒 )。接続しているセグメントは含まれるが、再送バイトを含むセグメントは含まれない。	AVG	float	No	-	-
Segments/sec ( SEGMENTS _PER_SEC )	TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

## TCP Version 6 Overview (PI\_TCP6)

### 機能

TCP Version 6 Overview (PI\_TCP6) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 6 の TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合や TCP の接続数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：825 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 (PFM-Manager 名)	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Conn Failures (CONNECTI ON_FAILURE S)	OS 起動後に、TCP 接続が SYN-SENT 状態または SYN-RCVD 状態から CLOSED 状態へ直接移行した回数と、TCP 接続が SYN-RCVD 状態から LISTEN 状態に直接移行した回数の合計値。	AVG	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象外	デー タソ ース
Conns Active ( CONNECTI ONS_ACTIVE )	OS 起動後に、TCP 接続 が CLOSED 状態から SYN-SENT 状態に直接 移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Established ( CONNECTI ONS_ESTABL ISHED )	ESTABLISHED 状態ま たは CLOSE-WAIT 状態 のどちらかだった TCP 接続数の合計値。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Passive ( CONNECTI ONS_PASSIVE )	OS 起動後に、TCP 接続 が LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に直接 移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Conns Reset ( CONNECTI ONS_RESET )	OS 起動後に、TCP 接続 が ESTABLISHED 状態 または CLOSE-WAIT 状 態から CLOSED 状態に 直接移行した回数。	AVG	ulong	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) 。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「TCP6」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Segments Rcvd/sec ( SEGMENTS _RECEIVED_ PER_SEC )	セグメントを受信した割 合 ( / 秒 ) 。エラー受信、 および確立された接続上 にあるものを含む。	AVG	float	No	-	-
Segments Retransmitted/ sec ( SEGMENTS _RETRANSMI TTED_PER_S EC )	以前に転送された 1 バイ ト以上のデータが入って いるセグメントを再転送 した割合 ( / 秒 ) 。	AVG	float	No	-	-

## 5. レコード

### TCP Version 6 Overview (PI\_TCP6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Segments Sent/ sec ( SEGMENTS _SENT_PER_S EC )	セグメントが送信された割合 ( / 秒 )。接続しているセグメントは含まれるが、再送バイトを含むセグメントは含まれない。	AVG	float	No	-	-
Segments/sec ( SEGMENTS _PER_SEC )	TCP プロトコルを使用して TCP セグメントが送受信された割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-

## UDP Overview (PI\_UDP)

### 機能

UDP Overview (PI\_UDP) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 4 の UDP プロトコルを使用して送受信された UDP データグラムについての割合、および UDP の各種エラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：761 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams No Port/sec ( DATAGRAM S_NO_PORT_ PER_SEC )	宛先ポートにアプリケーションが存在しない UDP データグラムを受 信した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Rcvd Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ ERRORS )	OS 起動後に、宛先ポー トにアプリケーションが 存在しない理由以外で配 送できなかった UDP データグラムの受信数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### UDP Overview (PI\_UDP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams Rcvd/sec ( DATAGRAM S_RECEIVED_ PER_SEC )	UDP ユーザーに配送さ れた UDP データグラム 数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Sent/sec ( DATAGRAM S_SENT_PER_ SEC )	エンティティが送信した UDP データグラム数の 割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams/sec ( DATAGRAM S_PER_SEC )	エンティティが送受信し た UDP データグラム数 の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「UDP」。	COP Y	char( 8)	No	-	-

## UDP Version 6 Overview (PI\_UDP6)

### 機能

UDP Version 6 Overview (PI\_UDP6) レコードには、インターネットプロトコルバージョン 6 の UDP プロトコルを使用して送受信された UDP データグラムについての割合、および UDP の各種エラー数などについての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：761 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Datagrams No Port/sec ( DATAGRAM S_NO_PORT_ PER_SEC )	宛先ポートにアプリケーションが存在しない UDP データグラムを受 信した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	-	-
Datagrams Rcvd Errors ( DATAGRAM S_RECEIVED_ ERRORS )	OS 起動後に、宛先ポー トにアプリケーションが 存在しない理由以外で配 送できなかった UDP データグラムの受信数。	AVG	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### UDP Version 6 Overview (PI\_UDP6)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Datagrams Rcvd/sec ( DATAGRAM S_RECEIVED_ PER_SEC )	UDP ユーザーに配送さ れた UDP データグラム 数の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Datagrams Sent/sec ( DATAGRAM S_SENT_PER_ SEC )	エンティティが送信した UDP データグラム数の 割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Datagrams/sec ( DATAGRAM S_PER_SEC )	エンティティが送受信し た UDP データグラム数 の割合 ( / 秒 )。	AVG	float	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 )。 リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「UDP6」。	COP Y	char( 8)	No	-	-



## User Data Detail ( PD\_UPD )

### 機能

User Data Detail ( PD\_UPD ) レコードは、ユーザーレコードの一つです。ある時点での状態を示すユーザー独自のパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_UPD\_TT
- PD\_UPD\_TS\_KEY
- PD\_UPD\_TD\_KEY

### ライフタイム

jpcuser コマンドが実行されたときから、次の jpcuser コマンドが実行されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：284 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード種類 ( UPD )	-	char (8)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 ( グリニッジ標準時 )	-	time_ t	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードを格納するため の間隔の秒の長さ。常に 「0」	-	ulong	No	-	-

## 5. レコード

## User Data Detail ( PD\_UPD )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Trans String Key ( TS_KEY )	文字列型のトランザク ションストリングキー。	-	string (20)	No	-	-
Trans Data Key ( TD_KEY )	数値型のトランザクシ ョンデータキー。	-	ulong	No	-	-
Trans Type ( TT )	トランザクションタイ プ。	-	string (20)	No	-	-
Collect Time ( API_TIME )	データが変換された時。	-	time_ t	No	-	-
User Long 1 ( L1 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Long 2 ( L2 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Unsigned Long 1 ( UL1 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 2 ( UL2 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Float 1 ( F1 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Float 2 ( F2 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Time 1 ( T1 )	時間値 ( PFM - Web Console のローカルタイ ムで表示されます )	-	time_ t	No	-	-
User String 1 ( S1 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 2 ( S2 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 3 ( S3 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 4 ( S4 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 5 ( S5 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 6 ( S6 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 7 ( S7 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-

## User Data Detail - Extended ( PD\_UPDB )

### 機能

User Data Detail - Extended ( PD\_UPDB ) レコードは、ユーザーレコードの一つです。ある時点での状態を示すユーザー独自のパフォーマンスデータが格納されます。User Data Detai ( PD\_UPD ) レコードより、多くのフィールドが用意されています。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PD\_UPDB\_TT
- PD\_UPDB\_TS\_KEY
- PD\_UPDB\_TD\_KEY

### ライフタイム

jpcuser コマンドが実行されたときから、次の jpcuser コマンドが実行されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：712 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード種類 ( UPDB )	-	char (8)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 ( グリニッジ標準時 )	-	time_ t	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードを格納するた めの間隔の秒の長さ。常に 「0」	-	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### User Data Detail - Extended ( PD\_UPDB )

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Trans String Key ( TS_KEY )	文字列型のトランザク ションストリングキー。	-	string (20)	No	-	-
Trans Data Key ( TD_KEY )	数値型のトランザクシ ョンデータキー。	-	ulong	No	-	-
Trans Type ( TT )	トランザクションタイ プ。	-	string (20)	No	-	-
Collect Time ( API_TIME )	データが変換された時。	-	time_ t	No	-	-
User Long 1 ( L1 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Long 2 ( L2 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Long 3 ( L3 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Long 4 ( L4 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Long 5 ( L5 )	long 型整数値。	-	doubl e	No	-	-
User Unsigned Long 1 ( UL1 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 2 ( UL2 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 3 ( UL3 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 4 ( UL4 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 5 ( UL5 )	unsigned long 型整数 値。	-	ulong	No	-	-
User Float 1 ( F1 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Float 2 ( F2 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Float 3 ( F3 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Float 4 ( F4 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-
User Float 5 ( F5 )	浮動小数点値。	-	doubl e	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User Time 1 ( T1 )	時間値 ( PFM - Web Console のローカルタイ ムで表示されます )	-	time_ t	No	-	-
User String 1 ( S1 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 2 ( S2 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 3 ( S3 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 4 ( S4 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 5 ( S5 )	サイズ 16 の文字列。	-	string (16)	No	-	-
User String 6 ( S6 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 7 ( S7 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 8 ( S8 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 9 ( S9 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 10 ( S10 )	サイズ 32 の文字列。	-	string (32)	No	-	-
User String 11 ( S11 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-
User String 12 ( S12 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-
User String 13 ( S13 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-
User String 14 ( S14 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-
User String 15 ( S15 )	サイズ 64 の文字列。	-	string (64)	No	-	-

## User Data Interval (PI\_UPI)

### 機能

User Data Interval (PI\_UPI) レコードは、ユーザーレコードの一つです。ある一定の時間を単位としたユーザー独自のパフォーマンスデータが格納されます。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PI\_UPI\_TT
- PI\_UPI\_TS\_KEY
- PI\_UPI\_TD\_KEY

### ライフタイム

jpcuser コマンドが実行されたときから、次の jpcuser コマンドが実行されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：396 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード種類 (UPI)	COP Y	char (8)	No	-	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 (グリニッジ標準時)	COP Y	time_ t	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードを格納するた めの間隔の秒の長さ。常に 「0」。	COP Y	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ー ス
Trans String Key ( TS_KEY )	文字列型のトランザク ションストリングキー。	COP Y	string (20)	No	-	-
Trans Data Key ( TD_KEY )	数値型のトランザクシ ョンデータキー。	COP Y	ulong	No	-	-
Trans Type ( TT )	トランザクションタイ プ。	COP Y	string (20)	No	-	-
Collect Time ( API_TIME )	データが変換された時。	COP Y	time_ t	No	-	-
User Long 1 ( L1 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long 2 ( L2 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long Roll 1 ( L1_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要 約時に加算されます ) 。	ADD	doubl e	No	-	-
User Long Roll 2 ( L2_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要 約時に加算されます ) 。	ADD	doubl e	No	-	-
User Unsigned Long 1 ( UL1 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 2 ( UL2 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 1 ( UL1_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 ( この フィールドは要約時に加 算されます ) 。	ADD	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 2 ( UL2_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 ( この フィールドは要約時に加 算されます ) 。	ADD	ulong	No	-	-
User Float 1 ( F1 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float 2 ( F2 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float Roll 1 ( F1_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます ) 。	ADD	doubl e	No	-	-
User Float Roll 2 ( F2_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます ) 。	ADD	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### User Data Interval (PI\_UPI)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
User Time 1 ( T1 )	時間値 ( PFM - Web Console のローカルタイ ムで表示されます )	COP Y	time_ t	No	-	-
User String 1 ( S1 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 2 ( S2 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 3 ( S3 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 4 ( S4 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 5 ( S5 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 6 ( S6 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 7 ( S7 )	サイズ 64 の文字列。	COP Y	string (64)	No	-	-



## User Data Interval - Extended ( PI\_UPIB )

### 機能

User Data Interval - Extended ( PI\_UPIB ) レコードは、ユーザーレコードの一つです。ある一定の時間を単位としたユーザー独自のパフォーマンスデータが格納されます。User Data Interval ( PI\_UPI ) より、多くのフィールドが用意されています。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

- PI\_UPIB\_TT
- PI\_UPIB\_TS\_KEY
- PI\_UPIB\_TD\_KEY

### ライフタイム

jpcuser コマンドが実行されたときから、次の jpcuser コマンドが実行されるまで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：992 バイト

### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ート 対 象 外	デー タ ソ ース
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 ( グリニッジ標準時 )	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード種類 ( UPIB )	COP Y	char (8)	No	-	-
Interval ( INTERVAL )	レコードを格納するための 間隔の秒の長さ。常に 「0」。	COP Y	ulong	No	-	-

## 5. レコード

### User Data Interval - Extended (PI\_UPIB)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Trans String Key ( TS_KEY )	文字列型のトランザク ションストリングキー。	COP Y	string (20)	No	-	-
Trans Data Key ( TD_KEY )	数値型のトランザクシ ョンデータキー。	COP Y	ulong	No	-	-
Trans Type ( TT )	トランザクションタイ プ。	COP Y	string (20)	No	-	-
Collect Time ( API_TIME )	データが変換された時。	COP Y	time_ t	No	-	-
User Long 1 ( L1 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long 2 ( L2 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long 3 ( L3 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long 4 ( L4 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long 5 ( L5 )	long 型整数値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Long Roll 1 ( L1_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Long Roll 2 ( L2_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Long Roll 3 ( L3_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Long Roll 4 ( L4_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Long Roll 5 ( L5_R )	蓄積された long 型整数 値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Unsigned Long 1 ( UL1 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポ ート 対象 外	デー タソ ース
User Unsigned Long 2 ( UL2 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 3 ( UL3 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 4 ( UL4 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long 5 ( UL5 )	unsigned long 型整数 値。	AVG	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 1 ( UL1_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 2 ( UL2_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 3 ( UL3_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 4 ( UL4_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	ulong	No	-	-
User Unsigned Long Roll 5 ( UL5_R )	蓄積された unsigned long 型整数値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	ulong	No	-	-
User Float 1 ( F1 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float 2 ( F2 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float 3 ( F3 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float 4 ( F4 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float 5 ( F5 )	浮動小数点値。	AVG	doubl e	No	-	-
User Float Roll 1 ( F1_R )	蓄積された浮動小数点値 (このフィールドは要約 時に加算されます)。	ADD	doubl e	No	-	-

## 5. レコード

### User Data Interval - Extended (PI\_UPIB)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User Float Roll 2 ( F2_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Float Roll 3 ( F3_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Float Roll 4 ( F4_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Float Roll 5 ( F5_R )	蓄積された浮動小数点値 ( このフィールドは要約 時に加算されます )。	ADD	doubl e	No	-	-
User Time 1 ( T1 )	時間値 ( PFM - Web Console のローカルタイ ムで表示されます )	COP Y	time_ t	No	-	-
User String 1 ( S1 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 2 ( S2 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 3 ( S3 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 4 ( S4 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 5 ( S5 )	サイズ 16 の文字列。	COP Y	string (16)	No	-	-
User String 6 ( S6 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 7 ( S7 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 8 ( S8 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 9 ( S9 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 10 ( S10 )	サイズ 32 の文字列。	COP Y	string (32)	No	-	-
User String 11 ( S11 )	サイズ 64 の文字列。	COP Y	string (64)	No	-	-
User String 12 ( S12 )	サイズ 64 の文字列。	COP Y	string (64)	No	-	-
User String 13 ( S13 )	サイズ 64 の文字列。	COP Y	string (64)	No	-	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User String 14 ( S14 )	サイズ 64 の文字列。	COPY	string (64)	No	-	-
User String 15 ( S15 )	サイズ 64 の文字列。	COPY	string (64)	No	-	-

## WINS Server Overview (PI\_WINS)

### 機能

WINS Server Overview (PI\_WINS) レコードには、WINS サーバサービスの通信についての、ある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

### 注意

- Windows Server 2003 (x64)、64 ビット版の Windows Server 2008 の場合は使用できません。
- ネットワークサービスの Windows インターネット ネーム サービス (WINS) のインストールが必要です。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	
Collection Offset	0	
Log	No	
LOGIF	空白	

### ODBC キーフィールド

なし

### ライフタイム

なし

### レコードサイズ

固定部：921 バイト

可変部：0 バイト

### フィールド

PFM-View 名 (PFM-Manager 名)	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Failed Queries/ sec (FAILED_QUE RIES_PER_S EC)	WINS サーバが受信に失敗したクエリー数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Failed Releases/sec ( FAILED_RE LEASES_PER _SEC )	WINS サーバが受信に失 敗したりリース数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Group Conflicts/sec ( GROUP_CO NFLICTS_PE R_SEC )	WINS サーバが受信した グループ登録が、デー タベース内のレコードと矛 盾していたため競合した 数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Group Registrations/ sec ( GROUP_RE GISTRATIONS _PER_SEC )	WINS サーバが受信した グループ登録数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Group Renewals/sec ( GROUP_RE NEWALS_PER _SEC )	WINS サーバが受信した グループリニューアル数 の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収 集間隔の時間 ( 秒単位 ) リアルタイムレポートの 場合、最初の値は「5」。 履歴レポートで要約した 場合、要約したレコード の合計を表示する。	ADD	ulong	No	2003 (x64), 2008 (x64)	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Queries/sec ( QUERIES_P ER_SEC )	WINS サーバがクエリー を受信した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成された時 刻。	COP Y	time_ t	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「 WINS 」	COP Y	char( 8)	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Releases/sec ( RELEASES_ PER_SEC )	WINS サーバが受信した リリース数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Successful Queries/sec ( SUCCESSF UL_QUERIES _PER_SEC )	WINS サーバが受信に成 功したクエリー数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-

## 5. レコード

### WINS Server Overview (PI\_WINS)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Successful Releases/sec ( SUCCESSFUL_RELEASES_PER_SEC )	WINS サーバが受信に成功したリリース数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Total Conflicts/sec ( TOTAL_NUMBER_OF_CONFLICTS_PER_SEC )	WINS サーバが認識した競合数の割合 ( / 秒 ) このフィールドは、Group Conflicts/sec フィールドと Unique Conflicts/sec フィールドの合計値。	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Total Registrations/sec ( TOTAL_NUMBER_OF_REGISTRATIONS_PER_SEC )	WINS サーバが受信した登録数の割合 ( / 秒 ) このフィールドは、Group Registrations/sec フィールドと Unique Registrations/sec フィールドの合計値。	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Total Renewals/sec ( TOTAL_NUMBER_OF_RENEWALS_PER_SEC )	WINS サーバが受信したリニューアル数の割合 ( / 秒 )。このフィールドは、Group Renewals/sec フィールドと Unique Renewals/sec フィールドの合計値。	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Unique Conflicts/sec ( UNIQUE_CONFLICTS_PER_SEC )	WINS サーバが受信した固有な登録とリニューアルが、データベース内のレコードと矛盾していたため競合した数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Unique Registrations/sec ( UNIQUE_REGISTRATIONS_PER_SEC )	WINS サーバが受信した固有な登録数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-
Unique Renewals/sec ( UNIQUE_RENEWALS_PER_SEC )	WINS サーバが受信した固有なリニューアル数の割合 ( / 秒 )	AVG	float	No	2003 (x64), 2008 (x64)	-



## Workgroup Summary ( PI\_WGRP )

### 機能

Workgroup Summary ( PI\_WGRP ) レコードには、Process Detail ( PD ) に格納されるレコードを、ある時点の状態で作業グループ単位に要約したパフォーマンスデータが格納されます。

ワークグループごとに 1 件のレコードが格納されます。このレコードは、複数インスタンスレコードです。

なお、定義されたワークグループのどれにも入らないすべてのプロセスレコードのために、「Other」という名前のワークグループが自動的に生成されます。

### 注意

- ワークグループ情報は、収集データ追加ユーティリティで設定する必要があります。ワークグループ情報と収集データ追加ユーティリティについては、「3. ユーザーレコードの収集」を参照してください。
- Process Detail ( PD ) レコードの Program ( INSTANCE ) フィールドの値が「\_Total」で、かつ PID ( ID\_PROCESS ) フィールドの値が「0」のレコードは、全体の合計や平均を表すデータであるため、収集されません。
- 該当マシンのプロセス数が多い場合など、収集する対象数が多くなった場合、処理量が多くなるため CPU 使用率などの負荷が高くなります。

### デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Log	No	
LOGIF	空白	
Sync Collection With	Detail Records, PD	x

### ODBC キーフィールド

- PI\_WGRP\_WORKGROUP\_NAME
- PI\_WGRP\_CONDITION

### ライフタイム

「収集データ追加ユーティリティ」でのレコード追加からレコード削除まで。

### レコードサイズ

固定部：681 バイト

可変部：608 バイト

## 5. レコード

### Workgroup Summary (PI\_WGRP)

#### フィールド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デ ル タ	サポ ー ト 対 象 外	デー タ ソ ー ス
CPU % ( PCT_PROCES SOR_TIME )	ワークグループがプロ セッサを使用した経過時 間の割合 ( % )。マルチ プロセッサ環境では、 「プロセッサ数 * 100%」 を最大値とした使用率が 表示される。	%	doubl e	No	-	PD レコード PCT_PROCES SOR_TIME フィールド
Condition ( CONDITION )	ワークグループの収集条 件。値は次のとおり。 ・ AND : Groups フィールド、 Users フィールド、 Programs フィールドす べてに一致したプロセス を収集。 ・ OR : Groups フィールド、 Users フィールド、 Programs フィールドど れかに一致したプロセス を収集。	COP Y	string (4)	No	-	「収集データ追 加ユーティリ ティ」の「ワー クグループ名」
Groups ( GROUPS )	定義したグループ名。35 文字以上の場合、最後の 文字は「>」。	COP Y	string (36)	No	-	「収集データ追 加ユーティリ ティ」の「グ ループ名」
Handle Count ( HANDLE_C OUNT )	ワークグループによって オープンしているハンド ル数。	HILO	doubl e	No	-	PD レコード HANDLE_CO UNT フィー ルド
IO Data Bytes/ sec ( IO_DATA_B YTES_PER_S EC )	ワークグループが生成す るすべての I/O 操作で、 読み込みおよび書き込み しているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_DATA_BYT ES_PER_SEC フィールド
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_O PERATIONS_ PER_SEC )	ワークグループが生成す るすべての I/O 操作で、 読み込みおよび書き込み している操作数の割合 ( / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_DATA_OPE RATIONS_PE R_SEC フィー ルド
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_ BYTES_PER_ SEC )	ワークグループが生成す るすべての I/O 操作で、 読み込みおよび書き込み 以外 ( 制御関数など ) の 操作をしているデータ量 の割合 ( バイト / 秒 )。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_OTHER_B YTES_PER_S EC フィー ルド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	ワークグループが生成するすべての I/O 操作で、読み込みおよび書き込み以外 (制御関数など) の操作をしている操作数の割合 ( / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_OTHER_O PERATIONS_ PER_SEC フィールド
IO Read Bytes/ sec ( IO_READ_B YTES_PER_S EC )	ワークグループが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_READ_BY TES_PER_SE C フィールド
IO Read Operations/sec ( IO_READ_O PERATIONS_ _PER_SEC )	ワークグループが生成するすべての I/O 操作で、読み込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_READ_OP ERATIONS_P ER_SEC フィールド
IO Write Bytes/ sec ( IO_WRITE_ BYTES_PER_ SEC )	ワークグループが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしているデータ量の割合 ( バイト / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_WRITE_BY TES_PER_SE C フィールド
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_ OPERATIONS_ _PER_SEC )	ワークグループが生成するすべての I/O 操作で、書き込みしている操作数の割合 ( / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード IO_WRITE_OP ERATIONS_P ER_SEC フィールド
Interval ( INTERVAL )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、最後に格納した値を表示する。	COP Y	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Interval2 ( INTERVAL2 )	レコードが格納された収集間隔の時間 ( 秒単位 )。リアルタイムレポートの場合、最初の値は「5」。履歴レポートで要約した場合、要約したレコードの合計を表示する。	ADD	ulong	No	-	RECORD_TIM E (T1) - RECORD_TIM E (T0)
Page Faults/sec ( PAGE_FAUL TS_PER_SEC )	ワークグループ内でページフォルトが発生した割合 ( / 秒 )	AVG	doubl e	No	-	PD レコード PAGE_FAULT S_PER_SEC フィールド

## 5. レコード

### Workgroup Summary (PI\_WGRP)

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
Page File Kbytes ( PAGE_FILE _BYTES )	ワークグループがページ ングファイルで使用して いる仮想メモリー領域の サイズ (キロバイト単 位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード PAGE_FILE_B YTES フィール ド
Pool Nonpaged Kbytes ( POOL_NON PAGED_BYTE S )	ワークグループが使用し ているページング不可 能なメモリーサイズ (キ ロバイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード POOL_NONPA GED_BYTES フィールド
Pool Paged Kbytes ( POOL_PAG ED_BYTES )	ワークグループが使用し ているページング可能 なメモリーサイズ (キ ロバイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード POOL_PAGED _BYTES フィールド
Private Kbytes ( PRIVATE_B YTES )	ワークグループのプロセ スが、ほかのプロセスと 共用できないように割 り振ったメモリーの サイズ (キロバイト 単位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード PRIVATE_BYT ES フィールド
Privileged CPU % ( PCT_PRIVIL EGED_TIME )	ワークグループが特権 モードでプロセッサを 使用した経過時間の割 合 (%)。マルチプロセ ッサ環境では、「プロセ ッサ数 * 100%」を最 大値とした使用率が 表示される。	%	doubl e	No	-	PD レコード PCT_PRIVILE GED_TIME フィールド
Process Count ( PROCESS_C OUNT )	ワークグループが実行 しているプロセス数。	HILO	ulong	No	-	-
Programs ( PROGRAMS )	定義したプログラム名。 35 文字以上の場合、 最後の文字は「>」。	COP Y	string (36)	No	-	「収集データ追 加ユーティリ ティ」の「プロ グラム名」
Record Time ( RECORD_TI ME )	レコードが作成され た時刻。	COP Y	time_ t	No	-	-
Record Type ( INPUT_REC ORD_TYPE )	レコード名。常に 「WGRP」。	COP Y	char( 8)	No	-	-
Thread Count ( THREAD_C OUNT )	ワークグループ内のス レッド (命令を実行す る単位) の数。プロセ ッサを実行すると最 低一つのスレッドが 起動される。	HILO	doubl e	No	-	PD レコード THREAD_CO UNT フィール ド

PFM-View 名 ( PFM-Manager 名 )	説明	要約	形式	デル タ	サポート 対象外	データソース
User CPU % ( PCT_USER_ TIME )	ワークグループがユーザーモードでプロセッサを使用した経過時間の割合(%)。マルチプロセッサ環境では、「プロセッサ数 * 100%」を最大値とした使用率が表示される。	%	doubl e	No	-	PD レコード PCT_USER_TI ME フィールド
Users ( USERS )	定義したユーザー名。35文字以上の場合、最後の文字は「>」。	COP Y	string (36)	No	-	「収集データ追加ユーティリティ」の「ユーザー名」
Virtual Kbytes ( VIRTUAL_B BYTES )	ワークグループが使用している仮想アドレス空間のサイズ(キロバイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード VIRTUAL_BY TES フィールド
Workgroup ( WORKGRO UP_NAME )	定義したワークグループ名。	COP Y	string (36)	No	-	「収集データ追加ユーティリティ」の「ワークグループ名」
Working Set Kbytes ( WORKING_ SET )	ワークグループで使用しているメモリ使用量(ワーキングセットと呼び、メモリの総量またはページフォルトなしに参照できるメモリ量を示す)のサイズ(キロバイト単位)。	AVG	doubl e	No	-	PD レコード WORKING_SE T フィールド



# 6

## コマンド

この章では、PFM - Agent for Platform で使用できるコマンドの文法について説明します。

---

コマンドの記載形式

---

Jpcappcv

---

## コマンドの記載形式

---

ここでは、コマンドの記載形式として、コマンドの指定方法と、コマンドの文法の説明に使用する記号について説明します。

### コマンドの指定方法

コマンドの指定形式を次に示します。

```
jpcox  [-オプションA [値a [, 値b [, 値c...]]] ... (1)
        [-オプションB [値a [, 値b [, 値c...]]] ... (1)
        [任意名X[任意名Y[任意名Z...]]] } ... (2)
```

(1)を「オプション」と呼びます。(2)を「引数」と呼びます。

### コマンドの文法の説明に使用する記号

コマンドの文法の説明に使用する記号を次に示します。

[ ] (角括弧)

この記号で囲まれている項目は、任意に指定できます (省略できます)。



# jpcappcvt

---

## 形式

jpcappcvt [-n]

## 機能

jpcappcvt コマンドは、09-00 以前のアプリケーション定義（アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定）を、09-10 以降のアプリケーション定義（プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定）に変換します。

## 実行権限

Administrators 権限を持つユーザー

## 格納先フォルダ

インストール先フォルダ ¥jplpc¥agtt¥agent¥

## 引数

-n

このオプションを指定すると、コマンドの実行を中断する問い合わせメッセージが出力されなくなり、ユーザーの応答が不要になります。非対話形式で実行したい場合に指定します。

## 注意事項

-n オプションを指定しない場合、コマンドは対話形式で実行されます。ユーザーは、画面に表示される問い合わせメッセージに従って変換してください。

このコマンドを実行すると、変換後の設定が自動で有効になるため、Agent Collector サービスを再起動する必要はありません。

09-00 以前のアプリケーション定義はそのまま保持され、変換した 09-10 以降のアプリケーション定義が作成されます。

コマンド実行時に、すでに 09-10 以降のアプリケーション定義が設定されている場合、KAVF11606-Q メッセージが出力され、既存の設定を上書きしてもよいかどうか確認します。なお、非対話形式でこのコマンドを実行した場合は、メッセージの出力が抑止されるため、既存の設定が強制的に上書きされます。

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集で使用する Application Summary (PD\_APP) レコードと、プロセスの稼働・非稼働情報収集で使用する Application Process Detail (PD\_APPD) レコードおよび Application Summary Extension (PD\_APP2) レコードでは、プロセス情報の収集方法が異なるため、このコマンドを実行しても、各フィールドに表示される値が異なります。

6. コマンド  
jpcappcv

次のフィールドの値が、対応する Application Summary (PD\_APP) レコードのフィールドの値と異なる場合は、監視条件を見直してください。

- Application Process Detail (PD\_APPD) レコード  
Monitoring Count フィールド  
Monitoring Status フィールド
- Application Summary Extension (PD\_APP2) レコード  
Application Status フィールド  
Application Exist フィールド

Application Summary (PD\_APP) レコードのフィールドと、Application Process Detail (PD\_APPD) レコードおよび Application Summary Extension (PD\_APP2) レコードのフィールドの対応を次の表に示します。

表 6-1 Application Summary (PD\_APP) レコードのフィールドと Application Process Detail (PD\_APPD) レコードおよび Application Summary Extension (PD\_APP2) レコードのフィールドの対応

Application Summary (PD_APP) レコードのフィールド	Application Process Detail (PD_APPD) レコードのフィールド	Application Summary Extension (PD_APP2) レコードのフィールド
Application Name	Application Name	Application Name
Application Status	-	Application Status
Application Exist	-	Application Exist
ProcessXX Count	Monitoring Count	-
ProcessXX Range	Monitoring Min Monitoring Max	-
ProcessXX Status	Monitoring Status	-
ProcessXX Kind	Monitoring Field	-
ProcessXX Name	Monitoring Condition	-

(凡例)

- : 対応するフィールドがないことを示します。

注

「XX」には 01 ~ 15 までの数値が入ります。また、「XX」は、Application Process Detail (PD\_APPD) レコードの「Monitoring Label」フィールドの値 (MonitoringXX) に対応した数値となります。

### 戻り値

0	正常終了した。
0 以外	異常終了した。

## 使用例

対話形式でのコマンド実行例を次に示します。

```
> C:\Program Files\Hitachi\jplpc\agt\agent\jpcappcv.exe  
KAVF11600-Q コンバートしますか? (Y/N) Y  
KAVF11606-Q プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定が既にあります。上書きしてもよろしいで  
か? (Y/N) Y  
KAVF11601-I 設定のコンバートに成功しました
```



# 7

## メッセージ

この章では、PFM・Agent for Platform のメッセージ形式、出力先一覧、Windows イベントログの一覧、およびメッセージ一覧について説明します。

---

7.1 メッセージの形式

---

7.2 メッセージの出力先一覧

---

7.3 Windows イベントログの一覧

---

7.4 メッセージ一覧

---

## 7.1 メッセージの形式

PFM・Agent for Platform が出力するメッセージの形式と、マニュアルでの記載形式を示します。

### 7.1.1 メッセージの出力形式

PFM・Agent for Platform が出力するメッセージの形式を説明します。メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

KAVFnnnnn-Yメッセージテキスト

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

AVF

PFM・Agent のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。PFM・Agent for Platform のメッセージ番号は、「11xxx」です。

Y

メッセージの種類を示します。

- E：エラー  
処理は中断されます。
- W：警告  
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I：情報  
ユーザーに情報を知らせます。
- Q：応答  
ユーザーに応答を促します。

メッセージの種類と Windows イベントログの種類との対応を次に示します。

-E

- レベル：エラー
- 意味：エラーメッセージ

-W

- レベル：警告
- 意味：警告メッセージ

-I

- レベル：情報
- 意味：付加情報メッセージ

-Q

(出力されない)

### 7.1.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで太字になっている部分は、メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

#### メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが表示されたときに、オペレーターが取る処置を示します。

#### 参考

システム管理者がオペレーターから連絡を受けた場合は、「8. トラブルへの対処方法」を参照してログ情報を採取し、初期調査をしてください。  
トラブル要因の初期調査をする場合は、OS のログ情報 (Windows イベントログ) や、PFM・Agent for Platform が出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して、トラブルを回避したり、トラブルに対処したりしてください。また、トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に、できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

## 7.2 メッセージの出力先一覧

ここでは、PFM - Agent for Platform が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

(凡例)  
 : 出力する  
 - : 出力しない

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

表 7-1 PFM - Agent for Platform のメッセージの出力先一覧

メッセージ ID	出力先									
	Windows イベント ログ	共通 メッ セー ジロ グ	Event Log(PD_ ELOG) レコード のフィー ルド	標準 出力	標準 エ ラー 出力	バブ リッ ク ロ グ	デ バ グ ロ グ	コン パ ー ト ロ グ	JP1 シス テム イベ ント 1	エー ジェ ント イベ ント 2
KAVF11001			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11002			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11003			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11004			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11005	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11006	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11007	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11100	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11101			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11201	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11300	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11301			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11302			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11304	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11307			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11308			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11310			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11311	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11313			-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11316	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11317	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11318	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11404	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11405	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11406	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11407	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11500	-		-	-	-	-	-	-	-	-

## 7. メッセージ

メッセージ ID	出力先									
	Windows イベント ログ	共通 メッ セー ジロ グ	Event Log(PD_ ELOG) レコー ドの フィー ルド	標準 出力	標準 エ ラー 出力	パブ リッ ク ロ グ	デ バ ッ グ ロ グ	コン パ ー ト ロ グ	JP1 シス テム イベ ント 1	エ ー ジェ ント イベ ント 2
KAVF11501	-		-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11502	-	-	-	-	-	-	-	-		
KAVF11600	-	-	-		-	-	-	-	-	-
KAVF11601	-	-	-		-	-	-		-	-
KAVF11602	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11603	-	-	-		-	-	-		-	-
KAVF11604	-	-	-		-	-	-		-	-
KAVF11605	-	-	-		-	-	-		-	-
KAVF11606	-	-	-		-	-	-	-	-	-
KAVF11607	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11608	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11609	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11610	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11611	-	-	-	-		-	-		-	-
KAVF11901	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11902	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11904	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11905	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11906	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11907	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11908	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11909	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11910	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11911	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11912	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11913	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11914	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11915	-	-	-	-	-	-		-	-	-
KAVF11916	-	-	-	-		-	-	-	-	-
KAVF11917	-	-	-	-		-	-	-	-	-
KAVF11919	-	-	-	-		-	-	-	-	-
KAVF11920	-	-	-	-		-	-	-	-	-
KAVF11923	-	-	-	-		-	-	-	-	-



メッセージ ID	出力先									
	Windows イベント ログ	共通 メッ セー ジロ グ	Event Log(PD_ ELOG) レコー ドのフ ィー ルド	標準 出力	標準 エ ラー 出力	パブ リッ ク ロ グ	デ バ ッ グ ロ グ	コン パ ー ト ロ グ	JP1 シス テム イベ ント 1	エー ジェ ント イベ ント 2
KAVF11924	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11925	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11926	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11927	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11928	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11929	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11930	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11931	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11932	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11935	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11941	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11943	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11948	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11950	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11951	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11952	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11953	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11954	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11957	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11959	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11983	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11984	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11985	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11986	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11987	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11988	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11989	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11990	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11991	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11992	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11993	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11994	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11995	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 7. メッセージ

メッセージ ID	出力先									
	Windows イベント ログ	共通メッセージログ	Event Log(PD_ELOG) レコードのフィールド	標準出力	標準エラー出力	パブリックログ	デバッグログ	コンバートログ	JP1 システムイベント <sub>1</sub>	エージェントイベント <sub>2</sub>
KAVF11996	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11997	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAVF11998	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注 1

JP1 システムイベントは、エージェントの状態の変化を JP1/IM に通知するイベントです。JP1 システムイベントの詳細については、マニュアル「JP1/

Performance Management 運用ガイド」の、統合管理製品 (JP1/IM) と連携した稼働監視について説明している章を参照してください。

JP1 システムイベントを発行するための前提プログラムを次の表に示します。

表 7-2 JP1 システムイベントを発行するための前提プログラム

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視マネージャー	PFM・Manager	09-00 以降
監視コンソールサーバ	PFM・Web Console	08-00 以降
監視エージェント	PFM・Agent for Platform	08-00 以降 ( PFM・Agent が出力するイベントを発行するには、09-00 以降が必要です )
	PFM・Manager または PFM・Base	09-00 以降
	JP1/Base	08-50 以降

注 2

エージェントイベントは、エージェントの状態の変化を PFM・Manager に通知するイベントです。エージェントイベントの詳細については、マニュアル

「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、イベントの表示について説明している章を参照してください。

エージェントイベントを発行するための前提プログラムを次の表に示します。

表 7-3 エージェントイベントを発行するための前提プログラム

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視マネージャー	PFM・Manager	09-00 以降
監視コンソールサーバ	PFM・Web Console	08-00 以降
監視エージェント	PFM・Agent for Platform	09-00 以降
	PFM・Manager または PFM・Base	09-00 以降

注 3

このメッセージは、Event Log ( PD\_ELOG ) レコードの Description ( DESCRIPTION ) フィールドに収集データとして出力されます。ログに出力されるメッセージではありません。

## 7.3 Windows イベントログの一覧

ここでは、PFM - Agent for Platform が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を示します。

Windows イベントログは、[ イベントビューア ] ウィンドウのアプリケーションログに表示されます。

### 参考

[ イベントビューア ] ウィンドウは、Windows の [ スタート ] メニューから表示される [ 管理ツール ] - [ イベントビューア ] を選択することで表示できます。

PFM - Agent for Platform が出力するイベントの場合、[ イベントビューア ] ウィンドウの [ ソース ] に識別子「PFM-Platform」が表示されます。

PFM - Agent for Platform が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 7-4 Windows イベントログ出力メッセージ情報一覧

メッセージ ID	Windows イベントログ	
	イベント ID	種類
KAVF11001-I	11001	情報
KAVF11002-E	11002	エラー
KAVF11003-I	11003	情報
KAVF11004-E	11004	エラー
KAVF11101-E	11101	エラー
KAVF11301-E	11301	エラー
KAVF11302-E	11302	エラー
KAVF11307-E	11307	エラー
KAVF11308-E	11308	エラー
KAVF11310-E	11310	エラー
KAVF11313-E	11313	エラー

## 7.4 メッセージ一覧

PFM - Agent for Platform が出力するメッセージと対処方法について説明します。PFM - Agent for Platform のメッセージ一覧を次に示します。

### KAVF11001-I

Agent Collector has stopped. (host=ホスト名, service=ホスト名<Windows>)  
Agent Collector が停止しました (host=ホスト名, service=ホスト名<Windows>)

Agent Collector サービスが正常終了しました。

- (S) Agent Collector サービスの処理を終了します。

### KAVF11002-E

Agent Collector failed to start.  
Agent Collector の起動に失敗しました

Agent Collector サービスの起動に失敗しました。

- (S) Agent Collector サービスの処理を終了します。
- (O) 共通メッセージログに出力されている直前のメッセージを確認し、そのメッセージの対処方法に従ってください。

### KAVF11003-I

Agent Collector has started. (host=ホスト名, service=ホスト名<Windows>)  
Agent Collector が起動しました (host=ホスト名, service=ホスト名<Windows>)

Agent Collector サービスの起動が完了しました。

- (S) Agent Collector サービスのパフォーマンスデータ収集処理を開始します。

### KAVF11004-E

Agent Collector stopped abnormally.  
Agent Collector が異常停止しました

Agent Collector が異常停止しました。

- (S) Agent Collector サービスの処理を終了します。
- (O) イベントログや共通メッセージログに出力されている直前のメッセージを確認し、そのメッセージの対処方法に従ってください。

### KAVF11005-I

Agent Store has been connected.  
Agent Store に接続しました

Agent Collector サービス起動処理中に、Agent Store サービスとの接続に成功しました。

- (S) Agent Collector サービスの起動処理を続行します。

### KAVF11006-I

Name Server has been connected.  
Name Server に接続しました

Agent Collector サービス起動処理中に、Name Server サービスとの接続に成功しました。

- (S) Agent Collector サービスの起動処理を続行します。

### KAVF11007-W

A user command failed to start.(record=レコードID, en=OS詳細コード)  
ユーザーコマンドの起動に失敗しました (record=レコードID, en=OS詳細コード)

ユーザーコマンドの起動に失敗しました。

- (S) 後続の処理を継続します。
- (O) ユーザーコマンドの実行状態を確認してください。

### KAVF11100-E

An error occurred in an OS API (関数名). (rc=エラーコード, 保守情報)  
OSのAPI(関数名)でエラーが発生しました (rc=エラーコード, 保守情報)

OS の API でエラーが発生しました。保守情報がない場合、空白で表示されます。

- (S) 起動時のエラーの場合、Agent Collector の処理を終了します。

- (O) 保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JPI/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

**KAVF11101-E**

An error occurred in a function (関数名). (rc=エラーコード, 保守情報)  
関数(関数名)でエラーが発生しました (rc=エラーコード, 保守情報)

制御間の関数でエラーが発生しました。保守情報がない場合、空白で表示されます。

**(S)**

Agent Collector の処理を終了します。

**(O)**

保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

**KAVF11201-W**

An illegal collection event occurred. (レコードID, rc=保守情報)  
不正な収集イベントが発生しました (レコードID, rc=保守情報)

レコード ID で示されるサポート対象外の収集イベントが発生しました。

- rc = 0 : リアルタイムレポート
- rc = 1 : 履歴レポートまたはアラーム

**(S)**

レコード ID で示されるレコード収集処理はしませんが、Agent Collector 処理を継続します。

**(O)**

サポートしていないレコードのリアルタイムレポート、アラームでの監視、または Store データベース記録をしようとしています。

- リアルタイムレポートの場合は、該当レコードの収集を停止してください。
- アラームでの監視の場合は、該当ホストでサポートしていないレコードを使用しているアラームのバインドを解除してください。アラームのバインドを解除する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。
- Store データベース記録の場合は、該当ホストでサポートしていないレコードの Store データベース記録を停止してください。Store データベース記録の停止方法については、「付録 E.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

**KAVF11300-W**

An attempt to allocate memory for (レコードID) failed.  
メモリーの確保に失敗しました (レコードID)

レコード ID で示されるメモリーの確保に失敗しました。レコード ID に "UNKNOWN" が出力されている場合、複数のレコード ID でメモリーの確保に失敗したことを示します。

**(S)**

レコード ID で示されるレコードの収集を中断して、次のレコード収集処理を続行します。

**(O)**

ほかのアプリケーションなどを終了させるか、メモリーを増やしてください。要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

**KAVF11301-E**

Initialization of Agent Configuration failed.  
Agent Configuration の初期化に失敗しました

Agent Collector サービス起動処理中に、サービス起動情報ファイルの読み込みに失敗しました。

**(S)**

Agent Collector サービスの処理を終了します。

**(O)**

サービス起動情報ファイル (jpcagt.ini) が、インストール先フォルダ %agt%agent フォルダ下にあるかどうか確認してください。ない場合、jpcagt.ini.model ファイルを jpcagt.ini ファイルにコピーしてください。要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

**KAVF11302-E**

TCP/IP initialization failed.  
TCP/IPの初期化に失敗しました

Agent Collector サービス起動処理中に、TCP/IP の初期化に失敗しました。

**(S)**

Agent Collector サービスの処理を終了します。

**(O)**

ネットワークの設定に誤りがないかどうか確認してください。

### KAVF11304-W

Data could not be collected for a record レコードID. (rc=リターンコード).  
レコード: レコードIDのデータ収集ができませんでした (rc=リターンコード)

レコードIDで示されるレコードのデータ収集ができませんでした。

(S) Agent Collector サービスの処理を続行します。

(O) レコード名に対応するサービスがインストールされているかどうか、また、サービスが起動されているかどうかを確認してください。  
リターンコードに示される内容を確認し、メモリーなどのシステムリソースが不足していないか確認してください。  
要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

### KAVF11307-E

The registry key could not be opened. (レジストリーキー名, rc=エラーコード)  
レジストリーキーがオープンできませんでした (レジストリーキー名, rc=エラーコード)

レジストリーキー名で示されるレジストリーキーをオープンできませんでした。

(S) Agent Collector サービスを停止します。

(O) レジストリーに正しくアクセスできる状態にあるかどうか確認してください。アクセスできない場合、OSのリソースが不足していないか、また、OS全般に障害が発生していないかどうかを確認してください。

### KAVF11308-E

The value for the open registry key could not be obtained. (レジストリーキー名, rc=リターンコード)  
オープン済みレジストリーキーから値を取得できませんでした (レジストリーキー名, rc=リターンコード)

レジストリーキー名で示されるレジストリーキーのオープンには成功しましたが、レジストリーの値を取得できませんでした。

(S) Agent Collector サービスを停止します。

(O) レジストリーに正しくアクセスできる状態にあるかどうか確認してください。アクセスできない場合、OS

のリソースが不足していないか、また、OS全般に障害が発生していないかどうかを確認してください。

### KAVF11310-E

Information about the open registry key could not be retrieved. (レジストリーキー名, rc=リターンコード)  
オープン済みレジストリーキーから情報を取得できませんでした (レジストリーキー名, rc=リターンコード)

オープン済みレジストリーキーから情報を取得できませんでした。

(S) Agent Collector サービスの処理を停止します。

(O) OSのリソースが不足していないか、また、OS全般に障害が発生していないかどうかを確認してください。

### KAVF11311-W

An attempt to open a file (ファイル名) failed. (rc=リターンコード)  
ファイル(ファイル名)のオープンに失敗しました (rc=リターンコード)

ファイル名で示される、パフォーマンスデータ定義ファイルやパフォーマンスデータ定義ログファイルのオープンに失敗しました。  
現在起動中のAgent Collector サービスはWindowsのレジストリーを参照して同等の情報を取得するため、その動作自体に問題はありませんが、システムの一部が破損しているおそれがあります。

(S) Agent Collector サービスの処理を続行します。

(O) 指定したファイルの有無を確認し、ファイルがない場合にはOS全般に障害が発生していないかどうかを確認してください。

### KAVF11313-E

Information about the performance registry could not be retrieved.  
パフォーマンスレジストリーから情報を取得できませんでした

パフォーマンスレジストリーから情報を取得できませんでした。

(S) Agent Collector サービスの処理を終了します。

(O) OSのリソースが不足していないかどうか、また、OS全般に障害が発生していないかどうかを確認してください。

**KAVF11316-W**

The information to be collected has not been set by the Collection Data Addition utility. (レコードID)  
 収集データ追加ユーティリティで、収集情報を設定していません (レコードID)

レコード ID で示されるレコードの収集情報を、収集データ追加ユーティリティで設定していません。

**(S)**

Agent Collector サービスの処理を続行します。レコード ID で示されるレコードを収集しませんでした。

**(O)**

収集データ追加ユーティリティで収集情報を設定してから、レコードを収集してください。

**KAVF11317-W**

The information to be collected has not been set in Web Console. (レコードID)  
 Web Consoleで、収集情報を設定していません (レコードID)

レコード ID で示されるレコードの収集情報を、PFM・Web Console で設定していません。

**(S)**

Agent Collector サービスの処理を続行します。レコード ID で示されるレコードを収集しませんでした。

**(O)**

PFM・Web Console で収集情報を設定してから、レコードを収集してください。

**KAVF11318-W**

Invalid entry in ファイル名。  
 ファイル (ファイル名) の指定に誤りがあります

定義ファイルの内容またはユーザーコマンドプロパティの指定に誤りが見つかりました。

**(S)**

定義内容を無視して Agent Collector サービスの起動を継続します。

**(O)**

表示されているファイル内の定義を修正し、サービスを再起動してください。または、ユーザーコマンドプロパティを修正してください。

**KAVF11404-W**

The description for Event ID (イベントID) in Source (ソース名) cannot be found. The local computer may not have the necessary registry information or message DLL files to display messages from a remote computer. The following information is part of the event: 文字列。  
 イベント ID (イベントID) (ソース ソース名内) に関する説明が見つかりませんでした。リモート コンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリー情報またはメッセージ DLL ファイルがローカル コンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です: 文字列

Windows 2000 でソース名、イベント ID に示されるイベントログメッセージが取得できませんでした。

**(S)**

Agent Collector の処理を続行します。

**(O)**

指定されたソース名に対応するサービスがアンインストールされていないかどうか、また、ソース名のファイルがあるかどうかを確認してください。

**KAVF11405-W**

The description for Event ID (イベントID) in Source (ソース名) cannot be found. The local computer may not have the necessary registry information or message DLL files to display messages from a remote computer. You may be able to use the /AUXSOURCE= flag to retrieve this description; see Help and Support for details. The following information is part of the event: 文字列。  
 イベントID (イベントID) (ソース ソース名内) に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリー情報またはメッセージDLLファイルがローカルコンピュータにないおそれがあります。この説明を取得するために /AUXSOURCE=フラグを使用できる可能性があります。詳細については、ヘルプとサポートを参照してください。次の情報はイベントの一部です:文字列

Windows Server 2003 でソース名、イベント ID に示されるイベントログメッセージが取得できませんでした。

**(S)**

Agent Collector サービスの処理を続行します。

**(O)**

指定されたソース名に対応するサービスがアンインストールされていないかどうか、また、ソース名のファイルがあるかどうかを確認してください。

**KAVF11406-W**

The system resources have been modified. (レコードID)  
 システムリソースに変更がありました (レコードID)

レコード ID で示される、関連するシステムリソースに変更がありました。

**(S)**

## KAVF11407-E ~ KAVF11601-I

レコード ID で示されるレコードの収集処理を 2 回スキップします。

### KAVF11407-E

Performance data cannot be collected because the Remote Registry Service (サービス名: Remote Registry) is not running. (rc=リターンコード)  
リモートレジストリサービス (サービス名: Remote Registry) が起動していないため、パフォーマンスデータを取得できません。(rc=リターンコード)

リモートレジストリサービスが起動していないため、パフォーマンスデータを取得できない状態です。

- (S) Agent Collector サービスの処理を終了します。
- (O) サービス名で示されるサービスを起動してから、Agent Collector サービスを再起動してください。

### KAVF11500-W

It failed to occur JP1 system event or Agent event extension.

JP1システムイベントの発行または拡張エージェントイベントの発行に失敗しました

JP1 システムイベントの発行または拡張エージェントイベントの発行に失敗しました。

- (S) Agent Collector サービスの処理を続行します。
- (O) 共通メッセージログに出力されている直前のメッセージを確認し、そのメッセージの対処方法に従ってください。要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### KAVF11501-W

It failed to issue JP1 system event or Agent event extension, because Memory is insufficient.

メモリー不足のため、JP1システムイベントの発行または拡張エージェントイベントの発行に失敗しました

JP1 システムイベントの発行または拡張エージェントイベントの発行に失敗しました。

- (S) Agent Collector サービスの処理を続行します。
- (O) メモリーなどのシステムリソースが不足していないか確認してください。要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### KAVF11502-W

The event log message indicated by Event ID (イベント ID) in Source (ソース名) could not be obtained. See Help and Support for details. The following information is part of the event: character-string.

イベントID (イベントID) (ソース ソース名 内) に示されるイベントログメッセージが取得できませんでした。詳細については、ヘルプとサポートを参照してください。次の情報はイベントの一部です:文字列

Windows Server 2003 でソース名、イベント ID に示されるイベントログメッセージが取得できませんでした。

- (S) Agent Collector サービスの処理を続行します。
- (O) 指定されたソース名に対応するサービスがアンインストールされていないかどうか、また、ソース名のファイルがあるかどうかを確認してください。

### KAVF11600-Q

Do you want to convert? (Y/N)

コンバートしますか? (Y/N)

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定から、プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定を作成します。アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) 応答を待ちます。
- (O) 変換する場合は、「Y」または「y」を入力してください。変換しない場合は、「N」または「n」を入力してください。それ以外の値を指定すると、同じメッセージが再表示されます。

### KAVF11601-I

Conversion of a setting was successful.

設定のコンバートに成功しました

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定から、プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定の作成に成功しました。アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) jpcappcvr コマンドの処理を終了します。



**KAVF11602-E**

An attempt to convert a setting has failed.  
設定のコンバートに失敗しました

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定から、プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定の作成に失敗しました。  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) jpcappcvt コマンドの処理を終了します。
- (O) 直前のメッセージを確認してください。

**KAVF11603-W**

An attempt to convert a setting will now halt.  
設定のコンバートを中断します

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定から、プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定を作成する処理を中断します。  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) jpcappcvt コマンドの処理を中断します。
- (O) 変換を実施したい場合は、jpcappcvt コマンドを実行し直してください。

**KAVF11604-W**

A settings for collecting application operation and non-operation information does not exist.  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定がありません

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定の設定がありません。  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) jpcappcvt コマンドの処理を継続します。
- (O) PFM・Web Console の [ エージェント ] 階層または [ サービス ] 階層から、プロセスの稼働・非稼働情報

収集の設定を行ってください。

**KAVF11605-W**

A settings for collecting application operation and non-operation information is not correct.  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定が正しくありません

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定が正しくありません。  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。

- (S) jpcappcvt コマンドの処理を継続します。
- (O) 設定ファイルが壊れているおそれがあります。PFM・Web Console の [ サービス ] 階層から、アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定をやり直すと、ファイルが修復されることがあります。  
または、PFM・Web Console の [ エージェント ] 階層または [ サービス ] 階層から、プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定を行ってください。

**KAVF11606-Q**

A settings for collecting process operation and non-operation information already exists. Would you like to overwrite it? (Y/N)  
プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定が既にあります。上書きしてもよろしいですか？(Y/N)

- (O) プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定を上書きするかどうかを確認します。  
アプリケーションの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前に実装していた既存の機能のことです。プロセスの稼働・非稼働情報収集とは、09-00 以前で実装していたアプリケーションの稼働・非稼働情報収集の機能を拡張したものです。
- (S) 応答を待ちます。
- (O) プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定を上書きする場合は、「Y」または「y」を入力してください。上書きしない場合は、「N」または「n」を入力してください。それ以外の値を指定すると、同じメッセージが再表示されます。

**KAVF11607-E**

Administrator permissions are required.  
Administrator権限が必要です

jpcappcvt コマンドが Administrator 権限を持たない

## KAVF11608-E ~ KAVF11902-W

ユーザーによって実行されました。

(S)

jpcappcvt コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrator 権限を持つユーザーで jpcappcvt コマンドを実行してください。

### KAVF11608-E

---

An attempt to execute a command has failed, because of not executing from the Performance Management Administrator Console.

管理者コンソールから実行されなかったため、コマンドの起動に失敗しました

jpcappcvt コマンドが管理者コンソールから実行されませんでした。

(S)

jpcappcvt コマンドの処理を終了します。

(O)

次のどちらかの手順で、管理者コンソールから jpcappcvt コマンドを実行してください。

- Windows の [ スタート ] メニューの [ すべてのプログラム ] - [ Performance Management ] - [ 管理者コンソール ] を選択する。
- Windows の [ スタート ] メニューの [ すべてのプログラム ] - [ アクセサリ ] - [ コマンドプロンプト ] を右クリックし、[ 管理者として実行 ] を選択する。

### KAVF11609-E

---

A fatal error has occurred.

致命的なエラーが発生しました

致命的なエラーが発生しました。

(S)

jpcappcvt コマンドの処理を終了します。

(O)

保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### KAVF11610-E

---

An attempt to allocate memory failed.

メモリーの確保に失敗しました

メモリーの確保に失敗しました。

(S)

jpcappcvt コマンドの処理を終了します。

(O)

ほかのアプリケーションなどを終了させるか、メモリーを増やしてください。

要因が判明しない場合、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方

法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

### KAVF11611-E

---

Convert command is being executed.

コンバートコマンドが実行中です

jpcappcvt コマンドの実行中に、コマンドを実行しました。

(S)

jpcappcvt コマンドの処理を終了します。

(O)

jpcappcvt コマンドの処理が終了してから、コマンドを再実行してください。

### KAVF11901-W

---

Warning: The specified value (指定された値) for the option (tt) is too long. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (tt) に指定された値 (指定された値) が長過ぎます (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション (tt) に指定された値が長過ぎます。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

指定した値を短くしてください。

### KAVF11902-W

---

Warning: The specified value (指定された値) for the option (ks) is too long. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (ks) に指定された値 (指定された値) が長過ぎます (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション (ks) に指定された値が長過ぎます。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

指定した値を短くしてください。

**KAVF11904-W**

Warning: The data value count (指定された値の数) does not match the option count (オプションの数). (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: 指定された値の数 (指定された値の数) とオプションの数 (オプションの数) が異なっています (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

指定された値の数とオプションの数が異なっています。

**(S)**

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を続けます。

**(O)**

指定された値の数とオプションの数を同じにしてください。

**KAVF11905-W**

Warning: The data line is too long. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: データ行が長過ぎます (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

データ行が長過ぎます。

**(S)**

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を続けます。

**(O)**

データ行を短くしてください。

**KAVF11906-W**

Warning: The specified value for the option must be 0 or a positive number. (オプション名 = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションに指定する値は0以上でなければなりません (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション名に示されるオプションに0より小さい値が指定されました。

**(S)**

jpcuser コマンドは0を設定して、処理を続けます。

**(O)**

0以上の値を指定してください。

**KAVF11907-W**

Warning: The specified value for the option is too long. (オプション名 = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションに指定された値が長過ぎます (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション名に示されるオプションに指定する値が長過ぎます。

**(S)**

jpcuser コマンドは空欄を設定して、処理を続けます。

**(O)**

指定した値を短くしてください。

**KAVF11908-W**

Warning: The specified value (指定された値) for the option (t) is invalid. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (t) に指定された値 (指定された値) は無効です (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション (t) に指定された値は無効です。

**(S)**

jpcuser コマンドは n/a を設定して、処理を続けます。

**(O)**

指定した値を正しく直してください。

**KAVF11909-W**

Warning: The specified value for the option must be a numeric value. (オプション名 = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションに指定する値は数値でなければなりません (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション名に示されるオプションに数値以外が指定されています。

**(S)**

jpcuser コマンドは0を設定して、処理を続けます。

**(O)**

数値を指定してください。

**KAVF11910-W**

Warning: The specified value for a floating-point number option is invalid. (オプション名 = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: 浮動小数点オプションに指定された値は無効です (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション名に示される浮動小数点オプションに指定された値は無効です。

**(S)**

jpcuser コマンドは0を設定して、処理を続けます。

(O)

指定した値を正しく直してください。

#### KAVF11911-W

---

Warning: An overflow or an underflow occurred for the value specified for the option. (オプション名 = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションに指定された値が原因でオーバーフローまたはアンダーフローが発生しました (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション名に示されるオプションに指定された値が原因で、オーバーフローまたはアンダーフローが発生しました。

(S)

jpcuser コマンドは処理を継続します。

(O)

指定した値を正しく直してください。

#### KAVF11912-W

---

Warning: "" is specified for the option (オプション名). (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: " " がオプション (オプション名) に指定されました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション名に示されるオプションに値が指定されていません。

(S)

jpcuser コマンドは 0 を設定して、処理を継続します。

(O)

値を指定してください。

#### KAVF11913-W

---

Warning: The specified value (指定された値) for the option(ki) must be 0 or a positive number. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (ki) に指定する値 (指定された値) は 0 以上でなければなりません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション (ki) の値に 0 より小さい値が指定されました。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

0 以上の値を指定してください。

#### KAVF11914-W

---

Warning: An overflow or an underflow occurred for the value (指定された値) specified for the option (ki).

(filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (ki) に指定された値 (指定された値) が原因でオーバーフローまたはアンダーフローが発生しました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション (ki) に指定された値が原因で、オーバーフローまたはアンダーフローが発生しました。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

指定した値を正しく直してください。

#### KAVF11915-W

---

Warning: "" is specified for the option (tt). (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: " " がオプション (tt) に指定されました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション (tt) に値が指定されていません。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

値を指定してください。

#### KAVF11916-E

---

Error: The specified value (指定された値) for record-ID is invalid.

Error: レコードIDに指定された値 (指定された値) は無効です

---

レコード ID に指定された値 (指定された値) は無効です。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

指定した値を正しく直してください。

#### KAVF11917-E

---

Error: An invalid number of arguments was specified.

Error: 無効な数の引数が指定されました

---

無効な数の引数が指定されました。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

指定した値の数を正しく直してください。

**KAVF11919-E**

Error: An invalid arguments (指定された値) were specified.

Error: 無効な引数 (指定された値) が指定されました

無効な引数が指定されました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) 指定した値を正しく直してください。

**KAVF11920-E**

Error: The user-defined data file option (-file) is not specified.

Error: ユーザ作成データファイルオプション (-file) が指定されていません

ユーザー作成データファイルオプション (-file) が指定されていません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) ユーザー作成データファイルオプション (-file) を指定してください。

**KAVF11923-E**

Error: The user-defined data file cannot be opened.  
(filename = ファイル名)

Error: ユーザ作成データファイルをオープンできません  
(ファイル名 = ファイル名)

ユーザー作成データファイルにアクセスできません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) 指定したファイル名が正しいか、ファイル名に指定されたファイルが存在するか、およびファイル名に指定されたファイルにアクセスできるか確認してください。要因が判明しない場合は、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KAVF11924-E**

Error: There is no product information section in the user-defined data file.

Error: ユーザ作成データファイルにプロダクト情報セクションがありません

ユーザー作成データファイルにプロダクト情報セクションがありません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O)

プロダクト情報セクションを指定してください。

**KAVF11925-E**

Error: The product information section of the user-defined data file is invalid. Product Name=プロダクト名, FormVer=フォーマットバージョン

Error: ユーザ作成データファイルのプロダクト情報セクションが不正です Product Name=プロダクト名, FormVer=フォーマットバージョン

ユーザー作成データファイルのプロダクト情報セクションが不正です。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) プロダクト情報セクションを正しく直してください。

**KAVF11926-E**

Error: The user-defined data file does not contain an option header line.

Error: ユーザ作成データファイルにオプションヘッダー行がありません

ユーザー作成データファイルにオプションヘッダー行がありません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) オプションヘッダー行を指定してください。

**KAVF11927-E**

Error: The user-defined data file does not contain any data lines.

Error: ユーザ作成データファイルにデータ行がありません

ユーザー作成データファイルにデータ行がありません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) データ行を指定してください。

**KAVF11928-E**

Error: The option header line is too long.

Error: オプションヘッダー行が長過ぎます

オプションヘッダー行が長過ぎます。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) オプションヘッダー行を短くしてください。

### KAVF11929-E

---

Error: Too many options (指定された値) were specified.  
Error: オプションが多過ぎます (オプション = 指定された値)

---

オプションが多過ぎます。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) 指定した内容を正しく直してください。

### KAVF11930-E

---

Error: An invalid option (オプション名) was specified.  
Error: 無効なオプション (オプション名) が指定されました

---

オプション名に示されるオプションに無効な値が指定されました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) オプションを正しく直してください。

### KAVF11931-E

---

Error: The option (オプション名) is not supported for the specified record (レコードID).  
Error: オプション (オプション名) は指定されたレコード (レコードID) ではサポートしていません

---

指定されたオプションは、指定されたレコード ID ではサポートしていません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) レコード ID またはオプションを正しく直してください。

### KAVF11932-E

---

Error: The option (tt) is not specified.  
Error: オプション (tt) が指定されていません

---

オプション (tt) が指定されていません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) オプション (tt) を指定してください。

### KAVF11935-E

---

Error: A fatal error has occurred.  
Error: 致命的なエラーが発生しました

---

致命的なエラーが発生しました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) 保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### KAVF11941-E

---

Error: Administrator permissions are required.  
Error: Administrator権限が必要です

---

jpcuser コマンドが Administrator 権限を持たないユーザーによって実行されました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) Administrator 権限を持つユーザーで jpcuser コマンドを実行してください。

### KAVF11943-E

---

Error: jpcuser terminated with error.  
Error: jpcuserは異常終了しました

---

jpcuser コマンドが異常終了しました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。
- (O) パブリックログに出力されている直前のメッセージを確認し、そのメッセージの対処方法に従ってください。

### KAVF11948-I

---

Information: jpcuser terminated successfully.  
Information: jpcuserは正常終了しました

---

jpcuser コマンドは正常終了しました。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。

### KAVF11950-W

---

Warning: "" is specified for the option (ki). (filename = ユーザ作成データファイルパス)  
Warning: " " がオプション (ki) に指定されました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

オプション (ki) に "" が指定されました。

- (S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

オプション (ki) に有効な値を指定してください。

**KAVF11951-W**

Warning: "" is specified for the option (ks). (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: " " がオプション (ks) に指定されました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション (ks) に "" が指定されました。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

オプション (ks) に有効な値を指定してください。

**KAVF11952-E**

Error: The option header line specified in the user-defined data file is incorrect. (指定された値)

Error: ユーザ作成データファイルに指定されたオプションヘッダー行が不正です (指定された値)

ユーザー作成データファイルに指定されたオプションヘッダー行が不正です。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

オプションヘッダー行を正しく直してください。

**KAVF11953-W**

Warning: The data line specified in the user-defined data file is incorrect. (指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: ユーザ作成データファイルに指定されたデータ行が不正です (指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

ユーザー作成データファイルに指定されたデータ行が不正です。

(S)

jpcuser コマンドは現在の行をスキップして、処理を継続します。

(O)

データ行を正しく直してください。

**KAVF11954-W**

Warning: jpcuser terminated with a warning.

Warning: jpcuserは警告終了しました

jpcuser コマンドが警告終了しました。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

直前のメッセージに示される警告の要因を取り除いてください。

**KAVF11957-I**

Information: Usage: jpcuser <Record Name> -file <User-defined Data File Path> [-file <User-defined Data File Path>]... [-debug <value>]

Information: Usage: jpcuser <Record Name> -file <User-defined Data File Path> [-file <User-defined Data File Path>]... [-debug <value>]

このメッセージは、jpcuser コマンドの使用方法を示します。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

**KAVF11959-E**

Error: An attempt to allocate memory failed.

Error: メモリーの確保に失敗しました

メモリーの確保に失敗しました。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

ほかのアプリケーションなどを終了させるか、メモリーを増やしてください。要因が判明しない場合は、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KAVF11983-E**

Error: The name of a user-defined data file is duplicated. (filename = ファイル名)

Error: ユーザ作成データファイルが重複しています (ファイル名 = ファイル名)

ユーザー作成データファイルが重複しています。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

(O)

ユーザー作成データファイルの指定の重複を取り除いてください。

**KAVF11984-E**

Error: The debug option is duplicated.

Error: デバッグオプションが重複しています

デバッグオプションが重複しています。

(S)

jpcuser コマンドの処理を終了します。

- (O) デバッグオプションは指定しないか、1回の指定にしてください。

#### KAVF11985-E

---

Error: There are no user-defined data files.  
Error: ユーザ作成データファイルが一件もありません

---

ユーザー作成データファイルが1件もありません。

- (S) jpcuser コマンドの処理を終了します。

- (O) 指定したファイル名が正しいか、ファイル名に指定されたファイルが存在するか、およびファイル名に指定されたファイルにアクセスできるか確認してください。要因が判明しない場合は、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

#### KAVF11986-W

---

Warning: The option header line specified in the user-defined data file is incorrect. (option = 指定された値, filename = ユーザ作成データファイルパス)  
Warning: ユーザ作成データファイルに指定されたオプションヘッダー行が不正です (オプション名 = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

ユーザー作成データファイルに指定されたオプションヘッダー行が不正です。

- (S) このユーザー作成データファイルをスキップします。
- (O) オプションヘッダー行を正しく直してください。

#### KAVF11987-W

---

Warning: The user-defined data file cannot be opened. (filename = ファイル名)  
Warning: ユーザ作成データファイルをオープンできません (ファイル名 = ファイル名)

---

ユーザー作成データファイルにアクセスできません。

- (S) このユーザー作成データファイルをスキップします。
- (O) 指定したファイル名が正しいか、ファイル名に指定されたファイルが存在するか、およびファイル名に指定されたファイルにアクセスできるか確認してください。要因が判明しない場合は、保守資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

#### KAVF11988-W

---

Warning: There is no product information section in the user-defined data file. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: ユーザ作成データファイルにプロダクト情報セクションがありません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

ユーザー作成データファイルにプロダクト情報セクションがありません。

- (S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

- (O) プロダクト情報セクションを指定してください。

#### KAVF11989-W

---

Warning: The product information section of the user-defined data file is invalid. Product Name = プロダクト名, FormVer = フォーマットバージョン, filename = ユーザ作成データファイルパス  
Warning: ユーザ作成データファイルのプロダクト情報セクションが不正です Product Name=プロダクト名, FormVer=フォーマットバージョン, ファイル名=ユーザー作成データファイルパス

---

ユーザー作成データファイルのプロダクト情報セクションが不正です。

- (S) このユーザー作成データファイルをスキップします。
- (O) プロダクト情報セクションを正しく直してください。

#### KAVF11990-W

---

Warning: The user-defined data file does not contain an option header line. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: ユーザ作成データファイルにオプションヘッダー行がありません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

ユーザー作成データファイルにオプションヘッダー行がありません。

- (S) このユーザー作成データファイルをスキップします。
- (O) オプションヘッダー行を指定してください。

#### KAVF11991-W

---

Warning: The user-defined data file does not contain any data lines. (filename = ユーザ作成データファイルパス)  
Warning: ユーザ作成データファイルにデータ行がありません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

---

ユーザー作成データファイルにデータ行がありません。



(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) データ行を指定してください。

#### KAVF11992-W

Warning: The option header line is too long. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションヘッダー行が長過ぎます (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプションヘッダー行が長過ぎます。

(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) オプションヘッダー行を短くしてください。

#### KAVF11993-W

Warning: Too many options (指定された値) were specified. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプションが多過ぎます (オプション = 指定された値, ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプションが多過ぎます。

(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) 指定した内容を正しく直してください。

#### KAVF11994-W

Warning: An invalid option (オプション名) was specified. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: 無効なオプション (オプション名) が指定されました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション名に示されるオプションに無効な値が指定されました。

(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) オプションを正しく直してください。

#### KAVF11995-W

Warning: The option (オプション名) is not supported for the specified record (レコードID). (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (オプション名) は指定されたレコード (レコードID) ではサポートしていません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

指定されたオプションは、指定されたレコードIDではサポートしていません。

(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) レコードIDまたはオプションを正しく直してください。

#### KAVF11996-W

Warning: The option (tt) is not specified. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: オプション (tt) が指定されていません (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

オプション (tt) が指定されていません。

(S) このユーザー作成データファイルをスキップします。

(O) オプション (tt) を指定してください。

#### KAVF11997-W

Warning: The user-defined data file was skipped. (filename = ユーザ作成データファイルパス)

Warning: ユーザ作成データファイルをスキップしました (ファイル名 = ユーザ作成データファイルパス)

ユーザー作成データファイルをスキップしました。

(S) 該当ファイルをスキップし、jpcuser コマンドを続行します。

(O) このメッセージの直前に出力されているメッセージを確認して原因を取り除いてください。

#### KAVF11998-E

Error: You do not have permission to execute the command.

Error: コマンドの実行権限がありません

jpcuser コマンドの実行権限がありません。

(S) jpcuser コマンドの実行を中止します。

(O) Windows [ スタート ] メニューの [ プログラム ] - [ Performance Management ] - [ 管理者コンソール ] から実行してください。または、「管理者として実行」で開いたコマンドプロンプトから実行してください。



# 8

## トラブルへの対処方法

この章では、Performance Management の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて説明します。ここでは、主に PFM - Agent でトラブルが発生した場合の対処方法について記載しています。Performance Management システム全体のトラブルへの対処方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

- 
- 8.1 対処の手順
  - 8.2 トラブルシューティング
  - 8.3 ログ情報
  - 8.4 トラブル発生時に採取が必要な資料
  - 8.5 資料の採取方法
  - 8.6 Performance Management の障害検知
  - 8.7 Performance Management システムの障害回復
-

## 8.1 対処の手順

---

Performance Management でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

### 現象の確認

次の内容を確認してください。

- トラブルが発生したときの現象
- メッセージの内容（メッセージが出力されている場合）
- 共通メッセージログなどのログ情報

各メッセージの要因と対処方法については、「7. メッセージ」を参照してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、「8.3 ログ情報」を参照してください。

### 資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「8.4 トラブル発生時に採取が必要な資料」および「8.5 資料の採取方法」を参照して、必要な資料を採取してください。

### 問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

## 8.2 トラブルシューティング

ここでは、Performance Management 使用時のトラブルシューティングについて記述します。Performance Management を使用しているときにトラブルが発生した場合、まず、この節で説明している現象が発生していないか確認してください。

Performance Management に発生する主なトラブルの内容を次の表に示します。

表 8-1 トラブルの内容

分類	トラブルの内容	記述箇所
セットアップやサービスの起動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>Performance Management のプログラムのサービスが起動しない</li> <li>サービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かる</li> <li>Performance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、別のプログラムがサービスを開始したとき、通信が正しく実行されない</li> <li>「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止する</li> </ul>	8.2.1
コマンドの実行について	<ul style="list-style-type: none"> <li>jpctool service list (jpcctrl list) コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力される</li> <li>jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行すると、指定した Store データベースと異なるデータが出力される</li> </ul>	8.2.2
レポートの定義について	<ul style="list-style-type: none"> <li>履歴レポートに表示されない時間帯がある</li> </ul>	8.2.3
アラームの定義について	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しない</li> <li>アラームイベントが表示されない</li> <li>アラームしきい値を超えているのに、エージェント階層の [ アラームの状態の表示 ] 画面に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない</li> </ul>	8.2.4
パフォーマンスデータの収集と管理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの保存期間を短く設定したにもかかわらず、PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない</li> <li>共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力される</li> </ul>	8.2.5

## 8. トラブルへの対処方法

分類	トラブルの内容	記述箇所
ハングアップや異常停止について	<ul style="list-style-type: none"><li>• PFM Agent for Windows サービスが起動中にもかかわらず、パフォーマンス情報が収集されない</li><li>• PFM Agent for Windows サービスが異常終了する</li><li>• PFM Agent for Windows サービスを停止すると、KAVE05034-Eのエラーメッセージが出力される</li></ul>	8.2.6

### 8.2.1 セットアップやサービスの起動について

セットアップやサービスの起動に関するトラブルの対処方法を次に示します。

#### (1) Performance Management のプログラムのサービスが起動しない

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager が停止している  
PFM - Manager と PFM - Agent が同じホストにある場合、PFM - Manager が停止していると、PFM - Agent サービスは起動できません。PFM - Manager サービスが起動されているか確認してください。PFM - Manager サービスが起動されていない場合は、起動してください。サービスの起動方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している  
Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合、Performance Management のプログラムのサービスは起動できません。デフォルトでは、ポート番号は自動的に割り当てられるため、ポート番号が重複することはありません。Performance Management のセットアップ時に Performance Management のプログラムのサービスに対して固定のポート番号を設定している場合は、ポート番号の設定を確認してください。Performance Management のプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合は、異なるポート番号を設定し直してください。ポート番号の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Store データベースの格納フォルダの設定に誤りがある  
次のフォルダを、アクセスできないフォルダまたは存在しないフォルダに設定していると、Agent Store サービスは起動できません。フォルダ名や属性の設定を見直し、誤りがあれば修正してください。
  - Store データベースの格納先フォルダ
  - Store データベースのバックアップフォルダ
  - Store データベースの部分バックアップフォルダ

- Store データベースのエクスポート先フォルダ
- Store データベースのインポート先フォルダ

また、これらのフォルダを複数の Agent Store サービスに対して設定していると、Agent Store サービスは起動できません。フォルダ設定を見直し、誤りがあれば修正してください。

- 指定された方法以外の方法でマシンのホスト名を変更した  
マシンのホスト名の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。指定された方法以外の方法でホスト名を変更した場合、Performance Management のプログラムのサービスが起動しないことがあります。
- サービスコントロールマネージャーでエラーが発生した  
Windows で `jpcspm start (jpcstart)` コマンドを実行した場合、「Windows のサービスコントロールマネージャーでエラーが発生しました」というエラーメッセージが出力され、サービスの起動に失敗することがあります。この現象が発生した場合、`jpcspm start (jpcstart)` コマンドを再実行してください。頻繁に同じ現象が発生する場合は、`jpcspm start (jpcstart)` コマンド実行時にサービス起動処理がリトライされる間隔および回数を、`jpccomm.ini` ファイルを編集して変更してください。リトライ間隔およびリトライ回数を変更する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

## (2) サービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かる

`jpcspm start (jpcstart)` コマンドを実行してから、または [ サービス ] アイコンでサービスを開始してから、実際にサービスが起動するまで時間が掛かることがあります。次の要因で時間が掛かっている場合、2 回目の起動時からはサービスの起動までに掛かる時間が短縮されます。

- スタンドアロンモードで起動する場合、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- システム停止時にサービスを自動で停止させる設定をしないで、システムを再起動してサービスを起動すると、Store データベースのインデックスが再構築される場合があります。この場合、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- エージェントを新規に追加したあとサービスを起動すると、初回起動時だけ Store データベースのインデックスが作成されます。そのため、サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- 電源切断などによって Store サービスが正常な終了処理を行えなかったときは、再起動時に Store データベースのインデックスが再構築されるため、Store サービスの起動に時間が掛かることがあります。

(3) Performance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、別のプログラムがサービスを開始したとき、通信が正しく実行されない

Performance Management のプログラムのサービスを停止した直後に、このサービスが使用していたポート番号で、ほかのプログラムがサービスを開始した場合、通信が正しく実行されないことがあります。この現象を回避するために、次のどちらかの設定をしてください。

- Performance Management のプログラムのサービスに割り当てるポート番号を固定する  
Performance Management のプログラムの各サービスに対して、固定のポート番号を割り当てて運用してください。ポート番号の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- TCP\_TIMEWAIT 値を設定する  
TCP\_TIMEWAIT 値で接続待ち時間をデフォルトの設定としてください。デフォルト値は、次のとおりです。
  - Windows Server 2003, Windows Server 2008 の場合：2分

(4) 「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止する

Store データベースが使用しているディスクに十分な空き容量がない場合、Store データベースへのデータの格納が中断されます。この場合、「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと、Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止します。

このメッセージが表示された場合、次のどちらかの対処をしてください。

- 十分なディスク容量を確保する  
Store データベースのディスク占有量を見積もり、Store データベースの格納先を十分な容量があるディスクに変更してください。Store データベースのディスク占有量を見積もる方法については、「付録 A システム見積もり」を参照してください。Store データベースの格納先を変更する方法については、「2.4 PFM - Agent for Platform の運用方式の変更」を参照してください。
- Store データベースの保存条件を変更する  
Store データベースの保存条件を変更し、Store データベースのデータ量の上限值を調整してください。Store データベースの保存条件を変更する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

これらの対処を実施したあとも Master Store サービスまたは Agent Store サービスが起動されない場合、Store データベースに回復できない論理矛盾が発生しています。この場合、バックアップデータから Store データベースをリストアしたあと、Master Store



サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。利用できるバックアップデータが存在しない場合は、Store データベースを初期化したあと、Master Store サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。Store データベースを初期化するには、Store データベースの格納先ディレクトリにある次のファイルをすべて削除してください。

- 拡張子が .DB であるファイル
- 拡張子が .IDX であるファイル

Store データベースの格納先ディレクトリについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章および付録を参照してください。

## 8.2.2 コマンドの実行について

Performance Management のコマンドの実行に関するトラブルの対処方法を次に示します。

### (1) `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力される

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないで Performance Management のプログラムをアンインストールした  
Performance Management のプログラムをアンインストールしても Performance Management のプログラムのサービス情報はデータベースに残っています。`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを実行して、Performance Management のプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した  
Performance Management のプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した場合、以前のホスト名が付加されているサービス ID のサービス情報が、Master Manager サービスが管理しているデータベースに残っています。`jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを実行して、Performance Management のプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法およびホスト名の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

## (2) jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行すると、指定した Store データベースと異なるデータが出力される

同じ Store サービスに対して、同じエクスポートファイル名を指定して、複数回 jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行すると、先に実行した出力結果があとから実行された実行結果に上書きされます。同じ Store サービスに対して、複数回 jpctool db dump (jpcctrl dump) コマンドを実行する場合は、異なる名称のエクスポートファイルを指定してください。Store データベースのエクスポート方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

## 8.2.3 レポートの定義について

Performance Management のレポートの定義に関するトラブルの要因を次に示します。

### (1) 履歴レポートに表示されない時間帯がある

PFM - Agent がインストールされたマシンの現在時刻を、現在時刻よりも未来の時刻に変更した場合、変更前の時刻から変更後の時刻までの履歴情報は保存されません。

## 8.2.4 アラームの定義について

Performance Management のアラームの定義に関するトラブルの対処方法を次に示します。

### (1) アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが起動されていない  
PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが停止していると、アクションが実行されません。アクションを実行する場合は、PFM - Manager およびアクション実行先ホストの Action Handler サービスを起動してください。

### (2) アラームイベントが表示されない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager が起動されていない  
PFM - Manager を停止すると、PFM - Agent からのアラームイベントを正しく発行できません。アラームイベントを監視する場合は、PFM - Manager を起動してください。

(3) アラームしきい値を超えているのに、エージェント階層の [ アラームの状態の表示 ] 画面に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数が日本語にそろっていない環境で、日本語を使用したアラームテーブルをバインドしている  
このような場合、日本語を使用したアラームは正常に評価されません。PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数を、日本語にそろえて運用してください。LANG 環境変数の設定は共通メッセージログを確認し、最新のサービス起動メッセージが日本語と英語のどちらで出力されているか確認してください。

なお、PFM - Manager ホストが英語環境の場合、現在の設定のまま日本語環境に変更すると、既存のアラーム定義が文字化けして削除できなくなります。このため、次の作業を実施してください。

1. アラーム定義内に日本語を使用したアラームテーブルが必要な場合は、PFM - Web Console からすべてエクスポートする。  
エクスポートする際に、`jpctool alarm export (jpcalarm export)` コマンドは使用できません。
2. アラーム定義内に日本語を使用したアラームテーブルをすべて削除する。
3. PFM - Manager を停止する。
4. PFM - Manager ホストの LANG 環境変数を日本語に変更する。
5. PFM - Manager を起動する。
6. 手順 1 でアラームテーブルをエクスポートした場合は、PFM - Web Console または `jpctool alarm import (jpcalarm import)` コマンドを使用して、アラームテーブルをインポートする。

また、日本語および英語の混在環境での、その他の注意事項については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、日本語版と英語版の混在環境での注意事項について記載している章を参照してください。

## 8.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について

Performance Management のパフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルの対処方法を次に示します。

(1) データの保存期間を短く設定したにもかかわらず、PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない

Store バージョン 1.0 で Store データベースのファイル容量がすでに限界に達している場合、データの保存期間を短く設定してもファイルサイズは小さくなりません。この場合、保存期間を短く設定したあと、いったん Store データベースをバックアップし、リスト

## 8. トラブルへの対処方法

アし直してください。

データの保存期間の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。また、Store データベースのバックアップとリストアの方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、バックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

### (2) 共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力される

予期しないサービスの停止またはマシンのシャットダウンによって、Store データベースに不整合なデータが発生したおそれがあります。次の方法で対処をしてください。

- Store データベースをバックアップしてある場合は、Store データベースをリストアしてください。
- Store データベースをバックアップしていない場合は、Agent Store サービスを停止したあと、対応するデータベースファイル（\*.DB ファイルおよび \*.IDX ファイル）を削除し、サービスを再起動してください。

## 8.2.6 ハングアップや異常停止について

Performance Management を使用時に次の現象が発生した場合、拡張カウンタ DLL によってトラブルが引き起こされているおそれがあります。

- PFM Agent for Windows サービスが起動中にもかかわらず、パフォーマンス情報が収集されない
- PFM Agent for Windows サービスが異常終了する
- PFM Agent for Windows サービスを停止すると、KAVE05034-E のエラーメッセージが出力される

この場合、Microsoft 社が提供している Microsoft Knowledge Base の次の情報を参照してください。

- パフォーマンス モニタが起動時またはカウンタの追加時にハングアップする
- パフォーマンス モニタ カウンタの問題のトラブルシューティング

## 8.2.7 その他のトラブルについて

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、「8.3 ログ情報」を参照してください。

「8.2.1 セットアップやサービスの起動について」～「8.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について」に示した対処をしても、トラブルが解決できなかった場合、また

は、これら以外のトラブルが発生した場合、トラブルの要因を調査するための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

採取が必要な資料および採取方法については、「8.4 トラブル発生時に採取が必要な資料」および「8.5 資料の採取方法」を参照してください。

## 8.3 ログ情報

---

Performance Management でトラブルが発生した場合、ログ情報を確認して対処方法を検討します。Performance Management を運用しているときに出力されるログ情報には、次の 4 種類があります。

- システムログ
- 共通メッセージログ
- 稼働状況ログ
- トレースログ

ここでは、4 種類のログ情報、および各ログ情報に設定できるログオプションについて説明します。

### 8.3.1 ログ情報の種類

#### (1) システムログ

システムログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。このログ情報はイベントログファイルに出力されます。

出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

#### (2) 共通メッセージログ

共通メッセージログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。システムログよりも詳しいログ情報が出力されます。共通メッセージログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、「8.3.2 ログファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

#### (3) 稼働状況ログ

稼働状況ログとは、PFM - Web Console が出力するログ情報のことです。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

#### (4) トレースログ

トレースログとは、トラブルが発生した場合に、トラブル発生の経緯を調査したり、各処理の処理時間を測定したりするために採取するログ情報のことです。

トレースログは、Performance Management のプログラムの各サービスが持つログファ

イルに出力されます。

## 8.3.2 ログファイルおよびフォルダ一覧

ここでは、Performance Management から出力されるログ情報について説明します。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

### (1) 共通メッセージログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、共通メッセージログについて、ログの出力元であるサービス名または制御名、ログファイル名、およびディスク使用量を、次の表に示します。

表 8-2 共通メッセージログのファイル名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量 <sup>1</sup> (キロバイト)
共通メッセージログ	Performance Management	インストール先フォルダ ¥log¥jpclog{01 02} <sup>2</sup>	2,048 ( * 2)
		インストール先フォルダ ¥log¥jpclogw{01 02} <sup>2</sup>	2,048 ( * 2)

#### 注 1

( ) 内の数字は、一つのサービスに対して作成されるログファイルの数を示します。例えば、「2,048( \* 2)」の場合、ディスク使用量が 2,048 キロバイトのログファイルが最大で二つ作成されることを示します。この場合、ディスク使用量は合計で 4,096 キロバイトとなります。

#### 注 2

共通メッセージログのログファイル名には、末尾に「01」または「02」が付加されます。

#### シーケンシャルファイル (jpclog) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ログファイル名の末尾が「01」から「02」に変更され、ファイル名の末尾が「01」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「01」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、上書きされます。最新のログは常にファイル名の末尾が「01」のログファイルに出力されます。

#### ラップアラウンドファイル (jpclogw) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイ

## 8. トラブルへの対処方法

ルのサイズが上限に達すると、ファイル名の末尾が「02」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「02」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、一度データをすべて削除し、先頭行からログが出力されます。そのあとログの出力ファイルが交互に入れ替わります。

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

### (2) トレースログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、PFM - Agent のトレースログの出力元であるサービス名または制御名、および格納先ディレクトリ名を、次の表に示します。

表 8-3 トレースログの格納先フォルダ名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	フォルダ名
トレースログ	Performance Management コマンド	インストール先フォルダ %tools%\log\
	Agent Collector サービス	インストール先フォルダ %agtt%\agent%\log\
	Agent Store サービス	インストール先フォルダ %agtt%\store%\log\



## 8.4 トラブル発生時に採取が必要な資料

「8.2 トラブルシューティング」に示した対処をしてもトラブルを解決できなかった場合、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡する必要があります。この節では、トラブル発生時に採取が必要な資料について説明します。

Performance Management では、採取が必要な資料を一括採取するためのコマンドを用意しています。PFM - Agent の資料を採取するには、jpcras コマンドを使用します。jpcras コマンドを使用して採取できる資料については、表中に記号で示しています。

### 注意

jpcras コマンドで採取できる資料は、コマンド実行時に指定するオプションによって異なります。コマンドに指定するオプションと採取できる資料については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

### 8.4.1 Windows の場合

#### (1) OS のログ情報

OS に関する次のログ情報の採取が必要です。OS のログ情報を次の表に示します。

表 8-4 OS のログ情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムログ	Windows イベントログ	-	
	WMI ログ	システムフォルダ ¥system32¥WBEM¥Logs¥* <sup>1</sup>	
プロセス情報	プロセスの一覧	-	
システムファイル	hosts ファイル	システムフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	
	services ファイル	システムフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥services	
OS 情報	システム情報	-	
	ネットワークステータス	-	
	ホスト名	-	
	Windows ファイアウォールの情報	-	

## 8. トラブルへの対処方法

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
ダンプ情報	ワトソンログファイル <sup>2</sup>	システムドライブ ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log <sup>1</sup> システムドライブ ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥user.dump <sup>1</sup>	

(凡例)

- : 採取できる
- : 該当しない

注 1

別のフォルダにログファイルが出力されるように設定している場合は、該当するフォルダから資料を採取してください。

注 2

Windows Server 2008 では、「ワトソン博士」は「問題のレポートと解決策」に変更されています。

### (2) Performance Management の情報

Performance Management に関する次の情報の採取が必要です。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。Performance Management の情報を次の表に示します。

表 8-5 Performance Management の情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ (シーケンシャルファイル方式)	インストール先フォルダ ¥log¥jpclog{01 02} <sup>1</sup>	

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpccras コマ ンド での 採取
	Performance Management から出力されるメッセージログ (ラップアラウンドファイル方式)	インストール先フォルダ ¥log¥jpclogw{01 02} <sup>1</sup>	
構成情報	各構成情報ファイル	-	
	jpccras tool service list (jpcctrl list) コマンドの出力結果	-	
バージョン情報	製品バージョン	-	
	履歴情報	-	
データベース情報	Agent Store	<ul style="list-style-type: none"> <li>Store バージョン 1.0 の場合 インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥*.DB インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥*.IDX</li> <li>Store バージョン 2.0 の場合 インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥STPD インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥STPI フォルダ下の次に示すファイル。 *.DB *.IDX</li> </ul>	
トレースログ	Performance Management のプログラムの各サービスのトレース情報	- <sup>2</sup>	
ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集機能の情報	構成情報	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥jpcuser.ini	

8. トラブルへの対処方法

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンド での 採取
	デバッグログ	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥debug¥jpcuser_dbg_{01 02 03 04 05}.log	
	トレースログ	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥log¥trace¥msglog{01 02}	
	パブリックログ	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥log¥public¥jpclog{01 02}	
	ユーザーデータファイル	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥userdata¥jpcuser_{UPI UPIB UPD UPDB}	
Agent Collector サービス 独自ログ	パフォーマンス情報	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥map.log	
	WMI エラー情報	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥agttterr.log	
定義ファイル	パフォーマンスカウンタ定義ファイル (英語)	システムフォルダ ¥system32 フォルダ下の次に示すファイル。 perfc009.dat perfh009.dat	
	パフォーマンスカウンタヘルプ定義ファイル (日本語)	システムフォルダ ¥system32 フォルダ下の次に示すファイル。 perfc011.dat perfh011.dat	
	アプリケーション定義ファイル (09-00 以前)	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcapp	
	アプリケーション定義ファイル (09-10 以降)	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcapp2	
レジストリ情報	サービス関連情報 (パフォーマンス定義情報含む)	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services"	
	パフォーマンス定義情報 (デフォルト)	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Perflib"	

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpccras コマ ンド での 採取
	PFM - Agent for Platform 設 定情報	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1PCAGTT"	
	PFM - Agent for Platform 設 定情報 (WOW64)	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI ¥JP1PCAGTT"	
インス トールロ グ <sup>3</sup>	インストー ル時のメッ セージログ (Windows Server 2003 の場合)	%TEMP%¥pfm_inst.log	×
	インストー ル時のメッ セージログ (Windows Server 2008 の場合)	システムフォルダ ¥TEMP¥HCDINST フォルダ下の次に示すファイ ル。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HCDMAIN.LOG および HCDMAINn.LOG<sup>4</sup></li> <li>• HCDINST.LOG および HCDINSTn.LOG<sup>4</sup></li> <li>• P-2A2C-AC94 [_{1 2 3 4 5}].LOG</li> </ul>	×

(凡例)

- : 採取できる
- × : 採取できない
- : 該当しない

注 1

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注 2

トレースログの格納先フォルダについては、「8.3.2 ログファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。

注 3

インストールに失敗した場合に採取してください。

注 4

n は数字を示します。

### (3) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について、次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、PFM・Manager と PFM・Agent の構成など）
- 再現性の有無
- PFM・Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

### (4) 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー（詳細ボタンがある場合はその内容を含む）
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、[コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピー

### (5) パフォーマンスデータに関する情報

パフォーマンスデータに関する次の情報の採取が必要です。また、マシン上のファイル、コマンド結果、レジストリ情報の採取も必要です。

PFM・Agent for Platform をインストールした環境で採取する必要がある、PFM・Agent for Platform 固有のパフォーマンスデータに関する情報を次の表に示します。

表 8-6 PFM - Agent for Platform 固有のパフォーマンスデータに関する情報

情報の種類	概要	採取が必要な情報 (ファイル名、取得コマンド名またはレジストリ定義場所)	jpccras コマンドでの採取
パフォーマンス定義情報	カウンタ定義ファイル	システムフォルダ ¥system32¥perfc009.dat	
		システムフォルダ ¥system32¥perfc011.dat	
		システムフォルダ ¥system32¥perfh009.dat	
		システムフォルダ ¥system32¥perfh011.dat	
	カウンタ定義場所 (レジストリ)	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Perflib	

情報の種類	概要	採取が必要な情報 (ファイル名, 取得コマンド名またはレジストリ 定義場所)	jpcras コマ ンドで の採 取
		HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services	
	Agent Collector サービス起動時のカウンタ情報	インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥map.log	
OS 情報 (コマ ンド)	ホスト名	hostname	
	バージョン	ver	
	クラスタ	cluster	
	デバイス	mode	
	ディスクカウンタ	diskperf	
	ディスクボリューム	mountvol	
		vol	
	仮想ドライブ	subst	
	TCP/IP	ipconfig	
	IPX	ipxroute config	
	ネットワーク状態	nbtstat	
	ネットワーク名	net name	
	クライアント	net view	
	サービス	net start	
	Server サービス	net config server	
	Workstation サービス	net config workstation	
	セッション	net session	
	共有リソース	net share	
		net use	
	ユーザーアカウント	net user	
		net accounts	
	ローカルグループ	net localgroup	
	ドメインコントローラー	dsquery server	
		dsquery ou	
dsquery user			
プロセス	tasklist /m		
	tasklist /svc		

## 8. トラブルへの対処方法

情報の種類	概要	採取が必要な情報 (ファイル名, 取得コマンド名またはレジストリ 定義場所)	jpcra s コ マ ン ド で の 採 取
	TCP/IP	netstat -a	

(凡例)

: 採取できる

注

コマンドの詳細については, Windows のヘルプを参照してください。

### (6) ユーザーダンプ (Windows Server 2008 の場合)

Windows Server 2008 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は, ユーザーダンプを採取してください。

### (7) 問題レポートの採取 (Windows Server 2008 の場合)

Windows Server 2008 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は, 問題レポートを採取してください。

### (8) その他の情報

上記以外に必要な情報を次に示します。

- Windows の [ イベントビューア ] ウィンドウの, [ システム ] および [ アプリケーション ] の内容
- [ アクセサリ ] - [ システムツール ] - [ システム情報 ] の内容



## 8.5 資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

### 8.5.1 Windows の場合

#### (1) ダンプ情報を採取する (Windows Server 2008 の場合)

Windows Server 2008 の環境での、ダンプ情報の採取手順を次に示します。

1. タスクマネージャーを開く。
2. プロセスのタブを選択する。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、「ダンプ ファイルの作成」を選択する。  
次のフォルダに、ダンプファイルが格納されます。  
システムドライブ¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local¥Temp
4. 手順 3 のフォルダからダンプファイルを採取する。  
手順 3 と異なるフォルダにダンプファイルが出力されるように環境変数の設定を変更している場合は、変更先のフォルダからダンプファイルを採取してください。

#### (2) 資料採取コマンドを実行する

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして Administrators 権限を持つユーザーが実行してください。

1. 資料採取するサービスがインストールされているホストにログオンする。
2. コマンドプロンプトで次に示すコマンドを実行して、コマンドインタプリタの「コマンド拡張機能」を有効にする。  
cmd /E:ON
3. 採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して、jpcras コマンドを実行する。  
jpcras コマンドで、採取できるすべての情報を c:¥tmp¥jpc¥agt フォルダに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。  
jpcras c:¥tmp¥jpc¥agt all all

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id \* -host \*(jpcctrl list \* host=\*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id \* -host \*(jpcctrl list \* host=\*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC\_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool

## 8. トラブルへの対処方法

service list -id \* -host \*(jpcctrl list \* host=\*)」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

### Windows Server 2008 の環境で実行する場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[ 続行 ] ボタンをクリックして資料採取を続行してください。[ キャンセル ] ボタンをクリックした場合は、資料採取が中止されます。

### (3) Windows イベントログを採取する

Windows の [ イベントビューア ] ウィンドウの、[ システム ] および [ アプリケーション ] の内容を採取してください。

### (4) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成 (各 OS のバージョン, ホスト名, PFM - Manager と PFM - Agent の構成など)
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

### (5) 画面上のエラー情報を採取する

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー  
詳細情報がある場合はその内容をコピーしてください。
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、[ コマンドプロンプト ] ウィンドウまたは [ 管理者コンソール ] ウィンドウのハードコピー  
[ コマンドプロンプト ] ウィンドウまたは [ 管理者コンソール ] ウィンドウのハードコピーを採取する際は、[ " コマンドプロンプト " のプロパティ ] ウィンドウについて次のように設定しておいてください。
  - [ オプション ] タブの [ 編集オプション ]  
[ 簡易編集モード ] がチェックされた状態にする。
  - [ レイアウト ] タブ

[画面バッファのサイズ]の[高さ]に「500」を設定する。

(6) その他の情報を採取する

[アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報]の内容

## 8.6 Performance Management の障害検知

---

Performance Management では、ヘルスチェック機能を利用することで Performance Management 自身の障害を検知できます。ヘルスチェック機能では、監視エージェントや監視エージェントが稼働するホストの稼働状態を監視し、監視結果を監視エージェントの稼働状態の変化として PFM・Web Console 上に表示します。

また、PFM サービス自動再起動機能を利用することで、PFM サービスが何らかの原因で異常停止した場合に自動的に PFM サービスを再起動したり、定期的に PFM サービスを再起動したりすることができます。

ヘルスチェック機能によって監視エージェントの稼働状態を監視したり、PFM サービス自動再起動機能によって PFM サービスを自動再起動したりするには、Performance Management のサービスの詳細な状態を確認するステータス管理機能を使用します。このため、対象となる監視エージェントがステータス管理機能に対応したバージョンであり、ステータス管理機能が有効になっている必要があります。ホストの稼働状態を監視する場合は前提となる条件はありません。

また、Performance Management のログファイルをシステム統合監視製品である JP1/Base で監視することによっても、Performance Management 自身の障害を検知できます。これによって、システム管理者は、トラブルが発生したときに障害を検知し、要因を特定して復旧の対処をします。

Performance Management 自身の障害検知の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

## 8.7 Performance Management システムの障害回復

---

Performance Management のサーバで障害が発生したときに、バックアップファイルを基にして、障害が発生する前の正常な状態に回復する必要があります。

障害が発生する前の状態に回復する手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。



# 付録

---

付録 A	システム見積もり
付録 B	識別子一覧
付録 C	プロセス一覧
付録 D	ポート番号一覧
付録 E	PFM - Agent for Platform のプロパティ
付録 F	ファイルおよびフォルダー一覧
付録 G	移行手順と移行時の注意事項
付録 H	バージョン互換
付録 I	動作ログの出力
付録 J	各バージョンの変更内容
付録 K	( 3020-3-R48-21 ) の変更内容
付録 L	用語解説

---

## 付録 A システム見積もり

PFM - Agent for Platform を使ったシステムを構築する前に、使用するマシンの性能が、PFM - Agent for Platform を運用するのに十分であるか、見積もっておくことをお勧めします。

見積もり項目を次に説明します。

### 付録 A.1 メモリー所要量

メモリー所要量は、PFM - Agent for Platform の設定状況や使用状況によって変化します。

#### (1) 見積もり式

PFM - Agent for Platform のメモリー所要量の、およその見積もりを次の表に示します。

表 A-1 メモリー所要量

PFM - Agent for Platform の状態	メモリー所要量 (単位: メガバイト)	
	Windows Server 2003 の場合	Windows Server 2008 の場合
初期状態での運用 <sup>1</sup>	125	155
初期状態以外での運用 <sup>2</sup>	a+b	

#### (凡例)

a : jpcagtt プロセスのメモリー使用量

b : jpcsto プロセスのメモリー使用量

#### 注 1

System Summary Overview (PI) レコードの履歴収集分を含みます。

#### 注 2

すべてのレコードの履歴収集をした場合 (Application Process Overview (PD\_APS) レコードおよび Application Service Overview (PD\_ASVC) レコードはリアルタイムレポートによる収集) を想定しています。

各プロセスのメモリー所要量を次の表に示します。



表 A-2 各プロセスのメモリー所要量（初期状態での運用）

プロセス名	メモリー所要量（単位：メガバイト）	
	Windows Server 2003 の場合	Windows Server 2008 の場合
jpcagtt	85	105
jpcsto	40	50

表 A-3 各プロセスのメモリー所要量（初期状態以外での運用）

プロセス名	メモリー所要量（単位：メガバイト）	
	Windows Server 2003 の場合	Windows Server 2008 の場合
jpcagtt	115	120
jpcsto	45	55

**注意**

Agent Collector サービス（jpcagtt プロセス）は、収集可能な性能情報が OS の環境によって異なるため、メモリー所要量が記載内容より大きくなる場合があります。

## 付録 A.2 ディスク占有量

ディスク占有量は、パフォーマンスデータを収集するレコード数によって変化します。

PFM - Agent for Platform のディスク占有量の見積もりについて説明します。

### （1）システム全体のディスク占有量

表 A-4 システム全体のディスク占有量

PFM - Agent for Platform の状態	ディスク占有量（単位：メガバイト）
インストール時	20
初期状態での運用	100
初期状態以外での運用	50+W

**（凡例）**

W：Store データベースで使用するディスク占有量

**注意**

パッチをインストールする場合、パッチごとに別途、ディスク占有量（最大で「インストール時」と同じ容量）が必要になります。

Store データベースで使用するディスク占有量は、PI レコードタイプのレコードのディスク占有量と PD レコードタイプのレコードのディスク占有量の合計で計算されます。

レコードタイプごとのディスク占有量の見積もり式については、次で説明します。

## (2) Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量

Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量について説明します。

## (a) 見積もり式

Store データベースでは、各レコードは、レコードタイプごとに一つのファイルに格納されます。Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量について、レコードタイプごとに次の表に示します。

表 A-5 レコードタイプごとの Store データベースのディスク占有量

レコードタイプ	ディスク占有量の見積もり式 (単位: バイト)
PI レコードタイプ	$(X_1 + \dots + X_a + 3,500 * a)$
PD レコードタイプ	$(Y_1 + \dots + Y_b + 700 * b)$

## (凡例)

X: PI レコードタイプのレコードで履歴データを収集する各レコードのディスク占有量

X の算出式を次に示します。

$$X = \{e * f + (d + 1,900) * \{(e * f) / (65,250 - d) + 1\}^1\} * g * 1.5$$

Y: PD レコードタイプのレコードで履歴データを収集する各レコードのディスク占有量

Y の算出式を次に示します。

$$Y = \{e * h + (d + 1,900) * \{(e * f) / (65,250 - d) + 1\}^1 * (h/f)^2\} * 1.5$$

a: PI レコードタイプのレコードで履歴データを収集するレコード数

b: PD レコードタイプのレコードで履歴データを収集するレコード数

d: 履歴データを収集する各レコードの固定部のサイズ<sup>3</sup>

e: 履歴データを収集する各レコードの可変部のサイズ<sup>3</sup>

f: 履歴データを収集する各レコードのインスタンス数 (単数インスタンスレコードの場合は 1)<sup>4</sup>

g: 履歴データを収集する各レコードの保存レコード数 (インスタンス数は考慮しません)<sup>5</sup>

h: 履歴データを収集する各レコードの保存レコード数の上限値<sup>6</sup>

## 注 1

$\{(e * f) / (65,250 - d) + 1\}$  の計算結果は、小数点以下を切り捨ててください。

## 注 2

$(h/f)$  の計算結果は、小数点以下を切り捨ててください。

## 注 3

各レコードの固定部・可変部のサイズについては、「5. レコード」のレコードサイズを参照してください。

注 4

次の表に示すレコードのインスタンス数は、Windows の管理ツールの一つ、パフォーマンスコンソールの [ システムモニタ ] および [ パフォーマンス ログと警告 ] でレコードに対応するパフォーマンスオブジェクトのインスタンス数として見積もることができます。

表 A-6 レコードに対応するパフォーマンスオブジェクトのインスタンス数

レコード ID	レコードに対応する パフォーマンス オブジェクト	備考
PD	Process	インスタンス数
PD_PAGF	Paging File	インスタンス数
PD_PDI	Process	インスタンス数
PD_PEND	Process	収集間隔中に終了するインスタンス数
PI	Redirector , Server , Cache , Memory , Objects , System , Processor の "_total" インスタンス	単数インスタンスレコードのため、1
PI_AD	NTDS , DNS , Database の lsass インスタンス	単数インスタンスレコードのため、1
PI_BRSR	Browser	単数インスタンスレコードのため、1
PI_ICM6	ICMPv6	単数インスタンスレコードのため、1
PI_ICMP	ICMP	単数インスタンスレコードのため、1
PI_IP	IP または IPv4	単数インスタンスレコードのため、1
PI_IP6	IP または IPv6	単数インスタンスレコードのため、1
PI_LOGD	LogicalDisk	インスタンス数
PI_NBT	NBT Connection	インスタンス数
PI_NETI	Network Interface	インスタンス数
PI_PCSR	Processor	インスタンス数
PI_PHYD	PhysicalDisk	インスタンス数
PI_SVRQ	Server Work Queues	インスタンス数
PI_TCP	TCP または TCPv4	単数インスタンスレコードのため、1
PI_TCP6	TCP または TCPv6	単数インスタンスレコードのため、1
PI_UDP	UDP または UDPv4	単数インスタンスレコードのため、1
PI_UDP6	UDP または UDPv6	単数インスタンスレコードのため、1
PI_WINS	WINS Server	単数インスタンスレコードのため、1

次の表に示すレコードのインスタンス数は、Windows ツール、収集データ追加ユー

ティリティ, またはユーザー作成データ収集機能で設定したユーザーレコードの数で見積もることができます。

表 A-7 PFM - Web Console, Windows ツール, 収集データ追加ユーティリティ, またはユーザー作成データ収集機能で確認するインスタンス数

レコード ID	確認元	備考
PD_APS	タスクマネージャーの [ プロセス ] タブを確認する。	表示されるプロセス数。「全ユーザーのプロセスを表示する」がチェックされている必要がある。
PD_APSI	PFM - Web Console の [ サービス階層 ] 画面でホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択し, [ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成されたアプリケーション名のツリーを確認する。	各アプリケーションに登録されている MonitoringXX Condition に一致したプロセス数またはサービス数の総数 ( PD_APPD レコードの Monitoring Count の総数 )。
PD_APP	PFM - Web Console の [ サービス階層 ] 画面でホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択し, [ Application monitoring setting ] ツリーを確認する。	Application monitoring setting に登録されているアプリケーション数。
PD_APP2	PFM - Web Console の [ サービス階層 ] 画面でホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択し, [ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーを確認する。	Advanced application monitoring の Application monitoring setting に登録されているアプリケーション数。ただし, MonitoringXX Field が None 以外でかつ MonitoringXX Condition を指定している組み合わせがない場合, そのアプリケーションは対象外。
PD_APPD	PFM - Web Console の [ サービス階層 ] 画面でホスト名 <Windows> ( Agent Collector サービス ) を選択し, [ Advanced application monitoring ] - [ Application monitoring setting ] ツリーの下位に生成されたアプリケーション名のツリーを確認する。	各アプリケーションに登録されている MonitoringXX Condition の総数。ただし, MonitoringXX Field が None の場合は対象外。
PD_ASVC	[ 管理ツール ] - [ サービス ] を確認する。	登録されているサービス数。
PD_DEV	[ システム ツール ] - [ システム情報 ] - [ ソフトウェアの環境 ] - [ ドライバ ] を確認する。	登録されているドライバ数。
PD_ELOG	[ 管理ツール ] - [ イベントビューア ] を確認する。	収集間隔中に出力されるログ件数。
PD_GEND	[ 収集データ追加ユーティリティ ] を確認する。	設定したユーザーレコード件数。
PD_SVC	[ 管理ツール ] - [ サービス ] を確認する。	登録されているサービス数。
PD_UPD	ユーザー作成データ収集機能を実行して確認する。	設定した件数。
PD_UPDB	ユーザー作成データ収集機能を実行して確認する。	設定した件数。

レコード ID	確認元	備考
PI_GENI	[ 収集データ追加ユーティリティ ] を実行して確認する。	設定したユーザーレコード件数。
PI_UPI	ユーザー作成データ収集機能を実行して確認する。	設定した件数。
PI_UPIB	ユーザー作成データ収集機能を実行して確認する。	設定した件数。
PI_WGRP	[ 収集データ追加ユーティリティ ] を確認する。	設定したユーザーレコード件数。

## 注 5

PI レコードタイプのレコードの場合、収集したデータがある一定の区分（時、日、週、月、および年単位）に自動的に要約されるので、分、時、日、週、月、および年の部分の保存レコード数を考慮して計算する必要があります。デフォルトの保存期間と保存レコード数を次の表に示します。

表 A-8 デフォルトの保存期間と保存レコード数

データの種類の	保存期間	保存レコード数 ( 収集間隔が 1 分の場合 )
分単位	1 日	1,440
時単位	7 日	168
日単位	1 年	366
週単位	1 年	52
月単位	1 年	12
年単位	制限なし	( 収集年数 ) * 1

## 注 6

保存レコード数については、「付録 E.1 Agent Store サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

## (b) 見積み例

## 見積み例 1

PI レコードタイプの Processor Overview ( PI\_PCSR ) について、PI\_PCSR 以外の PI レコードタイプを保存設定していない場合。

表 A-5 に示した変数 a ~ g が次の値とします。

a=1  
d=681  
e=532  
f=2  
g=2,039

( f の求め方 )

表 A-7 のレコードに対応するパフォーマンスオブジェクトのインスタンス数を参照してください。今回は f=2 とします。

(g の求め方)

PI\_LOGD の収集間隔を 1 分、年単位の収集年数を 1 年として、保存期間の設定が表 A-5 の注 4 のとおりである場合。

1,440+168+366+52+12+1=2,039レコード  
g=2,039

X の算出式

$$\begin{aligned} X &= \{e * f + (d+1,900) * \{e * f / (65,250-d) + 1\}\} * g * 1.5 \\ X &= \{532 * 2 + (681+1,900) * \{532 * 2 / (65,250-681) + 1\}\} * 2,039 * 1.5 \\ &= \{1,064 + (2,581) * \{1,064 / 64,569 + 1\}\} * 3,058.5 \\ &= \{1,064 + 2,581 * 1\} * 3,058.5 \\ &= 3,645 * 3,058.5 \\ &= 11,148,232 \text{ (バイト)} \\ &= \text{約} 10.6 \text{ (メガバイト)} \end{aligned}$$

見積もり例 2

OS が Windows で、PD レコードタイプの Process Detail (PD) について、PD 以外の PD レコードタイプを保存設定していない場合。

b=1  
d=681  
e=472  
f=3  
h=2,232

(f の求め方)

表 A-7 のレコードに対応するパフォーマンスオブジェクトのインスタンス数を参照してください。今回は f=3 とします。

(h の求め方)

保存期間の設定のデフォルトは 10,000 レコードです。

収集間隔を 3,600 秒にして 1 か月分のデータを保存したい場合。

h=24 レコード (1 日分) \* 31 (1 か月) \* 3 (f の値) = 2,232 レコード  
h=2,232 レコード

Y の算出式

$$\begin{aligned} Y &= \{e * h + (d+1,900) * \{(e * f) / (65,250-d) + 1\} * (h/f)\} * 1.5 \\ Y &= \{472 * 2,232 + (681+1,900) * \{(472 * 3) / (65,250-681) + 1\} * (2,232/3)\} * 1.5 \\ &= \{472 * 2,232 + 2,581 * \{1,416 / 64,569 + 1\} * 744\} * 1.5 \\ &= \{1,053,504 + 2,581 * 1 * 744\} * 1.5 \\ &= \{1,053,504 + 1,920,264\} * 1.5 \\ &= 2,973,768 * 1.5 \\ &= 4,460,652 \text{ (バイト)} \\ &= \text{約} 4 \text{ (メガバイト)} \end{aligned}$$

### (3) Store データベース (Store バージョン 2.0) のディスク占有量

Store データベース (Store バージョン 2.0) のディスク占有量について説明します。

## (a) 見積もり式

ディスク占有量，ファイル数，およびディレクトリ数の見積もりについて説明します。

## ディスク占有量

Store データベースのディスク占有量は，レコードタイプごとのディスク占有量の総和となります。PI レコードタイプについては，さらに要約区分ごとのディスク占有量の総和となります。

## 注意

パフォーマンスデータが Store データベースに格納される際，幾つかのフィールドが追加されます。追加されるフィールドは，ディスク占有量に含まれるため，新たに容量を見積もる必要はありません。各レコードに共通して追加されるフィールドは Store バージョン 1.0 と同じです。詳細については，「(2) Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量」を参照してください。

レコードタイプごとのディスク占有量 X の見積もり式 (単位：バイト)

$$X = \{ (e+2) * f + (d+60) * \{ ((e+2) * f) / (65,250-d) + 1 \}^{1.1} * a/b * (c+1) * 1.1$$

a：レコードタイプ，要約区分ごとに値が異なります。表 A-9 を参照してください。

b：レコードタイプ，要約区分ごとに値が異なります。表 A-9 を参照してください。

2

c：履歴データの保存期間設定値<sup>3</sup>。レコードタイプ，要約区分ごとに指定する単位が異なります。単位については表 A-9 を参照してください。

d：履歴データを収集する各レコードの固定部のサイズ<sup>4</sup>

e：履歴データを収集する各レコードの可変部のサイズ<sup>4</sup>

f：履歴データを収集する各レコードのインスタンス数 (単数インスタンスレコードの場合は 1)<sup>5</sup>。インスタンス数が 2 以上の場合，4 の倍数に丸め込みます。例えばインスタンス数が 2 の場合は，f=4 となります。インスタンス数が 13 の場合は，f=16 となります。インスタンス数が 1 の場合は，f=1 となります。

表 A-9 a, b, および c に設定する値

レコードタイプ	要約区分	a	b	c
PI	分	1,440	$1+(g-1)/60$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位：日)
	時	24	$1+(g-1)/3,600$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位：日)
	日	7	$1+(g-1)/86,400$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位：週)
	週	1	$1+(g-1)/604,800$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位：週)

レコードタイプ	要約区分	a	b	c
	月	1	$1+(g-1)/2,592,000$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位: 月)
	年	1	$1+(g-1)/31,622,400$ <sup>2</sup>	保存期間 (単位: 年)
PD	-	1,440	g/60	保存期間 (単位: 日)
PL	-	1,440	g/60	保存期間 (単位: 日)

(凡例)

g : 履歴データの収集インターバル設定値 (単位: 秒)

- : 該当しない

注 1

$\{(e+2) * f / (65,250-d)+1\}$  の計算結果は、小数点以下を切り捨ててください。

注 2

PI レコードタイプの b の計算結果は、小数点以下を切り捨ててください。

注 3

Store バージョン 2.0 の場合のデフォルトの保存期間を表 A-10, 表 A-11 に示します。

注 4

各レコードの固定部・可変部のサイズについては、「5. レコード」のレコードサイズを参照してください。

注 5

レコードごとのインスタンス数については、「(2) Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量」を参照してください。

表 A-10 PI レコードタイプの保存期間 (デフォルト値)

データの種類	保存期間
分単位	1 日
時単位	7 日
日単位	54 週
週単位	54 週
月単位	12 か月
年単位	制限なし



表 A-11 PD レコードタイプの保存期間（デフォルト値）

レコード名	保存期間（単位：日）
PD	2
PD_PDI	2
PD_APS	0
PD_APSI	10
PD_PEND	2
PD_PAGF	2
PD_SVC	2
PD_ASVC	0
PD_GEND	10
PD_DEV	2
PD_ELOG	31
PD_UPD	10
PD_UPDB	10
PD_APP	10
PD_APP2	10
PD_APPD	10

### ファイル数

Store データベースで作成されるファイル数  $N$  の見積もり式を次に示します。

$$N=20+2 * ( \begin{array}{l} (A11+A12+...+A1m+m) + \\ (A21+A22+...+A2m+m) + \\ (A31+A32+...+A3m+m) + \\ (A41+A42+...+A4m+m) + \\ (A51+A52+...+A5m+m) + \\ (11 * m) + \\ (B1+B2+...+Bn+n) + \\ (C1+C2+...+Co+o) \end{array} )$$

$m$  : PI レコードタイプで収集しているレコードの数

$n$  : PD レコードタイプで収集しているレコードの数

$o$  : PL レコードタイプの収集しているレコードの数

$A11 \sim A1m$  : PI レコードタイプのレコードごとの分レコードの保存期間設定値（単位：日）

$A21 \sim A2m$  : PI レコードタイプのレコードごとの時レコードの保存期間設定値（単位：日）

A31 ~ A3m : PI レコードタイプのレコードごとの日レコードの保存期間設定値 (単位 : 週)

A41 ~ A4m : PI レコードタイプのレコードごとの週レコードの保存期間設定値 (単位 : 週)

A51 ~ A5m : PI レコードタイプのレコードごとの月レコードの保存期間設定値 (単位 : 月)

B1 ~ Bn : PD レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値 (単位 : 日)

C1 ~ Co : PL レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値 (単位 : 日)

#### ディレクトリ数

Store データベースで作成されるディレクトリ数 N の見積もり式を次に示します。

$$N=25+2 * ((A1max) + (A2max) + (A3max) + (A4max) + (A5max) + 11 + (Bmax) + (Cmax))$$

A1max : PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「分」のデータの保存期間設定値の最大値 (単位 : 日)

A2max : PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「時」のデータの保存期間設定値の最大値 (単位 : 日)

A3max : PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「日」のデータの保存期間設定値の最大値 (単位 : 週)

A4max : PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「週」のデータの保存期間設定値の最大値 (単位 : 週)

A5max : PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「月」のデータの保存期間設定値の最大値 (単位 : 月)

Bmax : PD レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値の最大値 (単位 : 日)

Cmax : PL レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値の最大値 (単位 : 日)

#### Store サービスがオープンするファイル数

Store サービスがオープンするファイル数 N の見積もり式を次に示します。

$$N=20+2 * (6 * l+m+n)$$

l : PI レコードタイプで収集しているレコードの数

m : PD レコードタイプで収集しているレコードの数

n : PL レコードタイプの収集しているレコードの数

## (b) 見積もり例

PFM・Agent for Platform の Store データベース (Store バージョン 2.0) の見積もり例について説明します。

## ディスク占有量

PI\_LOGD レコードと PD レコードを収集する設定にした場合を例に挙げて説明します。

PI\_LOGD レコードの見積もりについて説明します。「(a) 見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

d=681 (バイト)  
e=700 (バイト)  
f=4  
g=60 (秒)

次に、分レコード、時レコードなどそれぞれの計算を行います。

## 分レコード

変数を次の値とします。

a=1,440  
b=1+(60-1)/60  
=1.98...  
=1 (小数点以下切り捨て)  
c=3 (日)

見積もり式を次に示します。

$$X(\text{分}) = \{ (700+2) * 4 + (681+60) * \{ ((700+2) * 4) / (65,250-681) + 1 \} \}$$

$$* 1,440 / 1 * (3+1) * 1.1$$

$$= \{ 2,808 + 741 * 1 \} * 6,336$$

$$= 3,549 * 6,336$$

$$= 22,486,464 (\text{バイト}) = \text{約}22 (\text{メガバイト})$$

## 時レコード

変数を次の値とします。

a=24  
b=1+(60-1)/3,600  
=1.01...  
=1 (小数点以下切り捨て)  
c=3 (日)

見積もり式を次に示します。

$$X(\text{時}) = \{ (700+2) * 4 + (681+60) * \{ ((700+2) * 4) / (65,250-681) + 1 \} \}$$

$$* 24 / 1 * (3+1) * 1.1$$

$$= \{ 2,808 + 741 * 1 \} * 105.6$$

$$= 3,549 * 105.6$$

$$= 374,774.4 (\text{バイト}) = \text{約}0.4 (\text{メガバイト})$$

## 日レコード

変数を次の値とします。

a=7  
b=1+(60-1)/86,400  
=1.00...  
=1 (小数点以下切り捨て)

c=1 (週)

見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned} X(\text{日}) &= \{(700+2) * 4 + (681+60) * \{(700+2) * 4 / (65,250-681) + 1\}\} \\ &* 7/1 * (1+1) * 1.1 \\ &= \{2,808+741 * 1\} * 15.4 \\ &= 3,549 * 15.4 \\ &= 54,654.6 (\text{バイト}) = \text{約}0.05 (\text{メガバイト}) \end{aligned}$$

#### 週レコード

変数を次の値とします。

$$\begin{aligned} a &= 1 \\ b &= 1 + (60-1) / 604,800 \\ &= 1.00\dots \\ &= 1 (\text{小数点以下切り捨て}) \\ c &= 1 (\text{週}) \end{aligned}$$

見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned} X(\text{週}) &= \{(700+2) * 4 + (681+60) * \{(700+2) * 4 / (65,250-681) + 1\}\} \\ &* 1/1 * (1+1) * 1.1 \\ &= \{2,808+741 * 1\} * 2.2 \\ &= 3,549 * 2.2 \\ &= 7,807.8 (\text{バイト}) = \text{約}0.008 (\text{メガバイト}) \end{aligned}$$

#### 月レコード

変数を次の値とします。

$$\begin{aligned} a &= 1 \\ b &= 1 + (60-1) / 2,592,000 \\ &= 1.00\dots \\ &= 1 (\text{小数点以下切り捨て}) \\ c &= 1 (\text{月}) \end{aligned}$$

見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned} X(\text{月}) &= \{(700+2) * 4 + (681+60) * \{(700+2) * 4 / (65,250-681) + 1\}\} \\ &* 1/1 * (1+1) * 1.1 \\ &= \{2,808+741 * 1\} * 2.2 \\ &= 3,549 * 2.2 \\ &= 7,807.8 (\text{バイト}) = \text{約}0.008 (\text{メガバイト}) \end{aligned}$$

#### 年レコード

変数を次の値とします。

$$\begin{aligned} a &= 1 \\ b &= 1 + (60-1) / 31,622,400 \\ &= 1.00\dots \\ &= 1 (\text{小数点以下切り捨て}) \\ c &= 10 (\text{固定}) \end{aligned}$$

見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned} X(\text{年}) &= \{(700+2) * 4 + (681+60) * \{(700+2) * 4 / (65,250-681) + 1\}\} \\ &* 1/1 * (10+1) * 1.1 \\ &= \{2,808+741 * 1\} * 12.1 \\ &= 3,549 * 12.1 \\ &= 42,942.9 (\text{バイト}) = \text{約}0.04 (\text{メガバイト}) \end{aligned}$$

以上から、PI\_LOGD レコードの見積もりは次のようになります。

$$\begin{aligned}
 X(\text{合計}) &= X(\text{分}) + X(\text{時}) + X(\text{日}) + X(\text{週}) + X(\text{月}) + X(\text{年}) \\
 &= 22.506(\text{メガバイト}) \\
 &= \text{約}23(\text{メガバイト})
 \end{aligned}$$

次に PD レコードの見積もりについて説明します。

変数を次の値とします。

$$\begin{aligned}
 a &= 1,400 \\
 b &= 60/60 = 1 \\
 c &= 10(\text{日}) \\
 d &= 681(\text{バイト}) \\
 e &= 472(\text{バイト}) \\
 f &= 12 \\
 g &= 60(\text{秒})
 \end{aligned}$$

見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned}
 X &= \{ (472+2) * 12 + (681+60) * \{ ((472+2) * 12) / (65,250-681) + 1 \} \\
 &* 1,400/1 * (10+1) * 1.1 \\
 &= \{ 5,688 + 741 * 1 \} * 17,424 \\
 &= 6,429 * 17,424 \\
 &= 112,018,896(\text{バイト}) = \text{約}112(\text{メガバイト})
 \end{aligned}$$

したがって、必要なディスク占有量は PI\_LOGD+PD=135 メガバイトとなります。

#### ファイル数

PI, PI\_LOGD, PD, および PD\_PDI レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。「(a) 見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

$$\begin{aligned}
 m &= 2 \\
 n &= 2 \\
 o &= \text{なし} \\
 A_{11} \sim A_{1m} &= 3(\text{日}) \\
 A_{21} \sim A_{2m} &= 3(\text{日}) \\
 A_{31} \sim A_{3m} &= 1(\text{週}) \\
 A_{41} \sim A_{4m} &= 1(\text{週}) \\
 A_{51} \sim A_{5m} &= 1(\text{月}) \\
 B_1 \sim B_n &= 10(\text{日}) \\
 C_1 \sim C_o &= \text{不要}
 \end{aligned}$$

Store データベースで作成されるファイル数 N の見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned}
 N &= 20 + 2 * ( \\
 &\quad (A_{11} + A_{12} + \dots + A_{1m+m}) + \\
 &\quad (A_{21} + A_{22} + \dots + A_{2m+m}) + \\
 &\quad (A_{31} + A_{32} + \dots + A_{3m+m}) + \\
 &\quad (A_{41} + A_{42} + \dots + A_{4m+m}) + \\
 &\quad (A_{51} + A_{52} + \dots + A_{5m+m}) + \\
 &\quad (11 * m) + \\
 &\quad (B_1 + B_2 + \dots + B_n + n) + \\
 &\quad (C_1 + C_2 + \dots + C_o + o) \\
 &\quad ) \\
 &= 20 + 2 * \{ \\
 &\quad [3(\text{PI分}) + 3(\text{PI\_LOGD分}) + 2] + \\
 &\quad [3(\text{PI分}) + 3(\text{PI\_LOGD分}) + 2] + \\
 &\quad [1(\text{PI分}) + 1(\text{PI\_LOGD分}) + 2] +
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & [1(\text{PI分}) + 1(\text{PI\_LOGD分}) + 2] + \\
 & [1(\text{PI分}) + 1(\text{PI\_LOGD分}) + 2] + \\
 & [11 * 2] + \\
 & [10(\text{PD分}) + 10(\text{PD\_PDI分}) + 2] \\
 & \} \\
 = & 20 + 2 * \{ 8 + 8 + 4 + 4 + 4 + 22 + 22 \} \\
 = & 20 + 2 * 72 = 20 + 144 = 164
 \end{aligned}$$

### ディレクトリ数

PI, PI\_LOGD, PD, および PD\_PDI レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。

「(a) 見積もり式」のディレクトリ数の見積もり式で示した変数が次の値とします。

A1max=3 (日) (考え方: PIが2日, PI\_LOGDが3日の場合は3日となります)  
 A2max=3 (日)  
 A3max=1 (週)  
 A4max=1 (週)  
 A5max=1 (月)  
 Bmax=10 (日) (考え方: PD\_PDIが8日, PDが10日の場合は10日となります)  
 Cmax=なし

Store データベースで作成されるディレクトリ数 N の見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned}
 N &= 25 + 2 * ( (A1max) + (A2max) + (A3max) + (A4max) + (A5max) + 11 + (Bmax) + (Cmax) ) \\
 &= 25 + 2 * ( 3 + 3 + 1 + 1 + 1 + 11 + 10 + 0 ) = 25 + 2 * 30 = 85
 \end{aligned}$$

### Store サービスがオープンするファイル数

PI, PI\_LOGD, PD, および PD\_PDI レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。

「(a) 見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

l=2  
 m=2  
 n=0

Store サービスがオープンするファイル数 N の見積もり式を次に示します。

$$\begin{aligned}
 N &= 20 + 2 * ( 6 * l + m + n ) \\
 &= 20 + 2 * ( 6 * 2 + 2 + 0 ) = 48
 \end{aligned}$$

## 付録 B 識別子一覧

PFM - Agent for Platform を操作したり、PFM - Agent for Platform の Store データベースからパフォーマンスデータを抽出したりする際、PFM - Agent for Platform であることを示す識別子が必要な場合があります。PFM - Agent for Platform の識別子を次の表に示します。

表 B-1 PFM - Agent for Platform の識別子一覧

用途	名称	識別子	説明
コマンド など	プロダクト ID	T	プロダクト ID とは、サービス ID の一部。サービス ID は、コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合や、パフォーマンスデータをバックアップする場合などに必要である。サービス ID については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録に記載されている命名規則を参照のこと。
	サービスキー	agtt また は Windows	コマンドを使用して PFM - Agent for Platform を起動する場合や、終了する場合などに必要である。サービスキーについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録に記載されている命名規則を参照のこと。
ODBC	製品タイプ識 別子	NT	SQL 文を使用してデータを抽出する場合に必要な。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、ODBC 準拠のアプリケーションプログラムと連携した稼働分析について説明している章を参照のこと。
ヘルプ	ヘルプ ID	pcat	PFM - Agent Platform のヘルプであることを表す。

## 付録 C プロセス一覧

ここでは、PFM - Agent for Platform のプロセス一覧を記載します。

PFM - Manager , PFM - Base , および PFM - Web Console のプロセスについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。PFM - Agent for Platform のプロセス一覧を次の表に示します。なお、プロセス名の後ろに記載されている値は、同時に起動できるプロセス数です。

表 C-1 PFM - Agent for Platform のプロセス一覧

プロセス名 (プロセス数)	機能
jpgcagtt.exe(1)	Agent Collector サービスプロセス。このプロセスは、PFM - Agent for Platform ごとに一つ起動する。
jpgcsto.exe(1)	Agent Store サービスプロセス。このプロセスは、PFM - Agent for Platform ごとに一つ起動する。
stpqpr.exe(1)	Store データベースのバックアップ / エクスポート実行プロセス。

注 jpgcsto プロセスの子プロセスです。



## 付録 D ポート番号一覧

ここでは、PFM - Agent for Platform で使用するポート番号を記載します。

PFM - Manager , および PFM - Base のポート番号およびファイアウォールの通過方向については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

ポート番号は、ユーザー環境に合わせて任意の番号に変更することもできます。

ポート番号の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお、使用するプロトコルは TCP/IP です。

### 注意

Performance Management は、1 対 1 のアドレス変換をする静的 NAT(Basic NAT) に対応しています。

動的 NAT や、ポート変換機能を含む NATP ( IP Masquerade , NAT+ ) には対応していません。

### 付録 D.1 PFM - Agent for Platform のポート番号

PFM - Agent for Platform で使用するポート番号を次の表に示します。

表 D-1 PFM - Agent for Platform で使用するポート番号

ポート番号	サービス名	パラメーター	用途
20279	Agent Store サービス	jplpcstot	パフォーマンスデータを記録したり、履歴レポートを取得したりするときに使用する。
20280	Agent Collector サービス	jplpcagtt	アラームをバインドしたり、リアルタイムレポートを取得したりするときに使用する。

### 注

`jpcconf port define (jpcnsconfig port define)` コマンド実行時にポート番号を任意の番号に変更しない場合、これらのポート番号が割り当てられます。また、`jpcconf port define (jpcnsconfig port define)` コマンドを実行しない場合、サービスが再起動されるたびにシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。

### 付録 D.2 ファイアウォールの通過方向

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for Platform ( Windows ) を配置する場合は、PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号

を固定値で設定してください。また、各ポート番号を次の表に示す方向で設定し、すべてのサービスについてファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 D-2 ファイアウォールの通過方向 (PFM - Manager と PFM - Agent 間)

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store	jplpcstot	Agent    Manager
Agent Collector	jplpcagtt	Agent    Manager

(凡例)

Manager : PFM - Manager ホスト

Agent : PFM - Agent ホスト

: 右項から左項への通信 (コネクション) を開始する方向

通信 (コネクション) を開始するときは、接続を受ける側 (矢印が向いている側) が、表 D-1 のポート番号を受信ポートとして使用します。接続する側は、OS によって割り当てられる空きポート番号を送信ポートとして使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は、OS によって異なります。

Manager で一時的に使用される送信ポートが Agent の受信ポートを通過できるようにファイアウォールを設定してください。

注意

PFM - Agent のホストで `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドを実行したい場合、次のどちらかの方法でコマンドを実行してください。

- `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドの `proxy` オプションで、PFM - Manager を経由して通信するように指定してください。 `jpctool db dump (jpcctrl dump)` コマンドまたは `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドの `proxy` オプションについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。
- 各 PFM - Agent ホスト間で次の表に示す方向でポート番号を設定し、ファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 D-3 ファイアウォールの通過方向 (各 PFM - Agent ホスト間)

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store	jplpcstot	Agent    Agent
Agent Collector	jplpcagtt	Agent    Agent

(凡例)

Agent : PFM - Agent ホスト

：左項から右項，および右項から左項への通信（コネクション）を開始する方向

## 付録 E PFM - Agent for Platform のプロパティ

ここでは、PFM - Web Console で表示される PFM - Agent for Platform の Agent Store サービスのプロパティ一覧、および Agent Collector サービスのプロパティ一覧を記載します。

### 付録 E.1 Agent Store サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Platform の Agent Store サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-1 PFM - Agent for Platform の Agent Store サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
-	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
General	-	ホスト名やフォルダなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作するホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System	-	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	CPU Type	CPU の種類が表示される。
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
	OS Type	OS の種類が表示される。
	OS Name	OS 名が表示される。
	OS Version	OS のバージョンが表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Network Services		-	Performance Management 通信共通ライブラリーについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Store サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	-	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Master Manager サービスのサービス ID が表示される。
		EP Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Correlator サービスのサービス ID が表示される。
Retention		-	Store バージョンが 1.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
		Product Interval - Minute Drawer	分ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Minute</li> <li>• Hour</li> <li>• Day</li> <li>• 2 Days</li> <li>• 3 Days</li> <li>• 4 Days</li> <li>• 5 Days</li> <li>• 6 Days</li> <li>• Week</li> <li>• Month</li> <li>• Year</li> </ul>

フォルダ名	プロパティ名	説明
	Product Interval - Hour Drawer	時間ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hour</li> <li>• Day</li> <li>• 2 Days</li> <li>• 3 Days</li> <li>• 4 Days</li> <li>• 5 Days</li> <li>• 6 Days</li> <li>• Week</li> <li>• Month</li> <li>• Year</li> </ul>
	Product Interval - Day Drawer	日ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Day</li> <li>• 2 Days</li> <li>• 3 Days</li> <li>• 4 Days</li> <li>• 5 Days</li> <li>• 6 Days</li> <li>• Week</li> <li>• Month</li> <li>• Year</li> </ul>
	Product Interval - Week Drawer	週ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Week</li> <li>• Month</li> <li>• Year</li> </ul>
	Product Interval - Month Drawer	月ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Month</li> <li>• Year</li> </ul>
	Product Interval - Year Drawer	年ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間。Year で固定。
	Product Detail - PD レコードタイプのレコード ID	各 PD レコードタイプのレコードの保存レコード数を設定する。0 ~ 2,147,483,647 の整数が指定できる。 注意：範囲外の数値，またはアルファベットなどの文字を指定した場合，エラーメッセージが表示される。
RetentionEx	-	Store バージョンが 2.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については，マニュアル「JPI/ Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。

フォルダ名		プロパティ名	説明
RetentionEx	Product Interval - PI レコードタイプ のレコード ID	-	PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。
		Period - Minute Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、分単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ~ 366 の整数で指定できる。
		Period - Hour Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、時間単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ~ 366 の整数で指定できる。
		Period - Day Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、日単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（週の数）を 0 ~ 522 の整数で指定できる。
		Period - Week Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、週単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（週の数）を 0 ~ 522 の整数で指定できる。
		Period - Month Drawer (Month)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、月単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（月の数）を 0 ~ 120 の整数で指定できる。
		Period - Year Drawer (Year)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、年単位のパフォーマンスデータの保存期間が表示される。
	Product Detail - PD レコードタイプ のレコード ID	Period (Day)	PD レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ~ 366 の整数で指定できる。
	Product Log - PL レコード タイプのレ コード ID	Period (Day)	PL レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ~ 366 の整数で指定できる。
	Disk Usage	-	
Product Interval			PI レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
Product Detail			PD レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
Product Alarm			PA レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。PFM - Agent for Platform (Windows) では使用しない。

フォルダ名	プロパティ名	説明
	Product Log	PL レコードタイプのレコードで使用するディスク容量が表示される。PFM - Agent for Platform ( Windows ) では使用しない。
	Total Disk Usage	データベース全体で使用するディスク容量が表示される。
Configuration	-	Agent Store サービスのプロパティが表示される。
	Store Version	Store データベースのバージョンが表示される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Store バージョン 1.0 の場合 「1.0」</li> <li>• Store バージョン 2.0 の場合 「2.0」</li> </ul>

( 凡例 )

- : 該当しない

注

レコード ID が APS または ASVC の場合 , 0 ( 固定 ) となります。

## 付録 E.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Platform の Agent Collector サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-2 PFM - Agent for Platform の Agent Collector サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
-	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
	Data Model Version	データモデルのバージョンが表示される。
General	-	ホスト名やフォルダなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作するホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。



フォルダ名		プロパティ名	説明
		Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
		User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
		Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System		-	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		CPU Type	CPU の種類が表示される。
		Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
		OS Type	OS の種類が表示される。
		OS Name	OS 名が表示される。
		OS Version	OS のバージョンが表示される。
Network Services		-	Performance Management 通信共通ライブラリーについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Collector サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	-	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	Agent Collector サービスが接続する Agent Store サービスのサービス ID が表示される。
		AH Service Name	同一ホストにある Action Handler サービスのサービス ID が表示される。
JP1 Event Configurations		-	JP1 イベントの発行条件を設定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		各サービス	Agent Collector サービス, Agent Store サービス, Action Handler サービス, および Status Server サービスのリスト項目から「Yes」または「No」を選択し, サービスごとに JP1 システムイベントを発行するかどうかを指定する。
		JP1 Event Send Host	JP1/Base の接続先イベントサーバ名を指定する。ただし, Action Handler サービスと同一マシンの論理ホストまたは物理ホストで動作しているイベントサーバだけ指定できる。指定できる値は 0 ~ 255 バイトの半角英数字, 「.」および「-」である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, Action Handler サービスが動作するホストがイベント発行元ホストとして使用される。「localhost」を指定した場合は, 物理ホストを指定したものと仮定される。
		Monitoring Console Host	JP1/IM - Manager のモニター起動で PFM - Web Console のブラウザを起動する場合, 起動する PFM - Web Console ホストを指定する。指定できる値は 0 ~ 255 バイトの半角英数字, 「.」および「-」である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, 接続先の PFM - Manager ホストが仮定される。
		Monitoring Console Port	起動する PFM - Web Console のポート番号 (http リクエストポート番号) を指定する。指定できる値は 1 ~ 65535 である。範囲外の値を指定した場合は, 省略したと仮定される。値を省略した場合は, 20358 が設定される。
JP1 Event Configurations	Alarm	JP1 Event Mode	アラームの状態が変化した場合に, 次のどちらのイベントを発行するか設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1 User Event : JP1 ユーザーイベントを発行する</li> <li>• JP1 System Event : JP1 システムイベントを発行する</li> </ul>
Detail Records		-	PD レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は, 太字で表示される。
Detail Records	レコード ID <b>1</b>	-	レコードのプロパティが格納されている。

フォルダ名	プロパティ名	説明	
	Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。	
	Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。	
	Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0 ~ 2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。	
	Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0 ~ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offset の値によらないで、Collection Interval と同様の時間となる。	
	LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の [ サービス階層 ] タブで表示されるサービスのプロパティ画面の、下部フレームの [ LOGIF ] をクリックすると表示される [ ログ収集条件設定 ] ウィンドウで作成した条件式 ( 文字列 ) が表示される。	
	Sync Collection With	次の形式で指定したレコードと収集の同期を取る。 Sync Collection With = レコード種別, レコード ID ( 例 ) Sync Collection With=Interval Records, PI	
Interval Records	-	PI レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は、太字で表示される。	
Interval Records	レコード ID <sup>1</sup>	-	レコードのプロパティが格納されている。
	Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。	

フォルダ名	プロパティ名	説明
	Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。
	Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0 ~ 2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。
	Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0 ~ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offset の値によらないで、Collection Interval と同様の時間となる。
	LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の [ サービス階層 ] タブで表示されるサービスのプロパティ画面の、下部フレームの [ LOGIF ] をクリックすると表示される [ ログ収集条件設定 ] ウィンドウで作成した条件式 ( 文字列 ) が表示される。
Log Records	-	PL レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。PFM - Agent for Platform ではこのレコードをサポートしていないため使用しない。
Restart Configurations	-	PFM サービス自動再起動の条件を設定する。PFM - Manager または PFM - Base が 08-50 以降の場合に設定できる。PFM サービス自動再起動機能については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。
	Restart when Abnormal Status	Status Server サービスが Action Handler サービス、Agent Collector サービス、および Agent Store サービスの状態を正常に取得できない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Restart when Single Service Running	Agent Store サービスと Agent Collector サービスのどちらかしか起動していない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。
Restart Configurations	Action Handler	Auto Restart	Action Handler サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を設定する。
		Scheduled Restart	Action Handler サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ~ 2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ~ 12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ~ 31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間 (時) を 0 ~ 23 の整数で指定できる。
	Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間 (分) を 0 ~ 59 の整数で指定できる。	
	Agent Collector	Auto Restart	Agent Collector サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を設定する。

フォルダ名	プロパティ名	説明
	Scheduled Restart	Agent Collector サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
	Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を設定する。
	Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔の単位を設定する。
	Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ~ 2035 の整数で指定できる。
	Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ~ 12 の整数で指定できる。
	Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ~ 31 の整数で指定できる。
	Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間 (時) を 0 ~ 23 の整数で指定できる。
	Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間 (分) を 0 ~ 59 の整数で指定できる。
Agent Store	Auto Restart	Agent Store サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
	Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
	Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を設定する。
	Scheduled Restart	Agent Store サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
	Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を設定する。
	Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔の単位を設定する。
	Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ~ 2035 の整数で指定できる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ~ 12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ~ 31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間 (時) を 0 ~ 23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間 (分) を 0 ~ 59 の整数で指定できる。
Agent Configuration		User Defined Record DataMaxCount	ユーザーレコードの最大収集レコード数を規定するプロパティが格納されている。
Application Monitoring Setting	インスタンス名 <sup>2</sup>	-	追加した監視インスタンス名称。
		Process[01-15] Kind <sup>3</sup>	プロセス種別。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : 指定なし。</li> <li>• Service Name : PD_SVC レコードの ServiceName のフィールドの値を参照。</li> <li>• Command Line : PD レコードの Program フィールドの値を参照。</li> </ul>
		Process[01-15] Name <sup>3</sup>	プロセス名を 127 バイト以内で入力する。
		Process[01-15] Range <sup>3</sup>	プロセス数のしきい値の下限值と上限値を「1-2」のようにハイフン (-) でつないで入力する。ハイフンを使用しないで値を一つだけ指定すると、下限値と上限値に同じ値を設定できる。例えば、「10」を指定すると、「10-10」が設定される。設定できる値は 0 ~ 65535。
ADDITION OR DELETION A SETTING		ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING	追加する監視インスタンス名称。
		DELETE AN APPLICATION MONITORING SETTING	削除する監視インスタンス名称を選択する。削除しない場合には「None」を選択する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Advanced application monitoring		-	プロセスの稼働・非稼働情報を収集するための設定をする。
Advanced application monitoring	Application monitoring setting	Case Sensitive	監視条件との比較で大文字と小文字を区別するかどうかを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Yes : 区別する。</li> <li>• No : 区別しない。</li> </ul>
	Application monitoring setting	アプリケーション名 <sup>4</sup>	-
	Application monitoring setting	Monitoring[01-15] Label <sup>5</sup>	監視条件を識別するための名称を 31 バイト以内で指定する。 デフォルトでは Monitoring [01-15] が設定される。指定していない場合は、Monitoring [01-15] が設定される。 このプロパティに指定する値はユニークである必要がある。
	Application monitoring setting	Monitoring[01-15] Field <sup>5</sup>	監視するフィールド。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : 指定なし。</li> <li>• Program Name : PD_APS レコードの Program Name フィールドの値を参照。</li> <li>• Command Line : PD_APS レコードの Command Line フィールドの値を参照。</li> <li>• Service Name : PD_ASVC レコードの Service Name のフィールドの値を参照。</li> </ul> デフォルトでは「None」が設定される。
	Application monitoring setting	Monitoring[01-15] Condition <sup>5</sup>	監視条件を 127 バイト以内で指定する。 デフォルトでは空白が設定される。
	Application monitoring setting	Monitoring[01-15] Range <sup>5</sup>	監視数のしきい値の下限值と上限値を「1-2」のようにハイフン(-)でつないで指定する。指定できる値は 0 ~ 65535。
ADDITIO N OR DELETIO N A SETTING	ADD AN APPLICATIO N MONITORIN G SETTING	追加するアプリケーション名称を 63 バイト以内で指定する。 このプロパティに指定する値はユニークである必要がある。	



フォルダ名	プロパティ名	説明
	DELETE AN APPLICATION MONITORING SETTING	削除するアプリケーション名称を選択する。デフォルトでは、アプリケーション名は表示されない。
User Command Setting	ユーザーレコード名 <sup>6</sup>	Execute ユーザーコマンド定期実行機能を実行するかどうか指定する。 • Yes：実行する。 • No：実行しない。
	UserCommand	ユーザーコマンドの絶対パスを指定する。絶対パスに指定できる文字列の最大長は 255 バイト。 指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字および半角記号。   < >

## (凡例)

- : 該当しない

## 注 1

フォルダ名には、データベース ID を除いたレコード ID が表示されます。各レコードのレコード ID については、「5. レコード」を参照してください。

## 注 2

フォルダ名には、「ADDITION OR DELETION A SETTING」の「ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING」プロパティに設定したインスタンス名称が表示されます。設定方法については、「3.2.6 アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の設定」を参照してください。

## 注 3

「Process[01-15] Kind」、「Process[01-15] Name」、「Process[01-15] Range」の「[01-15]」は各プロパティ名称の該当個所に「01 から 15 までの数字」が入ることを指します。実際にプロパティ項目として表示される際には「Process01 Kind」、「Process07 Name」、「Process15 Range」といった表示になります。

## 注 4

フォルダ名には、「Advanced application monitoring」 - 「ADDITION OR DELETION A SETTING」の「ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING」プロパティに設定したアプリケーション名が表示されます。

## 注 5

「Monitoring[01-15] Label」、「Monitoring[01-15] Field」、「Monitoring[01-15] Condition」、「Monitoring[01-15] Range」の「[01-15]」は、各プロパティ名称の該当個所に「01 から 15 までの数字」が入ることを指します。実際にプロパティ項目

として表示される際には、「Monitoring01 Label」、「Monitoring06 Field」、  
「Monitoring10 Condition」、「Monitoring15 Range」といった表示になります。

注 6

フォルダ名には、「PD\_UPD」、「PD\_UPDB」、「PI\_UPI」、および「PI\_UPIB」が表示されます。

## 付録 F ファイルおよびフォルダー一覧

ここでは、PFM - Agent for Platform のファイルおよびフォルダー一覧を記載します。

Performance Management のインストール先フォルダは任意です。デフォルトのインストール先フォルダは次のとおりです。

- Windows Server 2003 (x64) , 64 ビット版の Windows Server 2008 の場合  
システムドライブ ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jplpc
- 上記以外の場合  
システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jplpc

PFM - Agent for Platform のファイルおよびフォルダー一覧を次の表に示します。

表 F-1 PFM - Agent for Platform のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ ¥agtt¥	-	PFM - Agent for Platform (Windows) のルートフォルダ
	readme.txt	README.TXT (日本語)
	*.*	PFM - Agent for Platform (Windows) 各種ファイル
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥	-	Agent Collector サービスのルートフォルダ
	jpcagt.ini	Agent Collector サービス設定ファイル
	jpcagt.ini.model	Agent Collector サービス設定ファイルのモデルファイル
	jpcagtt.exe	Agent Collector サービス実行プログラム
	jpcapp <sup>1</sup>	アプリケーション定義ファイル (09-00 以前)
	jpcapp2 <sup>1</sup>	アプリケーション定義ファイル (09-10 以降)
	jpcappcvt.ini	コンバートコマンド設定ファイル
	jpcappcvt.ini.model	コンバートコマンド設定ファイルのモデルファイル
	jpcappcvt.exe	コンバートコマンド実行プログラム
	jpcconfig.exe	収集データ追加ユーティリティ実行プログラム
	WMI_Database.vbs <sup>2</sup>	Database 情報取得プログラム

フォルダ名	ファイル名	説明
	x64exec.exe <sup>2</sup>	x64 ネイティブ実行プログラム
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥log¥	-	Agent Collector サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥lib¥	-	メッセージカタログ格納フォルダ
	jpcagttmsg.dll	PFM - Agent for Platform (Windows) メッセージカタログファイル
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥	-	ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集機能用のルートフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥	jpcuser.exe	ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集機能の実行プログラム
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥	jpcuser.ini	ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集機能の構成ファイル
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥	jpcusercommand.ini	ユーザーコマンド定期実行機能の構成ファイル
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥debug¥	-	jpcuser コマンドのデバッグログフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥log¥trace¥	-	トレースログファイル (内部ログファイル) 格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥log¥public¥	-	パブリックログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥agent¥jpcuser¥userdata¥	-	ユーザーデータファイルの出力フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥	-	Agent Store サービスのルートフォルダ
	*.DB	パフォーマンスデータファイル
	*.IDX	パフォーマンスデータファイルのインデックスファイル
	*.LCK	パフォーマンスデータファイルのロックファイル
	jpcsto.ini	Agent Store サービス設定ファイル
	jpcsto.ini.model	Agent Store サービス設定ファイルのモデルファイル
	*.DAT	データモデル定義ファイル
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥backup¥	-	標準のデータベースバックアップ先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥partial¥	-	標準のデータベース部分バックアップ先フォルダ

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥dump¥	-	標準のデータベースエクスポート先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥import¥	-	標準のデータベースインポート先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥log¥	-	Agent Store サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥STPD¥	-	PD データベース固有のフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtt¥store¥STPI¥	-	PI データベース固有のフォルダ
インストール先フォルダ ¥auditlog¥	-	動作ログファイルの標準の出力フォルダ
	jpcauditn.log <sup>3</sup>	動作ログファイル
インストール先フォルダ ¥setup¥	-	セットアップファイル格納フォルダ
	jpcagttu.Z	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (UNIX)
	jpcagttw.EXE	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル (Windows)
インストール先フォルダ ¥setup¥alarm	-	アラームテーブル復旧用格納フォルダ
	TALARM	アラームテーブル 6.70 復旧用ファイル
	TALARMxxxx	アラームテーブル復旧用ファイル xxxx はアラームテーブルのバージョンです (例: 8.10 の場合 0810 )
インストール先フォルダ ¥setup¥extract	-	セットアップファイル展開フォルダ
インストール先フォルダ ¥setup¥update¥	-	バージョンアップ作業用フォルダ
インストール先フォルダ ¥setup¥update¥agtt¥	-	PFM - Agent for Platform (Windows)バージョンアップ作業用フォルダ
	*.*	PFM - Agent for Platform (Windows)バージョンアップ作業用ファイル

( 凡例 )

- : 該当しない

注 1

プロセス監視の設定を行っていない場合は、存在しません。

注 2

Windows Server 2003 (x86) , 32 ビット版の Windows Server 2008 だけに存在するファイルです。

注 3

n は数値です。ログファイル数は , jpccomm.ini ファイルで変更できます。

---

## 付録 G 移行手順と移行時の注意事項

PFM - Agent for Platform をバージョンアップするには、PFM - Agent for Platform を上書きインストールします。インストールの操作の詳細については、「2. インストールとセットアップ」を参照してください。

また、旧バージョンの Performance Management からの移行（07-50 以前から 08-00 以降へのバージョンアップ）についての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録を参照してください。

### 注意

- バージョンアップする際には、古いバージョンの PFM - Agent for Platform をアンインストールしないでください。アンインストールすると、古いバージョンで作成したパフォーマンスデータなども一緒に削除されてしまうため、新しいバージョンで使用できなくなります。
- PFM - Agent for Platform を上書きインストールすると、次の項目が自動的に更新されます。
  - ・ Agent Store サービスの Store データベースファイル
  - ・ ini ファイル
- バージョン 08-00 以降の Performance Management プログラムでは、Store 実行プログラム（Windows の場合 `jpcsto.exe` および `stpqlpr.exe`、UNIX の場合 `jpcsto` および `stpqlpr`）の配置先が変更されています。PFM - Manager および PFM - Agent を 08-00 以降にバージョンアップする際に、旧配置先の Store 実行プログラムは削除されます。

## 付録 H バージョン互換

PFM - Agent には、製品のバージョンのほかに、データモデルのバージョンがあります。

データモデルは、上位互換を保っているため、古いバージョンで定義したレポートの定義やアラームの定義は、新しいバージョンのデータモデルでも使用できます。

PFM - Agent for Platform のバージョンの対応を次の表に示します。

表 H-1 PFM - Agent for Platform のバージョン対応表

PFM - Agent for Platform のバージョン	データモデルのバージョン	監視テンプレートのアラームテーブルのバージョン
06-70	3.0	6.70
07-00	4.0	7.00
	4.1	
07-50	5.0	7.50
08-00	6.0	8.00
08-10	7.0	8.10
08-11	7.2	8.11
08-50	7.4	8.50
09-00	7.6	09.00
09-10	7.8	09.10

PFM - Agent for Platform の場合、PFM - Web Console の画面の [ アラーム階層 ] に、使用中の Performance Management システムにはないバージョンのアラームテーブルが表示されることがあります。Performance Management システムで使用しているアラームテーブルのバージョンおよびバージョンの互換性をご確認の上、使用してください。

バージョン互換については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されているバージョン互換を参照してください。



## 付録I 動作ログの出力

Performance Management の動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

例えば、PFM サービスの起動・停止時や、PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログに出力されます。

動作ログは、PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降の場合に出力できます。

動作ログは、CSV 形式で出力されるテキストファイルです。定期的に保存して表計算ソフトで加工することで、分析資料として利用できます。

動作ログは、jpccomm.ini の設定によって出力されるようになります。ここでは、PFM - Agent および PFM - Base が出力する動作ログの出力内容と、動作ログを出力するための設定方法について説明します。

### 付録 I.1 動作ログに出力される事象の種別

動作ログに出力される事象の種別および PFM - Agent および PFM - Base が動作ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは、動作ログに出力される事象を分類するための、動作ログ内での識別子です。

表 I-1 動作ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	PFM - Agent および PFM - Base が出力する契機
StartStop	ソフトウェアの起動と終了を示す事象。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFM サービスの起動・停止</li> <li>スタンドアロンモードの開始・終了</li> </ul>
ExternalService	JP1 製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 異常な通信の発生を示す事象。	PFM - Manager との接続状態の変更
ManagementAction	プログラムの重要なアクションの実行を示す事象。 ほかの監査カテゴリーを契機にアクションが実行されたことを示す事象。	自動アクションの実行

### 付録 I.2 動作ログの保存形式

ここでは、動作ログのファイル保存形式について説明します。

動作ログは規定のファイル（カレント出力ファイル）に出力され、満杯になった動作ログは別のファイル（シフトファイル）として保存されます。動作ログのファイル切り替えの流れは次のとおりです。

- 動作ログは、カレント出力ファイル「jpcaudit.log」に順次出力されます。
- カレント出力ファイルが満杯になると、その動作ログはシフトファイルとして保存さ

れます。

シフトファイル名は、カレント出力ファイル名の末尾に数値を付加した名称です。シフトファイル名は、カレント出力ファイルが満杯になるたびにそれぞれ「ファイル名末尾の数値+1」へ変更されます。つまり、ファイル末尾の数値が大きいほど、古いログファイルとなります。

例

カレント出力ファイル「jpcaudit.log」が満杯になると、その内容はシフトファイル「jpcaudit1.log」へ保管されます。

カレント出力ファイルが再び満杯になると、そのログは「jpcaudit1.log」へ移され、既存のシフトファイル「jpcaudit1.log」は「jpcaudit2.log」へリネームされます。

なお、ログファイル数が保存面数（jpccomm.ini ファイルで指定）を超えると、いちばん古いログファイルから削除されます。

3. カレント出力ファイルが初期化され、新たな動作ログが書き込まれます。

動作ログの出力可否、出力先および保存面数は、jpccomm.ini ファイルで設定します。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 I.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

## 付録 I.3 動作ログの出力形式

Performance Management の動作ログには、監査事象に関する情報が出力されます。動作ログは、ホストごとに 1 ファイル出力されます。動作ログの出力先ホストは次のようになります。

- サービスを実行した場合：実行元サービスが動作するホストに出力
- コマンドを実行した場合：コマンドを実行したホストに出力

動作ログの出力形式、出力先、出力項目について次に説明します。

### (1) 出力形式

```
CALPFHM x.x,出力項目1=値1,出力項目2=値2,...,出力項目n=値n
```

### (2) 出力先

インストール先フォルダ  $\%auditlog\%$

動作ログの出力先は、jpccomm.ini ファイルで変更できます。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 I.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

### (3) 出力項目

出力項目には二つの分類があります。

## 共通出力項目

動作ログを出力する JP1 製品が共通して出力する項目です。

## 固有出力項目

動作ログを出力する JP1 製品が任意に出力する項目です。

## (a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含まれます。

表 I-2 動作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	-	CALFHM	動作ログフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	-	X.X	動作ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	通し番号	動作ログレコードの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KAVEXXXXX-X	製品のメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD	動作ログの出力日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	JP1PFM	事象が発生したプログラムのプログラム名
7	発生コンポーネント名	compid	サービス ID	事象が発生したコンポーネント名
8	発生プロセス ID	pid	プロセス ID	事象が発生したプロセスのプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> </ul>	事象が発生した場所
10	事象の種別	ctgry	<ul style="list-style-type: none"> <li>• StartStop</li> <li>• Authentication</li> <li>• ConfigurationAccess</li> <li>• ExternalService</li> <li>• AnomalyEvent</li> <li>• ManagementAction</li> </ul>	動作ログに出力される事象を分類するためのカテゴリー名
11	事象の結果	result	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Success (成功)</li> <li>• Failure (失敗)</li> <li>• Occurrence (発生)</li> </ul>	事象の結果

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
12	サブジェクト識別情報	subj:pid	プロセス ID	次のどれかの情報 ・ ユーザー操作によって動作するプロセス ID ・ 事象を発生させたプロセス ID ・ 事象を発生させたユーザー名 ・ ユーザーに 1:1 で対応づけられた識別情報
		subj:uid	アカウント識別子 (PFM ユーザー /JP1 ユーザー)	
		subj:euid	実効ユーザー ID (OS ユーザー)	

(凡例)

- : なし。

注

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm : UTC から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm : UTC から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z : UTC と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM-Manager が出力する項目や内容も含まれます。

表 I-3 動作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	オブジェクト情報	obj	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFM - Agent のサービス ID</li> <li>追加, 削除, 更新されたユーザー名 (PFM ユーザー)</li> </ul>	操作の対象
		obj:table	アラームテーブル名	
		obj:alarm	アラーム名	

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
2	動作情報	op	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Start (起動)</li> <li>• Stop (停止)</li> <li>• Add (追加)</li> <li>• Update (更新)</li> <li>• Delete (削除)</li> <li>• Change Password (パスワード変更)</li> <li>• Activate (有効化)</li> <li>• Inactivate (無効化)</li> <li>• Bind (バインド)</li> <li>• Unbind (アンバインド)</li> </ul>	事象を発生させた動作情報
3	権限情報	auth	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者ユーザー Management</li> <li>• 一般ユーザー Ordinary</li> <li>• Windows Administrator</li> <li>• UNIX SuperUser</li> </ul>	操作したユーザーの権限情報
		auth:mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PFM 認証モード pfm</li> <li>• JP1 認証モード jp1</li> <li>• OS ユーザー os</li> </ul>	操作したユーザーの認証モード
4	出力元の場所	outp:host	PFM - Manager のホスト名	動作ログの出力元のホスト
5	指示元の場所	subjp:host	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ログイン元ホスト名</li> <li>• 実行ホスト名(jpctool alarm(jpcalarm) コマンド実行時だけ)</li> </ul>	操作の指示元のホスト
6	自由記述	msg	メッセージ	アラーム発生時、および自動アクションの実行時に出力されるメッセージ

固有出力項目は、出力契機ごとに出力項目の有無や内容が異なります。出力契機ごとに、メッセージ ID と固有出力項目の内容を次に説明します。

#### PFM サービスの起動・停止 (StartStop)

- 出力ホスト：該当するサービスが動作しているホスト
- 出力コンポーネント：起動・停止を実行する各サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	起動：KAVE03000-I 停止：KAVE03001-I
動作情報	op	起動：Start 停止：Stop

スタンドアロンモードの開始・終了 (StartStop)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス, Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	スタンドアロンモードを開始：KAVE03002-I スタンドアロンモードを終了：KAVE03003-I

注1 固有出力項目は出力されない。

注2 PFM - Agent の各サービスは、起動時に PFM - Manager ホストに接続し、ノード情報の登録、最新のアラーム定義情報の取得などを行う。PFM - Manager ホストに接続できない場合、稼働情報の収集など一部の機能だけが有効な状態（スタンドアロンモード）で起動する。その際、スタンドアロンモードで起動することを示すため、KAVE03002-I が出力される。その後、一定期間ごとに PFM - Manager への再接続を試み、ノード情報の登録、定義情報の取得などに成功すると、スタンドアロンモードから回復し、KAVE03003-I が出力される。この動作ログによって、KAVE03002-I と KAVE03003-I が出力されている間は、PFM - Agent が不完全な状態で起動していることを知ることができる。

PFM - Manager との接続状態の変更 (ExternalService)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス, Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	PFM - Manager へのイベントの送信に失敗 (キューイングを開始): KAVE03300-I PFM - Manager へのイベントの再送が完了: KAVE03301-I

注1 固有出力項目は出力されない。

注2 Agent Store サービスは、PFM - Manager へのイベント送信に失敗すると、イベントのキューイングを開始し、以降はイベントごとに最大 3 件がキューにためられる。KAVE03300-I は、イベント送信に失敗し、キューイングを開始した時点で出力される。PFM - Manager との接続が回復したあと、キューイングされたイベントの送信が完了した時点で、KAVE03301-I が出力される。この動作ログによって、KAVE03300-I と KAVE03301-I が出力されている間は、PFM - Manager へのイベント送信がリアルタイムできていなかった期間と知ることができる。

注3 Agent Collector サービスは、通常、Agent Store サービスを経由して PFM - Manager にイベントを送信する。何らかの理由で Agent Store サービスが停止している場合だけ、直接 PFM - Manager にイベントを送信するが、失敗した場合に KAVE03300-I が出力される。この場合、

キューイングを開始しないため、KAVE03301-I は出力されない。この動作ログによって、PFM - Manager に送信されなかったイベントがあることを知ることができる。

自動アクションの実行 (ManagementAction)

- 出力ホスト：アクションを実行したホスト
- 出力コンポーネント：Action Handler サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	コマンド実行プロセス生成に成功：KAVE03500-I コマンド実行プロセス生成に失敗：KAVE03501-W E-mail 送信に成功：KAVE03502-I E-mail 送信に失敗：KAVE03503-W
自由記述	msg	コマンド実行：cmd= 実行したコマンドライン E-mail 送信：mailto= 送信先 E メールアドレス

注 コマンド実行プロセスの生成に成功した時点で KAVE03500-I が出力される。その後、コマンドが実行できたかどうかのログ、および実行結果のログは、動作ログには出力されない。

#### (4) 出力例

動作ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KAVE03000-I,
date=2007-01-18T22:46:49.682+09:00,
progid=JP1PFM, compid=TA1host01, pid=2076,
ocp:host=host01, ctgry=StartStop, result=Occurrence,
subj:pid=2076,op=Start
```

## 付録 I.4 動作ログを出力するための設定

動作ログを出力するための設定は、jpccomm.ini ファイルで定義します。設定しない場合、動作ログは出力されません。動作ログを出力するための設定内容とその手順について次に示します。

### (1) 設定手順

動作ログを出力するための設定手順を次に示します。

1. ホスト上の全 PFM サービスを停止させる。
2. テキストエディターなどで、jpccomm.ini ファイルを編集する。
3. jpccomm.ini ファイルを保存して閉じる。

### (2) jpccomm.ini ファイルの詳細

jpccomm.ini ファイルの詳細について説明します。

#### (a) 格納先フォルダ

インストール先フォルダ

(b) 形式

jpccomm.ini ファイルには、次の内容を定義します。

- 動作ログの出力の有無
- 動作ログの出力先
- 動作ログの保存面数
- 動作ログのファイルサイズ

指定形式は次のとおりです。

" 項目名 "= 値

設定項目を次の表に示します。

表 I-4 jpccomm.ini ファイルで設定する項目および初期値

項番	項目	説明
1	[Action Log Section]	セクション名です。変更はできません。
2	Action Log Mode	動作ログを出力するかどうかを指定します。この項目の設定は省略できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 初期値 0 (出力しない)</li> <li>• 指定できる値 0 (出力しない), 1 (出力する)</li> </ul> これ以外の値を指定すると、エラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。
3	Action Log Dir	動作ログの出力先を指定します。 制限長を超えるパスを設定した場合や、ディレクトリへのアクセスが失敗した場合は、共通ログにエラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 初期値 省略</li> <li>• 省略した場合に適用される値 (デフォルト値) インストール先フォルダ %auditlog%</li> <li>• 初期値 インストール先フォルダ %auditlog%</li> <li>• 指定できる値 1 ~ 185 バイトの文字列</li> </ul>
4	Action Log Num	ログファイルの総数の上限 (保存面数) を指定します。カレント出力ファイルとシフトファイルの合計を指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 初期値 省略</li> <li>• 省略した場合に適用される値 (デフォルト値) 5</li> <li>• 指定できる値 2 ~ 10 の整数</li> </ul> 数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 5 が設定されます。 範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージを出力し、指定値に最も近い 2 ~ 10 の整数値が設定されます。



項番	項目	説明
5	Action Log Size	<p>ログファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 初期値 省略</li><li>• 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 2048</li><li>• 指定できる値 512 ~ 2096128 の整数</li></ul> <p>数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 2048 が設定されます。</p> <p>範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージが出力され、指定値に最も近い 512 ~ 2096128 の整数値が設定されます。</p>

---

## 付録 J 各バージョンの変更内容

### 付録 J.1 09-00 の変更内容

「ソリューションセット」の名称を「監視テンプレート」に変更しました。

収集データ追加ユーティリティの操作性が向上しました。

監視テンプレートのアラームテーブルのバージョンを 8.50 から 09.00 に変更しました。これに伴い、次のアラームテーブルを追加しました。

- PFM Windows Template Alarms [CPU]09.00
- PFM Windows Template Alarms [MEM]09.00
- PFM Windows Template Alarms [DSK]09.00
- PFM Windows Template Alarms [NET]09.00
- PFM Windows Template Alarms [PS]09.00
- PFM Windows Template Alarms [LOG]09.00

また、次のアラームを追加しました。

- Processor Queue
- SVR Processor Queue
- Committed Mbytes
- Pages/sec
- Page Faults/sec
- Logical Disk Free
- Disk Busy %
- Logical Disk Queue
- Physical Disk Queue
- Network Received
- Process End
- Process Alive
- Service(Service Nm)
- Service(Display Nm)
- Event Log(all)
- Event Log(System)

JP1/IM との連携機能を強化しました。これに伴い、Agent Collector サービスのプロパティ一覧に次のフォルダを追加しました。

JP1 Event Configurations

次のメッセージを追加しました。

KAVF11500-W ~ KAVF11502-W

データモデルのバージョンを 7.4 から 7.6 に変更しました。

08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されたことに伴い、  
 09-00 以降のコマンドを次のように表記しました。  
 09-00 以降のコマンド (08-51 以前のコマンド)

## 付録 J.2 08-50 (Windows2008 対応) の変更内容

PFM - Agent for Platform が動作する OS および監視対象プログラムに次の OS を追加しました。

- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 (IPF)

次のメッセージを追加しました。

- KAVF11998-E

## 付録 J.3 08-50 の変更内容

次の運用例を追加しました。

- 利用ポート情報の収集例
- PFM 製品が導入されていない複数のホストからのパフォーマンスデータの収集例

また、Active Directory の監視例に新たな例を追加しました。

セットアップを簡易化しました。

PFM - Agent for Platform からユーザーコマンドを一定間隔で実行する機能を追加しました。これに伴い、Agent Collector サービスのプロパティ一覧に次のフォルダを追加しました。

User Command Setting

ソリューションセットのアラームテーブルのバージョンを 8.11 から 8.50 に変更しました。

Active Directory の情報を収集する機能を拡張しました。これに伴い、次のフィールドを追加しました。

Active Directory Overview (PI\_AD) レコード

- Cache % Hit (CACHE\_HIT)
- Cache Page Fault Stalls/sec (CACHE\_PAGE\_FAULT\_STALLS\_SEC)
- Cache Page Faults/sec (CACHE\_PAGE\_FAULTS\_SEC)
- Cache Size (CACHE\_SIZE)
- Kerberos Authentications (KERBEROS\_AUTHENTICATIONS)
- LDAP Bind Time (LDAP\_BIND\_TIME)
- Log Record Stalls/sec (LOG\_RECORD\_STALLS\_SEC)
- Log Threads Waiting (LOG\_THREADS\_WAITING)
- Log Writes/sec (LOG\_WTTITES\_SEC)
- NTLM Authentications (NTLM\_AUTHENTICATIONS)

- SAM Password Changes/sec ( SAM\_PASSWORD\_CHANGES\_SEC )
- Table Open Cache % Hit ( TABLE\_OPEN\_CACHE\_HIT )
- Table Open Cache Hits/sec ( TABLE\_CACHE\_HITS\_SEC )
- Table Open Cache Misses/sec ( TABLE\_OPEN\_CACHE\_MISSES\_SEC )
- Table Opens/sec ( TABLE\_OPEN\_SEC )
- Zone Transfer Failure ( ZONE\_TRANSFER\_FAILURE )
- Zone Transfer Request Received ( ZONE\_TRANSFER\_REQUEST\_RECEIVED )
- Zone Transfer SOA Request Sent ( ZONE\_TRANSFER\_SOA\_REQUEST\_SENT )
- Zone Transfer Success ( ZONE\_TRANSFER\_SUCCESS )

IPv6 に対応しました。これに伴い、次のレコードを追加しました。

- ICMP Version 6 Overview ( PI\_ICM6 )
- IP Version 6 Overview ( PI\_IP6 )
- TCP Version 6 Overview ( PI\_TCP6 )
- UDP Version 6 Overview ( PI\_UDP6 )

次のメッセージを追加しました。

KAVF11007-W, KAVF11318-W

運用中に異常停止となった PFM サービスを自動的に再起動できる機能を PFM - Manager に追加しました。これに伴い、Agent Collector サービスのプロパティ一覧に次のフォルダを追加しました。

Restart Configurations

データモデルのバージョンを 7.2 から 7.4 に変更しました。

## 付録 J.4 08-11 の変更内容

jpcuser コマンドで、複数のユーザー作成データを一つのユーザーデータファイルにまとめる機能を追加しました。

Active Directory の情報を収集する機能を追加しました。これに伴い、次のレコードを追加しました。

PI\_AD レコード

また、Active Directory の監視方法を追加しました。

次のメッセージを追加しました。

KAVF11404-W, KAVF11950-W, KAVF11951-W, KAVF11983-E, KAVF11984-E, KAVF11985-E, KAVF11986-W, KAVF11987-W, KAVF11988-W, KAVF11989-W, KAVF11990-W, KAVF11991-W, KAVF11992-W, KAVF11993-W, KAVF11994-W, KAVF11995-W, KAVF11996-W, KAVF11997-W

ソリューションセットのアラームテーブルのバージョンを 8.10 から 8.11 に変更しました。

データモデルのバージョンを 7.0 から 7.2 に変更しました。

## 付録 J.5 08-10 の変更内容

PFM - Agent for Platform を使ったパフォーマンスの監視例を追加しました。

PFM - Agent for Platform の適用 OS に Windows 2000 を追加しました。

Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 にバージョンアップする方法を追加しました。

動作ログを出力する機能を追加しました。

パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの情報を追加しました。

アプリケーションの稼働・非稼働情報を収集できる機能を追加しました。これに伴い、次のレコードを追加しました。

PD\_APP レコード

PFM - Agent for Platform 製品で提供されていない情報や、マシンや環境固有の情報などの、ユーザー独自のパフォーマンスデータを収集できる機能を追加しました。これに伴い、次のレコードを追加しました。

PD\_UPD レコード、PD\_UPDB レコード、PI\_UPI レコード、PI\_UPIB レコード

次のメッセージを追加しました。

KAVF11316-W, KAVF11317-W, KAVF11901-W, KAVF11902-W, KAVF11904-W, KAVF11905-W, KAVF11906-W, KAVF11907-W, KAVF11908-W, KAVF11909-W, KAVF11910-W, KAVF11911-W, KAVF11912-W, KAVF11913-W, KAVF11914-W, KAVF11915-W, KAVF11916-E, KAVF11917-E, KAVF11919-E, KAVF11920-E, KAVF11923-E, KAVF11924-E, KAVF11925-E, KAVF11926-E, KAVF11927-E, KAVF11928-E, KAVF11929-E, KAVF11930-E, KAVF11931-E, KAVF11932-E, KAVF11935-E, KAVF11941-E, KAVF11943-E, KAVF11948-I, KAVF11952-E, KAVF11953-W, KAVF11954-W, KAVF11959-E

jpccras コマンドで採取する Performance Management の情報を追加しました。

メモリー所要量、およびディスク占有量の見積もり式を変更しました。

次のプロパティを追加しました。

サービス名	プロパティ
Agent Store	Period (Day)
	Period - Day Drawer (Week)
	Period - Hour Drawer (Day)
	Period - Minute Drawer (Day)
	Period - Month Drawer (Month)
	Period - Week Drawer (Week)
	Period - Year Drawer (Year)

サービス名	プロパティ
Agent Collector	ADD AN APPLICATION MONITORING SETTING
	DELETE AN APPLICATION MONITORING SETTING
	Process[01-15] Kind
	Process[01-15] Name
	Process[01-15] Range
	User Defined Record DataMaxCount

ソリューションセットのアラームテーブルのバージョンを 8.00 から 8.10 に変更しました。

仮想化システム上での PFM - Agent for Platform の運用方法を追加しました。

データモデルのバージョンを 6.0 から 7.0 に変更しました。

## 付録 J.6 08-00 の変更内容

製品名を JP1/Performance Management - Agent Option for Platform に変更しました。

対象製品に PFM - Web Console および PFM - Base を追加しました。

対象製品から PFM - View を削除しました。

Performance Management の製品構成の変更に伴い、PFM - Agent for Platform のファイルとフォルダの一覧を変更しました。

PFM - Agent for Platform が動作する OS および監視対象プログラムに Windows 2003 (x64) を追加し、Windows 2000 を削除しました。

収集データ追加ユーティリティを Windows の [ スタートメニュー ] から起動するように変更し、ユーザーレコードを収集できるレコードに次のレコードを追加しました。  
PD\_ELOG レコード、PI\_WGRP レコード

アラームテーブルのバージョンを 7.50 から 8.00 に変更しました。

データモデルのバージョンを 5.0 から 6.0 に変更しました。変更内容を次に示します。

- レコードを追加しました。  
PI\_WGRP レコード
- 次のレコードを予約レコードにしました。  
PI\_ASP2 レコード、PI\_APLE レコード、PI\_ECCM レコード、PI\_EDS レコード、  
PI\_EIPD レコード、PI\_EIPR レコード、PI\_EIPU レコード、PI\_EIMS レコード、  
PI\_EINP レコード、PI\_EMCI レコード、PI\_EMTC レコード、PI\_EMTC レコード

- レコードにフィールドを追加しました。

レコード名	フィールド名
PD レコード	User フィールド
	Group フィールド
PI_PID レコード	Group フィールド

- レコードサイズを変更しました。  
PD レコード, PI\_PID レコード
- IPF 版で予約レコードとしていたレコードを新規サポートしました。  
PI\_IP レコード, PI\_TCP レコード, PI\_UDP レコード, PI\_ICMP レコード,  
PD\_SVC レコード, PD\_DEV レコード
- 次のレコードの注意事項を追加しました。  
PD\_ELOG レコード

サポート対象外のレコードの収集イベントが発生した場合、1 回目の収集時に KAVF11201-W メッセージを共通ログに出力する設定としました。

KAVF11404-W メッセージを削除しました。

次のメッセージを追加しました。

KAVF11100-E, KAVF11101-E, KAVF11201-W, KAVF11316-W

## 付録 J.7 07-50 の変更内容

PFM - Agent for Platform が動作する OS および監視対象プログラムから、Windows NT を削除しました。

アラームのソリューションセットのバージョンを 7.00 から 7.50 に変更しました。

Event Log (PD\_ELOG) レコードで、履歴レポートおよびアラーム監視をサポートしました。

データモデルのバージョンを 4.1 から 5.0 に変更しました。変更内容を次に示します。

- フィールド追加

レコード名	フィールド名
System Overview (PI) レコード	% Physical Mem (PCT_PHYSICAL_MEMORY)
	Current Processes (CURRENT_PROCESSES)
	Current Threads (CURRENT_THREADS)
	Trans Pages RePurposed/sec (TRANS_PAGES_REPURPOSED_PER_SEC)
	Non Committed Mbytes (NON_COMMITTED_BYTES)

レコード名	フィールド名
	Used Physical Mem Mbytes ( USED_PHYSICAL_MEMORY_BYTES )
Logical Disk Overview ( PI_LOGD ) レコード	% Disk Usage ( PCT_DISK_USAGE )
Process End Detail ( PD_PEND ) レコード	Elapsed Time ( ELAPSED_TIME )

• 予約フィールドの解除

レコード名	フィールド名
Processor Overview ( PI_PCSR ) レコード	% C1 Time ( PCT_C1_TIME )
	% C2 Time ( PCT_C2_TIME )
	% C3 Time ( PCT_C3_TIME )
	% Idle Time ( PCT_IDLE_TIME )

• フィールド名を変更して予約を解除

レコード名	フィールド名
Processor Overview ( PI_PCSR ) レコード	C1 Trans/sec ( PCT_C1_TRANSITIONS_PER_SEC )
	C2 Trans/sec ( PCT_C2_TRANSITIONS_PER_SEC )
	C3 Trans/sec ( PCT_C3_TRANSITIONS_PER_SEC )

メッセージ KAVF11314-W を削除しました。

PFM - Agent for Platform が出力する共通メッセージログの保存方法として「ラップラウンドファイル ( jpclogw ) 方式」を追加し、次の二つの方式から選択できるようにしました。

- シーケンシャルファイル ( jpclog ) 方式 ( 従来方式 )
- ラップラウンドファイル ( jpclogw ) 方式

jpcras コマンドで Windows イベントログを採取できるようにしました。

## 付録 J.8 07-00 の変更 ( データモデル 4.1 )

データモデルのバージョンを 4.0 から 4.1 に変更しました。変更内容を次に示します。

- 追加

レコード名	フィールド名
AppleTalk Overview ( PI_APLE )	Interval2 ( INTERVAL2 )



レコード名	フィールド名
Exchange Internet Protocols ( PI_EINP )	
Exchange MTA Connections ( PI_EMTC )	
FTP Server Service Overview ( PI_FTPM )	
Generic Data Interval ( PI_GENI )	
Logical Disk Overview ( PI_LOGD )	
NBT Overview ( PI_NBT )	
Network Interface Overview ( PI_NETI )	
Network Link IPX Overview ( PI_LIPX )	
Network Link NetBIOS Overview ( PI_LBIO )	
Network Link SPX Overview ( PI_LSPX )	
Network Segment Overview ( PI_NSEG )	
NNTP Commands ( PI_NWSC )	
NNTP Server ( PI_NWSS )	
Physical Disk Overview ( PI_PHYD )	
Processor Overview ( PI_PCSR )	
Server Work Queues Overview ( PI_SVRQ )	
SMTP Server Service Overview ( PI_SMT2 )	
Web Service Overview ( PI_WEB )	

- 変更

レコード名	フィールド名	変更内容
Exchange Info Store Private ( PI_EIPR )	Single Instance Ratio ( SINGLE_INSTANCE_RATIO )	形式 ( float )
Exchange Info Store Public ( PI_EIPU )	Single Instance Ratio ( SINGLE_INSTANCE_RATIO )	形式 ( float )
Exchange MTA Performance ( PI_EMPTA )	Inbound Bytes Total ( INBOUND_BYTES_TOTAL )	形式 ( double )
	Inbound Messages Total ( INBOUND_MESSAGES_TOTAL )	形式 ( double )
	Outbound Bytes Total ( OUTBOUND_BYTES_TOTAL )	形式 ( double )

レコード名	フィールド名	変更内容
	Outbound Messages Total ( OUTBOUND_MESSAGES_TOTAL )	形式 ( double )
	Total Recipients Inbound ( TOTAL_RECIPIENTS_INBOUND )	形式 ( double )
	Total Recipitents Outbound ( TOTAL_RECIPITENTS_OUTBOUND )	形式 ( double )
	Work Queue Bytes ( WORK_QUEUE_BYTES )	形式 ( double )
Exchange MTA Connections ( PI_EMTC )	Inbound Bytes Total ( INBOUND_BYTES_TOTAL )	形式 ( double )
	Inbound Messages Total ( INBOUND_MESSAGES_TOTAL )	形式 ( double )
	Outbound Bytes Total ( OUTBOUND_BYTES_TOTAL )	形式 ( double )
	Outbound Messages Total ( OUTBOUND_MESSAGES_TOTAL )	形式 ( double )
	Queue Bytes ( QUEUE_BYTES )	形式 ( double )
	Total Recipients Inbound ( TOTAL_RECIPIENTS_INBOUND )	形式 ( double )
	Total Recipients Outbound ( TOTAL_RECIPIENTS_OUTBOUND )	形式 ( double )
Logical Disk Overview ( PI_LOGD )	Total Size Mbytes ( TOTAL_DISK_SIZE )	形式 ( double )
Process Detail ( PD )	Private Kbytes ( PRIVATE_BYTES )	形式 ( double )
	Page File Kbytes ( PAGE_FILE_BYTES )	形式 ( double )
	Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE_BYTES_PEAK )	形式 ( double )
	Virtual Kbytes ( VIRTUAL_BYTES )	形式 ( double )
	Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_BYTES_PEAK )	形式 ( double )
	Working Set Kbytes ( WORKING_SET )	形式 ( double )
	Working Set Kbytes Peak ( WORKING_SET_PEAK )	形式 ( double )
Process Detail Interval ( PD_PDI )	Private Kbytes ( PRIVATE_BYTES )	形式 ( double )
	Page File Kbytes ( PAGE_FILE_BYTES )	形式 ( double )
	Page File Kbytes Peak ( PAGE_FILE_BYTES_PEAK )	形式 ( double )

レコード名	フィールド名	変更内容
	Virtual Kbytes ( VIRTUAL_BYTES )	形式 ( double )
	Virtual Kbytes Peak ( VIRTUAL_BYTES_PEAK )	形式 ( double )
	Working Set Kbytes ( WORKING_SET )	形式 ( double )
	Working Set Kbytes Peak ( WORKING_SET_PEAK )	形式 ( double )
Process End Detail ( PD_PEND )	Working Set Max Kbytes ( WORKING_SET_MAX )	形式 ( double )
	Working Set Min Kbytes ( WORKING_SET_MIN )	形式 ( double )
SMTP Server Service Overview ( PI_SMT2 )	Bytes Rcvd ( BYTES_RECEIVED_CURR )	形式 ( double )
	Bytes Sent ( BYTES_SENT_CURR )	形式 ( double )
	Bytes Xferd ( BYTES_CURR )	形式 ( double )
	Msg Bytes ( MSG_BYTES_CURR )	形式 ( double )
	Msg Bytes Rcvd ( MSG_BYTES_RECEIVED_CURR )	形式 ( double )
	Msg Bytes Sent ( MSG_BYTES_SENT_CURR )	形式 ( double )
	Total Bytes Rcvd ( BYTES_RECEIVED_TOTAL )	形式 ( double )
	Total Bytes Sent ( BYTES_SENT_TOTAL )	形式 ( double )
	Total Bytes Xferd ( BYTES_TOTAL )	形式 ( double )
	Total Msg Bytes Rcvd ( MSG_BYTES_RECEIVED_TOTAL )	形式 ( double )
	Total Msg Bytes Sent ( MSG_BYTES_SENT_TOTAL )	形式 ( double )
Total Msg Bytes ( MSG_BYTES_TOTAL )	形式 ( double )	
System Overview ( PI )	Available Mbytes ( AVAILABLE_BYTES )	形式 ( double )
	Blocking Reqs Rejected ( BLOCKING_REQUESTS_REJECTED )	形式 ( float )
	Cache Mbytes ( CACHE_BYTES )	形式 ( double )
	Cache Mbytes Peak ( CACHE_BYTES_PEAK )	形式 ( double )
	Commit Limit Mbytes ( COMMIT_LIMIT )	形式 ( double )
	Committed Mbytes ( COMMITTED_BYTES )	形式 ( double )
	Pool Nonpaged Failures ( POOL_NONPAGED_FAILURES )	形式 ( float )
	Total Physical Mem Mbytes ( TOTAL_PHYSICAL_MEMORY_KBYTES )	形式 ( double )

レコード名	フィールド名	変更内容
	Work Item Shortages ( WORK_ITEM_SHORTAGES )	形式 ( float )
Web Proxy Server Cache Overview ( PI_WPSC )	Active Refresh Bytes Rate ( ACTIVE_REFRESH_BYTES_RATE )	形式 ( float )
	Active URL Refresh Rate ( ACTIVE_URL_REFRESH_RATE )	形式 ( float )
	Bytes Committed Rate ( BYTES_COMMITTED_RATE )	形式 ( float )
	Bytes Retrieved Rate ( BYTES_RETRIEVED_RATE )	形式 ( float )
	Max URLs Cached ( MAX_URLS_CACHED )	形式 ( double )
	Total Actively Refreshed URLs ( TOTAL_ACTIVELY_REFRESHED_URLS )	形式 ( double )
	Total URLs Cached ( TOTAL_URLS_CACHED )	形式 ( double )
	Total URLs Retrieved ( TOTAL_URLS_RETRIEVED )	形式 ( double )
	URL Commit Rate ( URL_COMMIT_RATE )	形式 ( float )
	URL Retrieve Rate ( URL_RETRIEVE_RATE )	形式 ( float )
	URLs in Cache ( URLS_IN_CACHE )	形式 ( double )
Web Service Overview ( PI_WEB )	System Code Resident Bytes ( SYSTEM_CODE_RESIDENT_BYTES )	形式 ( float )

## 付録 J.9 07-00 の変更内容

PFM - Agent for Platform の適用 OS を次の表のように変更しました。

プログラム名	変更内容
PFM - Agent for Platform	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2003 を追加した。</li> <li>Windows Server 2003 (IPF) を追加した。</li> </ul>

複数 LAN 接続機能をサポートしました。

アラームのソリューションセットのバージョンを 6.70 から 7.00 に変更しました。

データモデルのバージョンを 3.0 から 4.0 に変更しました。変更内容を次に示します。

- 追加

レコード名	フィールド名
Active Server Pages (PI_ASP2)	Engine Flush Notifications (ENGINE_FLUSH_NOTIFICATIONS)
	In Mem Template Cache Hit Rate (IN_MEMORY_TEMPLATE_CACHE_HIT_RATE)
	In Mem Template Cached (IN_MEMORY_TEMPLATE_CACHED)
	Script Engine Cache Hit Rate (SCRIPT_ENGINE_CACHE_HIT_RATE)
Exchange Info Store Perf Data (PI_EIPD)	Appt Instance Creation Rate (APPOINTMENT_INSTANCE_CREATION_RATE)
	Appt Instance Deletion Rate (APPOINTMENT_INSTANCE_DELETION_RATE)
	Appt Instances Created (APPOINTMENT_INSTANCES_CREATED)
	Appt Instances Deleted (APPOINTMENT_INSTANCES_DELETED)
	FB Publish Count (FB_PUBLISH_COUNT)
	FB Publish Rate (FB_PUBLISH_RATE)
	IMAPI Commands Issued (IMAPI_COMMANDS_ISSUED)
	IMAPI Commands Issued Rate (IMAPI_COMMANDS_ISSUED_RATE)
	IMAPI Message Send Rate (IMAPI_MESSAGE_SEND_RATE)
	IMAPI Messages Sent (IMAPI_MESSAGES_SENT)
	Newsfeed Bytes Sent (NEWSFEED_BYTES_SENT)
	Newsfeed Bytes Sent/sec (NEWSFEED_BYTES_SENT_SEC)
	Newsfeed Inbound Rej Msgs (NEWSFEED_INBOUND_REJECTED_MESSAGES)
	Newsfeed Inbound Rej Msgs Rate (NEWSFEED_INBOUND_REJECTED_MSG_RATE)
	Newsfeed Messages Rcvd (NEWSFEED_MESSAGES_RECEIVED)
	Newsfeed Messages Rcvd Rate (NEWSFEED_MESSAGES_RECEIVED_RATE)
Newsfeed Messages Sent (NEWSFEED_MESSAGES_SENT)	
Newsfeed Messages Sent/sec (NEWSFEED_MESSAGES_SENT_SEC)	

レコード名	フィールド名
	Newsfeed Outbound Rej Msgs ( NEWSFEED_OUTBOUND_REJECTED_MESSAGES )
	NNTP Commands Issued ( NNTP_COMMANDS_ISSUED )
	NNTP Commands Issued Rate ( NNTP_COMMANDS_ISSUED_RATE )
	NNTP Current Outbound Conns ( NNTP_CURRENT_OUTBOUND_CONNECTIONS )
	NNTP Failed Posts ( NNTP_FAILED_POSTS )
	NNTP Failed Posts Rate ( NNTP_FAILED_POSTS_RATE )
	NNTP Messages Posted ( NNTP_MESSAGES_POSTED )
	NNTP Messages Posted Rate ( NNTP_MESSAGES_POSTED_RATE )
	NNTP Messages Read ( NNTP_MESSAGES_READ )
	NNTP Messages Read Rate ( NNTP_MESSAGES_READ_RATE )
	NNTP Outbound Conns ( NNTP_OUTBOUND_CONNECTIONS )
	Number of art index tbl rows exp ( NUMBER_OF_ART_INDEX_TABLE_ROWS_EXP )
	POP3 Commands Issued ( POP3_COMMANDS_ISSUED )
	POP3 Commands Issued Rate ( POP3_COMMANDS_ISSUED_RATE )
	POP3 Messages Send Rate ( POP3_MESSAGES_SEND_RATE )
	POP3 Messages Sent ( POP3_MESSAGES_SENT )
	Recurring Appt Creation Rate ( RECURRING_APPT_CREATION_RATE )
	Recurring Appt Deletion Rate ( RECURRING_APPT_DELETION_RATE )
	Recurring Appt Modification Rate ( RECURRING_APPT_MODIFICATION_RATE )
	Recurring Appts Created ( RECURRING_APPTS_CREATED )
	Recurring Appts Deleted ( RECURRING_APPTS_DELETED )
	Recurring Appts Modified ( RECURRING_APPTS_MODIFIED )
	Recurring Master Appts Expanded ( RECURRING_MASTER_APPTS_EXPANDED )

レコード名	フィールド名
	Recurring Master Expansion Rate ( RECURRING_MASTER_EXPANSION_RATE )
	Single Appt Creation Rate ( SINGLE_APPT_CREATION_RATE )
	Single Appt Deletion Rate ( SINGLE_APPT_DELETION_RATE )
	Single Appt Modification Rate ( SINGLE_APPT_MODIFICATION_RATE )
	Single Appts Created ( SINGLE_APPTS_CREATED )
	Single Appts Deleted ( SINGLE_APPTS_DELETED )
	Single Appts Modified ( SINGLE_APPTS_MODIFIED )
Exchange Info Store Private ( PI_EIPR )	Local deliveries ( LOCAL_DELIVERIES )
	Local delivery rate ( LOCAL_DELIVERY_RATE )
	Total Count of Recoverable Items ( TOTAL_COUNT_OF_RECOVERABLE_ITEMS )
	Total Size of Recoverable Items ( TOTAL_SIZE_OF_RECOVERABLE_ITEMS )
Exchange Info Store Public ( PI_EIPU )	Number of msgs exp frm pub folds ( NUMBER_OF_MSG_EXP_FROM_PUBLIC_FOLD )
	HTTP/DEV Curr Pend Notification ( HTTP_PER_DEV_CURR_PEND_NOTIFIC )
	HTTP/DEV Curr Subscriptions ( HTTP_PER_DEV_CURR_SUBSCRIPTIONS )
	HTTP/DEV Curr Trans Locks ( HTTP_PER_DEV_CURR_TRANS_LOCKS )
	HTTP/DEV Notify Requests/sec ( HTTP_PER_DEV_NOTIFY_REQ_PER_SEC )
	HTTP/DEV Total Locks Created ( HTTP_PER_DEV_TOTAL_LOCKS_CREATED )
	HTTP/DEV Total Notify Requests ( HTTP_PER_DEV_TOTAL_NOTIFY_REQUESTS )
	HTTP/DEV Total Subs Created ( HTTP_PER_DEV_TOTAL_SUBS_CREATED )
	HTTP/DEV Total Subs Expired ( HTTP_PER_DEV_TOTAL_SUBS_EXPIRED )
	Replication Receive Queue Size ( REPLICATION_RECEIVE_QUEUE_SIZE )
	Total Count of Recoverable Item ( TOTAL_COUNT_OF_RECOVERABLE_ITEMS )

レコード名	フィールド名
	Total Size of Recoverable Item ( TOTAL_SIZE_OF_RECOVERABLE_ITEMS )
Exchange Internet Mail Service ( PI_EIMS )	Total Failed Conversions ( TOTAL_FAILED_CONVERSIONS )
	Total Inbound Kilobytes ( TOTAL_INBOUND_KILOBYTES )
	Total Inbound Recipients ( TOTAL_INBOUND_RECIPIENTS )
	Total Kilobytes Queued ( TOTAL_KILOBYTES_QUEUED )
	Total Loops Detected ( TOTAL_LOOPS_DETECTED )
	Total Messages Queued ( TOTAL_MESSAGES_QUEUED )
	Total Outbound Kilobytes ( TOTAL_OUTBOUND_KILOBYTES )
	Total Outbound Recipients ( TOTAL_OUTBOUND_RECIPIENTS )
	Total Recipients Queued ( TOTAL_RECIPIENTS_QUEUED )
	Total Successful Conversions ( TOTAL_SUCCESSFUL_CONVERSIONS )
Exchange Internet Protocols ( PI_EINP )	Incoming Queue Size ( INCOMING_QUEUE_SIZE )
	Outgoing Queue Size ( OUTGOING_QUEUE_SIZE )
	Outstanding Commands ( OUTSTANDING_COMMANDS )
	Total Commands ( TOTAL_COMMANDS )
Exchange MTA Connections ( PI_EMTC )	Connector Index ( CONNECTOR_INDEX )
	Cumulative Inbound Associations ( CUMULATIVE_INBOUND_ASSOCIATIONS )
	Cumulative Outbound Associations ( CUMULATIVE_OUTBOUND_ASSOCIATIONS )
	Current Inbound Associations ( CURRENT_INBOUND_ASSOCIATIONS )
	Current Outbound Associations ( CURRENT_OUTBOUND_ASSOCIATIONS )
	Failed Outbound Associations ( FAILED_OUTBOUND_ASSOCIATIONS )
	Inbound Bytes Total ( INBOUND_BYTES_TOTAL )
	Inbound Messages Total ( INBOUND_MESSAGES_TOTAL )



レコード名	フィールド名
	Inbound Reject Reason ( INBOUND_REJECT_REASON )
	Inbound Rejected Total ( INBOUND_REJECTED_TOTAL )
	Last Inbound Association ( LAST_INBOUND_ASSOCIATION )
	Last Outbound Association ( LAST_OUTBOUND_ASSOCIATION )
	Next Association Retry ( NEXT_ASSOCIATION_RETRY )
	Oldest Message Queued ( OLDEST_MESSAGE_QUEUED )
	Outbound Bytes Total ( OUTBOUND_BYTES_TOTAL )
	Outbound Failure Reason ( OUTBOUND_FAILURE_REASON )
	Outbound Messages Total ( OUTBOUND_MESSAGES_TOTAL )
	Queue Bytes ( QUEUE_BYTES )
	Rejected Inbound Associations ( REJECTED_INBOUND_ASSOCIATIONS )
	Total Recipients Inbound ( TOTAL_RECIPIENTS_INBOUND )
	Total Recipients Outbound ( TOTAL_RECIPIENTS_OUTBOUND )
	Total Recipients Queued ( TOTAL_RECIPIENTS_QUEUED )
Exchange MTA Performance ( PI_EMFTA )	Deferred Delivery Msgs ( DEFERRED_DELIVERY_MSGS )
	Inbound Bytes Total ( INBOUND_BYTES_TOTAL )
	Inbound Messages Total ( INBOUND_MESSAGES_TOTAL )
	Outbound Bytes Total ( OUTBOUND_BYTES_TOTAL )
	Outbound Messages Total ( OUTBOUND_MESSAGES_TOTAL )
	Total Failed Conversions ( TOTAL_FAILED_CONVERSIONS )
	Total Loops Detected ( TOTAL_LOOPS_DETECTED )
	Total Recipients Inbound ( TOTAL_RECIPIENTS_INBOUND )
	Total Recipients Outbound ( TOTAL_RECIPIENTS_OUTBOUND )
	Total Recipients Queued ( TOTAL_RECIPIENTS_QUEUED )

レコード名	フィールド名
	Total Successful Conversions ( TOTAL_SUCCESSFUL_CONVERSIONS )
	Work Queue Bytes ( WORK_QUEUE_BYTES )
FTP Server Service Overview ( PI_FTPM )	FTP Service Uptime ( FTP_SERVICE_UPTIME )
Internet Info Server Global ( PI_IIS )	Active Flushed Entries ( ACTIVE_FLUSHED_ENTRIES )
	BLOB Cache Flushes ( BLOB_CACHE_FLUSHES )
	BLOB Cache Hits ( BLOB_CACHE_HITS )
	BLOB Cache Hits % ( PCT_BLOB_CACHE_HITS )
	BLOB Cache Misses ( BLOB_CACHE_MISSES )
	Current BLOBs Cached ( CURRENT_BLOBS_CACHED )
	Current File Cache Memory Usage ( CURRENT_FILE_CACHE_MEMORY_USAGE )
	Current Files Cached ( CURRENT_FILES_CACHED )
	Current URIs Cached ( CURRENT_URIS_CACHED )
	File Cache Flushes ( FILE_CACHE_FLUSHES )
	File Cache Hits ( FILE_CACHE_HITS )
	File Cache Hits % ( PCT_FILE_CACHE_HITS )
	File Cache Misses ( FILE_CACHE_MISSES )
	Maximum File Cache Memory Usage ( MAXIMUM_FILE_CACHE_MEMORY_USAGE )
	Total BLOB Cached ( TOTAL_BLOB_CACHED )
	Total Files Cached ( TOTAL_FILES_CACHED )
	Total Flushed BLOBs ( TOTAL_FLUSHED_BLOBS )
	Total Flushed Files ( TOTAL_FLUSHED_FILES )
	Total Flushed URIs ( TOTAL_FLUSHED_URIS )
	Total URIs Cached ( TOTAL_URIS_CACHED )
URI Cache Hits ( URI_CACHE_HITS )	
URI Cache Hits % ( PCT_URI_CACHE_HITS )	
URI Cache Misses ( URI_CACHE_MISSES )	
Logical Disk Overview ( PI_LOGD )	% Idle Time ( PCT_IDLE_TIME )
	Split IO/Sec ( SPLIT_IO_PER_SEC )
Physical Disk Overview ( PI_PHYD )	% Idle Time ( PCT_IDLE_TIME )

レコード名	フィールド名
	Split IO/Sec ( SPLIT_IO_PER_SEC )
Process Detail ( PD )	Creating Process ID ( PROCESS_ID )
	IO Data Bytes/sec ( IO_DATA_BYTES_PER_SEC )
	IO Data Operations/sec ( IO_DATA_OPERATIONS_PER_SEC )
	IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_BYTES_PER_SEC )
	IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_OPERATIONS_PER_SEC )
	IO Read Bytes/sec ( IO_READ_BYTES_PER_SEC )
	IO Read Operations/sec ( IO_READ_OPERATIONS_PER_SEC )
	IO Write Bytes/sec ( IO_WRITE_BYTES_PER_SEC )
	IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_OPERATIONS_PER_SEC )
	Process Detail Interval ( PD_PDI )
IO Data Bytes/sec ( IO_DATA_BYTES_PER_SEC )	
IO Data Operations/sec ( IO_DATA_OPERATIONS_PER_SEC )	
IO Other Bytes/sec ( IO_OTHER_BYTES_PER_SEC )	
IO Other Operations/sec ( IO_OTHER_OPERATIONS_PER_SEC )	
IO Read Bytes/sec ( IO_READ_BYTES_PER_SEC )	
IO Read Operations/sec ( IO_READ_OPERATIONS_PER_SEC )	
IO Write Bytes/sec ( IO_WRITE_BYTES_PER_SEC )	
IO Write Operations/sec ( IO_WRITE_OPERATIONS_PER_SEC )	
Processor Overview ( PI_PCSR )	
	% C2 Time ( PCT_C2_TIME )
	% C3 Time ( PCT_C3_TIME )
	% Idle Time ( PCT_IDLE_TIME )
	% C1 Transitions/sec ( PCT_C1_TRANSITIONS_PER_SEC )
	% C2 Transitions/sec ( PCT_C2_TRANSITIONS_PER_SEC )
	% C3 Transitions/sec ( PCT_C3_TRANSITIONS_PER_SEC )

レコード名	フィールド名
SMTP Server Service Overview ( PI_SMT2 )	Badm Msgs Bad Pickup File ( BADMAILED_MSGS_BAD_PICKUP_FILE )
	Badm Msgs General Failure ( BADMAILED_MSGS_GENERAL_FAILURE )
	Badm Msgs Hop Count Exceeded ( BADMAILED_MSGS_HOP_COUNT_EXCEEDED )
	Badm Msgs NDR of DSN ( BADMAILED_MSGS_NDR_OF_DSN )
	Badm Msgs No Recipients ( BADMAILED_MSGS_NO_RECIPIENTS )
	Badm Msgs Triggered via Event ( BADMAILED_MSGS_TRIGGERED_VIA_EVENT )
	Cat Addr lookup compl ( CAT_ADDR_LOOKUP_COMPLETIONS )
	Cat Addr lookup compl/sec ( CAT_ADDR_LOOKUP_COMPLETIONS_PER_SEC )
	Cat Addr lookups ( CAT_ADDR_LOOKUPS )
	Cat Addr lookups not found ( CAT_ADDR_LOOKUPS_NOT_FOUND )
	Cat Addr lookups/sec ( CAT_ADDR_LOOKUPS_PER_SEC )
	Cat Catagor compl ( CAT_CATAGOR_COMPLETED )
	Cat Catagor compl success ( CAT_CATAGOR_COMPLETED_SUCCESSFULLY )
	Cat Catagor compl/sec ( CAT_CATAGOR_COMPLETED_PER_SEC )
	Cat Catagor fail DS conn failure ( CAT_CATAGOR_FAILED_DS_CONN_FAILURE )
	Cat Catagor fail DS logon fail ( CAT_CATAGOR_FAILED_DS_LOGON_FAILURE )
	Cat Catagor fail non-retry err ( CAT_CATAGOR_FAILED_NON-RETRY_ERROR )
	Cat Catagor fail Out Of Memory ( CAT_CATAGOR_FAILED_OUT_OF_MEMORY )
	Cat Catagor fail retryable err ( CAT_CATAGOR_FAILED_RETRYABLE_ERROR )
	Cat Catagor fail sink retry err ( CAT_CATAGOR_FAILED_SINK_RETRY_ERROR )
	Cat Catagor in progress ( CAT_CATAGOR_IN_PROGRESS )
Cat LDAP bind failure ( CAT_LDAP_BIND_FAILURE )	
Cat LDAP binds ( CAT_LDAP_BINDS )	

レコード名	フィールド名
	Cat LDAP conn failures ( CAT_LDAP_CONNECTION_FAILURES )
	Cat LDAP conns ( CAT_LDAP_CONNECTIONS )
	Cat LDAP conns currently open ( CAT_LDAP_CONNECTIONS_CURRENTLY_OPEN )
	Cat LDAP gen compl failures ( CAT_LDAP_GENERAL_COMP_FAILURES )
	Cat LDAP paged srch compl fails ( CAT_LDAP_PAGED_SEARCH_COMP_FAILURES )
	Cat LDAP paged srches ( CAT_LDAP_PAGED_SEARCHES )
	Cat LDAP paged srch failure ( CAT_LDAP_PAGED_SEARCH_FAILURE )
	Cat LDAP paged srches compl ( CAT_LDAP_PAGED_SEARCHES_COMPLETED )
	Cat LDAP srch compl fail ( CAT_LDAP_SEARCH_COMPLETION_FAILURE )
	Cat LDAP srch fail ( CAT_LDAP_SEARCH_FAILURES )
	Cat LDAP srches ( CAT_LDAP_SEARCHES )
	Cat LDAP srches abandoned ( CAT_LDAP_SEARCHES_ABANDONED )
	Cat LDAP srches completed ( CAT_LDAP_SEARCHES_COMPLETED )
	Cat LDAP srches completed/sec ( CAT_LDAP_SEARCHES_COMPLETED_PER_SEC )
	Cat LDAP srches pending compl ( CAT_LDAP_SEARCHES_PEND_COMPLETION )
	Cat LDAP srches/sec ( CAT_LDAP_SEARCHES_PER_SEC )
	Cat mailmsg dup collisions ( CAT_MAILMSG_DUPLICATE_COLLISIONS )
	Cat Msgs aborted ( CAT_MESSAGES_ABORTED )
	Cat Msgs bifurcated ( CAT_MESSAGES_BIFURCATED )
	Cat Msgs Categorized ( CAT_MESSAGES_CATEGORIZED )
	Cat Msgs submitted ( CAT_MESSAGES_SUBMITTED )
	Cat Msgs submitted/sec ( CAT_MESSAGES_SUBMITTED_PER_SEC )
	Cat Recip after categor ( CAT_RECIPIENTS_AFTER_CATEGOR )

レコード名	フィールド名
	Cat Recip before categor ( CAT_RECIP_BEFORE_CATEGOR )
	Cat Recip in categor ( CAT_RECIP_IN_CATEGORIZATION )
	Cat Recip NDRd ambiguous addr ( CAT_RECIP_NDRD_AMBIGUOUS_ADDRESS )
	Cat Recip NDRd by categor ( CAT_RECIP_NDRD_BY_CATEGORIZER )
	Cat Recip NDRd fwd loop ( CAT_RECIP_NDRD_FORWARDING_LOOP )
	Cat Recip NDRd illegal addr ( CAT_RECIP_NDRD_ILLEGAL_ADDRESS )
	Cat Recip NDRd sink recip err ( CAT_RECIP_NDRD_SINK_RECIP_ERRORS )
	Cat Recip NDRd unresolved ( CAT_RECIP_NDRD_UNRESOLVED )
	Cat Senders unresolved ( CAT_SENDERS_UNRESOLVED )
	Cat Senders with ambiguous addr ( CAT_SENDERS_WITH_AMBIGUOUS_ADDRESS )
	Categorizer Queue Length ( CATEGORIZER_QUEUE_LENGTH )
	Current Msgs in Local Delivery ( CURRENT_MESSAGES_IN_LOCAL_DELIVERY )
	Msgs Currently Undeliverable ( MESSAGES_CURRENTLY_UNDELIVERABLE )
	Msgs Pending Routing ( MESSAGES_PENDING_ROUTING )
	Pickup Direct Msgs Retr Total ( PICKUP_DIRECT_MSGS_RETRI_TOTAL )
	Pickup Direct Msgs Retr/sec ( PICKUP_DIRECT_MSGS_RETRI_PER_SEC )
	Total DSN Failures ( TOTAL_DSN_FAILURES )
	Total msg submitted ( TOTAL_MESSAGES_SUBMITTED )
Web Service Overview ( PI_WEB )	Copy Requests/Sec ( COPY_REQUESTS_PER_SEC )
	Lock Requests/Sec ( LOCK_REQUESTS_PER_SEC )
	Locked Errors/sec ( LOCKED_ERRORS_PER_SEC )
	Mkcol Requests/sec ( MKCOL_REQUESTS_PER_SEC )
	Move Requests/sec ( MOVE_REQUESTS_PER_SEC )

レコード名	フィールド名
	Options Requests/Sec ( OPTIONS_REQUESTS_PER_SEC )
	Propfind Requests/sec ( PROPFIND_REQUESTS_PER_SEC )
	Proppatch Requests/sec ( PROPPATCH_REQUESTS_PER_SEC )
	Search Requests/sec ( SEARCH_REQUESTS_PER_SEC )
	Service Uptime ( SERVICE_UPTIME )
	Total Copy Requests ( TOTAL_COPY_REQUESTS )
	Total Lock Requests ( TOTAL_LOCK_REQUESTS )
	Total Locked Errors ( TOTAL_LOCKED_ERRORS )
	Total Mkol Requests ( TOTAL_MKCOL_REQUESTS )
	Total Move Requests ( TOTAL_MOVE_REQUESTS )
	Total Options Requests ( TOTAL_OPTIONS_REQUESTS )
	Total Propfind Requests ( TOTAL_PROPFIND_REQUESTS )
	Total Proppatch Requests ( TOTAL_PROPPATCH_REQUESTS )
	Total Search Requests ( TOTAL_SEARCH_REQUESTS )
	Total Unlock Requests ( TOTAL_UNLOCK_REQUESTS )
	Trace Requests/sec ( TRACE_REQUESTS_PER_SEC )
	Unlock Requests/sec ( UNLOCK_REQUESTS_PER_SEC )

- 変更

レコード名	フィールド名	変更内容
AppleTalk Overview ( PI_APLE )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Content Index Detail ( PD_CIND )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Content Index Filter Detail ( PD_CINF )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Exchange Internet Protocols ( PI_EINP )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Exchange MTA Connections ( PI_EMTC )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
FTP Server Service Overview ( PI_FTPM )	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式

レコード名	フィールド名	変更内容
Logical Disk Overview (PI_LOGD)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
NBT Overview (PI_NBT)	Instance ( INSTANCE )	形式
Network Interface Overview (PI_NETI)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Network Link IPX Overview (PI_LIPX)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Network Link NetBIOS Overview (PI_LBIO)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Network Link SPX Overview (PI_LSPX)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Network Segment Overview (PI_NSEG)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
NNTP Commands (PI_NWSC)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
NNTP Server (PI_NWSS)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Page File Detail (PD_PAGF)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Physical Disk Overview (PI_PHYD)	ID ( INSTANCE )	説明, 形式
Process Detail (PD)	Program ( INSTANCE )	説明
Process Detail Interval (PD_PDI)	Program ( INSTANCE )	説明
Process End Detail (PD_PEND)	Program ( PROCESS_NAME )	説明
Processor Overview (PI_PCSR)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
Server Work Queues Overview (PI_SVRQ)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
SMTP Server Service Overview (PI_SMT2)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式
System Summary Overview (PI)	-	変更可否
Web Service Overview (PI_WEB)	Instance ( INSTANCE )	説明, 形式

(凡例)

- : 該当しない

スタンドアロンモードで PFM - Agent を起動する機能をサポートしました。

インストール時の障害を出力するインストールログファイルを追加しました。



Store サービス起動時に実行していた Store データベースのインデックスファイルの作成処理を、バージョンアップインストール時、またはデータベースのリストア時に実行するように変更しました。

次のメッセージを追加しました。

KAVF11405-W, KAVF11406-W, KAVF11407-E

次のプロパティを追加しました。

サービス名	プロパティ
Agent Collector	Data Model Version

次のプロパティを削除しました。

サービス名	プロパティ
Agent Store	Copyright 以下すべて Network Services 下の Version
Agent Collector	Network Services 下の Version

## 付録 K (3020-3-R48-21) の変更内容

3020-3-R48-21 の変更内容を表 K-1 に示します。

表 K-1 (3020-3-S35-11) の変更内容

#	変更箇所	追加・変更内容			
1	2.1.1(5)	表 2-3 パフォーマンスデータの収集に必要な前提条件 [訂正前]			
		カテゴリー	レコード名 (レコードID)	フィールド名 (PFM - View名)	前提条件
		OS	Logical Disk Overview (PI_LOGD)	Page File Size Mbytes (PAGE_FILE_SIZE_BYTES)	Windows Management Instrumentation [サービス名: WinMgmt] が開始されていること。 注意: Windows Server 2003, Windows Server 2008の場合だけ必要。
			System Overview (PI)	System Type (SYSTEM_TYPE)	

#	変更箇所	追加・変更内容																	
		<p>[ 訂正後 ]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="429 311 540 382">カテゴリー</th> <th data-bbox="540 311 779 382">レコード名 (レコードID)</th> <th data-bbox="779 311 1074 382">フィールド名 (PFM - View名)</th> <th data-bbox="1074 311 1259 382">前提条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="429 392 540 469">OS</td> <td data-bbox="540 392 779 469">Logical Disk Overview (PI_LOGD)</td> <td data-bbox="779 392 1074 469">Page File Size Mbytes (PAGE_FILE_SIZE_BYTES)</td> <td data-bbox="1074 392 1259 1161" rowspan="4">Windows Management Instrumentation [ サービス名 : WinMgmt ] が開始されていること。 注意 : Windows Server 2003, Windows Server 2008の場合だけ必要。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="429 479 540 556"></td> <td data-bbox="540 479 779 556">Process End Detail (PD_PEND)</td> <td data-bbox="779 479 1074 556">すべてのフィールド</td> </tr> <tr> <td data-bbox="429 566 540 643"></td> <td data-bbox="540 566 779 643">Processor Overview (PI_PCSR)</td> <td data-bbox="779 566 1074 643">すべてのフィールド</td> </tr> <tr> <td data-bbox="429 653 540 1161"></td> <td data-bbox="540 653 779 1161">System Overview (PI)</td> <td data-bbox="779 653 1074 1161">% Total DPC Time (PCT_TOTAL_DPC_TIME) % Total Interrupt Time (PCT_TOTAL_INTERRUPT_TIME) Active CPUs (NUMBER_OF_ACTIVE_CPUS) CPU % (PCT_TOTAL_PROCESSOR_TIME) Privileged CPU % (PCT_TOTAL_PRIVILEGED_TIME) System Type (SYSTEM_TYPE) Total DPC Rate (TOTAL_DPC_RATE) Total DPCs Queued/sec (TOTAL_DPCS_QUEUED_PER_SEC) Total Interrupts/sec (TOTAL_INTERRUPTS_PER_SEC) User CPU % (PCT_TOTAL_USER_TIME)</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリー	レコード名 (レコードID)	フィールド名 (PFM - View名)	前提条件	OS	Logical Disk Overview (PI_LOGD)	Page File Size Mbytes (PAGE_FILE_SIZE_BYTES)	Windows Management Instrumentation [ サービス名 : WinMgmt ] が開始されていること。 注意 : Windows Server 2003, Windows Server 2008の場合だけ必要。		Process End Detail (PD_PEND)	すべてのフィールド		Processor Overview (PI_PCSR)	すべてのフィールド		System Overview (PI)	% Total DPC Time (PCT_TOTAL_DPC_TIME) % Total Interrupt Time (PCT_TOTAL_INTERRUPT_TIME) Active CPUs (NUMBER_OF_ACTIVE_CPUS) CPU % (PCT_TOTAL_PROCESSOR_TIME) Privileged CPU % (PCT_TOTAL_PRIVILEGED_TIME) System Type (SYSTEM_TYPE) Total DPC Rate (TOTAL_DPC_RATE) Total DPCs Queued/sec (TOTAL_DPCS_QUEUED_PER_SEC) Total Interrupts/sec (TOTAL_INTERRUPTS_PER_SEC) User CPU % (PCT_TOTAL_USER_TIME)
カテゴリー	レコード名 (レコードID)	フィールド名 (PFM - View名)	前提条件																
OS	Logical Disk Overview (PI_LOGD)	Page File Size Mbytes (PAGE_FILE_SIZE_BYTES)	Windows Management Instrumentation [ サービス名 : WinMgmt ] が開始されていること。 注意 : Windows Server 2003, Windows Server 2008の場合だけ必要。																
	Process End Detail (PD_PEND)	すべてのフィールド																	
	Processor Overview (PI_PCSR)	すべてのフィールド																	
	System Overview (PI)	% Total DPC Time (PCT_TOTAL_DPC_TIME) % Total Interrupt Time (PCT_TOTAL_INTERRUPT_TIME) Active CPUs (NUMBER_OF_ACTIVE_CPUS) CPU % (PCT_TOTAL_PROCESSOR_TIME) Privileged CPU % (PCT_TOTAL_PRIVILEGED_TIME) System Type (SYSTEM_TYPE) Total DPC Rate (TOTAL_DPC_RATE) Total DPCs Queued/sec (TOTAL_DPCS_QUEUED_PER_SEC) Total Interrupts/sec (TOTAL_INTERRUPTS_PER_SEC) User CPU % (PCT_TOTAL_USER_TIME)																	
2	2.1.1(6)	<p>(e) その他の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウィルス検出プログラム</li> </ul> <p>[ 訂正前 ] ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールすることを推奨します。</p> <p>[ 訂正後 ] ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールしてください。</p>																	
3	2.6	<p>バックアップとリストア</p> <p>[ 追加 ] 収集データ追加ユーティリティで設定した内容はバックアップできません。</p>																	
4	3.2.2	<p>(1) 注意</p> <p>[ 訂正前 ] 収集するパフォーマンスデータとして追加できるオブジェクト数, カウンター数, インスタンス数に制限はありませんが, 大量に設定すると PFM - Agent for Platform のデータ収集時にシステム負荷やディスク使用量が大きくなる場合があります。そのため, 通常は合計 100 個程度を上限の目安としてください。</p>																	

#	変更箇所	追加・変更内容
		<p>[訂正後]</p> <p>収集するパフォーマンスデータとして追加できるオブジェクト数、カウンター数、インスタンス数に制限はありませんが、大量に設定すると PFM - Agent for Platform のデータ収集時にシステム負荷やディスク使用量が大きくなる場合があります。そのため、通常は合計 100 個を上限としてください。</p>
5	3.2.7(5)	<p>図 3-6 ユーザー作成データの構成例</p> <p>[訂正前]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <pre>Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows) FormVer=0001 tt ks ki l Process 0 "System Idle Process" 1 Process 8 " System" 41 Process 172 " SMSS.EXE " 6</pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロダクト情報セクション</li> <li>● データセクション (オプションヘッダー部)</li> <li>● データセクション (データ部)</li> </ul> <p>[訂正後]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <pre>Product Name=PFM-Agent for Platform (Windows) FormVer=0001 tt ki ks l Process 0 "System Idle Process" 1 Process 8 " System" 41 Process 172 " SMSS.EXE " 6</pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロダクト情報セクション</li> <li>● データセクション (オプションヘッダー部)</li> <li>● データセクション (データ部)</li> </ul>
6	4.	<p>Memory Paging Status (Multi-Agent) フィールドの表</p> <p>[訂正前]</p> <p>Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後]</p> <p>Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>
7	4.	<p>OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示すリアルタイムレポート) フィールドの表</p> <p>[訂正前]</p> <p>Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後]</p> <p>Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>

#	変更箇所	追加・変更内容
8	4.	<p>OS Memory Usage Status (メモリー使用量を示す履歴レポート) フィールドの表</p> <p>[訂正前] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>
9	4.	<p>System Memory Detail フィールドの表</p> <p>[訂正前] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>
10	4.	<p>System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート) フィールドの表</p> <p>[訂正前] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後] Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>
11	4.	<p>System Overview (システムの概要を示すリアルタイムレポート) フィールドの表</p> <p>[訂正前] ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後] ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>
12	4.	<p>System Overview (システムの概要を示す履歴レポート) フィールドの表</p> <p>[訂正前] ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっている可能性がある。</p> <p>[訂正後] ページフォルトが発生した時にページングしたページ数の割合 ( / 秒 )。 Pages Input/sec フィールドと Pages Output/sec フィールドの合計値の割合。通常、継続的に 5 を超える状態の場合、メモリーがシステムのボトルネックになっているおそれがある。</p>

#	変更箇所	追加・変更内容
13	5.	レコード Logical Disk Overview (PI_LOGD) フィールド Disk Read Bytes/sec 説明 [訂正前] 読み込み処理中にディスクにデータが転送される速度 (バイト / 秒)。  [訂正後] 読み込み処理中にディスクからデータが転送される速度 (バイト / 秒)。
14	5.	レコード Logical Disk Overview (PI_LOGD) フィールド Disk Reads/sec 説明 [訂正前] ディスクへの読み込み処理の速度 ( / 秒)。  [訂正後] ディスクからの読み込み処理の速度 ( / 秒)。
15	5.	レコード Network Interface Overview (PI_NETI) フィールド Current Bandwidth サポート対象外 [訂正前] • 2008 (x86),2008 (x64)  [訂正後] • -
16	5.	レコード Processor Overview (PI_PCSR) 注意 [追加] OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、このレコードは収集できません。
17	5.	レコード Process End Detail (PD_PEND) 注意 [追加] OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、このレコードは収集できません。
18	5.	レコード System Overview (PI) 注意 [訂正前] System Overview (PI) レコードの収集開始時に、OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、System Type (SYSTEM_TYPE) フィールドの値は、正しく収集できません。

#	変更箇所	追加・変更内容											
		<p>[ 訂正後 ]</p> <p>System Overview (PI) レコードの収集開始時に、OS のシステム管理情報を提供する Windows Management Instrumentation サービス (サービス名: WinMgmt) のスタートアップ種類を「無効」に設定している場合、以下のフィールドの値は、正しく収集できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• % Total DPC Time ( PCT_TOTAL_DPC_TIME )</li> <li>• % Total Interrupt Time ( PCT_TOTAL_INTERRUPT_TIME )</li> <li>• Active CPUs ( NUMBER_OF_ACTIVE_CPUS )</li> <li>• CPU % ( PCT_TOTAL_PROCESSOR_TIME )</li> <li>• Privileged CPU % ( PCT_TOTAL_PRIVILEGED_TIME )</li> <li>• System Type ( SYSTEM_TYPE )</li> <li>• Total DPC Rate ( TOTAL_DPC_RATE )</li> <li>• Total DPCs Queued/sec ( TOTAL_DPCS_QUEUED_PER_SEC )</li> <li>• Total Interrupts/sec ( TOTAL_INTERRUPTS_PER_SEC )</li> <li>• User CPU %"</li> </ul>											
19	5.	<p>レコード System Overview (PI) フィールド Pool Nonpaged Bytes 説明</p> <p>[ 訂正前 ]</p> <p>システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト不可能な物理メモリのサイズ (キロバイト単位)</p> <p>通常、サーバの活動状況が増加していない状態でこのフィールドが一様に増加している状態の場合、メモリーリークを生じているプロセスが実行されている可能性がある。</p> <p>[ 訂正後 ]</p> <p>システムのコンポーネントがタスクを実行する時に領域を取得した場所である、ページアウト不可能な物理メモリのサイズ (バイト単位)</p> <p>通常、サーバの活動状況が増加していない状態でこのフィールドが一様に増加している状態の場合、メモリーリークを生じているプロセスが実行されている可能性がある。</p>											
20	8.4.1	<p>Windows の場合</p> <p>(2) Performance Management の情報</p> <p>表 8-5 Performance Management の情報</p> <p>[ 訂正前 ]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>情報の種類</th> <th>概要</th> <th>デフォルトのファイル名 またはレジストリ</th> <th>jpcras コマンド での採取</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">インストール ログ</td> <td>インストール時の メッセージログ (Windows Server 2003 の場合)</td> <td>%TEMP%\%pfm_inst.log</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>インストール時の メッセージログ (Windows Server 2008 の場合)</td> <td>システムフォルダ %TEMP%\ HCDINST フォルダ下の次に 示すファイル。 ・HCDMAIN.LOG および HCDMAINn.LOG ・HCDINST.LOG および HCDINSTn.LOG 製品形名.LOG</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>	情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンド での採取	インストール ログ	インストール時の メッセージログ (Windows Server 2003 の場合)	%TEMP%\%pfm_inst.log	×	インストール時の メッセージログ (Windows Server 2008 の場合)	システムフォルダ %TEMP%\ HCDINST フォルダ下の次に 示すファイル。 ・HCDMAIN.LOG および HCDMAINn.LOG ・HCDINST.LOG および HCDINSTn.LOG 製品形名.LOG	×
情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンド での採取										
インストール ログ	インストール時の メッセージログ (Windows Server 2003 の場合)	%TEMP%\%pfm_inst.log	×										
	インストール時の メッセージログ (Windows Server 2008 の場合)	システムフォルダ %TEMP%\ HCDINST フォルダ下の次に 示すファイル。 ・HCDMAIN.LOG および HCDMAINn.LOG ・HCDINST.LOG および HCDINSTn.LOG 製品形名.LOG	×										

#	変更箇所	追加・変更内容			
		[訂正後]			
		情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcrasコマンド での採取
		インストール ログ	インストール時の メッセージログ (Windows Server 2003の場合)	%TEMP%\%pfm_inst. log	×
			インストール時の メッセージログ (Windows Server 2008の場合)	システムフォルダ%TEMP%\ HCDINSTフォルダ下の次に 示すファイル。 ・HCDMAIN.LOGおよび HCDMAINn.LOG ・HCDINST.LOGおよび HCDINSTn.LOG ・P-2A2C-AC94 [_{1 2 3 4 5}].LOG	×
21	付録 F	ファイルおよびフォルダー一覧 表 F-1 PFM・Agent for Platform のファイルおよびフォルダー一覧 [追加]			
		フォルダ名	ファイル名	説明	
		⋮	⋮	⋮	
		インストール先フォルダ %agtt%agent%\jpcuser%	jpcusercommand .ini	ユーザーコマンド定期実行機 能の構成ファイル	
		⋮	⋮	⋮	
		⋮	⋮	⋮	



---

## 付録 L 用語解説

---

### (英字)

---

#### Action Handler

PFM・Manager または PFM・Base のサービスの一つです。アクションを実行するサービスのことで

#### Agent Collector

PFM・Agent のサービスの一つです。パフォーマンスデータを収集したり、アラームに設定されたしきい値で、パフォーマンスデータを評価したりするサービスのことで

#### Agent Store

PFM・Agent のサービスの一つです。パフォーマンスデータを格納するサービスのことで、Agent Store サービスは、パフォーマンスデータの記録のためにデータベースを使用します。各 PFM・Agent に対応して、各 Agent Store サービスがあります。

#### Correlator

PFM・Manager のサービスの一つです。サービス間のイベント配信を制御するサービスのことで、アラームの状態を評価して、しきい値を超過するとアラームイベントおよびエージェントイベントを、Trap Generator サービスおよび PFM・Web Console に送信します。

#### Master Manager

PFM・Manager のサービスの一つです。PFM・Manager のメインサービスのことで

#### Master Store

PFM・Manager のサービスの一つです。各 PFM・Agent から発行されたアラームイベントを管理するサービスのことで、Master Store サービスはイベントデータの保持のためにデータベースを使用します。

#### Name Server

PFM・Manager のサービスの一つです。システム内のサービス構成情報を管理するサービスのことで

#### ODBC キーフィールド

PFM・Manager または PFM・Base で、SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものとがあります。

#### PD レコードタイプ

「Product Detail レコードタイプ」を参照してください。

#### Performance Management

システムのパフォーマンスに関する問題を監視および分析するために必要なソフトウェア群の総称です。Performance Management は、次の五つのプログラムプロダクトで構成されます。

- PFM - Manager
- PFM - Web Console
- PFM - Base
- PFM - Agent
- PFM - RM

## PFM - Agent

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。PFM - Agent は、システム監視機能に相当し、監視対象となるアプリケーション、データベース、OS によって、各種の PFM - Agent があります。PFM - Agent には、次の機能があります。

- 監視対象のパフォーマンスの監視
- 監視対象のデータの収集および記録

## PFM - Base

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。Performance Management の稼働監視をするための基盤機能を提供します。PFM - Agent を動作させるための前提製品です。PFM - Base には、次の機能があります。

- 各種コマンドなどの管理ツール
- Performance Management と他システムとの連携に必要な共通機能

## PFM - Manager

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。PFM - Manager は、マネージャー機能に相当し、次の機能があります。

- Performance Management のプログラムプロダクトの管理
- イベントの管理

## PFM - Manager 名

Store データベースに格納されているフィールドを識別するための名称です。コマンドでフィールドを指定する場合などに使用します。

## PFM - View 名

PFM - Manager 名の別名です。PFM - Manager 名に比べ、より直感的な名称になっています。例えば、PFM - Manager 名の「INPUT\_RECORD\_TYPE」は、PFM - View 名で「Record Type」です。PFM - Web Console の GUI 上でフィールドを指定する場合などに使用します。

## PFM - Web Console

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。Web ブラウザで Performance Management システムを一元的に監視するため Web アプリケーションサーバの機能を提供します。PFM - Web Console には、次の機能があります。

- GUI の表示
- 統合監視および管理機能
- レポートの定義およびアラームの定義

## PI レコードタイプ

「Product Interval レコードタイプ」を参照してください。

## PL レコードタイプ

「Product Log レコードタイプ」を参照してください。

## Product Detail レコードタイプ

現在起動しているプロセスの詳細情報など、ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PD レコードタイプは、次のような、ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。

- システムの稼働状況
- 現在使用しているファイルシステム容量

## Product Interval レコードタイプ

1分ごとのプロセス数など、ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PI レコードタイプは、次のような、時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。

- 一定時間内に発生したシステムコール数の推移
- 使用しているファイルシステム容量の推移

## Product Log レコードタイプ

UNIX 上で実行されているアプリケーションまたはデータベースのログ情報が格納されるレコードタイプのことです。

## Store データベース

Agent Collector サービスが収集したパフォーマンスデータが格納されるデータベースのことです。

## Trap Generator

PFM・Manager のサービスの一つです。SNMP トラップを発行するサービスのことです。

## (ア行)

---

### アクション

監視するデータがしきい値に達した場合に、Performance Management によって自動的に実行される動作のことです。次の動作があります。

- Eメールの送信
- コマンドの実行
- SNMPトラップの発行
- JP1 イベントの発行

### アラーム

監視するデータがしきい値に達した場合のアクションやイベントメッセージを定義した情報のことです。

### アラームテーブル

次の情報を定義した一つ以上のアラームをまとめたテーブルです。

- 監視するオブジェクト（Process, TCP, Webservice など）
- 監視する情報（CPU 使用率, 1 秒ごとの受信バイト数など）
- 監視する条件（しきい値）

## インスタンス

このマニュアルでは、インスタンスという用語を次のように使用しています。

- レコードの記録形式を示す場合  
1行で記録されるレコードを「単数インスタンスレコード」、複数行で記録されるレコードを「複数インスタンスレコード」、レコード中の各行を「インスタンス」と呼びます。
- PFM・Agent の起動方式を示す場合  
同一ホスト上の監視対象を一つのエージェントで監視する方式のエージェントを「シングルインスタンスエージェント」と呼びます。これに対して監視対象がマルチインスタンスをサポートする場合、監視対象のインスタンスごとにエージェントで監視する方式のエージェントを「マルチインスタンスエージェント」と呼びます。マルチインスタンスエージェントの各エージェントを「インスタンス」と呼びます。

## エージェント

パフォーマンスデータを収集する PFM・Agent のサービスのことです。

## ( 力行 )

---

### 監視テンプレート

PFM・Agent に用意されている、定義済みのアラームとレポートのことです。監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても PFM・Agent の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

### 管理ツール

サービスの状態の確認やパフォーマンスデータを操作するために使用する各種のコマンドまたは GUI 上の機能のことです。次のことができます。

- サービスの構成および状態の表示
- パフォーマンスデータの退避および回復
- パフォーマンスデータのテキストファイルへのエクスポート
- パフォーマンスデータの消去

## ( サ行 )

---

### サービス ID

Performance Management プログラムのサービスに付加された、一意の ID のことです。コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合、または個々のエージェントのパフォーマンスデータをバックアップする場合などは、Performance Management プログラムのサービス ID を指定してコマンドを実行します。

サービス ID の形式は、プロダクト名表示機能の設定によって異なります。サービス ID の形式については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

### 収集データ追加ユーティリティ

ユーザーレコードに格納されるパフォーマンスデータを設定するための機能のことです。収集データ追加ユーティリティは、Windows の [ スタート ] メニューから実行します。

## スタンドアロンモード

PFM・Agent 単独で起動している状態のことです。PFM・Manager の Master Manager サービスおよび Name Server サービスが、障害などのため起動できない状態でも、PFM・Agent だけを起動して、パフォーマンスデータを収集できます。

## ステータス管理機能

PFM・Manager および PFM・Agent 上で動作するすべてのサービスの状態を管理する機能です。ステータス管理機能を用いると、システム管理者は各ホストでのサービスの起動や停止などの状態を正しく把握できるため、障害復旧のための適切な対処を迅速に行うことができます。

## (タ行)

---

### 単数インスタンスレコード

1 行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持ちません。「インスタンス」を参照してください。

### データベース ID

PFM・Agent の各レコードに付けられた、レコードが格納されるデータベースを示す ID です。データベース ID は、そのデータベースに格納されるレコードの種類を示しています。データベース ID を次に示します。

- PI : PI レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。
- PD : PD レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。

### データモデル

各 PFM・Agent が持つレコードおよびフィールドの総称のことです。データモデルは、バージョンで管理されています。

### ドリルダウンレポート

レポートまたはレポートのフィールドに関連づけられたレポートです。あるレポートの詳細情報や関連情報を表示したい場合に使用します。

## (ハ行)

---

### バインド

アラームをエージェントと関連づけることです。バインドすると、エージェントによって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

### パフォーマンスデータ

監視対象システムから収集したリソースの稼働状況データのことです。

### 非対話形式 ( コマンド )

コマンドの実行中に必要な入力作業について、オプションの指定や定義ファイルの読み込みで代替するコマンドの実行形式です。

非対話形式でコマンドを実行することで、稼働監視システムの構築を省力化でき、ユーザーの負担

を軽減できます。

## フィールド

レコードを構成するパフォーマンスデータの集まりのことです。

## 複数インスタンスレコード

複数行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

「インスタンス」を参照してください。

## プロダクト ID

該当する Performance Management プログラムのサービスが、Performance Management のどのプログラムプロダクトのものかを示す 1 バイトの識別子のことです。サービス ID の一部です。

## (ヤ行)

---

### ユーザーレコード

デフォルトでは用意されていないパフォーマンスデータを収集し、特定のレコードに格納するように、ユーザーが設定したレコードです。ユーザーレコードを設定すると、収集したパフォーマンスデータを PFM - Web Console から監視できます。ユーザーレコードには、次の種類があります。

- Application Summary (PD\_APP) レコード
- Generic Data Detail (PD\_GEND) レコード
- Generic Data Interval (PI\_GENI) レコード
- Event Log (PD\_ELOG) レコード
- User Data Detail (PD\_UPD) レコード
- User Data Detail - Extended (PD\_UPDB) レコード
- User Data Interval (PI\_UPI) レコード
- User Data Interval - Extended (PI\_UPIB) レコード
- Workgroup Summary (PI\_WGRP) レコード

## (ラ行)

---

### ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間のことです。

### リアルタイムレポート

監視対象の現在の状況を示すレポートです。

### 履歴レポート

監視対象の過去から現在までの状況を示すレポートです。

### レコード

収集したパフォーマンスデータを格納する形式のことです。レコードの種類は、Store データベースの各データベースによって異なります。

## レポート

PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータをグラフィカルに表示する際の情報を定義したものです。主に、次の情報を定義します。

- レポートに表示させるレコード
- パフォーマンスデータの表示項目
- パフォーマンスデータの表示形式（表、グラフなど）

## （ワ行）

---

### ワークグループ

PFM - Agent for Platform が実行されているプロセスを監視するまとまりの単位のことです。ワークグループは、次の単位で指定できます。

- Windows ユーザー
- Windows グループ
- プロセスによって実行されているプログラム





---

# 索引

## 記号

---

- [PD\_ELOG レコード設定] ダイアログボックス 114
- [PI\_GENI・PD\_GEND レコードの設定] ダイアログボックス 110
- [PI\_WGRP レコード設定] ダイアログボックス 116
- [PI\_WGRP レコードの追加] ダイアログボックス 117
- [PI\_WGRP レコードの変更] ダイアログボックス 120
- [イベントモニター] 画面 144
- [テンプレートの編集] メニュー 133
- [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 > アプリケーション定義のテンプレートから入力] 画面 136
- [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成 > 監視対象種別一覧から追加] 画面 129
- [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義の新規作成] 画面 126
- [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレート] 画面 134
- [プロセス監視の設定 > アプリケーション定義のテンプレートの新規作成] 画面 134
- [プロセス監視の設定] 画面 125

## A

---

- Access Failure Status レポート 234, 235
- Action Handler 635
- Active Directory Overview (PI\_AD) レコード 313
- Active Directory 監視情報 23
- Active Directory 監視方法 27
- Active Directory のインストール方法 305
- Active Directory の監視例 23, 29
- Agent Collector 635
- Agent Collector サービスのプロパティ一覧 578

- Agent Store 635
- Agent Store サービスのプロパティ一覧 574
- Application Process Count レポート 238
- Application Process Detail (PD\_APPD) レコード 323
- Application Process Interval (PD\_APSI) レコード 325
- Application Process Overview (PD\_APS) レコード 332
- Application Process Status レポート 239
- Application Service Overview (PD\_ASVC) レコード 338
- Application Status アラーム 226
- Application Status レポート 236
- Application Summary (PD\_APP) レコード 343
- Application Summary Extension (PD\_APP2) レコード 354
- Available Memory アラーム 189

## B

---

- Browser Overview (PI\_BRSR) レコード 357

## C

---

- Committed Mbytes アラーム 196
- Correlator 635
- CPU Status (Multi-Agent) レポート 240
- CPU Trend (Multi-Agent) レポート 242
- CPU Trend レポート 241
- CPU Usage - Top 10 Processes レポート 243
- CPU Usage Summary レポート 244
- CPU Usage アラーム 191

## D

---

- Device Detail (PD\_DEV) レコード 361
- Disk Busy % アラーム 203
- Disk Space アラーム 193

Disk Time - Top 10 Logical Drives レポート  
246

## E

---

Event Log(all) アラーム 219  
Event Log ( PD\_ELOG ) レコード 365  
Event Log(System) アラーム 224

## F

---

File System I/O Summary レポート 247  
Free Megabytes - Logical Drive Status レ  
ポート 248  
Free Space - Low 10 Logical Drives レポート  
249  
Free Space - Top 10 Logical Drives レポート  
250

## G

---

Generic Data Detail 105  
Generic Data Detail( PD\_GEND )レコード  
369  
Generic Data Interval 105  
Generic Data Interval ( PI\_GENI ) レコー  
ド 372

## I

---

ICMP Overview ( PI\_ICMP ) レコード 375  
ICMP Version 6 Overview 380  
IP Overview ( PI\_IP ) レコード 385  
IP Version 6 Overview 389  
IP アドレスの設定 64

## J

---

jpccapcvr コマンド 499  
jpcconf db define (jpcdbctrl config) コマンド  
88  
jpcras コマンド 547  
jpcsto.ini 89  
jpcuser コマンド 168

## L

---

Logical Disk Free アラーム 201  
Logical Disk Overview ( PI\_LOGD ) レコー  
ド 393  
Logical Disk Queue アラーム 205  
Logical Drive Detail レポート 251

## M

---

Master Manager 635  
Master Store 635  
Memory Available Trend (Multi-Agent) レ  
ポート 253  
Memory Paging Status (Multi-Agent) レ  
ポート 255  
Memory Paging レポート 254  
Monitoring Process Detail レポート 256

## N

---

Name Server 635  
NBT Overview ( PI\_NBT ) レコード 399  
Network Interface Overview ( PI\_NETI ) レ  
コード 401  
Network Received アラーム 209

## O

---

ODBC キーフィールド 635  
ODBC キーフィールド一覧 286  
OS Memory Usage Status レポート  
258, 259

## P

---

Page Faults - Top 10 Processes レポート  
260  
Page Faults/sec アラーム 200  
Page File Detail ( PD\_PAGF ) レコード 405  
Pages/sec アラーム 198  
PD 411  
PD\_APP 343  
PD\_APP2 354  
PD\_APPD 323  
PD\_APS 332

- PD\_APSI 325
  - PD\_ASVC 338
  - PD\_DEV 361
  - PD\_ELOG 365
  - PD\_GEND 105, 369
  - PD\_PAGF 405
  - PD\_PDI 417
  - PD\_PEND 423
  - PD\_SVC 437
  - PD\_UPD 475
  - PD\_UPDB 477
  - PD レコードタイプ 3, 635
  - Performance Management 635
  - PFM - Agent 636
  - PFM - Agent for Platform の運用方式の変更 88
  - PFM - Agent for Platform の概要 1
  - PFM - Agent for Platform のシステム構成の変更 87
  - PFM - Agent for Platform の接続先 PFM - Manager の設定 82
  - PFM - Agent for Platform のセットアップ手順 78
  - PFM - Agent for Platform のセットアップファイル 80
  - PFM - Agent for Platform の登録 78
  - PFM - Agent for Platform の特長 2
  - PFM - Base 636
  - PFM - Manager 636
  - PFM - Manager での設定の削除 85
  - PFM - Manager 名 636
  - PFM - View 名 636
  - PFM - Web Console 636
  - PFM 製品が導入されていない複数のホストからのパフォーマンスデータの収集例 34
  - Physical Disk Overview ( PI\_PHYD ) レコード 407
  - Physical Disk Queue アラーム 207
  - PI 441
  - PI\_AD 313
  - PI\_BRSR 357
  - PI\_GENI 105, 372
  - PI\_ICM6 380
  - PI\_ICMP 375
  - PI\_IP 385
  - PI\_IP6 389
  - PI\_LOGD 393
  - PI\_NBT 399
  - PI\_NETI 401
  - PI\_PCSR 426
  - PI\_PHYD 407
  - PI\_SVRQ 432
  - PI\_TCP 465
  - PI\_TCP6 468
  - PI\_UDP 471
  - PI\_UDP6 473
  - PI\_UPI 480
  - PI\_UPIB 483
  - PI\_WGRP 491
  - PI\_WINS 488
  - PI レコードタイプ 3, 636
  - PL レコードタイプ 637
  - Process Alive アラーム 213
  - Process Detail ( PD ) レコード 411
  - Process Detail Interval ( PD\_PDI ) レコード 417
  - Process Detail レポート 261
  - Process End Detail ( PD\_PEND ) レコード 423
  - Process End アラーム 211
  - Process Existence アラーム 222
  - Processor Overview ( PI\_PCSR ) レコード 426
  - Processor Queue アラーム 194
  - Process Trend レポート 263
  - Product Detail レコードタイプ 637
  - Product Interval レコードタイプ 637
  - Product Log レコードタイプ 637
- ## S
- 
- Server Activity Detail レポート 264
  - Server Activity Summary (Multi-Agent) レポート 266
  - Server Activity Summary Trend (Multi-Agent) レポート 269

Server Activity Summary レポート  
267, 268

Server Sessions Trend (Multi-Agent) レポート  
270

Server Work Queues Overview ( PI\_SVRQ )  
レコード 432

Service(Display Nm) アラーム 217

Service(Service Nm) アラーム 215

Service Process Detail( PD\_SVC )レコード  
437

Store データベース 3, 637

Store データベースに格納されているデータ  
をエクスポートすると出力されるフィールド  
297

Store データベースに記録されるときだけ追  
加されるフィールド 295

SVR Processor Queue アラーム 195

System Memory Detail レポート 271

System Overview ( PI ) レコード 441

System Overview レポート 273, 275

System Utilization Status レポート 277

---

## T

TCP Overview ( PI\_TCP ) レコード 465

TCP Version 6 Overview 468

Trap Generator 637

---

## U

UDP Overview ( PI\_UDP ) レコード 471

UDP Version 6 Overview 473

User Data Detail ( PD\_UPD ) レコード 475

User Data Detail - Extended ( PD\_UPDB )  
レコード 477

User Data Interval ( PI\_UPI ) レコード  
480

User Data Interval - Extended ( PI\_UPIB )  
レコード 483

---

## W

Web ブラウザでマニュアルを参照するための  
設定 100

Windows イベントログの一覧 509

WINS Server Overview ( PI\_WINS ) レコー  
ド 488

Workgroup Summary ( PI\_WGRP ) レコー  
ド 491

Workload Status (Multi-Agent) レポート  
279

Workload Status レポート 278

---

## あ

アクション 4, 637

アプリケーション定義を変換する 499

アプリケーションの稼働・非稼働情報収集の  
設定 147

アラーム 4, 637

アラーム一覧 186

アラームテーブル 4, 637

アラームの記載形式 185

アラーム発生時の対応例 144

アンインストール手順 85

アンインストールとアンセットアップ 84

アンセットアップ手順 85

---

## い

移行時の注意事項 593

移行手順 593

イベントログ情報 105

イベントログ情報収集の設定 114

インスタンス 638

インストール手順 76

インストールとセットアップ 63, 64

インストールとセットアップの流れ 74

---

## え

エイリアス名 64

エージェント 638

---

## か

仮想化システム上での運用 50

稼働状況ログ 536

監視テンプレート 4, 183, 184, 638

監視テンプレートの概要 184

管理ツール 638

## き

---

共通メッセージログ 536, 537

## こ

---

コマンドの記載形式 498  
 コマンドの指定方法 498  
 コマンドの文法の説明に使用する記号 498  
 コマンドプロンプトの起動方法 95

## さ

---

サービス ID 638

## し

---

識別子一覧 569  
 システム見積もり 554  
 システムログ 536  
 実ホスト名 64  
 収集データ追加ユーティリティ 638  
 収集データ追加ユーティリティの起動と終了  
 108  
 障害検知 550  
 資料の採取方法 547

## す

---

スタンドアロンモード 639  
 ステータス管理機能 550, 639

## せ

---

セットアップコマンド 80  
 前提プログラム 66

## た

---

単数インスタンスレコード 639

## て

---

ディスク占有量 555  
 データ型一覧 290

データベース ID 639  
 データモデル 3, 282, 639  
 デバッグログ 174

## と

---

同一ホストに Performance Management プ  
 ログラムを複数インストール, セットアッ  
 プするときの注意事項 71  
 動作ログの出力 595  
 トラブルシューティング 527  
 トラブル発生時に採取が必要な資料 539  
 トラブルへの対処方法 525  
 ドリルダウンレポート 639  
 ドリルダウンレポート (フィールドレベル)  
 229  
 ドリルダウンレポート (レポートレベル)  
 229  
 トレースログ 536, 538

## ね

---

ネットワークの設定 81

## は

---

バージョンアップの注意事項 72  
 バージョン互換 594  
 バインド 4, 639  
 バックアップ 98  
 パフォーマンス監視の運用例 7  
 パフォーマンスコンソールカウンター情報  
 105  
 パフォーマンスコンソールカウンター情報収  
 集の設定 110  
 パフォーマンスデータ 639  
 パフォーマンスデータの格納先の変更  
 82, 88  
 パフォーマンスデータの管理方法 6  
 パフォーマンスデータの収集と管理の概要 6  
 パフォーマンスデータの収集方法 6  
 パフォーマンスデータを収集するために必要  
 な環境構築 67

## ひ

---

非対話形式（コマンド） 639

## ふ

---

ファイアウォールの通過方向 571  
ファイルおよびフォルダ一覧 589  
フィールド 3, 228, 640  
フィールドの値 291  
複数インスタンスレコード 640  
プロセス一覧 570  
プロセスの稼働・非稼働情報収集の設定 122  
プロダクトID 640  
プロパティ 574

## ほ

---

ポート番号 571  
ポート番号一覧 571  
ポート番号の設定 65

## め

---

メッセージ 503  
メッセージ一覧 510  
メッセージの記載形式 504  
メッセージの形式 504  
メッセージの出力形式 504  
メッセージの出力先一覧 505  
メモリー所要量 554

## ゆ

---

ユーザーコマンド 159  
ユーザーコマンド定期実行機能 159  
ユーザー作成データ 159  
ユーザー作成データのファイル形式 170  
ユーザーデータファイル 159  
ユーザー独自のパフォーマンスデータ収集の  
設定 158  
ユーザーレコード 104, 640  
ユーザーレコード収集の概要 104  
ユーザーレコード収集の設定 108  
ユーザーレコード設定時の注意事項 109  
ユーザーレコードの収集 103

## よ

---

要約ルール 287

## ら

---

ライフタイム 640

## り

---

リアルタイムレポート 3, 640  
リストア 99  
利用ポート情報の収集例 33  
履歴レポート 3, 640

## れ

---

レコード 3, 228, 281, 640  
レコード一覧 306  
レコードの記載形式 283  
レコードの注意事項 298  
レプリケーション 33  
レポート 2, 641  
レポート一覧 232  
レポートの記載形式 228  
レポートのフォルダ構成 230

## ろ

---

ログ情報 536  
ログのファイルサイズ変更 81  
ログファイルおよびフォルダ一覧 537

## わ

---

ワークグループ 641  
ワークグループ情報 106  
ワークグループ情報収集の設定 116